HTML タグ辞典

第5版

Internet Explorer 6.0 & Netscape 6.2

(株)アンク著

「最新」「改訂版」「カラー版」「第4版」と
大好評のうちに続いたベストセラーの改訂版です。

InternetExplorer 6.0 & Netscape 6.2の
ブラウザに対応し、
Webページ作成に必須なHTMLタグの
すべてを隅から隅まで解説します。

付録には、Webページの色に迷ったときに役立つ
カラーチャートや配色サンプルを収録！
これ1冊でタグについては恐いものナシ！

ホームページ作成になくてはならないバイブルです。

本書のサンプルソースはすべて
Webページからダウンロードが可能です
さあ！ 今すぐ自分のページに活かしましょう!!

http://www.shoeisha.com/book/pc/dic/

HTML タグ辞典 第5版

Internet Explorer6.0 & Netscape6.2

（株）アンク著

本書内容に関するお問合せについて

このたびは翔泳社の書籍をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。弊社では、読者の皆様からのお問い合わせに適切に対応させていただくため、以下のガイドラインへのご協力をお願いしております。下記項目をお読みいただき、手順にしたがってお問い合わせください。

●お問い合わせの前に

弊社Webサイトの「正誤表」や「出版物Q&A」をご確認ください。これまでに判明した正誤や追加情報、過去のお問い合わせへの回答（FAQ)、的確なお問い合わせ方法などが掲載されています。

正誤表	http://www.seshop.com/book/errata/
出版物Q&A	http://www.seshop.com/book/qa/

●ご質問方法

弊社Webサイトの書籍専用質問フォーム（http://www.seshop.com/book/qa/）をご利用ください。記載漏れや独自の用紙等によるご質問、お電話や電子メールによるお問合せは、お受けしておりません。

※質問専用シートのお取り寄せについて

Webサイトにアクセスする手段をお持ちでない方は、ご氏名、ご送付先（ご住所／郵便番号／電話番号またはFAX番号／電子メールアドレス）および「質問専用シート送付希望」と明記のうえ、電子メール（qaform@shoeisha.com)、FAX、郵便（80円切手をご同封願います）のいずれかにて“編集部読者サポート係”までお申し込みください。お申し込まれた手段によって、折り返し質問シートをお送りいたします。シートに必要事項を漏れなく記入し、“編集部読者サポート係”までFAXまたは郵便にてご返送ください。

●ご回答について

ご回答は、ご質問いただいた手段によってご返事申し上げます。ご質問の内容によっては、回答に数日ないしはそれ以上の期間を要する場合があります。

●ご質問に際してのご注意

本書の対象を越えるもの、記述個所を特定されないもの、また読者固有の環境に起因するご質問等にはお答えできませんので、予めご了承ください。

●郵便物送付先およびFAX番号

送付先住所	〒160-0006　東京都新宿区舟町5
FAX番号	03-5362-3818
宛先	（株）翔泳社出版局 編集部読者サポート係

※本書に記載されたURL等は予告なく変更される場合があります。
※本書の動作環境に関する詳細はxページをご参照ください。
※本書の出版にあたっては正確な記述につとめましたが、著者や出版社などのいずれも、本書の内容に対してなんらかの保証をするものではなく、内容やサンプルに基づくいかなる運用結果に関してもいっさいの責任を負いません。
※本書に掲載されているサンプルプログラムやスクリプト、および実行結果を記した画面イメージなどは、特定の設定に基づいた環境にて再現される一例です。

CONTENTS

CONTENTS

第1部 HTMLリファレンス

HTMLの基礎

文書の基本

テキスト

リンク

フォーム

テーブル

第3部　Webページアドバンスドテクニック

付　録

INTRODUCTION

本書の読み方

第1部「HTMLタグリファレンス」では、HTMLタグの効果や利用する場面に合わせて11のカテゴリに分けて解説しています。

各項目のタイトルは「テキストの色を指定したい」など、タグの機能をやりたいことから引ける形式になっています。各項目の構成要素は基本書式・解説・サンプルソース・サンプルソースを表示した画面となっており、項目によってはコラムやスタイルシートを利用した場合のメモを掲載しています。

●カテゴリ
効果・場面によって分けています

●タイトル
具体的に何ができるかを表しています。タグの使用目的から選んでください

●基本書式
その項目で解説するタグの基本書式です。基本的にその項目で解説しているタグと属性は赤色、値は青色で表記しています。なお、本書ではタグ・属性・値ともにすべて小文字で表記しています

●値
そのタグや属性がとる値です。
ただし、項目によってはこの欄で属性も紹介しています

●解説
タグや属性、値についての詳細な解説です

●サンプルソース
その項目で解説しているタグや属性を使用した具体的なサンプルソースです。
解説しているタグ・属性は赤色、値は青色で表記しています。なお、紙面の関係で一部省略や、改行を行っています

4 PAGE　DEPRECATED

テキストの色を指定したい

<body text="★"> ~ </body>
<body link="★"> ~ </body>
<body alink="★"> ~ </body>
<body vlink="★"> ~ </body>

★……色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

全体のテキストやリンク部分のテキストの色を指定します。

text	標準のテキストの色を指定
link	まだ見ていない（キャッシュされていない）ページへリンクしている部分の色を指定
alink	リンク部分を選択した瞬間（クリックなど）の色を指定
vlink	すでに見た（キャッシュされている）ページへリンクしている部分の色を指定

色の指定には、#のあとにrgbの値を16進数で記述するか、直接色名（colorname）を書き込みます。色の指定方法についてはp.75を参照してください。
色の指定がされていない場合には、ユーザーのブラウザの設定にしたがって表示されます。

SOURCE

```
<body bgcolor="silver" text="#ff0000" link="#0000ff" alink="fuchsia"
vlink="green">
<p>
<font size="4">
標準のテキストは赤<br>
<a href="link1.html">まだ見ていないページへのリンクは青</a><br>
<a href="link2.html">選択されたリンクは紅紫</a><br>
<a href="link3.html">すでに見たページへのリンクは緑</a><br>
に設定してみました。
</font>
</p>
</body>
```

60　テキストの色を指定したい

●HTML4.01での位置付け
W3Cで推奨されていないタグや属性には「DEPRECATED」、ブラウザが独自に拡張しHTML4.01の規格に準拠しないタグや属性には「HTML4.01規格外」を表示しています

■対応ブラウザアイコン
その項目で解説しているタグが対応しているブラウザ（Internet Explorer6.0、Netscape 6.2、ともにWindows版）をアイコンで示しています。アイコン表記のない場合は、そのブラウザが対応していないことを示します

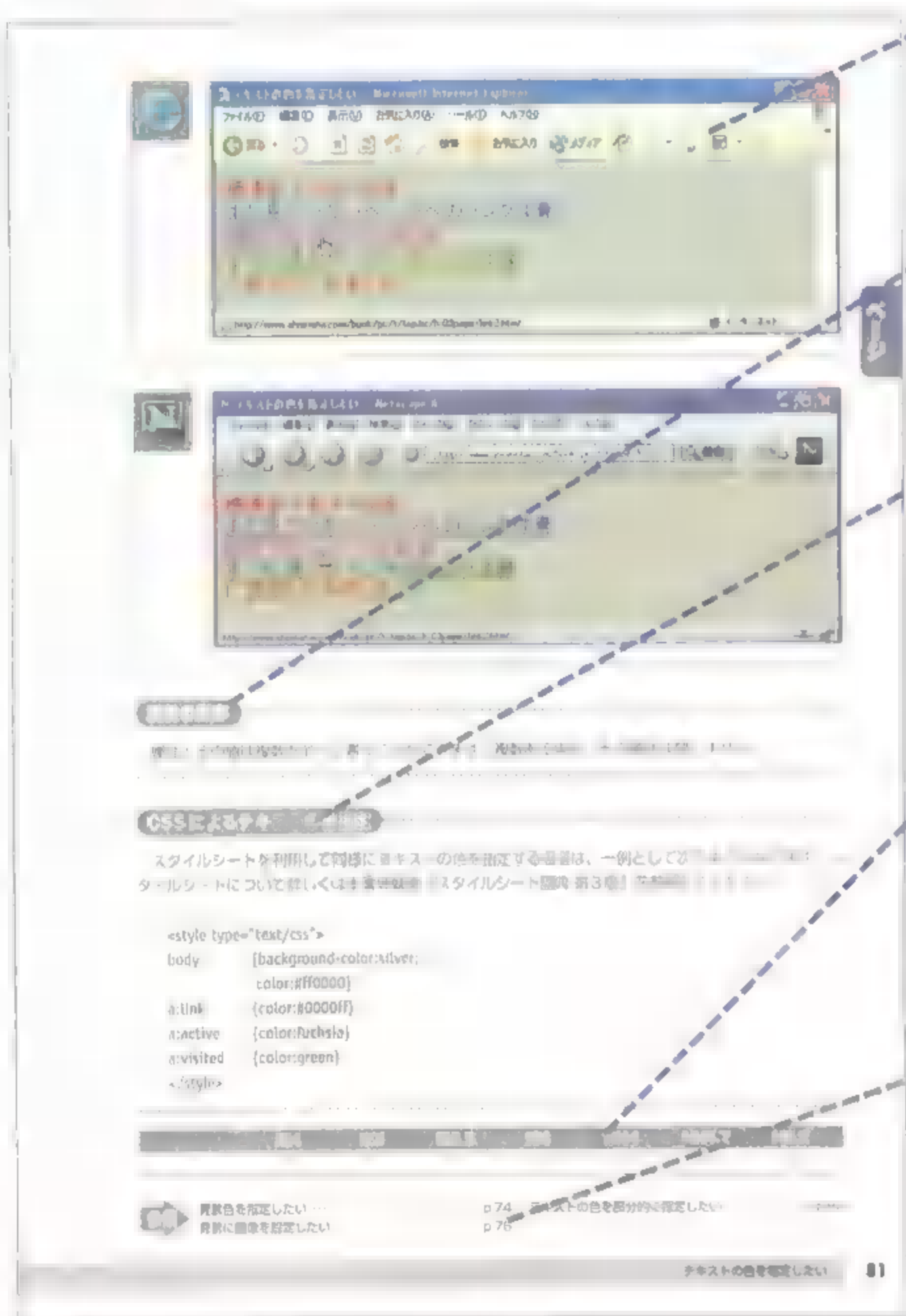
●ディスプレイ
サンプルソースを実際にブラウザで表示した場合の画面です。対応していないブラウザにはアイコンに×をつけています

●コラム
その項目のタグを使用する際の注意点や関連するトピック、さらに理解を深めるための内容を掲載しています

■CSSによる〜
DEPRECATEDと表示されているタグや属性には、スタイルシートの使用が推奨されています。ここでは、解説している項目のタグをスタイルシートで記述した場合を参考として紹介しています

■対応表
旧バージョンにおける各ブラウザの対応表です（Windows版）。Macintosh版での動作が異なる場合など、特筆すべき点は欄外に明記しています

■参照
関係の深い項目へのリンクです。合わせて参照することで体系的に理解が深まります

INTRODUCTION

本書の動作環境

本書は以下の環境におけるブラウザ表示に基づいて記述されています。

日本語版 Microsoft Windows XP
Windows 版 Internet Explorer 6.0
Windows 版 Netscape 6.2

サンプルソースを表示しているディスプレイ画面は、基本的に各ブラウザのデフォルト設定（初期設定）ですが、効果が明確に現れるように

Internet Explorer 6.0　［文字サイズ］＝［最大］
Netscape 6.2　フォント［サイズ］＝［20］ピクセル

に設定しています。

なお、サイズを変えたほうが効果が明確に現れると判断した項目は、

Internet Explorer 6.0　［文字サイズ］＝［中］
Netscape 6.2　フォント［サイズ］＝［16］ピクセル

に設定を変更しています。本文中にも表記はしていますが、あらかじめご了承ください。

フォントはデフォルトのままですので Internet Explorer 6.0、Netscape 6.2 ともに「MS P ゴシック」となります。

この設定はあくまでも一例ですので、ユーザーのフォントサイズやフォントの種類によって必ずしも本書の表示通りにはならないことをご了承ください。

HTMLの基礎/BASIC

文書の基本/DOCUMENT

テキスト/TEXT

ページ/PAGE

フォント/FONT

リスト/LIST

イメージ/IMAGE

リンク/LINK

フォーム/FORM

テーブル/TABLE

フレーム/FRAME

その他/OTHER

第1部

HTMLタグリファレンス

HTML TAG REFERENCE

1 BASIC

HTML4.01

「Webページは HTML を使って記述します」、これは Webページを作成しようとするときの基礎知識として真っ先にあげられる点です。このHTMLとはHyperText Markup Language(ハイパーテキストマークアップ言語)の略語で、「タグ」といわれる手段を使ってテキストに構造や修飾情報などを追加し、コンピュータが情報を読めるようにする働きをもっています。現在 W3C (World Wide Web Consortium)という非営利団体が、仕様の協議決定を行っています。

Web の急速な発展や状況の変化に対応するため、HTML もバージョン x.x というかたちで段階的に変更が加えられています。1997年12月18日にはHTML4.0が勧告され、翌98年4月24日に改定、そして1999年12月24日、HTML4.0に多少の変更を加えたHTML4.01が正式に勧告されました。現在使用されているHTMLはこのバージョン4.01です。

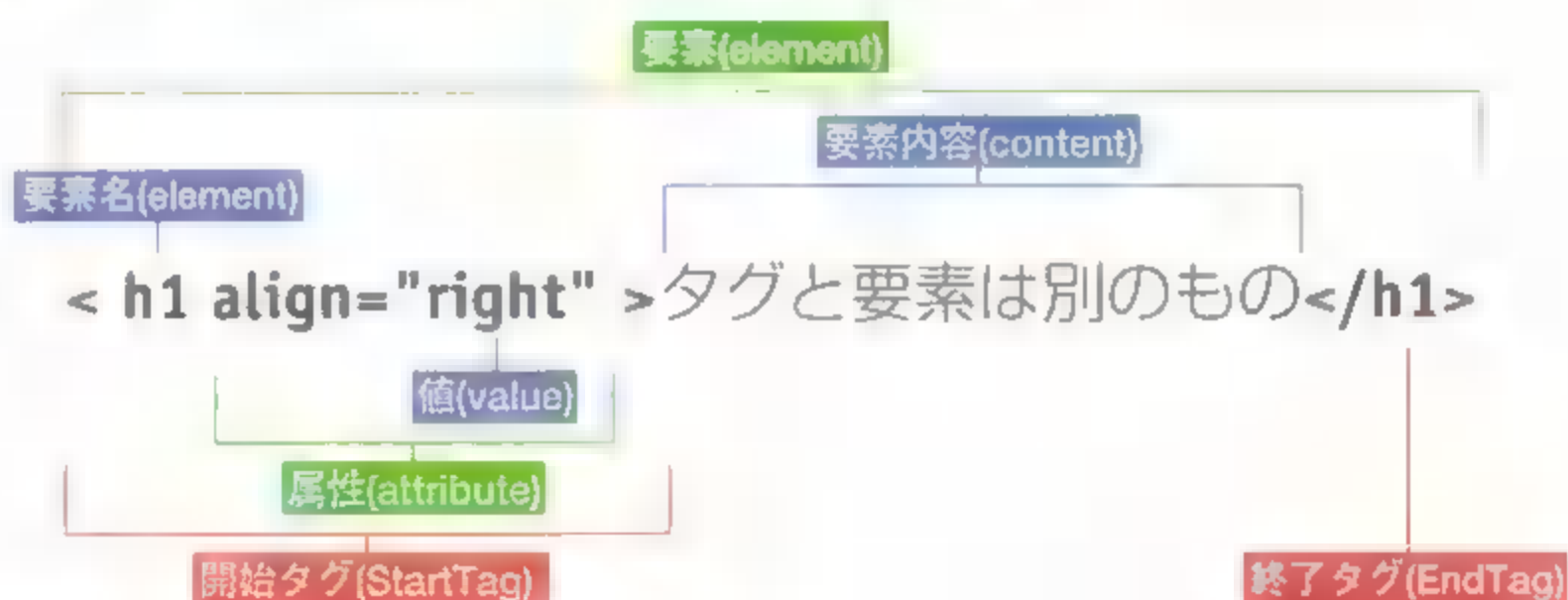
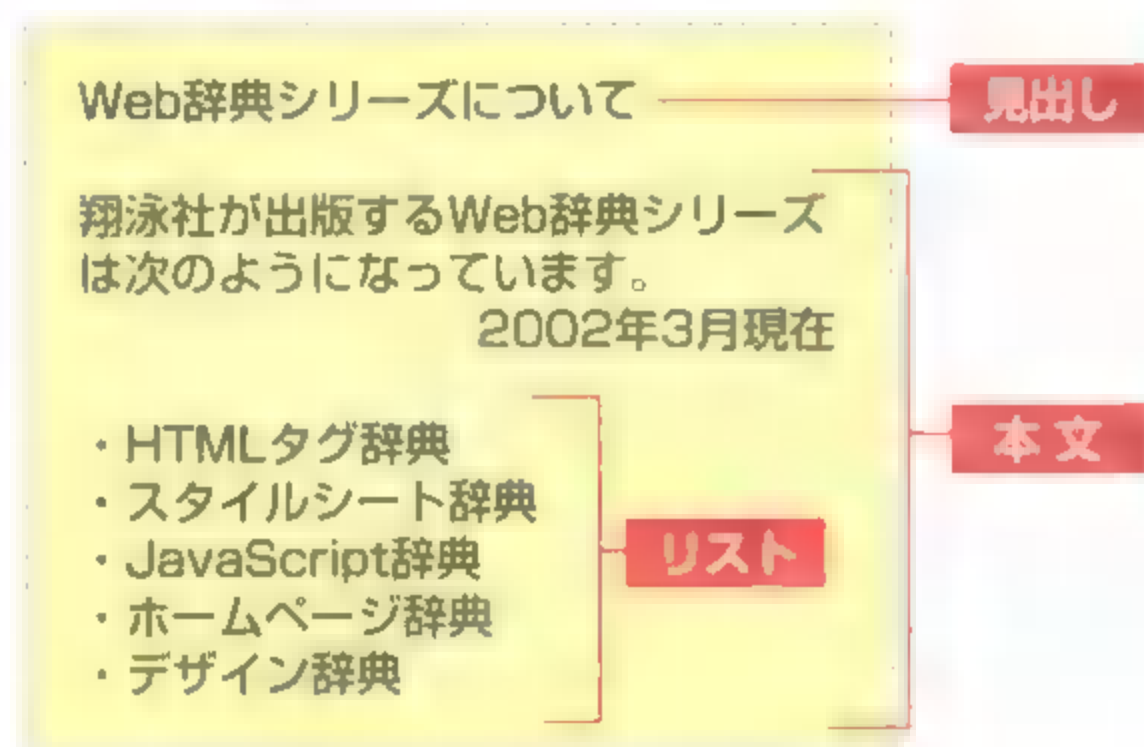
HTML4.0/4.01が勧告された際にもっとも注目された点は、表示方法やレイアウトなど表現に関するタグを廃止する方針をとったことです。Webの発展に伴って視覚的な表現までを指定するようになっていたHTMLから、そうした本来の機能以外の部分を取り除き、表現方法についてはスタイルシートを利用しようというものです。本書で「DEPRECATED」のマークがついているものは、主にこの視点に基づいて廃止予定につき推奨しないとされた要素や属性です(p.5参照)

ところでこのW3Cで定義されたタグのほかに、各ブラウザメーカーが独自に追加したタグも存在します。Internet Explorerの<marquee>タグや、Netscape (Navigator)の<blink>タグなどがその一例です。<frame>タグのようにW3Cの仕様にとり入れられて標準化したものもありますが、それ以外は相変わらず特定のブラウザあるいは特定のバージョンでのみ動作します。また、<form>タグのmailtoのように、W3Cで排除されても依然こうした主要なブラウザでは動作する機能もあります。本書ではInternet ExplorerとNetscape (Navigator)がブラウザ市場で占めている割合を考え、W3CによるHTMLタグだけでなく、それぞれのブラウザが独自にサポートするタグも一部含めて扱っています。しかし、ブラウザが独自にサポートするタグは、公式に定義されたHTMLタグ以上にブラウザを選ぶことに注意してください。本書では、ブラウザが独自に拡張したタグには「HTML4.01規格外」という表記をつけています。

XHTML

現在ではHTMLの次期バージョンとしてXHTML(eXtensible HyperText Markup Language:拡張可能なHTML)が勧告されています。これはHTMLにXMLの拡張性をもたせるために、HTMLの機能をXMLで定義しなおしたものですが、文書の作成には基本的にHTMLの知識が利用できます。そのため本書でHTMLを習得することは、XHTMLへ移行する手助けにもなるでしょう。XHTMLについてはp.310を参照してください。

2 BASIC 要素・タグ・属性と値

HTML文書の一番基本的な構造を示すと次のようになります。

これを別の例を使ってもう少し詳しく見てみましょう。

この文書ではまず最初に「Web辞典シリーズについて」という見出しがあります。この後の「翔泳社が出版する～」が本文になりますが、この本文には書籍名を順不同で並べたリストが含まれています。また、このあとには文章が続くかもしれませんし、売上状況を示す表が入る場合もあるでしょう。

このようにいろいろな要素があつまることで、ひとつの文書ができ上がります。

こうした文書構造（文書がどのような要素で構成されているのかということ）をコンピュータに理解させるためには、それぞれの要素に専用の「しるし」をつけてやる必要があります。この、要素を示すしるしがタグなのです。マークアップ＝しるし付け、という言葉はここから来ています。

```
<h1>Web辞典シリーズについて</h1>

<p>
翔泳社が出版するWeb辞典シリーズ
は次のようになっています。
――2002年3月現在
</p>
<ul>
<li>HTMLタグ辞典</li>
<li>スタイルシート辞典</li>
<li>JavaScript辞典</li>
<li>ホームページ辞典</li>
<li>デザイン辞典</li>
</ul>
```

タグは通常開始タグと終了タグというものがあり、この２つで内容を挟むかたちで記述します。ただし「空要素」といって内容を持たないものもあります（<img>、
など）。この場合は開始タグのみで終了タグがありませんので注意してください。

開始タグの中に記述し、各要素の性質を定義するのが属性とその値です。値には、left、right、centerのように既定のものと、数値などのようにドキュメントの製作者が任意で書き込むものの２つがあります。

このようにしるし付けをすることで、コンピュータはその部分が文書の中でどのような意味をもっているのかを判別し、適切な表示が可能になるのです。

なお、本書では、Webページを作るときに役立てやすいよう、<○>タグとその属性、値という表現を主に用います。

ブロックレベル要素とインラインレベル要素

上では「要素」とひとくくりにして説明しましたが、より詳しくはブロックレベル要素とインラインレベル要素に大別され、他のどの要素を内容にできるかなどの決まりがあります。こうした関係は、それぞれの要素ごとにDTD（p.16参照）で詳細に規定されています。

ブロックレベル要素

見出しや段落などひとつのまとまりを構成する要素です。一般的には前後に改行が入ります。

address, blockquote, center, dir, div, dl, fieldset, form, h1〜h6, hr, isindex, menu, noframes, ol, p, pre, table, ul

インラインレベル要素

文字と同じレベルで扱われる要素です。一般的には前後に改行は入りません。

a, abbr, acronym, applet, b, basefont, bdo, big, br, button, cite, code, dfn, em, font, i, iframe, img, input, kbd, label, map, object, q, s, samp, select, small, span, strike, strong, sub, sup, textarea, tt, u, var

※ins要素、del要素は、ブロックレベル、インラインレベルの両方で使えます

本書はこれらをあまり意識しなくても利用できるようになっていますが、より論理的にHTMLを記述するならばぜひ理解しておきたい点です。

推奨しない要素・属性――deprecated

先に述べたように、HTMLは本来文書の論理的な構造をコンピュータに知らせるための言語として開発された言語です。しかし実際は、体裁、つまり文書の見栄えまでも定義するようになって行きました。たとえば、色やフォントサイズの指定、レイアウトのためのテーブルの利用などがそれにあたります。HTML4.0/4.01はこの体裁に関わることと構造に関することを分離させ、構造の表現のみに専念しようという姿勢のもとに作られました。体裁についてはスタイルシートの利用が推奨されています。ただ、スタイルシートに対応していないブラウザの存在や、長らくHTMLで体裁までを表現してきた現状を考慮して移行期間を設けています。HTML4.0/4.01でdeprecated（推奨しない）とされたタグの多くは、こうした事情から同様の表現にはスタイルシートを利用することを推奨した上で、廃止される予定にあることを示しているのです。

本書ではdeprecatedとされている要素・属性には「DEPRECATED」というマークを付けて区別しています。

大文字か小文字か

HTML文書の中で使われるタグや属性は大文字小文字を区別しません。ただし、URL、JavaScriptやスクリプト名、文字コード名などは大文字小文字を区別しますので、注意してください。本書ではXHTML（p.310参照）がタグ、属性、属性の値はすべてを小文字で書くよう定義されていることを考慮して、小文字で表記するよう統一しています。

タグは入れ子にできる

タグによっては、タグで囲んだ文字列の中に別のタグやテキストを入れて、入れ子状にすることができます。たとえば次のようになります。

```
<p align="center">タグと要素は<b>別のもの</b>です。</p>
```

URIとURL

HTML文書をはじめインターネット上の特定の資源（リソース）を示すために、HTML3.2まではURL（Uniform Resource Locator）という名称が使われてきました。HTML4.0からはこのURLに代わってより広義な「URI（Uniform Resource Identifers）」という用語が使用されるようになっています。URLと同様にHTML文書・画像・ビデオクリップ・プログラムなどを指定できますが、URLはURIのサブセットで、URIのほうが上位の概念です。

本書では読者にとって馴染みの深いと思われるURLを使用していますが、URIとするのが正しい表現ですので、ぜひ覚えてください。

● 汎用的な属性

HTML4.01では、ほとんどの要素に対して使用できる汎用的な属性が定義されています。本書ではこれらの属性について、一部特に必要と思われる項目でそれぞれ取り上げています。

汎用属性について詳しくは下記Webページを参照してください。

http://www.w3.org/TR/html401/

id="名前"

要素に対して名前を付けます。ただし。同一の文書中で同じ名前を重複して使うことはできません。スタイルシートのセレクタ、リンクの対象、スクリプトからの参照、オブジェクトの指定などに利用されます。

class="クラス名"

要素に対してクラス名をつけます。id属性とは異なり、同一の文書中で複数の要素に対し同じ名前を重複して使うことができます。また、スペースで区切れば、1つの要素に対して複数のクラス名を指定することもできます。スタイルシートのセレクタなどに利用されます。

title="補足情報"

要素に対して補足的な情報を与えます。この情報の表現方法はブラウザによって異なりますが、対応している場合、一般的にはツールチップのかたちで表示されます。

style="スタイルシート"

要素に設定するスタイル情報を直接記述します。

lang="言語コード"

要素の属性値やテキスト内容の言語を指定します。一例として日本語は「ja」、英語は「en」のように指定し、この属性を指定しない場合の言語コードは「unknown」となります。この属性は、指定された言語の実際的な使用方法にしたがって内容を正しく表示したり、音声ブラウザで正しく発音したりできるようにするものです。

dir="テキストの表記方向"

要素内容のテキストやテーブルなどを表示する基本的な方向を設定します。 左から右の場合はltr、右から左の場合はrtlとなります。

属性の順序

属性とその値は複数を並べて書くことができます。複数ある場合、その順序は問いません。

● 値の書き方（「"」「'」の使いかた）

属性の値には引用符（" "や' '）をつけるのが正しい書き方です。引用符はどちらを使ってもかまいません。また、「"」（ダブルクォーテーション）で囲われた中に「'」（シングルクォーテーション）、あるいはその逆といったように。引用符を入れ子状にしてに使うこともできます。

値がアルファベット（a～z、A～Z)、数字（0～9)、ハイフン（-)、ピリオド（.）だけからなっている場合は、引用符を省略することもできますが、こういった場合にも引用符はできる[illegible]り省略せずにつけたほうがよいでしょう。W3Cでも引用符の使用を推奨しています。

本書でできること、できないこと

Webページを見ていると、アクセスカウンターやアンケートのページが用意されていたり、クリックすると挨拶や注意のダイアログボックスが表示されるなど、さまざまな仕掛けやそれらを活用した面白いページに次々と遭遇します。Webページを作りはじめると、そうした仕掛けを自分のページにも取り入れたくなることでしょう。しかし、それらの多くは本書で扱っているHTMLだけでは実現できません。なぜならHTMLは、この項で説明されているように、文書の構造を定義するものであって、「動き」を加える技術ではないからです。

たとえばWebでよく見かける仕掛けを実現するには、次のようなテクニックが必要になります。

訪問者の名前を記録しておく	→JavaScript
ステイタスバーに文字を流す	→JavaScript
アクセスカウンター	→CGI
フォームを送信する	→CGI

HTMLを覚えたら、次はこれらの技術を身につけるとWeb制作の楽しみがさらに広がることでしょう。本書の内容とは主旨が異なるので扱いませんが、それぞれ専門書は数多く出版されています。また主な技術の[illegible]は本書の第3部でも説明していますので、それを足がかりに次の段階へ進んでみてください。

4 BASIC

HTMLにおける長さの指定

HTMLで長さを指定するには、次の3つの方法があります。指定できる方法はタグによって異なりますので、それぞれの解説をご覧ください。

ピクセルで指定

ピクセルを単位として整数で指定します。

ピクセルかパーセントで指定

基準とする水平方向あるいは垂直方向に対し、長さをピクセルかパーセントで指定します。

ピクセル、パーセント、または相対的長さで指定

タグによっては、ピクセルやパーセント（%）のほかに「*」を利用した割合による指定ができます。これらが一度に指定された場合は、まず「ピクセル」と「%」で指定された分が確保され、その残りの分が「*」の前につけられた数字の割合で分配されます（単に「*」と指定されたものは「1*」であることを示しています）。たとえば、60ピクセルに対して「*,2*,3*」と指定した場合には、60ピクセルを6分割（1+2+3）して、それぞれ10,20,30ピクセルということになります。

5 BASIC

絶対URLと相対URL

HTMLでリンクを設定したり画像を表示させたりするためには、リンク先のHTMLファイルや画像ファイルの位置を正確に記述する必要があります。この記述方法には次に示すような「絶対URL」と「相対URL」の2通りの方法があります。

絶対URL

あるファイルの位置を全体から見て、一番もとになる位置から階層構造を順番にたどって記述する方法で、「http://」で始まります。主にほかのサイトにあるページや画像を指定するときに使います。

例：**http://www.ank.co.jp/index.html**

相対URL

ファイルどうしの位置を、基準とするファイルから見てどこにあるか「相対的」に記述する方法です。自分のWebページ内では主にこちらの方法を使います。ファイルの位置関係によって記述方法にも多少の違いがあります。

まず、相対URLはフォルダを移動するごとに「/」（スラッシュ）を入れ、自分の制作中ファイルを基準にして、上流にあるフォルダにはひとつ階層あがるごとに「../」のように、ピリオドを2つとスラッシュをつけるという決まりがあります。

同じフォルダ内にあるファイルを指定する場合

ファイル名

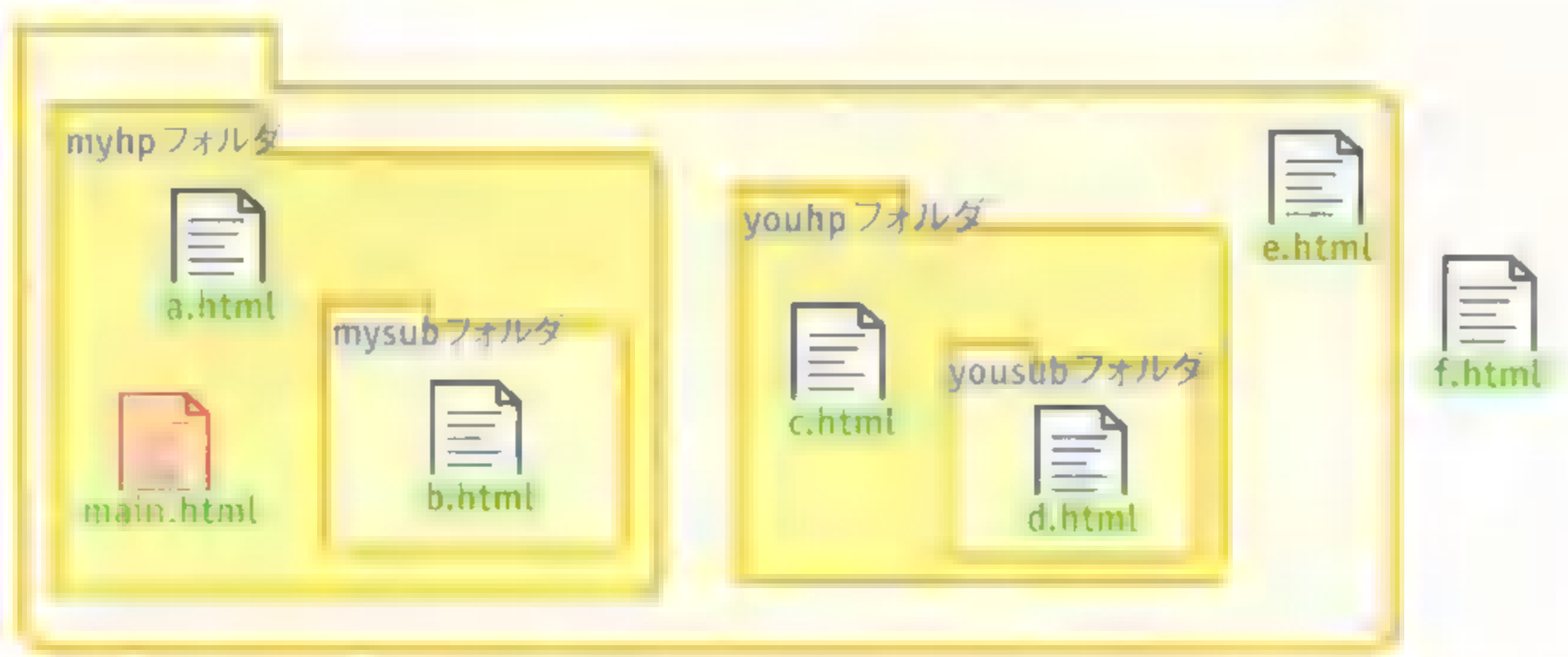
同じフォルダの中の下位フォルダにあるファイルを指定する場合

下位フォルダ名/ファイル名

別フォルダにあるファイルを指定する場合

../../同位フォルダ/下位フォルダ名/ファイル名

../同位フォルダ名/ファイル名

../同位ファイル名

たとえば、上図のような位置関係にあるファイルで、main.htmlからそれぞれのファイルへ相対URLでリンクを設定するには下記のような記述になります。

```
<a href="a.html">a.html</a><br>
<a href="mysub/b.html">b.html</a><br>
<a href="../youhp/c.html">c.html</a><br>
<a href="../youhp/yousub/d.html">d.html</a><br>
<a href="../e.html">e.html</a><br>
<a href="../../f.html">f.html</a><br>
```

自分のWebページ内で絶対URLを指定することももちろん可能ですが、オフラインの状態で使用することや、フォルダごと移動させたい場合のことを考慮すると、相対URLで記述しておいた方が便利でしょう（絶対URLで記述してしまうと、書き換えが必要になります）。

6 BASIC

HTMLファイルの作り方

Webページの作成方法について、主なポイントを簡単にまとめておきます。

作成に必要なもの

Webページを作るには、インターネットに接続が可能なPCのほか、主に次のようなものが必要です。

テキストエディタ

HTMLファイルはテキストファイルなので、Windowsに付属のメモ帳などで十分作成が可能です。ファイルをすべて手入力で作成するのが困難な場合には、HTMLエディタ（Webページ作成ソフト）を利用する方法もあります。

画像編集ソフト

自分で画像を作成・編集する際に使います。通常のWebページではGIF、JPEG、PNG形式を、iモードではGIF、JPEG（一部対応機のみ）形式をサポートしているため、必要な画像形式を扱える編集ソフトが必要です。HTMLエディタがこの機能をサポートしている場合もあります。

FTPソフト

作成したファイルや画像をプロバイダのWebサーバに転送する際に使います。フリーウェアやシェアウェアで入手できますので、自分で使いやすいものを用意してください。HTMLエディタがこの機能をサポートしている場合もあります。

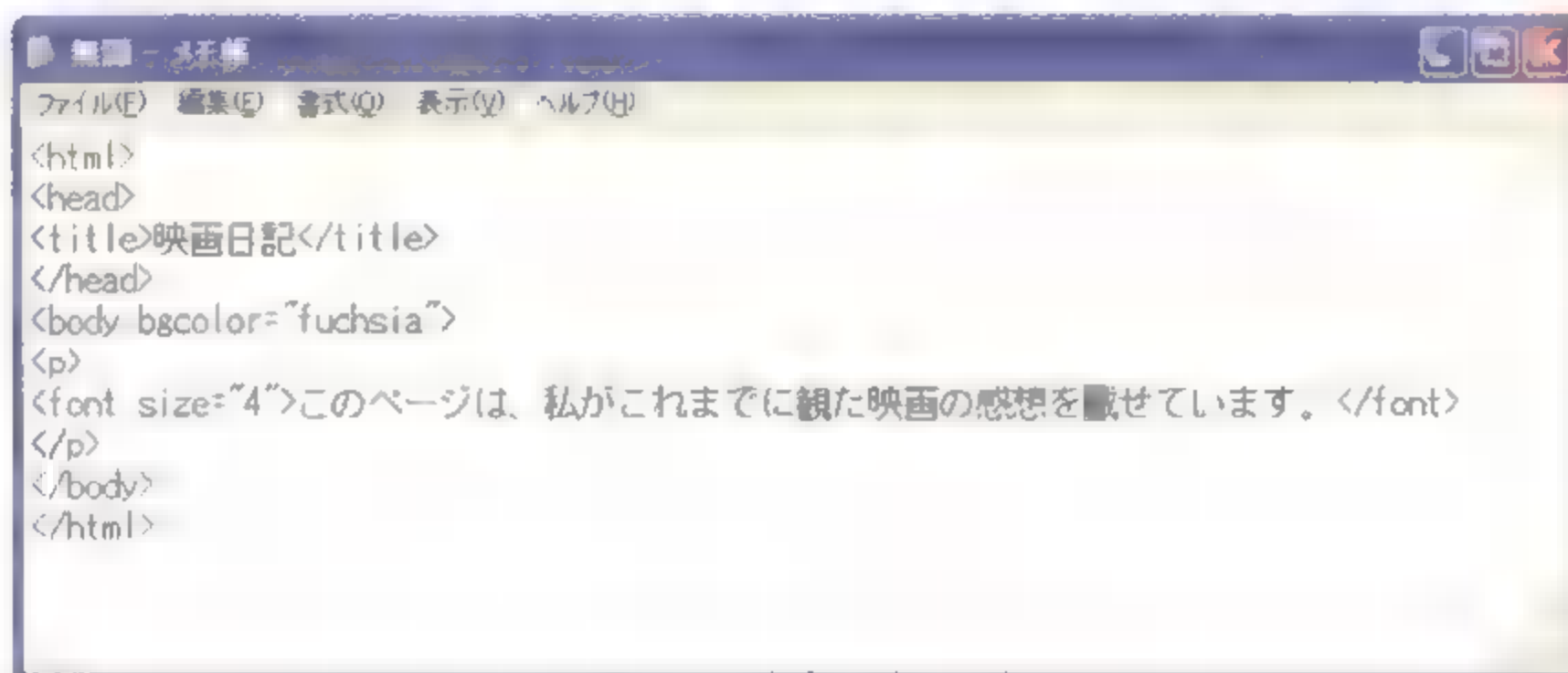
プロバイダとWebサーバ

インターネットへの接続サービスを提供するプロバイダと、作成したファイルを置いて公開するためのWebサーバが必要です。たいていの場合、プロバイダがサービスの一環としてWebサーバのレンタルをしていますので、これを利用するのが簡単な方法です。プロバイダと新規に契約をする際には、Webサーバのレンタル可能な容量、繋がりやすさ、CGIが利用できるかどうか、サポートはしっかりしているか、その他にどのようなサービスを提供しているかなど、さまざまな面から検討してみるとよいでしょう。

作成の手順

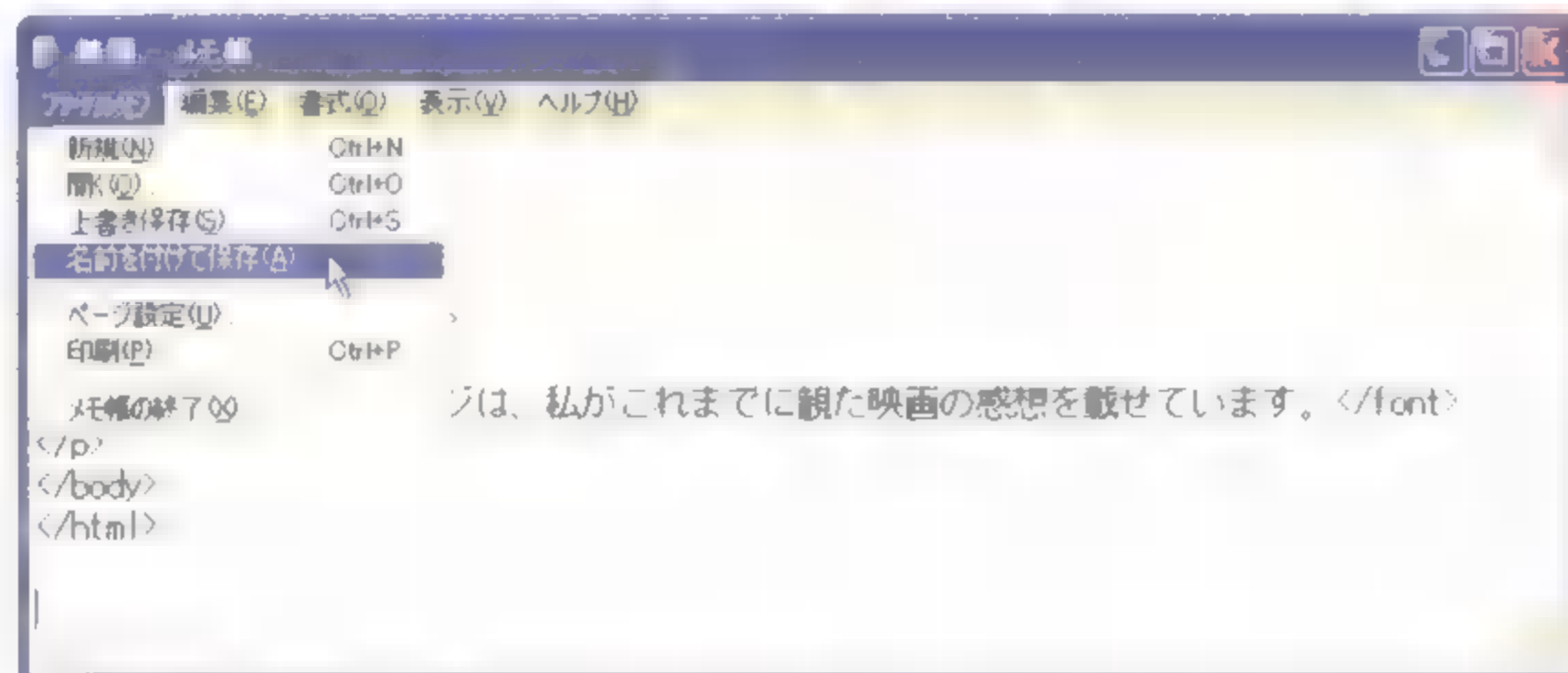
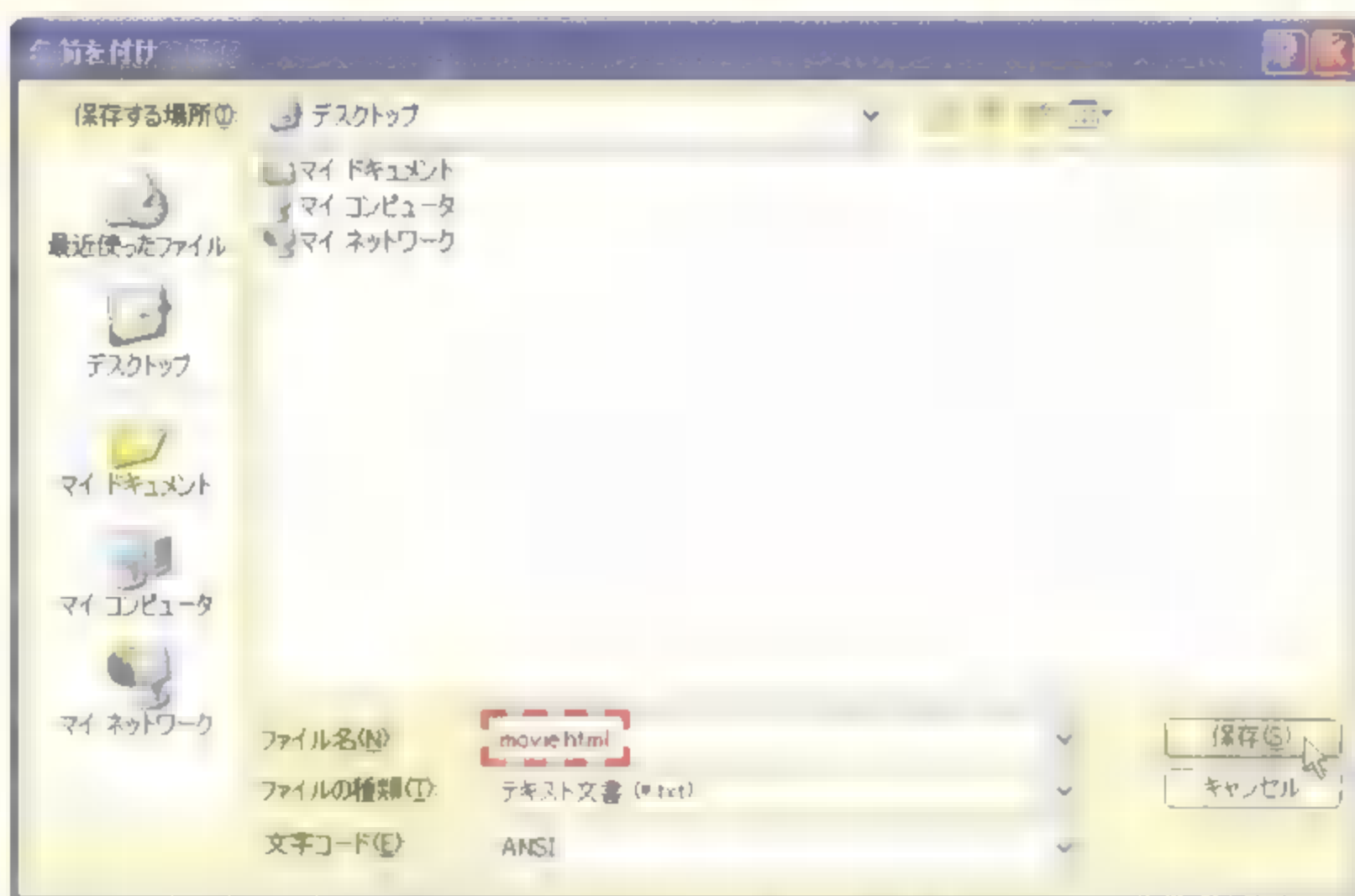
ここでは簡単なHTMLファイル作成の一例を紹介します。

ファイルを作る

メモ帳などのテキストエディタに、表示したい内容と、その内容をコンピュータに理解させ意図したとおりに表示させるためのタグを記述していきます。

▲タグはテキストエディタに記述します

このようにHTMLはそう難解なものではありません。段落の作成、改行、テキストの修飾など、それぞれの意味を持つタグを規則にしたがって記述していけば、比較的簡単にページを作成することができます。

ファイルを保存する

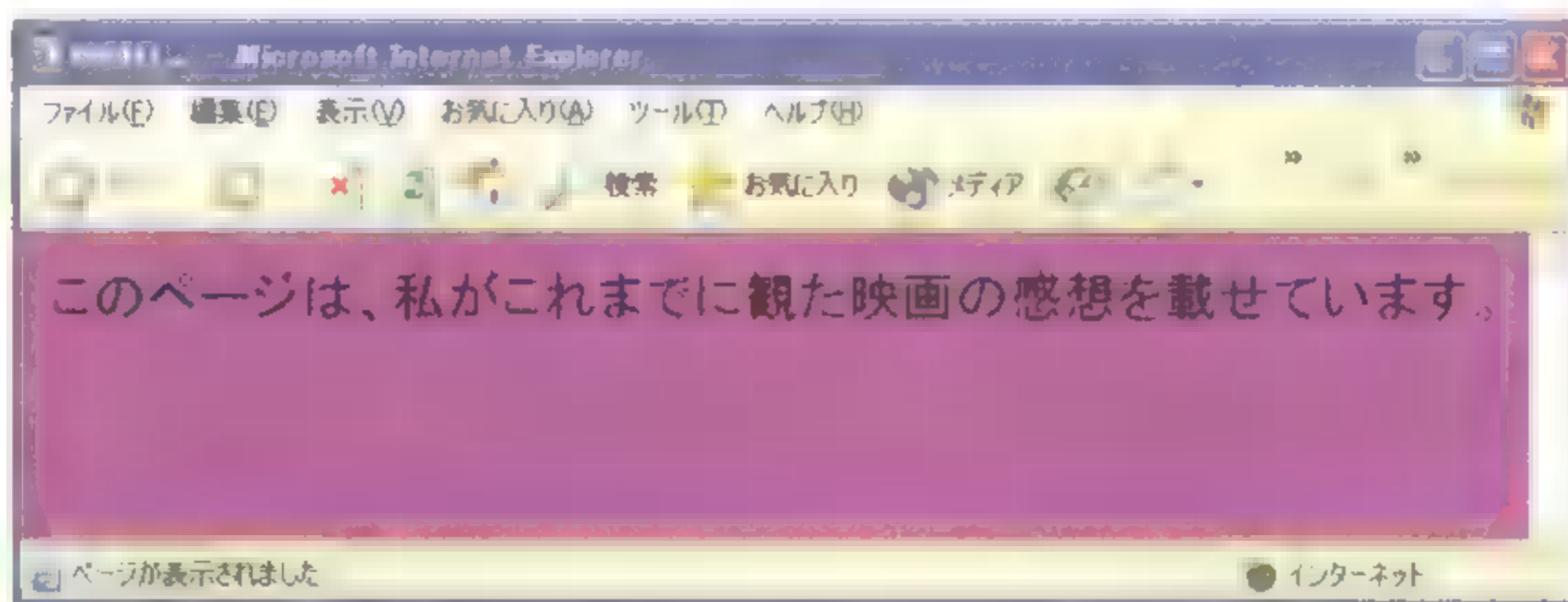
作成したファイルを保存します。ファイル名は半角アルファベットで、拡張子は.html（もしくは.htm）とします。この保存したファイルをInternet ExplorerやNetscapeなどのブラウザで読み込んでみると、Webページとして表示されるはずです。

▲［ファイル］→［名前をつけて保存］を選択します

▲拡張子を「.html」にします

Web サーバに転送する

FTP ソフト、またはHTML エディタのファイル転送機能を使って、作成したファイルをWeb サーバに転送します。Web ページに画像などを埋め込んでいるときは、画像ファイルも転送します。

サーバに接続するための設定や、転送先のフォルダ構成はプロバイダによって異なるので、確認が必要です。

確認してみる

実際にWeb ブラウザを使って、Web サーバに転送したファイルを確認してみてください。

▲インターネットに接続し、アップロードしたファイルを確認します

iモード用Webページの注意

iモード対応のWebページの場合も、「iモード対応HTML」でページを記述する点や表示される画面が小さい点など一部の特殊な状況を除けば、作成方法は通常のWebページと同じです。

ただし、iモード対応のWebページの場合は、ファイルサイズが5KB未満という制限があります。これは表示されるテキストだけでなく、タグ部分や同じ画面で表示される画像の分も含めてのサイズとなりますので注意してください（NTTドコモは2KB未満を推奨）。ファイルサイズはファイルやフォルダを選択して右クリックメニューの「プロパティ」で確認できます。iモード用Webページについてはp.314も参照してください。

1 DOCUMENT

HTMLのバージョンを指定する

文書型宣言

<!DOCTYPE>

HTMLでは各バージョンで使用可能なタグや属性などを、DTD（Document Type Definition、文書型定義）として詳細に定義しています。

実際にHTML文書を作成する場合、このうちどのバージョンにしたがってHTML文書を作成するのかを、まず宣言する必要があります。これを文書型宣言といい、<!DOCTYPE ～ >の書式で記述します。該当するものをそのまま文書の冒頭に書いてください。これを変更してはいけませんし、もちろん宣言したDTDにしたがってHTML文書を作成しなければなりません。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<title>タイトル</title>
</head>
<body>
        :
        :
</body>
</html>
```

W3CではHTML4.0を勧告する際に、3種類のDTDが定義されました。その後の1999年12月24日にはHTML4.0を修正したHTML4.01が勧告され、現在使用されているHTMLはこの4.01です。HTML4.01の3種類の文書型宣言の書式は次のとおりです。

HTML4.01 Strict DTD

もっとも厳密で正確な仕様です。推奨しない（deprecated）要素や属性は除かれており、フレームも使用することはできません。HTML文書を作成するにあたってはこのDTDにしたがうのがもっとも望ましいのですが、厳しい制約があるため、文書の作成も難しくなります。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/strict.dtd">
```

HTML4.01 Transitional DTD

上記のStrict DTDに、推奨しない要素・属性（その多くが、視覚的な体裁に関わるもの）が含まれます。しかし、インラインフレーム以外のフレームを使うことはできません。Strict DTDに比べて扱いやすいDTDですが、従来のバージョンとの折衷案的な仕様であり、廃止される予定の要素や属性が含まれていることに注意して使用する必要があります。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
```

HTML4.01 Frameset DTD

上記のTransitional DTDにフレームが加わったものです。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
```

後半のURLは省略することもできます。

なお、本書付録の「HTMLタグ一覧」では各タグを使用する場合のDTDがわかるようになっています。

DTDについて、詳しくは

http://www.w3.org/MarkUp/

を参照してください。

DTDとブラウザでの表示

従来のInternet ExplorerやNetscapeでは、<!DOCTYPE>の有無や、<!DOCTYPE>後半のURL部分を省略するかどうかといった表記の違いが、コンテンツの表示に直接影響を与えることはありませんでした。しかし、Windows版のInternet Explorer 6、Macintosh版Internet Explorer 5.x、Netscape 6以降では、以下の2通りの表示モードが用意され、<!DOCTYPE>の書き方でこれらの表示モードが切り替わる仕組みになっています。

標準準拠モード　W3Cの標準仕様にしたがって正しく表示する
互換モード　旧バージョンとの互換性を考慮し、従来のブラウザと同様の表示をする

表示の違いが現れるのは主にスタイルシートを利用した時ですが、HTMLだけで文書を作成した場合にも多少の影響が出ますので注意してください。

HTML4.01のDOCTYPE宣言の記述方法と、表示モードとの関係は次のようになっています。

DTDバージョン	記述方法	IE6	N6.2	Mac版IE5
-	記述なし	互換	互換	互換
HTML4.01 Strict	<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01//EN" "http://www.w3.org/TR/html4/strict.dtd">	標準	標準	標準
	<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01//EN">	標準	標準	互換
HTML4.01 Transitional	<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">	標準	標準	標準
	<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">	互換	互換	互換

※標準：標準準拠モード
　互換：互換モード

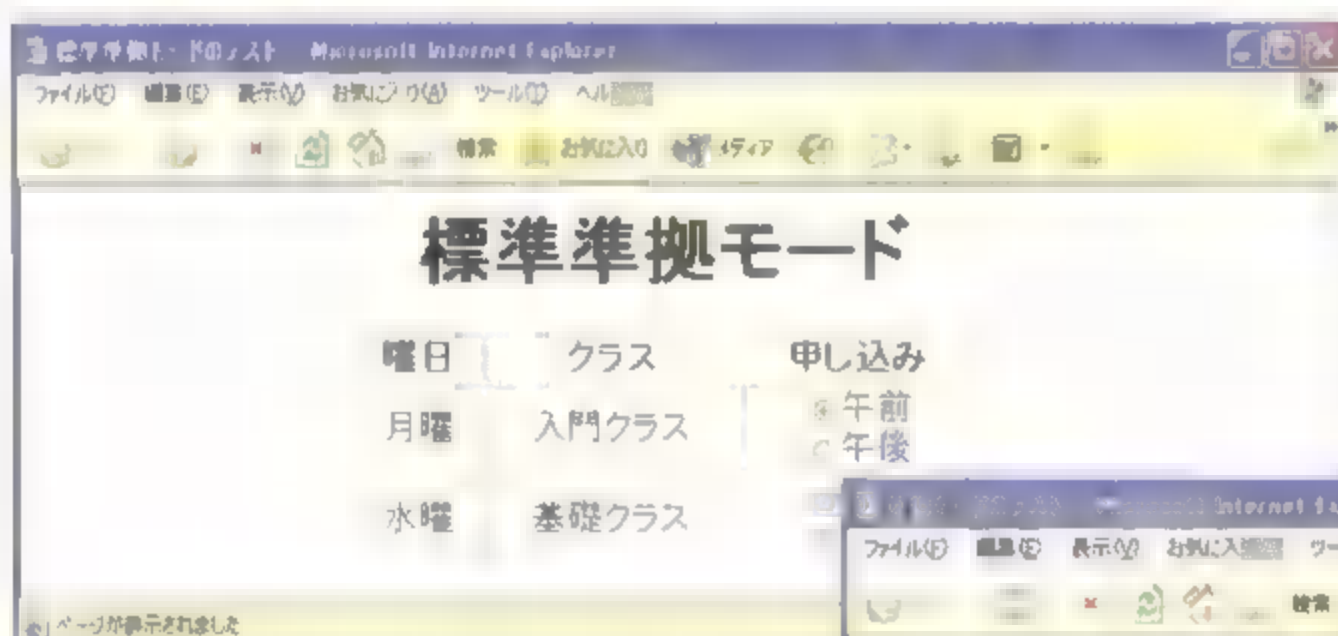
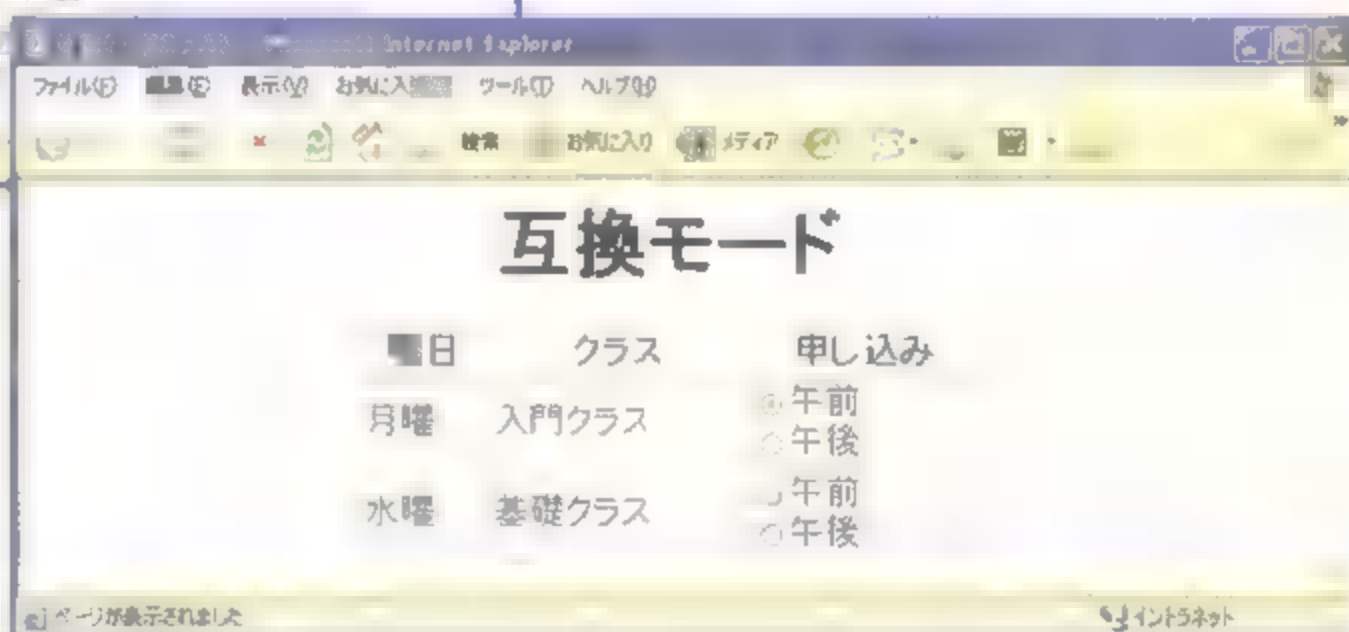
たとえば、DOCTYPE宣言の記述方法以外はまったく同じ内容を持つ以下のサンプルを、ブラウザに表示させると次のような違いがあらわれます。

サンプル1　HTML4.01 Transitional DTDをURLを省略せずに宣言

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title>標準準拠モードのテスト</title>
</head>

<body>
<div align="center">
<h1>標準準拠モード</h1>
<table border="1" width="50%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>申し込み</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td>
    <td><input type="radio" checked>午前<br/><input type="radio">午後</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td>
```

```html
    <td><input type="radio">午前<br/><input type="radio">午後</td></tr>
</table>
</div>
</body>
</html>
```

サンプル2　HTML4.01 Transitional DTDをURLを省略して宣言

```html
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title>互換モードのテスト</title>
</head>

<body>
<div align="center">
<h1>互換モード</h1>
<table border="1" width="50%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>申し込み</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td>
    <td><input type="radio" checked>午前<br/><input type="radio">午後</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td>
    <td><input type="radio">午前<br/><input type="radio">午後</td></tr>
</table>
</div>
</body>
</html>
```

▲サンプル1をInternet Explorer 6で表示したもの。「標準準拠モード」となり、<div align="center">と</div>で挟まれたすべての要素の内容がセンタリングされます

▲サンプル2をInternet Explorer 6で表示したもの。「互換モード」となり、従来のブラウザ表示と同じようにtd要素の内容はセンタリングされません

2 DOCUMENT

文書の構造を定義する

<html> ～ </html>
<head> ～ </head>
<body> ～ </body>

<html>、<head>、<body>の3種類のタグで、HTMLで記述される文書の構造を定義します。

<html>タグと</html>タグは文書がHTMLで書かれていることを宣言するもので、文書全体の最初と最後におきます。例外は<!DOCTYPE>（前項参照）で、これだけは<html>タグよりも前に記述します。

<head>タグと</head>タグの間には、文書のタイトルや特徴、製作者の情報をはじめとした、文書に関する情報を記述します。ここに記述された内容は、基本的に<title>タグと</title>タグ（次項参照）で挟まれたテキスト以外ブラウザには表示されません。

そして<body>タグと</body>タグで挟まれた部分が、実際にブラウザに表示される文書部分となります。

この<html>～</html>、<head>～</head>、<body>～</body>の順番が入れ替わることはありません。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
文書の情報
</head>
<body>
実際に表示される文書の内容
</body>
</html>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

HTMLのバージョンを指定する……………………p.16

3 DOCUMENT

文書にタイトルをつけたい

<title> ～ </title>

<head> タグと </head> タグで挟まれた部分に記述して、文書にタイトルをつけます。一般的なブラウザではここに記述されたテキストがタイトルバーに表示され、「お気に入り」や「ブックマーク」に登録するときのデフォルトのタイトルにもなります。ページ内容がわかりやすいタイトルを、文字数にも気をつけながら指定するよう心がけてください。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title>DICTIONARY OF HOMEPAGE</title>
</head>
<body>
<p>WELCOME!</p>
</body>
</html>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

4 DOCUMENT

基準となるURLを指定したい

```
<base href="★">
<base href="★" target="☆">
```

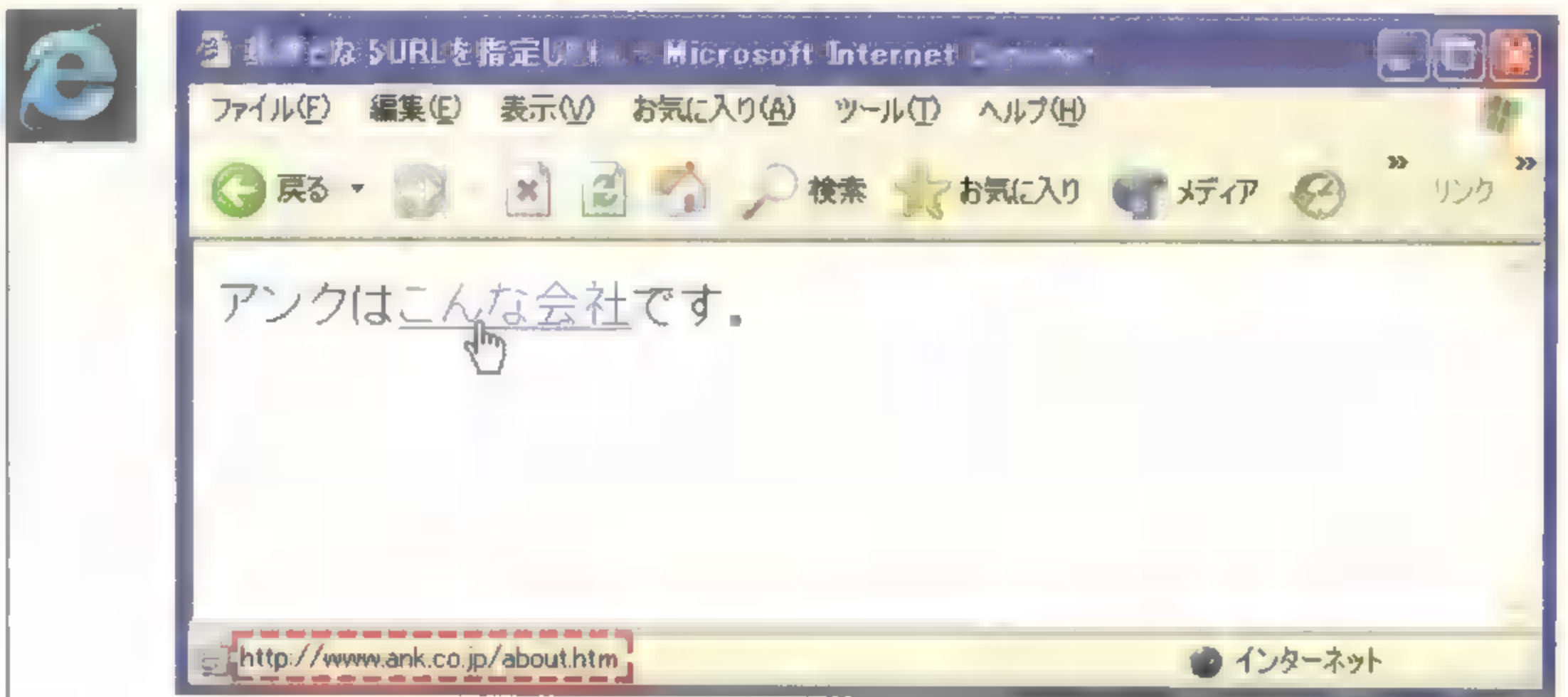
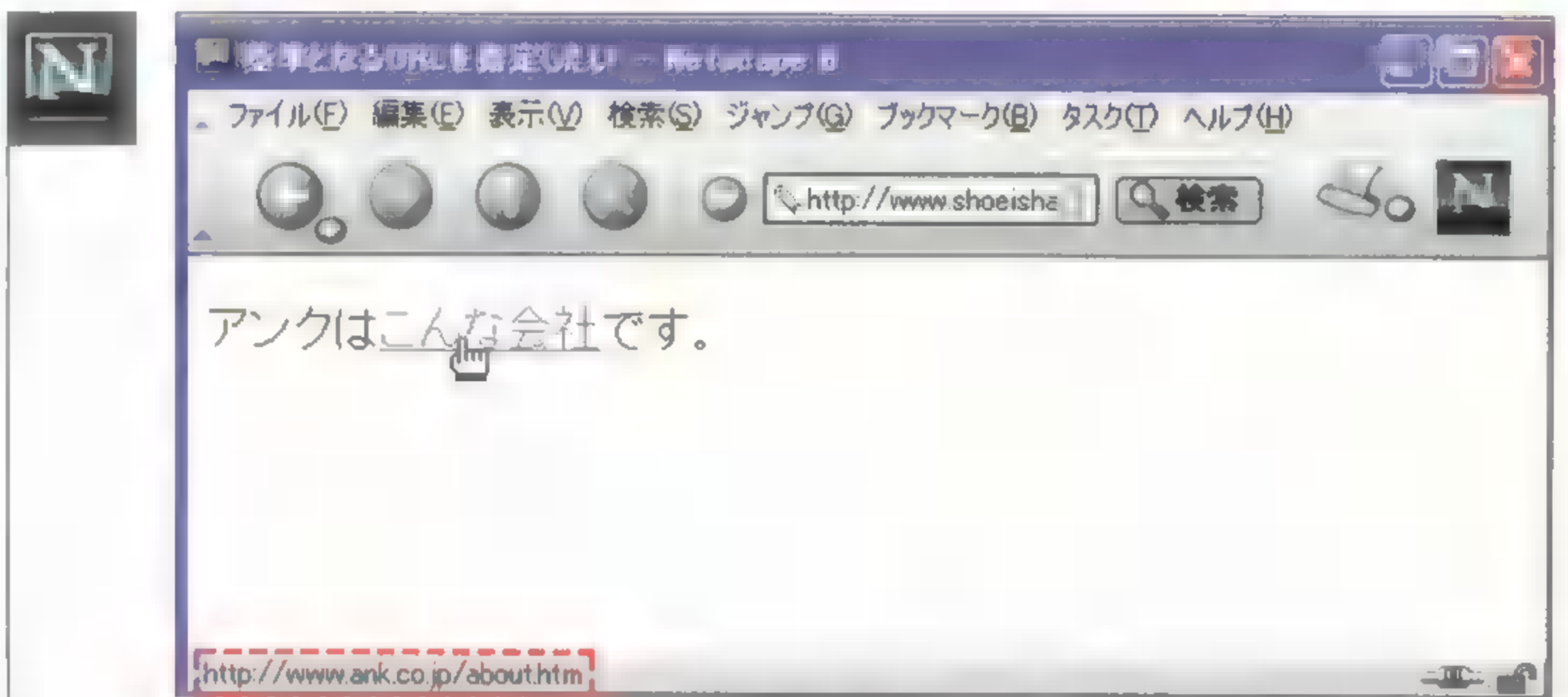
★……絶対URL
☆……ウィンドウ名、_blank、_self、_parent、_top

相対URLで書かれたURLが基準にするURLを指定するタグです。<head>タグと</head>タグの間で使用し、絶対URLで記述します。

これを指定すると、相対URLで記述された同じ文書内のURLがこのURLを基準にして認識されるようになります。

target属性には、リンク先の文書を開くデフォルトのウインドウやフレームを指定します。ただし、各リンクにtarget属性が指定されている場合には、そちらの指定が優先されることになっています（target属性に関してはp.262を参照してください）。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<base href="http://www.ank.co.jp/index.html" target="_blank">
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title>基準となるURLを指定したい</title>
</head>
<body>
<p>
アンクは<a href="about.htm">こんな会社</a>です。
</p>
</body>
</html>
```

▲<base>タグで指定したURLを基準にしてリンク先が認識されます

▲<base>タグで指定したURLを基準にしてリンク先が認識されます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

参照
絶対URLと相対URL……………………………p.10
リンクを設定したい……………………………p.146
新しいウィンドウにリンク先を表示したい………p.156
リンクを読み込むウィンドウを指定したい………p.262

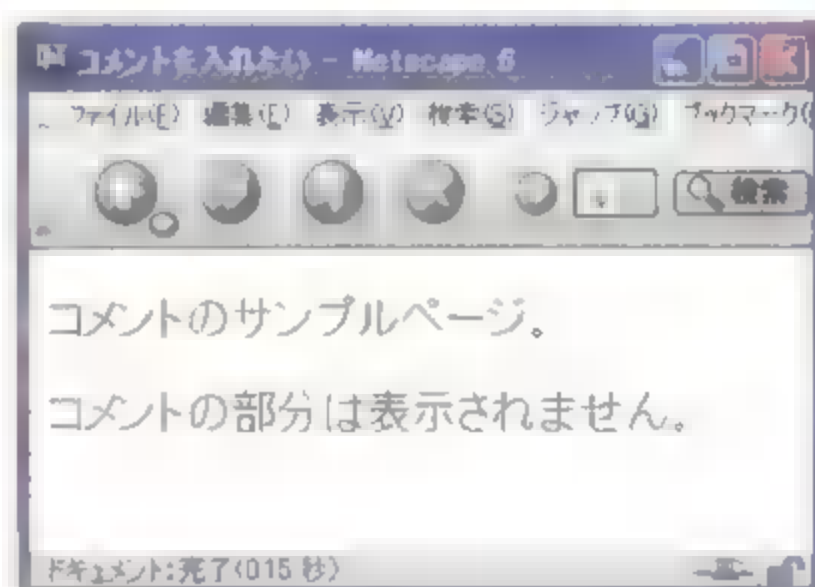
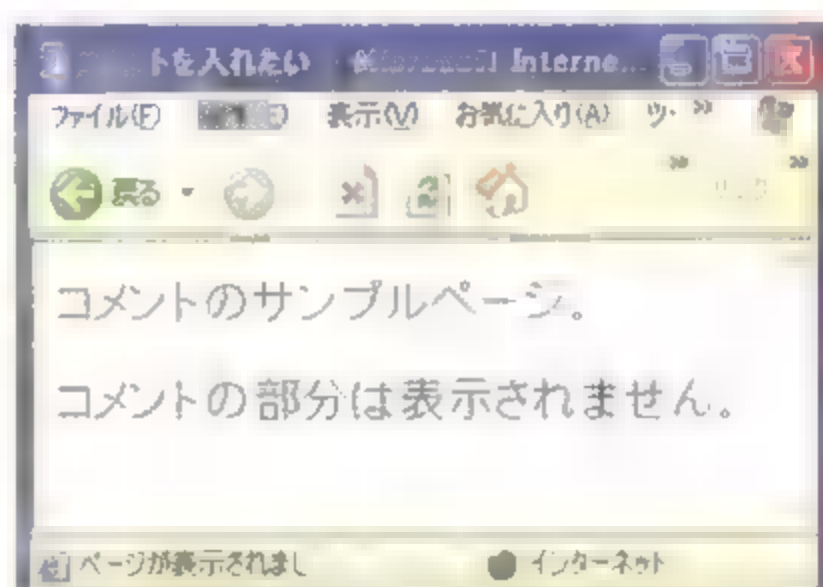
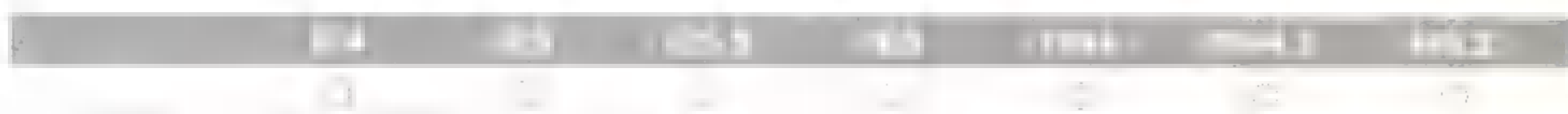
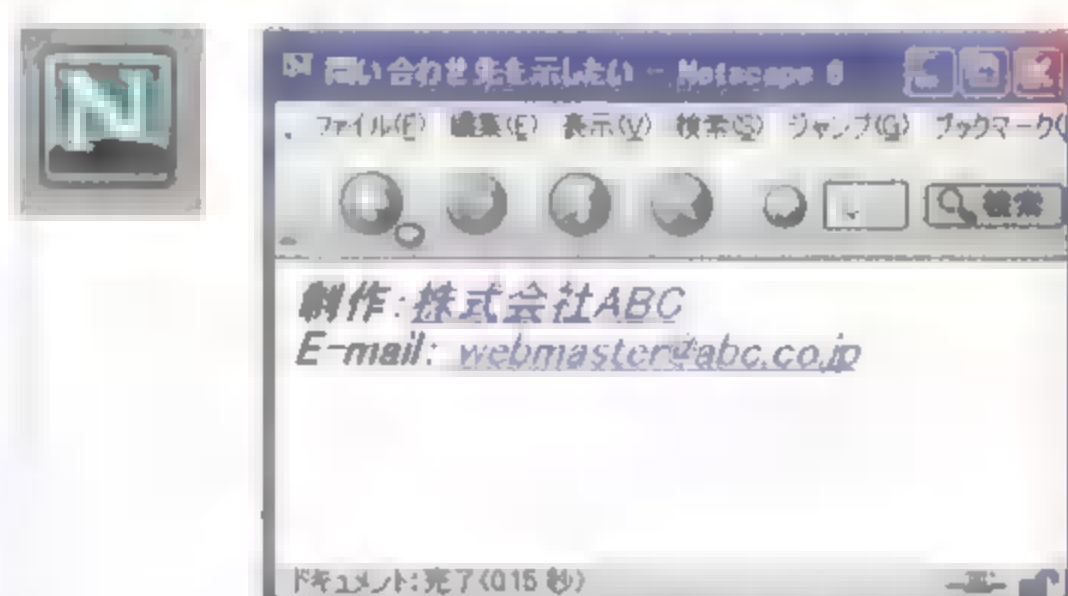
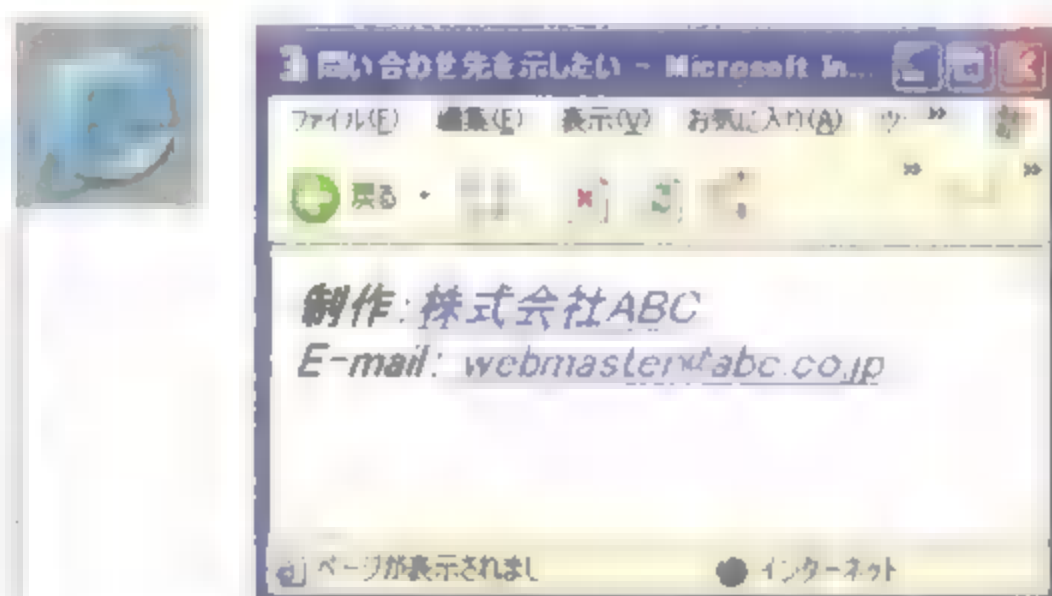
5 DOCUMENT

コメントを入れたい

<!-- ～ -->

<!--タグと-->タグに挟まれた部分がコメントになります。ブラウザには表示されないので、編集時のメモなどに利用します。また、一時的に文書の一部を隠したり、タグを無効にしたりする時にも便利です。

<!と--（ハイフン2つ）の間には空白をいれず、必ず続けて記述してください。また、コメントは1行でも複数行にわたってもかまいませんが、コメント中に複数のハイフンを入れることは避けたほうがよいでしょう。

```
<p>コメントのサンプルページ。</p>
<!--更新記録やメモ書きにつかえます-->
<p>コメントの部分は表示されません。</p>
<!--更新記録やメモ書きにつかえます。
        複数行になっても大丈夫。-->
```

7 DOCUMENT

文書情報を記述したい

著者、文書の説明、キーワードの定義

<meta name="★" content="☆">

★ ••••••author、description、keywords など
☆ ••••••name 属性に対して設定する値

文書の著者、内容、キーワードなどを定義します。name 属性で特性を指定し、content 属性でその値を設定します。必ず <head> タグと </head> タグの間に記述してください。

name 属性でキーワード（keywords）を指定しておけば、検索エンジンが検索のために参照する情報を提供することができます。キーワードを複数並べたいときは、それぞれを「,」（カンマ）で区切ってください。また要約（description）には、検索結果のページに表示される内容（サイトの説明文など）を指定します。

こうした機能はすべての検索エンジンで有効になるわけではありませんが、指定しておいたほうが検索による効果をあげることができます。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta name="author" content="taro">
<meta name="keywords" content="HTML,tag,reference,attribute">
<meta name="description" content="HTML4.01 Reference">
<meta name="generator" content="notepad">
<title> 著者、文書の説明、キーワードを定義する </title>
</head>
<body>
        :
        :
        :
</body>
</html>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

初期情[illegible]を指定したい ……………………… p.28

8 DOCUMENT

初期情報を指定したい

文字コード、スタイルシート言語、スクリプト言語の指定

```
<meta http-equiv="★" content="☆">
```

★••••••Content-Type、Content-Style-Type、Content-Script-Type

☆••••••http-equiv 属性に対して設定する値

<meta> タグを使って、その HTML 文書でデフォルトで使用される文字コード、スタイルシート言語、スクリプト言語などを指定することもできます。必ず <head> タグと </head> タグの間に記述してください。

多くの場合はこれらの情報を記述しなくてもブラウザ側が自動的に判別しますが、文字化けや誤動作が生じないとも限りません。正しく表示させるためには指定しておくべきです。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
<meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript">
<title>文字コード、スタイルシート言語、スクリプト言語を指定する</title>
</head>
<body>
          :
          :
          :
</body>
</html>
```

	IE4	[illegible]	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

文書情報を記述したい ····························p.26

文書をリロードさせたい

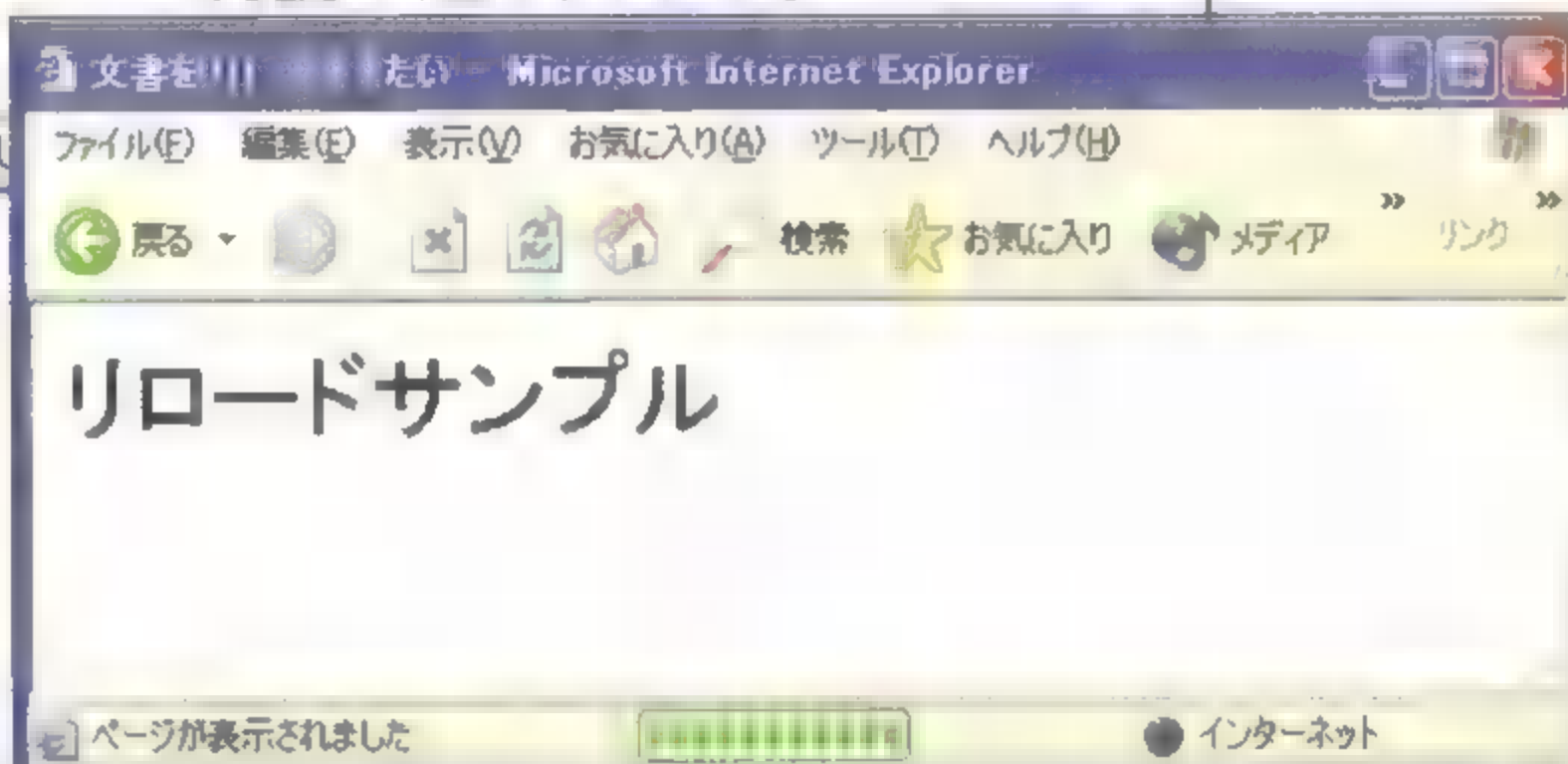
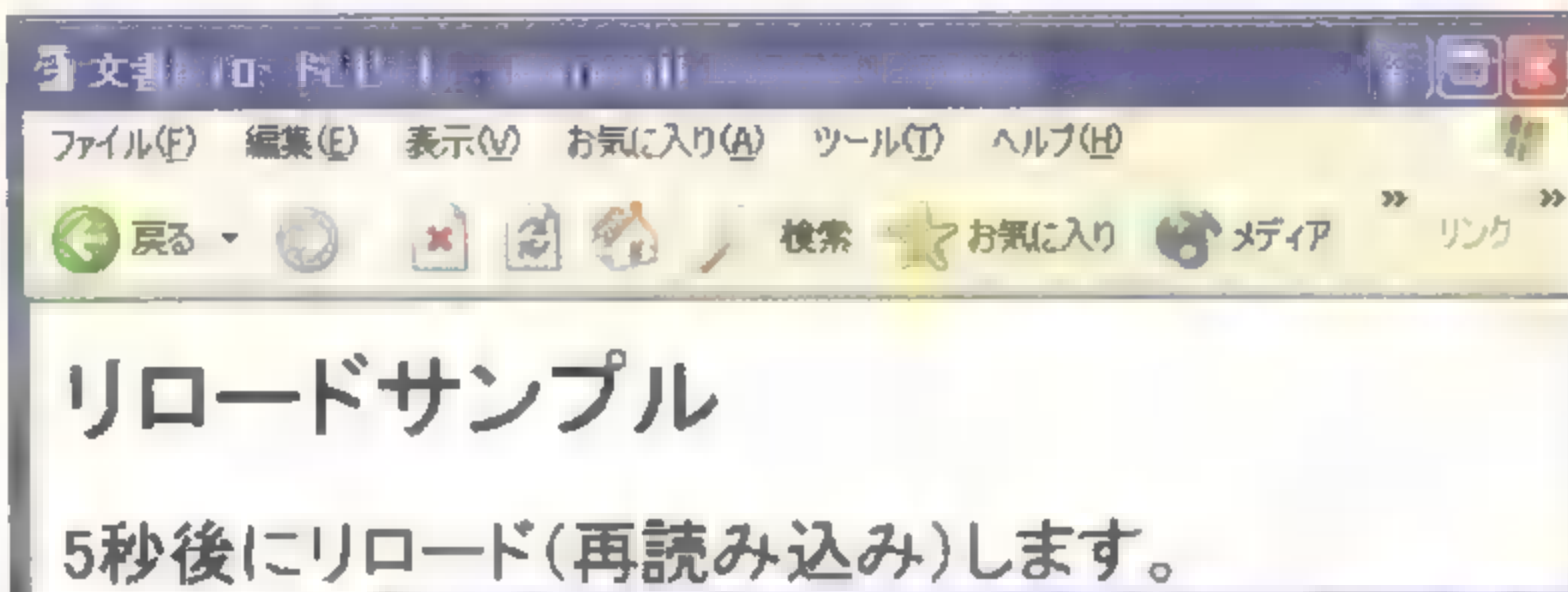
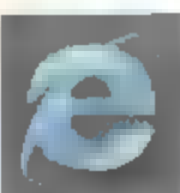
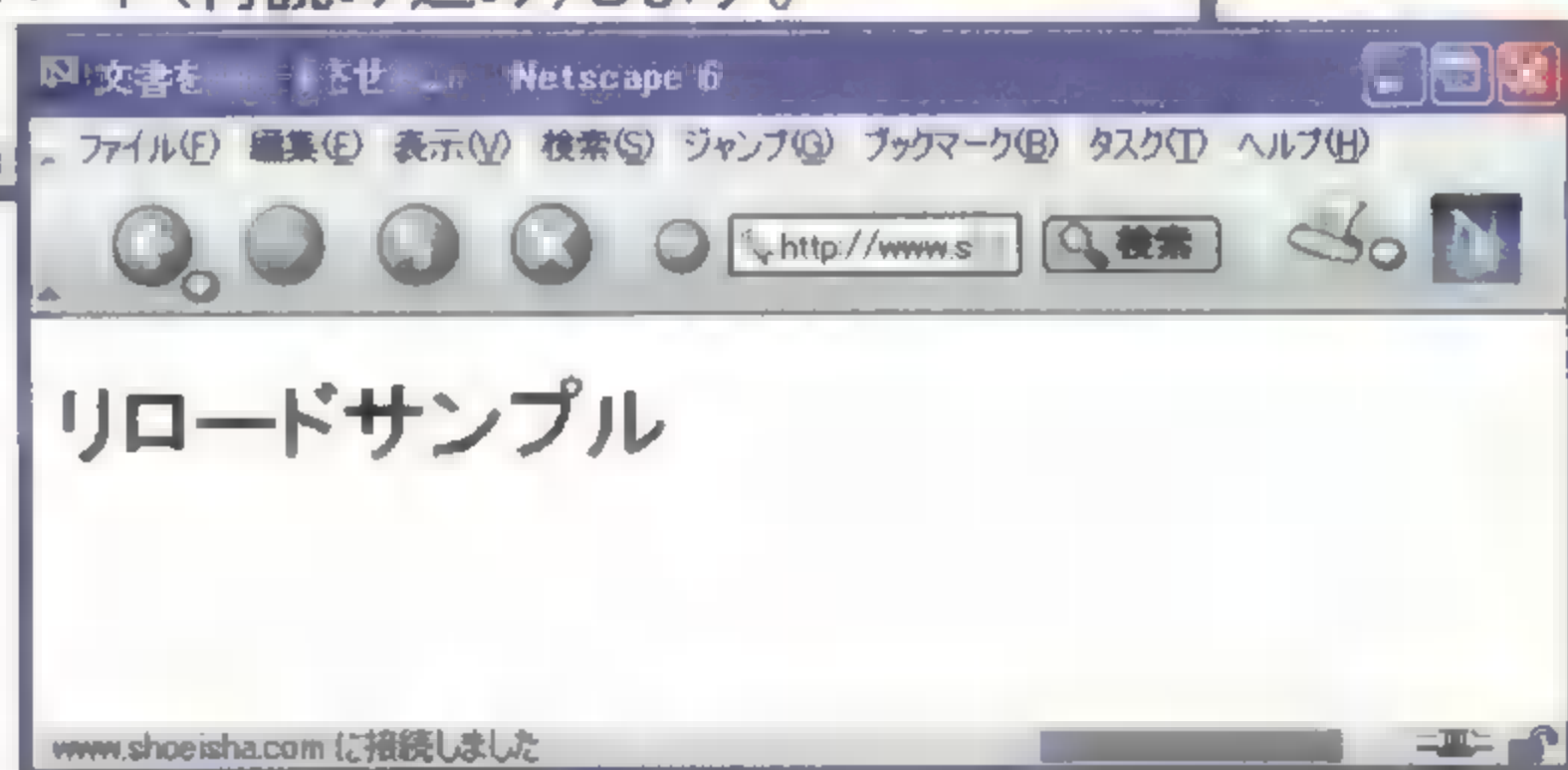
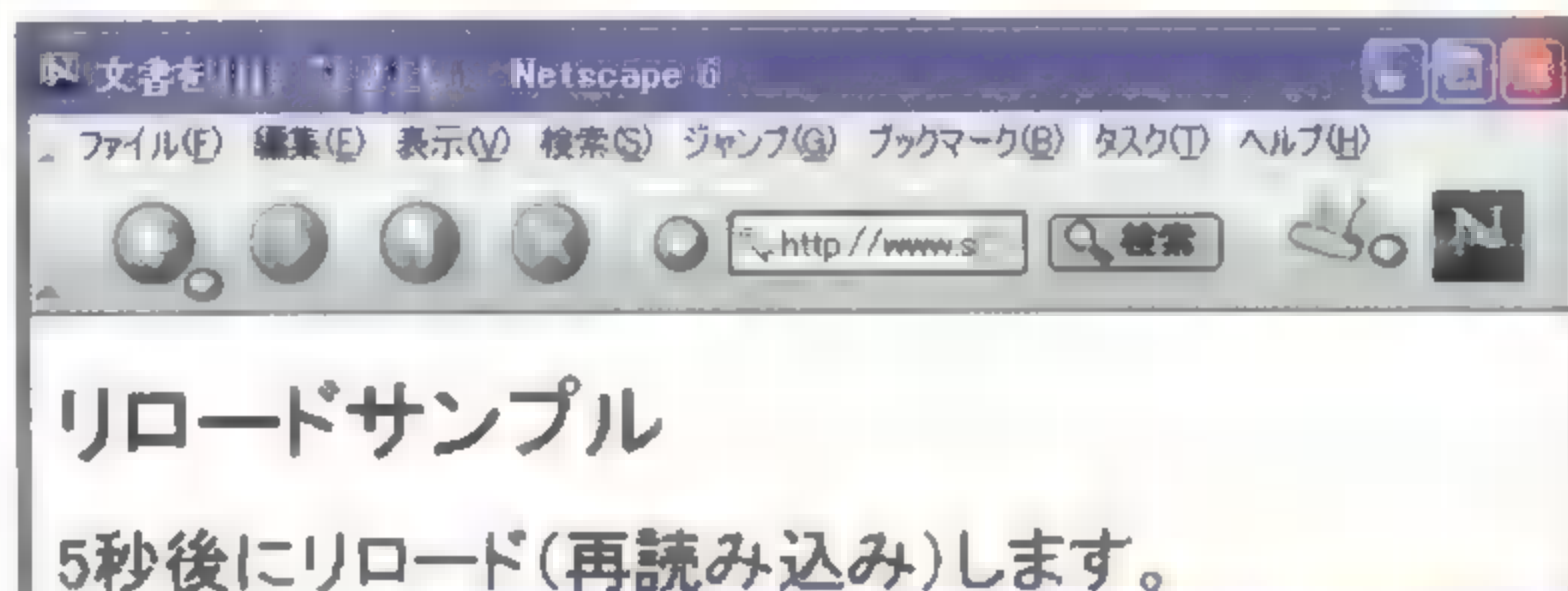
<meta http-equiv="refresh" content="★">

★……リロードするまでの時間（秒）

content属性に任意の時間（秒単位）を設定すると、その文書が指定された秒数後に再読み込み（リロード）されるようになります。必ず<head>タグと</head>タグの間に記述してください。

なお、リロードするとcontentで設定した値も一緒に読み込まれるので、指定の秒数後にまたリロードを開始します。これが繰り返されて結果的にはエンドレスでリロードすることになります。ストップさせたいときはブラウザの［中止］［停止］ボタンで止めてください。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="refresh" content="5">
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title>文書をリロードさせたい</title>
</head>
<body>
<p>
<font size="5">リロードサンプル</font>
</p>
<p>
<font size="4">5秒後にリロード（再読み込み）します。</font>
</p>
</body>
</html>
```

▲5秒ごとにリロードを繰り返します

▲5秒ごとにリロードを繰り返します

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	○	○	○

[illegible]にほかのページに移動したい ……………p.32

自動的にほかのページに移動したい

```
<meta http-equiv="refresh" content="★;url= ☆">
```

★ ••••••読み込むまでの時間（秒）
☆ ••••••移動先の URL（絶対 URL）

content 属性に任意の時間（秒単位）と任意の文書の URL を設定すると、その文書が指定された秒数後に読み込まれるようになります。この URL には http で始まる絶対 URL を記述します。

必ず <head> タグと </head> タグの間に記述してください。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<meta http-equiv="refresh"
content="5;url=http://www.ank.co.jp/index.html">
<title> 自動的にほかのページに移動したい </title>
</head>
<body>
<p>
<font size="5"> アンクのページは引っ越しました。</font>
</p>
<p>
5 秒待っても移動しない場合は下記 URL からどうぞ。<br>
新 URL ： <a href="http://www.ank.co.jp/index.htm">
http://www.ank.co.jp/index.htm</a>
</p>
</body>
</html>
```

▲5秒後にほかのページへ移動します

▲5秒後にほかのページへ移動します

[illegible]秒後に自動的に移動します

この機能の具体的な使用例としては、サイトのURLが変わったときに、新しいURLを告知すると同時に自動的に新しいサイトへ飛ばすというものがあります。「URLが変わりました」「引っ越しました」「自動的に移動します」という表現を見たことがあるでしょう。しかし必ずしもページ製作者が意図したとおりにジャンプするとは限りませんので、サンプルのように移動先のアドレスとそのサイトへのリンクも別に作成し、さらに何秒で移動するのかも書き添えておくと親切です。

	IE4	[illegible]	IE5.5	[illegible]	[illegible]	[illegible]	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

文書をリロードさせたい ························p.30

11 DOCUMENT

文書同士の関係を示したい

```
<link rel="★" href="☆">
<link rev="★" href="☆">
```

★ ••••••Index、Next、Prev、stylesheet ほか
☆ ••••••URL

<link> タグは文書間の関係（リンク）を定義するもので、<head> タグと </head> タグの間で使用します。

rel 属性は"Index"、"Next"、"Prev"といった値を使って現在の文書と別の文書との関係を定義します。たとえば現在の文書が chapter2.html の場合は次のようになります。

```
<head>
<title>chapter2.html</title>
<link rel="Index" href="../index.html">←indexページとの関係
<link rel="Next" href="chapter3.html">←次の文書は chapter3.html
<link rel="Prev" href="chapter1.html">←前の文書は chapter1.html
</head>
```

また、別に用意したスタイルシート用のファイルを読み込むときにもこの属性を利用します。スタイルシートの読み込みに関しての詳細は、スタイルシートの項（p.317）を参照してください。

```
<link rel="stylesheet" href="style.css" type="text/css">  ←style.css というファイルを読み込む
```

rel と rev の 2 つの属性は、ちょうど反対の意味を持ち、対になっています。rel 属性は順序が定められた文書内で前方へのリンクを、rev は逆方向へのリンクを示すものです。たとえば、docA と docB の 2 つの文書の場合は、以下のようになります。

```
Aにおいて：<link href="docB" rel="foo">
Bにおいて：<link href="docA" rev="foo">
```

2 つは同じ関係を表すことになります。

しかし現在のところ、Internet ExplorerやNetscapeではスタイルシートを組み込む場合を除いてこうした各種機能には対応していません。

rel、rev属性の値

rel、およびrev属性で取り得る値として、W3Cでは次のような値を指定しています（大文字小文字は問いません）。

Alternate	リンクがある文書の代替バージョン
Stylesheet	外部スタイルシート
Start	ひとまとまりの文書中の最初の文書を参照する
Next	次の文書を参照する
Prev	前の文書を参照する
Contents	目次
Index	当該文書の索引
Glossary	当該文書に含まれる用語の用語解説
Copyright	著作権に関する部分
Chapter	ひとまとまりの文書中で、章である文書
Section	ひとまとまりの文書中で、節である文書
Subsection	ひとまとまりの文書中で、項である文書
Appendix	ひとまとまりの文書中で、付録である文書
Help	ヘルプのある文書
Bookmark	ブックマーク

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

リンクを設定したい……………………………p.146

12 DOCUMENT

特定の範囲を設定したい

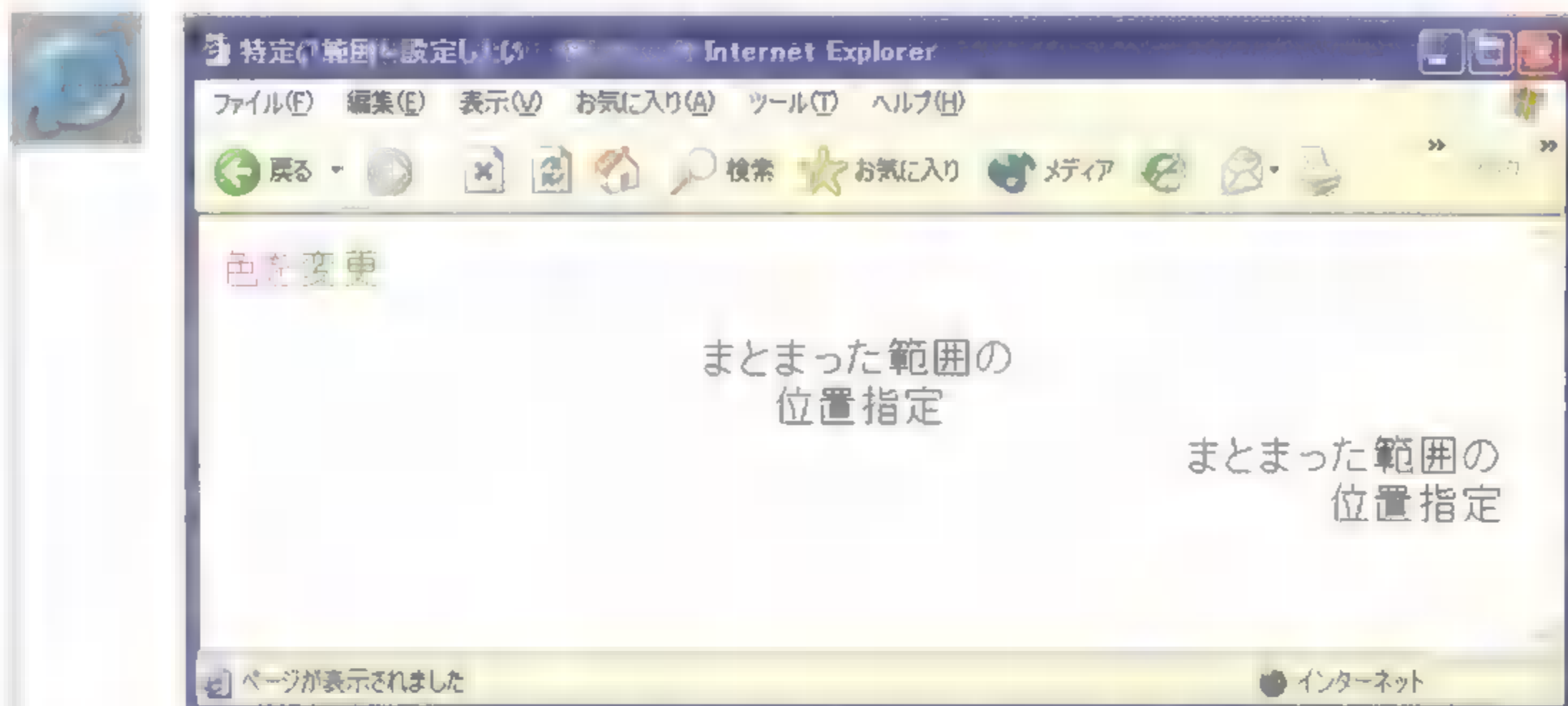
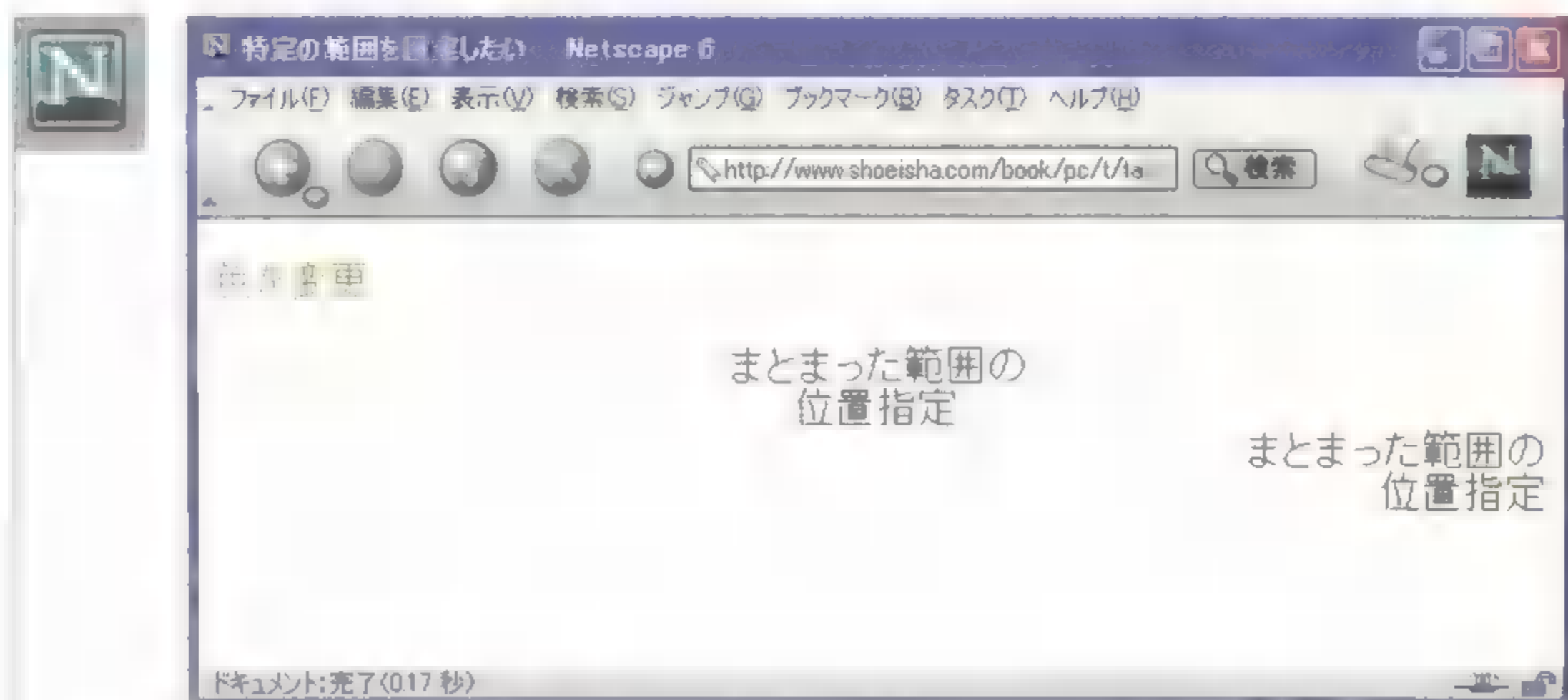
 ～
<div> ～ </div>

<span> タグはその範囲がインラインレベル（p.4 参照）の要素であることを示し、一般的に表示上の変化はありません。一方 <div> タグはその範囲がブロックレベル（p.4 参照）の要素であることを示し、一般的には前後が 1 行改行されて表示されます。どちらの要素もこのように文書内容に特定の範囲を設定する以外の意味は持っていません。

これらのタグは、ほかの要素が利用できない部分にスタイルシートを適用したり、言語のコードやテキストの表記方法を指定する場合などに利用されます。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<title> 特定の範囲を設定する </title>
<style type="text/css">
  .fuchsia   {color:#ff00ff}
  .green     {color:green}
  #center    {text-align:center}
  #right     {text-align:right}
</style>
</head>

<body>
<p>
<span class="fuchsia"> 色を </span><span class="green"> 変更 </span>
</p>
<div id="center"> まとまった範囲の <br> 位置指定 </div>
```

```
<div id="right">まとまった範囲の<br>位置指定</div>
</body>

</html>
```

▲スタイルシートを特定の範囲に適用したいときなどにこれらのタグを利用します

▲スタイルシートを特定の範囲に適用したいときなどにこれらのタグを利用します

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
○	○	○	○	○	○	○

まとめて位置を指定したい ……………………p.88
スタイルシートを使いたい ……………………p.272

1 TEXT

テキスト

見出しを設定したい

<h★>～</h★>

★･･････1～6

<h>タグで見出しを設定します。全部で1～6の6段階あり、h1が一番上位、以下数字が大きくなるにつれて見出しのレベルが下がることを意味します。

一般的にこのタグに挟まれた部分は太字で、前後に空白をあけて表示されます。そして、数字が大きいほど小さいフォントになりますが、実際に画面上に表示される大きさは、各ユーザーの環境設定に左右されるので注意しましょう。

SOURCE

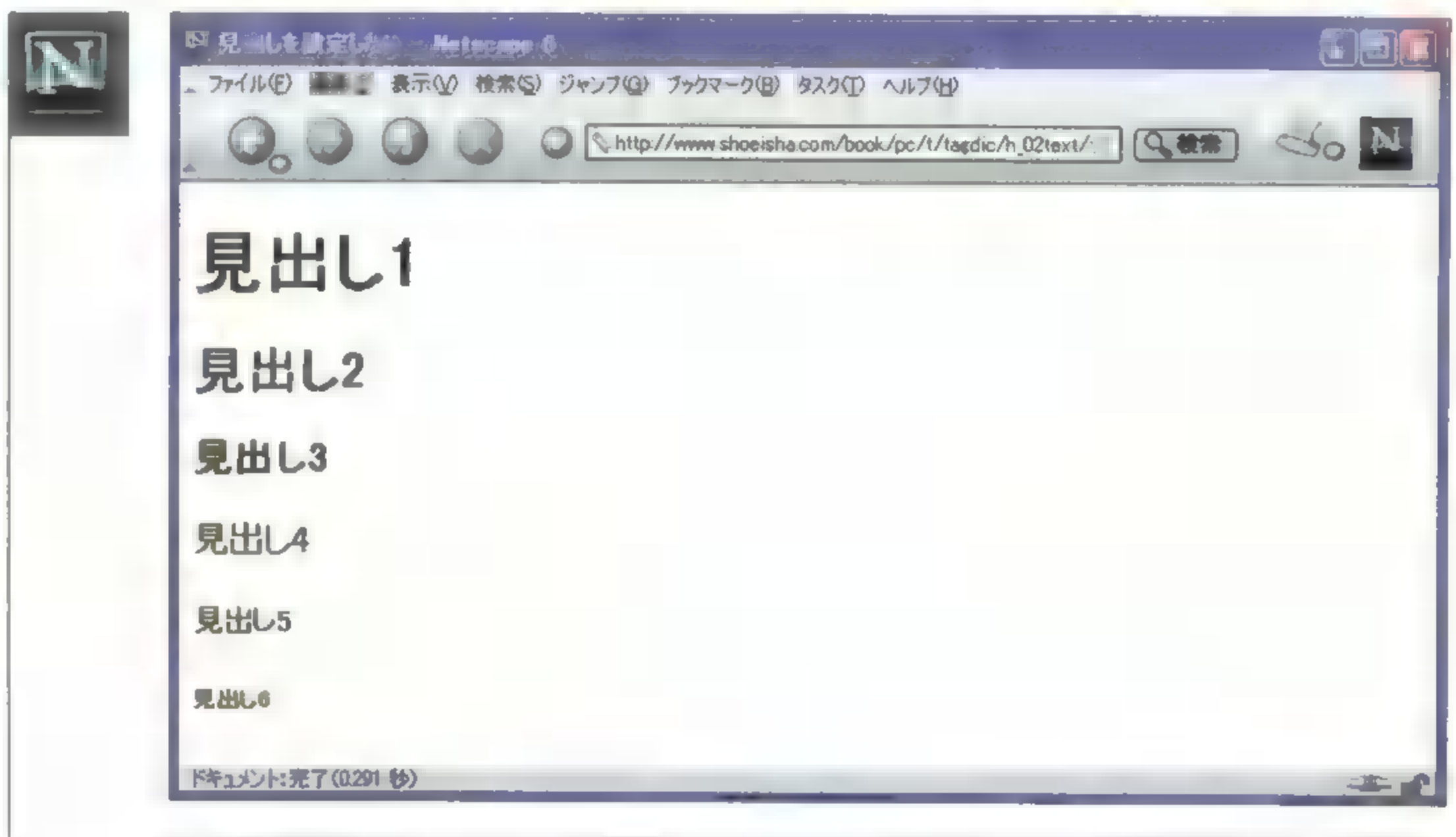
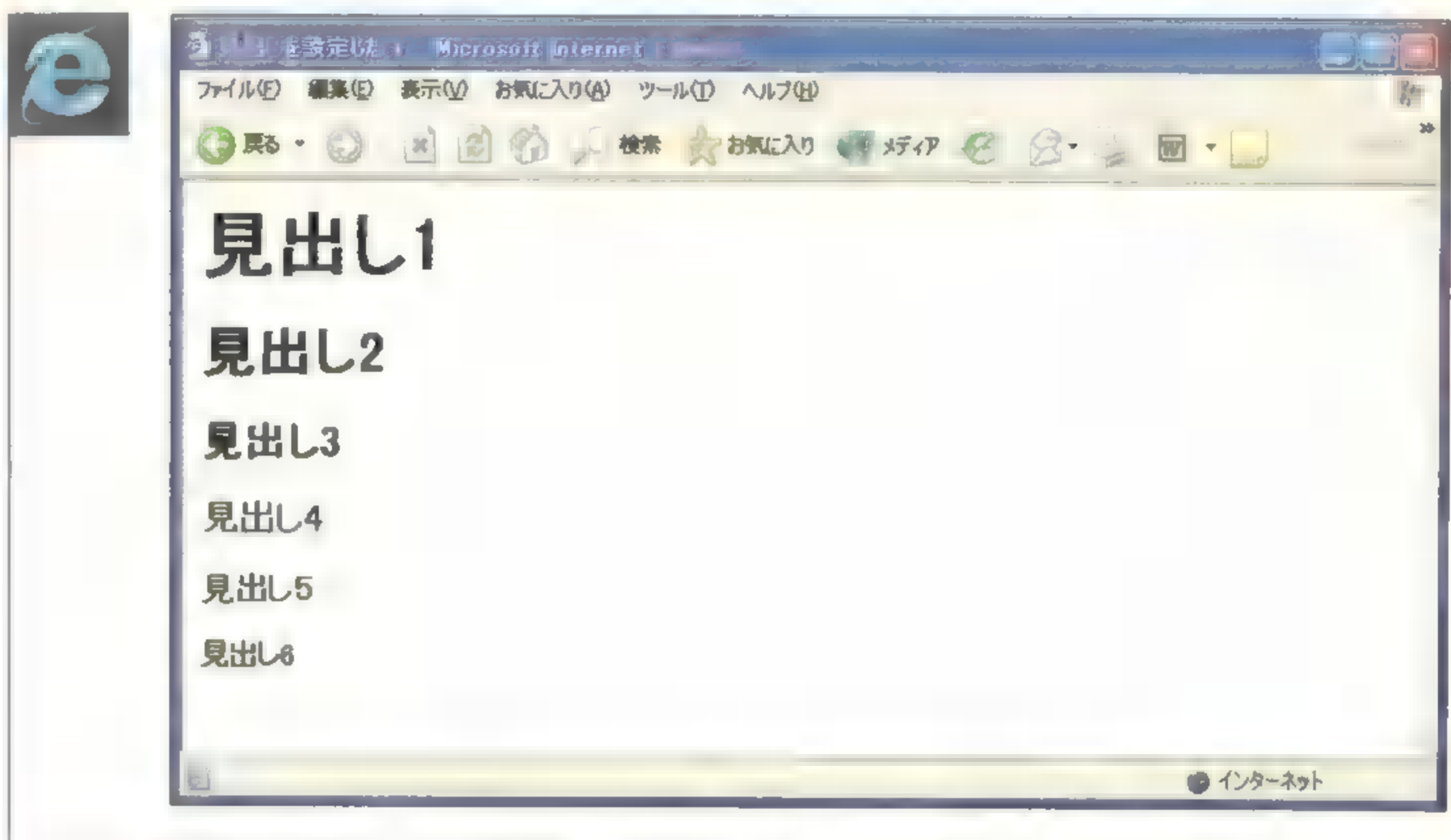
```
<h1>見出し1</h1>
<h2>見出し2</h2>
<h3>見出し3</h3>
<h4>見出し4</h4>
<h5>見出し5</h5>
<h6>見出し6</h6>
```

<h>タグの意味

通常のブラウザでは、<h>タグで挟まれた部分はテキストのサイズが変えられ、さらに太字で表示されます。これは階層のレベルが視覚的にわかりやすいようブラウザが独自に解釈して表示しているものですが、この機能を利用して、単にテキストの大きさを変えたり太字で表示するために<h>タグを使っている例も見られます。W3Cの仕様に沿って正しいHTML文書を作成するためには、こういった用法は避けるべきです。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

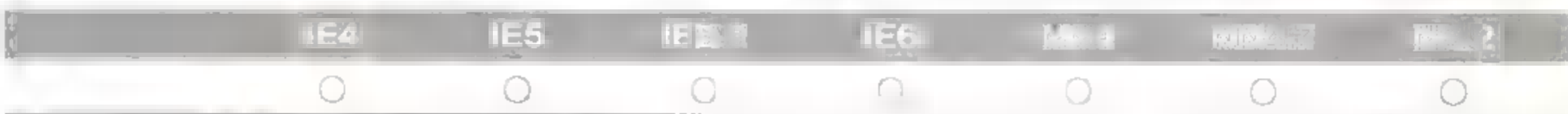
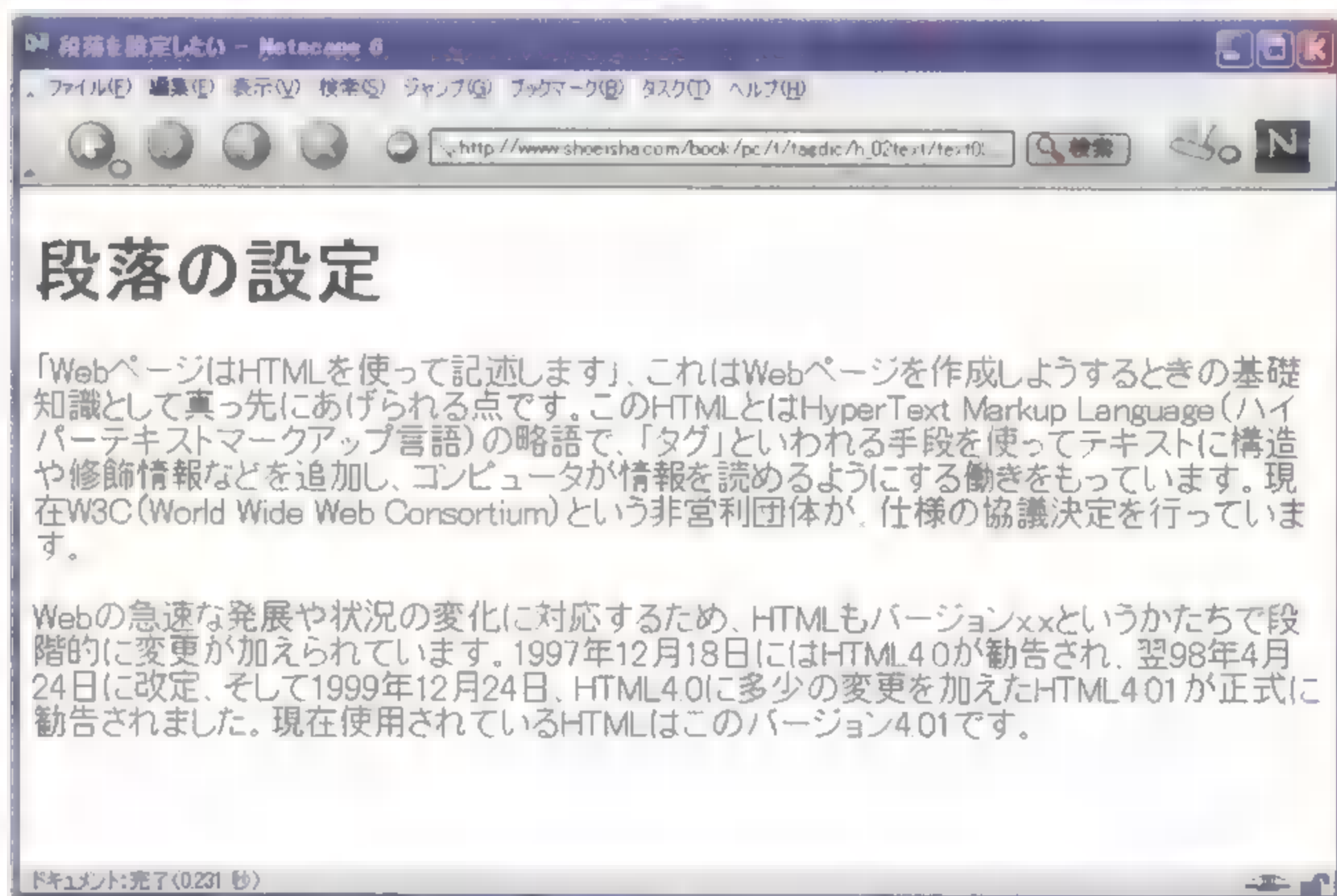
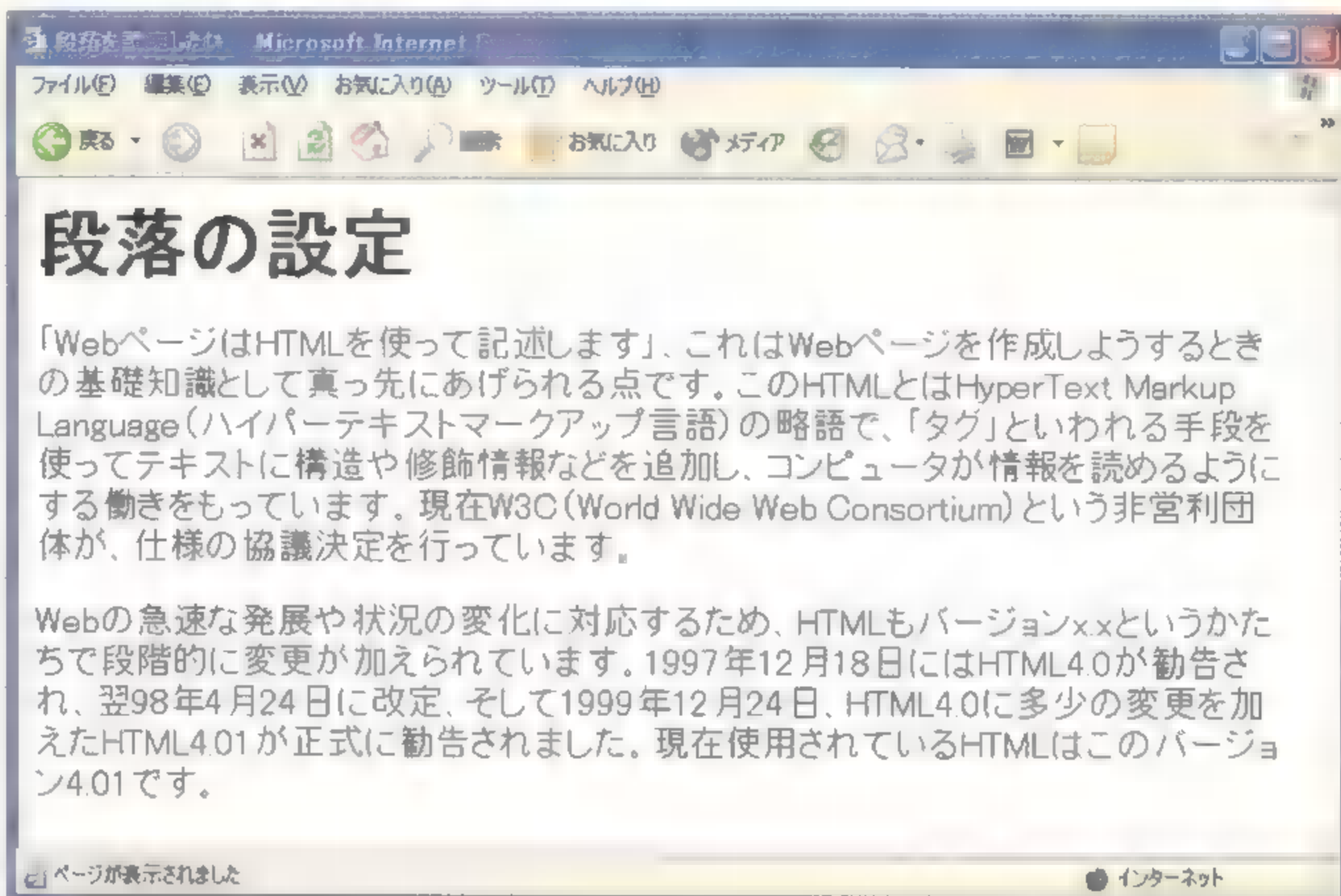
見出しの位置を指定したい ······················· p.84

2 TEXT

段落を設定したい

<p> ～ </p>

その範囲がひとつの段落であることを示します。一般的なブラウザではこの範囲の前でテキストが改行され、さらに1行分空白が挿入されます。単に改行を目的とした、内容が空の<p>タグは無視されるので、<p>タグをいくつ並べてもブラウザに反映されるのはひとつ分です。

終了タグ</p>は省略することもできますが、より正しくHTML文書を作成するためにはつねに付けるようにしたほうがよいでしょう。また、この<p>タグを改行や行間の確保のためだけに使用している例を見かけますが、これは<p>タグ本来の利用方法ではありませんので注意してください。

```
<h1>段落の設定</h1>
<p>
「Webページは HTML を使って記述します」、これは Web ページを作成しようするときの基
礎知識として真っ先にあげられる点です。この HTML とは HyperText Markup Language（ハ
イパーテキストマークアップ言語）の略語で、「タグ」といわれる手段を使ってテキストに
構造や修飾情報などを追加し、コンピュータが情報を読めるようにする働きをもっています。
現在 W3C（World Wide Web Consortium）という非営利団体が、仕様の協議決定を行ってい
ます。
</p>
<p>
Web の急速な発展や状況の変化に対応するため、HTML もバージョン x.x というかたちで段
階的に変更が加えられています。1997 年 12 月 18 日には HTML4.0 が勧告され、翌 98 年 4 月
24 日に改定、そして 1999 年 12 月 24 日、HTML4.0 に多少の変更を加えた HTML4.01 が正式
に勧告されました。現在使用されている HTML はこのバージョン 4.01 です。
</p>
```

改行させたい

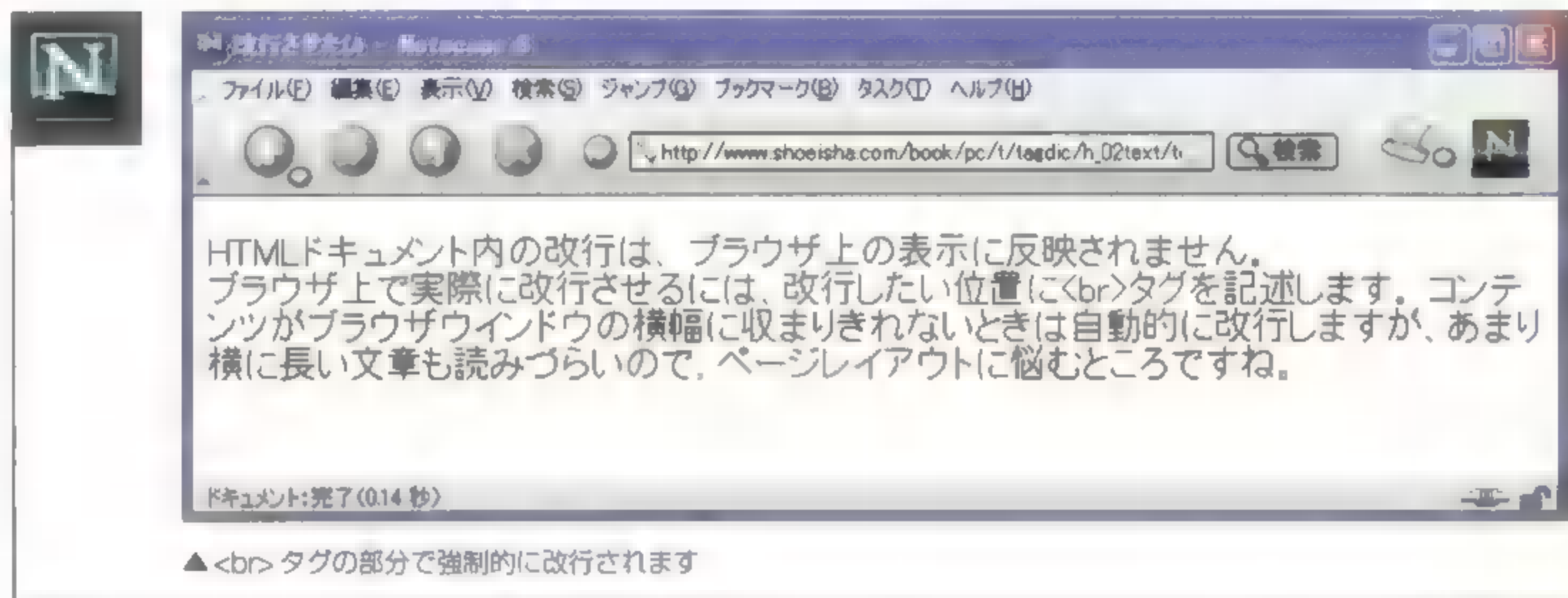
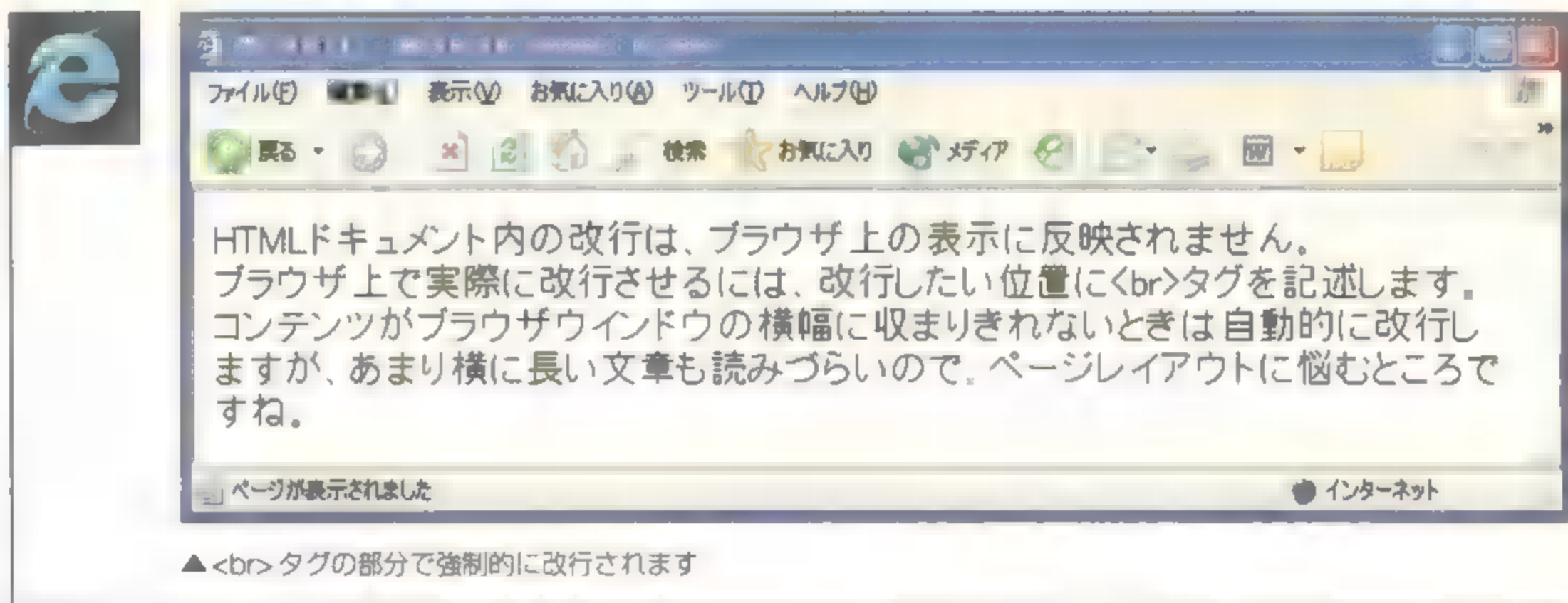
HTML 文書で改行を入れてもブラウザ上の表示には反映されません。ブラウザ上で実際に改行させるには、改行したい位置に
 タグを記述します。
 タグを複数並べれば、その分だけ余白が確保されますが、これは W3C の仕様にしたがった正しい使用方法ではありません。このようにレイアウトを目的として
 を使用しないようにしましょう。

なお、コンテンツがブラウザウインドウの[illegible]に収まりきらないときは、
 タグがなくても自動的に改行します。

SOURCE

```
<p>
HTML ドキュメント内の改行は、
ブラウザ上の表示に反映されません。<br>
ブラウザ上で実際に改行させるには、改行したい位置に &lt;br&gt;タグを記述します。
コンテンツがブラウザウインドウの横幅に収まりきれないときは自動的に改行しますが、あ
まり横に長い文章も読みづらいので、ページレイアウトに悩むところですね。
</p>
```

▲
 タグの部分で強制的に改行されます

▲
 タグの部分で強制的に改行されます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

改行させないで表示したい……………………p.44
画像に対する回り込みを解除したい……………p.138
テーブルに対する回り込みを解除したい…………p.205

改行させないで表示したい

<nobr> ～ </nobr>

通常ブラウザでは、画面に収まるように、ウィンドウの幅に合わせてテキストを自動的に改行していきます。しかし、<nobr> タグと </nobr> タグで挟むとその範囲のテキストは改行されずに１行で表示されるようになります。

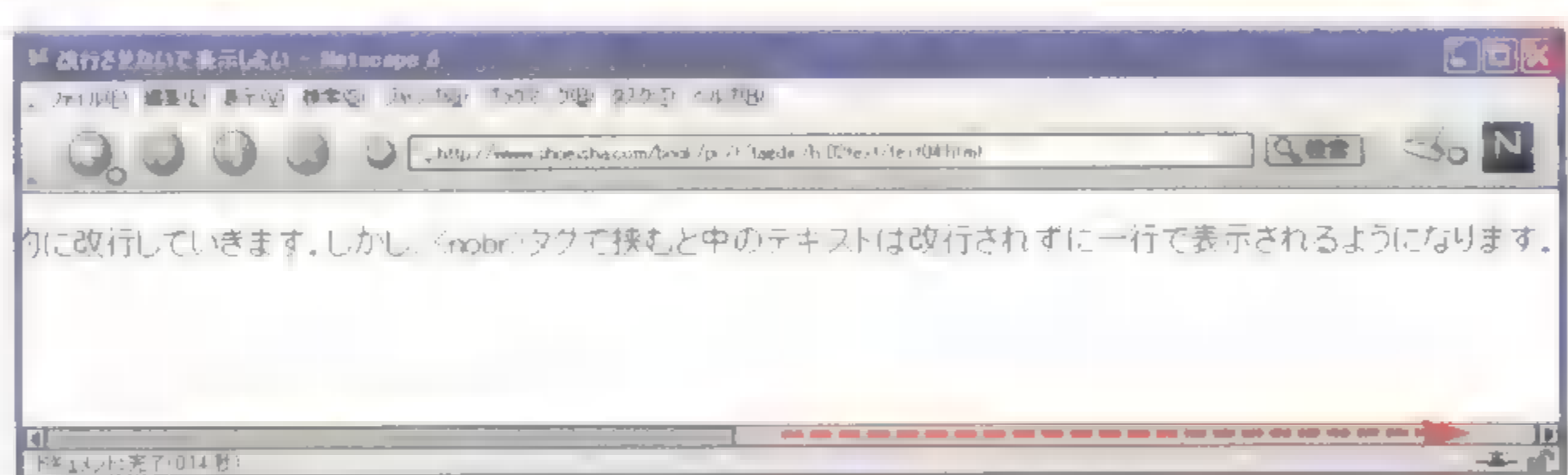
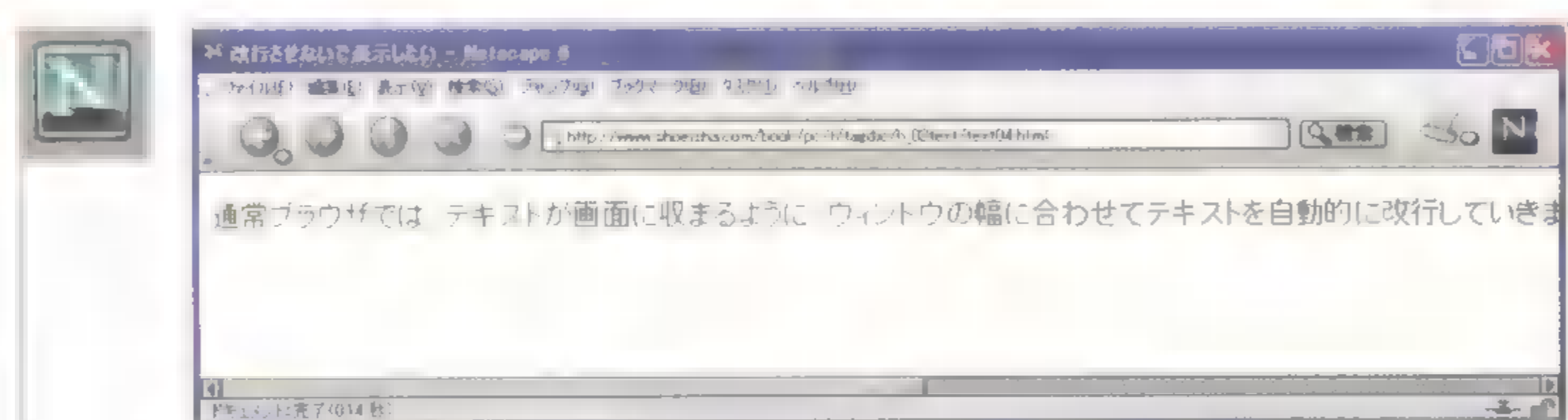
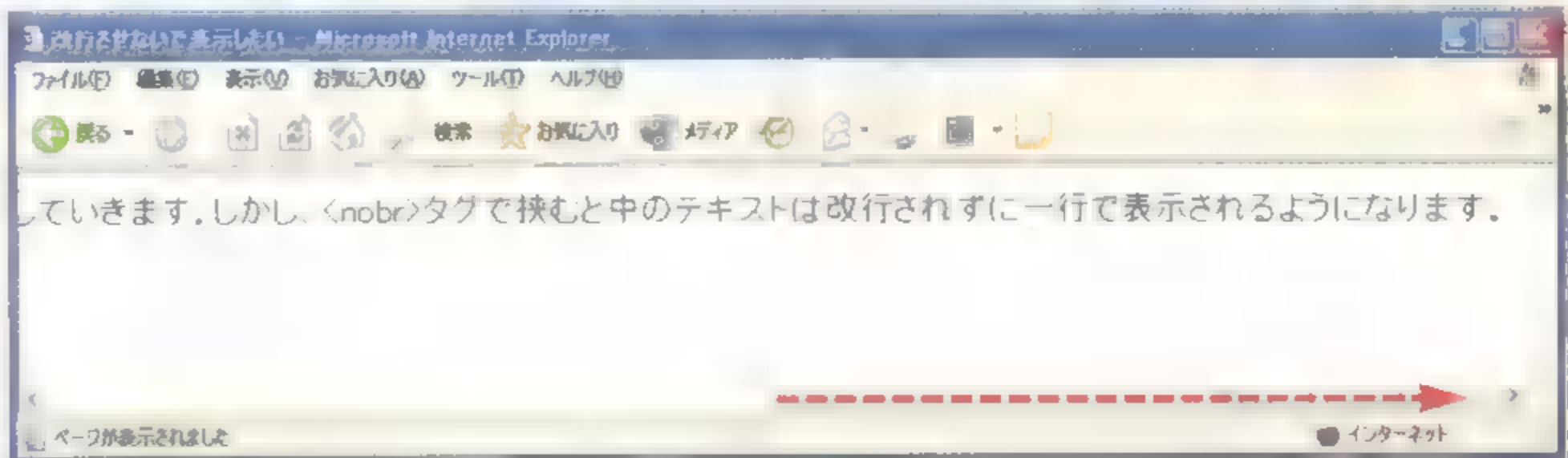
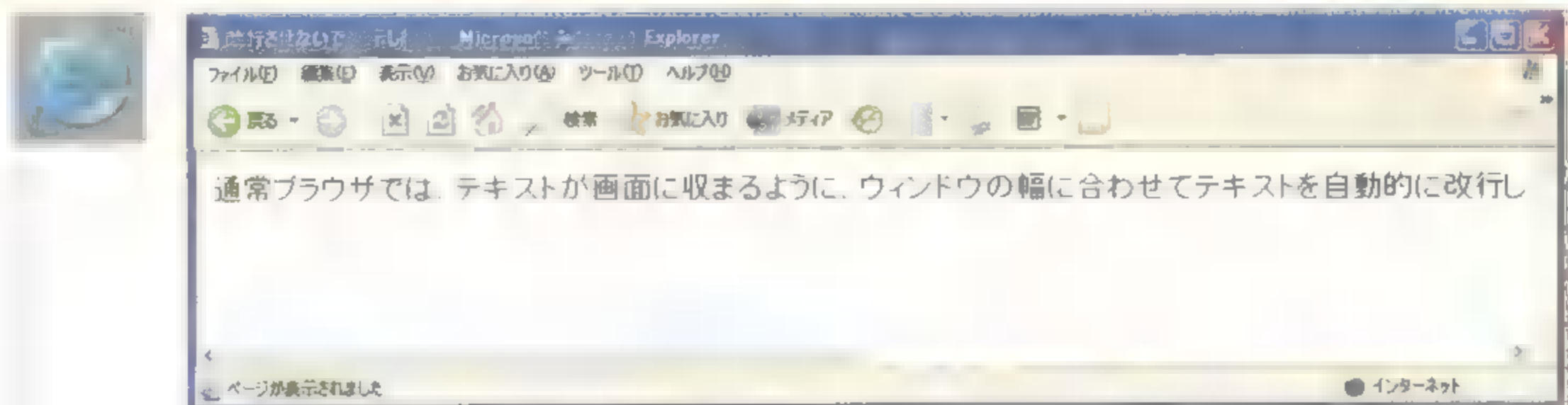
<nobr> タグは、Internet Explorer および Netscape（Navigator）では対応していますが、HTML4.01 では削除され仕様には含まれていません。

SAMPLE

```
<p>
<nobr>
通常ブラウザでは、テキストが画面に収まるように、ウィンドウの幅に合わせてテキストを
自動的に改行していきます。しかし、&lt;nobr&gt;タグで挟むと中のテキストは改行されず
に一行で表示されるようになります。
</nobr>
</p>
```

このあたりで改行させたい時のタグ（改行許可）

長い文章の中で改行しても良い位置を指定する時には <wbr> タグを使用します。ただし、あくまでも改行候補位置なので必ずしもその位置で改行されるとは限りません。

5 TEXT

入力したとおりに表示したい

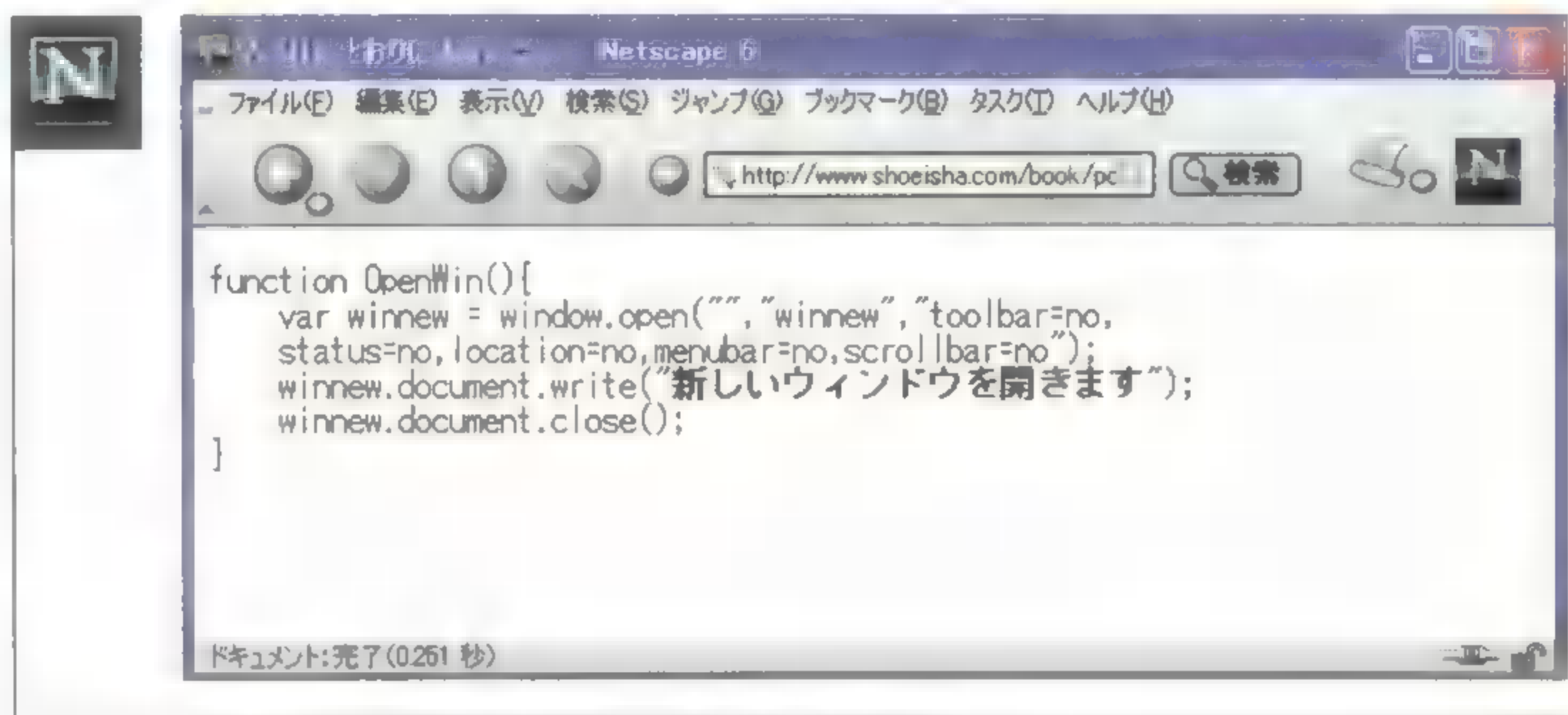
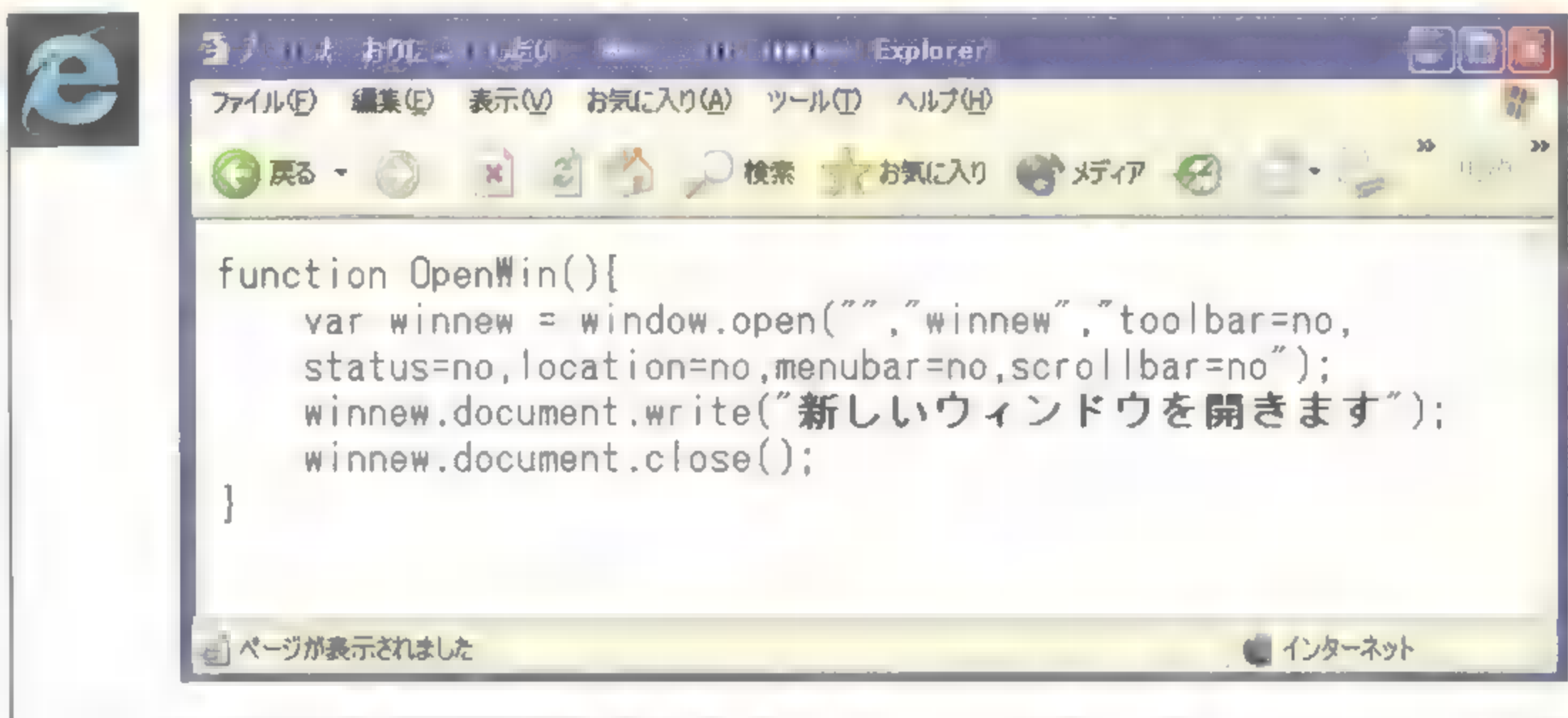
<pre> 〜 </pre>

このタグで囲まれた部分が、整形済みであることを示します。通常<pre>タグと</pre>タグで挟まれたテキストは等幅フォントで表示され、HTML文書内の空白文字や改行などがブラウザ画面にそのまま反映されます。

SOURCE

```
<pre>
function OpenWin(){
   var winnew = window.open("","winnew","toolbar=no,
   status=no,location=no,menubar=no,scrollbar=no");
   winnew.document.write("<b>新しいウィンドウを開きます</b>");
   winnew.document.close();
}
</pre>
```

```
function OpenWin(){
    var winnew = window.open("","winnew","toolbar=no,
    status=no,location=no,menubar=no,scrollbar=no");
    winnew.document.write("新しいウィンドウを開きます");
    winnew.document.close();
}
```

ページが表示されました　インターネット

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

技術的な意味を示したい ························ p.56

長い文章を引用したい

<blockquote> ~ </blockquote>

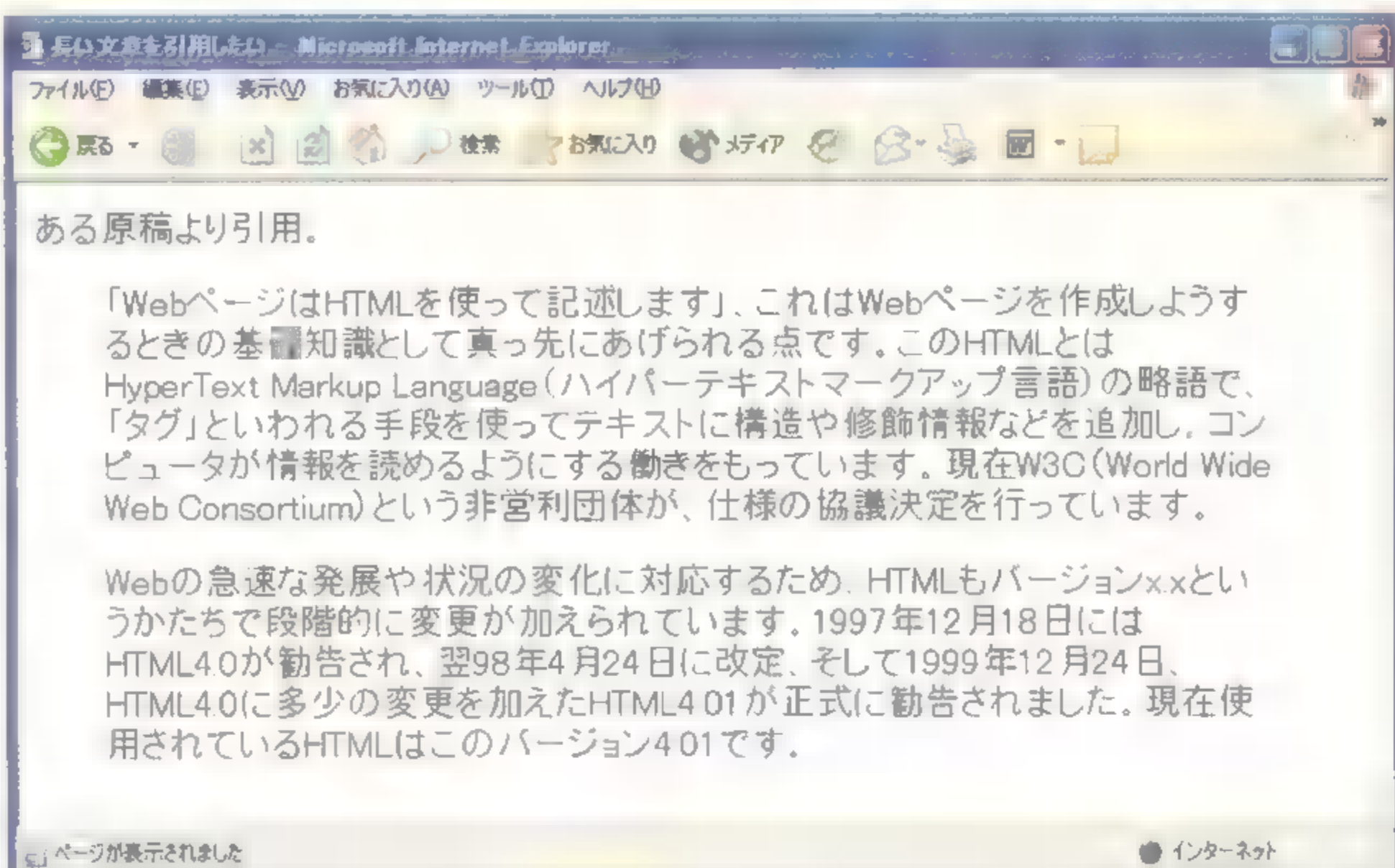
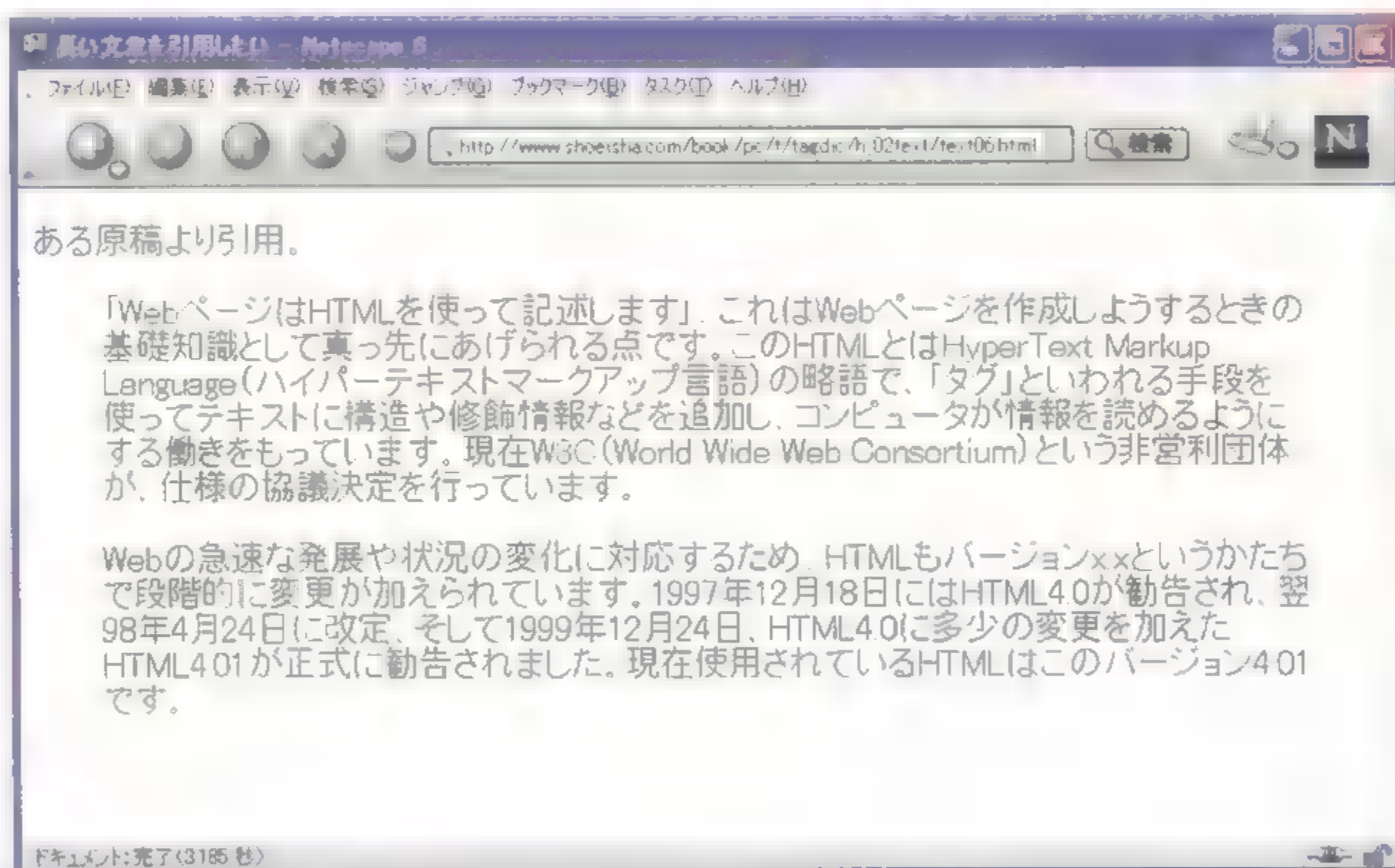
比較的長い文章を抜粋・引用するときに使用します。一般的に <blockquote> タグと </blockquote> タグで挟まれた部分は上下に 1 行分のスペースが挿入され、左右もインデント（字下げ）されて表示されるので、上下左右にスペースがあく形になります。

```
<p>
ある原稿より引用。
</p>
<blockquote>
<p>
「Web ページは HTML を使って記述します」、これは Web ページを作成しようするときの基礎知識として真っ先にあげられる点です。……（中略）……を行っています。
</p>
<p>
Web の急速な発展や状況の変化に対応するため、HTML もバージョン x.x というかたちで段階的に変更が加えられています。……（中略）……このバージョン 4.01 です。
</p>
</blockquote>
```

所在情報を示す cite 属性

HTML4.01 では、<blockquote> タグに、引用したソースやメッセージの所在情報を示すための cite 属性が定義されています。

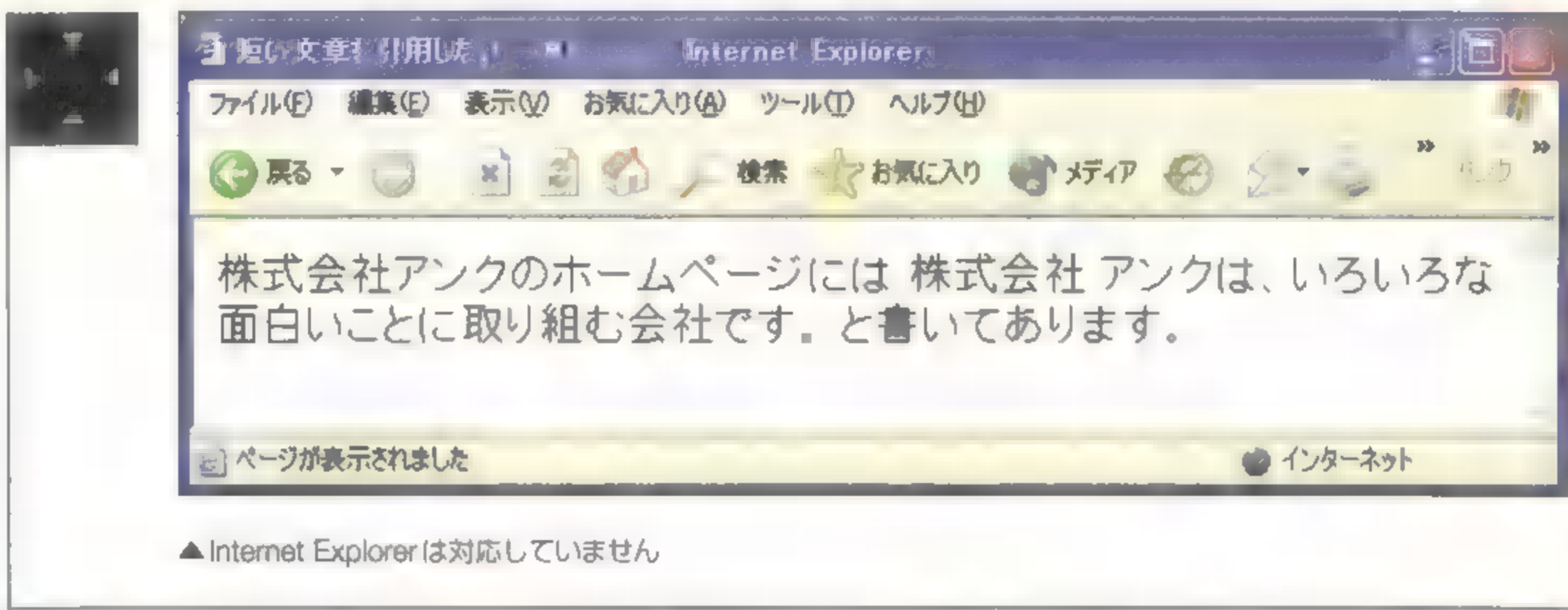
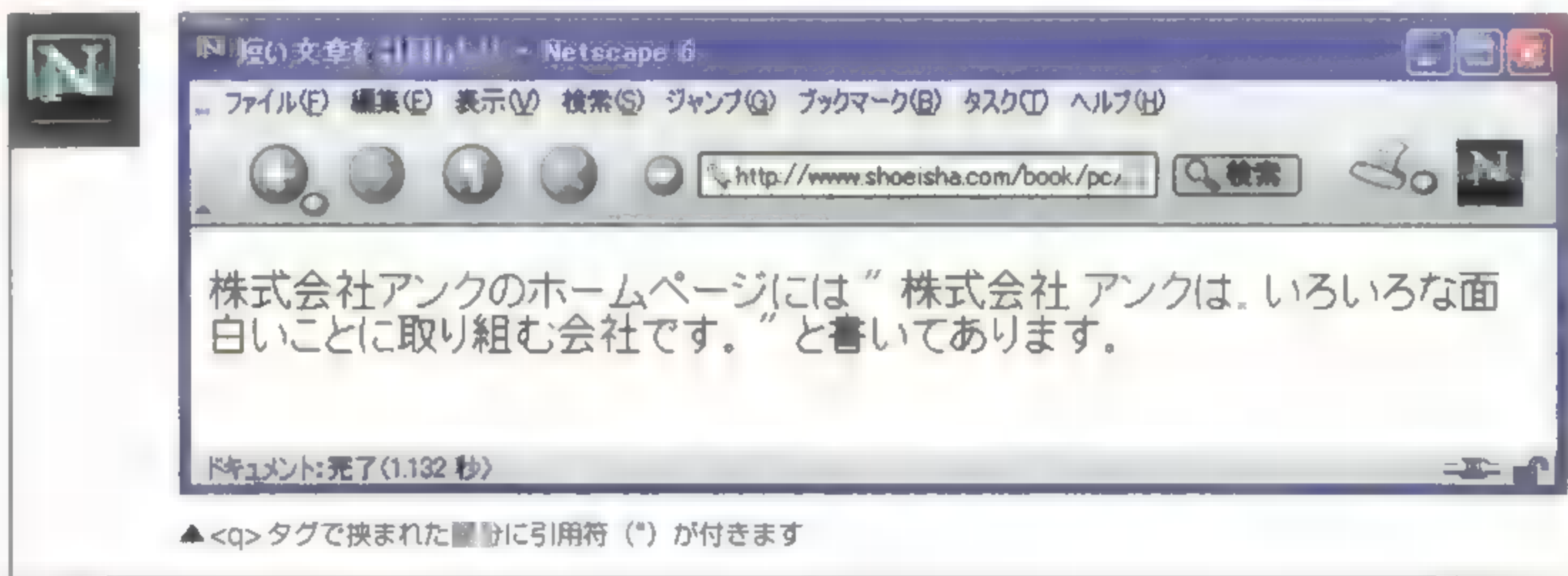
```
<blockquote cite="★">～</blockquote>
```

★には引用元の URL を入力します。
ただし。現在のところ Internet Explorer や Netscape の表示では特に変化はありません。

短い文章を引用したい

<q> 〜 </q>

改行を必要としないような比較的短い文章を抜粋・引用するときには、<q> タグを使用します。対応したブラウザでは、引用部分の前後に自動的に引用符が付けられるので、ユーザー側で引用符を付けないよう注意してください。

SOURCE

```
<p>
株式会社アンクのホームページには
<q>
株式会社 アンクは、いろいろな面白いことに取り組む会社です。
</q>
と書いてあります。
</p>
```

▲Internet Explorer は対応していません

▲<q> タグで挟まれた部分に引用符（"）が付きます

所在情報を示す cite 属性

HTML4.01 では、<q> タグに、引用したソースやメッセージの所在情報を示すための cite 属性が定義されています。

```
<q cite="★">～</q>
```

★には引用元の URL を入力します。
ただし、現在のところ Internet Explorer や Netscape の表示では特に変化はありません。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	×	×	×	×	×	×	○

※ Macintosh 版 Internet Explorer 5 は対応しています

長い文章を引用したい ････････････････････････p.48
情報源を示したい ･････････････････････････････p.52

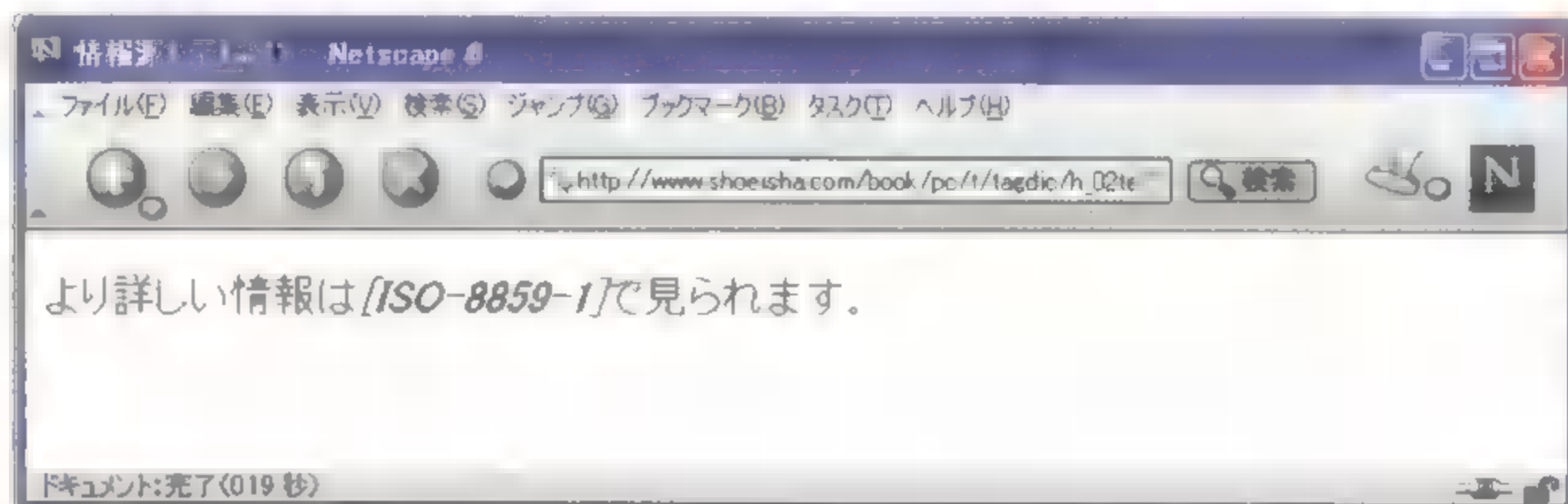
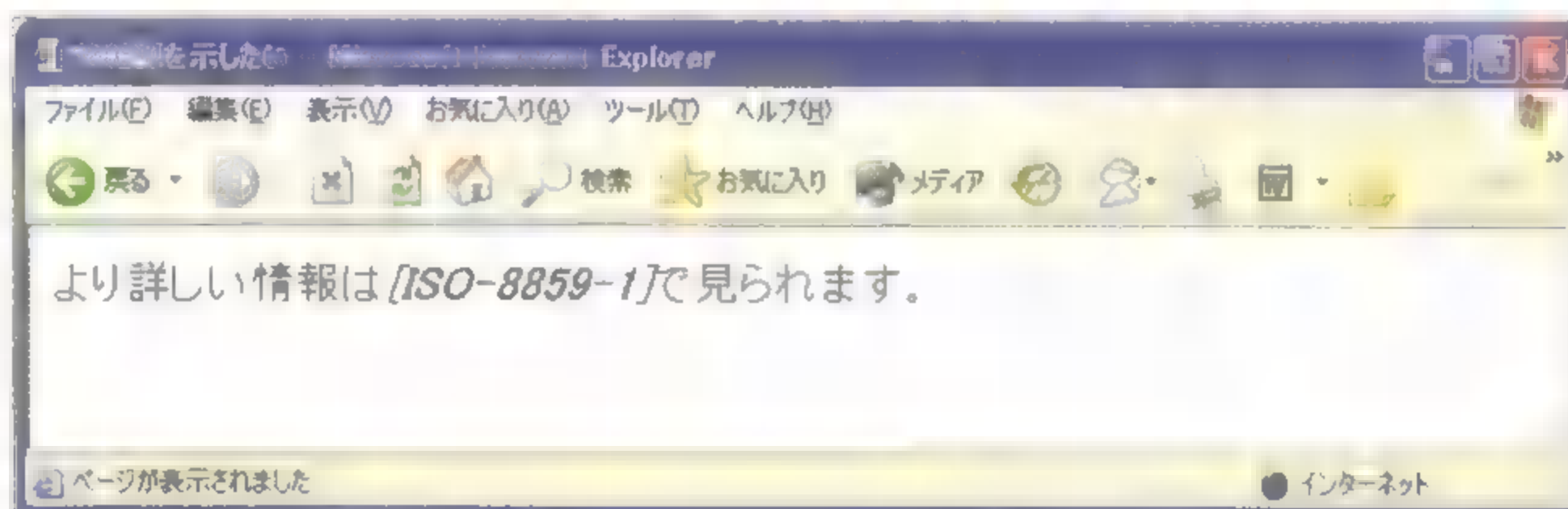
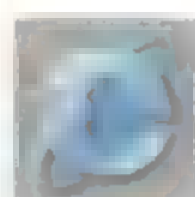
8 TEXT

情報源を示したい

<cite> ～ </cite>

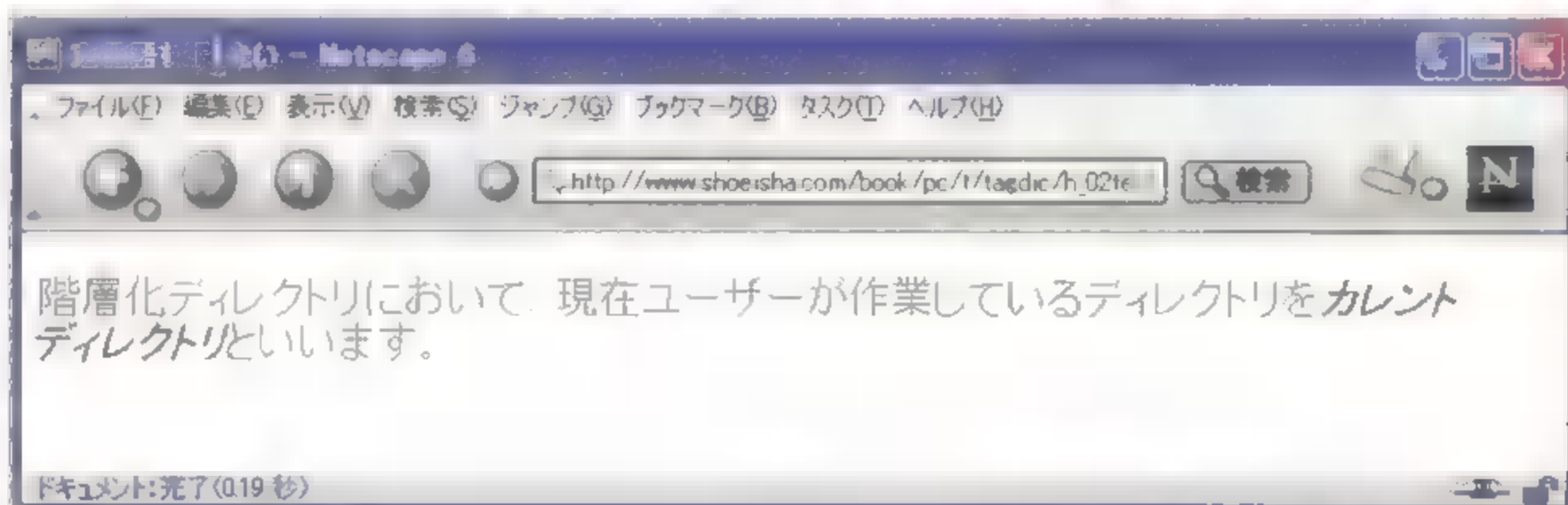
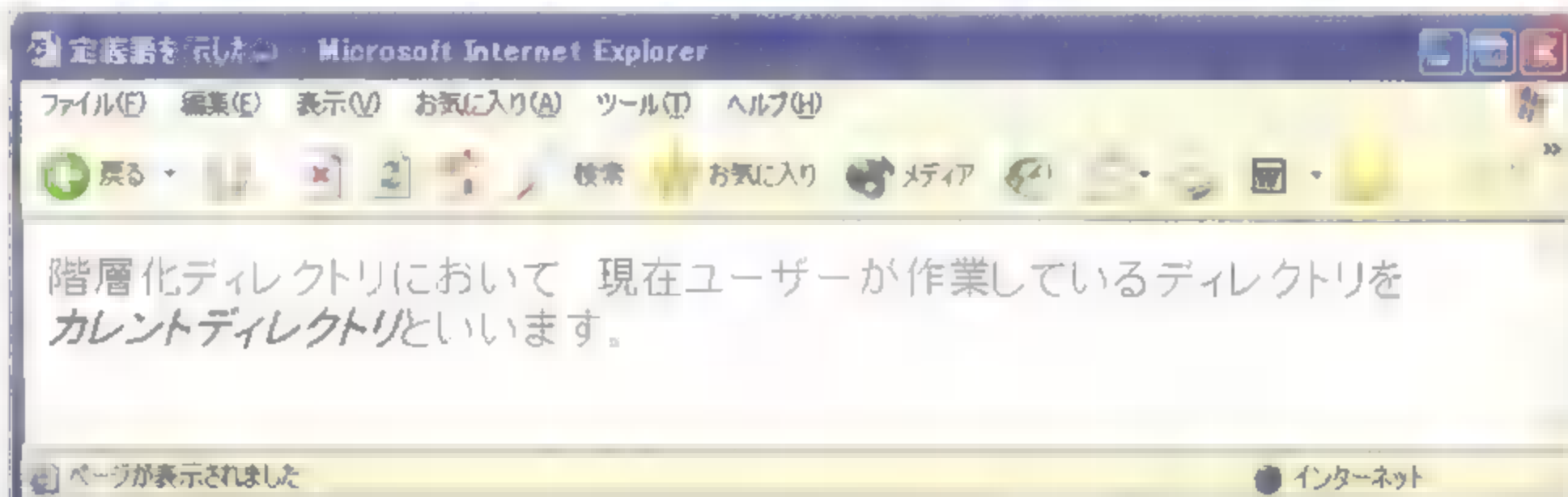
引用元などほかの情報源を参照する部分であることを示します。

<blockquote> タグや <q> タグが文章をそのまま引用する場合に使用するのに対し、この <cite> タグは人物名や書籍名、規格など、引用（参照）した情報の名前やタイトルを示す場合に使用します。一般的なブラウザではイタリック体で表示されます。

```
<p>
より詳しい情報は <cite>[ISO-8859-1]</cite> で見られます。
</p>
```

長い文章を引用したい ……………………… p.48
短い文章を引用したい ……………………… p.50

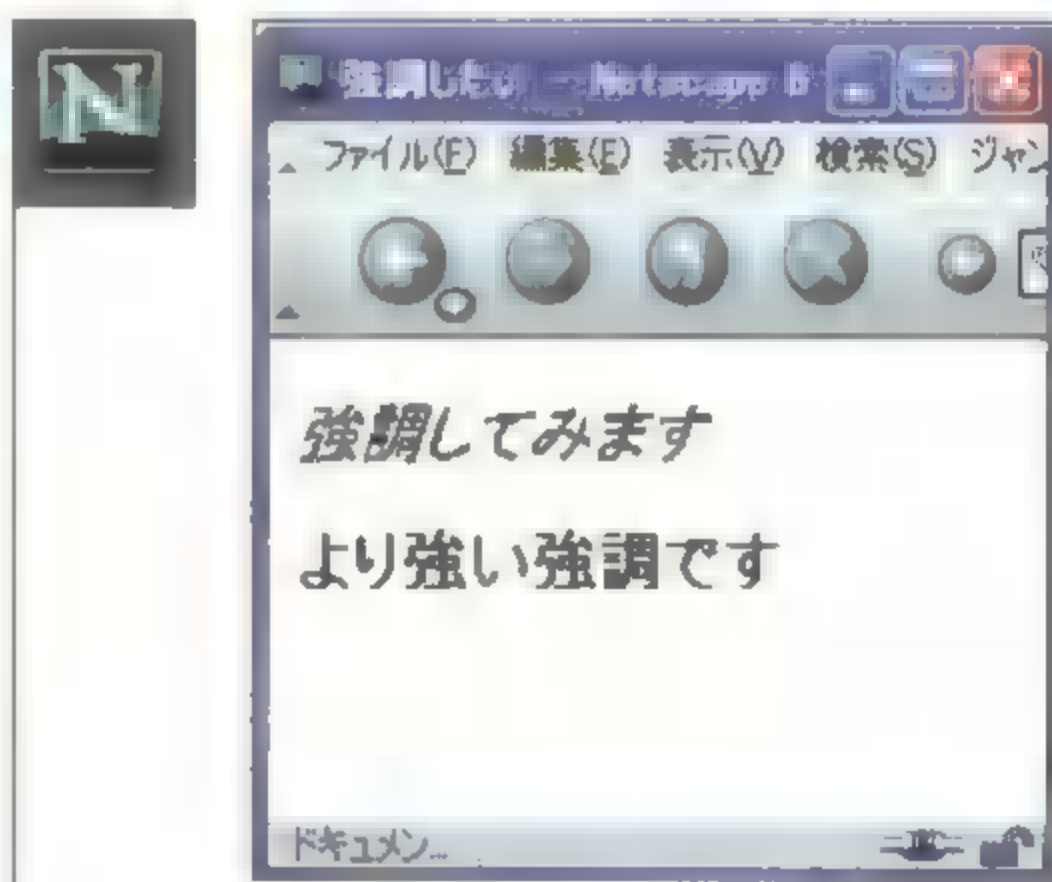
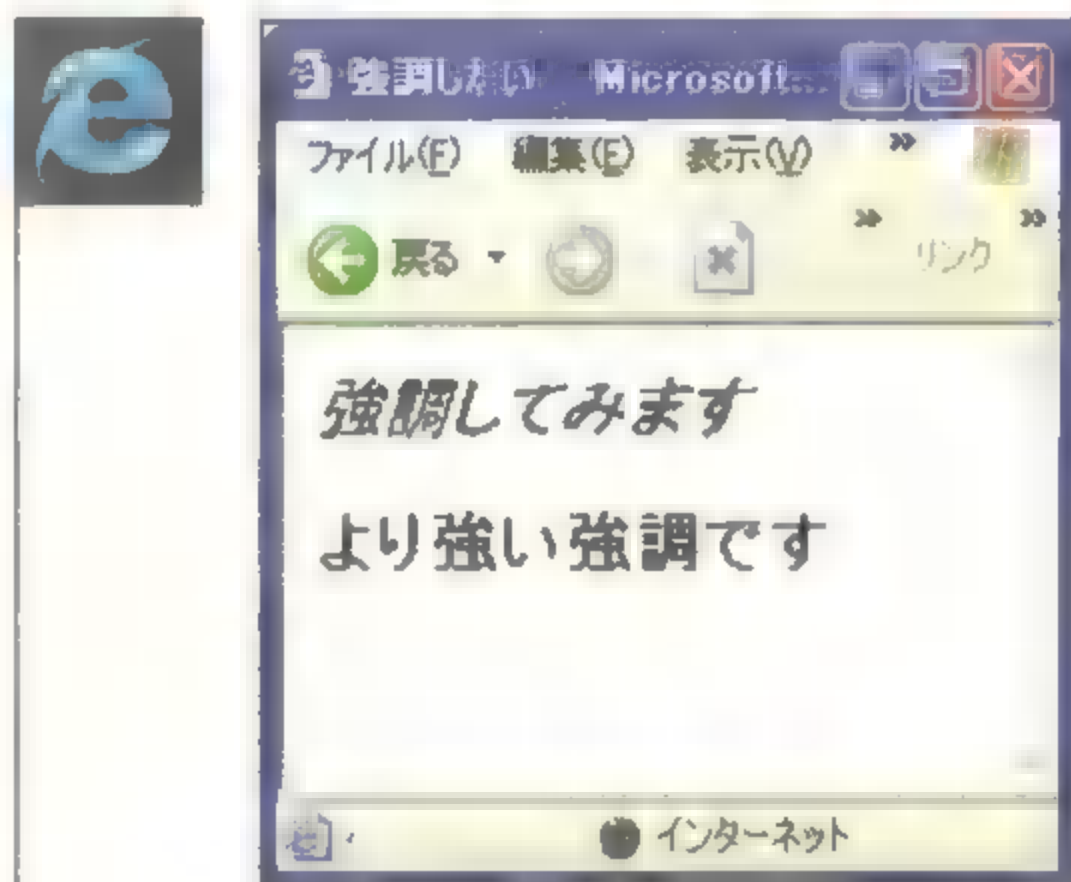
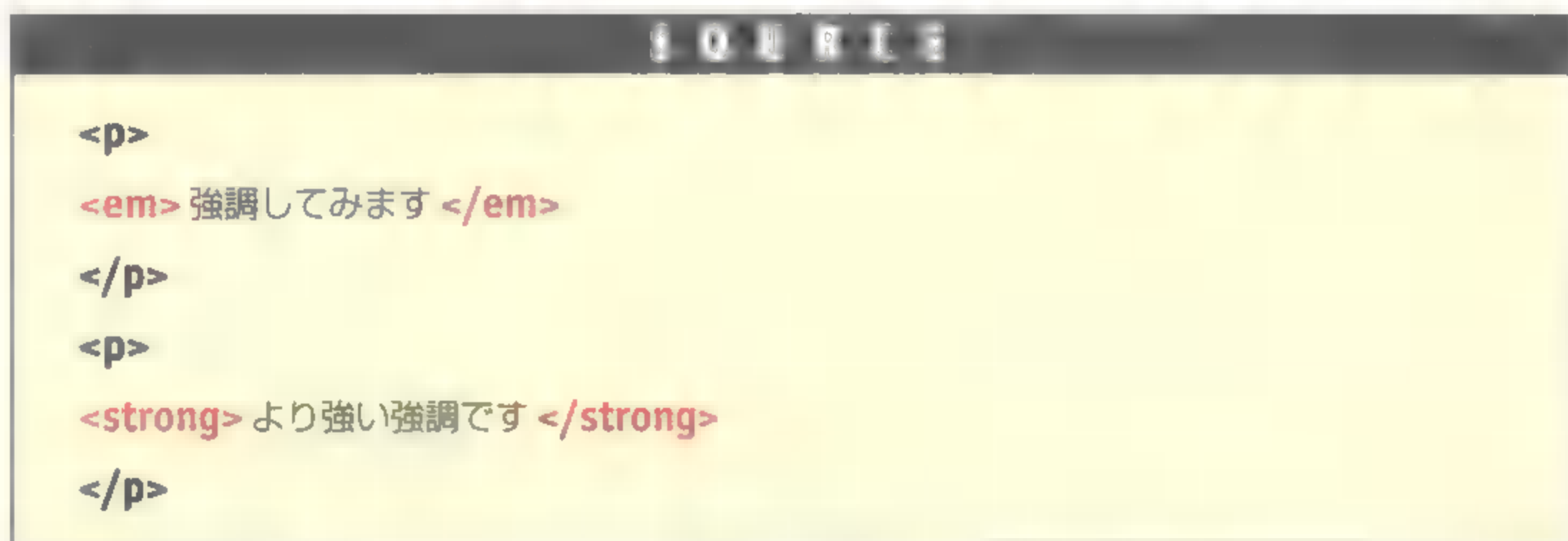
10 TEXT

強調したい

 ～

 ～ 　より強い

<em> タグは強調、<strong> タグはより強く強調されることを示します。一般的なブラウザでは <em> は斜体で、<strong> は太字で表示されます。

SOURCE

```
<p>
<em> 強調してみます </em>
</p>
<p>
<strong> より強い強調です </strong>
</p>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

参照　フォントスタイルを指定したいその１…………p.106

上付き文字・下付き文字を指定したい

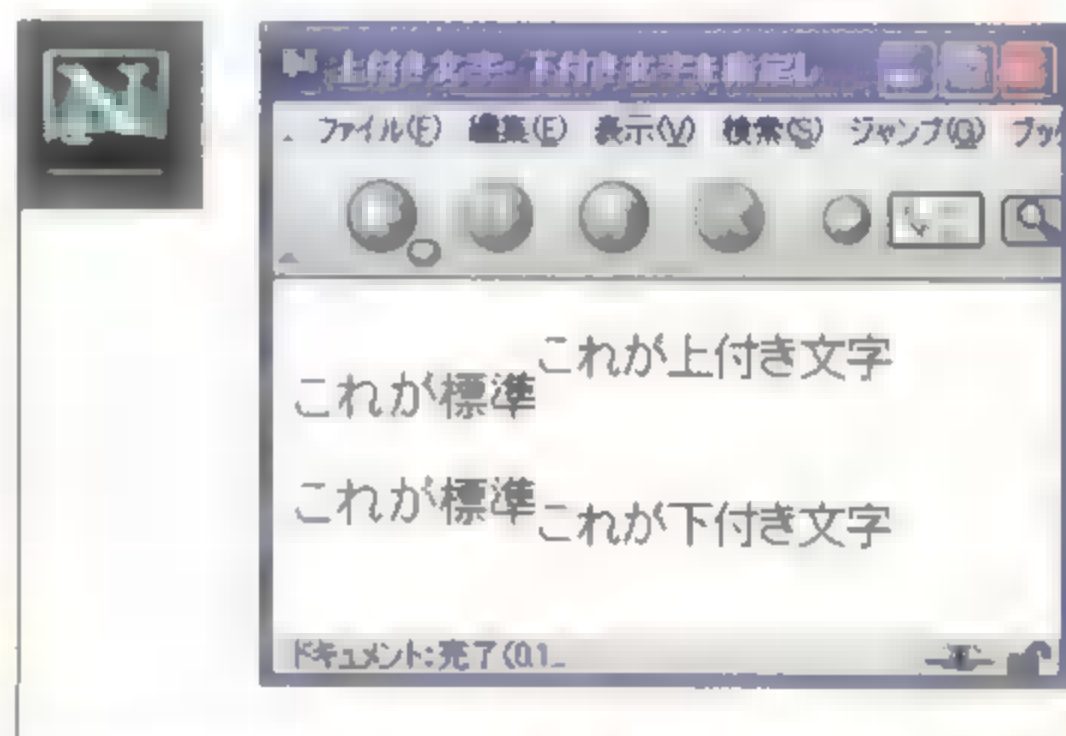
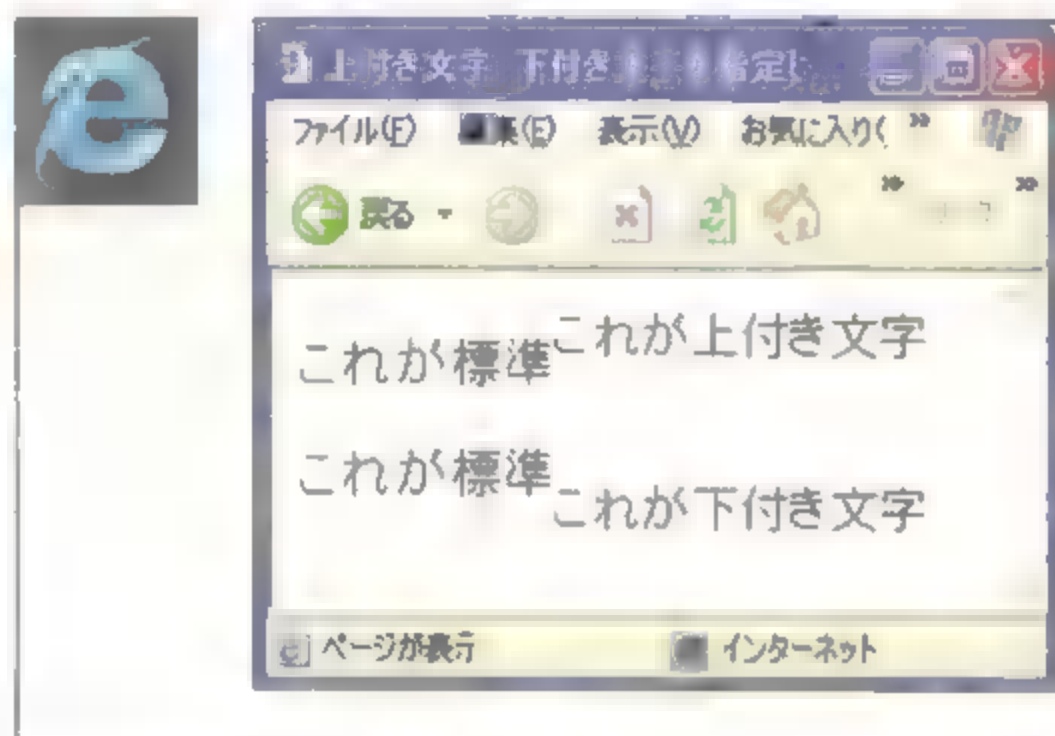
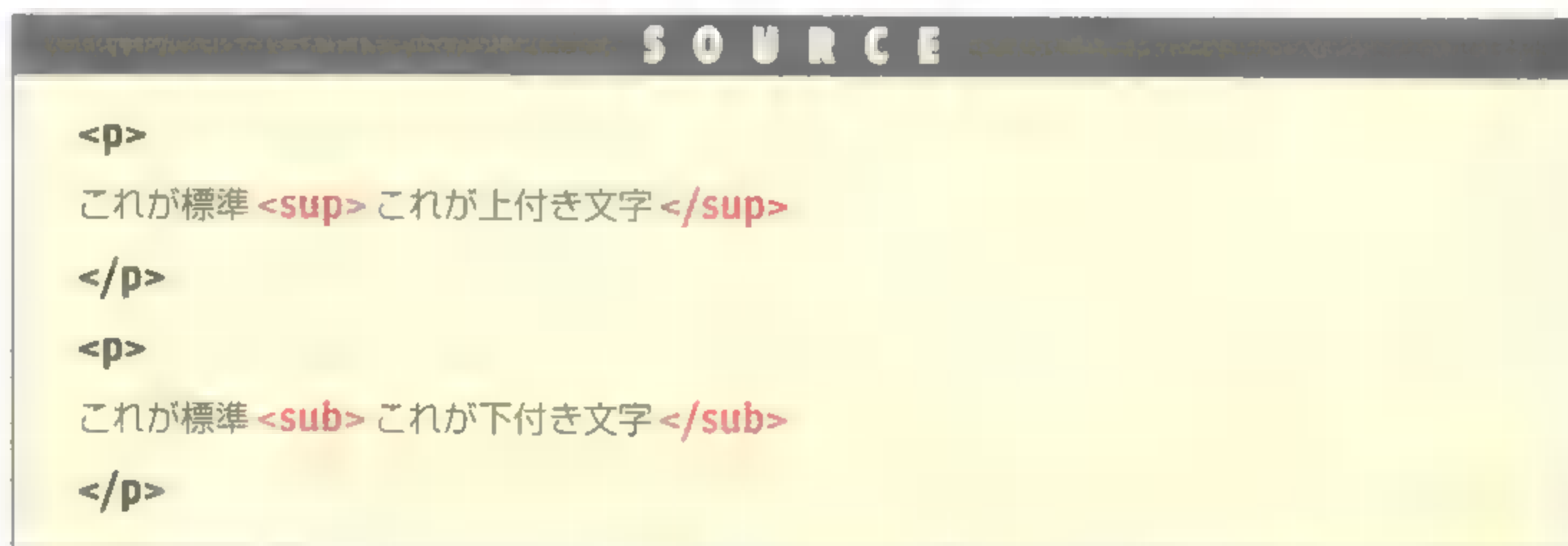
[〜]	上付き文字
_〜	下付き文字

<sup>タグは上付き文字を、<sub>タグは下付き文字をつくります。一般的に、どちらも小さめの文字で表示されます。

SOURCE

```
<p>
これが標準<sup>これが上付き文字</sup>
</p>
<p>
これが標準<sub>これが下付き文字</sub>
</p>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

12 TEXT

技術的な意味を示したい

ソースコードや出力結果の表示

<code> 〜 </code>

<kbd> 〜 </kbd>

<samp> 〜 </samp>

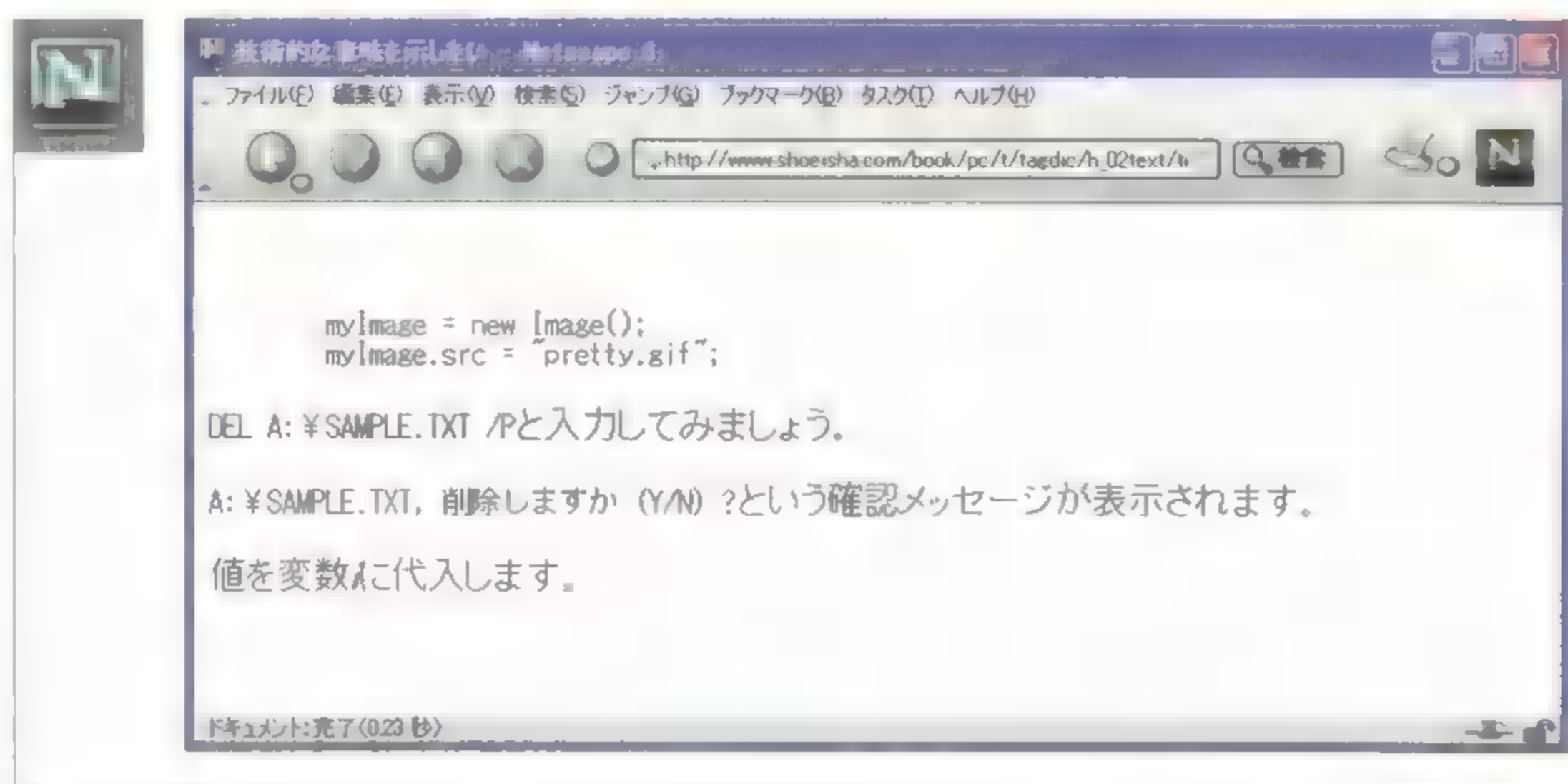
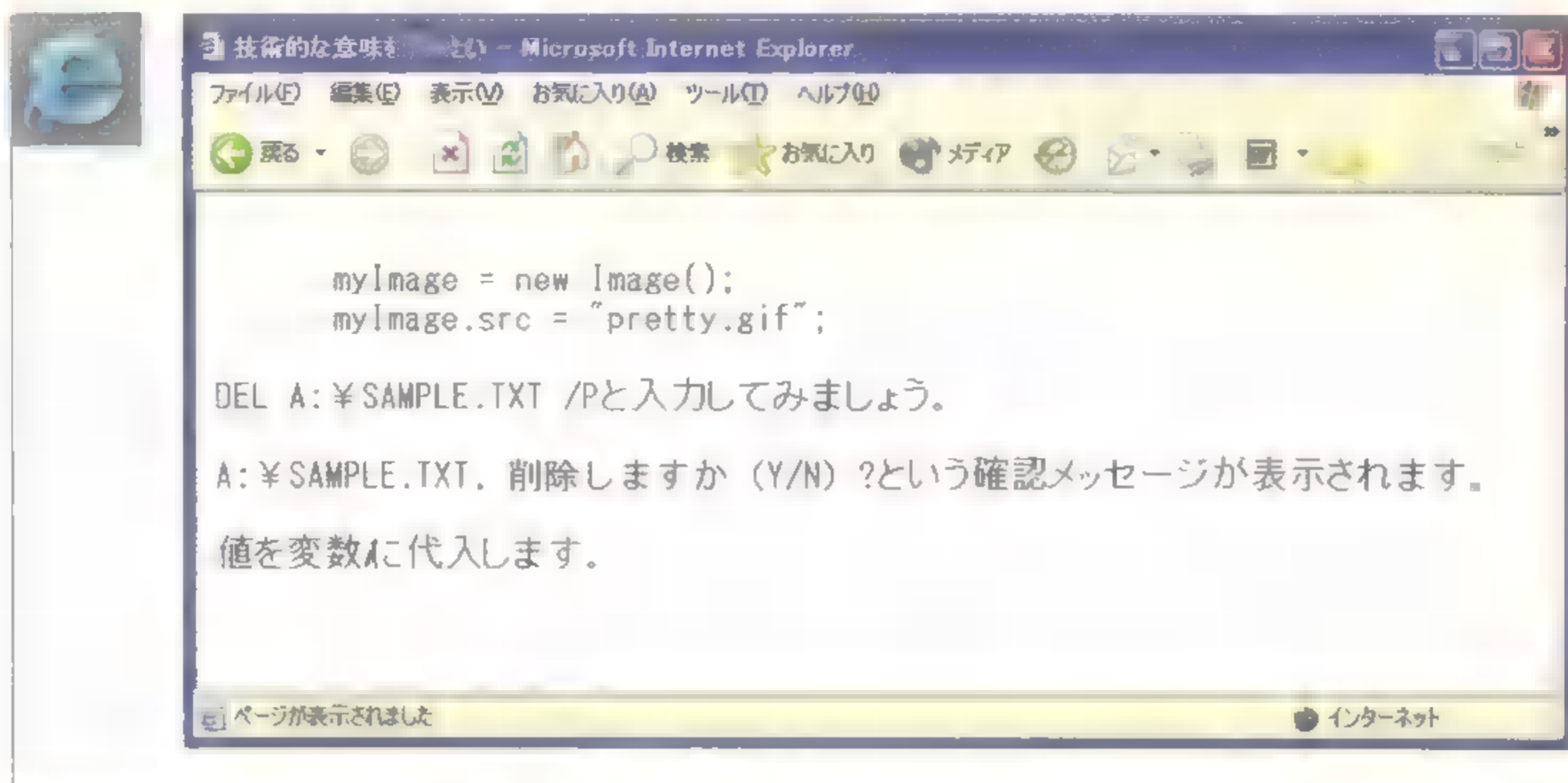
<var> 〜 </var>

コンピュータのソースコードや出力結果を表すときにこれらのタグで挟みます。

<code>	プログラムなどコンピュータのソースコードを表す
<kbd>	ユーザーによって入力される文字であることを表す
<samp>	プログラムやスクリプトの出力結果のサンプルであることを表す
<var>	変数や引数を表す

一般的なブラウザでは、<var>タグはイタリック体で、それ以外は等幅フォントで表示されます。

SOURCE

```
<p>
<pre><code>
        myImage = new Image();
        myImage.src = "pretty.gif";
</code></pre>
</p>
<p>
<kbd>DEL A:¥SAMPLE.TXT /P</kbd>と入力してみましょう。
</p>
<p>
<samp>A:¥SAMPLE.TXT, 削除しますか（Y/N）?</samp>という確認メッセージが表
示されます。
</p>
<p>
値を変数<var>i</var>に代入します。
</p>
```

	IE4	IE5		IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

入力したとおりに表示したい ……………………p.46
定義語を示したい ………………………………p.53

13 TEXT

略語や頭字語を表したい

<abbr title="★"> ～ </abbr>　略語

<acronym title="★"> ～ </acronym>　頭字語

★……省略しない状態のテキスト

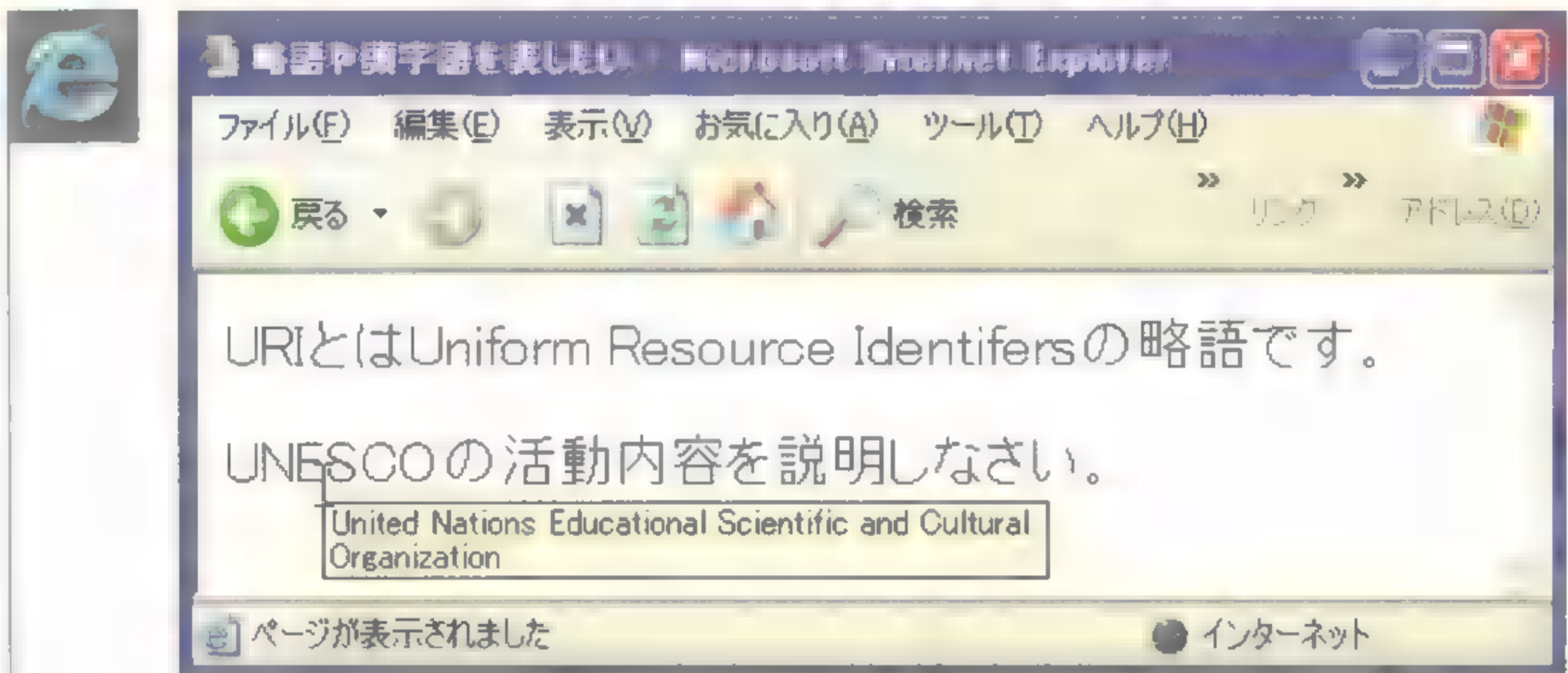
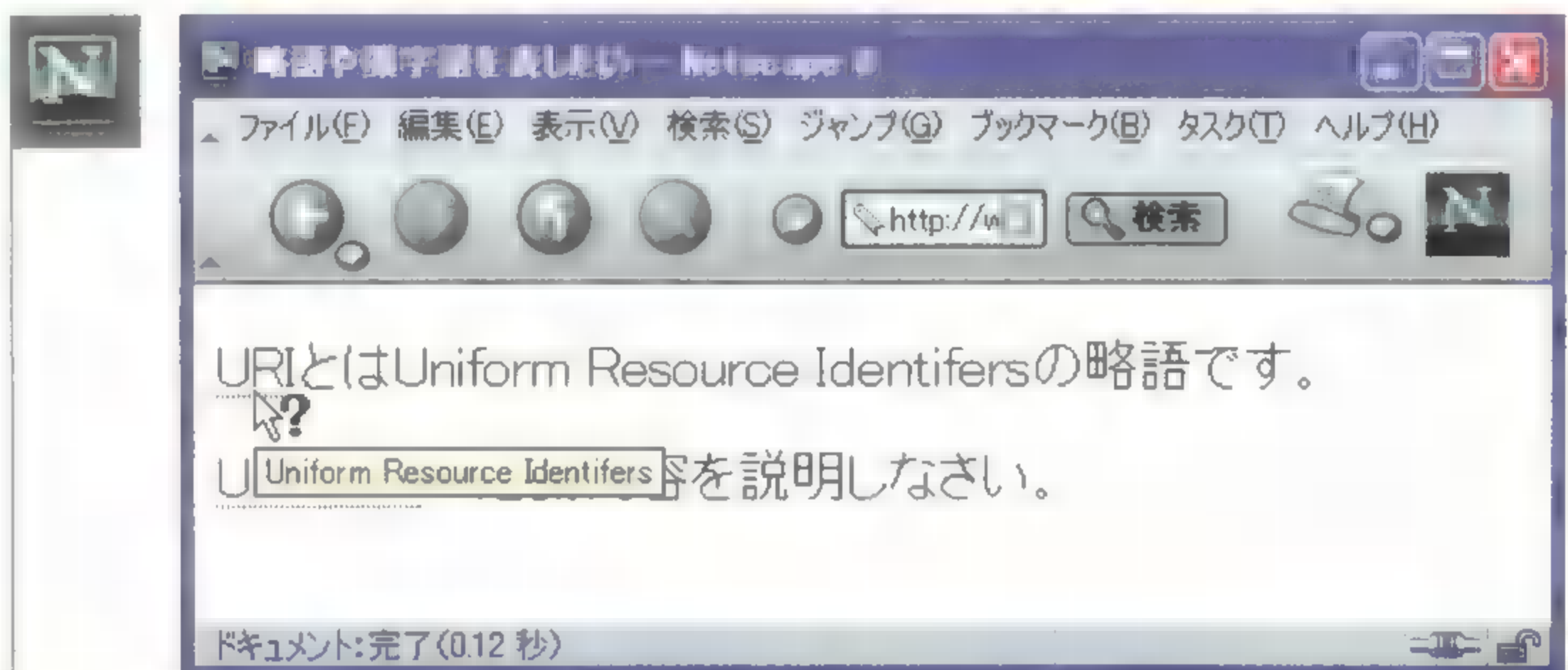
これらのタグは、その部分が略語であるということを示します。

1文字ずつ読み、1つの発音で表現できないような[illegible]（例：WWW、HTTP、URI…）の場合には<abbr>タグを使います。現在のところNetscape 6以上が対応しています。

一方<acronym>タグは、その略語を1つの単語として発音するもの（例：NATO、WAC、radar…）に対して使用します。

いずれも、省略しない状態のテキストはtitle属性（p.6参照）で指定します。

SOURCE

```
<p>
<abbr title="Uniform Resource Identifers">URI</abbr>とはUniform Resource
Identifersの略語です。
</p>
<p>
<acronym title="United Nations Educational Scientific and Cultural
Organization">UNESCO</acronym>の活動内容を説明しなさい。
</p>
```

▲Internet Explorerは<acronym>タグのみ対応しており、カーソルを近づけるとtitle属性の内容がツールチップに表示されます

▲Netscape 6.2では<abbr><acronym>の両方に対応しており、該当部分に下線が付きます。カーソルを近づけるとtitle属性の内容がツールチップに表示されます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	NN6.2
abbr	×	×	×	×	×	×	○
acronym	×	○	○	○	×	×	○

※Netscape 6.0ではタグ部分の下線は表示されません
※Macintosh版Internet Explorer 5は<abbr>タグにも対応しています

14 TEXT

追加された部分を示したい

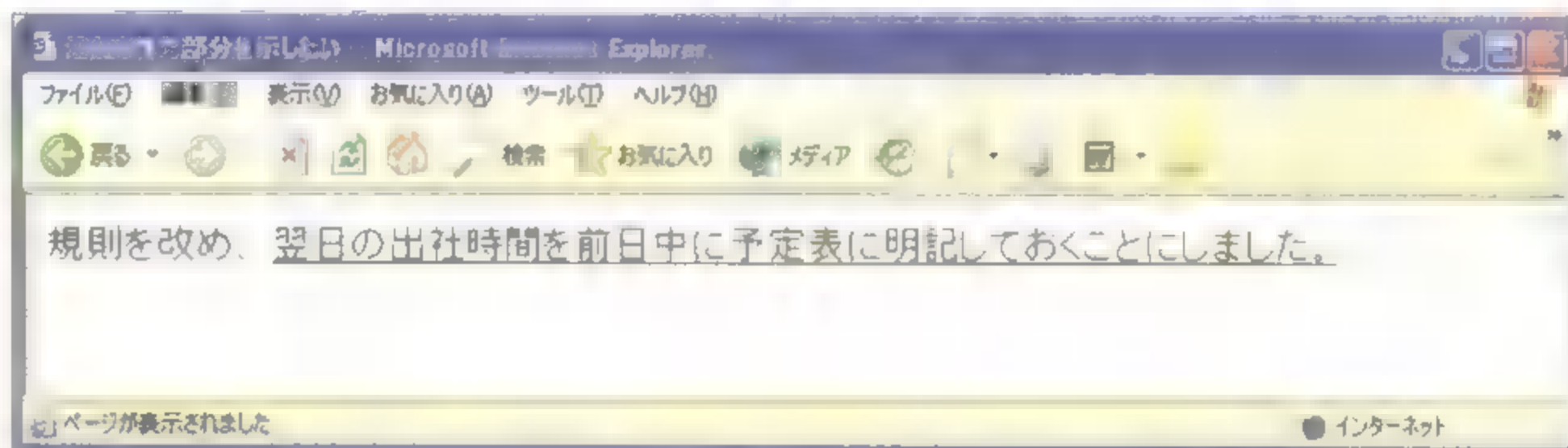
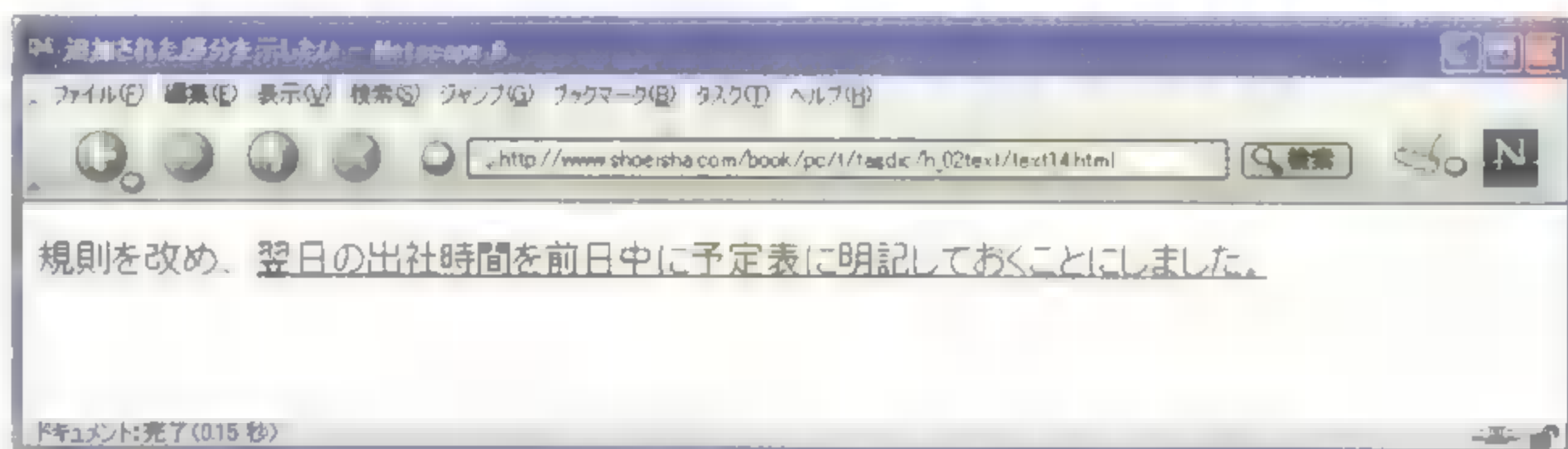
<ins> ~ </ins>

テキスト

HTML 文書の更新時に追加された部分は <ins> タグで示します。

実際の表示方式はブラウザによって異なりますが、追加部分であることがわかるように、本文とは異なる書体やスタイルなどで表示されるよう定義されています。法案や公式文書など変更履歴が必要な場合に、挿入部分の目印として利用できます。

SOURCE

```
<p>
規則を改め、
<ins>翌日の出社時間を前日中に予定表に明記しておくことにしました。</ins>
</p>
```

▲<ins> タグで挟まれた部分に下線が表示されます

▲<ins> タグで挟まれた部分に下線が表示されます

追加の理由と日時を示す属性

HTML4.01では<ins>タグと次項の<del>タグには、それぞれ追加・削除理由を記述した文書のURLを指定するcite属性と、追加・削除した日時を表すdatetime属性が定義されています。

datetime属性には、HTML4.01で定義された日付・時間の表記方式（ISO8601形式：下のコラム参照）にしたがって日時を記述してください。ただし、現在のところInternet ExplorerやNetscapeの表示では特に変化はありません。

```
<ins cite="★" datetime="☆">～</ins>
```

★は追加した理由が記述された文書のURL

☆は追加日時（ISO8601形式）

たとえば、以下のように使用します。

```
<p>
規則を改め、<ins cite="http://www.ank.co.jp/xxx/kisoku/ins_sample.html"
datetime="2002-02-10T21:48:30+09:00">翌日の出社時間を前日中に予定表に明記しておくことにしました。</ins>
</p>
```

日付・時間の表記方法

HTML4.01で定義されている日付や日時の表示方法はISO8601形式に準拠したもので、以下の形式で表すように指定されています。

```
YYYY-MM-DDThh:mm:ssTZD
        YYYY = 年（4桁）
        MM   = 月（2桁）
        DD   = 日（2桁）
        hh   = 時（2桁／00～23）
        mm   = 分（2桁／00～59）
        ss   = 秒（2桁／00～59）
        TZD  = タイムゾーン（Z, +hh:mm, -hh:mm）
               Z      = UTC（協定標準時）
               +hh:mm = UTCよりhh時間mm分進んでいる現地時間
               -hh:mm = UTCよりhh時間mm分遅れている現地時間
```

区切り文字「T」を含めて、すべての文字を指定通りに書く必要があります。また、am/pmでの表示は使えませんので注意してください。

たとえば、日本(+09:00)で2002年2月28日の21時45分26秒をあらわす場合は次のようになります。

2002-02-28T21:45:26+09:00

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	○

削除された部分を示したい ························p.62

15 TEXT

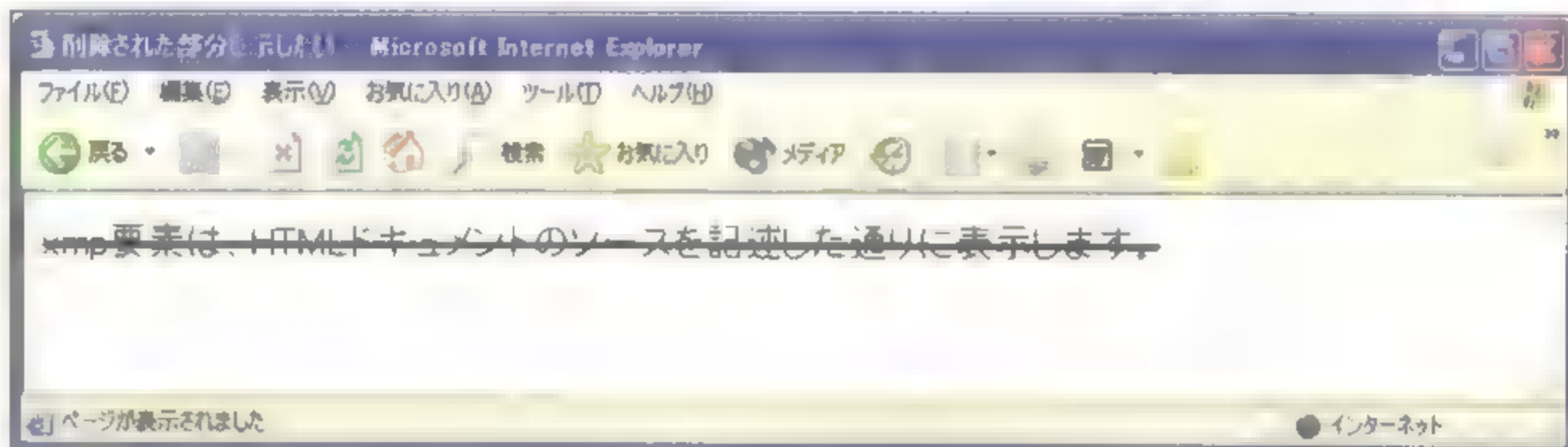
削除された部分を示したい

<del> ～ </del>

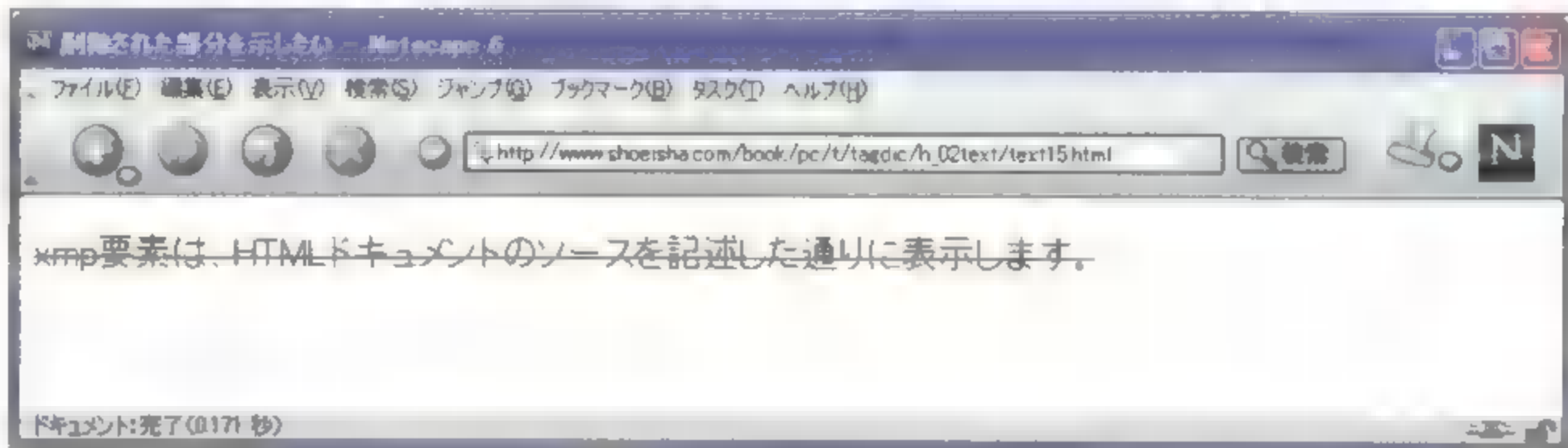
HTML文書の更新時に削除された部分は<del>タグで示します。

実際の表示方式はブラウザによって異なりますが、削除部分であることがわかるように、表示されないか、または取り消し線をつけるなどして表示されるよう定義されています。法案や公式文書など変更履歴が必要な場合に、削除部分の目印として利用できます。

SOURCE

```
<p>
<del>xmp 要素は、HTML ドキュメントのソースを記述した通りに表示します。</del>
</p>
```

▲<del>タグで挟まれた部分に打ち消し線が表示されます

▲<del>タグで挟まれた部分に打ち消し線が表示されます

削除の理由と日時を示す属性

HTML4.01から<del>タグと前項の<ins>タグには、それぞれ削除・追加理由を記述した文書のURLを指定するcite属性と、削除・追加した日時を表すdatetime属性が定義されています。

datetime属性には、HTML4.01で定義された日付・時間の表記方式（ISO8601形式：前項のコラム参照）にしたがって日時を記述してください。ただし、現在のところInternet ExplorerやNetscapeの表示では特に変化はありません。

```
<del cite="★" datetime="☆">～</del>
```

★は削除した理由が記述された文書のURL

☆は削除日時（ISO8601形式）

たとえば、以下のように使用します。

```
<p>
<del cite="http://www.w3.org/TR/html4/appendix/changes.html"
datetime="2002-02-30T21:48:30+09:00">xmp要素は、HTMLドキュメントのソースを記述した通りに表示します。</del>
</p>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	×	×	○

追加された部分を示したい ……………………p.60

テキストにルビをふりたい

<ruby> ～ </ruby>	ルビをふるテキスト
<rt>	ルビ

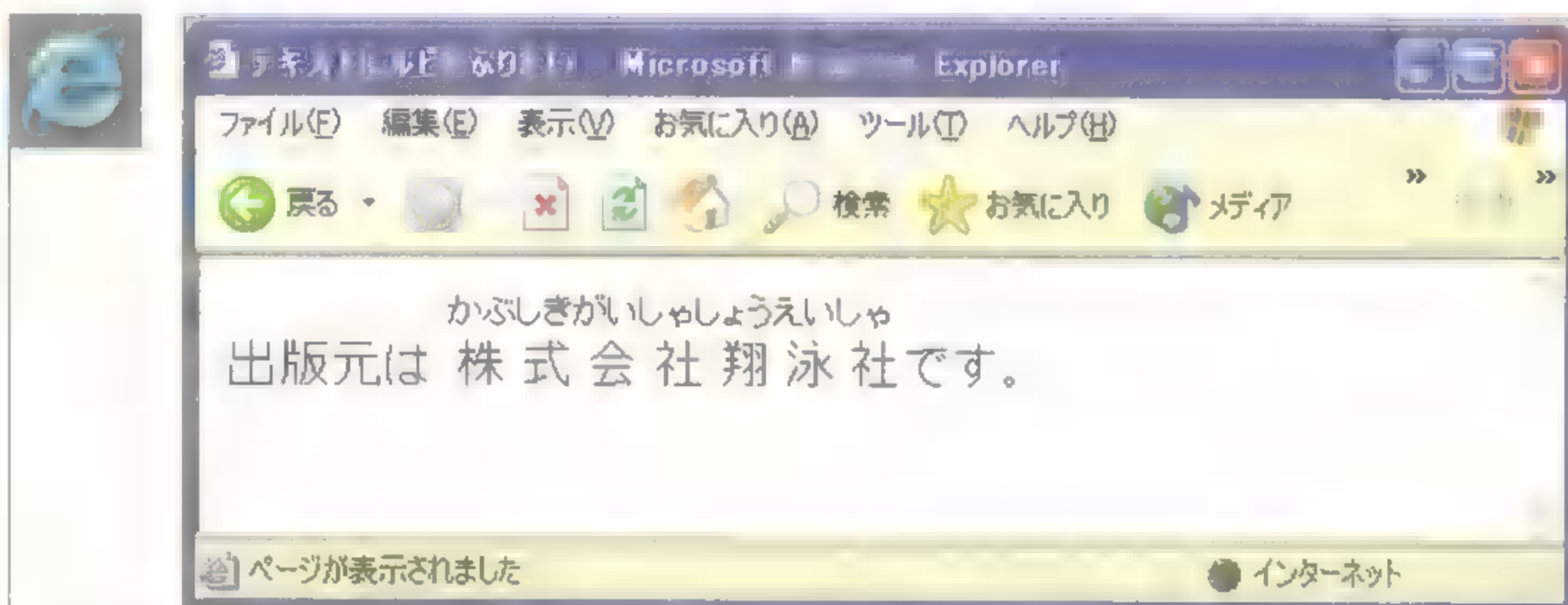
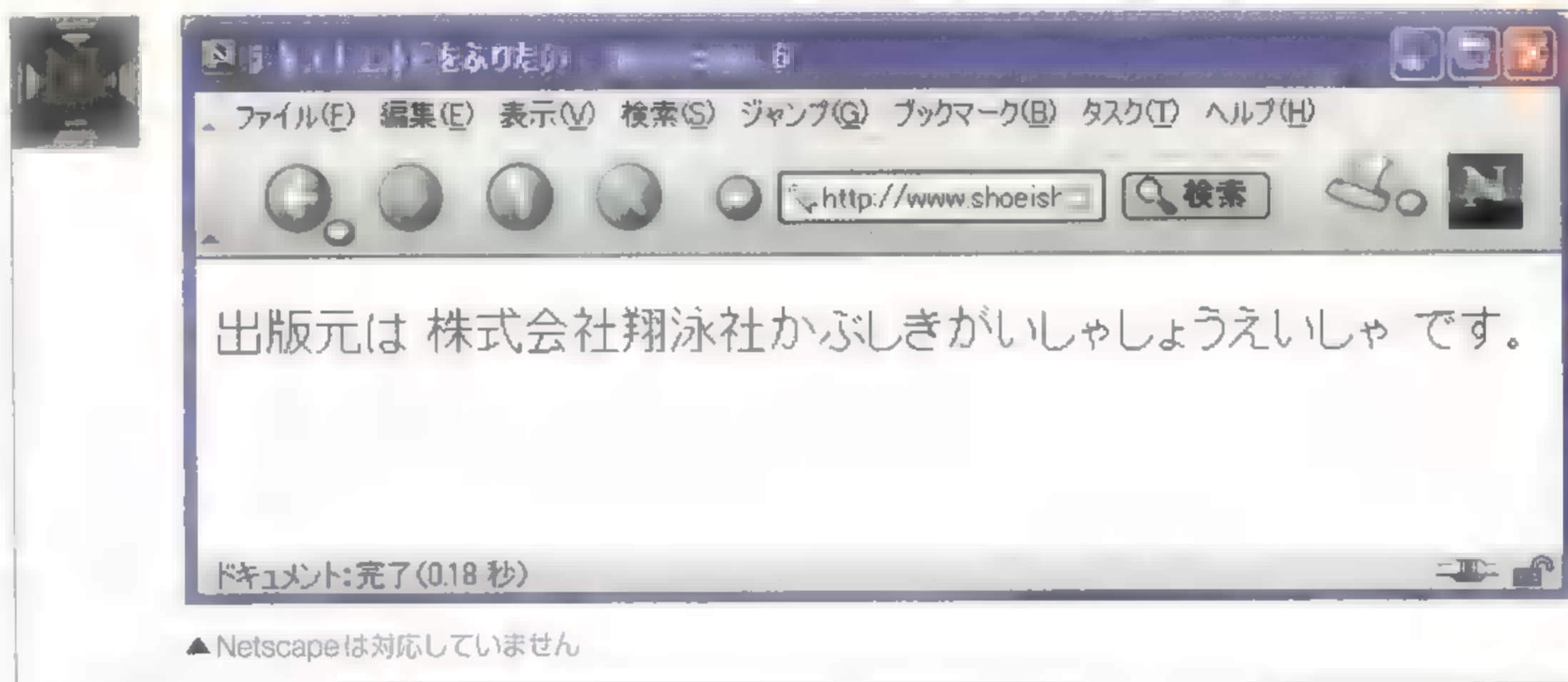
ルビつきのテキストを作成します。

<ruby> タグと </ruby> タグで挟んでルビをふる範囲を指定し、<rt> タグでルビとして表示されるテキストを指定します。

なお、ルビはInternet Explorer 5以降で利用できますが、これはW3Cが検討している段階でInternet Explorerが独自に採用したためです。W3CではHTMLではなくXHTML1.1から正式に仕様が定義されています（コラム参照）。

SOURCE

```
<p>
出版元は
<ruby>
株式会社翔泳社 <rt> かぶしきがいしゃしょうえいしゃ
</ruby>
です。
</p>
```

▲Netscapeは対応していません

W3Cによるルビの仕様

ルビをふりたい場合，XHTML1.1 から正式に利用できるようになった仕様にしたがって記述すると次のようになります。

```
<p>
出版元は
<ruby>
<rb>株式会社翔泳社</rb>
<rp>（</rp><rt>かぶしきがいしゃしょうえいしゃ</rt><rp>）</rp>
</ruby>
です。
</p>
```

<ruby>でルビをふる範囲を指定し、<rb>でルビをふるテキストを、<rt>でルビテキストを指定します。<rp>は<ruby>に対応していないブラウザに対し、ルビ用として設定したテキストと周りのテキストを区別するよう括弧などを指定する場合に使用します。

	IE4	[illegible]	[illegible]	IE6	NN4	[illegible]	N6[illegible]
	×	○	○	○	×	×	×

17 TEXT HTML 4.01 規格外

テキスト

テキストを点滅させたい

<blink> ～ </blink>

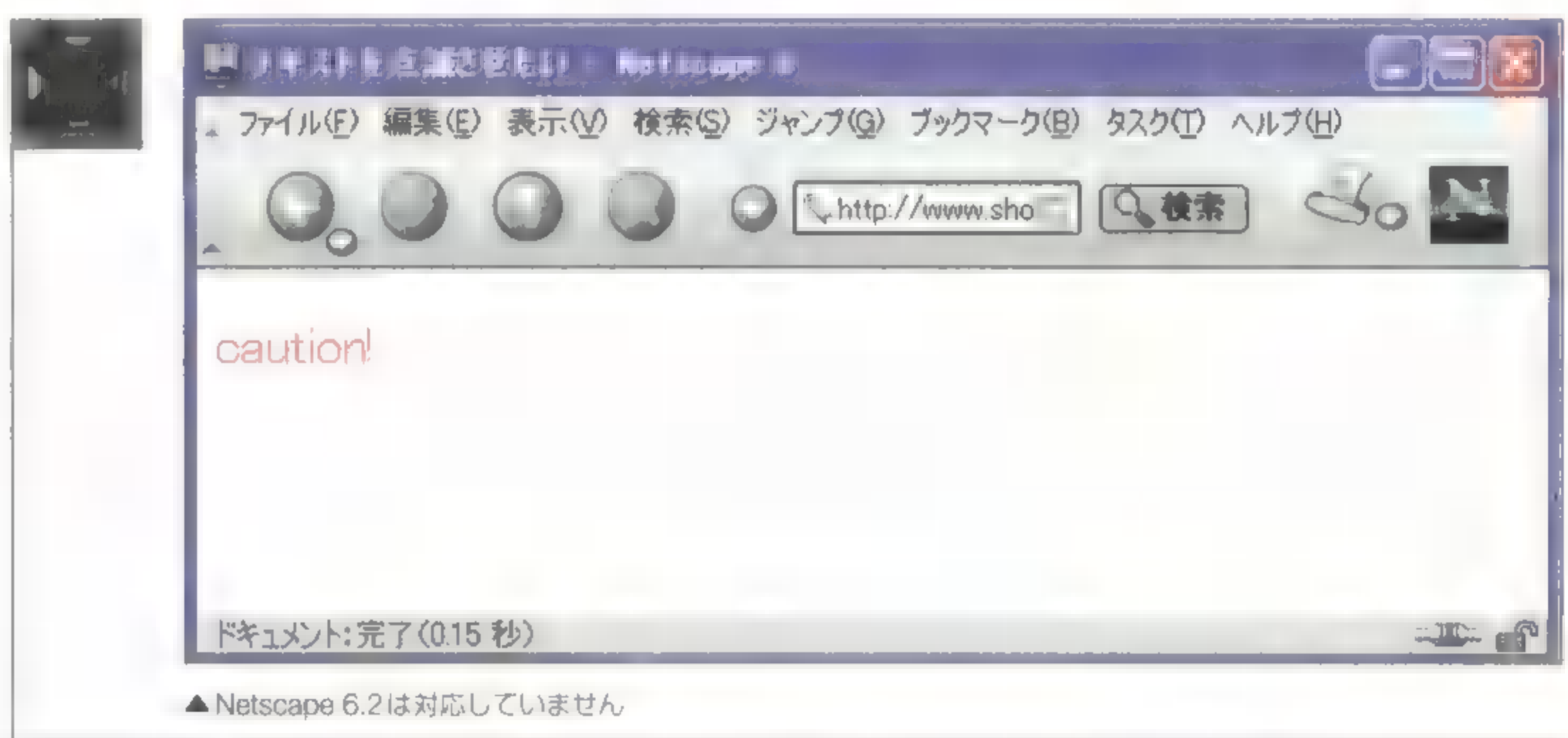
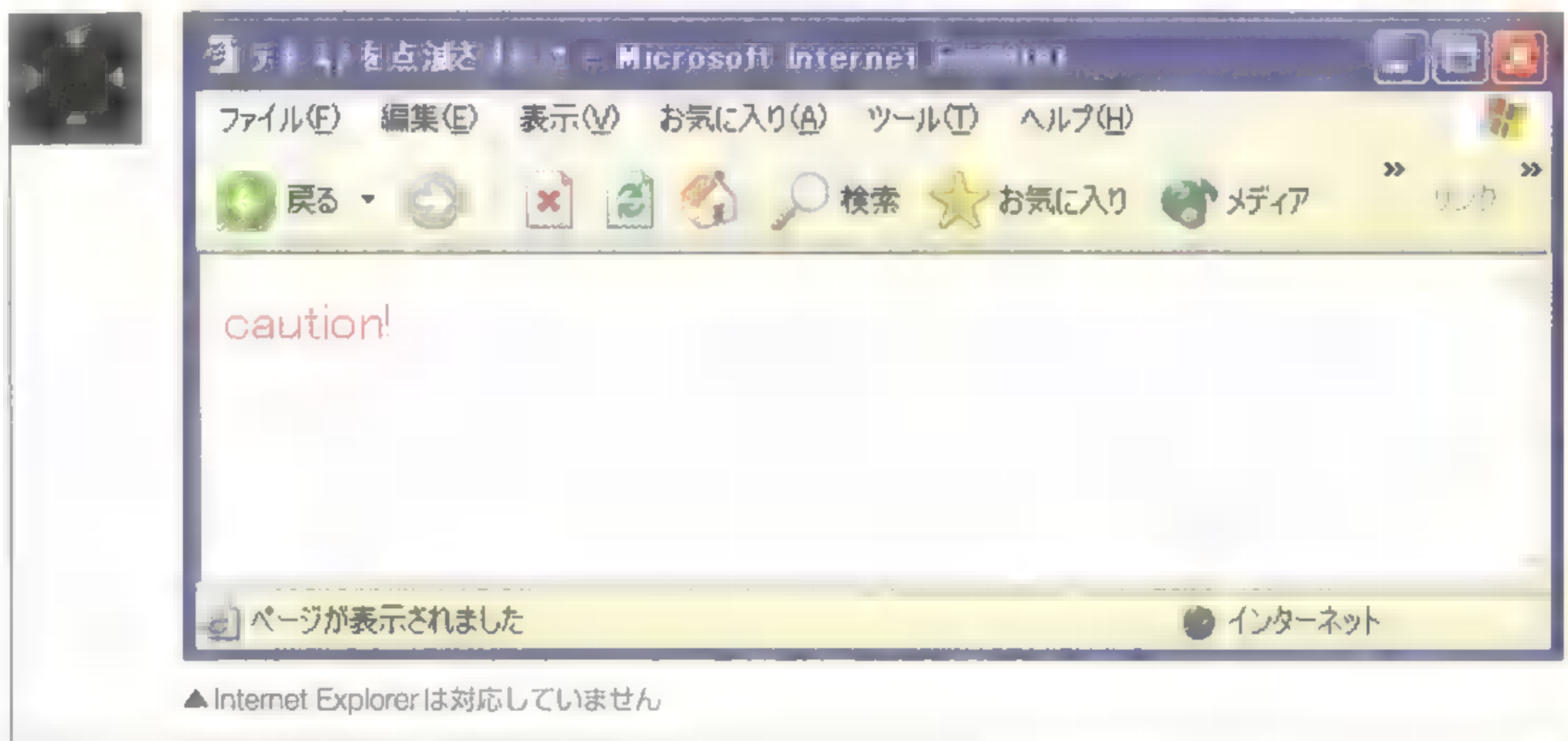
Netscape Navigatorが独自に拡張し、Netscape Navigatorでのみ有効だった機能のひとつにテキストの点滅表示を指定する<blink>タグがありました。しかしNetscape 6.2からは対応しなくなり、Internet ExplorerとNetscape 6.2ではこのタグに挟まれた内容は単なるテキストとして表示されるようになっています。

SOURCE

```
<p>
<font color="#ff0000">
<blink>caution!!</blink>
</font>
</p>
```

▲Internet Explorerは対応していません

▲Netscape 6.2は対応していません

▲Netscape 6.0までは対応しており、点滅表示が行われます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	×	×	×	×	○	○	×

※Netscape 6.0は対応しています

18 TEXT

テキストの表記方向を指定したい

<bdo dir="★"> ～ </bdo>

★……ltr（左から右）
　　　rtl（右から左）

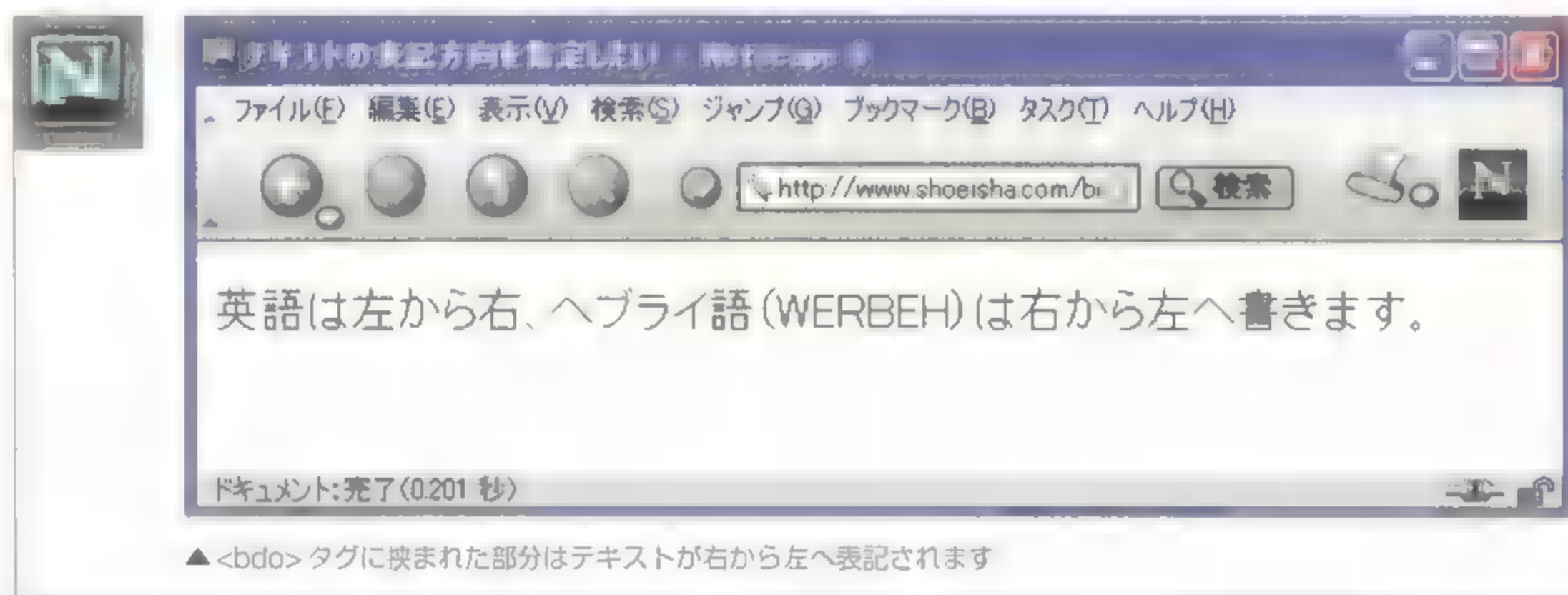
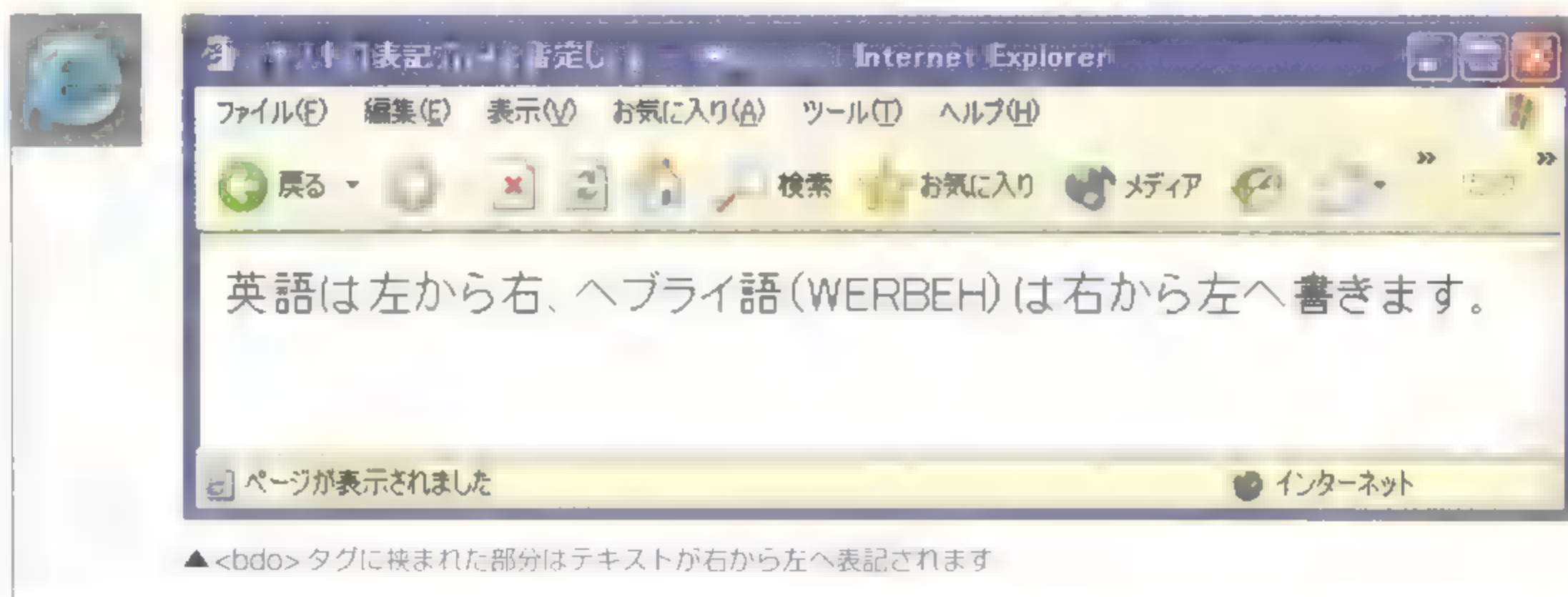
テキストの表記方向を指定します。

左から右へ表記する言語の文書中に、右から左へ表記する言語を使いたい場合など、前後のテキストとは異なる表記方向を指定するときに使用します。dir属性についてはp.6も参照してください。

SOURCE

```
<p>
英語は左から右、ヘブライ語（<bdo dir="rtl">HEBREW</bdo>）は右から左へ書きます。
</p>
```

▲<bdo>タグに挟まれた部分はテキストが右から左へ表記されます

▲<bdo>タグに挟まれた部分はテキストが右から左へ表記されます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
	×	○	○	○	×	×	○

※Netscape 6.0は対応していません
※Macintosh版Internet Explorer 5、Netscape 6.2は対応していません

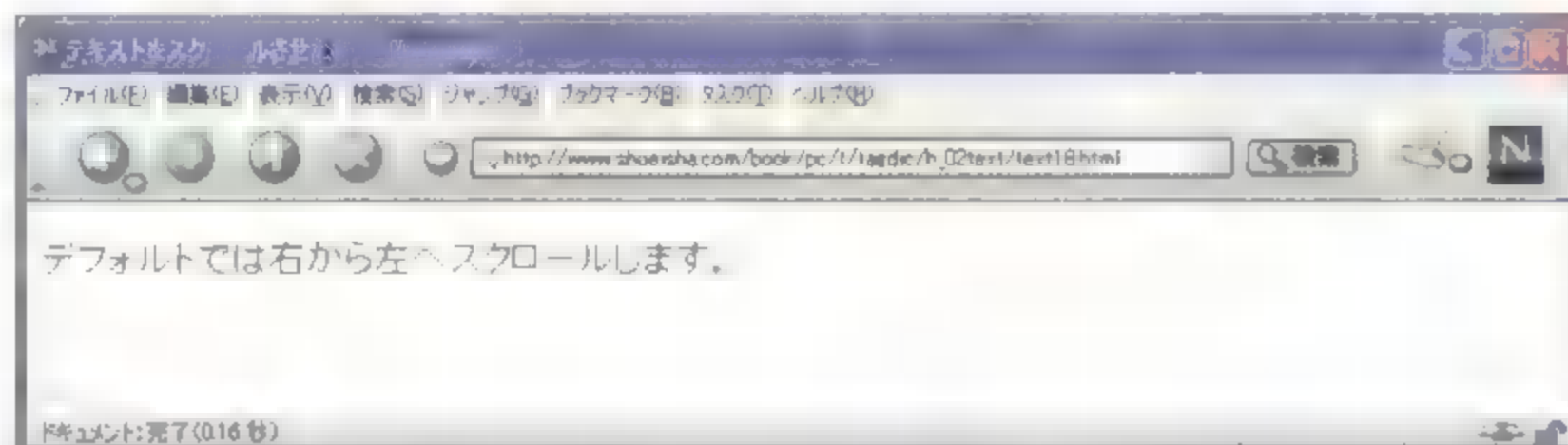
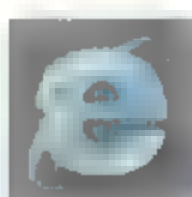
汎用的な属性……………………………………p.6

テキストをスクロールさせたい

テキストのマーキー

<marquee> ～ </marquee>

このタグに挟まれたテキストをスクロールさせます。Internet Explorerでのみ有効です。デフォルトでは、右から左へテキストがスクロールする動作を繰り返します。Netscape Navigator 4.7以降ではそのままテキストとして表示され、何も起こりません。

```
<p>
<marquee>デフォルトでは右から左へスクロールします。</marquee>
</p>
```

▲Netscapeは対応していないので通常のテキストとして表示されます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	×	×	×

※Netscape Navigator 4.0以前では<marquee>タグで挟まれた部分はブラウザに表示されません

テキストのスクロールを細かく設定したい ………p.71

テキストのスクロールを細かく設定したい

マーキーの属性

<marquee ★ > ～ </marquee>

★ ••••••位置、動作、回数や時間、色などに関する属性

<marquee> タグに、次の属性を書き加えると、スクロールの仕方をさまざまに変化させることができます。

サイズに関する属性

width="ピクセル"、または"%"（マーキーの幅）

height="ピクセル"、または"%"（マーキーの高さ）

hspace="ピクセル"（マーキーの左右の余白）

vspace="ピクセル"（マーキーの上下の余白）

width、height 属性でスクロールする範囲の幅と高さを設定します。ピクセル数なら絶対的なサイズ、パーセントならブラウザウィンドウに対する相対的なサイズになります。

hspace、vspace 属性はスクロールする範囲の上下左右の余白を指定します。こちらはピクセル数のみ有効です。

動きに関する属性

behavior="scroll"、"alternate"、"slide"（マーキーの動きかた）

direction="left"、"right"、"up"、"down"（スクロールの方向）

behavior 属性でスクロールの仕方を指定します。デフォルトは scroll です。

scroll	テキストが片方から出てきてページを横切る動作を繰り返す
alternate	テキストがスクロールする範囲の片端にくると、逆方向にスクロール
slide	テキストがスクロールする範囲の片端にくると停止

direction 属性はテキストがスクロールする方向を決めます。デフォルトは右から左（left）の方向です。

回数と時間に関する属性

loop="回数"、"0"、"-1"（スクロールする回数）

scrolldelay="秒数"（再描画までの時間）

scrollamount="ピクセル"（再描画までの距離）

truespeed

loop属性でスクロールする回数を設定します。特に指定しない場合はデフォルトの設定で無限にスクロールを繰り返します。loop＝"0"、loop="-1"を指定しても同様に無限にスクロールを繰り返します。

scrolldelay属性は、再描画される時間間隔を設定する属性です。単位は1/1000秒で、デフォルトはscrolldelay="85"です。ここで設定する値が大きいと遅く、小さいと速くスクロールしているように見えます。ただし、この値が60より小さいときは、truespeed属性（後述）が指定されていなければ実際にその間隔でスクロールさせることができません。

scrollamount属性は再描画されるまでにどれだけ進むかを設定する属性です。ピクセル数で指定し、デフォルトはscrollamount="6"になっています。この値が大きいと速く、小さいと遅くスクロールしているように見えます。

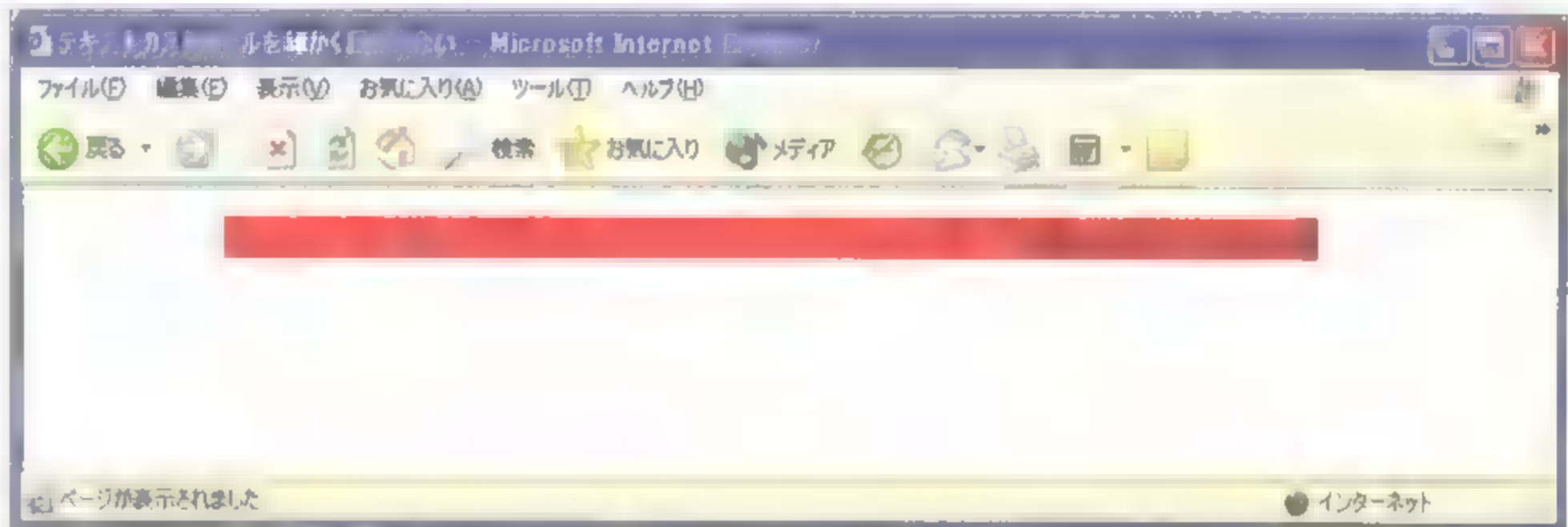
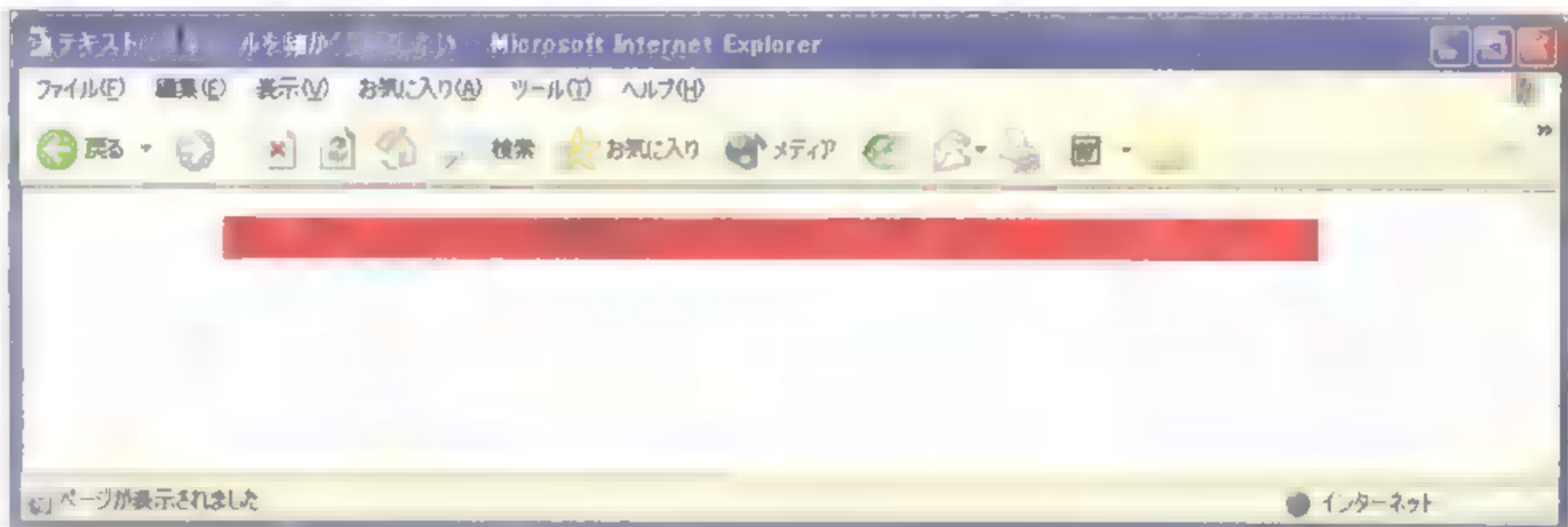
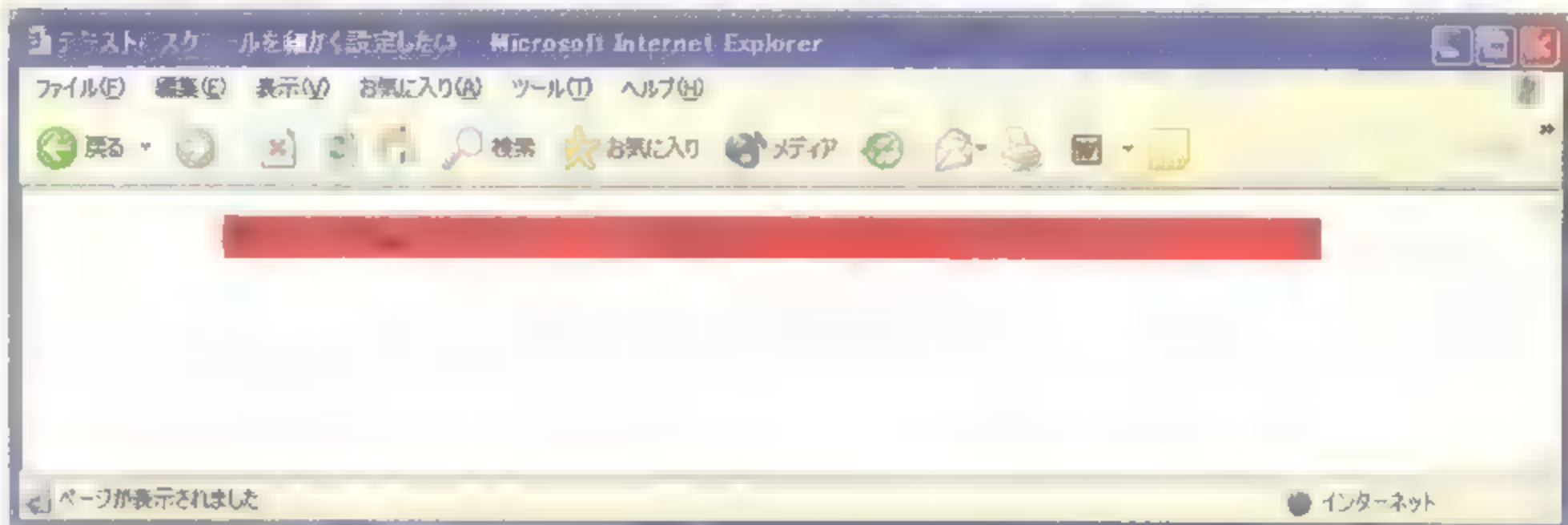
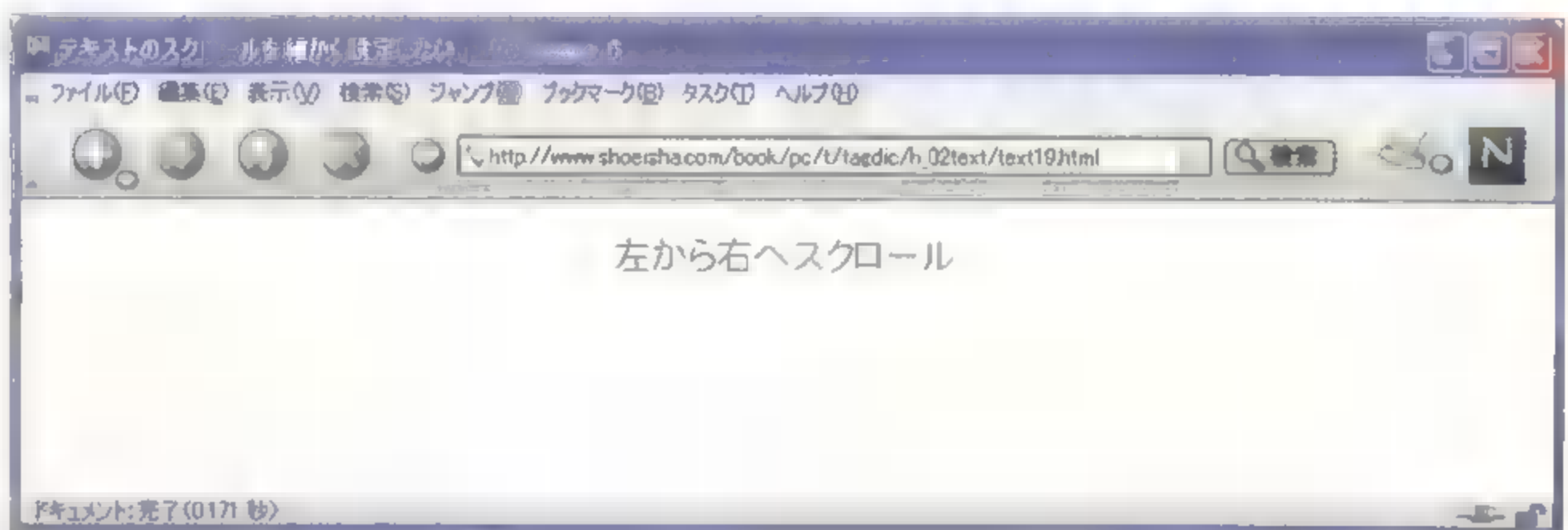
truespeed属性を指定すると、scrolldelay属性で60より小さな値を指定したときに、実際にその間隔でスクロールさせることができます。この属性を指定しないとscrolldelay属性の値が60より小さくても60として処理されます。

色に関する属性

bgcolor="#rrggbb"、"colorname"（マーキーの背景色）

スクロールする範囲の背景色を設定します。色指定値（#rrggbb）か、色名（colorname）で指定します。

SOURCE

```
<center>
<p>
<marquee width="75%" behavior="scroll" direction="right"
scrolldelay="100" scrollamount="20" loop="3" bgcolor="red">
左から右へスクロール
</marquee>
</p>
</center>
```

▲<marquee>タグの各種の属性にしたがってテキストがスクロールします

▲Netscapeは対応していません

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	×	×	×

テキストをスクロールさせたい ……………………p.70

PAGE DEPRECATED

背景色を指定したい

<body bgcolor="★"> ～ </body>

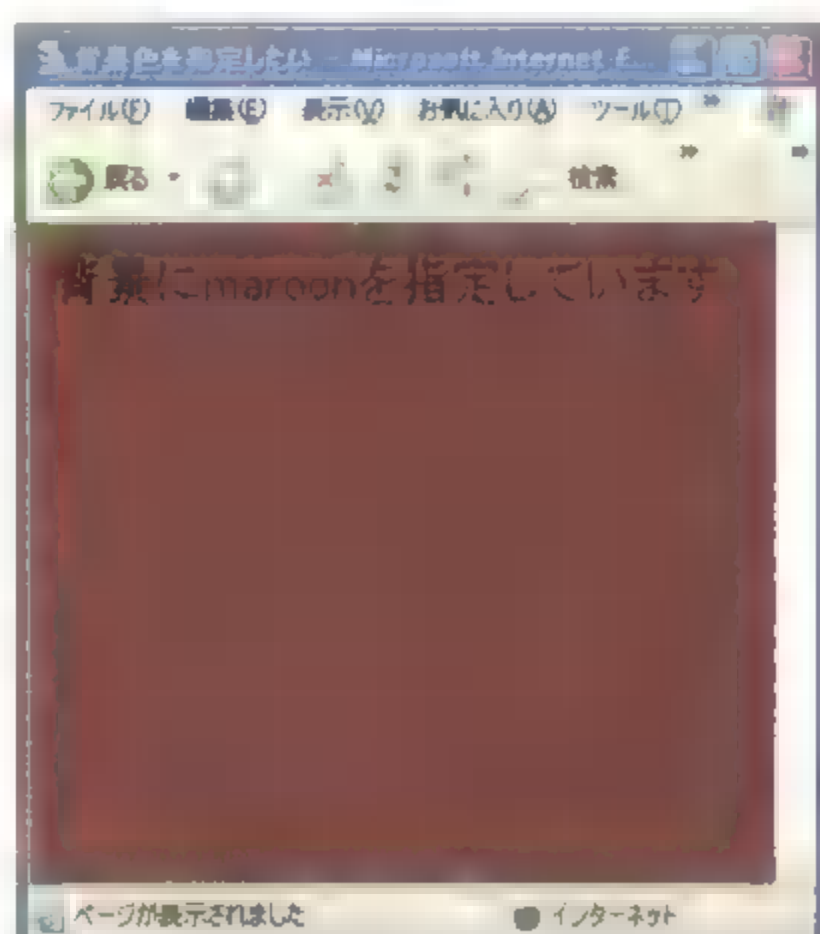
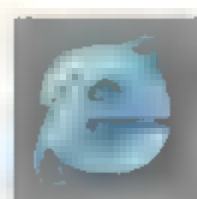
★••••••色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

<body> タグの bgcolor 属性でページの背景色を指定します。色の指定には、「#」のあとに rgb の値を 16 進数で記述するか、直接色名（colorname）を書き込みます。

色の指定がされていない場合には、ユーザーのブラウザの設定にしたがって背景色が表示されます。

SOURCE

```
<body bgcolor="maroon">
<p>
<font size="4">背景に maroon を指定しています。</font>
</p>
</body>
```

色の指定方法

HTML文書で色を指定するには、次の2つの方法があります。ただし、HTMLで色を指定する方法は非推奨（deprecated）とされ、代わりにスタイルシートを利用するよう推奨されています。

●色指定値（# rrggbb）――16進数で指定

「#」に続けて、赤（r）、緑（g）、青（b）の値を00～ffの16進数計6桁で表します。たとえば、黒を指定する場合には「#000000」となります。各色の指定値については付録p.340～343を参照してください。

●色名（colorname）――色の名前で指定

色名で直接指定します。大文字と小文字は区別されません。HTML4.01では以下の基本的な16色が定義されています。

bgcolor="#000000"とbgcolor="black"は同じ表示結果になります。

ブラウザによって独自に定義され、一般的に表示可能な色名もありますが（付録p.344参照）、環境によっては意図した色を表現できないこともあるので注意が必要です。

CSSによる背景色の指定

スタイルシートを利用して同様に背景色を指定する場合は次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body  {background-color:green}
</style>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

背景に画像を設定したい……p.76
テキストの色を指定したい……p.80

2 PAGE

ページ

背景に画像を設定したい

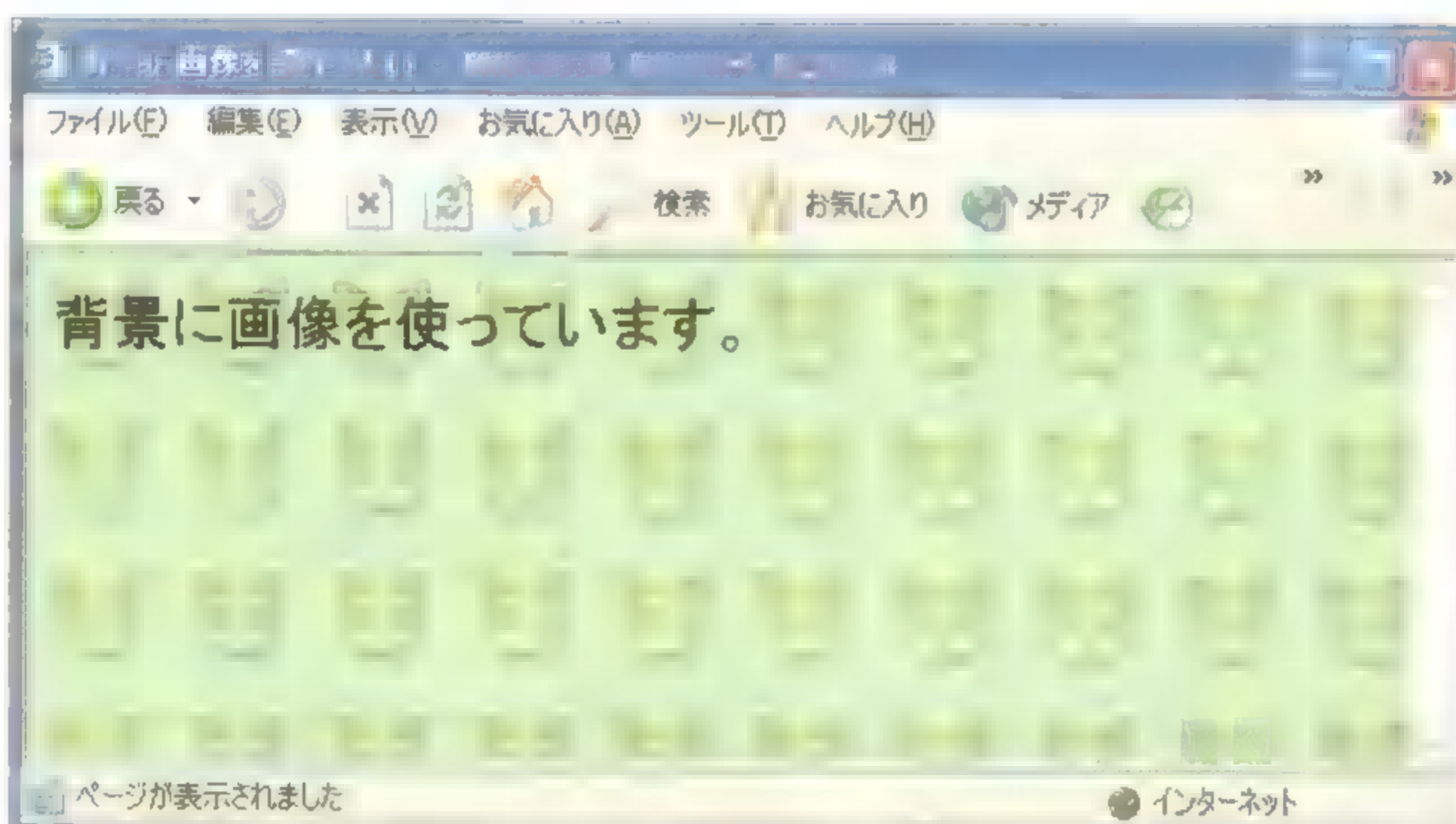
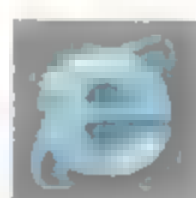
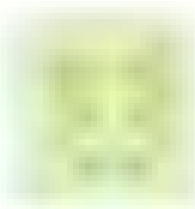
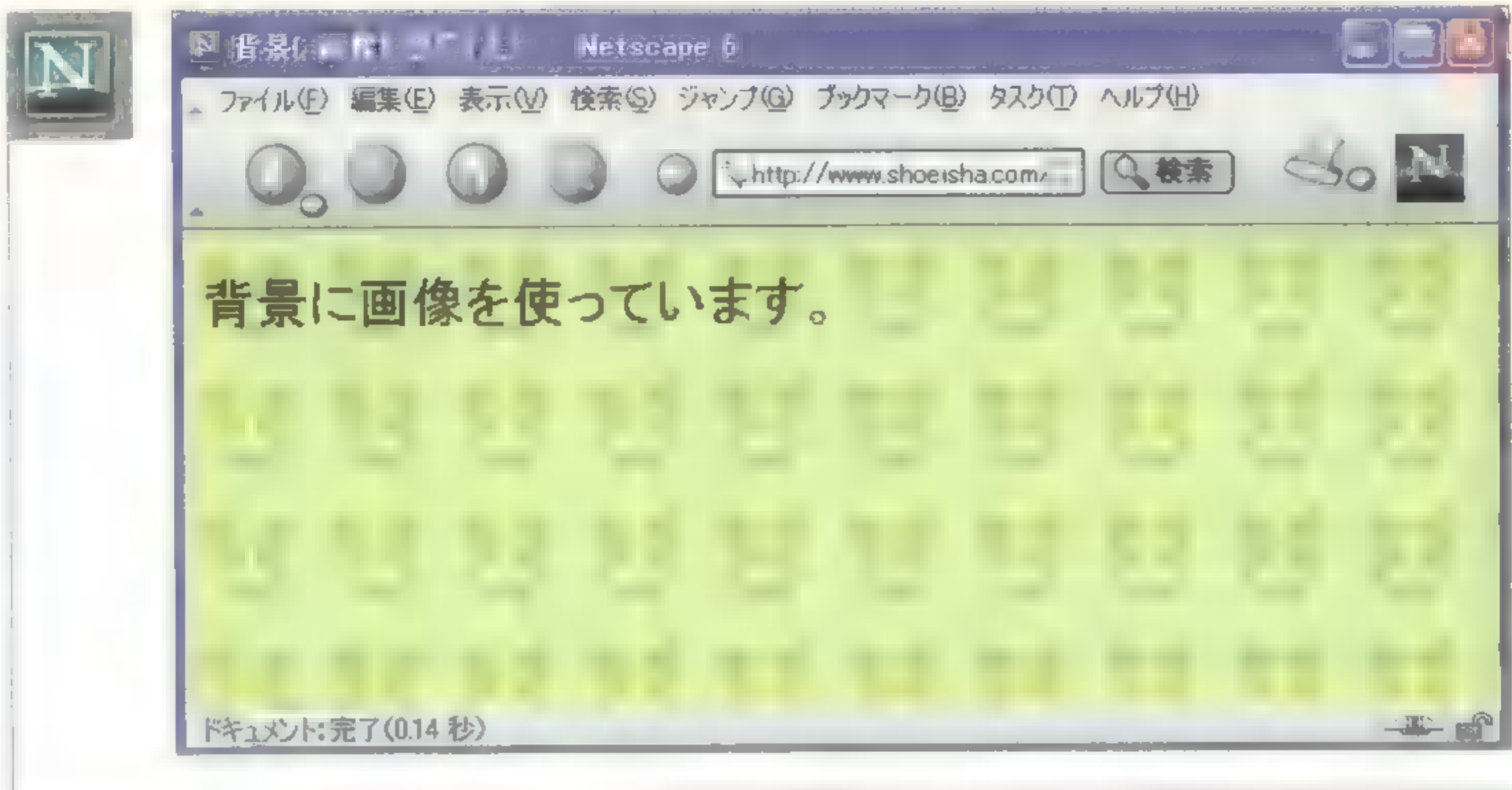
<body background="★"> ～ </body>

★ ••••••画像ファイル名（URL）

ページの背景に画像を使う場合は、<body>タグのbackground属性で使用する画像ファイルを指定します。読み込んだ画像は連続してタイル状に表示され、部分的に表示したり途中から設定を変更することはできません。

背景画像ですから、サイズの大きな重い画像ファイルはなるべく避けたほうがよいでしょう。

SOURCE

```
<body background="cat1.gif">
<p>
<font size="4">背景に画像を使っています。</font>
</p>
</body>
```

▲背景に指定した cat1.gif

テキストの読みやすい背景

背景に画像を使う場合、画像に合わせてテキストの色も変更することがあります（p.80 参照）。しかし背景画像の表示に時間がかかったりユーザーが画像を表示しないよう設定しているときなどに、指定した色によってはテキストが読めないこともあります。こうした状況も考えて、同時に bgcolor 属性でテキストが読みやすい背景色も設定しておいたほうがよいでしょう。

CSS による背景画像の指定

スタイルシートを利用して同様に背景画像を指定する場合は次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書「スタイルシート辞典 第3版」を参照してください。

```
<style type="text/css">
body  {background-image:url("bg1.gif")}
</style>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	NN6
	○	○	○	○	○	○	○

参照
背景色を指定したい ……………………… p.74
テキストの色を指定したい ………………… p.80
背景画像を固定したい ……………………… p.78

背景画像を固定したい

<body background="★" bgproperties="fixed"> ～ </body>

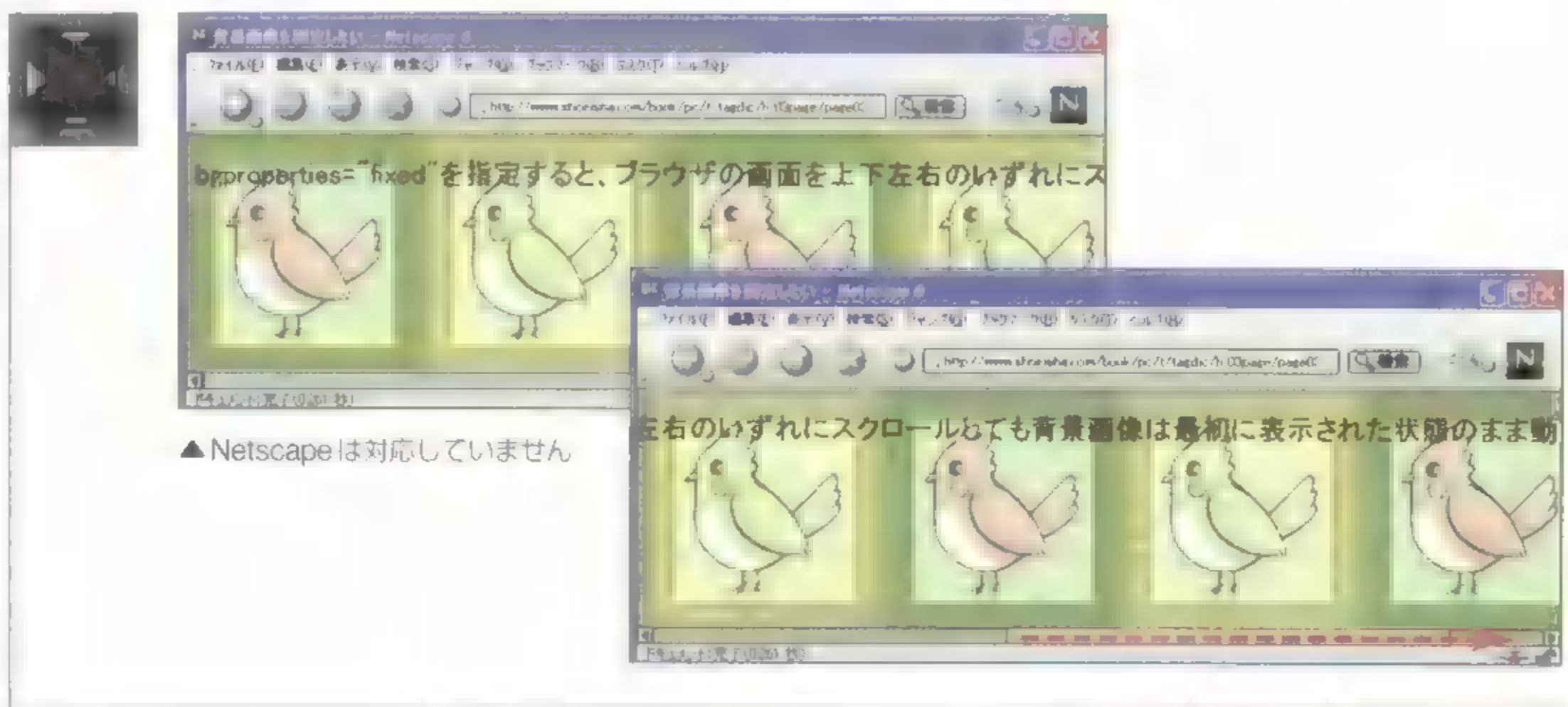
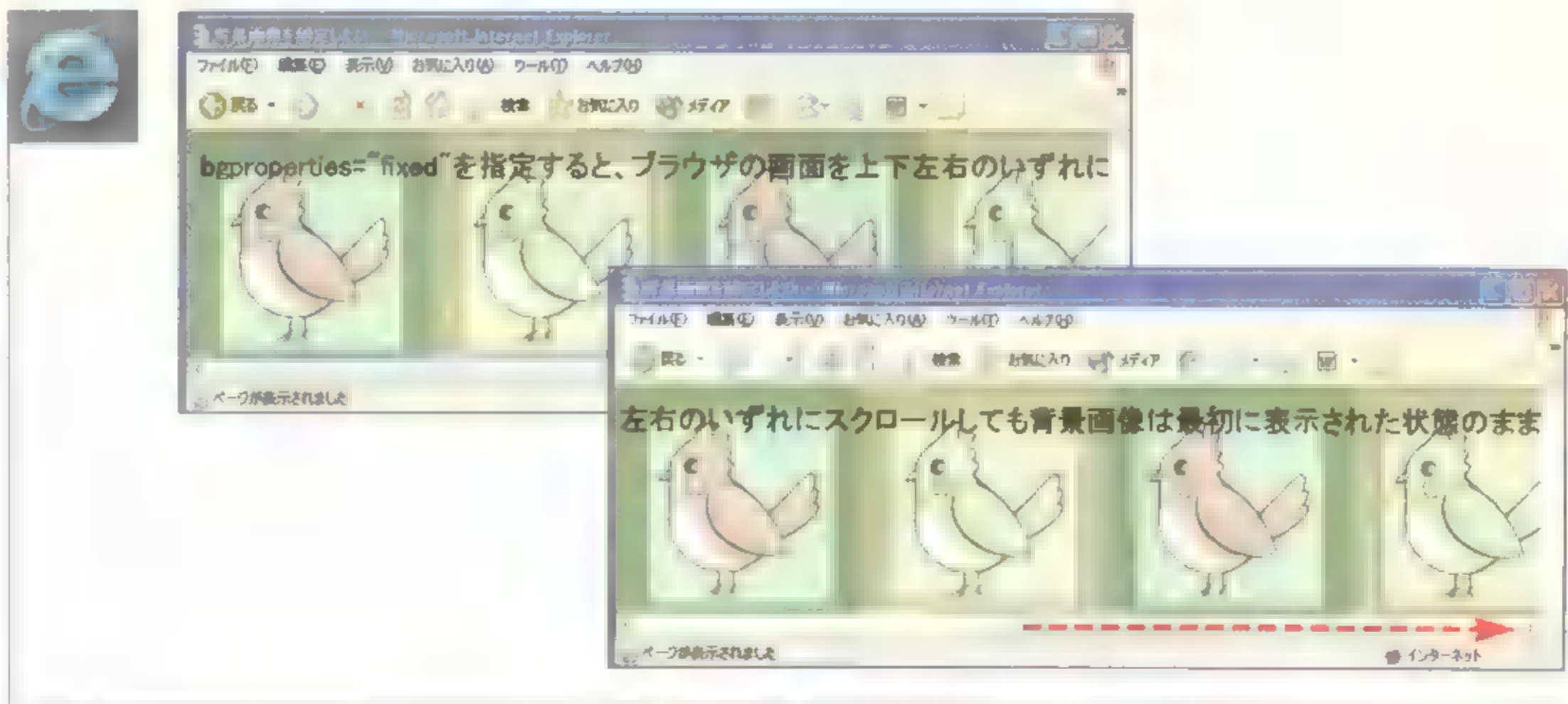
★……画像ファイル名（URL）

通常、ブラウザ画面をスクロールすると背景画像も一緒にスクロールします。

ただし、Internet Explorer 3以降では、bgproperties="fixed"を指定すると、背景画像は固定されてスクロールしなくなります。

SOURCE

```
<body background="4birds.jpg" bgproperties="fixed">
<p>
<nobr>
<font size="4">bgproperties="fixed"を指定すると、ブラウザの画面を上下左右のいずれにスクロールしても背景画像は最初に表示された状態のまま動かなくなります。</font>
</nobr>
</p>
</body>
```

▲Netscapeは対応していません

CSSによる背景画像の指定

スタイルシートを利用して同様に背景画像を固定する場合は次のようになります。HTMLタグのbgproperties属性はInternet Explorerの独自拡張でNetscape（Navigator）では無視されますが、スタイルシートでの指定はNetscape 6でも有効です。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body   {background-image:url("4birds.jpg");
        background-attachment:fixed}
</style>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE[illegible]	NN4	NN4.7	N6.[illegible]
	○	○	○	○	×	×	×

参照
背景色を指定したい……p.74
背景に[illegible]設定したい……p.76
テキストの色を指定したい……p.80

PAGE

テキストの色を指定したい

```
<body text="★"> ~ </body>
<body link="★"> ~ </body>
<body alink="★"> ~ </body>
<body vlink="★"> ~ </body>
```

★……色指定値（#rrggbb)、または色名（colorname)

全体のテキストやリンク部分のテキストの色を指定します。

text	標準のテキストの色を指定
link	まだ見ていない(キャッシュされていない)ページへリンクしている部分の色を指定
alink	リンク部分を選択した瞬間（クリックなど）の色を指定
vlink	すでに見た（キャッシュされている）ページへリンクしている部分の色を指定

色の指定には、#のあとにrgbの値を16進数で記述するか、直接色名（colorname）を書き込みます。色の指定方法についてはp.75を参照してください。

色の指定がされていない場合には、ユーザーのブラウザの設定にしたがって表示されます。

SOURCE

```
<body bgcolor="silver" text="#ff0000" link="#0000ff" alink="fuchsia"
vlink="green">
<p>
<font size="4">
標準のテキストは赤<br>
<a href="link1.html">まだ見ていないページへのリンクは青</a><br>
<a href="link2.html">選択されたリンクは紅紫</a><br>
<a href="link3.html">すでに見たページへのリンクは緑</a><br>
に設定してみました。
</font>
</p>
</body>
```

属性の順序

属性とその値は複数を並べて書くことができます。複数ある場合、その順序は問いません。

CSSによるテキストの色指定

スタイルシートを利用して同様にテキストの色を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body        {background-color:silver;
             color:#ff0000}
a:link      {color:#0000ff}
a:active    {color:fuchsia}
a:visited   {color:green}
</style>
```

[illegible]	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

参照
背景色を指定したい ……………… p.74
背景に画像を設定したい ……………… p.76
テキストの色を部分的に指定したい ……………… p.82

テキストの色を部分的に指定したい

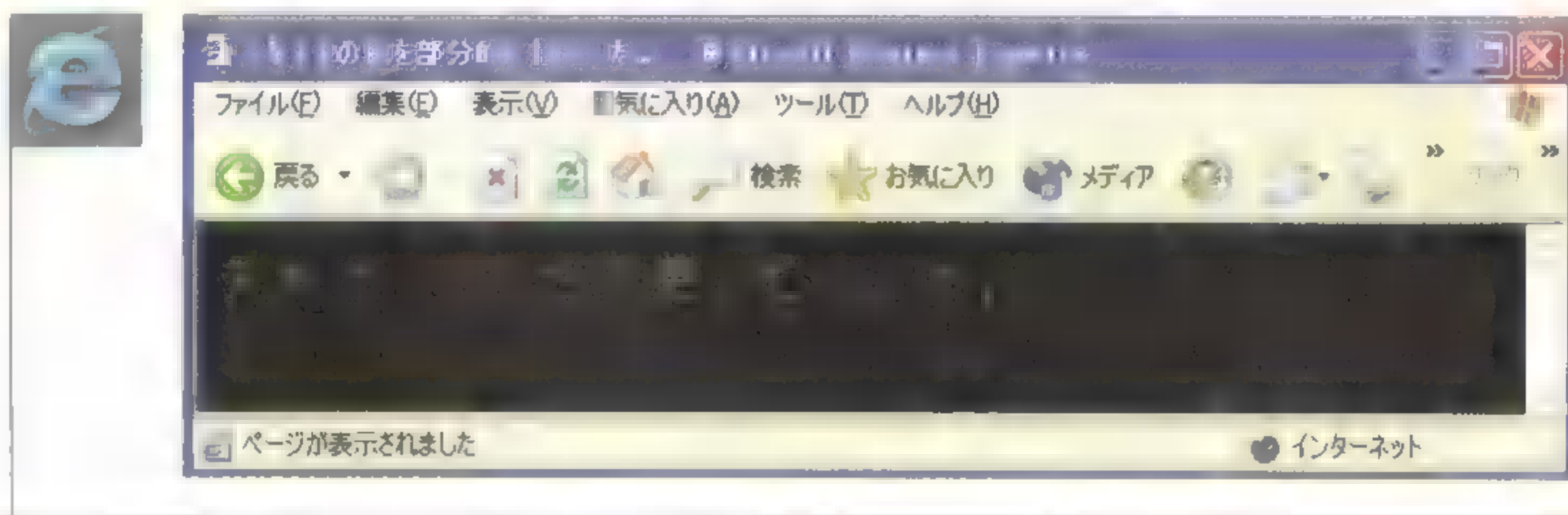
 ～

★……色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

指定した範囲のテキストの色を変更します。色の指定には、「#」のあとにrgbの値を16進数で記述するか、直接色名（colorname）を書き込みます。色の指定方法についてはp.75を参照してください。

<body>タグのtext属性でテキストの色を指定する場合は文書全体に対して有効になりますが（前項参照）、<font>タグのcolor属性では、タグに挟まれた部分にのみ有効になります。

SOURCE

```
<body bgcolor="#000000">
<p>
<font color="#c0c0c0">テ</font>
<font color="#808080">キ</font>
<font color="#ffffff">ス</font>
<font color="#800000">ト</font>
<font color="#ff0000">の</font>
<font color="#800080">色</font>
<font color="#ff00ff">を</font>
<font color="green">変</font>
<font color="lime">更</font>
<font color="olive">し</font>
<font color="yellow">て</font>
<font color="navy">み</font>
<font color="blue">ま</font>
<font color="teal">す</font>
<font color="aqua">。</font>
</p>
</body>
```

CSSによるテキストの色指定

スタイルシートを利用して同様にテキストの色を■分的に指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本■姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body        {background-color:#000000}
.purple     {color:#800080}
.fuchsia    {color:#ff00ff}
.green      {color:green}
.lime       {color:lime}
</style>
<body>
<p>
<span class="purple">色</span><span class="fuchsia">を</span>
<span class="green">変</span><span class="lime">更</span>
</p>
</body>
```

	IE4	[illegible]	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

参照
背■■■指定したい ……………………………p.74
■■に■■■設定したい ……………………………p.76
テキストの色を指定したい ……………………………p.80

6 PAGE

見出しの位置を指定したい

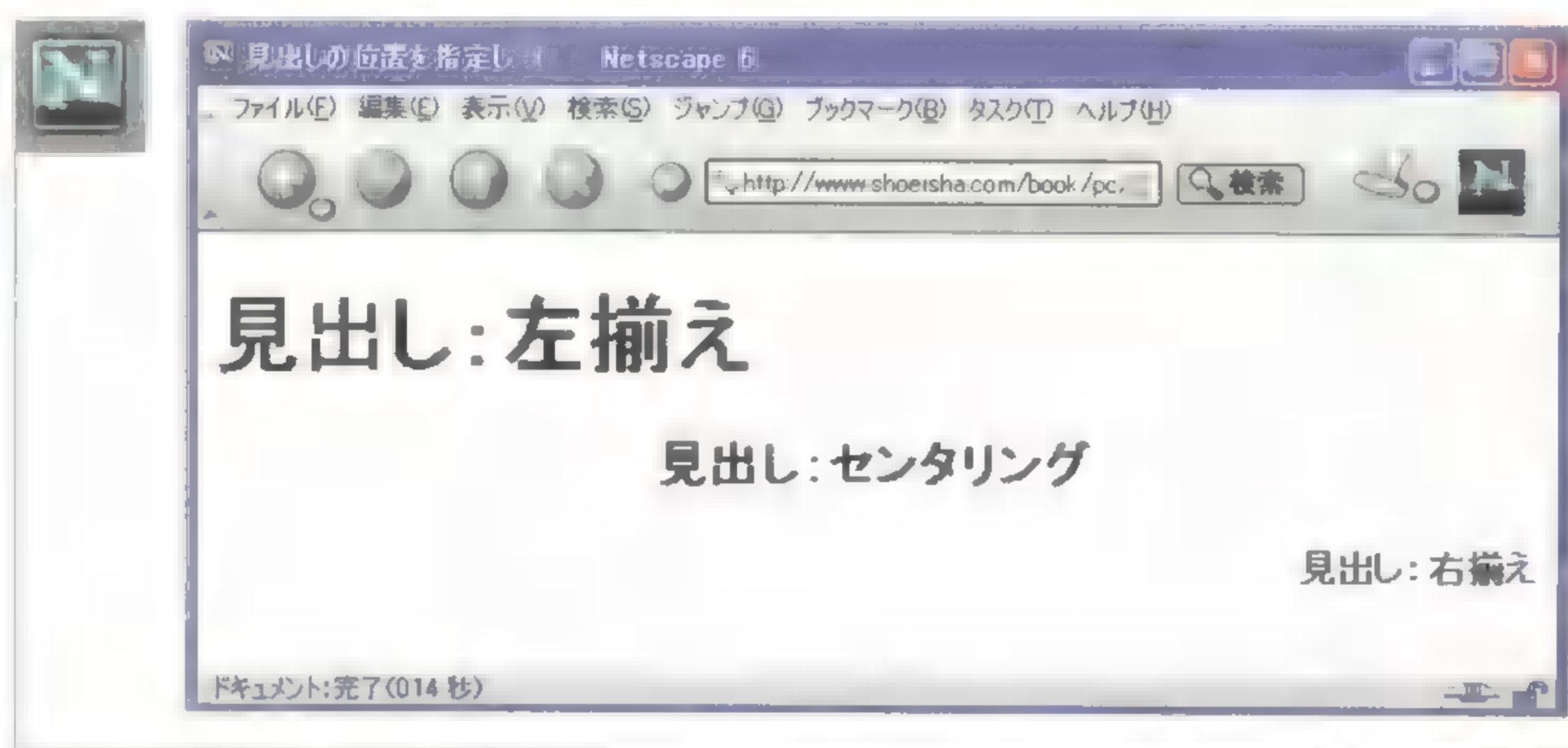
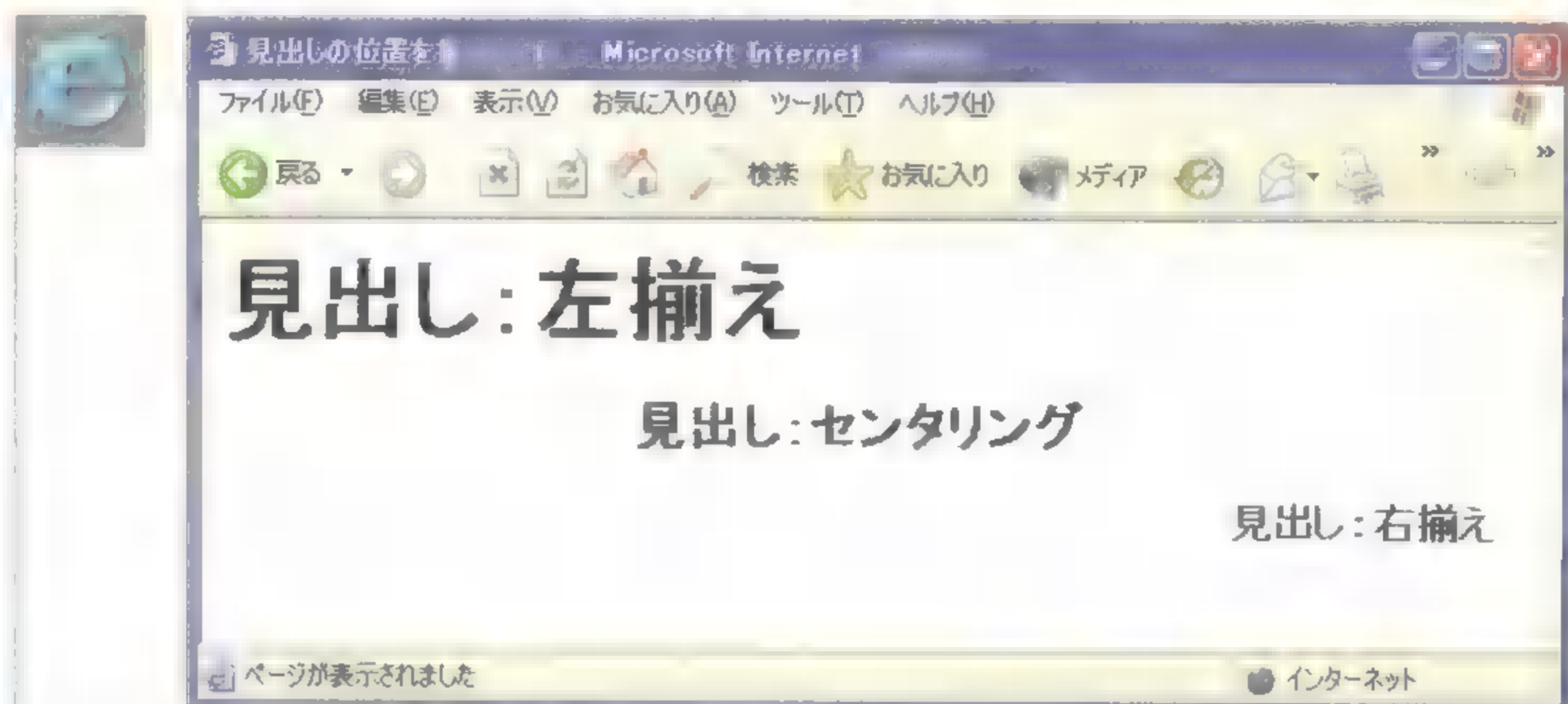
<h★ align="☆"> ～ </h★>

★･･････1～6
☆･･････left、center、right

ページ

<h> タグに align 属性を指定すると、見出しの表示位置を left（左揃え／デフォルト）、center（センタリング）、right（右揃え）のいずれかに指定することができます。

SOURCE

```
<h1 align="left">見出し：左揃え</h1>
<h3 align="center">見出し：センタリング</h3>
<h5 align="right">見出し：右揃え</h5>
```

CSSによる見出しの位置指定

スタイルシートを利用して同様に見出しの位置を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書「スタイルシート辞典 第3版」を参照してください。

```
<style type="text/css">
h1      {text-align:left}
h3      {text-align:center}
h5      {text-align:right}
</style>
```

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4[illegible]	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

参照
見出しを設定したい……p.38
まとめて[illegible]を指定したい……p.88
センタリングしたい……p.90

7 PAGE

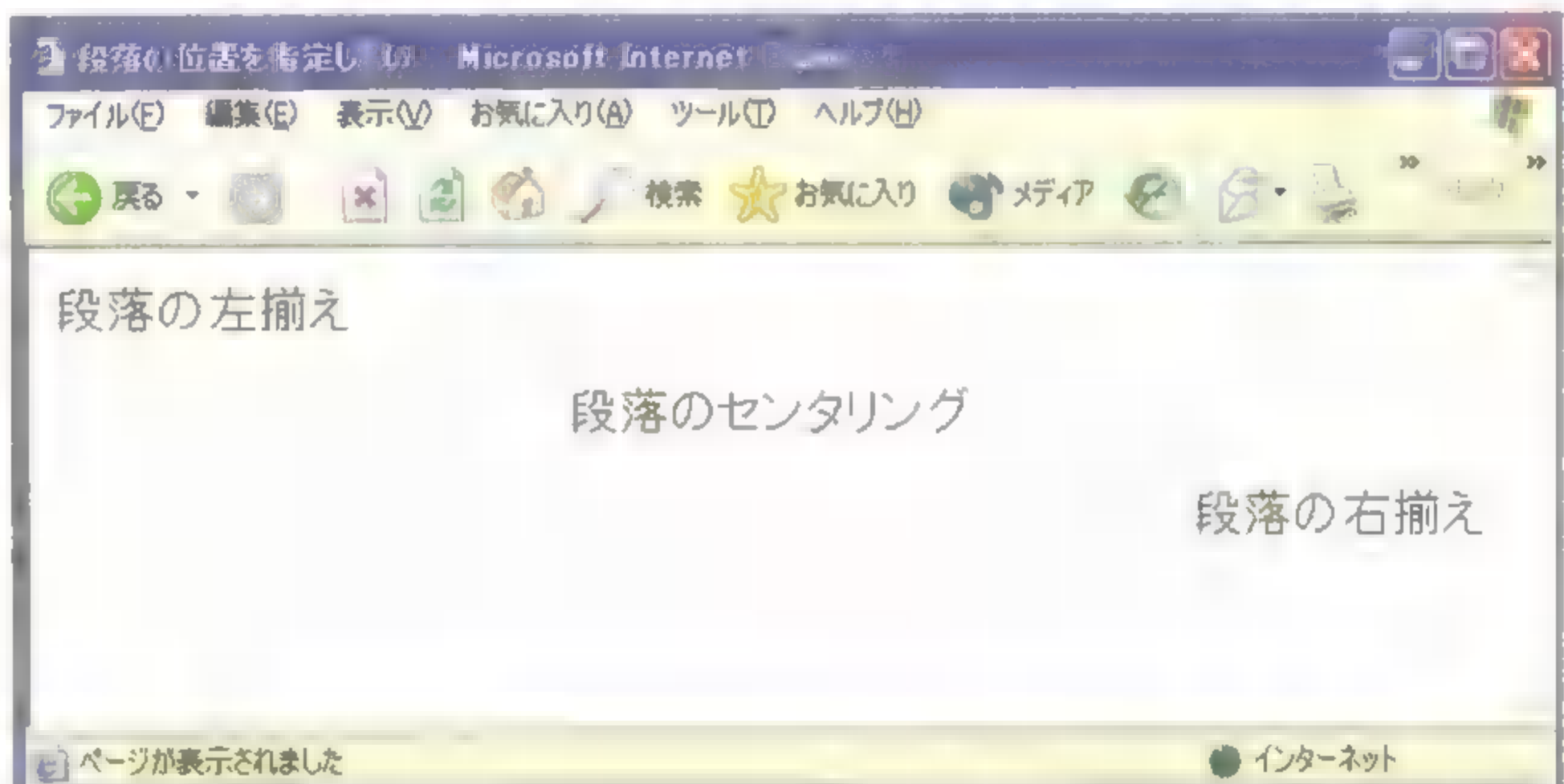
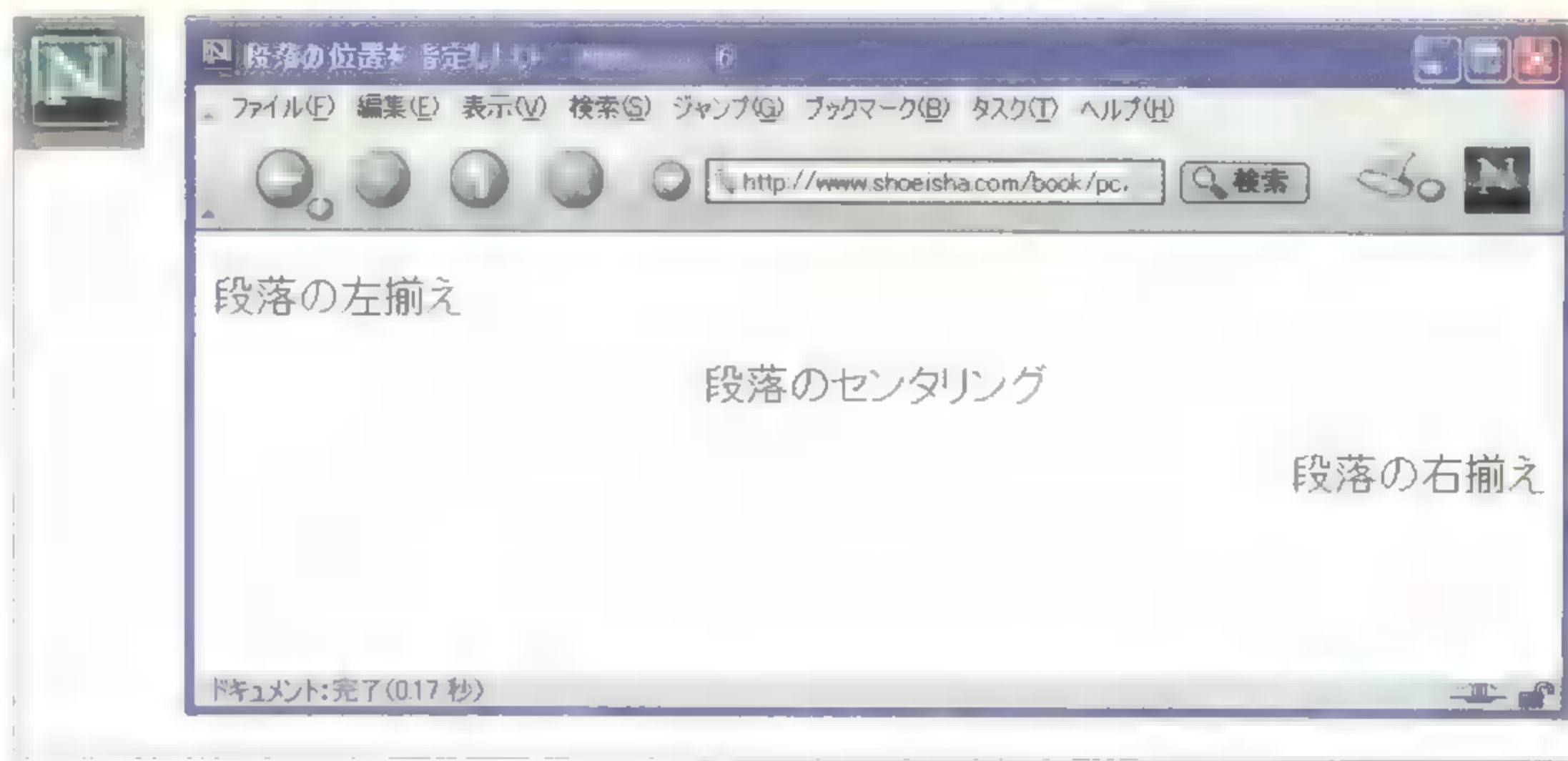
段落の位置を指定したい

<p align="★"> ～ </p>

★・・・・・・left、center、right

<p> タグに align 属性を指定すると、段落の位置を left（左揃え／デフォルト）、center（センタリング）、right（右揃え）のいずれかに指定できます。

SOURCE

```
<p align="left"> 段落の左揃え </p>
<p align="center"> 段落のセンタリング </p>
<p align="right"> 段落の右揃え </p>
```

CSSによる段落の位置指定

スタイルシートを利用して同様に見出しの位置を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
#left        {text-align:left}
#center      {text-align:center}
#right       {text-align:right}
</style>
<body>
<p id="left">段落の左揃え</p>
<p id="center">段落のセンタリング</p>
<p id="right">段落の右揃え</p>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

参照
段落を設定したい……p.40
まとめて位置を指定したい……p.88
センタリングしたい……p.90

8 PAGE DEPRECATED

まとめて位置を指定したい

<div align="★"> ～ </div>

★ ••••••left、center、right

<div> タグで囲むと、囲まれた範囲がひとまとまりとされます。これに align 属性を記述すると、中のコンテンツの表示位置を left（左揃え／デフォルト）、center（センタリング）、right（右揃え）のいずれかに指定することができます。

SOURCE

```
<div align="left">&lt;div align="★"&gt;では <br>
指定した範囲をひとまとめにして <br>
位置の指定ができます。</div><br>
<div align="center">&lt;div align="★"&gt;では <br>
指定した範囲をひとまとめにして <br>
位置の指定ができます。</div><br>
<div align="right">&lt;div align="★"&gt;では <br>
指定した範囲をひとまとめにして <br>
位置の指定ができます。</div>
```

CSSによるまとまった範囲の位置指定

スタイルシートを利用して同様にまとまった範囲の位置を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
#left    {text-align:left}
#center  {text-align:center}
#right   {text-align:right}
</style>
<body>
<div id="left">まとまった範囲の<br>位置指定</div>
<div id="center">まとまった範囲の<br>位置指定</div>
<div id="right">まとまった範囲の<br>位置指定</div>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	N6	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

参照
特定の範囲を設定したい……p.36
見出しの位置を指定したい……p.84
段落の位置を指定したい……p.86
センタリングしたい……p.90

9 PAGE

センタリングしたい

<center> ～ </center>

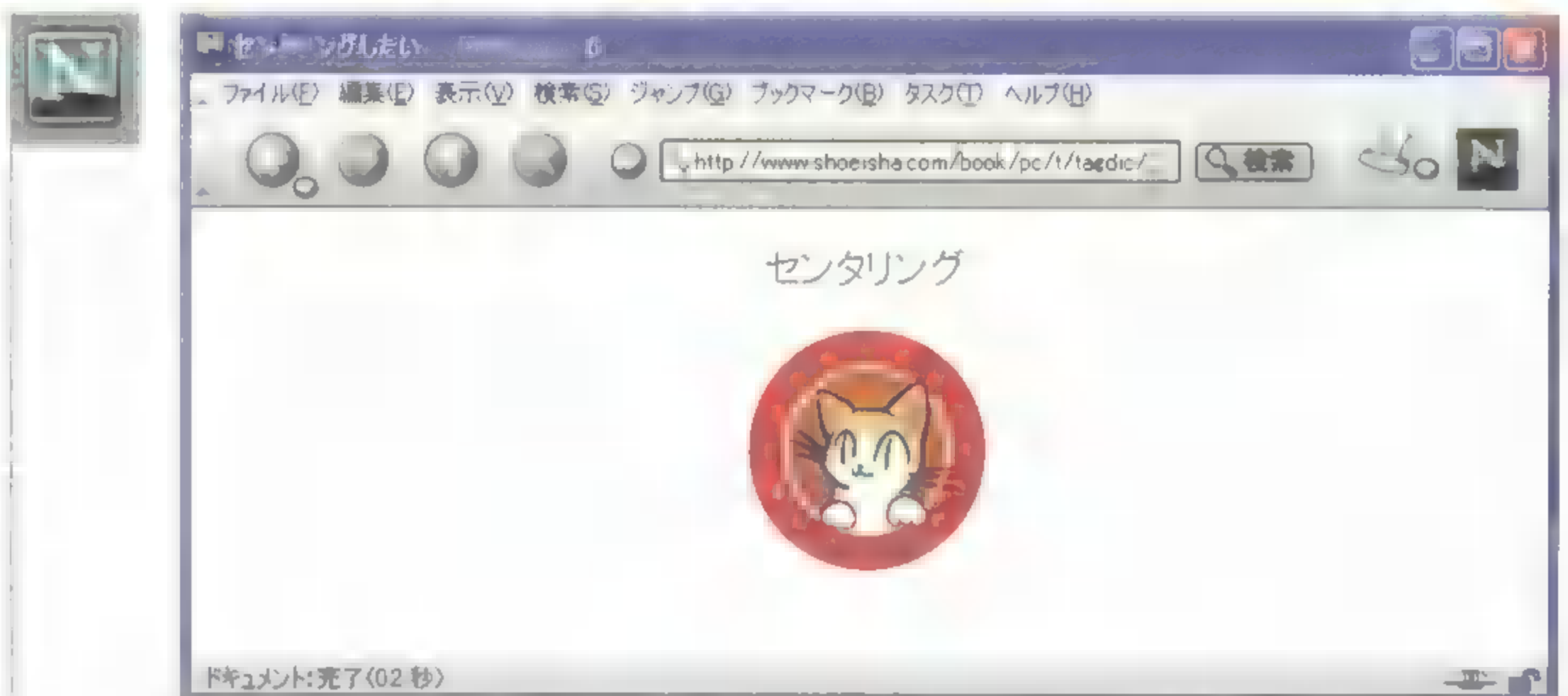
コンテンツのセンタリング（中央揃え）を指定します。

SOURCE

```
<center>
<p>
センタリング
</p>
<p>
<img src="cat.gif" width="120" height="120" alt="">
</p>
</center>
```

▲テキストや画像がセンタリングされます

▲テキストや画像がセンタリングされます

<center>と<div align="center">

<center>タグは前項の<div align="center">の略記法のため、<div align="center">と同様の効果が得られます。しかし、<center>タグもalign属性も推奨しないタグや属性（deprecated）とされていますので、できるだけスタイルシートを使用したほうがよいでしょう。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

見出しの位置を指定したい……p.84
段落の位置を指定したい……p.86
まとめて位置を指定したい……p.88

10

PAGE

※の各種属性はDEPRECATED

横罫線を表示したい

<hr>

<hr ★ >

★ ••••••size="太さ"（ピクセル）
　　width="長さ"（ピクセル または %）
　　align="left"、"center"、"right"
　　noshade

<hr> で横罫線が画面の左右いっぱいに表示されます。罫線とその前後の内容との間隔は、ブラウザに依存します。

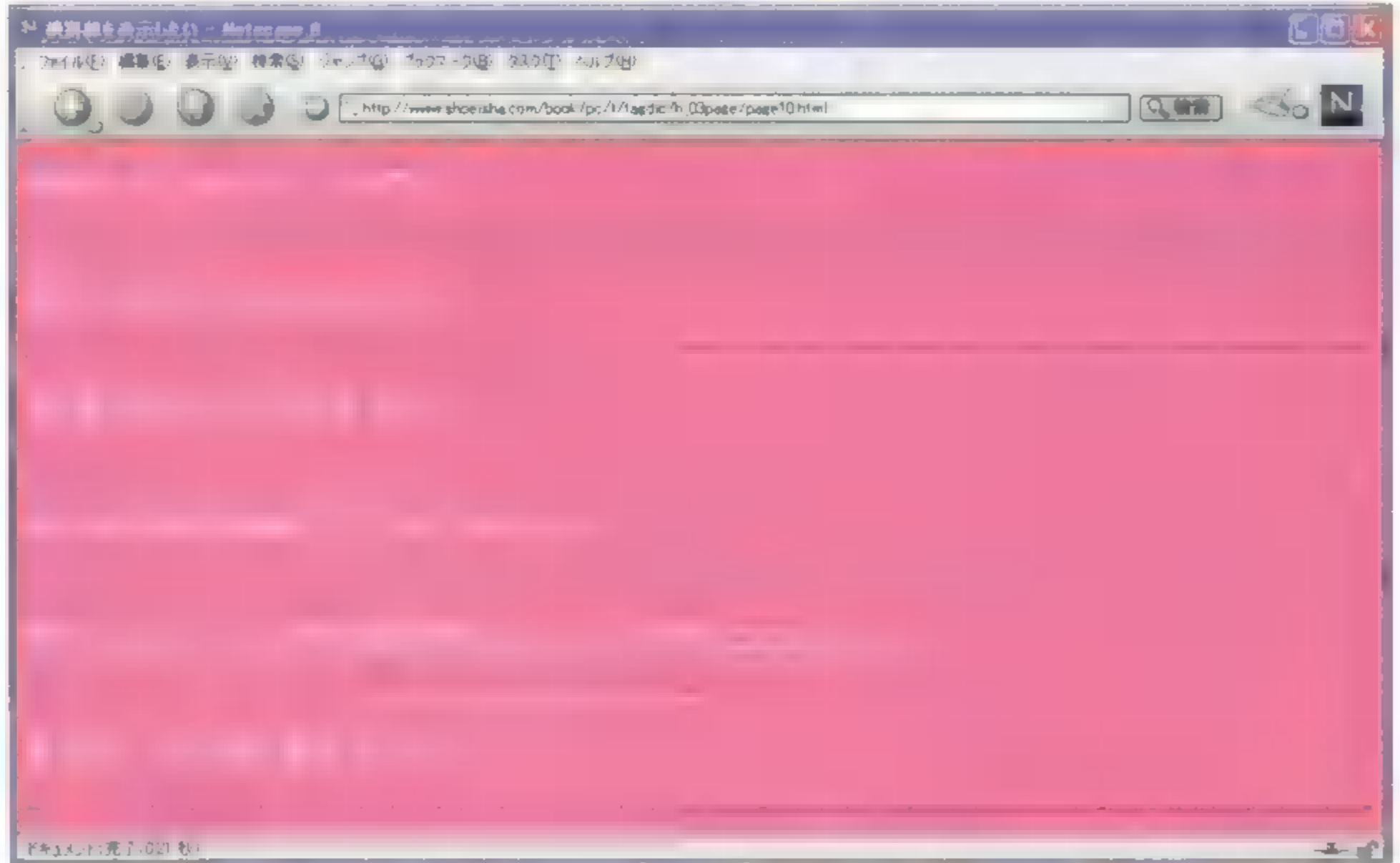
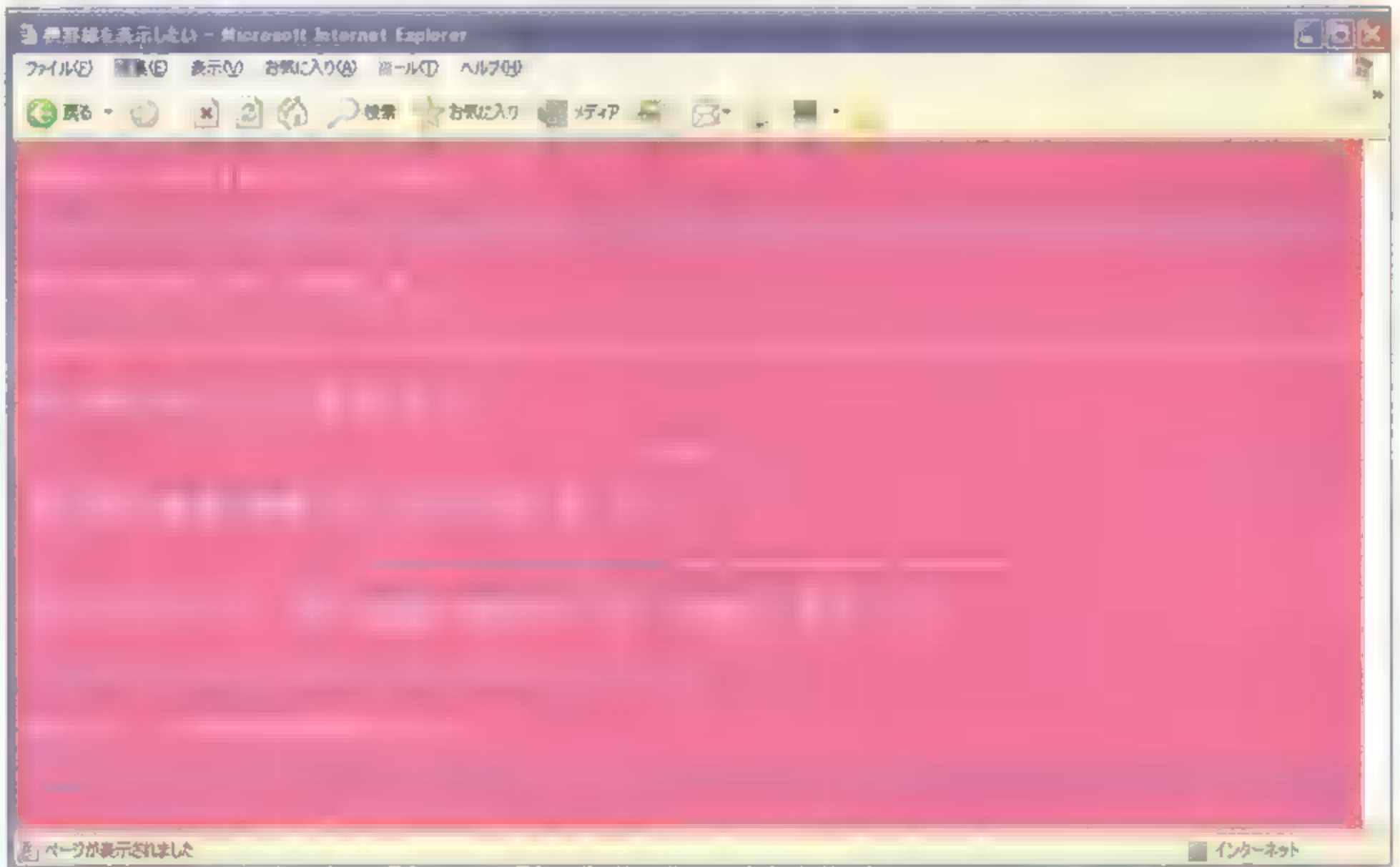
横罫線の太さや長さなどを指定するには、次の属性を設定します。

size 属性は罫線の太さをピクセルで指定し。width 属性は長さをピクセルか画面の横幅に対する割合（%）で指定します。

align 属性では左右に寄せるか、センタリングするかを決めますが、デフォルトでセンタリングする設定になっているため、center は省略可能です。

noshade を指定すると、立体的ではなく平面的な横罫線が表示されます。

SOURCE

```
<body bgcolor="#ff6699" text="#ffffff">
<p> 指定なしのデフォルトだとこんな感じ。</p>
<hr>
<p> 線の太さを 8 ピクセルに指定しました。</p>
<hr size="8">
<p> 線の長さを 50 ピクセルに指定しました。</p>
<hr width="50">
<p> 線の長さを画面の横幅に対して 50% に指定しました。</p>
<hr width="50%">
<p> 線の太さを 8 ピクセル、長さを画面の横幅の 50%、そして左寄せに指定しました。</p>
<hr size="8" width="50%" align="left">
<p> 影のない、一本の線に指定しました。</p>
<hr noshade>
</body>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
○	○	○	○	○	○	○

横罫線の色を指定したい ························p.94

横罫線の色を指定したい

<hr color="★">

★••••••色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

色付きの横罫線を表示します。色の指定には、「#」のあとにrgbの値を16進数で記述するか、直接色名（colorname）を書き込みます。色の指定方法についてはp.75を参照してください。

Internet Explorerのみ対応しています。

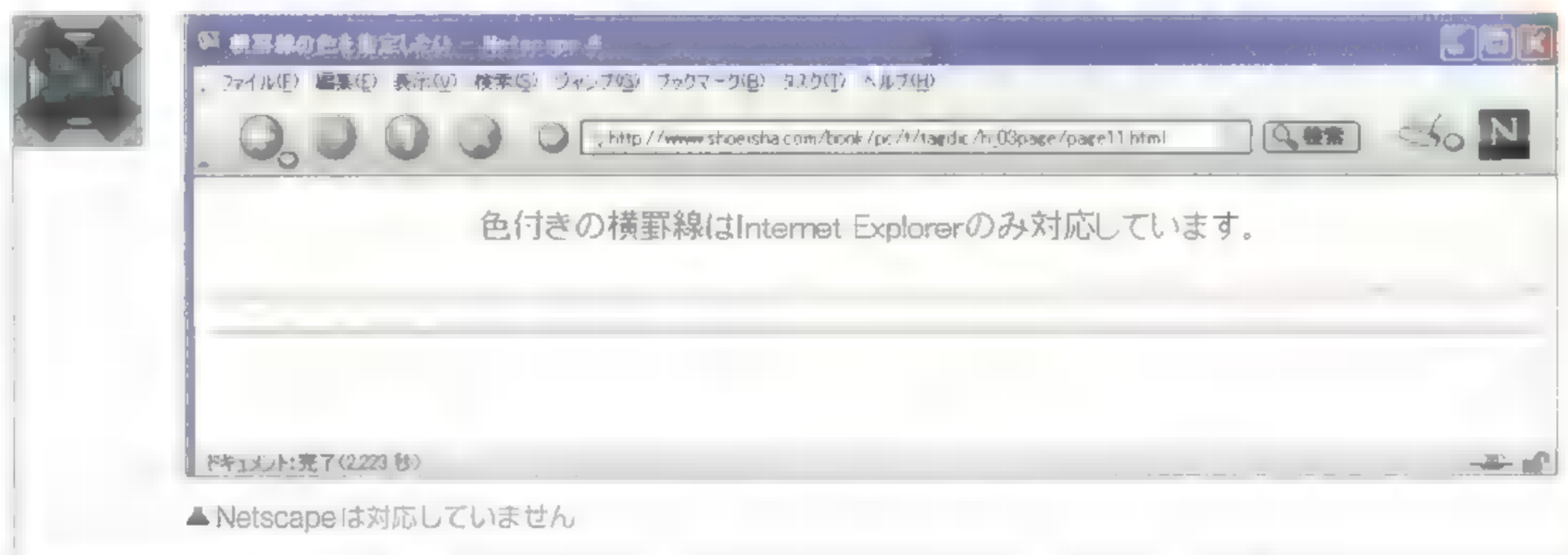
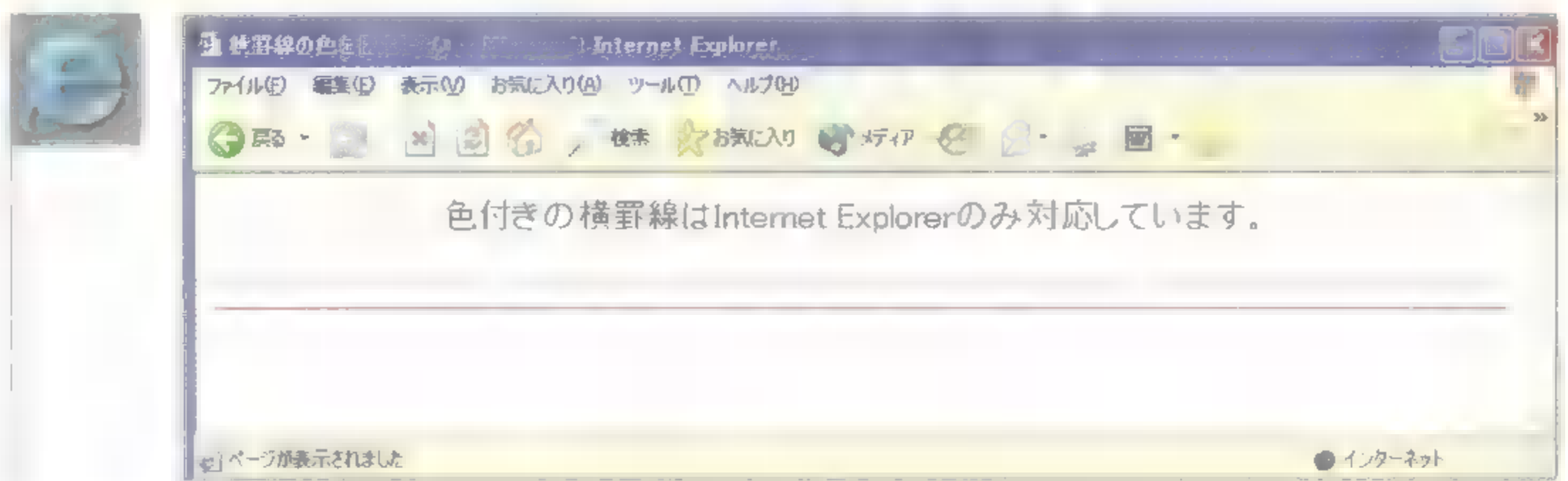
SOURCE

```
<p align="center">
色付きの横罫線はInternet Explorerのみ対応しています。
</p>
<hr color="aqua">
<hr color="#ff00ff">
```

▲Netscapeは対応していません

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	×	×	×

横罫線を表示したい ……………………………p.92

12 PAGE

ページのマージンを指定したい

<body ★ > ～ </body>

★ ••••••leftmargin="ピクセル"
topmargin="ピクセル"
rightmargin="ピクセル"
bottommargin="ピクセル"

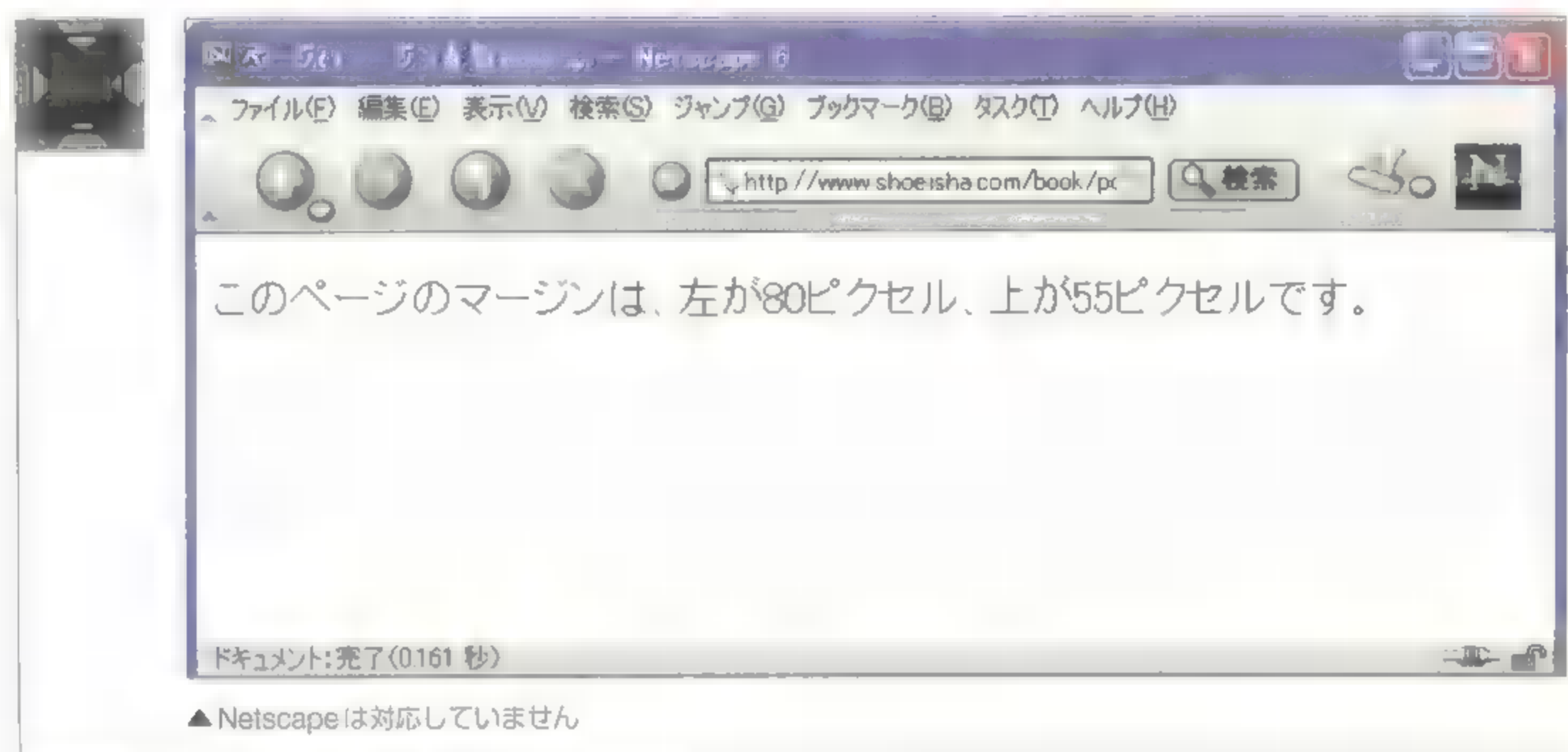
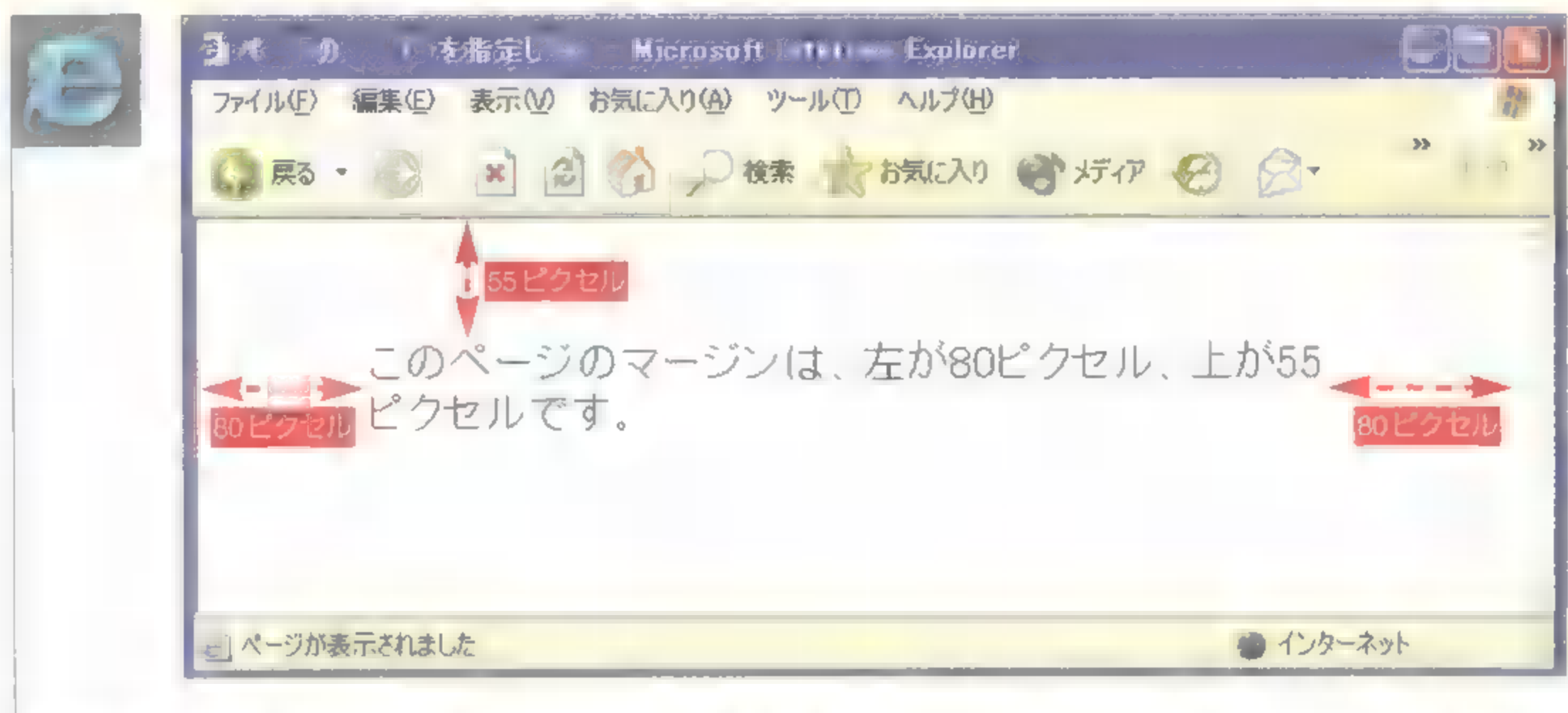
ページの上下左右のマージン（余白）幅を設定します。Internet Explorer 6のデフォルトは左右が10ピクセル、上下が15ピクセルです。leftmargin（topmargin）に0を指定すると、左（上）端に揃います。

leftmargin属性で左右のマージン、topmargin属性で上下のマージンが設定されるので、rightmargin属性と、bottommargin属性は、主に左と右、または上と下で異なるマージンを設定する場合に指定します。

Internet Explorerのみ対応しています。

SOURCE

```
<body leftmargin="80" topmargin="55">
<p>
このページのマージンは、左が80ピクセル、上が55ピクセルです。
</p>
</body>
```

▲Netscapeは対応していません

CSSによるマージンの指定

スタイルシートを利用して同様にマージンを指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書「スタイルシート辞典 第3版」を参照してください。

```
<style type="text/css">
body  {margin-left:80px;
       margin-top:55px}
</style>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	×

フレーム枠からのマージンを指定したい··········p.258

1 FONT

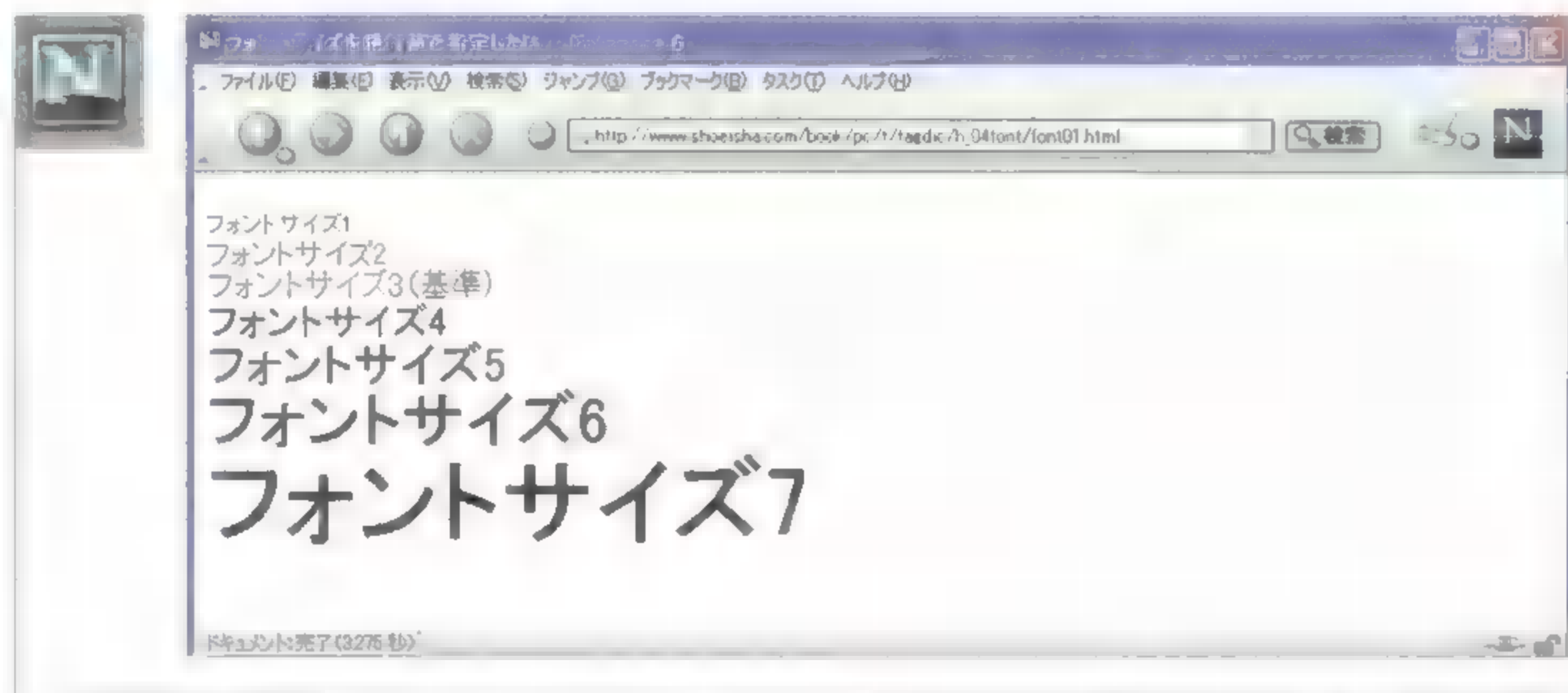
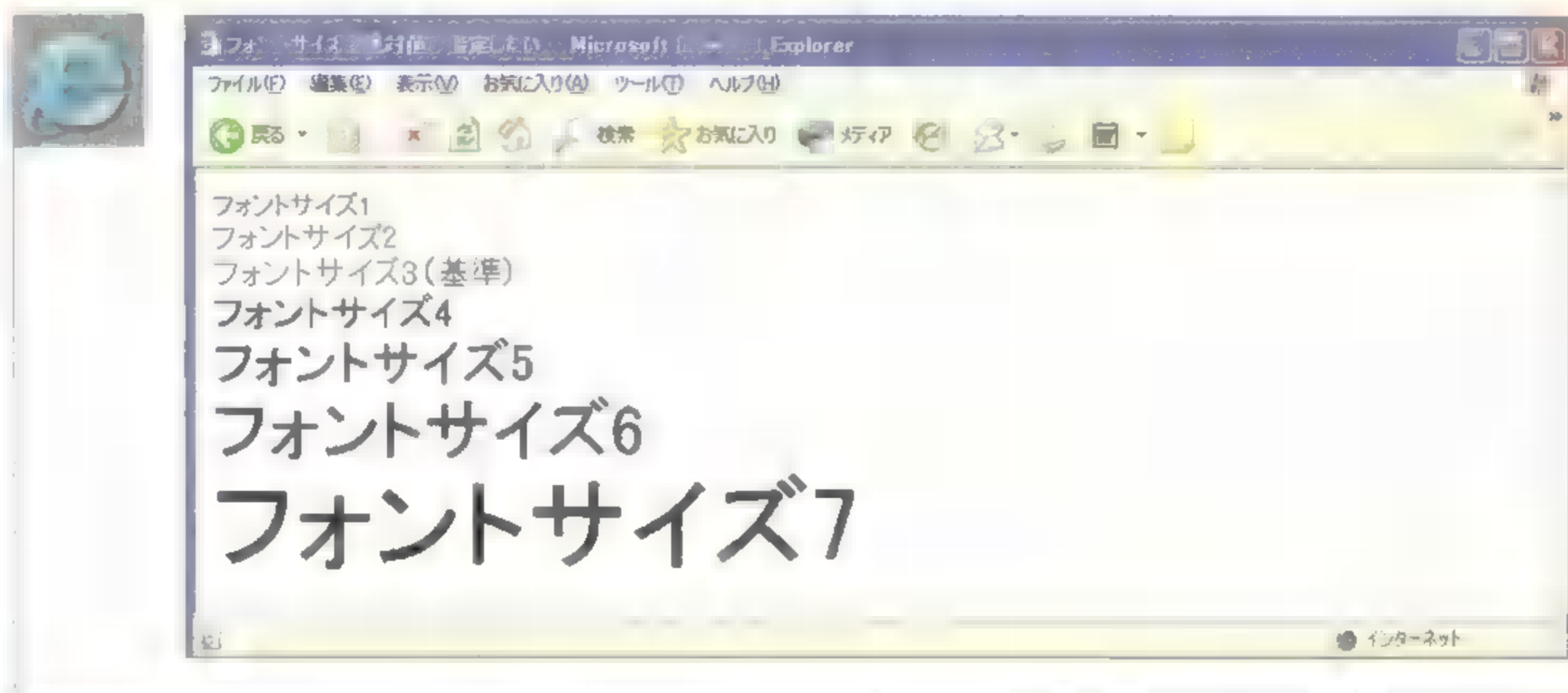
フォントサイズを絶対値で指定したい

 ～

★••••••1～7（1が最小、7が最大）

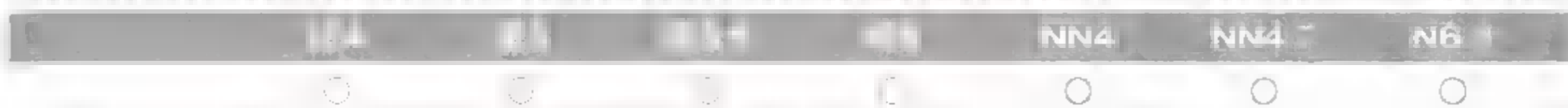
フォントのサイズを指定します。1から7まで数字が大きくなるにつれて、フォントも大きくなります。基準となる値（デフォルト）は3ですが、実際に画面上に表示される大きさは、各ユーザーの環境に左右されるので注意が必要です。

SOURCE

```
<p>
<font size="1">フォントサイズ1</font><br>
<font size="2">フォントサイズ2</font><br>
<font size="3">フォントサイズ3（基準）</font><br>
<font size="4">フォントサイズ4</font><br>
<font size="5">フォントサイズ5</font><br>
<font size="6">フォントサイズ6</font><br>
<font size="7">フォントサイズ7</font>
</p>
```

CSSによるフォントサイズの指定

スタイルシートを利用してフォントサイズを指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本[illegible]『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body   {font-size:15px}
.size1  {font-size:20px}
.size2  {font-size:10px}
</style>
<body>
スタイルシートで<span class="size1">フォントサイズを</span>
<span class="size2">指定します。</span>
</body>
```

	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	NN4	NN4	N6
	○	○	○	○	○	○	○

参照
フォントサイズを相対値で指定したい その1 ······p.100
フォントサイズを相対値で指定したい その2 ······p.102

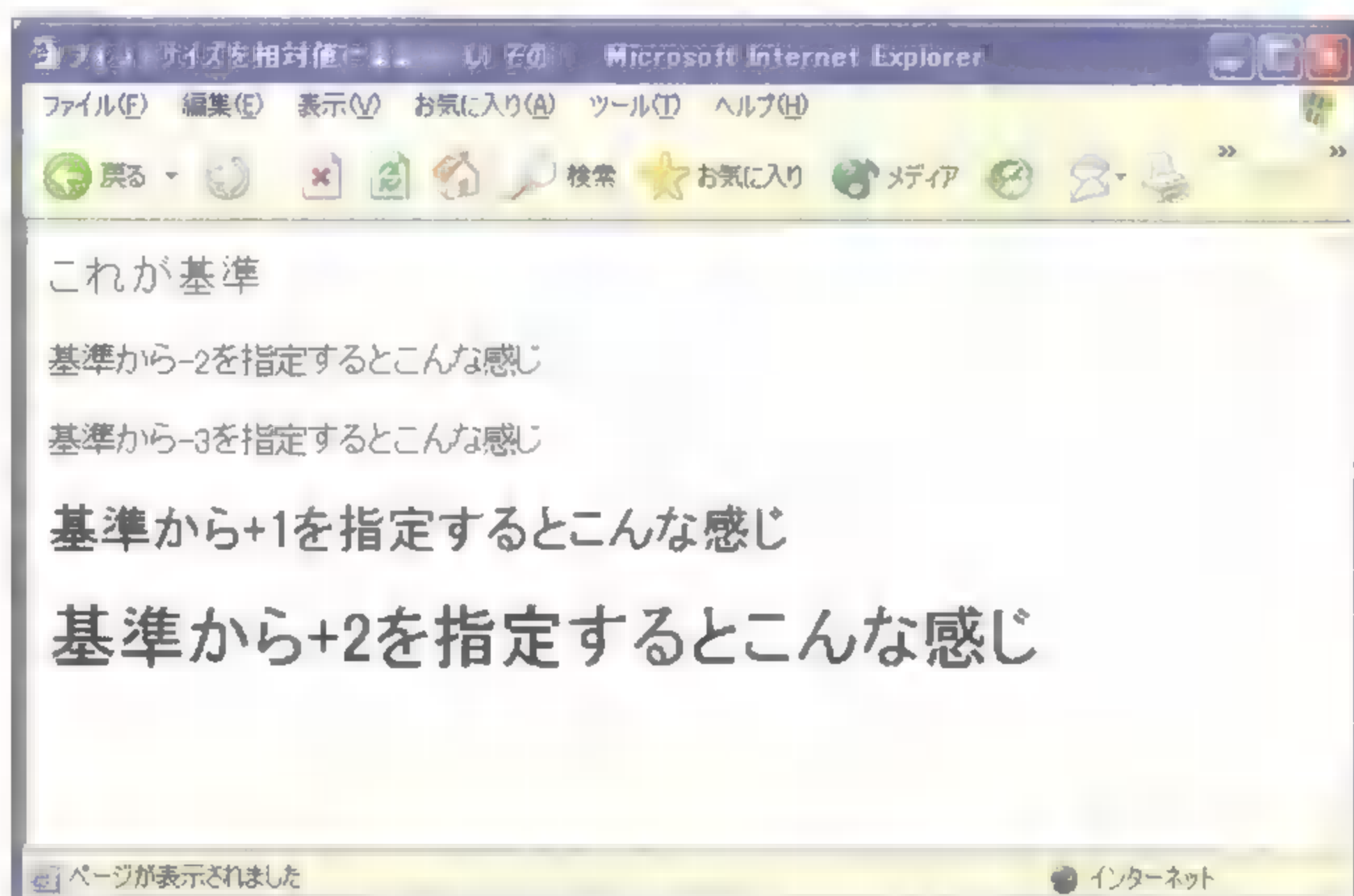
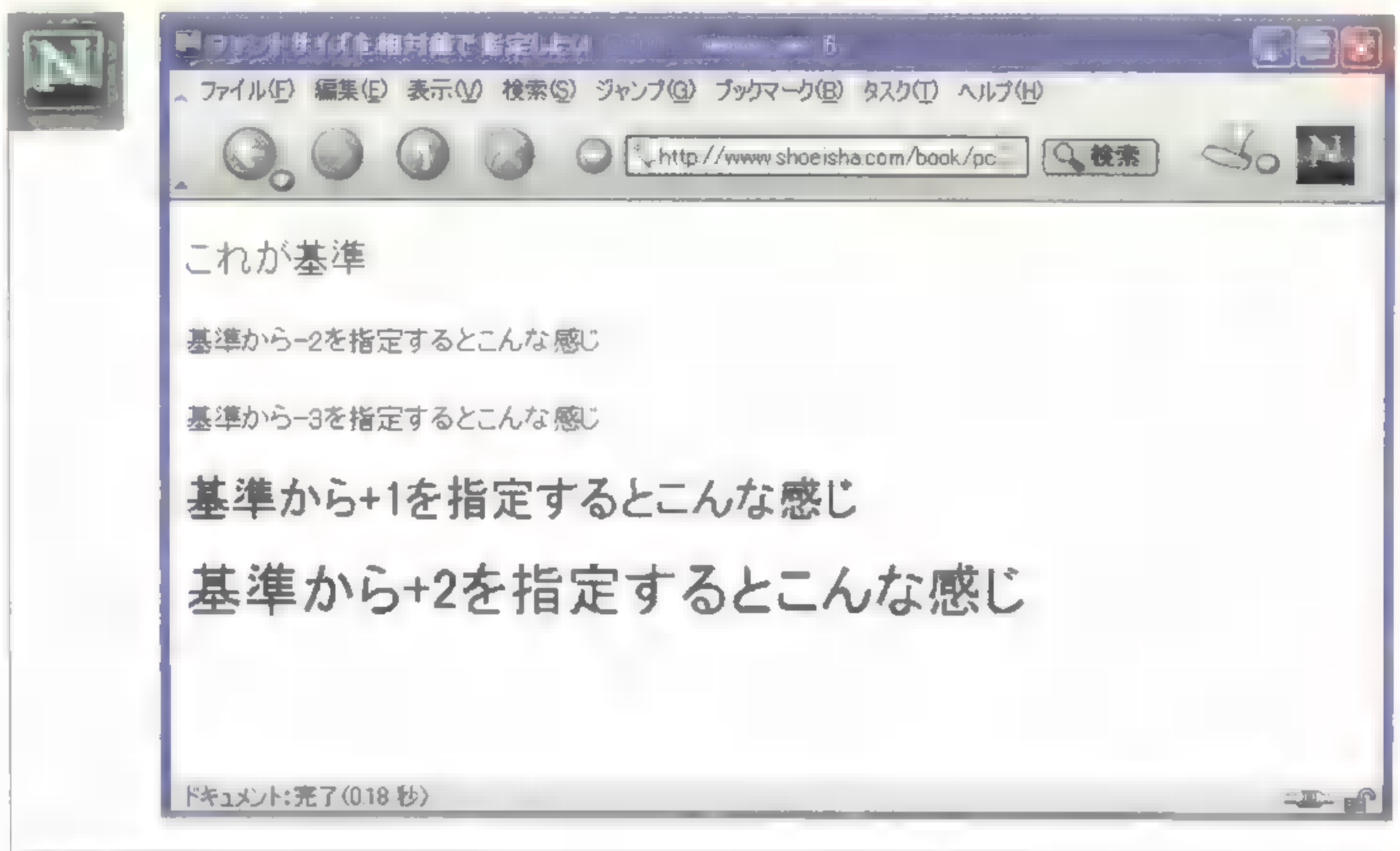
フォントサイズを相対値で指定したい その1

 ～

★ ••••••1～7（1が最小、7が最大）

基準のフォントサイズから何段階大きいか（小さいか）をプラスマイナスを使って相対的に指定します。特に指定がない場合、基準のフォントサイズは3です。

SOURCE

```
<p>これが基準</p>
<p><font size="-2">基準から-2を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="-3">基準から-3を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="+1">基準から+1を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="+2">基準から+2を指定するとこんな感じ</font></p>
```

CSSによるフォントサイズの指定

スタイルシートを利用してフォントサイズを指定する場合は、一例として次のようになります（プラス、マイナスのような指定方法はありません)。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
.large    {font-size:large}
.small    {font-size:small}
</style>
<body>
スタイルシートで<span class="large">フォントサイズを</span>
<span class="small">指定します。</span>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.[illegible]	N[illegible].2
	○	○	○	○	○	○	○

フォントサイズを絶対値で指定したい ……………p.98
フォントサイズを相対値で指定したい その2 ……p.102

3 FONT DEPRECATED

フォントサイズを相対値で指定したい その2

基準のサイズを設定する

```
<basefont size="★">
<font size="±☆"> ~ </font>
```

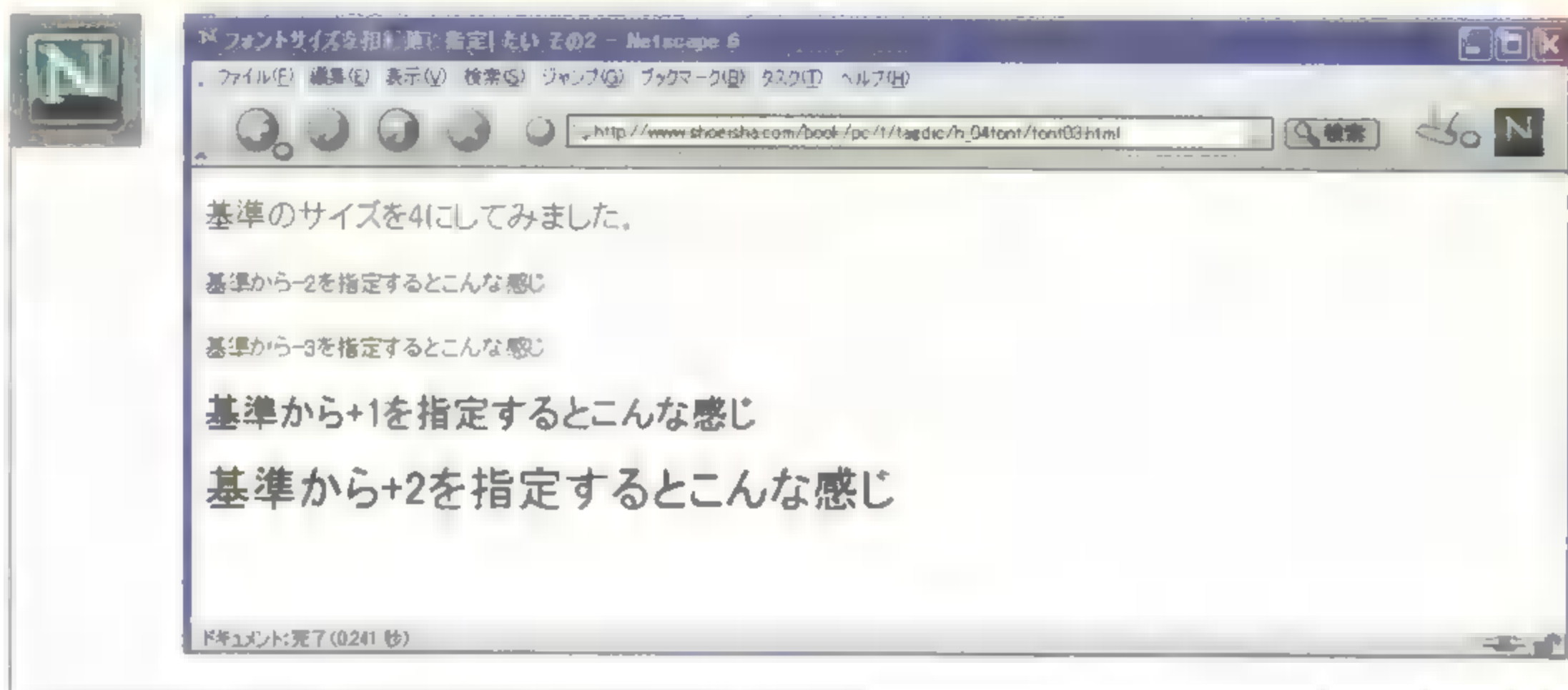
★・・・・・・1～7（1が最小、7が最大）
☆・・・・・・★との±の結果が1～7となる数字

<basefont>タグで基準となるサイズを設定しておき、この基準のフォントサイズから何段階大きいか（小さいか）をプラスマイナスを使って相対的に指定します。<font size="±☆">には、基準のサイズとプラスマイナスした結果が1～7のサイズとなる数字を指定してください。

HTML文書の一番最初にこの<basefont size="★">をおいておけば、それ以降、ファイルの終わりまで相対値でフォントのサイズを変更することができます。

ただし、この設定は見出し（<h>タグ）には適用されないので注意してください。

SOURCE

```
<basefont size="4">
<p>基準のサイズを4にしてみました。</p>
<p><font size="-2">基準から-2を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="-3">基準から-3を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="+1">基準から+1を指定するとこんな感じ</font></p>
<p><font size="+2">基準から+2を指定するとこんな感じ</font></p>
```

CSSによるフォントサイズの指定

スタイルシートを利用してフォントサイズを指定する場合は、一例として次のようになります（プラス、マイナスのような指定方法はありません）。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
body      {font-size:20px}
.larger   {font-size:larger}
.smaller  {font-size:smaller}
</style>
<body>
基準のフォントは 20px<br>
スタイルシートで <span class="larger"> フォントサイズを </span>
<span class="smaller"> 指定します。</span>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

フォントサイズを絶対値で指定したい ……………p.98
フォントサイズを相対値で指定したい その1 ……p.100

4 FONT

フォントの種類を指定したい

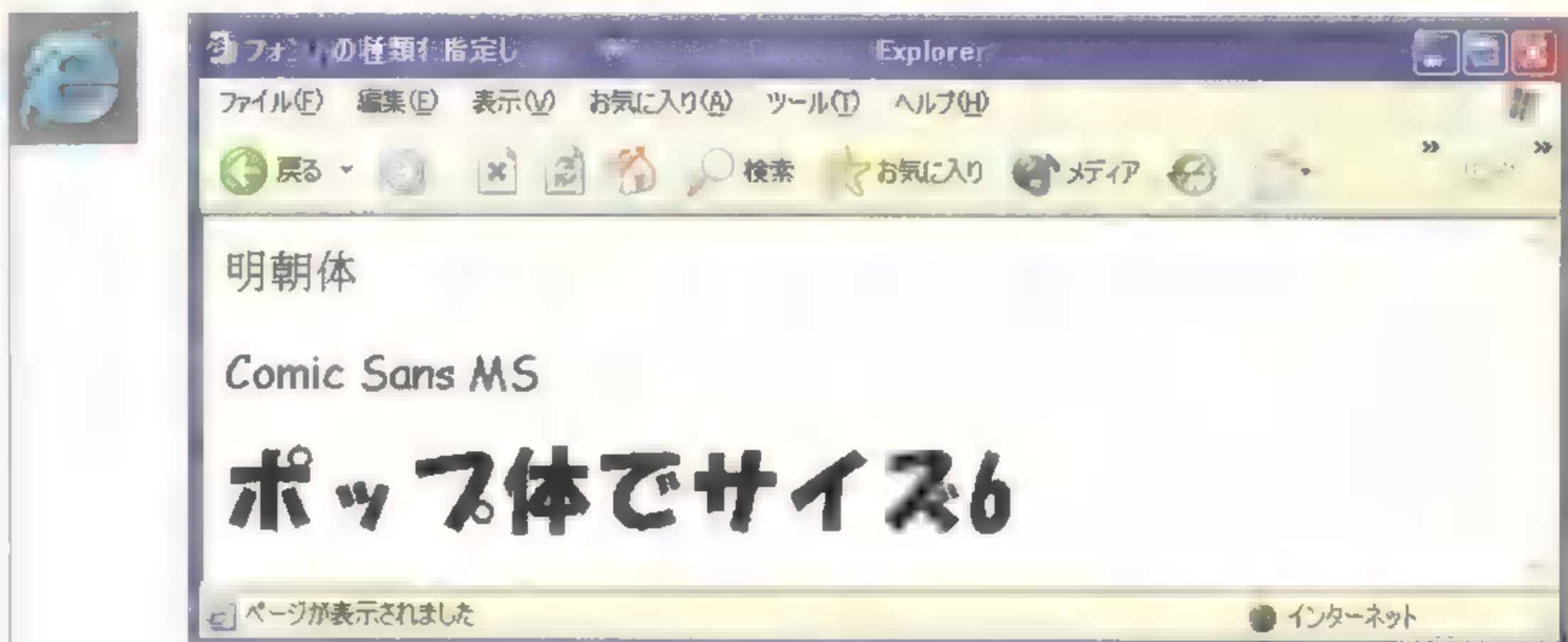
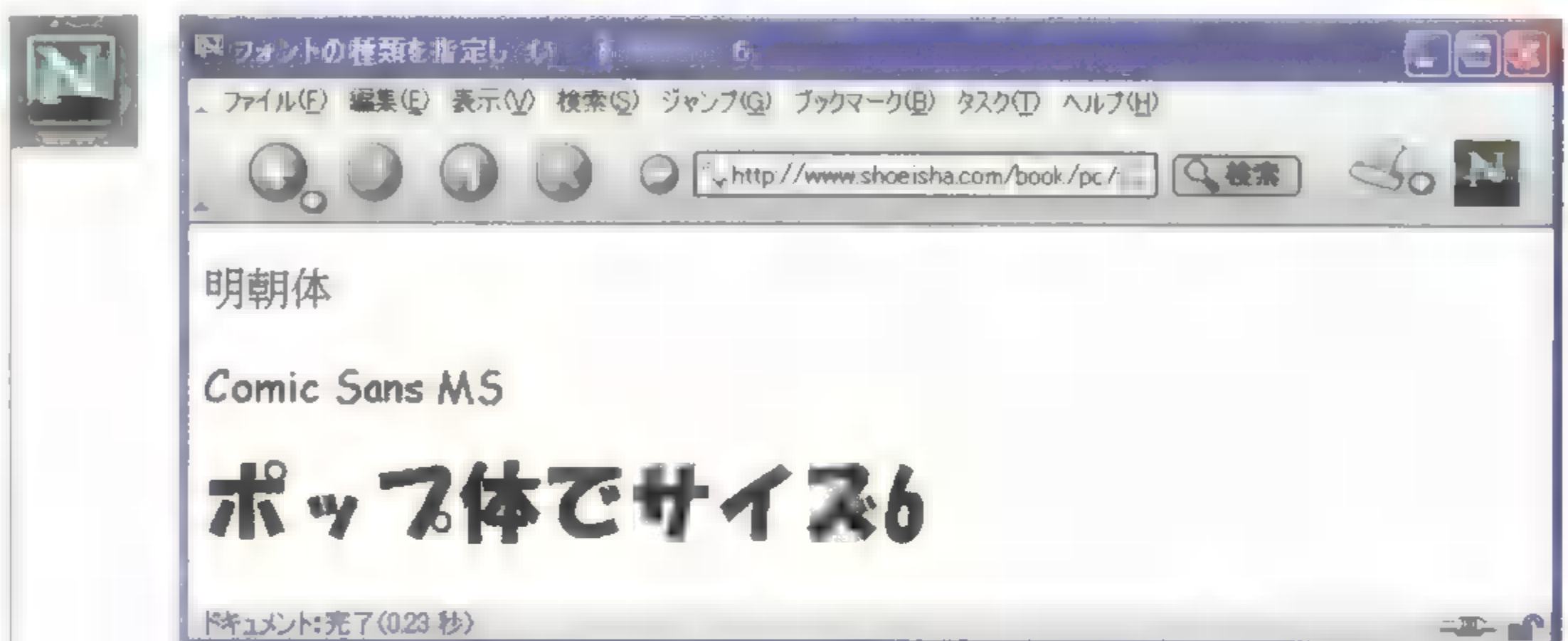
** ～ **

★……フォントの名前（第一候補,第二候補,…）

face属性で、使用するフォントの種類を指定します。複数の候補を並べるときは、それぞれを「,」（カンマ）で区切って指定します。その場合は並べた順に優先順位がつきます。フォントの名前は文字の全角や半角、スペースなども含めて正しく記述してください。

ユーザーの側にどのフォントもなく指定されたフォントでの表示ができないときは、ブラウザに設定されたデフォルトのフォントで表示されます。

SOURCE

```
<p>
<font face="ＭＳ Ｐ明朝,平成明朝">明朝体</font>
</p>
<p>
<font face="Comic Sans MS,Times New Roman,Arial">Comic Sans MS</font>
</p>
<p>
<font face="HG創英角ﾎﾟｯﾌﾟ体,ＭＳ ゴシック,[illegible]ゴシック,Osaka" size="6">
ポップ体でサイズ6</font>
</p>
```

▲MS P明朝、Comic Sans MS、HG創英角ポップ体が揃っている環境ではこのように表示されます

▲MS P明朝、Comic Sans MS、HG創英角ポップ体が揃っている環境ではこのように表示されます

CSSによるフォントの指定

スタイルシートを利用してフォントを指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
.font1  {font-family:"Comic Sans MS","Times New Roman",Arial}
.font2  {font-family:"MS 明朝",平成明朝}
</style>
<body>
<span class="font1">STYLESHEET</span>でフォントを
<span class="font2">指定します。</span>
</body>
```

[illegible]	[illegible]	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	N6.[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

※Netscape Navigator 4.7では文字コードが日本語だと欧文フォントが正しく表示されません

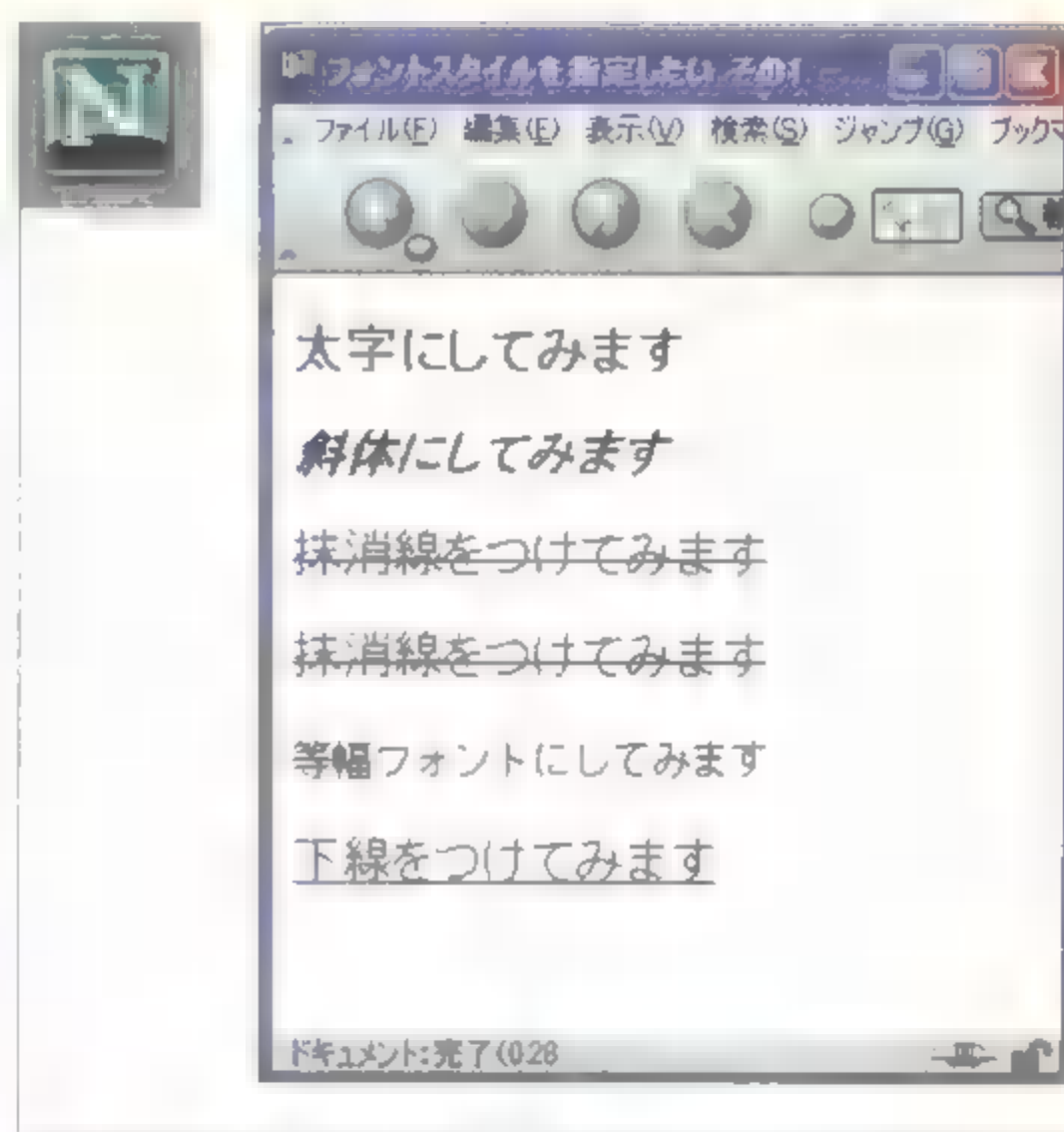
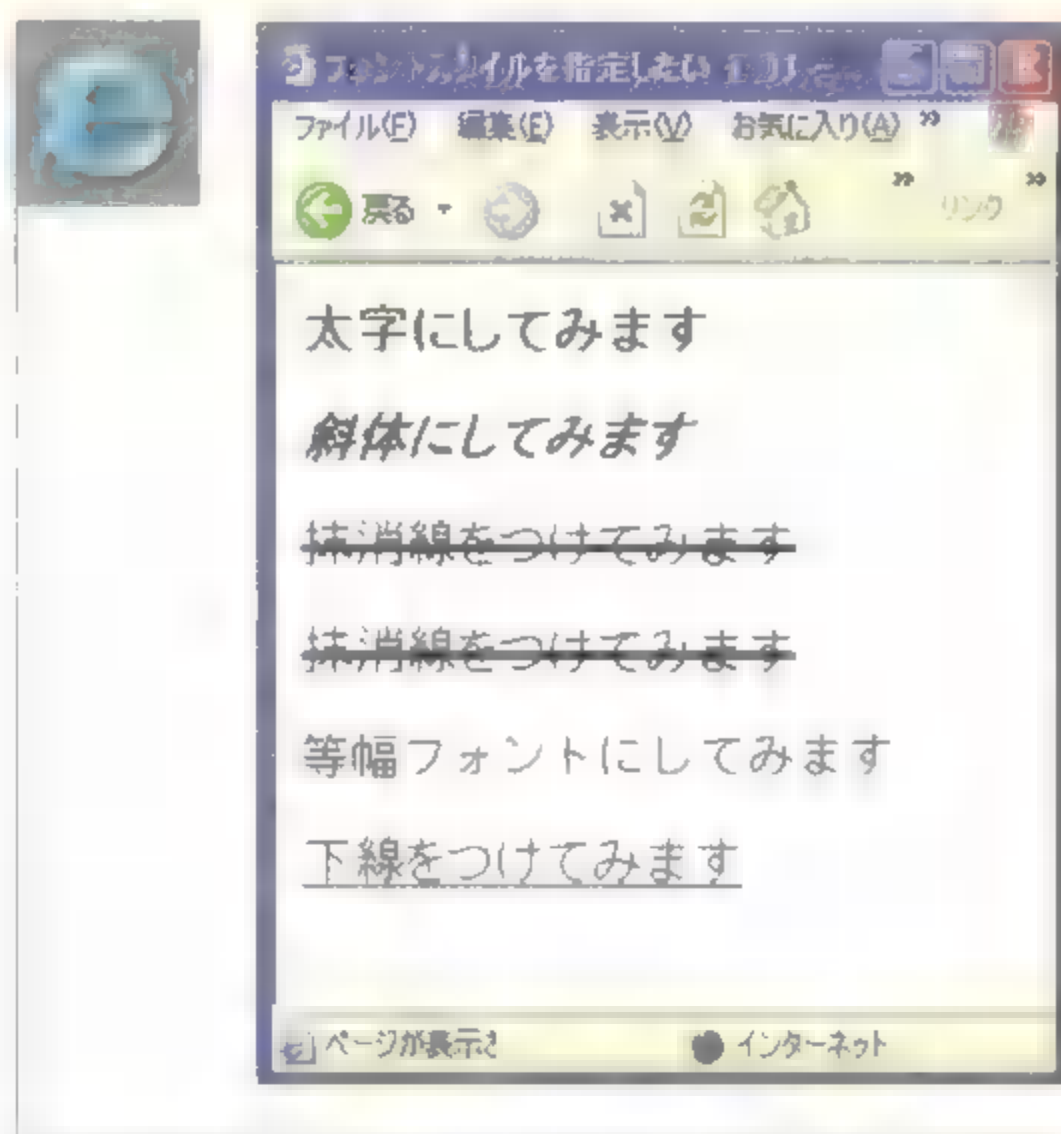
5 FONT

フォントスタイルを指定したい その1

 ～ 	太字
<i> ～ </i>	斜体
<strike> ～ </strike>	抹消線
<s> ～ </s>	抹消線
<tt> ～ </tt>	等幅
<u> ～ </u>	下線

それぞれ太字、斜体、抹消線付き、等幅、下線付きのフォントを指定します。
<strike>と<s>はどちらも同じ働きをもちます。

SOURCE

```
<p><b>太字にしてみます</b></p>
<p><i>斜体にしてみます</i></p>
<p><strike>抹消線をつけてみます</strike></p>
<p><s>抹消線をつけてみます</s></p>
<p><tt>等幅フォントにしてみます</tt></p>
<p><u>下線をつけてみます</u></p>
```

CSSによるテキストの装飾

スタイルシートを利用して同様に抹消線と下線を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
.strike      {text-decoration:line-through}
.underline   {text-decoration:underline}
</style>
<body>
<p class="strike">抹消線</p>
<p class="underline">下線</p>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

フォントスタイルを指定したいその2…………p.108
強調したい…………p.54

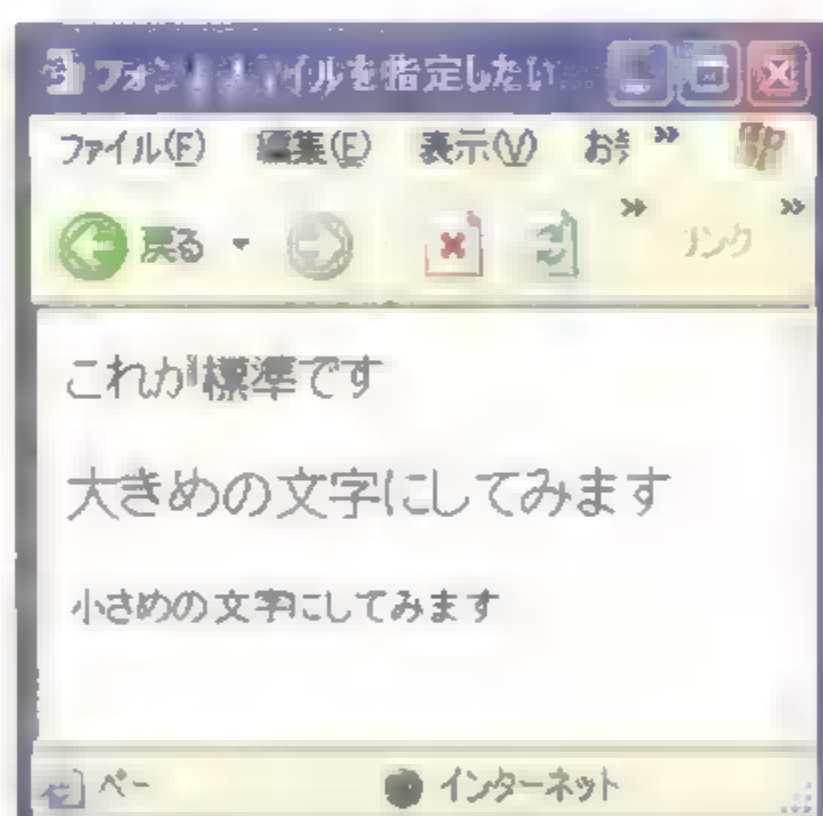
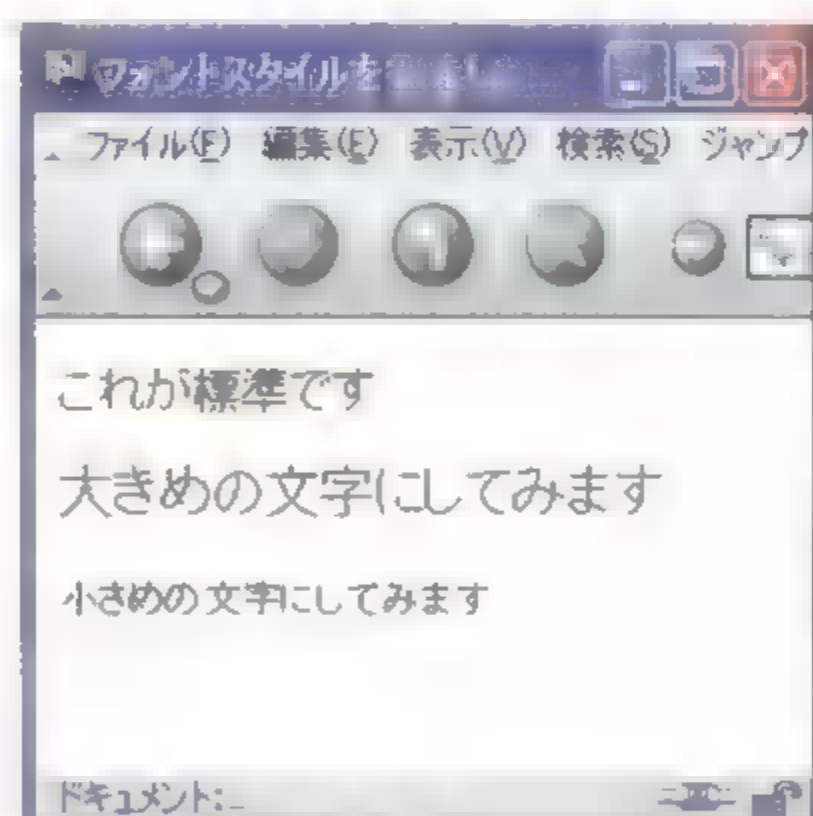
フォントスタイルを指定したい その2

<big> ～ </big> 大きめの文字

<small> ～ </small> 小さめの文字

<big>は大きめの、<small>は小さめのフォントで表示します。

SOURCE

```
<p> これが標準です <p>
<p><big> 大きめの文字にしてみます </big></p>
<p><small> 小さめの文字にしてみます </small></p>
```

▲［文字サイズ］を［中］に設定した場合の表示例

▲フォントサイズを［16］ピクセルに設定した場合の表示例

IE4	IE5	[illegible]	[illegible]	NN4	NN4.7	[illegible]
○	○	○	○	○	○	○

参照
フォントサイズを絶対値で指定したい ……………p.98
フォントサイズを相対値で指定したい その1 ……p100
フォントサイズを相対値で指定したい その2 ……p.102
フォントスタイルを指定したい その1 …………p.106

物理的か論理的か

Internet ExplorerやNetscapeを使っていると、太字やイタリック体など同じようなテキストの表示に遭遇することがあります。

次の2つの例をみてください。

注意　　　注意

どちらのケースもInternet ExplorerやNetscapeなど一般的なブラウザでは太字で表示されます。そのため、表示のされ方から理解して<b>も<strong>も同じような働きのタグだと思われることがあるかもしれません。しかし両者はまったく違う性質を持っています。

これは両方の要素が持つ意味を考えてみれば明らかになります。

<b>タグはBold、太字という意味です。つまり太字で表示せよとフォントのスタイルを具体的に指定しています。一方<strong>タグはStrong Emphasis、より強い強調の意味です。強調せよと指定はしていても、どのように強調するかという具体的な表示方法は指定していません。両者の間にはこのような違いがあるのです。

このような性質の差から、テキストに作用するいくつかの要素を次のように分類することができます。

フォント情報を物理的に指定するもの
b、i、strike、s、tt、u、big、small

テキストの構造上の情報を論理的に定義するもの
dfn、em、strong、cite、code、kbd、samp、var、abbr、acronym

物理的に指定する要素でタグ付けを行った場合、指定された表現ができない環境では効果がありません。しかし、論理的スタイルの要素でタグ付けした場合は、表示方法を定めていませんから、ユーザーの状況に応じて適切な表示を選択することが（理論上は）可能です。物理スタイルのいくつかの要素が非推奨（deprecated）になっているのはこのような特色が影響しています。

Internet ExplorerやNetscapeでは結果的に物理スタイル、論理スタイルの区別なく、太字やイタリック体、等幅などで表示されるので理解しにくいかもしれません。しかし、ここにあげた要素の（もちろんその他の要素に関しても、ですが）ブラウザに表示された様子ではなく、まずはそれぞれの要素が持つ意味を考えてゆくと、この違いも理解でき、より正しいHTML文書を作成できるようになります。

7 FONT

特殊な文字を表示したい

&番号;
&キーワード;

タグの表記に用いられている記号（&、<、>など）や、キーボードでは入力できない文字・記号などの特殊な文字をフラウザに表示するには、「å」のように番号でコードを指定するか、「<」のように短い名前で指定します。

例：表示したい文字	キーワードでの指定	番号での指定
<	<	<
>	>	>
©	©	©
®	®	®

HTML4.01では特殊な文字は「文字参照」として、「ISO 8859-1」「ギリシア文字・シンボル・数学記号」「その他の特殊な文字」の3種類に分かれて定義されています（p.112参照）。ただし、実際に表示可能かどうかはOSやブラウザのバージョン、設定、表示フォントなどによって異なります。またキーワードは大文字小文字を区別する点にも注意してください。

SOURCE

```
<p>
ホームページでタグの解説をするときは、いきなり<b>タグで文字の強調</b>タグで終了です、なんてやってもダメですよ。....ホラね
</p>
<p>
文字を強調するには、&lt;b&gt;タグを使います。強調の終了タグは&lt;/b&gt;です。って
こうやってやるんです。
</p>
```

文字参照
ISO 8859-1

文字	数値参照	実体参照
¡	¡	¡
¢	¢	¢
£	£	£
¤	¤	¤
¥	¥	¥
¦	¦	¦ or &brkbar;
§	§	§
¨	¨	¨ or ¨
©	©	©
ª	ª	ª
«	«	«
¬	¬	¬
®	®	®
¯	¯	¯ or &hibar;
°	°	°
±	±	±
²	²	²
³	³	³
´	´	´
µ	µ	µ
¶	¶	¶
·	·	·
¸	¸	¸
¹	¹	¹
º	º	º
»	»	»
¼	¼	¼
½	½	½
¾	¾	¾
¿	¿	¿
À	À	À
Á	Á	Á
Â	Â	Â
Ã	Ã	Ã
Ä	Ä	Ä
Å	Å	Å
Æ	Æ	Æ
Ç	Ç	Ç
È	È	È
É	É	É
Ê	Ê	Ê
Ë	Ë	Ë
Ì	Ì	Ì
Í	Í	Í
Î	Î	Î
Ï	Ï	Ï
Ð	Ð	Ð
Ñ	Ñ	Ñ
Ò	Ò	Ò
Ó	Ó	Ó
Ô	Ô	Ô
Õ	Õ	Õ
Ö	Ö	Ö
×	×	×
Ø	Ø	Ø
Ù	Ù	Ù
Ú	Ú	Ú
Û	Û	Û
Ü	Ü	Ü
Ý	Ý	Ý
Þ	Þ	Þ
ß	ß	ß
à	à	à
á	á	á
â	â	â
ã	ã	ã
ä	ä	ä
å	å	å
æ	æ	æ
ç	ç	ç
è	è	è
é	é	é
ê	ê	ê
ë	ë	ë
ì	ì	ì
í	í	í
î	î	î
ï	ï	ï
ð	ð	ð
ñ	ñ	ñ
ò	ò	ò
ó	ó	ó
ô	ô	ô
õ	õ	õ
ö	ö	ö
÷	÷	÷
ø	ø	ø
ù	ù	ù
ú	ú	ú
û	û	û
ü	ü	ü
ý	ý	ý
þ	þ	þ
ÿ	ÿ	ÿ

ギリシア文字・シンボル・数学記号

文字	実体参照	数値参照
ƒ	ƒ	ƒ
Α	Α	Α
Β	Β	Β
Γ	Γ	Γ
Δ	Δ	Δ
Ε	Ε	Ε
Ζ	Ζ	Ζ
Η	Η	Η
Θ	Θ	Θ
Ι	Ι	Ι
Κ	Κ	Κ
Λ	Λ	Λ
Μ	Μ	Μ
Ν	Ν	Ν
Ξ	Ξ	Ξ
Ο	Ο	Ο
Π	Π	Π
Ρ	Ρ	Ρ
Σ	Σ	Σ
Τ	Τ	Τ
Υ	Υ	Υ
Φ	Φ	Φ
Χ	Χ	Χ
Ψ	Ψ	Ψ
Ω	Ω	Ω
α	α	α
β	β	β
γ	γ	γ
δ	δ	δ
ε	ε	ε
ζ	ζ	ζ
η	η	η
θ	θ	θ
ι	ι	ι
κ	κ	κ
λ	λ	λ
μ	μ	μ
ν	ν	ν
ξ	ξ	ξ
ο	ο	ο
π	π	π
ρ	ρ	ρ
ς	ς	ς
σ	σ	σ
τ	τ	τ
υ	υ	υ
φ	φ	φ
χ	χ	χ
ψ	ψ	ψ
ω	ω	ω

文字	実体参照	数値参照
•	•	•
…	…	…
′	′	′
″	″	″
‾	‾	‾
⁄	⁄	⁄
™	™	™
←	←	←
↑	↑	↑
→	→	→
↓	↓	↓
↔	↔	↔
⇒	⇒	⇒
⇔	⇔	⇔
∀	∀	∀
∂	∂	∂
∃	∃	∃
∇	∇	∇
∈	∈	∈
∋	∋	∋
∏	∏	∏
∑	∑	−
−	−	−
√	√	√
∝	∝	∝
∞	∞	∞
∠	∠	∠
⊥	∧	⊥
∩	∩	∩
∪	∪	∪
∫	∫	∫
∴	∴	∴
≠	≠	≠
≡	≡	≡
≤	≤	≤
≥	≥	≥
⊂	⊂	⊂
⊃	⊃	⊃
⊆	⊆	⊆
⊇	⊇	⊇
⊥	⊥	⊥
〈	⟨	〈
〉	⟩	〉
◊	◊	◊
♠	♠	♠
♣	♣	♣
♥	♥	♥
♦	♦	♦

その他の特殊な文字

文字	実体参照	数値参照
"	"	"
&	&	&
<	<	<
>	>	>
Œ	Œ	Œ
œ	œ	œ
Š	Š	Š
š	š	š
Ÿ	Ÿ	Ÿ
ˆ	ˆ	ˆ
˜	˜	˜
		‌	‌
		‍	‍
	‎	‎
	‏	‏
–	–	–
—	—	—
‘	‘	‘
’	’	’
‚	‚	‚
“	“	“
”	”	”
„	„	„
†	†	†
‡	‡	‡
‰	‰	‰
‹	‹	‹
›	›	›

フォント

1 LIST

リストを作りたい

非序列リスト

 ～

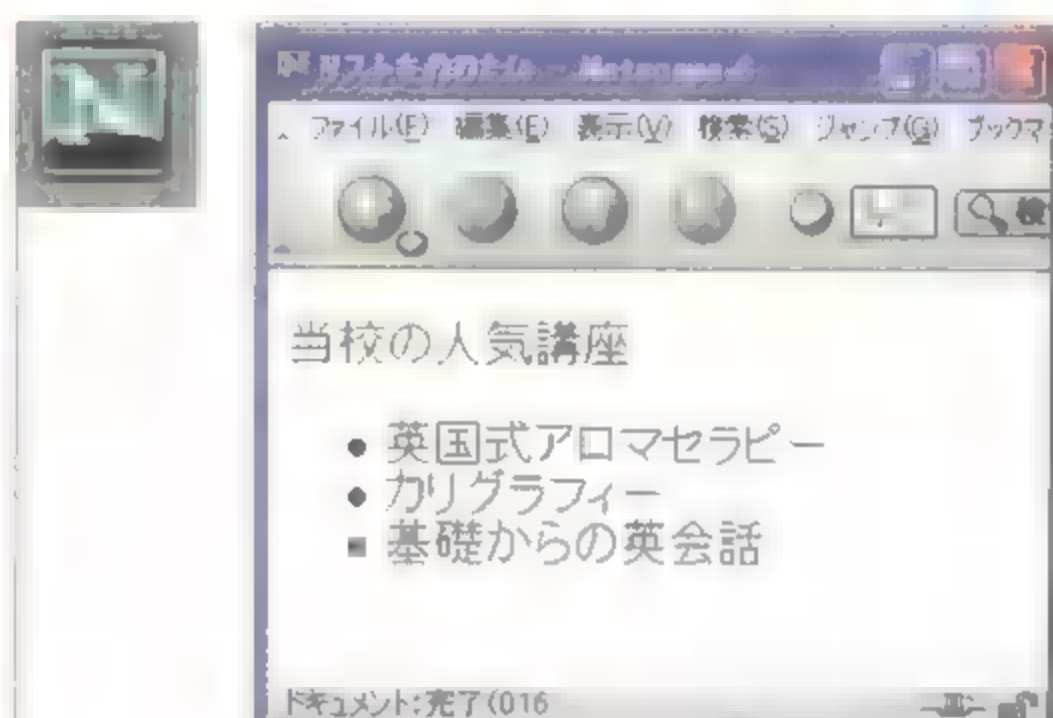
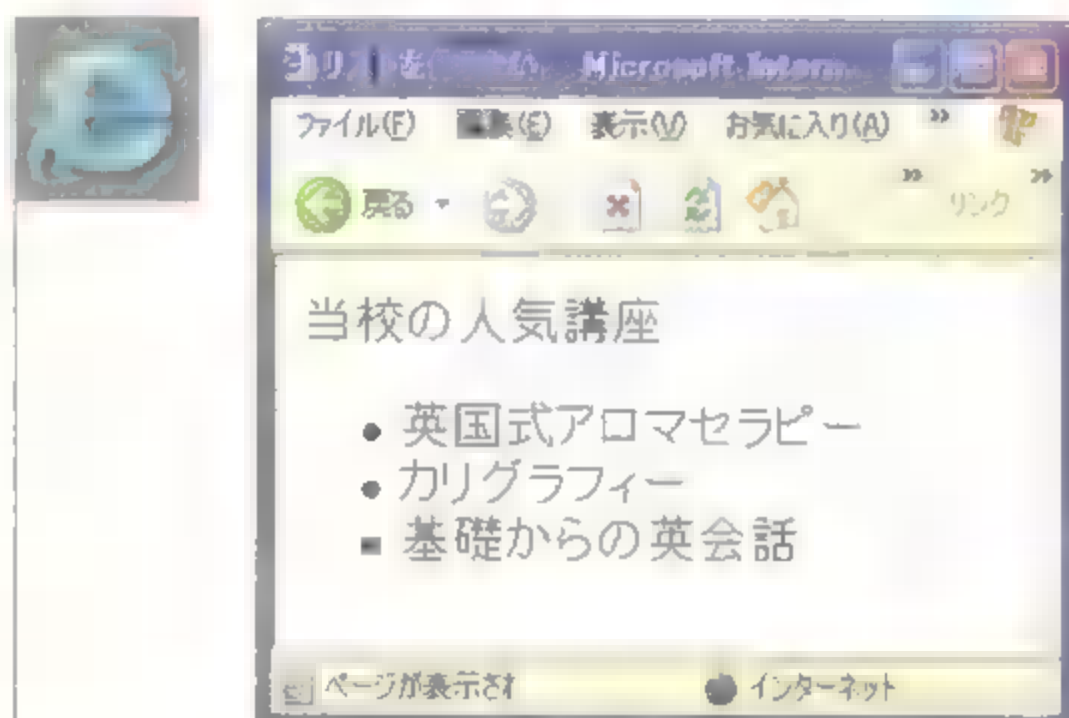
 タグと タグでその範囲がリストであることを示します。項目の順序が重要でない箇条書きを作成したい場合に使用し、行頭の記号に「・」を用いたリストが形成されます。リスト表示したい項目はそれぞれ <li> タグと タグに挟んで並べます。

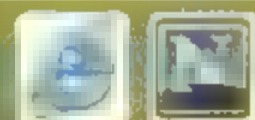
一般的には上下にスペースがあけられ、項目ごとにマーク（デフォルトは黒丸）がつき、リスト全体はインデント（字下げ）して表示されます。

リスト

SOURCE

```
<p> 当校の人気講座 </p>
<ul>
  <li> 英国式アロマセラピー </li>
  <li> カリグラフィー </li>
  <li> 基礎からの英会話 </li>
</ul>
```

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
○	○	○	○	○	○	○

参照
番号付きリストを作りたい……………………p.115
リストのマークを変更したい…………………p.116

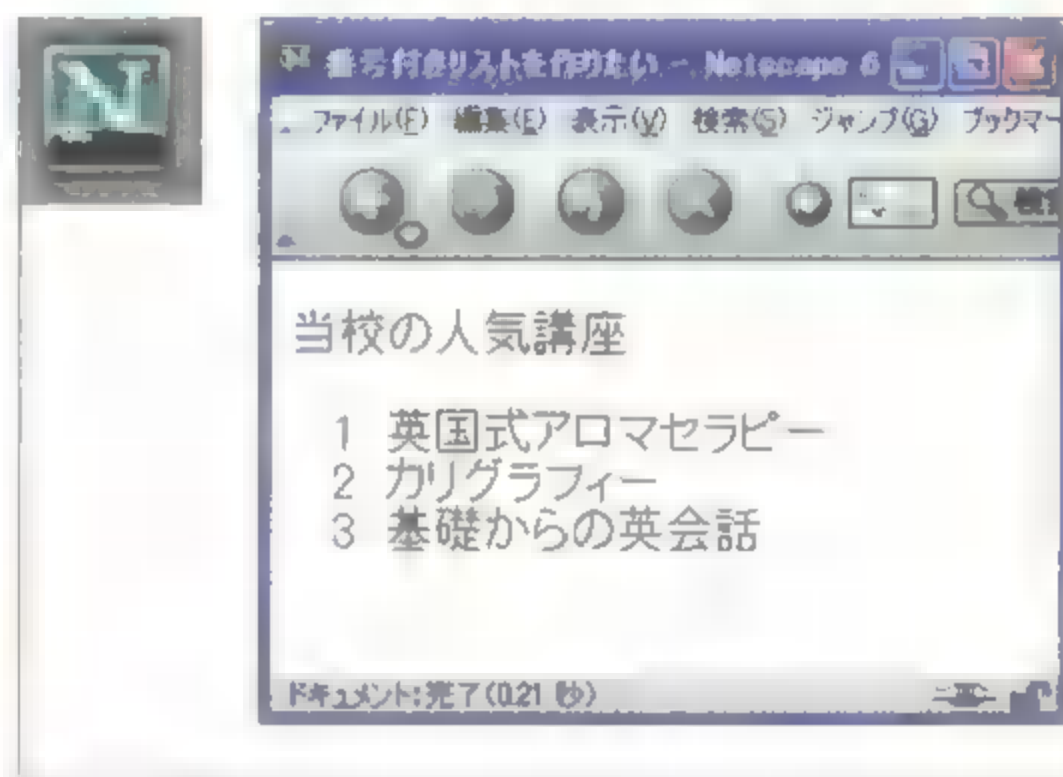
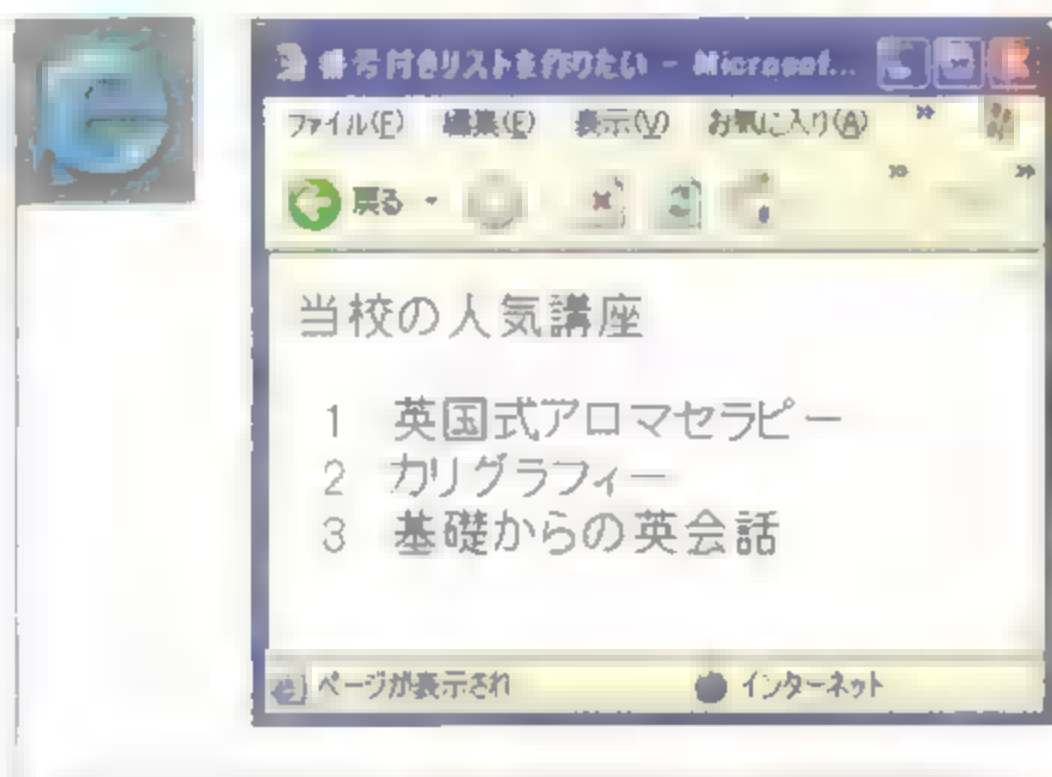
LIST

番号付きリストを作りたい

序列リスト

 〜

 タグと タグでその範囲が番号付きのリストであることを示します。順番が重要なリストを作成したい場合に使用します。行頭の記号が[illegible]の数字になって表示されます。

 タグによるリストと同様、一般的なブラウザでは項目がインデントされ、上下にスペースをあけて表示されます。

```
<p>当校の人気講座</p>
<ol>
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li>基礎からの英会話</li>
</ol>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

番号付きリストのマークを変更したい…………p.118
リストの[illegible]番号を変更したい…………p.120
リストの[illegible]を変更したい…………p.122

3 LIST

リストのマークを変更したい

非序列リストのマーク変更

```
<ul type="★"><li> ~ </li></ul>
<ul><li type="★"> ~ </li></ul>
```

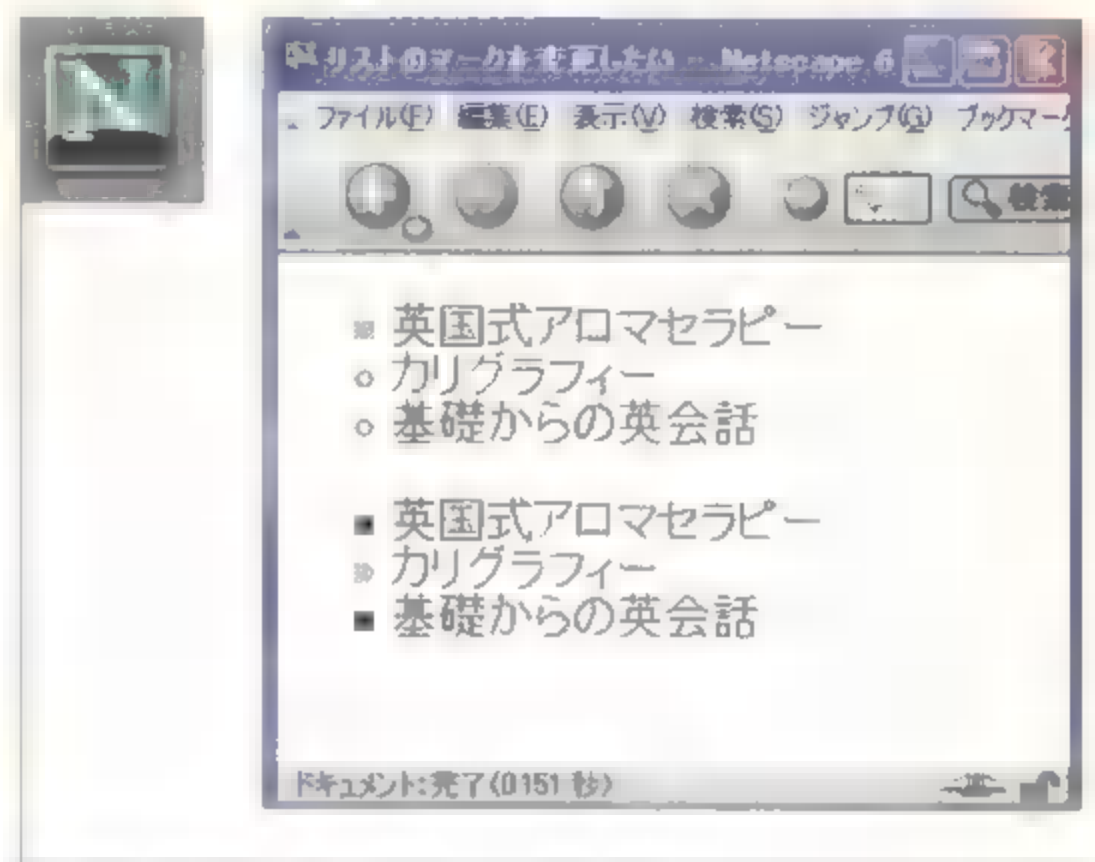
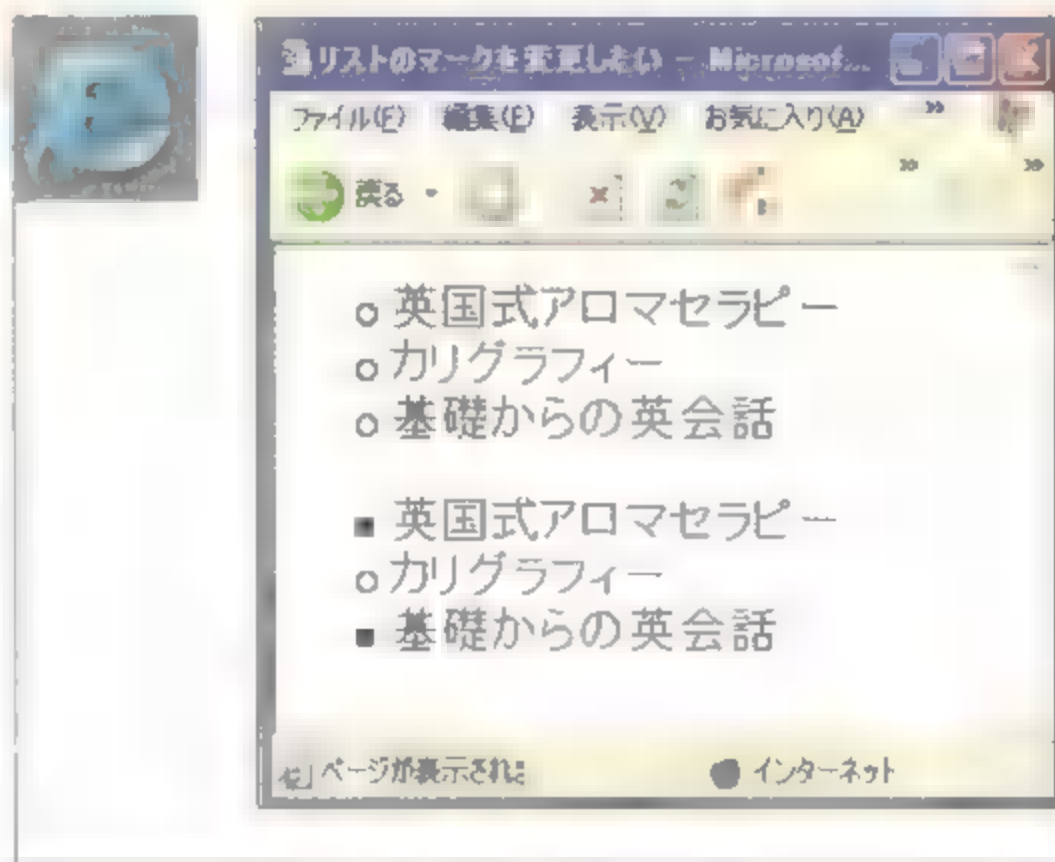
★……disc、circle、square

 タグでは、type 属性を使って、リストのマークを変更することができます。

 の場合は disc（黒丸）、circle（白丸）、square（四角／一般的なブラウザでは黒く塗りつぶされた四角で表現されます）の3種類から指定します。

 タグに type 属性を指定した場合は、指定した項目のマークだけが変更されます。この性質を応用すると、項目ごとに違うマークをつけることも可能です。

SOURCE

```
<ul type="circle">
  <li> 英国式アロマセラピー </li>
  <li> カリグラフィー </li>
  <li> 基礎からの英会話 </li>
</ul>
<ul>
  <li type="disc"> 英国式アロマセラピー </li>
  <li type="circle"> カリグラフィー </li>
  <li type="square"> 基礎からの英会話 </li>
</ul>
```

CSSによるリストのマークの変更

スタイルシートを利用して同様にリストのマークを変更する場合は、次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
ul    {list-style-type:circle}
</style>
<body>
<ul>
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li style="list-style-type:square">基礎からの英会話</li>
</ul>
</body>
```

[illegible]	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.[illegible]	N6.[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

リストを作りたい……………………………p.114

番号付きリストのマークを変更したい

序列リストのマーク変更

```
<ol type="★"><li> ~ </li></ol>
<ol><li type="★"> ~ </li></ol>
```

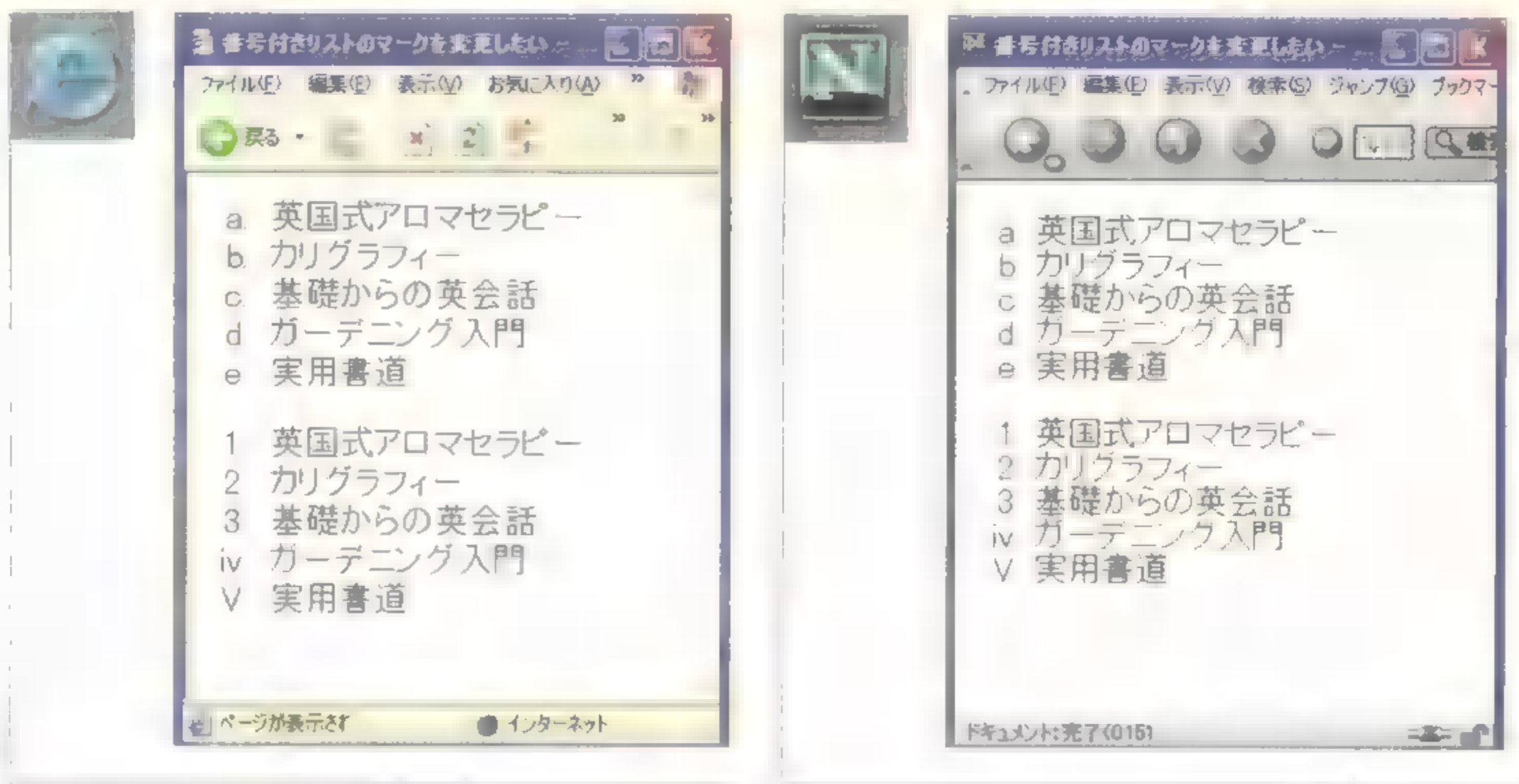
★……1、a、A、i、I

タグにtype属性を指定すると、リストのマークを変更することができます。1、a、A、i、Iのいずれかの値を指定すると、次のようにマークが変更されます。

1	アラビア数字（1, 2, 3, ...）
a	小文字アルファベット（a, b, c, ...）
A	大文字アルファベット（A, B, C, ...）
i	小文字ローマ数字（i, ii, iii, ...）
I	大文字ローマ数字（I, II, III, ... ）

タグにtype属性を指定した場合は、指定した項目のマークだけが変更されます。

SOURCE

```
<ol type="a">
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li>基礎からの英会話</li>
  <li>ガーデニング入門</li>
  <li>実用書道</li>
</ol>
<ol>
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li>基礎からの英会話</li>
  <li type="i">ガーデニング入門</li>
  <li type="I">実用書道</li>
</ol>
```

CSS による番号付きリストのマークの変更

スタイルシートを利用して同様に番号付きリストのマークを変更する場合は、次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本[illegible]「スタイルシート辞典 第3版」を参照してください。

```
<style type="text/css">
ul   {list-style-type:lower-alpha}
</style>
<body>
<ul>
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li>基礎からの英会話</li>
  <li style="list-style-type:lower-roman">ガーデニング入門</li>
  <li style="list-style-type:upper-roman">実用書道</li>
</ul>
</body>
```

	IE4	[illegible]	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

番号付きリストを作りたい……………………p.115　リストの連番を変更したい……………………p.122
リストの開始番号を変更したい…………………p.120

リスト

DEPRECATED

リストの開始番号を変更したい

序列リストの開始番号変更

```
<ol start="★"><li> ～ </li></ol>
```

★……開始番号

start 属性を使うと、 タグで作成したリストの開始番号を変更できます。

type 属性と併用することもでき、たとえば、<ol type="a" start ="3"> とした場合、開始値=3 は c となります。

SOURCE

```
<ol start="2">
  <li> 英国式アロマセラピー </li>
  <li> カリグラフィー </li>
  <li> 基礎からの英会話 </li>
  <li> ガーデニング入門 </li>
  <li> 実用書道 </li>
</ol>
<ol type="I" start="2">
  <li> 英国式アロマセラピー </li>
  <li> カリグラフィー </li>
  <li> 基礎からの英会話 </li>
  <li> ガーデニング入門 </li>
  <li> 実用書道 </li>
</ol>
```

リストの連番を変更したい

序列リストの連番変更

```
<ol><li value="★"> ～ </li></ol>
```

★……開始番号

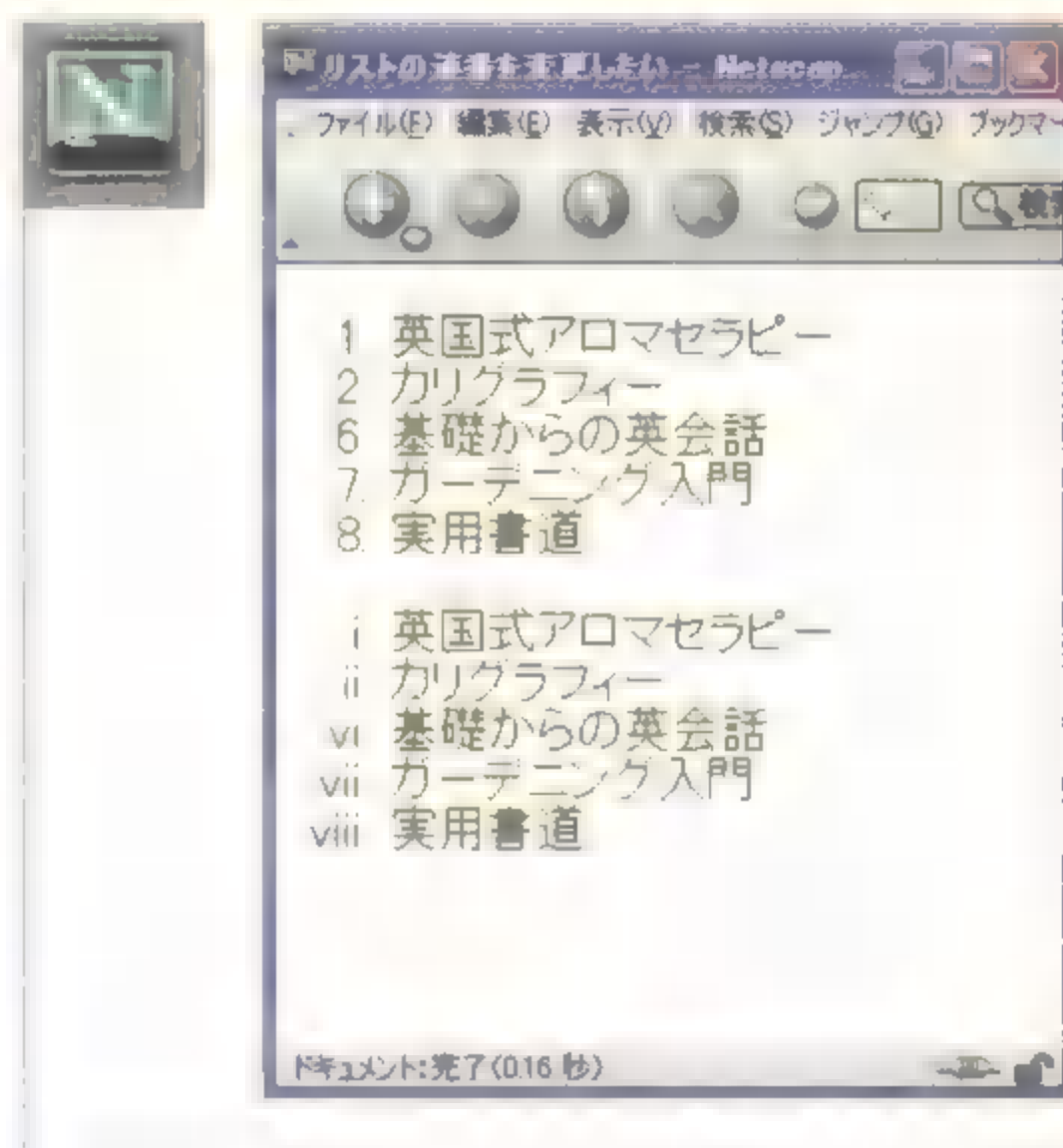
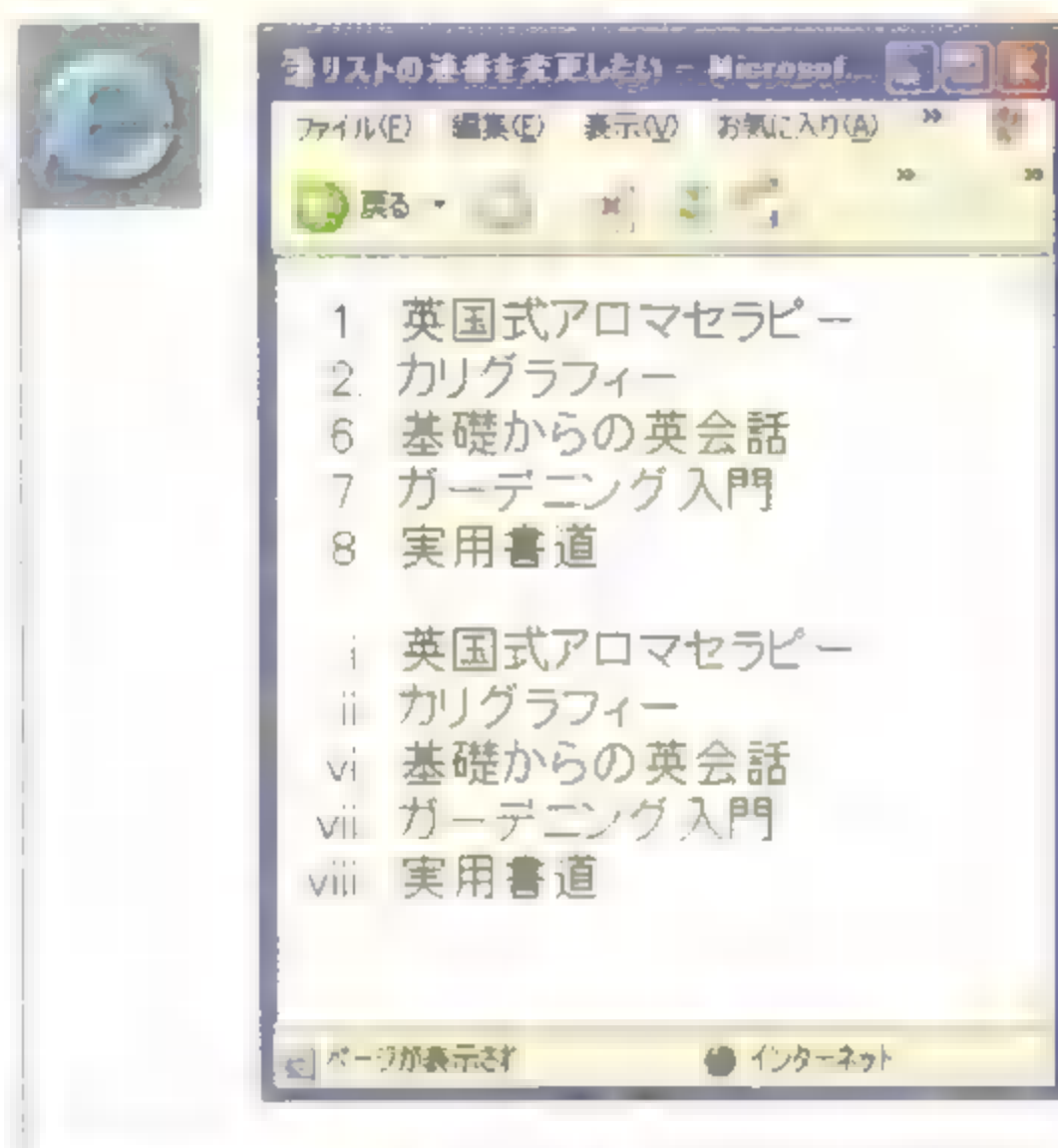
タグにvalue属性をつけ、リスト項目の番号を指定します。その次の項目からは、value属性で設定した番号からの連番になります。

通常はデフォルトで使われる整数を変更することになりますが、type属性と併用すれば、type属性で指定した値が変更されます。たとえば、<ol type="a"><li value="4">とした場合、番号はdとなります。

この属性は<ol>タグ内でのみ使用します。

SOURCE

```
<ol>
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li value="6">基礎からの英会話</li>
  <li>ガーデニング入門</li>
  <li>実用書道</li>
</ol>
<ol type="i">
  <li>英国式アロマセラピー</li>
  <li>カリグラフィー</li>
  <li value="6">基礎からの英会話</li>
  <li>ガーデニング入門</li>
  <li>実用書道</li>
</ol>
```

compact属性のみDEPRECATED

用語の定義をリスト表示したい

<dl><dt> ～ </dt><dd> ～ </dd></dl>

<dl compact><dt> ～ </dt><dd> ～ </dd></dl>

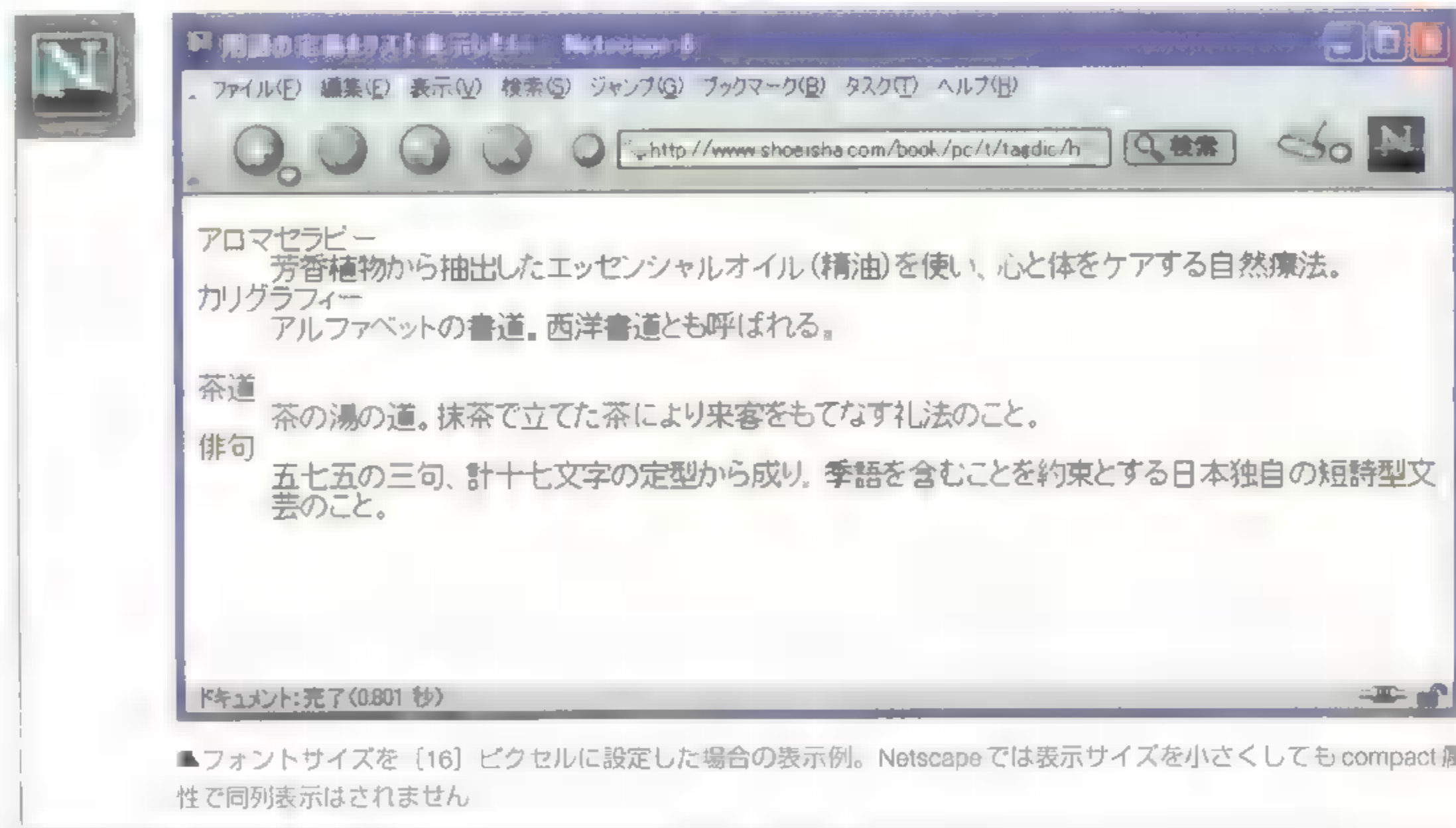
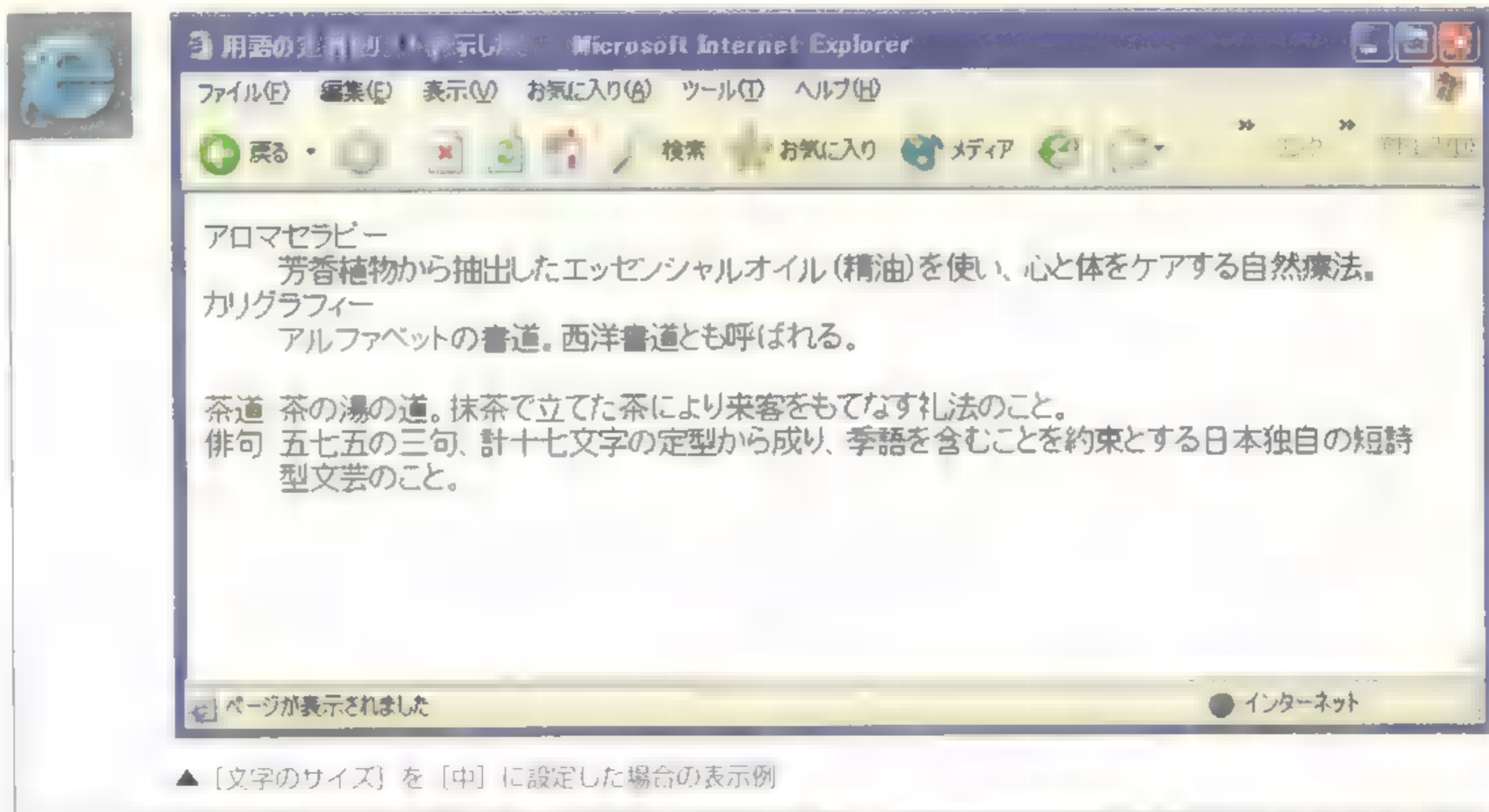
<dl>タグと</dl>タグで定義リストを設定します。定義リストとは、定義したい用語とその用語の説明とで形成されたリストのことです。<dt>に定義したい用語を記述して、その用語の説明を<dd>に記述します。この<dt>と<dd>はセットで使用しますが、<dl>と</dl>タグの間に複数並べることができます。

compact属性は、この定義リストをより小さく表示するよう指定するもので、用語が短いときにのみ有効です。ただし、[illegible]しない属性（タグ）に指定されています。表示方法はブラウザによりますが、通常は用語と説明が同列に表示されます。

SOURCE

```
<dl>
  <dt>アロマセラピー</dt>
  <dd>芳香植物から抽出したエッセンシャルオイル（精油）を使い、心と体をケアする自
  然療法。</dd>
  <dt>カリグラフィー</dt>
  <dd>アルファベットの[illegible]。西洋書道とも呼ばれる。</dd>
</dl>
<dl compact>
  <dt>茶道</dt>
  <dd>茶の湯の道。抹茶で立てた茶により来客をもてなす礼法のこと。</dd>
  <dt>俳句</dt>
  <dd>五七五の三句、計十七文字の定型から成り、季語を含むことを約束とする日本独自
  の短詩型文芸のこと。</dd>
</dl>
```

▲［文字のサイズ］を［中］に設定した場合の表示例

▲フォントサイズを［16］ピクセルに設定した場合の表示例。Netscapeでは表示サイズを小さくしてもcompact属性で同列表示はされません

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	○	○	○

※どちらのブラウザとも表示文字サイズが大きいと、compact属性で用語と説明が同列表示されない場合があります

IMAGE

画像を表示したい

```
<img src="★">
```

指定した場所に、画像を埋め込みます。★には画像ファイルのURLを記述します。

なお、画像を埋め込む場合にはalt属性（p.128参照）も必ず指定することになっていますので注意してください。

SOURCE

```
<p>
<img src="4birds.jpg">
</p>
```

イメージ

画像掲載時にはサイズに注意

最近は通信環境も良くなり、比較的大きなサイズの文書や画像を扱うこともそう難しいことではなくなりました。しかし，アクセスしてくる人の環境はさまざまだということを忘れないようにしましょう。画像を使う場合には、色数を落としたり圧縮率を上げるなどしてファイルサイズをなるべく小さくしたほうがよいでしょう。最初は小さい画像（サムネイル）を表示しておき、大きな画像は別のページに飛んで見てもらうというのもひとつの手です。その際、ファイルサイズも書き添えておくと、なお親切です。

また、画像を表示できないブラウザを使用している人や、画像を表示しない設定でアクセスしてくる人がいることも忘れてはなりません。これについては次項を参考にしてください。

<img>タグの今後

W3Cでは<img>タグの代わりに、<object>タグを用いる方向で標準化の動きが進んでいます（p.281参照）。

2 IMAGE

画像の代わりのテキストを指定したい

<img src="★" alt="☆">

★ ••••••画像ファイル名（URL）
☆ ••••••画像の代わりのテキスト

画像を表示できないブラウザのために、画像の代わりに表示されるテキストを指定するのが alt 属性です。画像を読み込まないように設定しているブラウザや、画像を表示できるブラウザであっても画像を読み込むまでの時間、また画像の読み込みに失敗した場合にもこのテキストが表示されます。

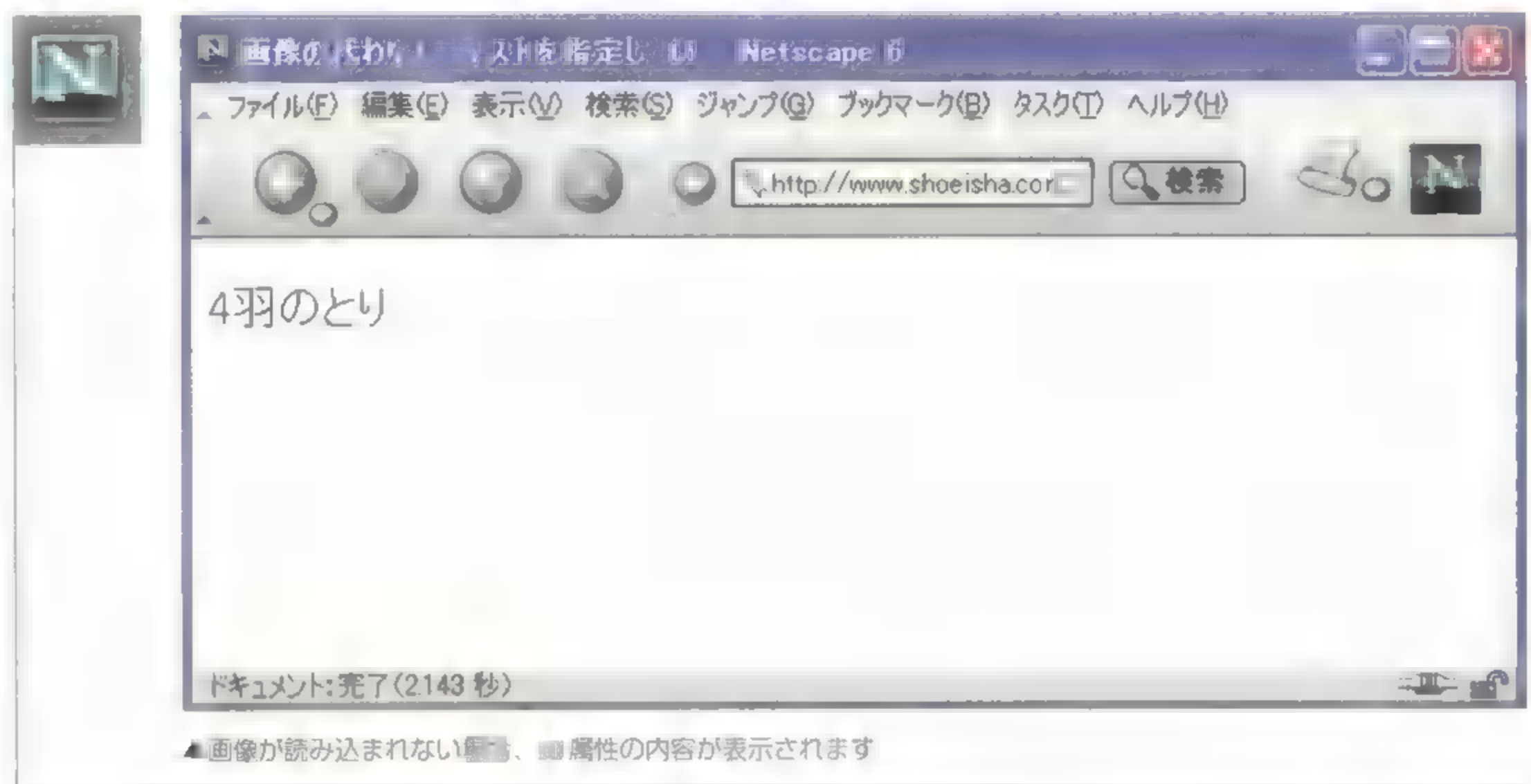
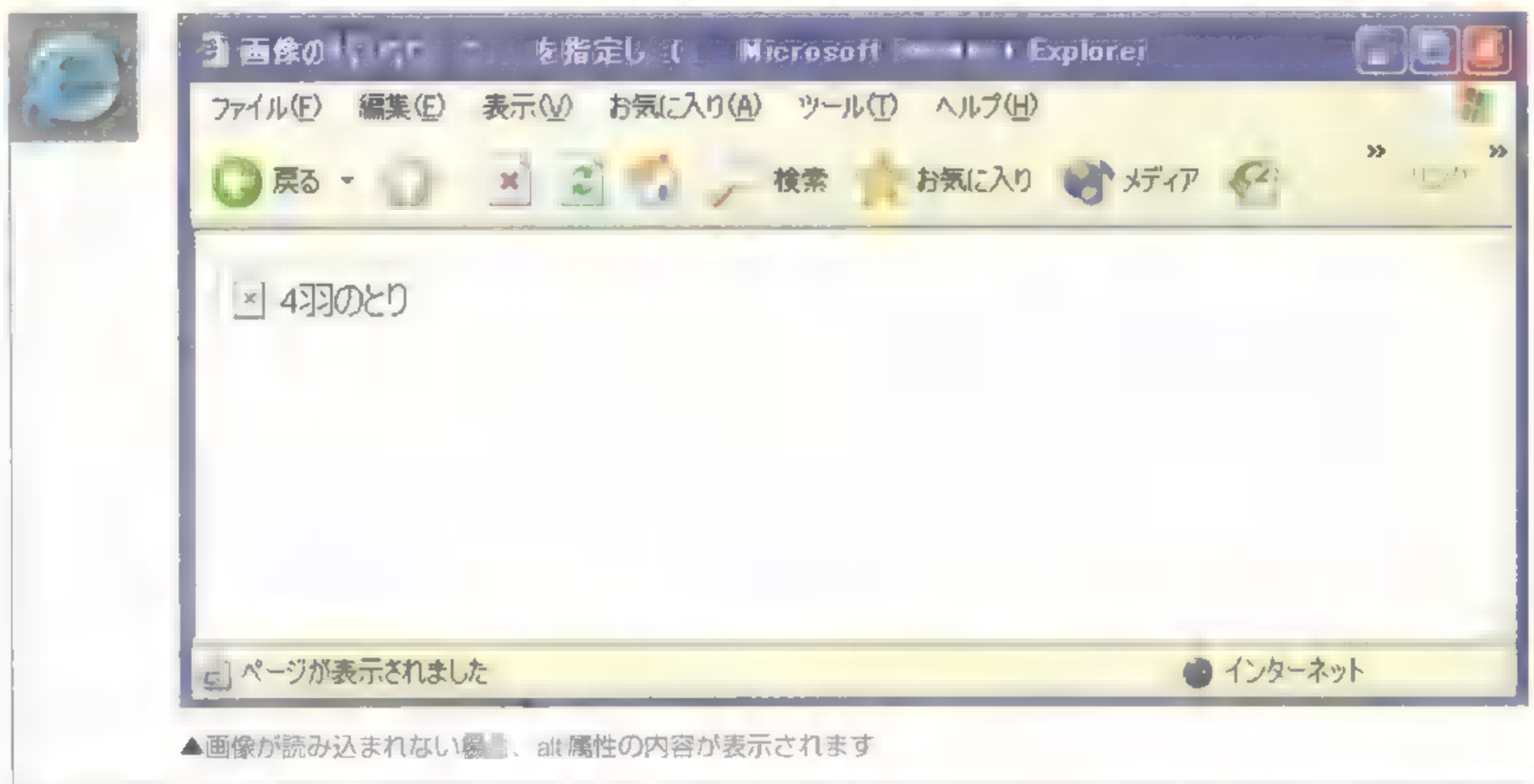
HTML4.01 では alt 属性を必ず設定することになっていますが、画像の代用となるテキストですから、関係のないテキストや無意味なテキストなどをおかないよう注意してください。

イメージ

SOURCE

```
<p>
<img src="4birds.jpg" alt="4羽のとり">
</p>
```

▲画像が読み込まれない場合、alt属性の内容が表示されます

▲画像が読み込まれない場合、alt属性の内容が表示されます

alt属性は必須

HTML4.01から画像に対して必ずalt属性を指定することになりました。

関係のないテキストや無意味なテキストをおかない、というのは、つまり画像の代わりにそのテキストが表示されても前後の文意が通るようにしておくということです。アクセスしてくる人の中には画像の表示をオフにしている人もいますし、最初からテキストしか表示しないブラウザも存在します。そうしたブラウザで表示したときにもおかしくないテキストを設定することを考えてください。代わりのテキストを特に設定する必要がない画像の場合には「alt=""」としておけばよいでしょう。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

3 IMAGE

画像のサイズを指定したい

```
<img src="★" width="◆" height="◇">
```

★••••••画像ファイル名（URL）
◆••••••幅（ピクセルまたは％）
◇••••••高さ（ピクセルまたは％）

画像の表示サイズを指定するときには、width 属性、height 属性を使用します。

ピクセルでは画像のサイズを直接指定し、パーセント（％）ではウインドウの大きさに対する割合で指定します。したがってパーセントでは画像のサイズは相対的になり、ウインドウのサイズに左右されます。width 属性、height 属性を指定しない場合は画像本来のサイズで表示されます。

イメージ

SOURCE

```
<p>
<img src="birds3.jpg" width="200" height="200" alt="">
<img src="birds3.jpg" width="90" height="250" alt="">
<img src="birds3.jpg" width="25%" height="20%" alt="">
</p>
```

画像サイズ指定のメリット

width、height 属性は必須の属性とはされていませんが、これらを指定しておけば画像のレイアウトをより速く確定できるため、読み込みから表示までの時間を短縮することができます。なるべく指定するようにしましょう。

▲ピクセル指定では絶対的、パーセント指定ではウィンドウの大きさに対して相対的な指定となります

▲ピクセル指定では絶対的、パーセント指定ではウィンドウの大きさに対して相対的な指定となります

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

※Netscape 6.0ではパーセントによる指定が不安定です

4 IMAGE

DEPRECATED

画像の枠線を設定したい

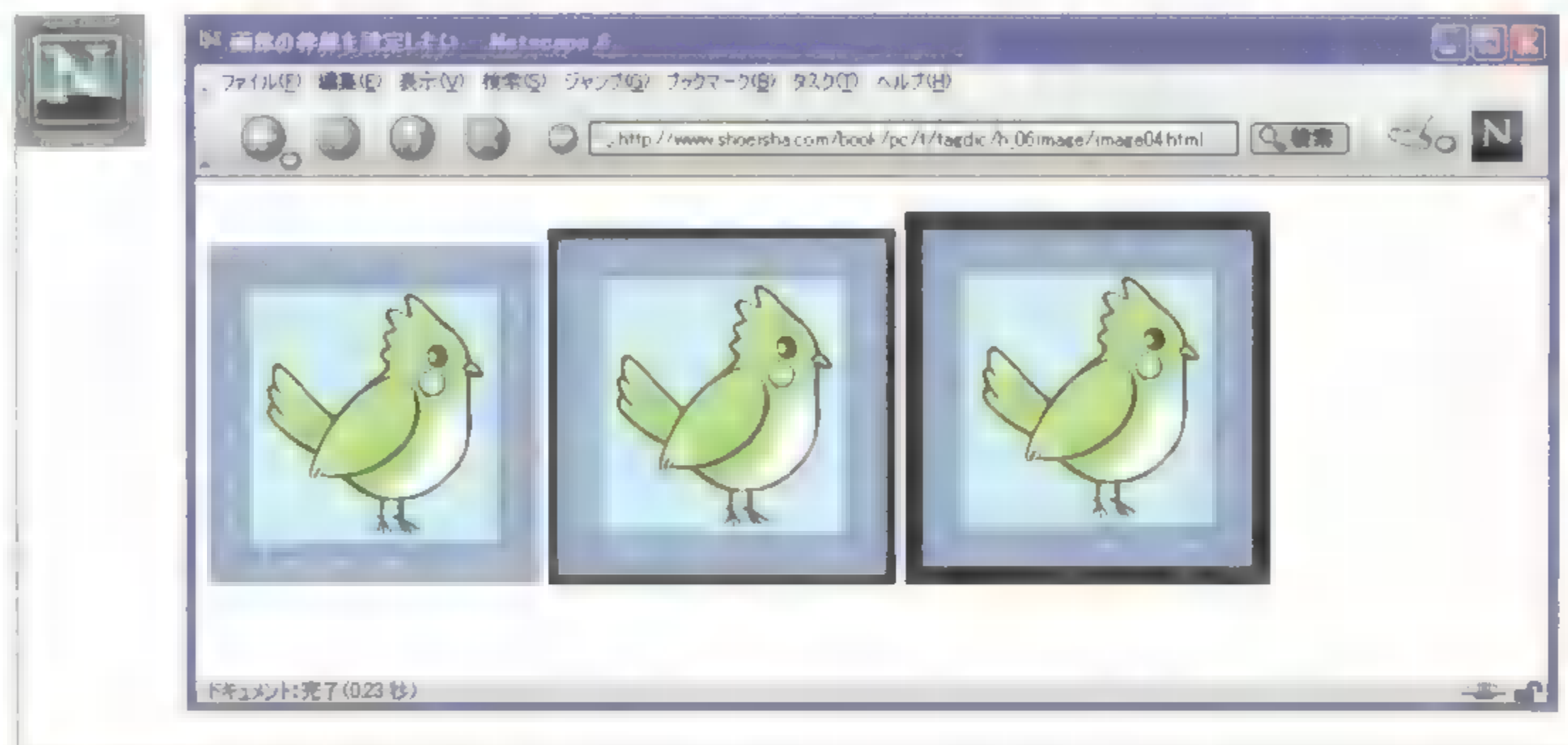
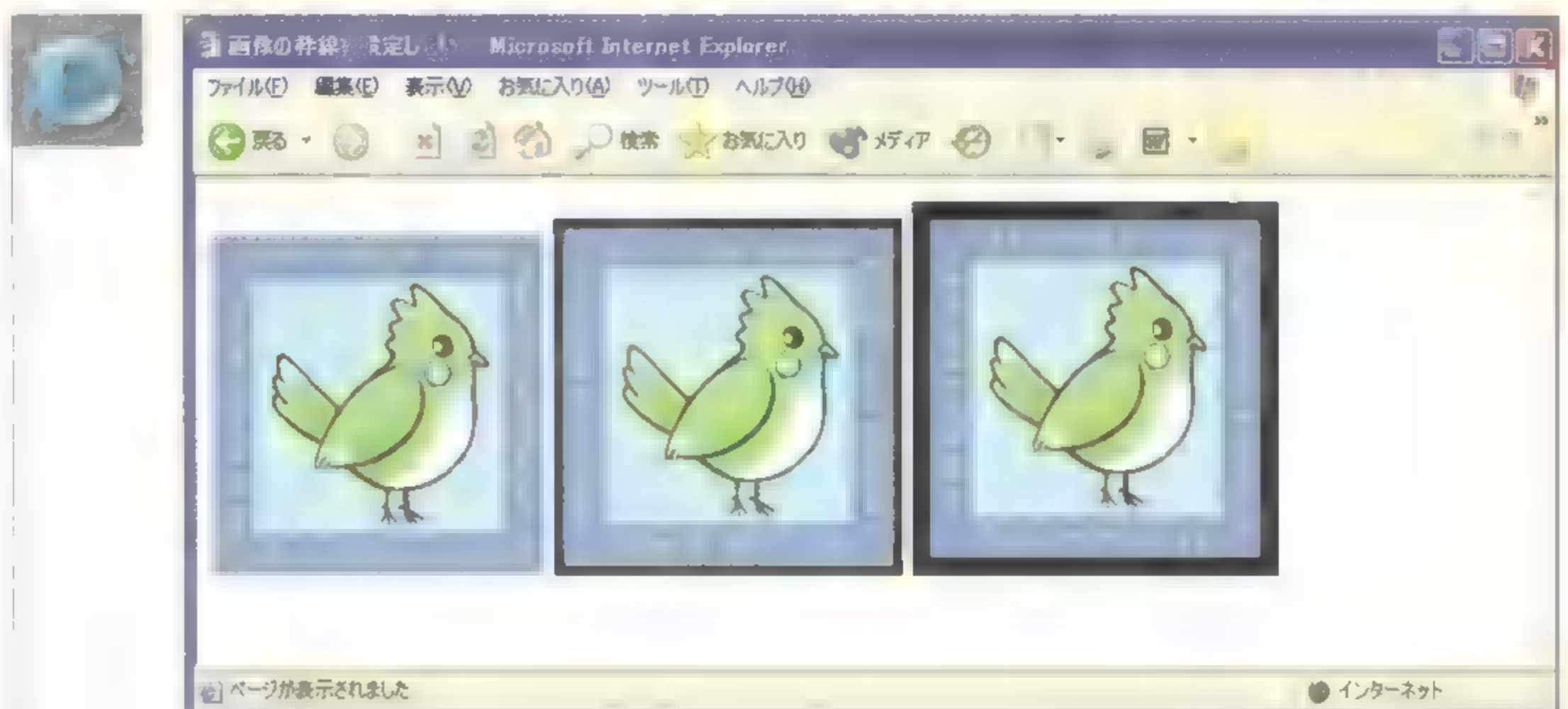
```
<img src="★" border="☆">
```

★••••••画像ファイル名（URL）
☆••••••枠線の太さ （ピクセル）

一般的には画像の周りに枠線は引かれません。画像を枠線で囲む場合にはborder属性を使い、線の太さをピクセルで指定します。

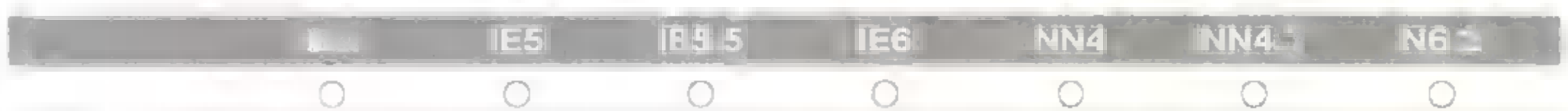
画像にリンクを設定したときに表示される枠線の有無や太さも、このborder属性で変更することができます。ただし枠線の色の指定はできません。

```
<p>
<img src="birds3.jpg" border="0" width="200" height="200" alt="">
<img src="birds3.jpg" border="5" width="200" height="200" alt="">
<img src="birds3.jpg" border="10" width="200" height="200" alt="">
</p>
```

イメージ

CSSによる画像の枠線の指定

スタイルシートを利用して同様に枠線の有無や太さを指定する場合は、一例として次のようになります。width、height、alt属性については紙面の都合で省略しています。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<p>
<a href="../test.html"><img src="birds3.jpg" style="border-width:0"></a>
<img src="birds3.jpg" style="border-width:medium">
<img src="birds3.jpg" style="border-width:10px">
</p>
```

	[illegible]	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4[illegible]	N6[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

リンクを設定したい……………………………p.146

テキストとの並び方を指定したい

<img src="★" align="☆">

★……画像ファイル名（URL）
☆……top、middle、bottom

通常、画像は前後のテキストと一緒に、ひとつの行の中に配置されます。align属性を使用すると、その際の画像とテキストの並べ方を指定することもできます。

top	画像の上部と周囲のテキストの上部を揃える
middle	画像の中央と周囲のテキストのベースラインを揃える
bottom	画像の下部と周囲のテキストのベースラインを揃える（デフォルト）

画像をひとつの行に含めるため、当然のことながらその前後のテキストも1行分しか表示されません。1行に収まりきらない長い文章などは画像の下に送られます。画像の隣に複数行のテキストを並べたいときは、left、right（次項参照）を指定します。

```
<p>
<img src="birds3.jpg" width="200" height="200" align="top" alt="">
top を指定
</p>
<p>
<img src="birds3.jpg" width="200" height="200" align="middle" alt="">
middle を指定
</p>
<p>
<img src="birds3.jpg" width="200" height="200" align="bottom" alt="">
bottom を指定
</p>
```

画像は通常前後のテキストと同じ行のなかに配置されます。逆にいえば、画像のサイズに関係なく、その前後に表示されるテキストは1行のみです。これはimg要素がひとつの行のなかに含まれる、インラインレベル要素とよばれるものだからです（p.4参照）。

CSSによるテキストとの並び方の指定

スタイルシートを利用して同様にテキストとの並び方を指定する場合は、一例として次のようになります。width、height、alt属性については紙面の都合で省略しています。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
#top        {vertical-align:top}
#middle     {vertical-align:middle}
#bottom     {vertical-align:bottom}
</style>
<body>
<p><img src="birds3.jpg" id="top">top を指定</p>
<p><img src="birds3.jpg" id="middle">middle を指定</p>
<p><img src="birds3.jpg" id="bottom">bottom を指定</p>
</body>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	NN6
○	○	○	○	○	○	○

画像にテキストを回り込ませたい……………p.136

6 IMAGE

画像にテキストを回り込ませたい

<img src="★" align="☆">

★……画像ファイル名（URL）
☆……left、right

align属性でleftもしくはrightを指定し、ブラウザの片端に画像を配置するようにすると、その画像の反対側に複数行のテキストを置くことが可能になります（回り込み）。

left	画像を左側に寄せ、右側にテキストを置く
right	画像を右側に寄せ、左側にテキストを置く

つまり、leftを指定すると画像が左端に寄り、その右側にテキストが回り込み、rightではその逆となります。

画像の反対側に収まりきらなかったテキストは、画像の下方に送られます。

イメージ

SOURCE

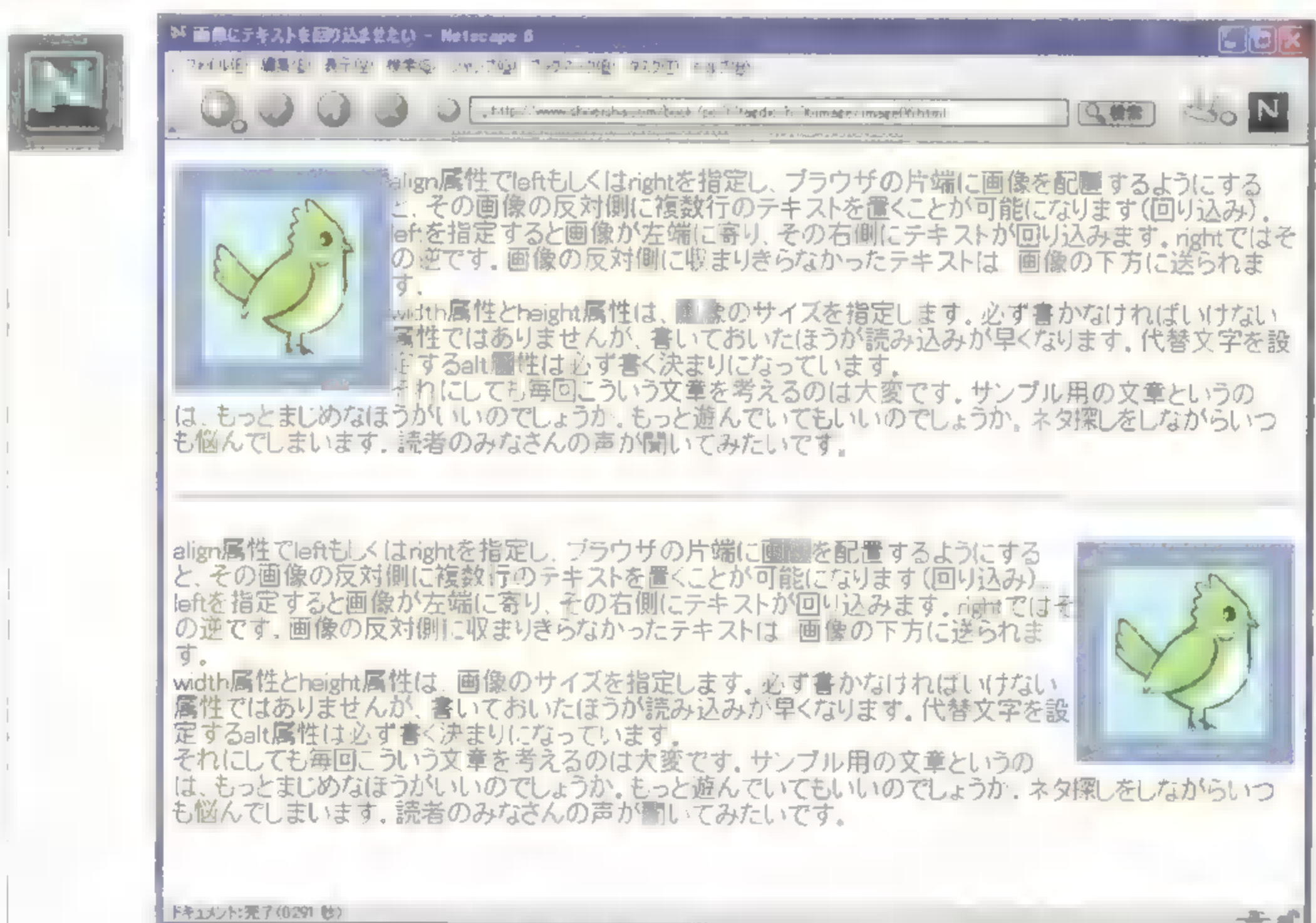
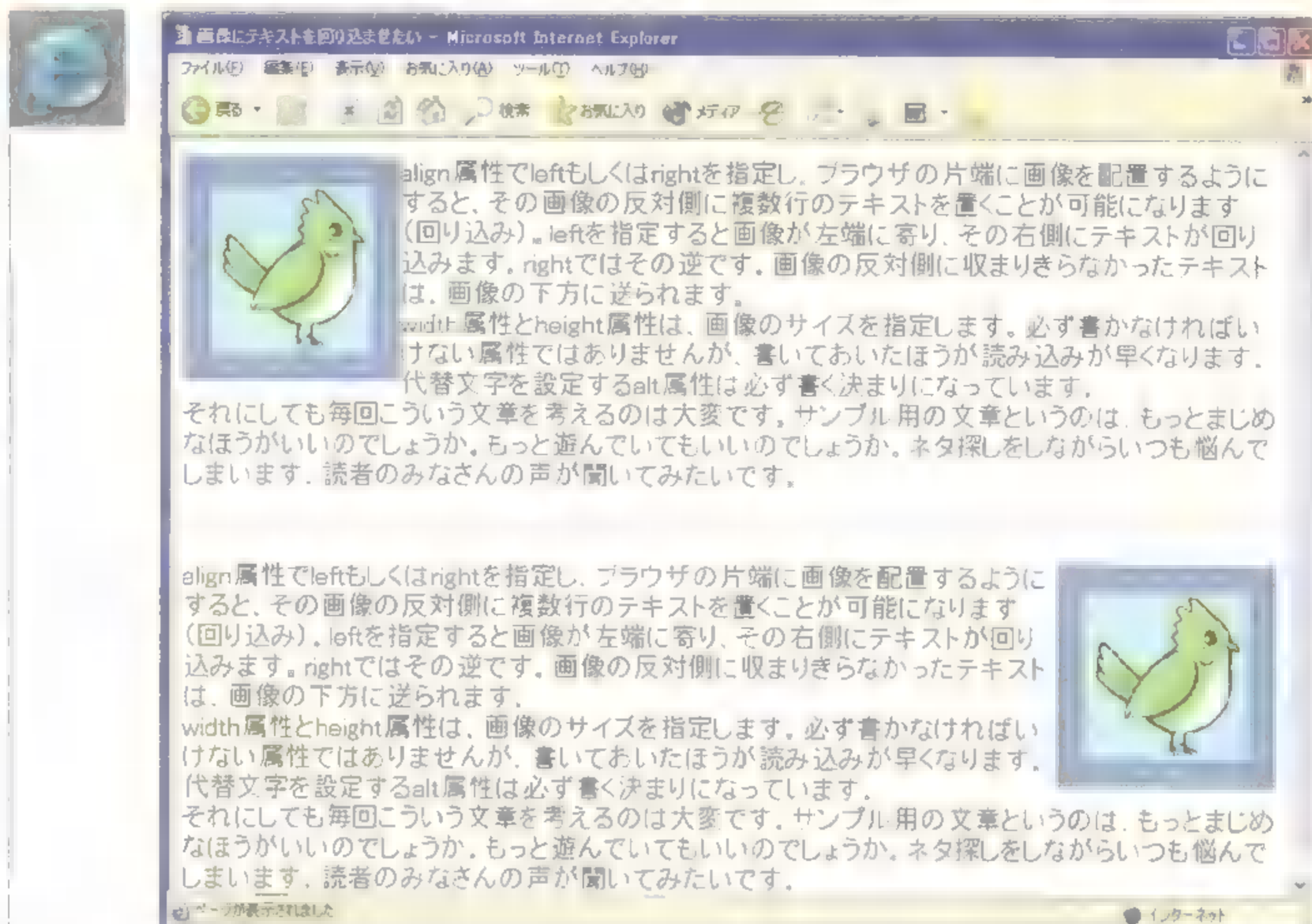
```
<p>
<img src="birds3.jpg" width="170" height="170" align="left" alt="">
align属性でleftもしくはrightを指定し、ブラウザの片端に画像を配置するようにすると、その画像の反対側に複数行のテキストを置くことが可能になります（回り込み）。……（中略）……画像の下方に送られます。<br>
width属性とheight属性は、……（中略）……読者のみなさんの声が聞いてみたいです。
<br clear="all">
</p>
<hr>
<p>
<img src="birds3.jpg" width="170" height="170" align="right" alt="">
align属性でleftもしくはrightを指定し、ブラウザの片端に画像を配置するようにすると、その画像の反対側に複数行のテキストを置くことが可能になります（回り込み）。……（中略）……画像の下方に送られます。<br>
width属性とheight属性は、……（中略）……読者のみなさんの声が聞いてみたいです。
</p>
```

align属性でleftもしくはrightを指定し、ブラウザの片端に画像を配置するようにすると、その画像の反対側に複数行のテキストを置くことが可能になります(回り込み)。leftを指定すると画像が左端に寄り、その右側にテキストが回り込みます。rightではその逆です。画像の反対側に収まりきらなかったテキストは、画像の下方に送られます。
width属性とheight属性は、画像のサイズを指定します。必ず書かなければいけない属性ではありませんが、書いておいたほうが読み込みが早くなります。代替文字を設定するalt属性は必ず書く決まりになっています。
それにしても毎回こういう文章を考えるのは大変です。サンプル用の文章というのは、もっとまじめなほうがいいのでしょうか。もっと遊んでいてもいいのでしょうか。ネタ探しをしながらいつも悩んでしまいます。読者のみなさんの声が聞いてみたいです。

align属性でleftもしくはrightを指定し、ブラウザの片端に画像を配置するようにすると、その画像の反対側に複数行のテキストを置くことが可能になります(回り込み)。leftを指定すると画像が左端に寄り、その右側にテキストが回り込みます。rightではその逆です。画像の反対側に収まりきらなかったテキストは、画像の下方に送られます。

代替文字を設定するalt属性は必ず書く決まりになっています。

インターネット

イメージ

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

画像に対する回り込みを解除したい……………p.138
テキストに対するテーブルの位置を指定したい‥‥p.202

7 IMAGE

画像に対する回り込みを解除したい

```
<br clear="★">
```

★••••••all、left、right

テキストの回り込み（前項）を解除して、それ以降のテキストは画像の下の行から続けたいときは、
 タグに clear 属性を指定します。値と効果は次のとおりです。

left	画像が左側にあるとき（<img src="★" align="left">）の回り込みを解除
right	画像が右側にあるとき（<img src="★" align="right">）の回り込みを解除
all	どちらの場合にも有効

イメージ

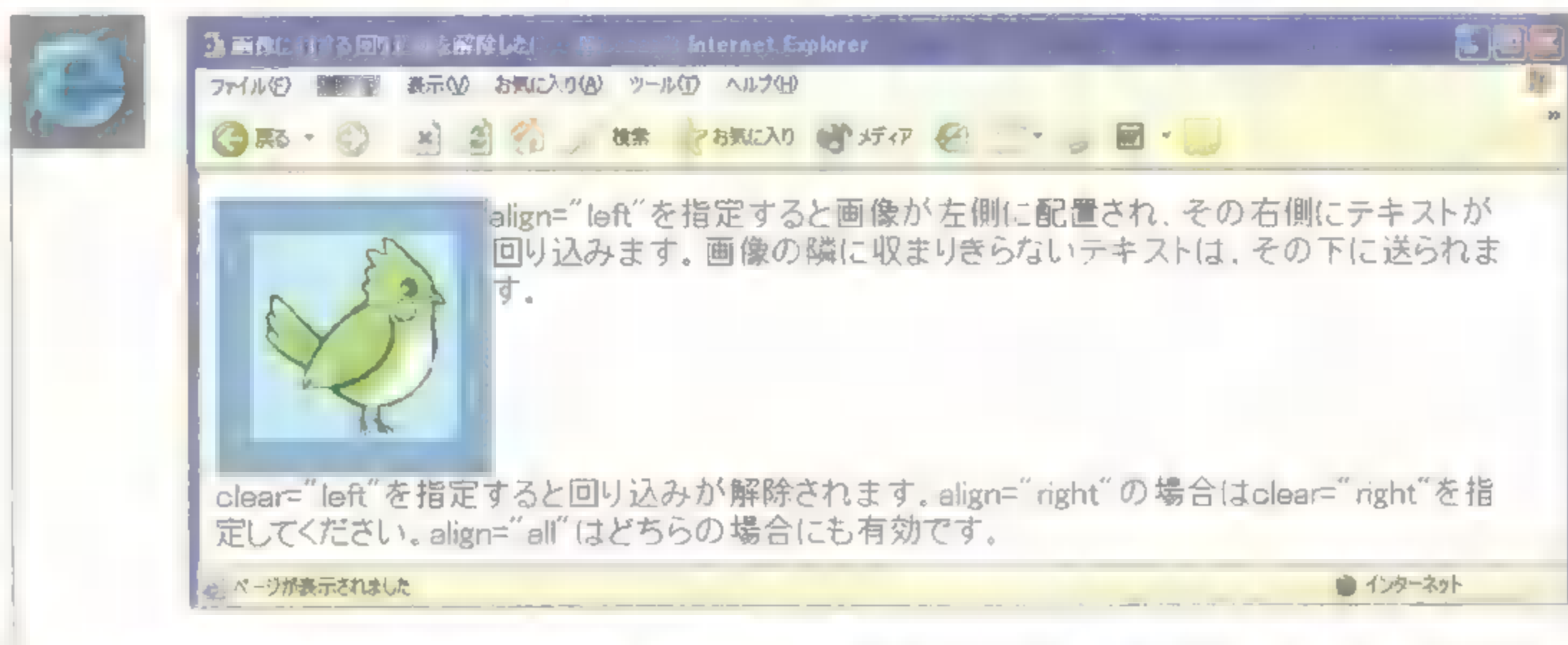
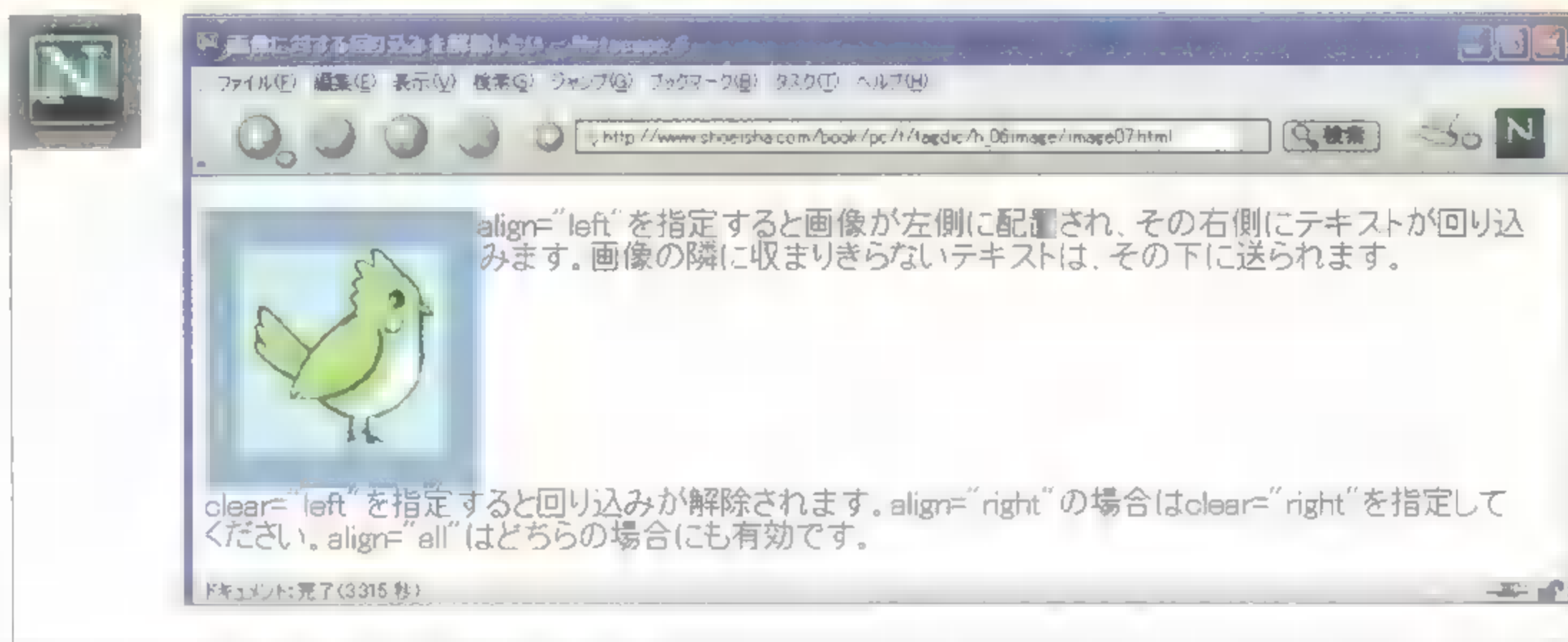
SOURCE

```
<p>
<img src="birds3.jpg" width="170" height="170" align="left" alt="">
```

align="left"を指定すると画像が左側に配置され、その右側にテキストが回り込みます。画像の隣に収まりきらないテキストは、その下に送られます。

```
<br clear="left">
```

clear="left"を指定すると回り込みが解除されます。align="right"の場合は clear="right"を指定してください。align="all"はどちらの場合にも有効です。

```
</p>
```

CSSによる回り込みの解除

スタイルシートを利用して同様に回り込みの解除をする場合は、一例として次のようになります。width、height、alt属性については紙面の都合で省略しています。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
br#img    {clear:left}
</style>
<body>
<p>
<img src="birds3.jpg" align="left">
align="left"を指定すると画像が左側に配置され、その右側にテキストが回り込みます。画像の隣に収まりきらないテキストは、その下に送られます。
<br id="img">
回り込みを解除するとこんなふうになります。
</p>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

画像にテキストを回り込ませたい……………p.136
テーブルに対する回り込みを解除したい…………p.205

8 IMAGE

DEPRECATED

画像とテキストの間隔を指定したい

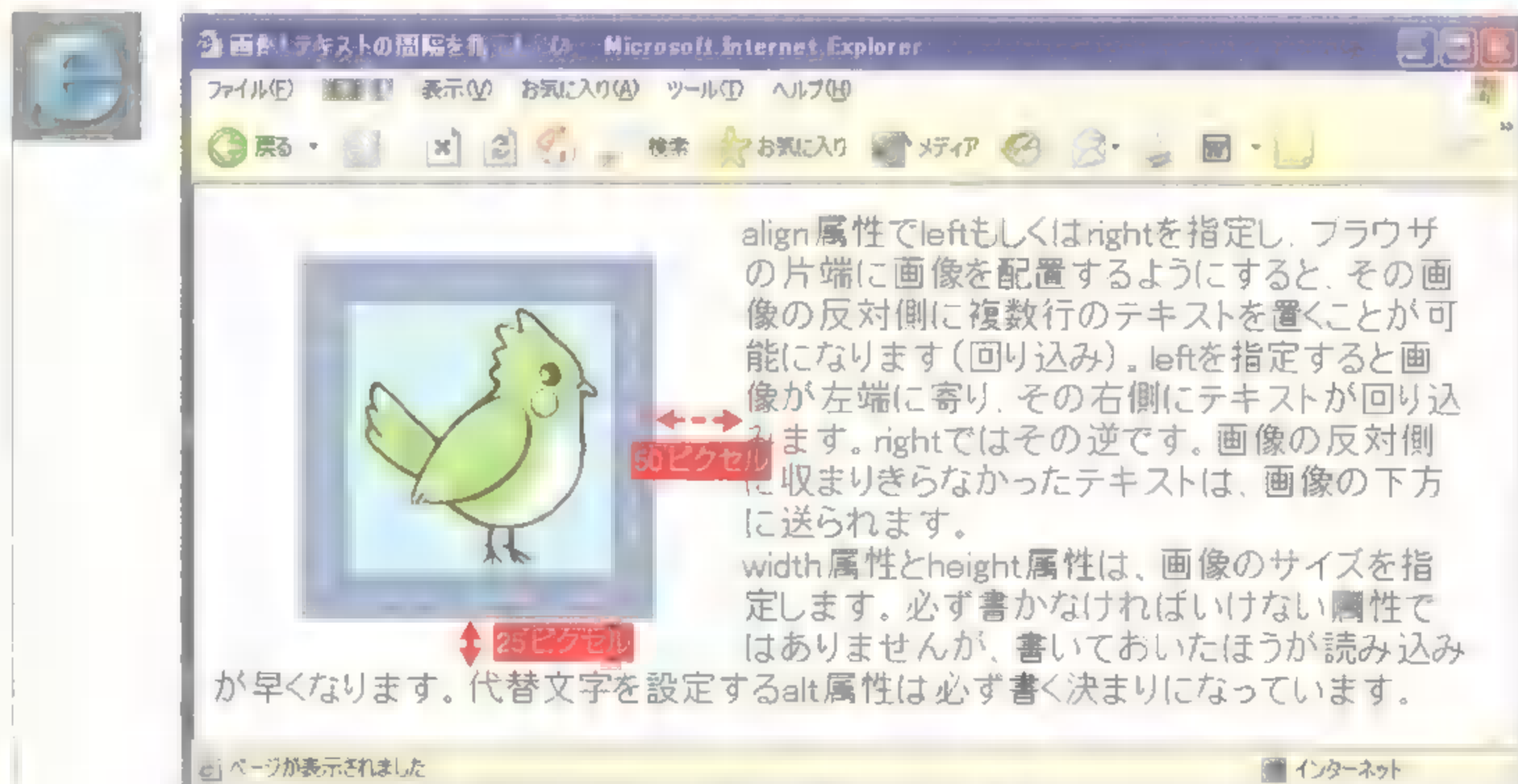
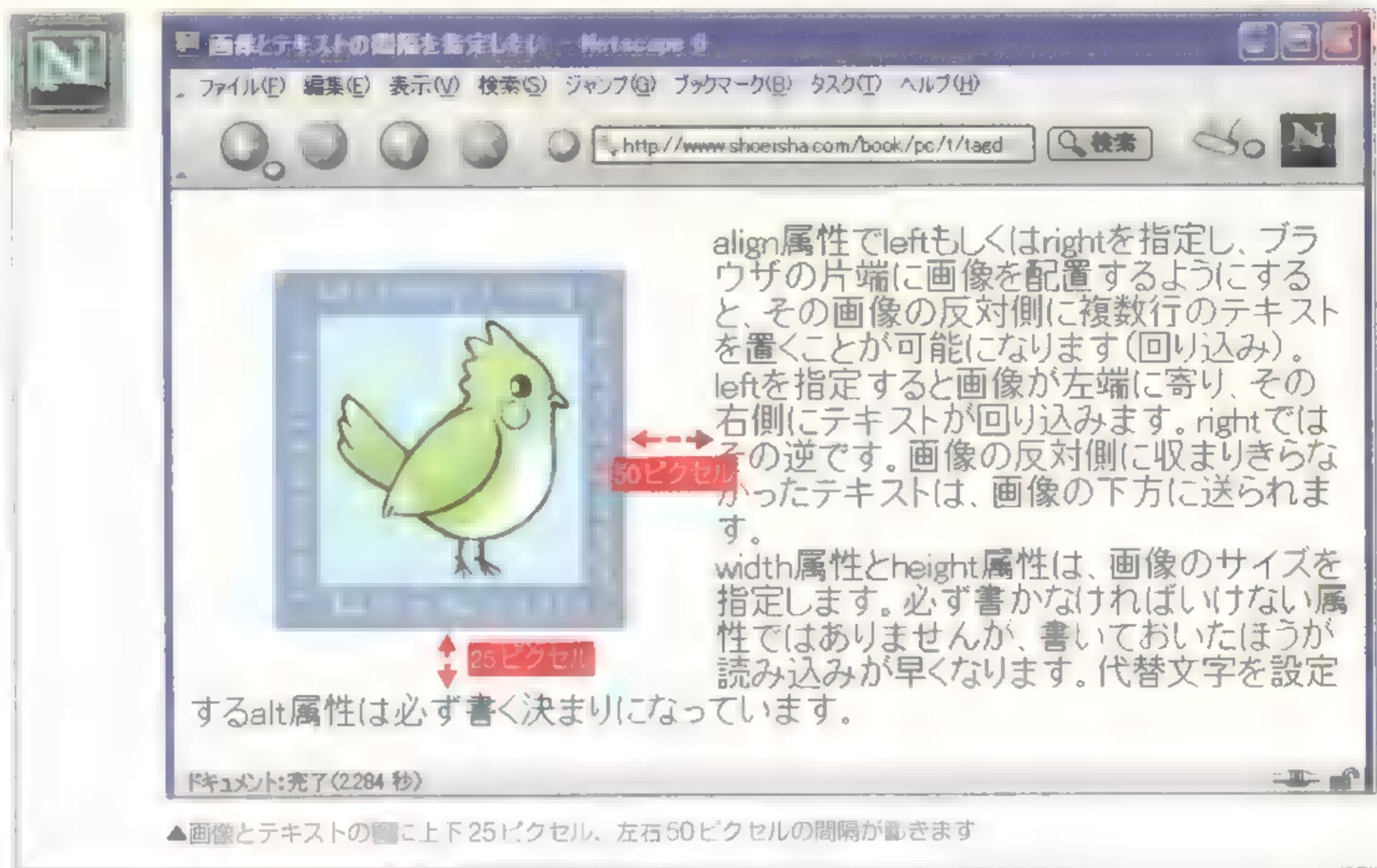
```
<img src="★" vspace="◆" hspace="⇨">
```

★……画像ファイル名（URL）
◆……画像ファイルに対する上下の余白（ピクセル）
⇨……画像ファイルに対する左右の余白（ピクセル）

画像の周囲にスペースを空けたい場合に使用します。vspaceは縦方向の、hspaceは横方向の空きを画像に対して設定し、どちらもピクセルで記述します。

SOURCE

```
<p>
<img src="birds3.jpg" width="200" height="200" align="left" vspace="25"
hspace="50" alt="">
align属性でleftもしくはrightを…（中略）…決まりになっています。
</p>
```

▲画像とテキストの間に上下25ピクセル、左右50ピクセルの間隔があきます

▲画像とテキストの間に上下25ピクセル、左右50ピクセルの間隔が空きます

CSSによる画像とテキストの間隔の指定

スタイルシートを利用して同様に画像とテキストの間隔を指定する場合は、一例として次のようになります。width、height、alt属性については紙面の都合で省略しています。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
img     {margin:25px 50px}
</style>
<body>
<p>
<img src="birds3.jpg">
align="left"を指定すると…（中略）…決まりになっています。
</p>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5	IE6	NN4	NN4	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

画像にテキストを回り込ませたい……………p.136
画像に対する回り込みを解除したい……………p.138

9 イメージマップを作りたい

クライアントサイドイメージマップ

```
<img src="★" usemap="#☆" alt="▽">
<map name="☆"> ~ </map>
<area shape="◆" coords="◇" href ="▼" alt="▽">
```

★ ••••••画像ファイル名（URL）
☆ ••••••マップ名
▽ ••••••画像の代わりのテキスト
◆ ••••••default、rect、circle、poly
◇ ••••••座標,[illegible]…（ピクセル）
▼ ••••••リンク先の URL

イメージマップの機能を利用すると、ひとつの画像に複数のリンクを設定することができます。ここで説明するクライアントサイドイメージマップはすべての処理をブラウザ側で実行するもので、HTML タグだけで作成できます。

<img src="★" usemap="#☆">では、クライアントサイドイメージマップ機能を使用すること、そしてその[illegible]どの画像をマップとして使用するかを指定します。☆にはマップの名前を任意に付けます（半角英数字のみ）。

<map name="☆">と</map>では、[illegible]がクライアントサイドイメージマップであることを定義するとともに、そのイメージマップに名前を付けます（上で説明したように、<img>タグからイメージマップの画像を参照するときにこの名前を使用します）。

そして、実際のリンク機能は<area>タグと以下のような属性で設定します。

shape 属性は画像上でマップとして定義される領域の形を指定します。

default	全体
rect	四角形
circle	円
poly	多角形

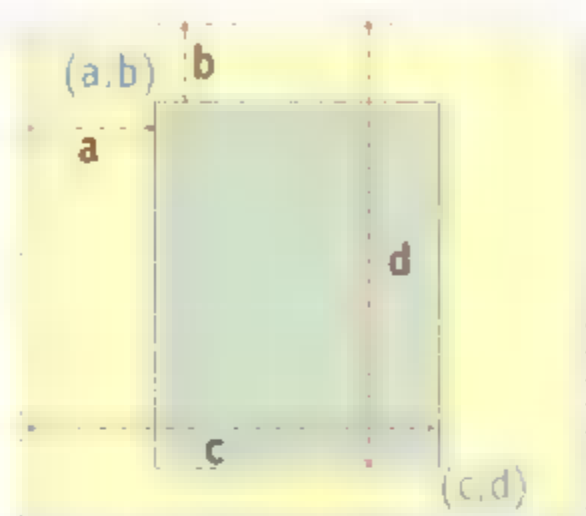
coords 属性は領域の座標です。数値や順序は shape 属性で定義した形によって下記のように異なりますが、いずれもピクセルで指定し、各座標は「,」（カンマ）で区切ります（次ページコラム参照）。

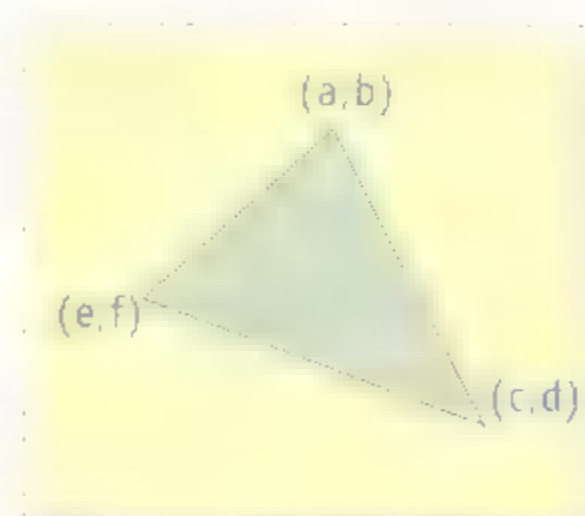
rect の場合	左上のＸ座標, 左上のＹ座標, 右下のＸ座標, 右下のＹ座標
circle の場合	中心のＸ座標, 中心のＹ座標, 半径
poly の場合	すべての角の座標を「Ｘ座標, Ｙ座標」の[illegible]で指定し、最後は最初の座標と同じ値を指定し、多角形を閉じる

そして、href属性ではリンク先のurlを指定します。

なお、HTML4.01からalt属性（p.128参照）も必ず指定することになっており、クライアントサイドイメージマップでは<img>タグと<area>タグの両方にalt属性を記述します。

coords属性の設定方法

coords属性の指定方法をまとめると以下のようになります。

shape="rect"
coords="a,b,c,d"

shape="circle"
coords="a,b,c"

shape="poly"
coords="a,b,c,d,e,f,a,b"

<a>タグによる領域の指定

W3Cでは<area>タグの代わりに、<a>タグの使用を推奨しています。この方法を使えば画像を表示できないブラウザでアクセスしたときに、<a>とタグの間に設定されたテキスト部分をリンクアンカーとして表示できるようになります。

[illegible]

イメージマップとは、ひとつの画像に複数のリンク先を設定できる技術で、処理のしかたによって次の2種類があります。

●クライアントサイドイメージマップ

ユーザーがクリックした領域に設定されたリンクをブラウザが判別し、実行します。処理をすべてブラウザ側でおこなうもので、HTMLタグのみで作成することができます。

●サーバーサイドイメージマップ

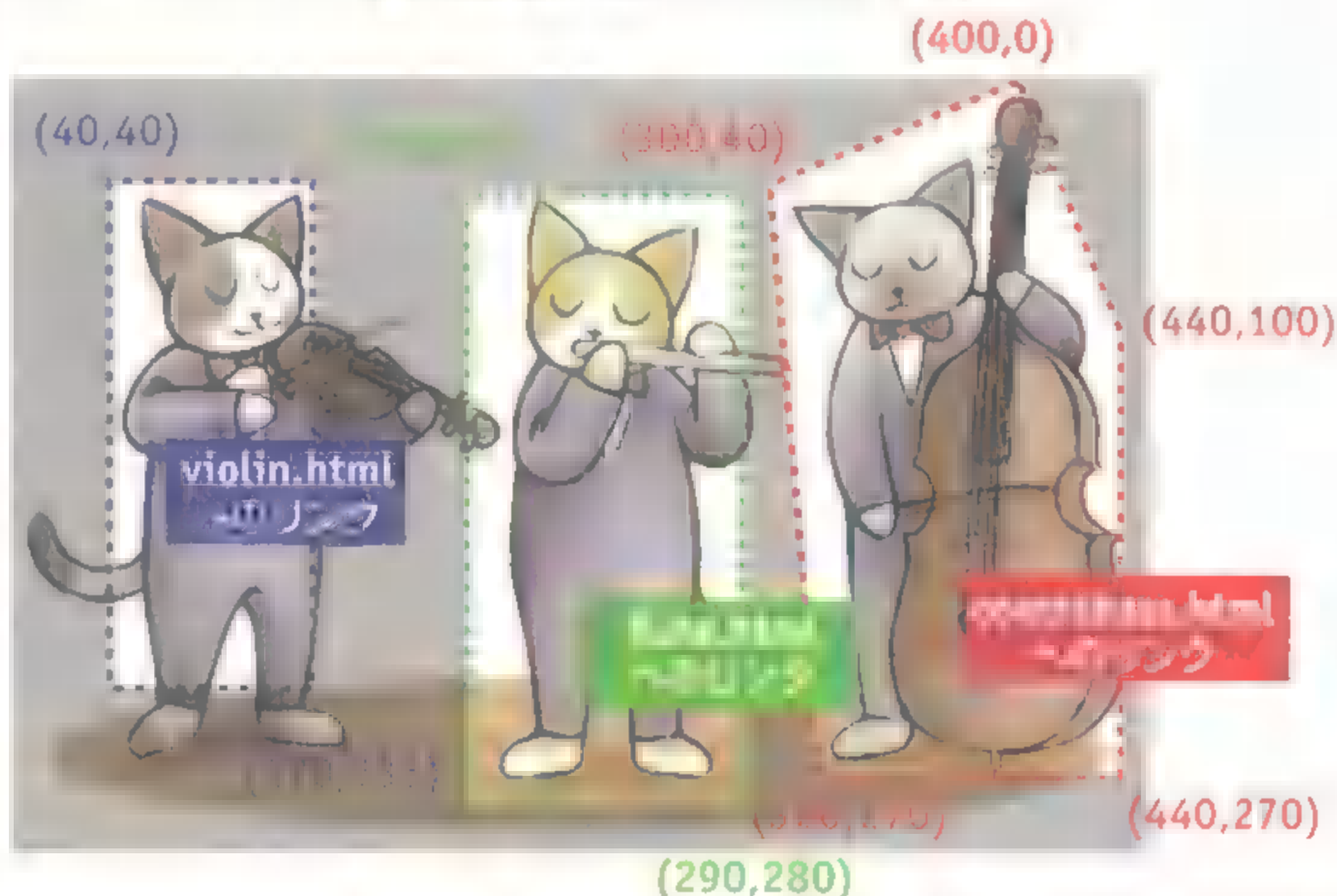
ユーザーがクリックした領域の座標をサーバー側に置かれたCGIプログラムに送信し、そこでリンク先の判断などの処理が行われます。

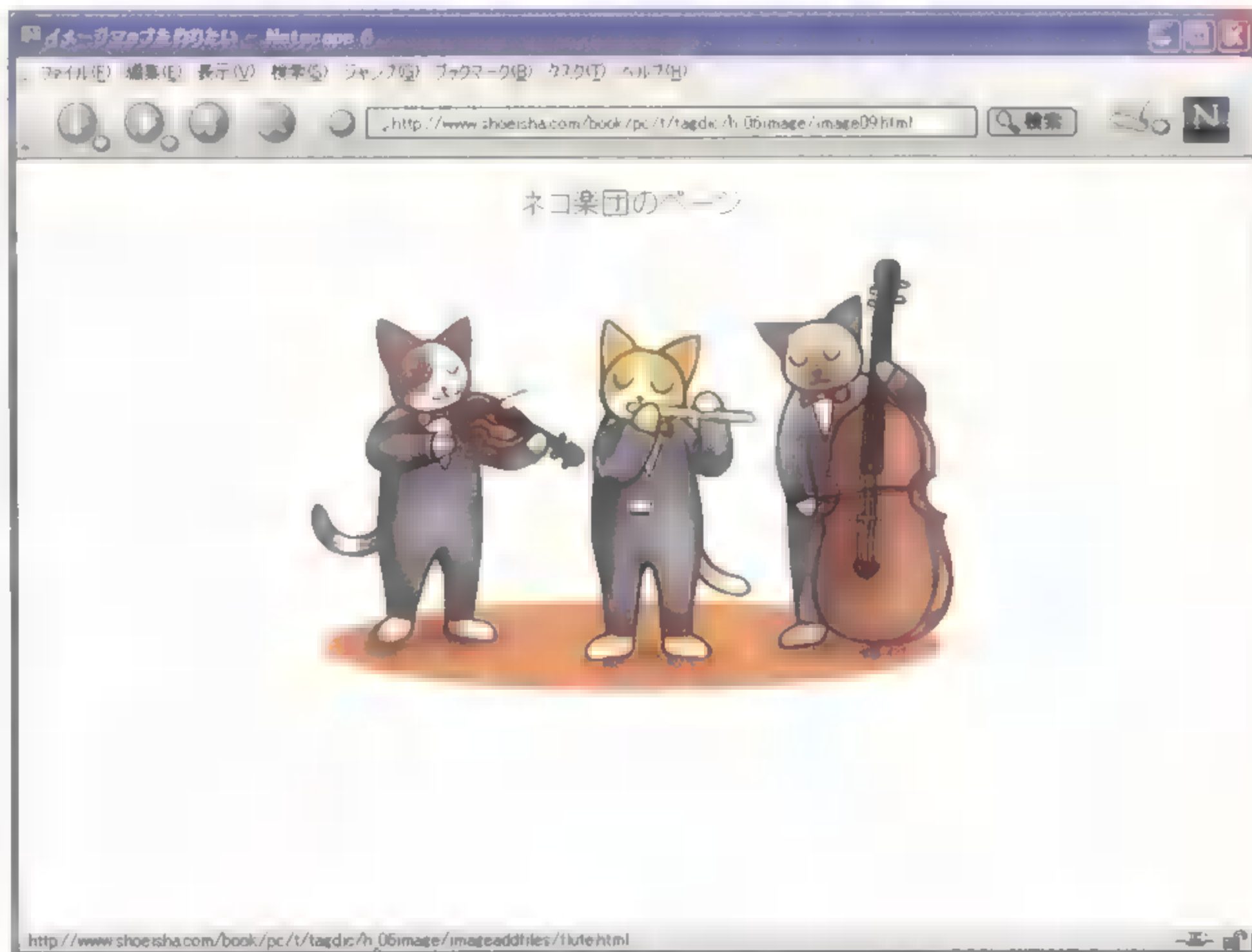
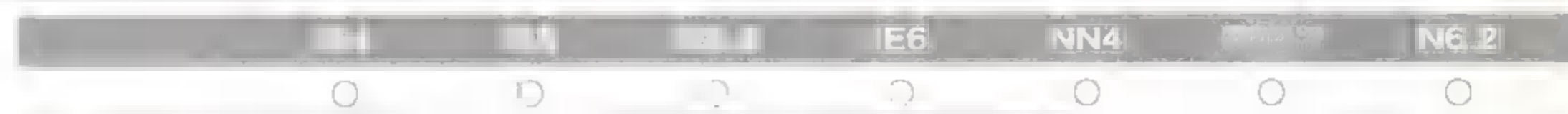
クライアントサイドイメージマップのほうがCGIプログラムなどを必要としない分、作成は簡単です。また、画像を表示できないブラウザにも代替テキストによって対応が可能なことなどからも、現在ではクライアントサイドイメージマップの利用が推奨されています。

SOURCE

```
<center>


<p>
ネコ楽団のページ
</p>


<p>
<img src="catband.jpg" width="450" height="300" border="0"
usemap="#catbandmap" alt="イメージマップのサンプル画像">
<map name="catbandmap">
<area shape="rect" coords="40,40,120,235" href="violin.html" alt="バイオ
リン担当">
<area shape="rect" coords="180,45,290,280"  href="flute.html" alt="フルー
ト担当">
<area shape="poly" coords="300,40,400,0,440,100,440,270,320,270,300,40"
href="contrabass.html" alt="コントラバス担当">
</map>
</p>


</center>
```

ソースの分析

このサンプルソースのマップの領域と座標は下図のようになります。

(400,0)
(40,40)
(440,100)
violin.html
(440,270)
(290,280)

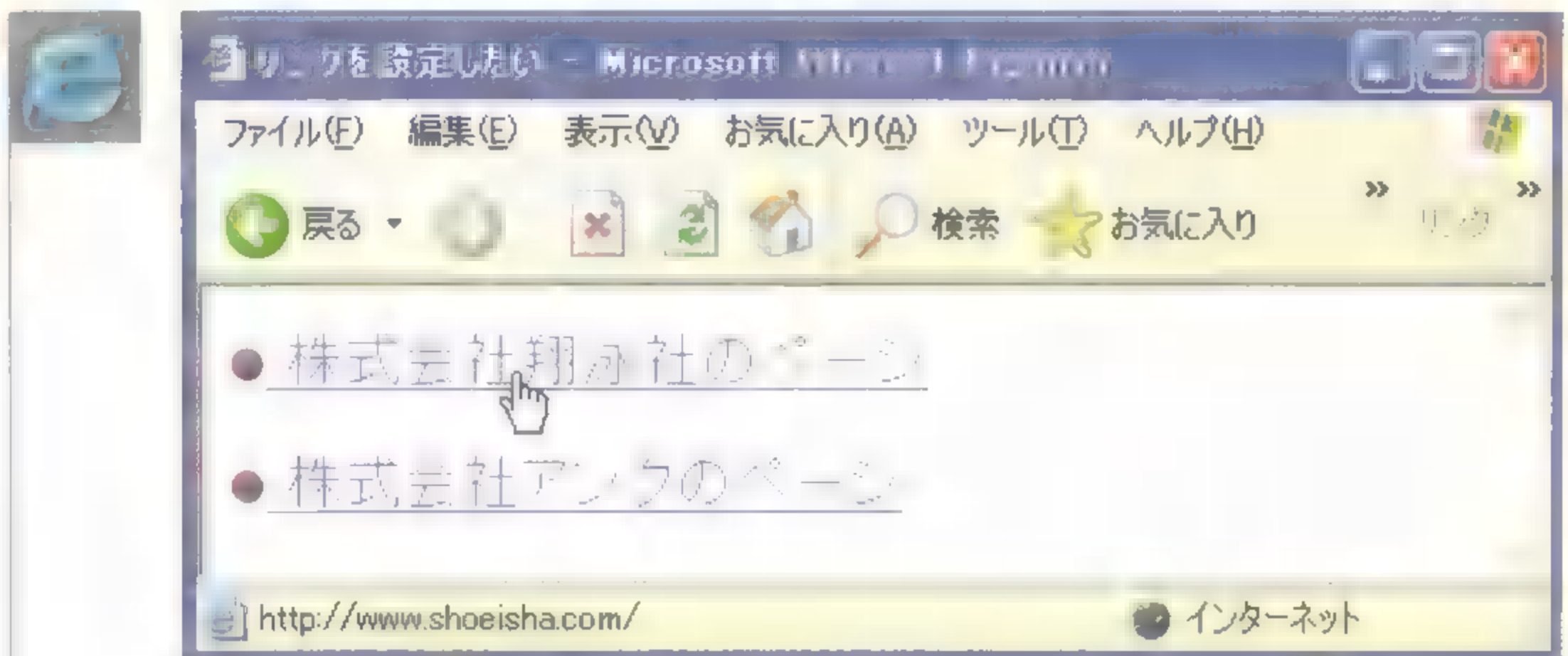
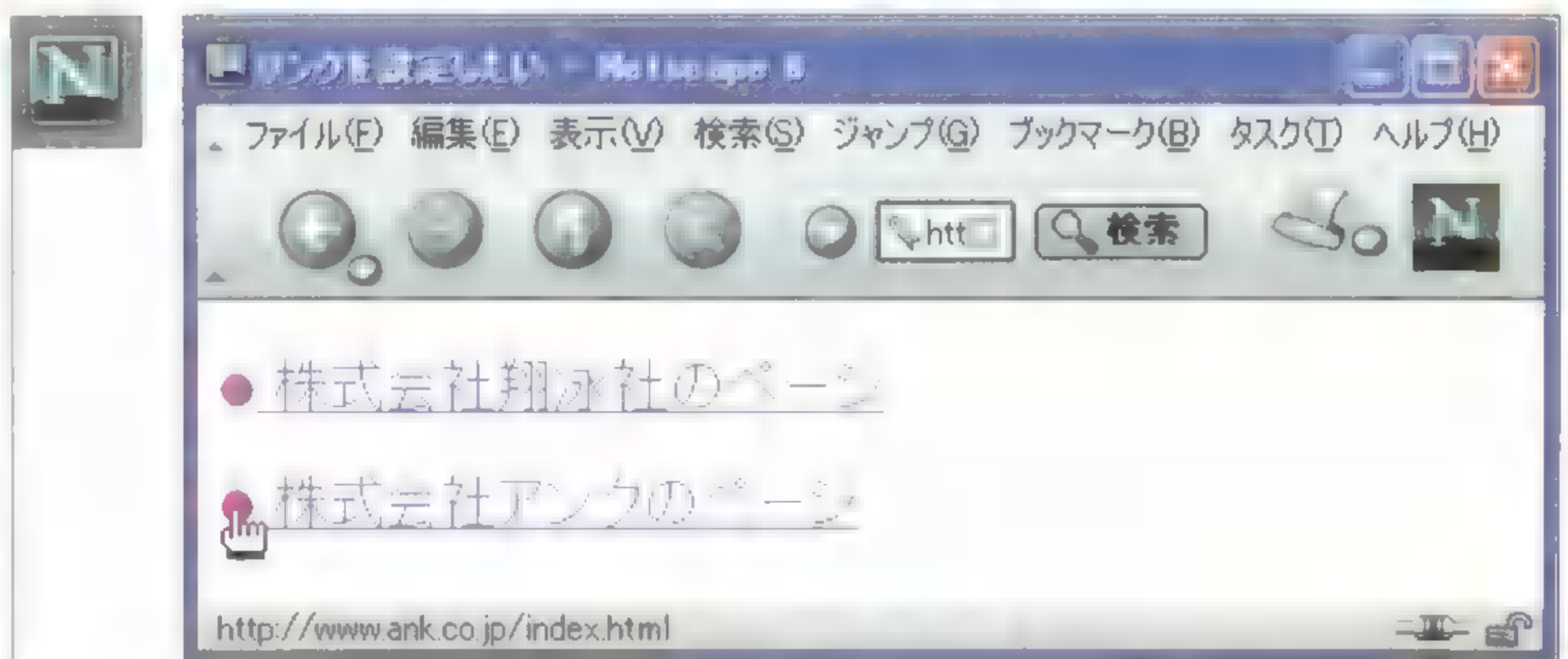
1 LINK

リンクを設定したい

 ～

★……URL

任意のテキストや画像にリンクを設定します。★には移動先のURL（ファイル名）を記入します。URLは、現在のファイルとの位置関係を考えて、絶対URLか相対URLを決めてください。

SOURCE

```
<p>
<a href="http://www.shoeisha.com/">
<img src="ball.gif" width="12" height="12" alt="" border="0">
株式会社翔泳社のページ</a>
</p>
<p>
<a href="http://www.ank.co.jp/index.html">
<img src="ball.gif" width="12" height="12" alt="" border="0">
株式会社アンクのページ</a>
</p>
```

▲テキストに設定されたリンク

▲画像に設定されたリンク

CSSによる下線を表示させないリンクの設定

一般的なブラウザでは，リンク部分に下線が表示されるようになっています。これはユーザーのブラウザ設定次第で変更できますが、ページ作成者の側でこの下線を表示させないようにするにはスタイルシートのtext-decoration:noneを指定します。

一例としては次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<a href="★" style="text-decoration:none">～</a>
```

IE4	IE5	IE5.5	[illegible]	NN4	[illegible]	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

参照
絶対URLと相対URL ……………………p.10
基準となるURLを指定したい ……………………p.22
テキストの色を指定したい ……………………p.80
リンクを利用してメールを送信したい…………p.158

2 LINK

場所を指定してリンクしたい その1

同一ページ内のリンク

 ～ 　　リンク元

 ～ 　　リンク先

★……キーワード

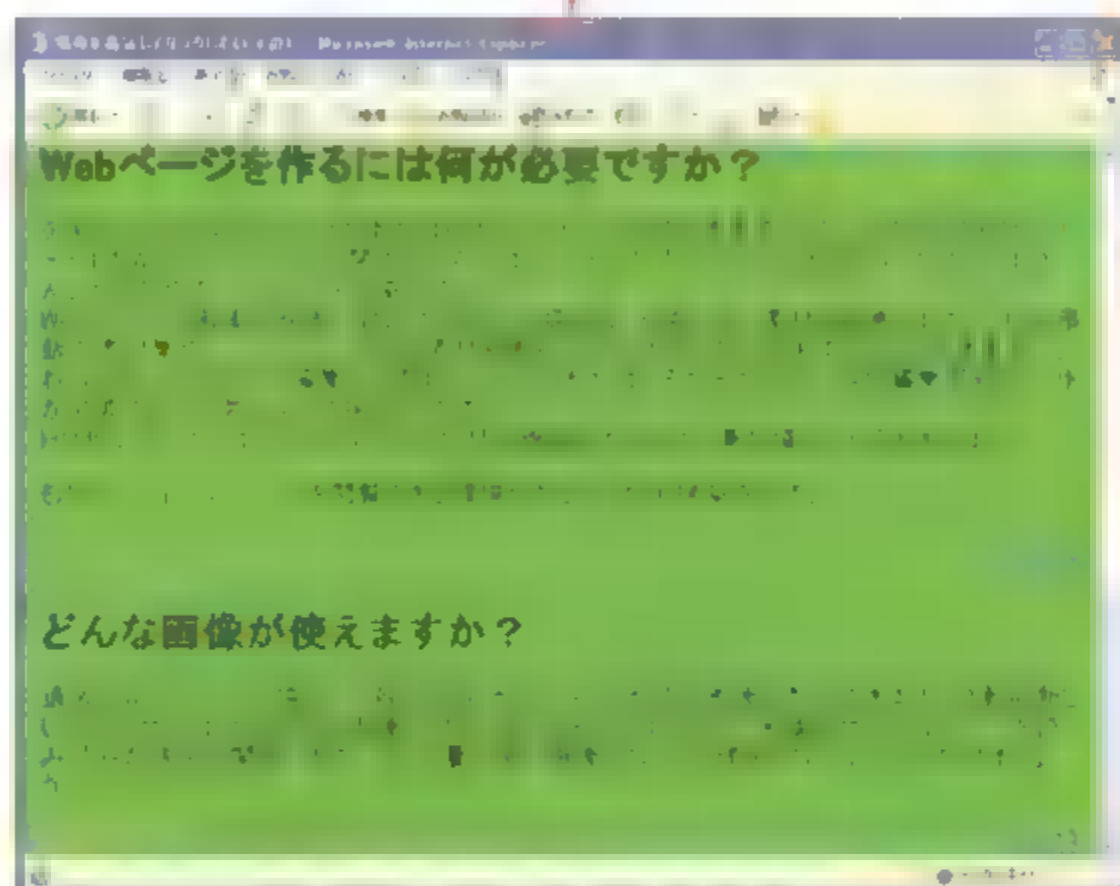
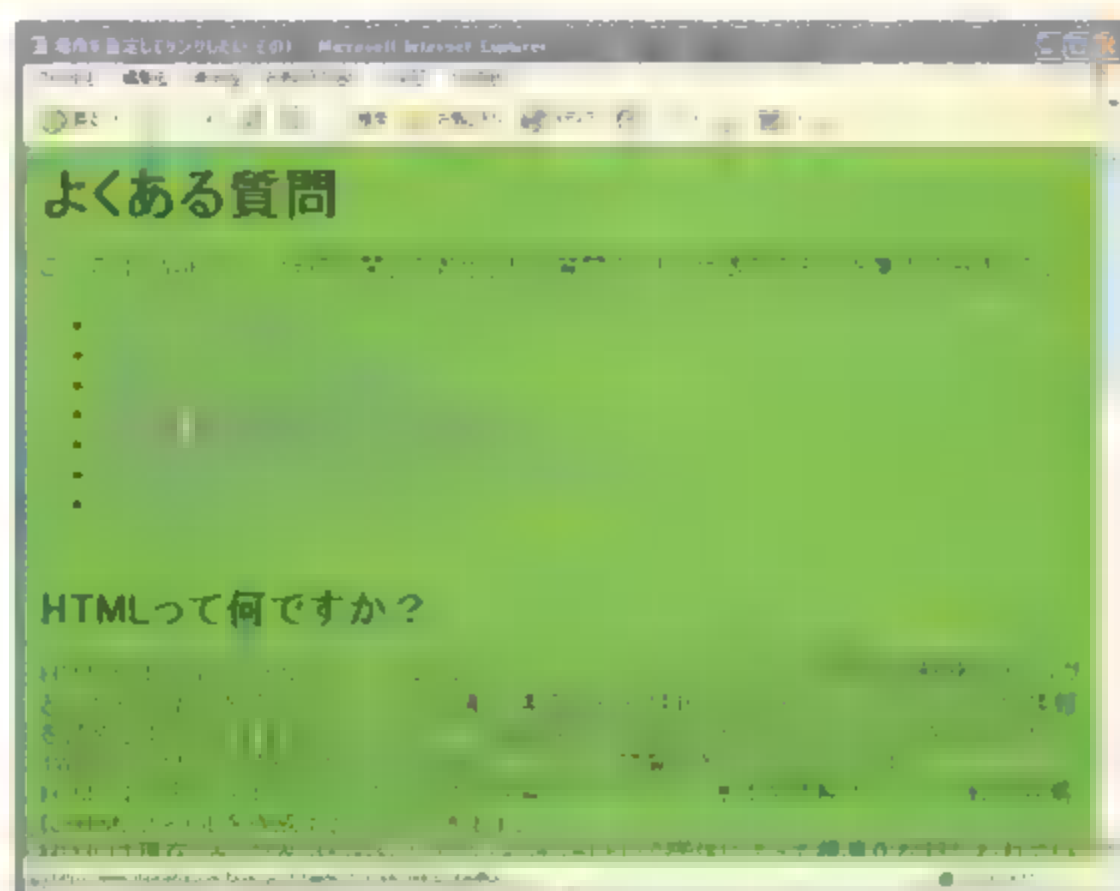
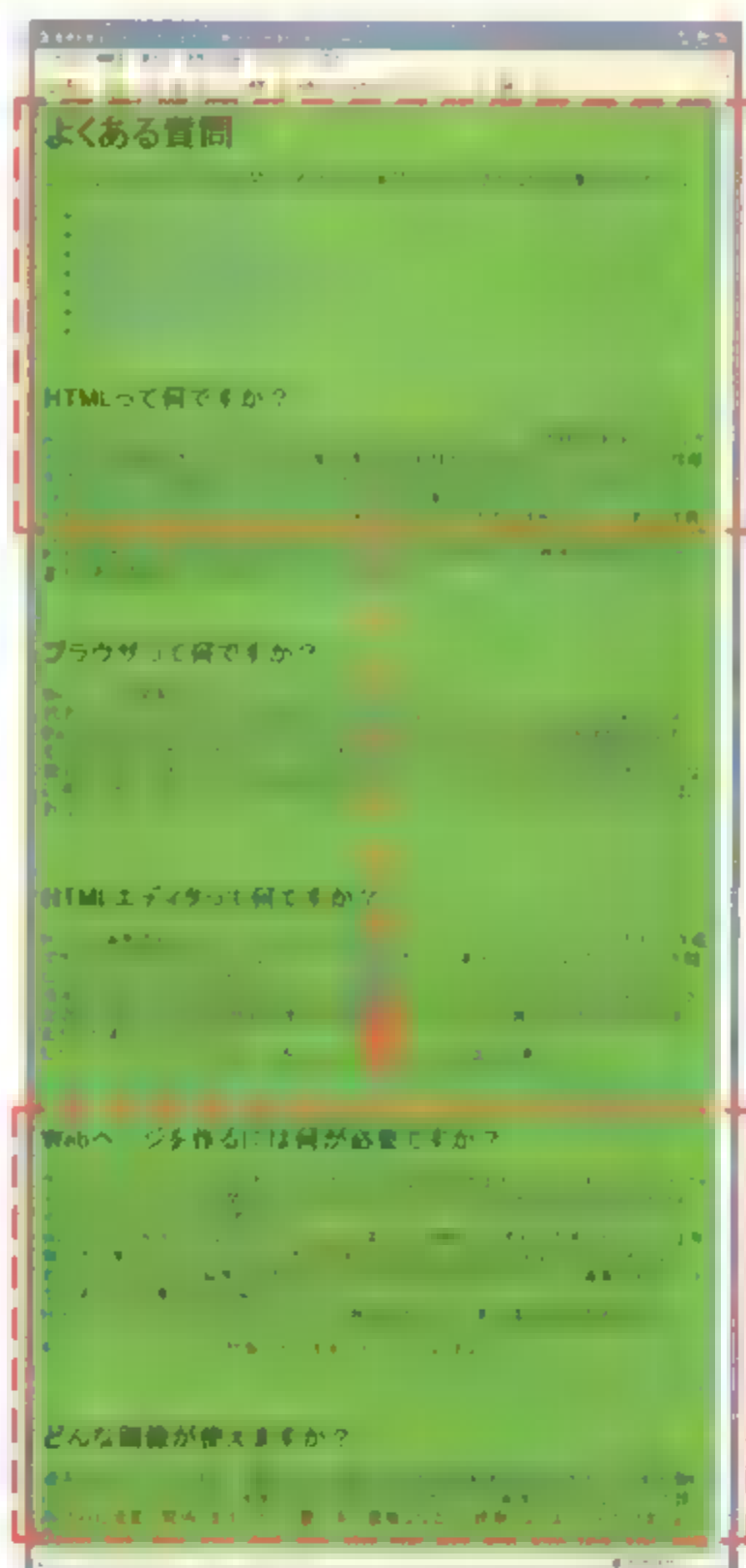
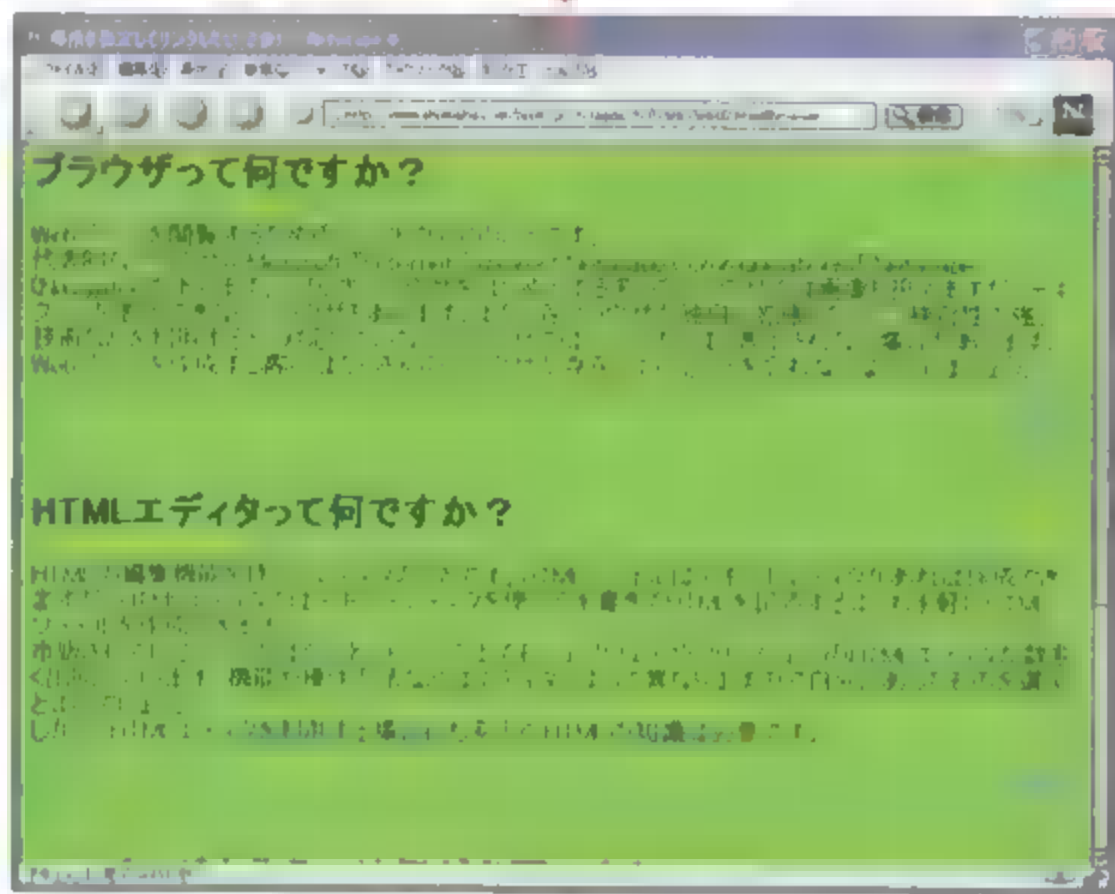
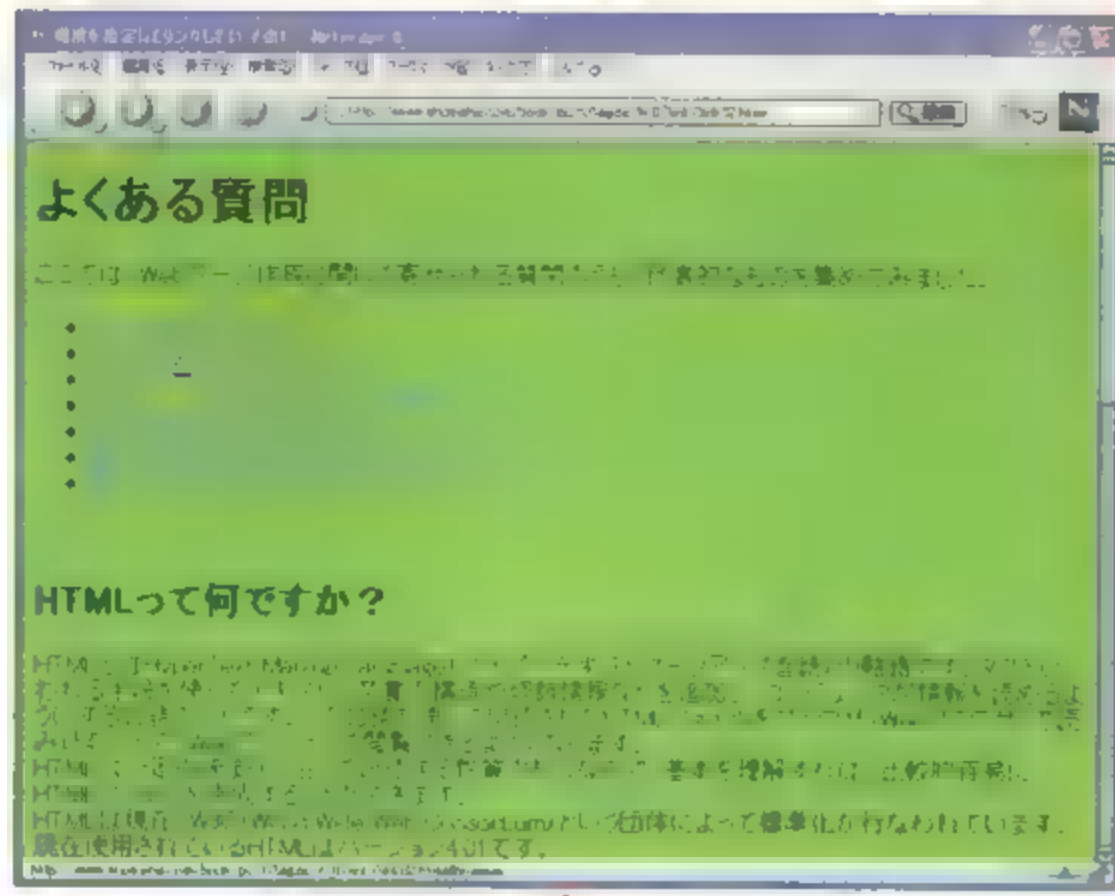
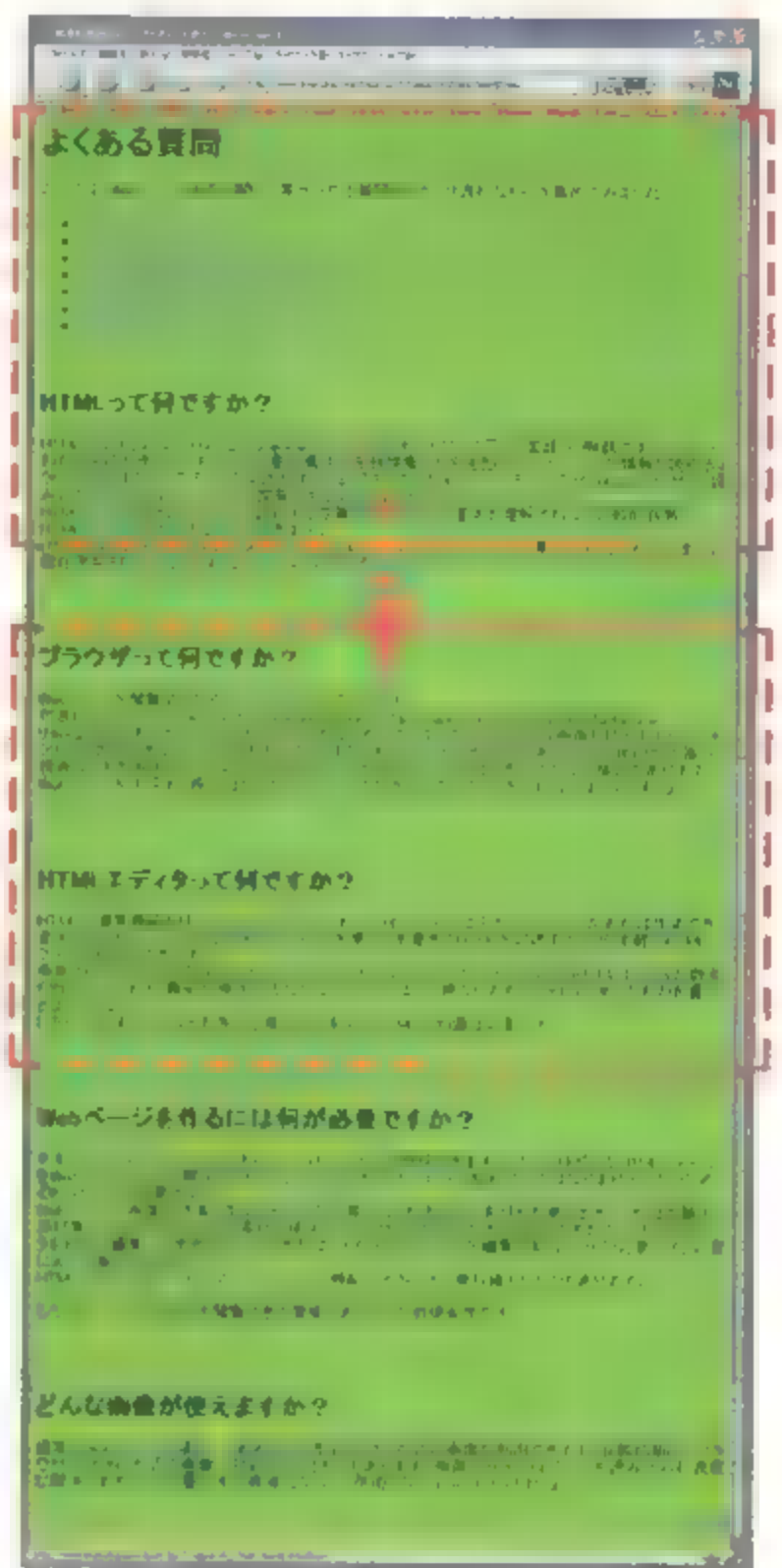
name属性で、ページ内の特定の位置にジャンプできるようにします。ひとつの文書が非常に長いときなどに有効な方法です。

キーワードを決め、リンク先とする位置（ジャンプする位置）に<a name="★">を設定します。この場合のキーワードはなんでもよいのですが、編集することを考えてわかりやすいものをつけたほうがよいでしょう（半角英数字のみ）。ただし、リンク元とリンク先ではキーワードを一致させ、同じキーワードを複数箇所に使わないよう気をつけてください。

href属性の値には、キーワードの先頭に「#」をつけることも忘れずに。

SOURCE

```
<body bgcolor="#33cc66">
<h1><a name="faq">よくある質問</a></h1>
<p>
ここでは、Webページ作成に関して寄せられる質問のうち、代表的なものを集めてみました。
</p>
<ul>
<li><a href="#html">HTMLって何ですか？</a></li>
<li><a href="#browser">ブラウザって何ですか？</a></li>
<li><a href="#editor">HTMLエディタって何ですか？</a></li>
<li><a href="#tool">Webページを作るには何が必要ですか？</a></li>
<li><a href="#img">どんな画像が使えますか？</a></li>
<li><a href="#bbs">掲示板やチャットはどうやってつけるのですか？</a></li>
<li><a href="#i-mode">iモード対応HTMLって何ですか？</a></li>
</ul>
```

```
<hr>

<h2><a name="html">HTMLって何ですか？</a></h2>
<p>
HTMLとはHyperText Markup Language（ハイパーテキストマークアップ言語）の略語です。
タグといわれる手段を使ってテキストに文書の構造や修飾情報などを追加し、コンピュータ
が情報を読めるようにする言語のことです。この言語を使って記述されたHTMLファイルを
ブラウザ（Webブラウザ）で読み込むことで、Webページとして閲覧できるようになりま
す。<br>
HTMLは一定の決まりに沿って記述する性質のものなので、基本を理解すれば、比較的容易
にHTMLファイルを作成することができます。<br>
HTMLは現在、W3C（World Wide Web Consortium）という団体によって標準化が行なわれ
ています。現在使用されているHTMLはバージョン4.01です。
</p>
<div align="right"><a href="#faq">【戻る】</a></div>

<hr>
<h2><a name="browser">ブラウザって何ですか？</a></h2>
<p>
Webページを閲覧するための、ソフトウェアのことです。<br>
代表的なブラウザにMicrosoftのInternet ExplorerとNetscape CommunicationsのNetscape
(Navigator)があります。この2大ブラウザをはじめとする多くのブラウザでは画像も扱えま
すが、テキストしか表示できないブラウザもあります。また、各ブラウザが独自に拡張した
タグ、独自性の強い技術などを利用すると、対応していないブラウザではページがうまく表
示されない場合があります。Webページを作成する際にはたくさんのブラウザが存在して
いることを忘れないようにしましょう。
</p>
<div align="right"><a href="#faq">【戻る】</a></div>

<hr>
……（後略）
```

▲同一ページ内でリンクします

▲このように長いページで有効なリンクです

▲同一ページ内でリンクします

▲このように長いページで有効なリンクです

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

場所を指定してリンクしたい その2 ……………p.152

3 Link

場所を指定してリンクしたい その2

他のページへのリンク

 ～ 　リンク元
 ～ 　リンク先

★……リンク先のURL
☆……キーワード

リンク元を設定するタグのキーワードの前にリンク先のURLを指定すると、ほかのページの特定の位置へジャンプすることができます。

キーワードを決め、リンク先とする位置（ジャンプする位置）に<a name="☆">を設定します。この場合のキーワードはなんでもよいのですが、管理することを考えてわかりやすいものをつけたほうがよいでしょう（半角英数字のみ）。ただし、リンク元とリンク先ではキーワードを一致させ、同じキーワードを複数箇所に使わないよう気をつけてください。

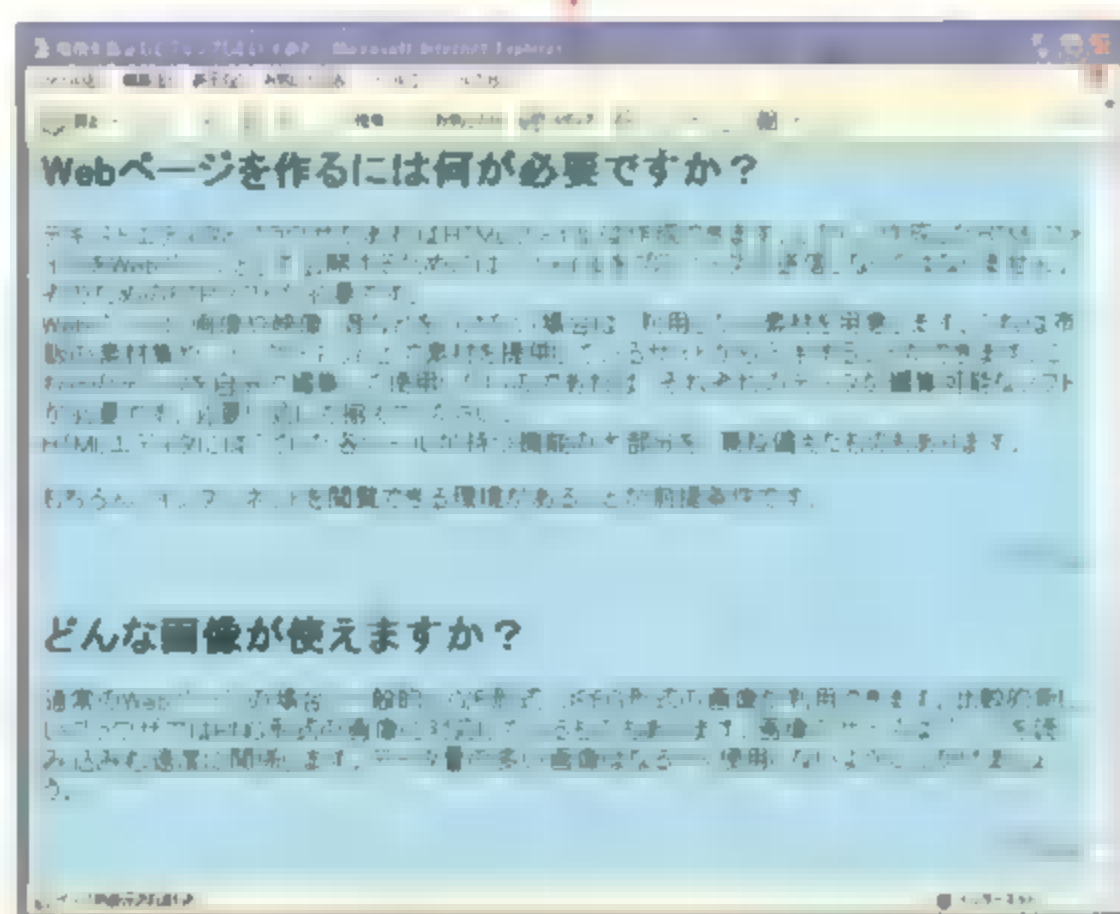
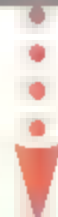
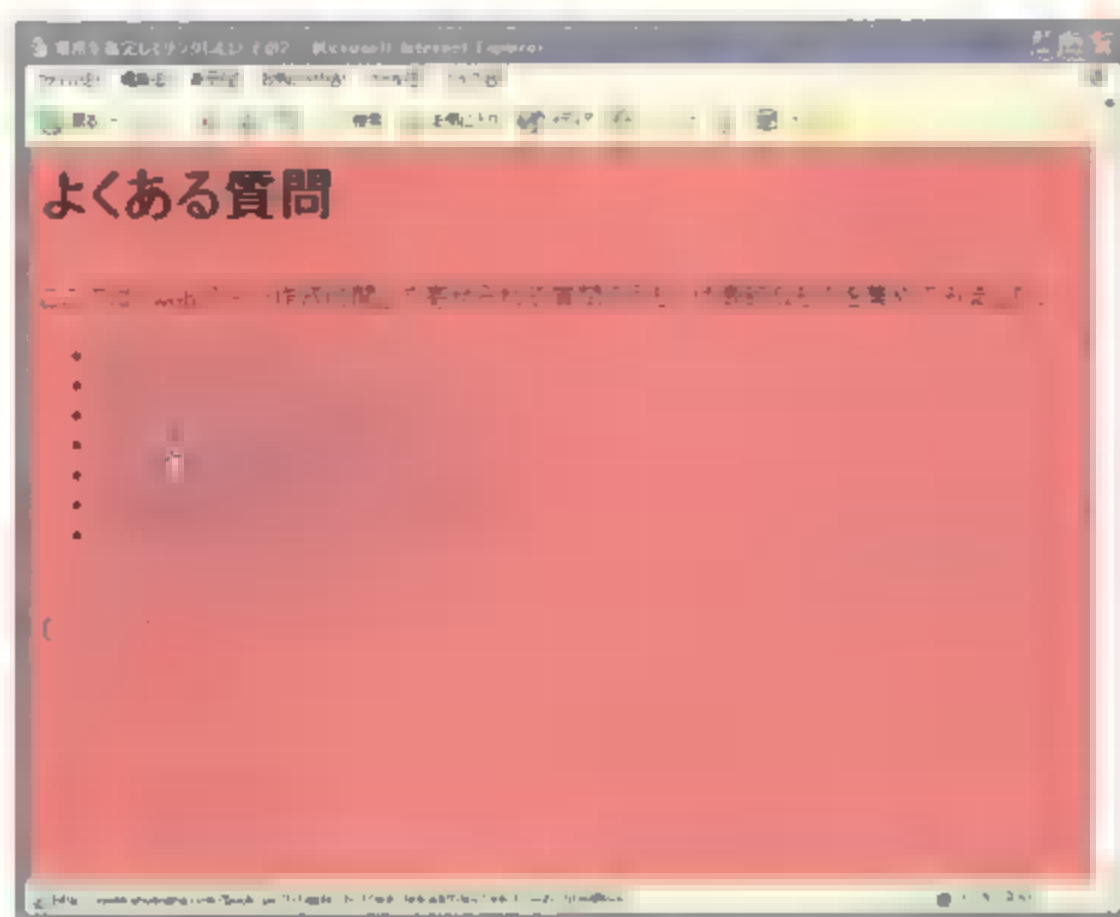
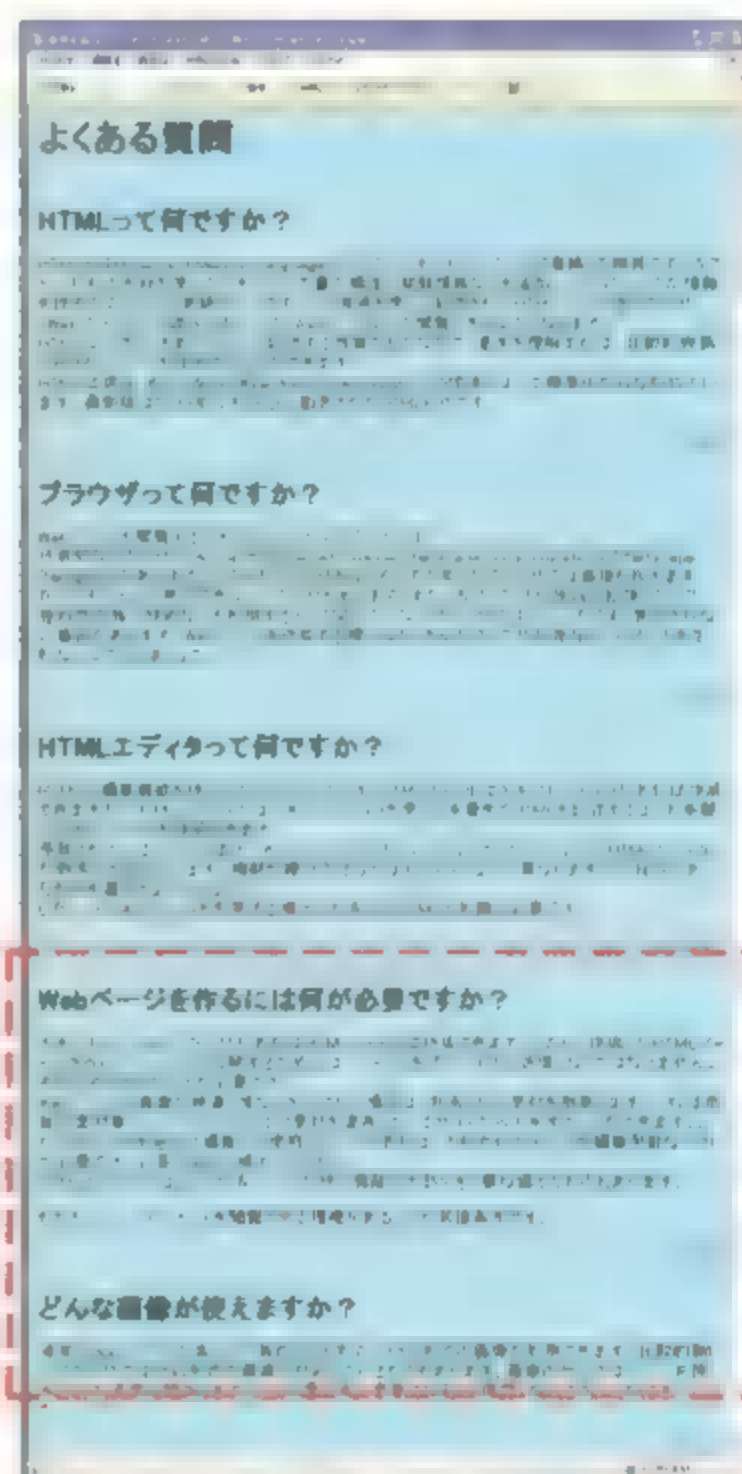
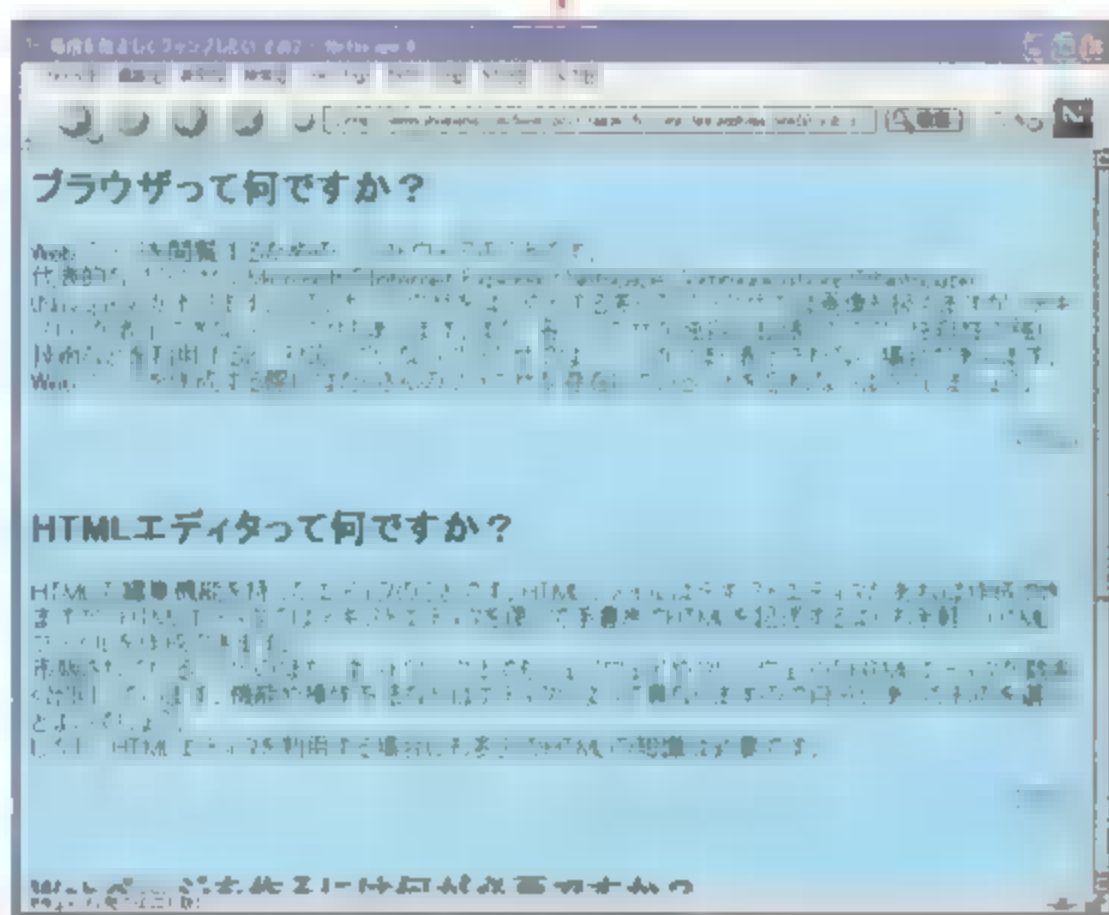
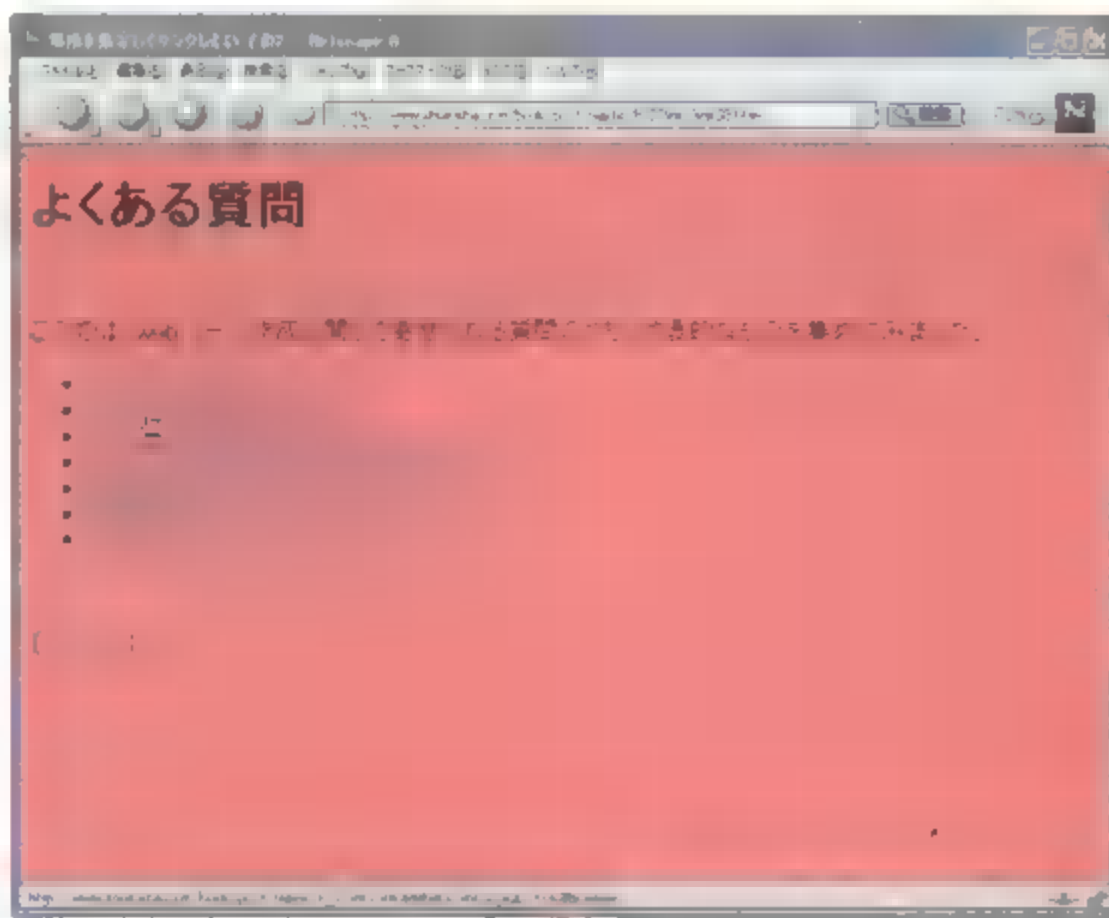
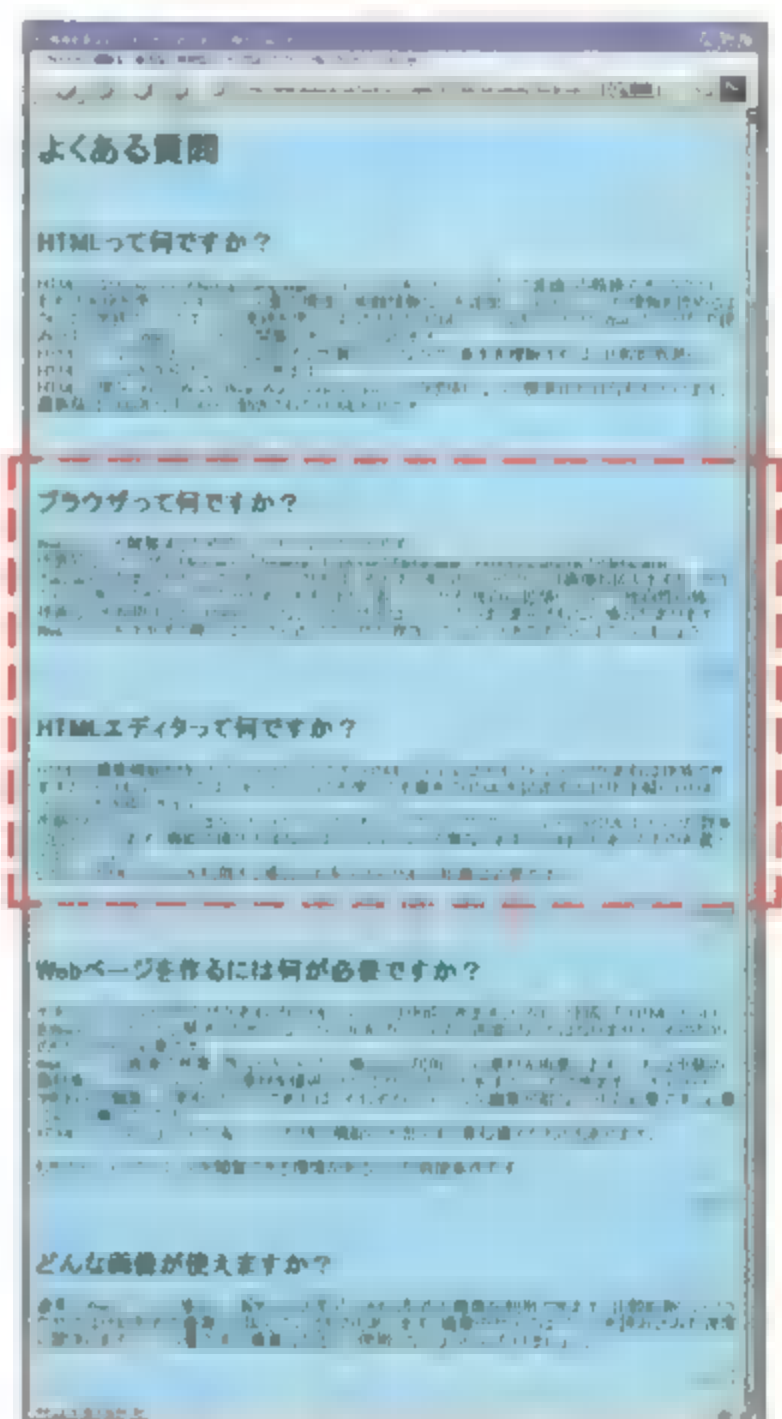
href属性の値には、キーワードの先頭に「#」をつけることも忘れずに。

SOURCE

```
<h1><a name="faq">よくある質問</a></h1><br>
<p>
ここでは、Webページ作成に関して寄せられる質問のうち、代表的なものを集めてみました。
</p>

<ul>
<li><a href="cont.html#html">HTMLって何ですか？</a></li>
<li><a href="cont.html#browser">ブラウザって何ですか？</a></li>
<li><a href="cont.html#editor">HTMLエディタって何ですか？</a></li>
<li><a href="cont.html#tool">Webページを作るには何が必要ですか？</a></li>
<li><a href="cont.html#img">どんな画像が使えますか？</a></li>
<li><a href="cont.html#bbs">掲示板はどうやってつけるのですか？</a></li>
<li><a href="cont.html#i-mode">iモード対応HTMLって何ですか？</a></li>
</ul>
<hr>
```

```
<p>
［<a href="../index.html">HOME</a>］
</p>
</body>
```

リンク先のcont.html

```
<body bgcolor="#66ccff">
<h1>よくある質問</h1>

<hr>

<h2><a name="html">HTMLって何ですか？</a></h2>
<p>
HTMLとはHyperText Markup Language（ハイパーテキストマークアップ言語）の略語です。
タグといわれる手段を使ってテキストに文書の構造や修飾情報などを追加し、コンピュータ
が情報を読めるようにする言語のことです。この言語を使って記述されたHTMLファイルを
ブラウザ（Webブラウザ）で読み込むことで、Webページとして閲覧できるようになりま
す。<br>
HTMLは一定の決まりに沿って記述する性質のものなので，基本を理解すれば、比較的容易
にHTMLファイルを作成することができます。<br>
HTMLは現在、W3C（World Wide Web Consortium）という団体によって標準化が行なわれ
ています。現在使用されているHTMLはバージョン4.01です。
</p>
<div align="right"><a href="faq_menu.html#faq">【戻る】</a></div>

<hr>
<h2><a name="browser">ブラウザって何ですか？</a></h2>
<p>
Webページを閲覧するための、ソフトウェアのことです。<br>
代表的なブラウザにMicrosoftのInternet ExplorerとNetscape CommunicationsのNetscape
（Navigator）があります。この2大ブラウザをはじめとする多くのブラウザでは画像も扱え
ますが、……（後略）
```

▲他ページの特定の場所へリンクします

▲このように長いページに有効なリンクです

▲他ページの特定の場所へリンクします

▲このように長いページに有効なリンクです

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

場所を指定してリンクしたい その1 ……………p.148

新しいウィンドウにリンク先を表示したい

** ～ **

★ ••••••リンク先の URL
☆ •••••• _blank

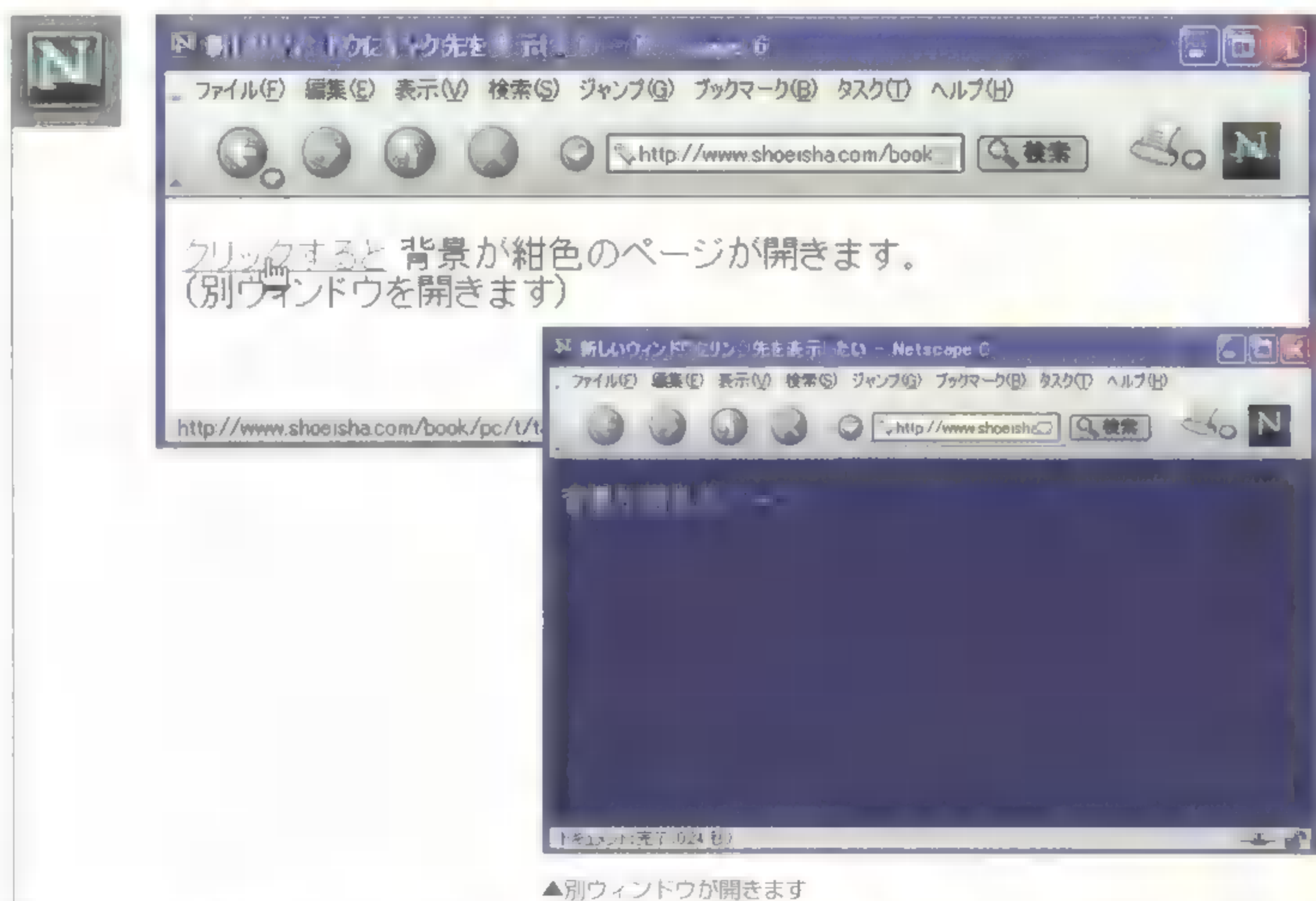
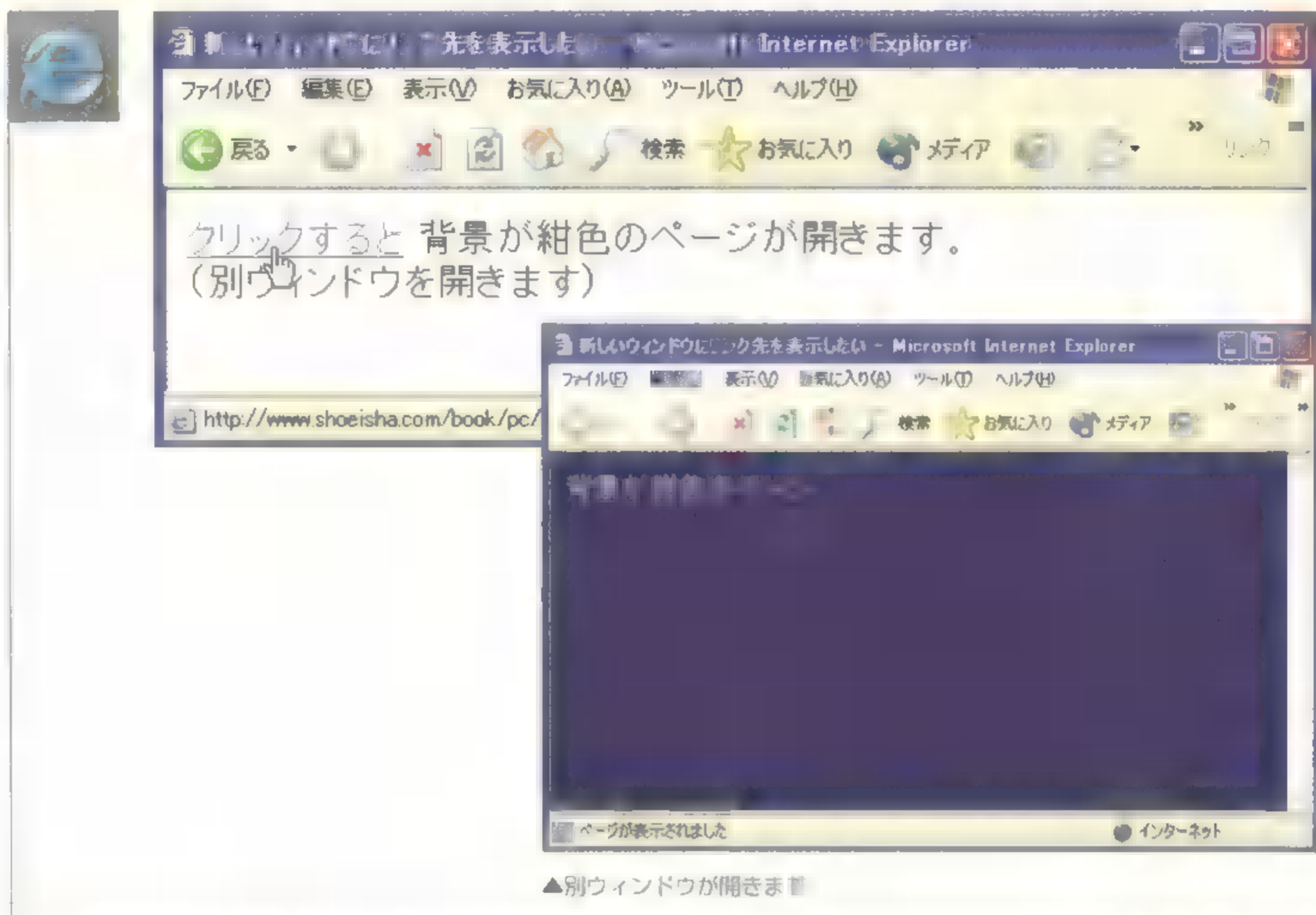
通常のリンク指定では、リンク先の内容がリンク元と同じウィンドウ内に読み込まれますが、読み込み先のウィンドウを指定するtarget属性を利用して、別のウィンドウに表示させることも可能です。この場合はtarget属性に_blankを指定します。_blankは名前のないウィンドウを新しく開く値です。ウィンドウの開きかたを決める規定の値はほかにもありますが、詳しくはフレームの項（p.262）を参照してください。

SOURCE

```
<p>
<a href="bg1.html" target="_blank">クリックすると</a>
背景が紺色のページが開きます。<br>
(別ウィンドウを開きます)
</p>
```

▲別ウィンドウが開きます

▲別ウィンドウが開きます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

基準となるURLを指定したい……………………p.22
リンクを読み込むウィンドウを指定したい………p.262

5 LINK

リンクを利用してメールを送信したい

 ～

★・・・・・・メールアドレス

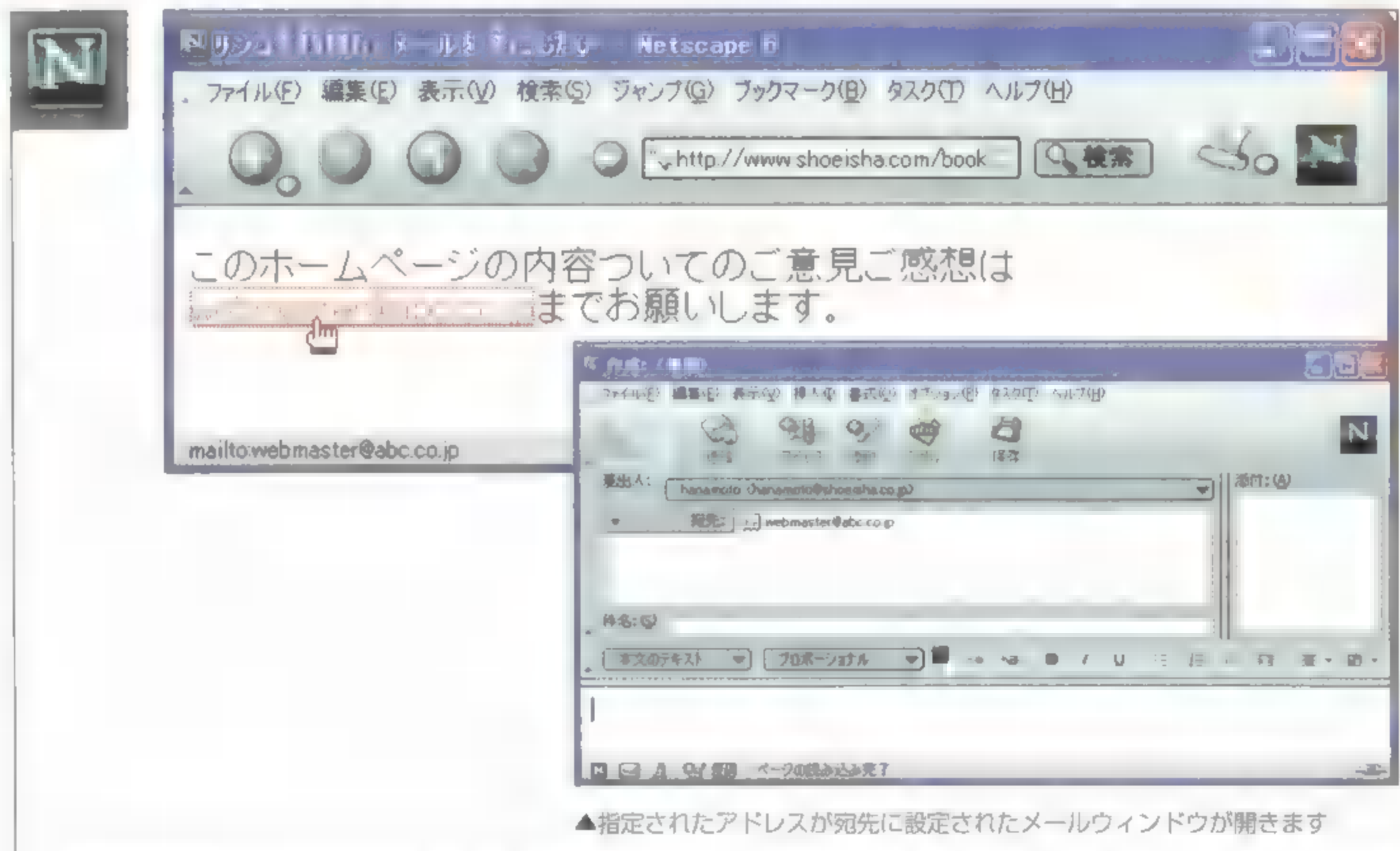
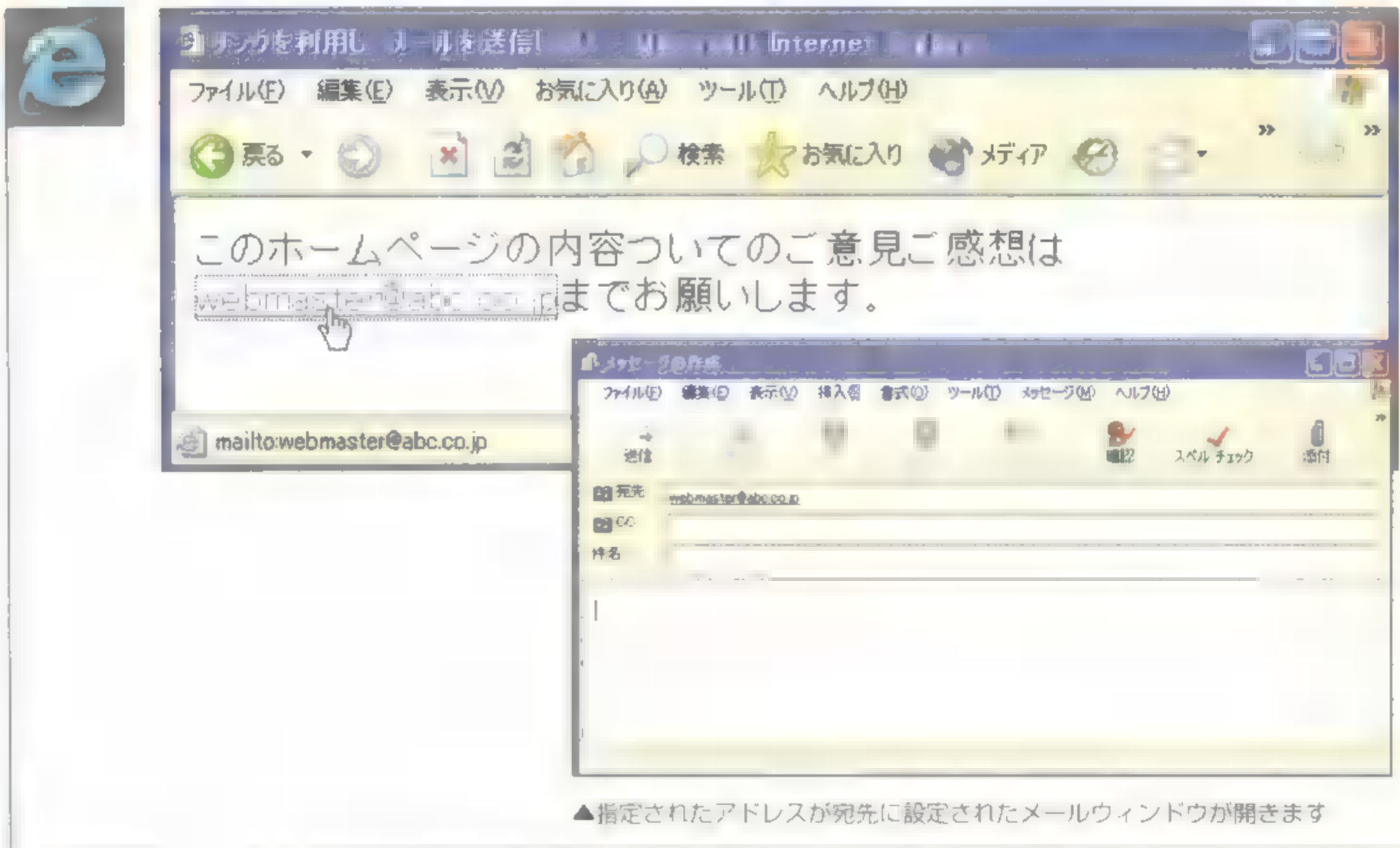
リンクの設定を使ってメールの宛先を指定することができます。この機能に対応したブラウザであれば、リンクをクリックすると、ブラウザ■で設定されているメール発信用のウィンドウが起動します。

SOURCE

```
<p>
このホームページの内容ついてのご意見ご感想は
<a href="mailto:webmaster@abc.co.jp">webmaster@abc.co.jp</a> までお願いします。
</p>
```

リンク

▲指定されたアドレスが宛先に設定されたメールウィンドウが開きます

▲指定されたアドレスが宛先に設定されたメールウィンドウが開きます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

問い合わせ先を示したい……………………p.25
フォームをメールで送信したい………………p.162

1 FORM

入力フォームを作りたい

<form action="★" method="☆" enctype="◆"> ～ </form>

★ ••••••データの送信先（URL）
☆ ••••••"get"、"post"（データの送信方法）
◆ ••••••データを送信する際のMIMEタイプ

ユーザーが入力して送信できるフォームを作成するための、基本となるタグです。

<form>～</form>は、この範囲が入力フォームであることを示します。フォームの送信先や送信方法などもこの<form>タグの属性で指定します。

action属性は、フォームに入力されたデータを処理するCGIなどのプログラムのURLを指定します。HTML4.01では省略不可の属性となっています。

method属性では入力されたデータをどのような形で送信するかを設定します。getとpostのどちらかを選択しますが、一般的には「post」を使用します。両者の違いは次のとおりです。

get　　URLとフォームのデータをセットで送信（デフォルト）
post　　フォームのデータのみを送信

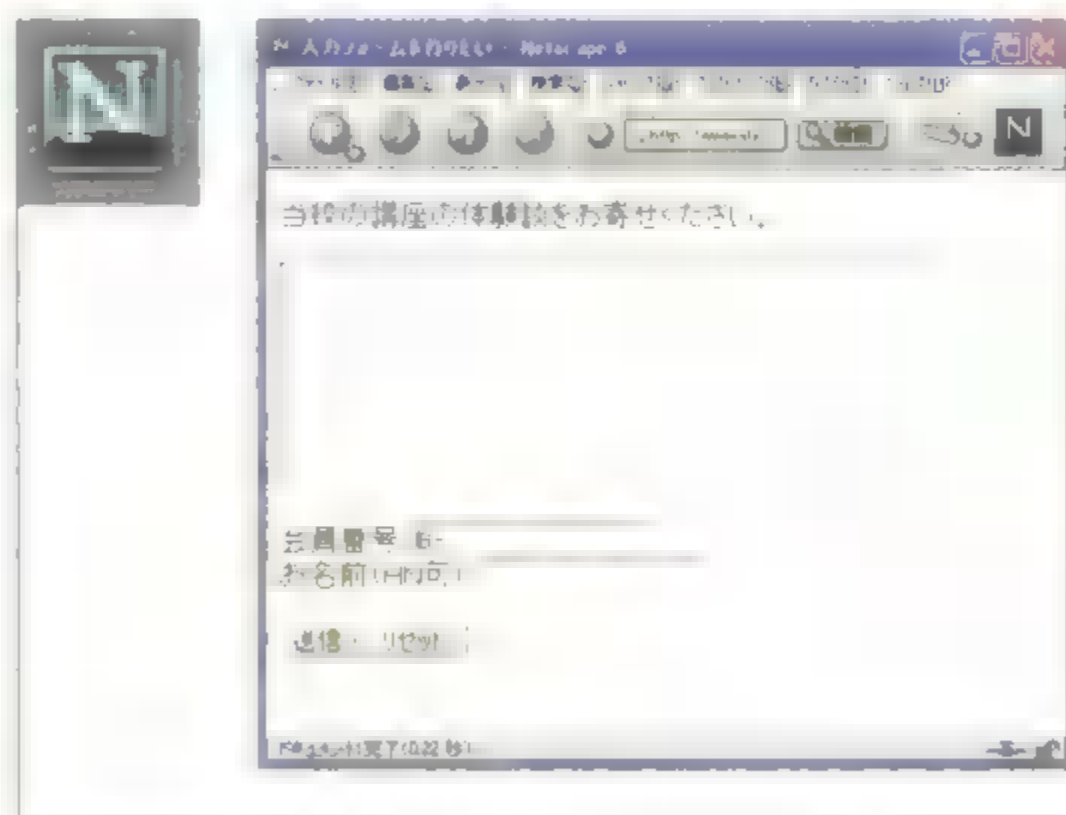
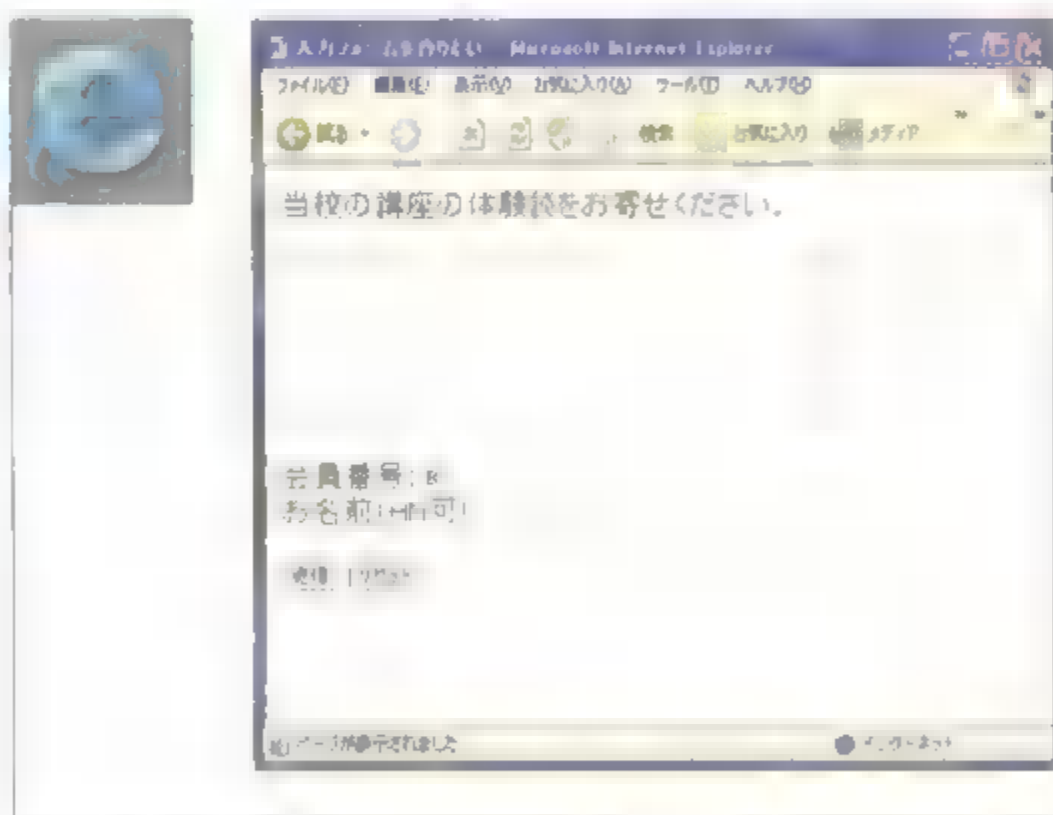
この属性は省略可能ですが、省略した場合はデフォルトのgetが選択されます。

enctype属性は、method="post"の場合のフォームの送信方法（MIMEタイプ）を指定するものです。デフォルトは「application/x-www-form-urlencoded」です。input type="file"のフォームの場合には「multipart/form-data」を指定します。enctype属性については次項を参照してください。

テキストなどの入力フィールドや送信ボタンなど、フォームの各部品を作成するさまざまなタグは、すべてこの<form>～</form>タグの間に記述していきます（次項以降参照）。

なお、フォームに入力されたデータを実際に送信するためには、送信されたデータを処理するためのCGIなどのプログラムが別に必要になりますので注意してください。

SOURCE

```
<p>
当校の講座の体験談をお寄せください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <textarea name="opinion" rows="8" cols="50"></textarea>
  </p>
  <p>
  会員番号：<input type="text" name="number" value="B-"><br>
  お名前（HN可）：<input type="text" name="yourname">
  </p>


  <p>
  <input type="submit" value="送信">
  <input type="reset" value="リセット">
  </p>
</form>
```

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

フォームをメールで送信したい･･････････････････p.162

2 FORM HTML4.01 規格

フォームをメールで送信したい

<form action="mailto:★" method="post" enctype="☆"> ～ </form>

★……メールの送信先（メールアドレス）
☆……データを送信する際のMIMEタイプ

メールを使ってフォーム内容を送信するよう設定します。

action属性には「mailto:メールアドレス」を指定します。この場合のmethod属性はpostです。

enctype属性にはデータを送信する際のMIMEタイプを指定しますが、デフォルトの「application/x-www-form-urlencoded」では内容がエンコード（変換）されていてそのままでは読むことができず、変換するためのツールが必要になります。それに対して「text/plain」（プレーンテキスト形式）や「multipart/form-data」を指定すると、そのまま読める状態で送信してもらうことができます。

確実に送信するならCGIを利用

フォームをメールで送信する方法は簡単に設置できることが魅力ですが、ユーザーが使用しているメールソフトやブラウザの種類・設定など、環境によってうまく機能しないこともあります（Netscape 6では機能しません）。確実に送信してもらいたいのであればCGIを利用したほうがよいでしょう。

CGIを利用するにはCGIに関する知識のほか、プロバイダ側でCGIの利用を許可していることなどが基本的な条件になります。そのためメールを利用する方法よりも扱いが難しくなりますが、Web上には無料のCGIスクリプトやCGIサービスを提供するサイトも数多くあり、こういったサービスを利用すれば初心者でもCGIが利用しやすくなります。CGIに関してはp.334も参照してください。

SOURCE

```
<p>
当校の講座の体験談をお寄せください。
</p>
<form action="mailto:xxxx@ank.co.jp" method="post"
enctype="text/plain">
  <p>
  <textarea name="opinion" rows="8" cols="50"></textarea>
  </p>
  <p>
  会員番号：<input type="text" name="number" value="B-"><br>
  お名前（HN可）：<input type="text" name="yourname">
  </p>

  <p>
  <input type="submit" value="送信">
  <input type="reset" value="リセット">
  </p>
</form>
```

▲入力内容がプレーンテキスト形式で、指定のメールアドレスに送信されます

▲Netscape 6ではメールウィンドウが開くだけで
フォームの送信は行われません

フォーム

送信者：花本 智奈美　**宛先**：xxxx@ank.co.jp
件名：Microsoft Internet Explorer から投稿されたフォーム

opinion=テキストを入力して送ってみましょう。
number=B-123-456
yourname=翔泳　太郎

▲フォームの受信結果（Outlook Express で受信）

```
opinion=%83e%83L%83X%83g%82%F0%93%FC%97%CD%82%B5%82%C4%91%97%82%C1%82%C4%82%DD%8
2%DC%82%B5%82%E5%82%A4%81B&number=B-123-456&yourname=%E3%C4%89j%81@%91%BE%98Y
```

▲enctype=application/x-www-form-urlencoded（デフォルト）を指定した場合の受信結果。エンコードする必要があります

```
-----------------------------7d21c03470580
Content-Disposition: form-data; name="opinion"

テキストを入力して送ってみましょう。
-----------------------------7d21c03470580
Content-Disposition: form-data; name="number"

B-132-456
-----------------------------7d21c03470580
Content-Disposition: form-data; name="yourname"

翔泳　太郎
-----------------------------7d21c03470580--
```

▲enctype=multipart/form-data を指定した場合の受信結果

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	[illegible]	N6.[illegible]
	○	○	○	○	○	○	×

※Macintosh版 Internet Explorer 5は対応していません

問い合わせ先を示したい ……………………p.25
リンクを利用してメールを送信したい …………p.158

3 FORM

送信ボタンを作りたい

<input type="submit" ★ >

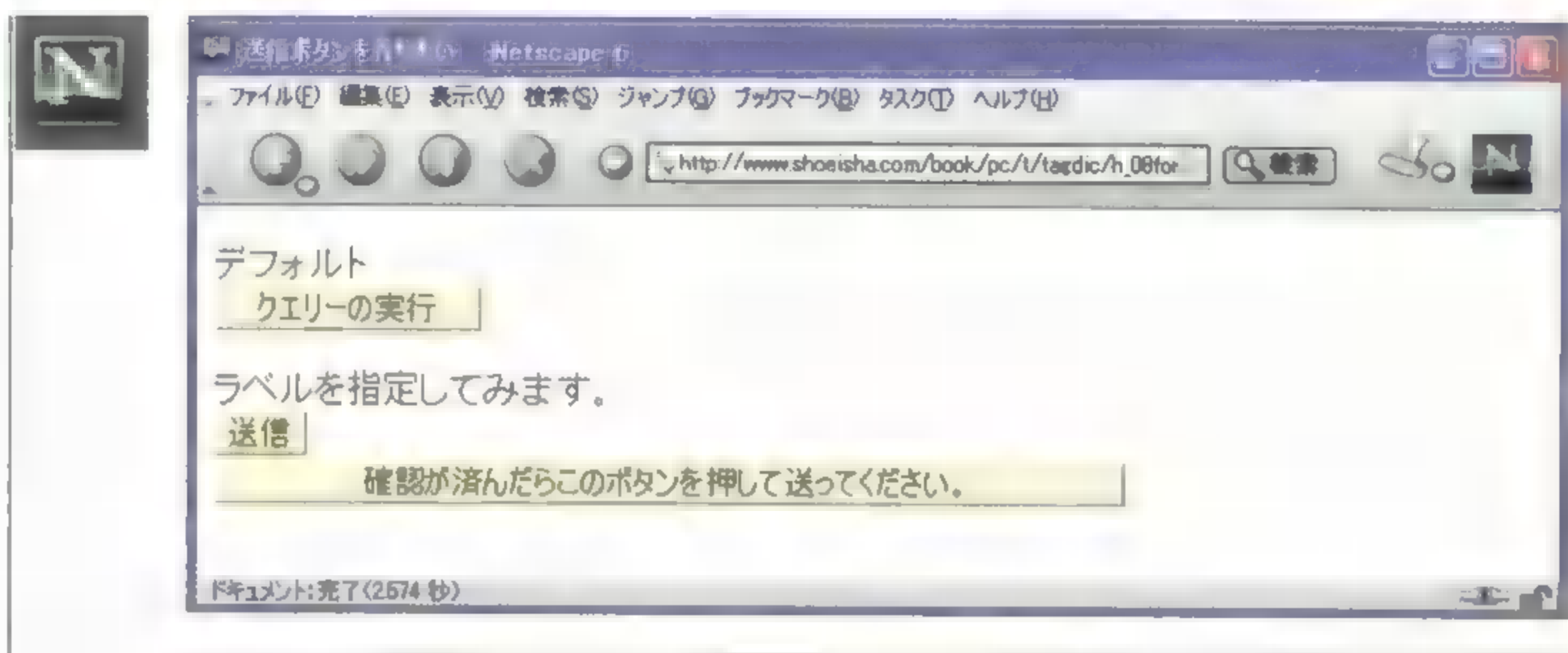
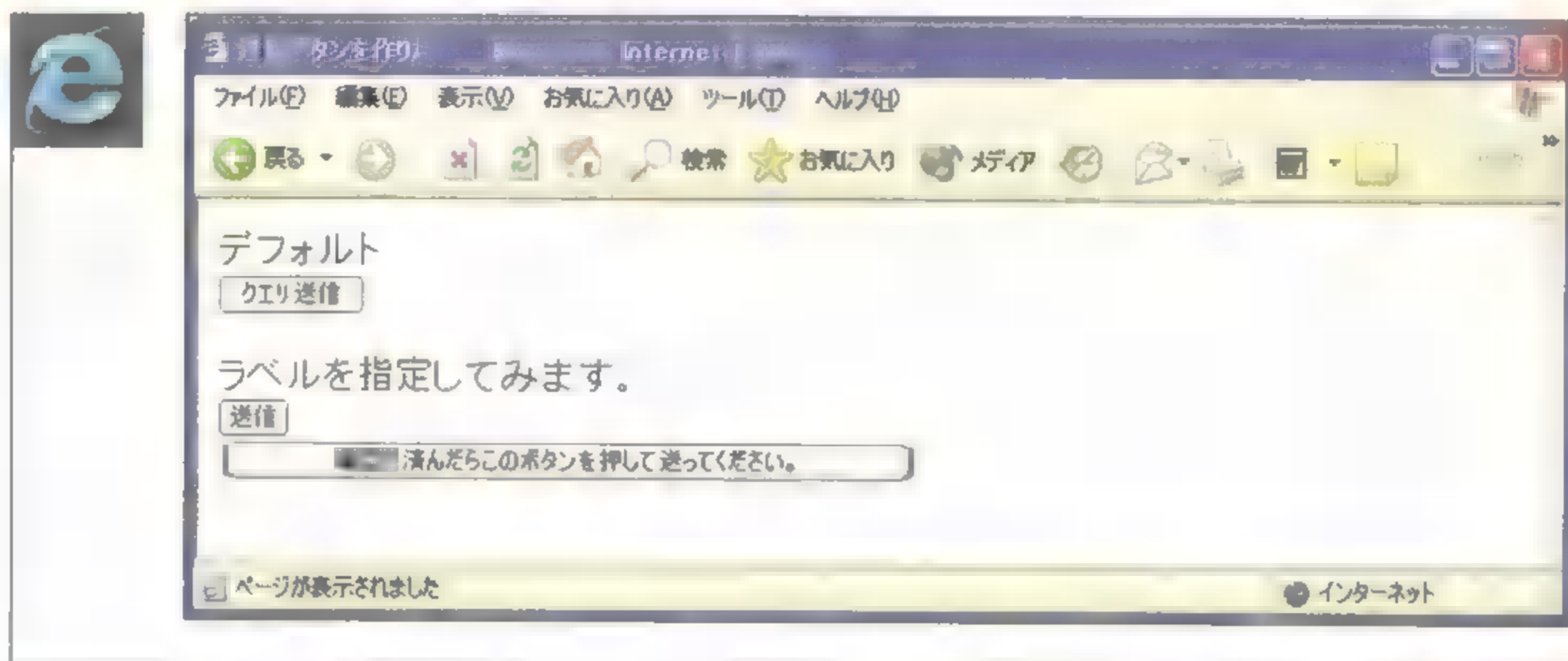
★ ••••••name="ボタン名"
value="ラベル名"

type="submit"でフォームの内容を送信する送信ボタンを作成します。フォームを送信してもらうには、このボタンが必要です。

value属性はボタンに表示するテキスト（ラベル）を設定するものです。「送信」「送る」などのテキストはこの属性で設定します。この属性を指定しない場合はブラウザ側のデフォルトのテキストが用いられます。Internet Explorerでは「クエリ送信」、Netscape 6では「クエリーの実行」、それ以前のNetscape Navigatorでは「Submit Query」と表示されます。

name属性は複数の送信ボタンを作成した場合に、押されたボタンを受信側で判別するための値を設定します。

SOURCE

```
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  デフォルト<br>
  <input type="submit">
  </p>
  <p>
  ラベルを指定してみます。<br>
  <input type="submit" value="送信"><br>
  <input type="submit" value="確認が済んだらこのボタンを押して送ってください。">
  </p>
</form>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

※Macintosh版Internet Explorer 5のデフォルトのテキストは「Submit」です

リセットボタンを作りたい……………………p.168
画像を送信ボタンにしたい……………………p.170
ボタンを作りたい……………………………p.172

FORM

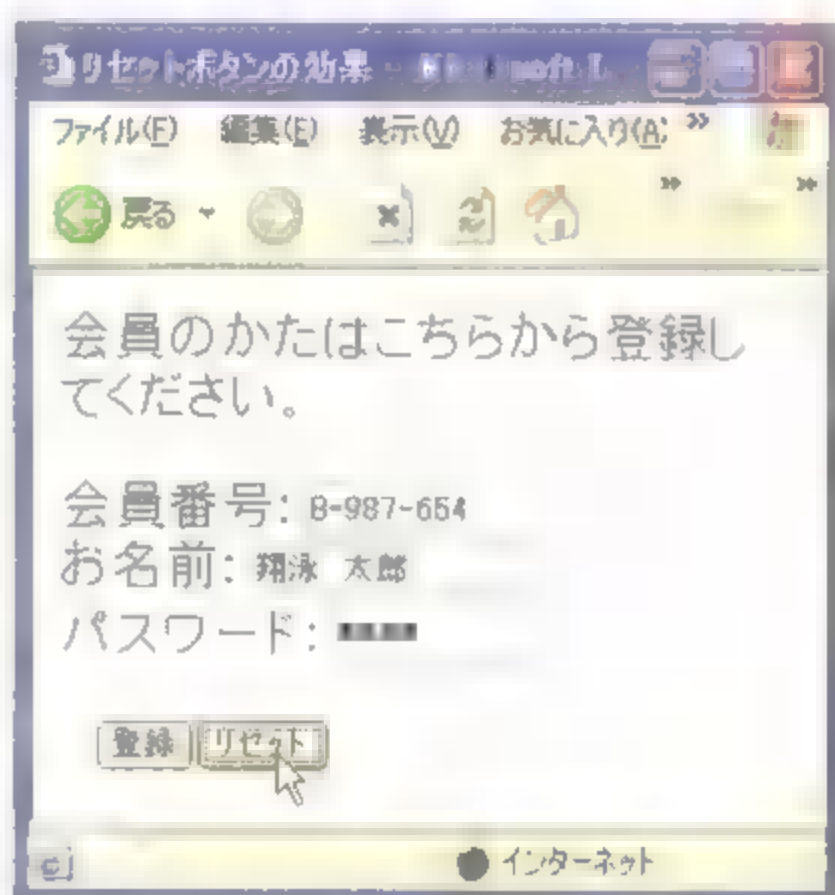
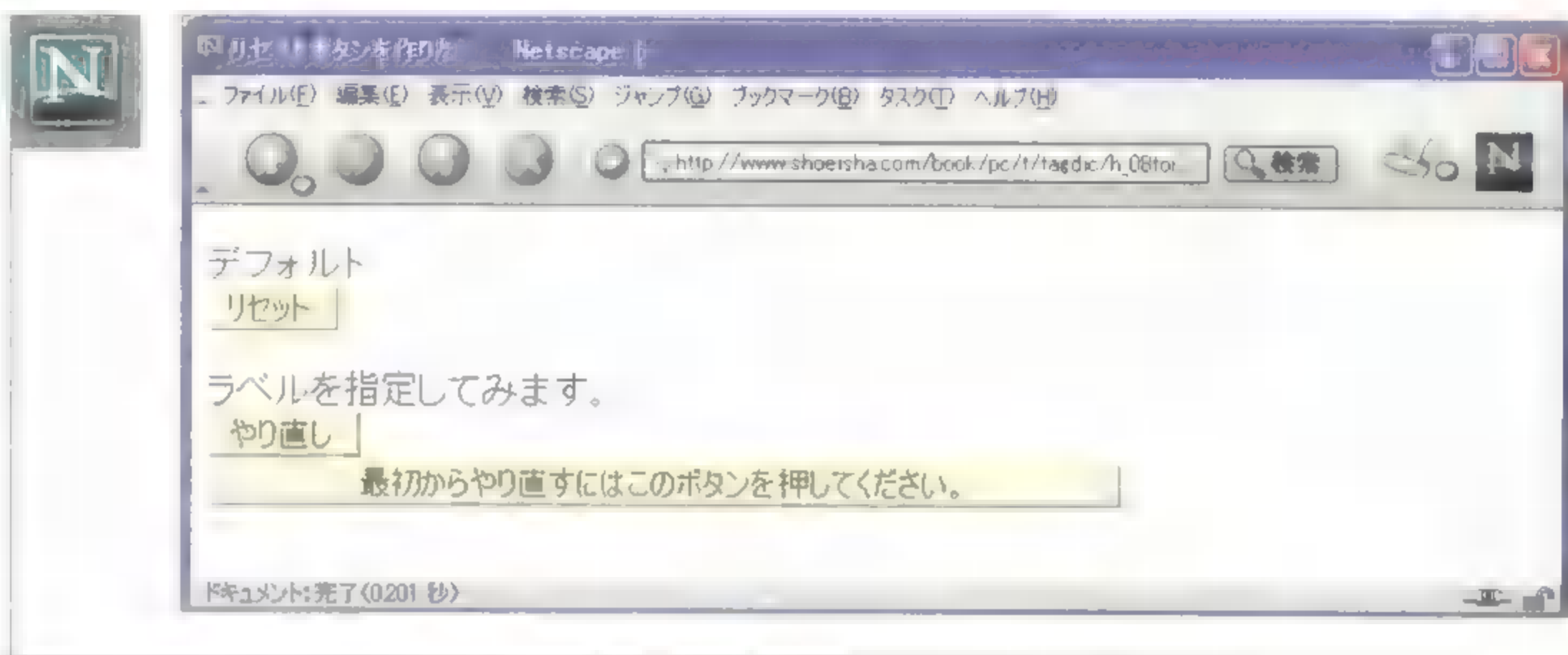
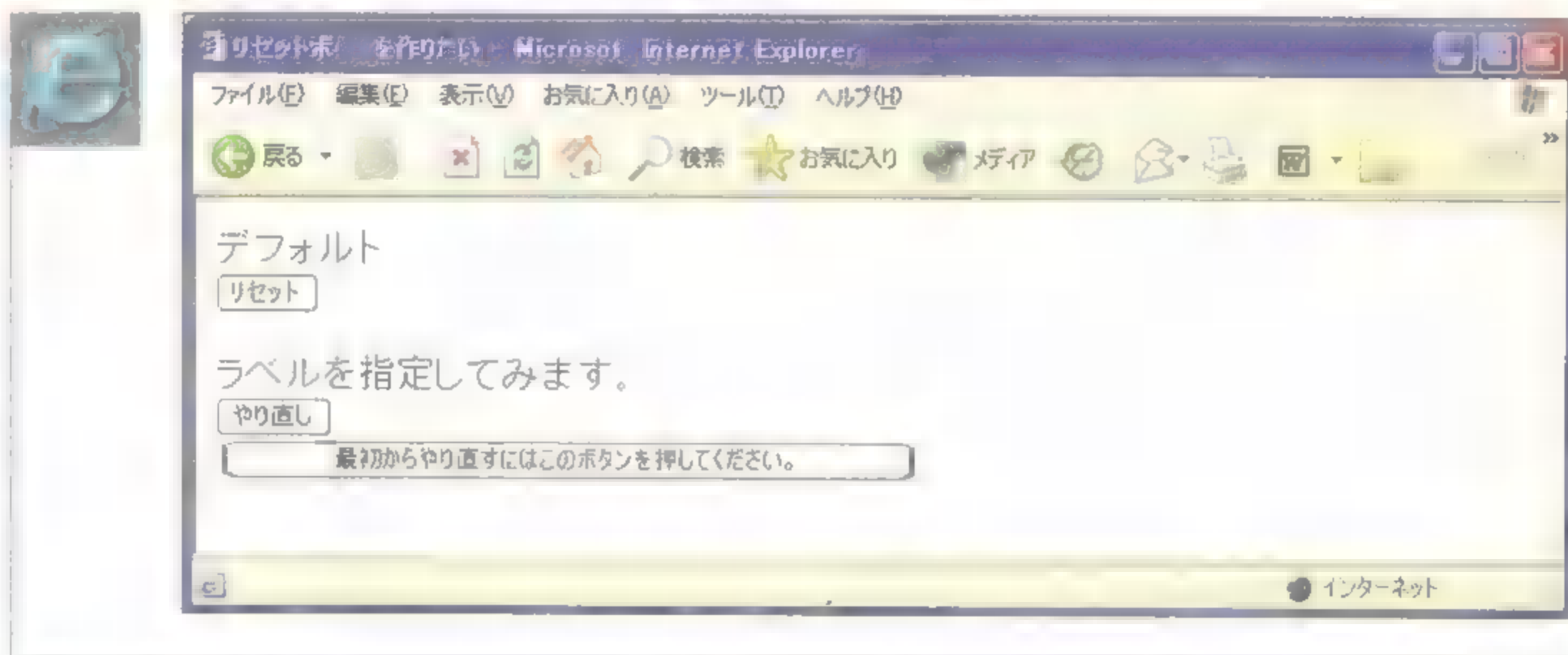
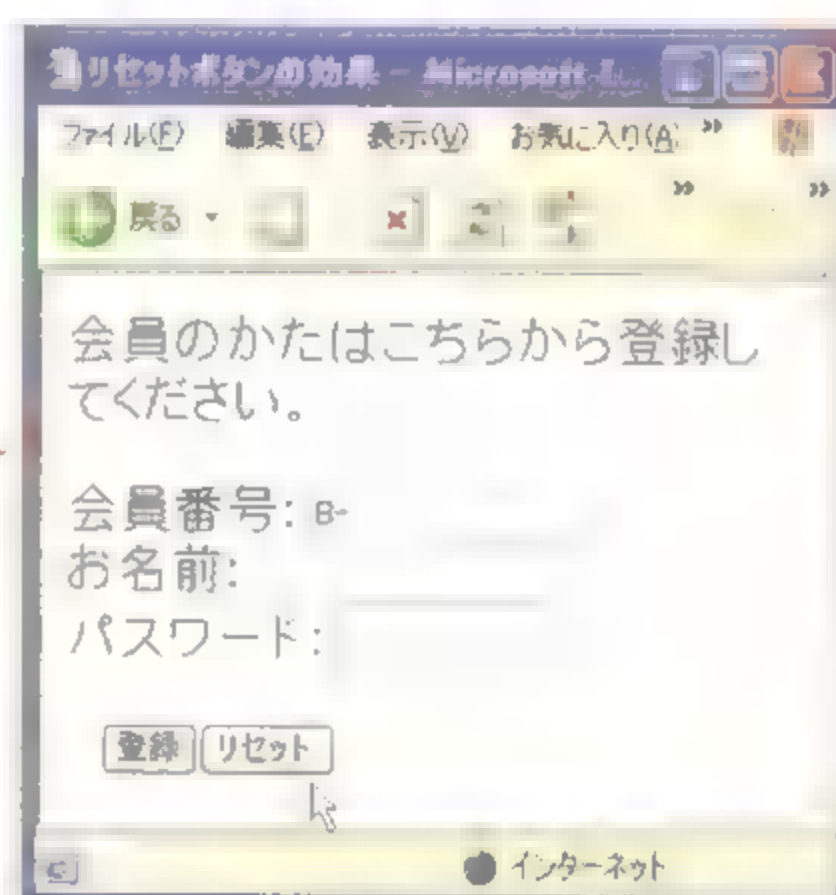
リセットボタンを作りたい

<input type="reset" ★ >

★・・・・・・value="ラベル名"

type="reset"で、フォームの内容を初期状態に戻すリセットボタンを作成します。ユーザーがリセットボタンを押すと、そのフォームにユーザーが入力した内容やチェックした項目が取り消され、初期状態になります。

value属性はボタンに表示するテキスト（ラベル）を設定するものです。「やり直し」「取り消し」などのテキストはこの属性で設定します。この属性を指定しない場合はブラウザ側のデフォルトのテキストが用いられます。Internet Explorer、Netscape 6では「リセット」、バージョン6以前のNetscape Navigatorでは「Reset」と表示されます。

```
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  デフォルト<br>
  <input type="reset">
  </p>
  <p>
  ラベルを指定してみます。<br>
  <input type="reset" value="やり直し"><br>
  <input type="reset" value="最初からやり直すにはこのボタンを押してください。">
  </p>
</form>
</body>
```

▲入力後リセットボタンを押すと

▲入力した内容が消去され、初期状態になります

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]2
	○	○	○	○	○	○	○

※Macintosh版Internet Explorer 5のデフォルトのテキストは「Reset」です

送信ボタンを作りたい……………………………p.166
ボタンを作りたい…………………………………p.172

5 FORM

画像を送信ボタンにしたい

<input type="image" ★ >

★ ••••••src="画像ファイル名"（URL）
alt="画像の代わりのテキスト"
name="ボタン名"
align="top"、"middle"、"bottom"、"left"、"right"

type="image"を指定すると、画像を送信ボタンとして利用できるようになります。

src属性で使用する画像ファイル名（URL）を、alt属性で画像の代替テキストを設定しますが、alt属性は対応していないブラウザもあります。

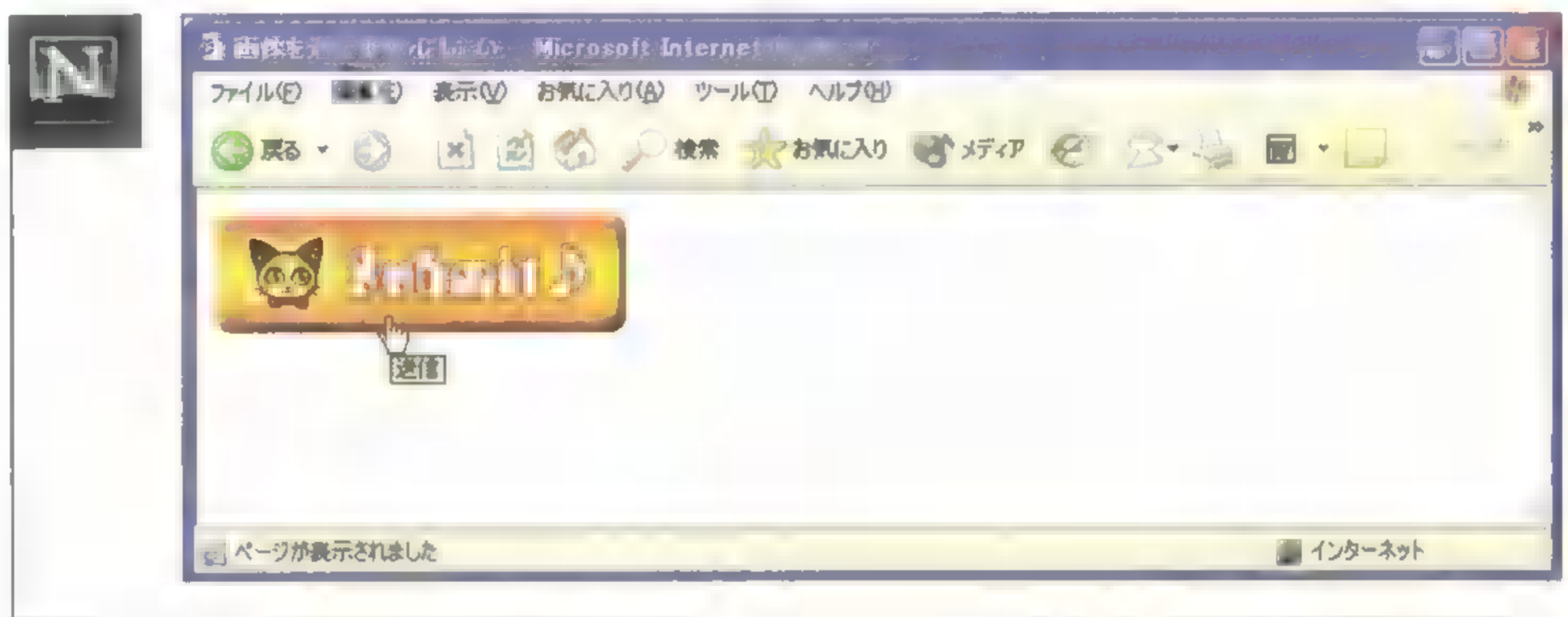
align属性では次のような値をとって、通常の画像同様に表示方法やテキストの回り込みを指定することができます。

top	画像の上部と周囲のテキストの上端を揃える
middle	画像の中央と周囲のテキストのベースラインを揃える
bottom	画像の下部とテキストのベースラインを揃える（デフォルト）
left	画像が左端に寄り、その右側にテキストを回り込ませる
right	画像が右端に寄り、その左側にテキストを回り込ませる

なお、回り込みを解除する場合は<br clear="★">（p.138参照）を使ってください。

フォーム

SOURCE

```
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <input type="image" src="cat_submit.gif" alt="送信" name="submit">
  </p>
</form>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	○	○	○

参照
送信ボタンを作りたい……………………………p.166
ボタンを作りたい…………………………………p.172

6 FORM

ボタンを作りたい

<button type="★" ☆> ~ </button>

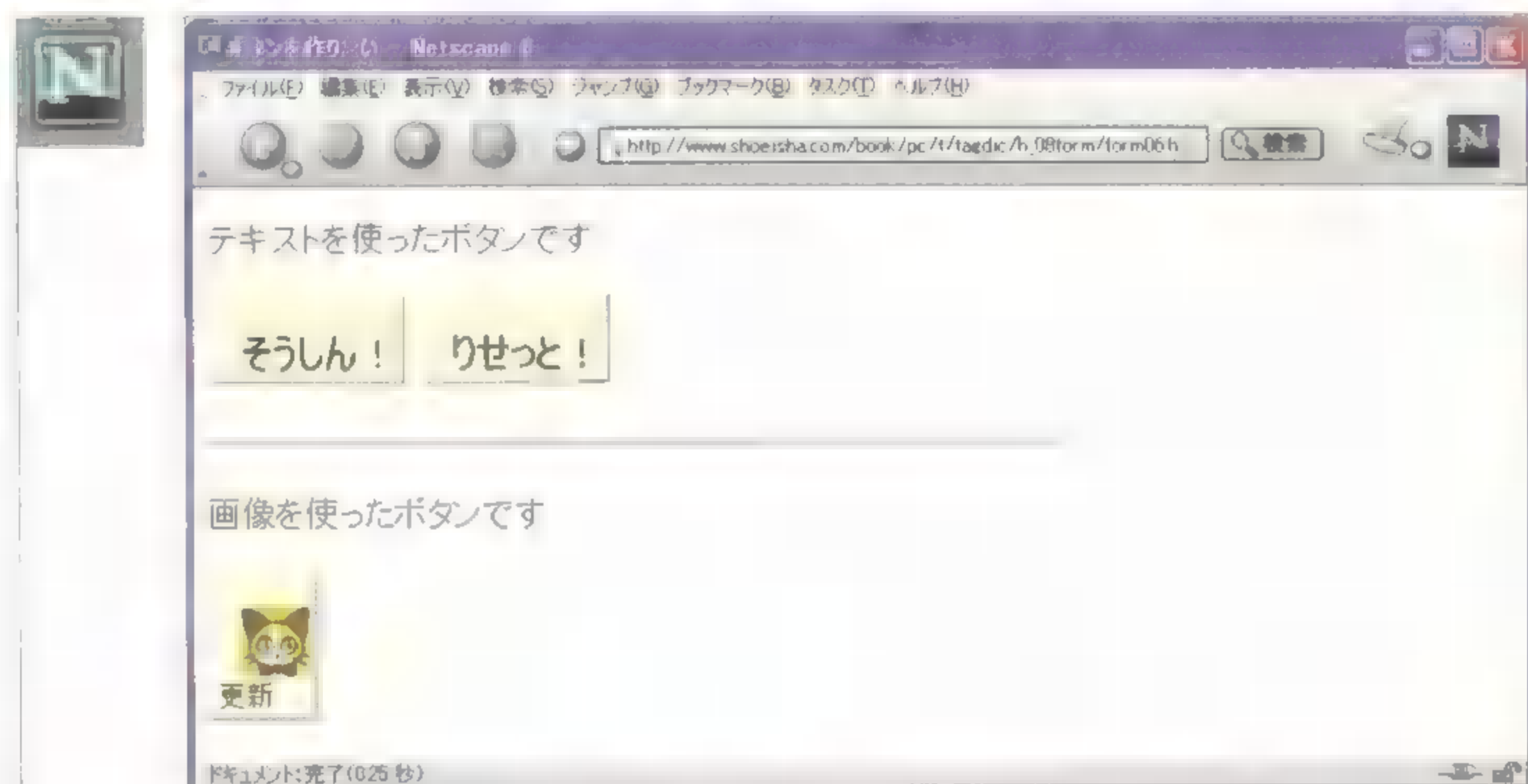
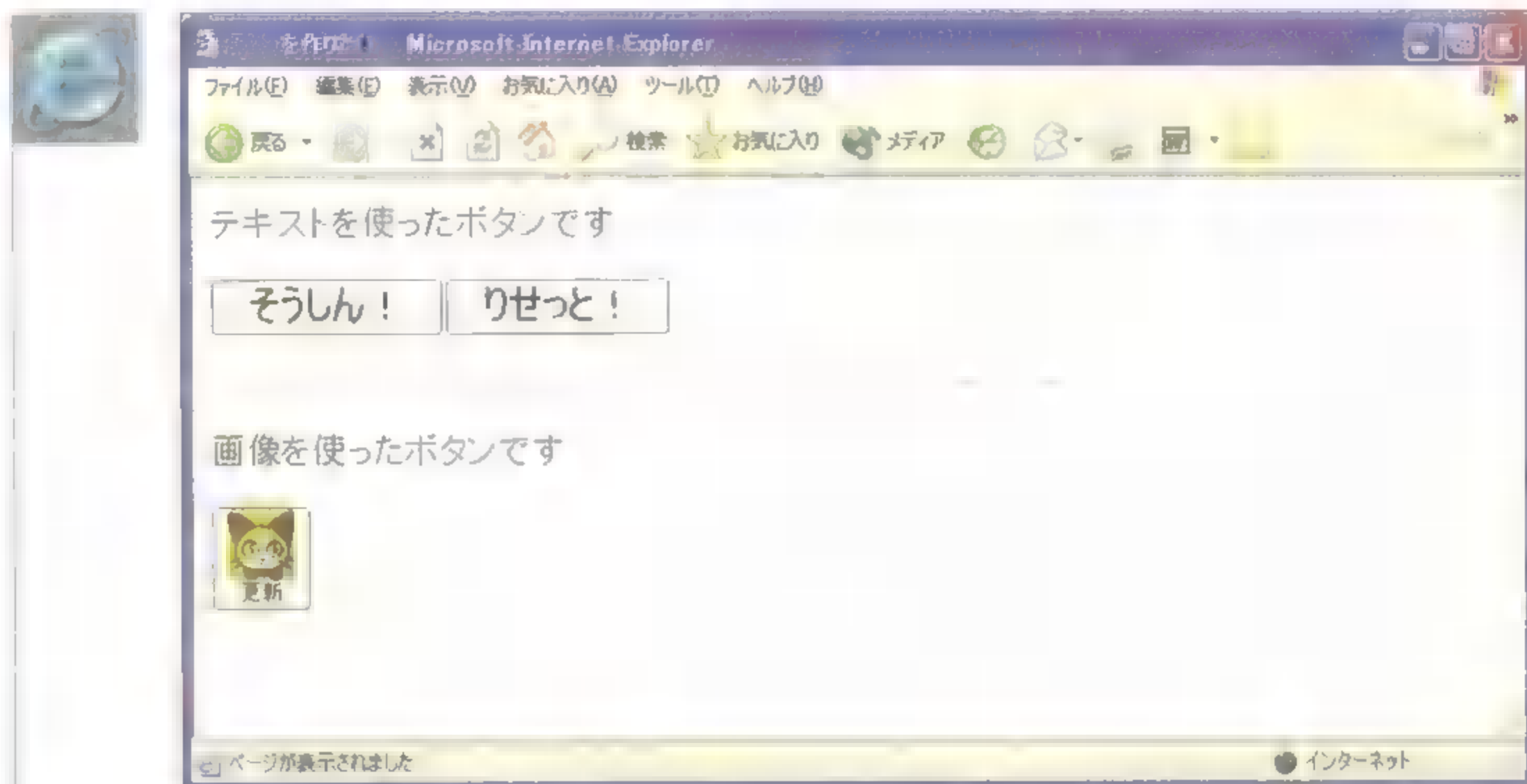
★ ••••••submit、reset、button
☆ ••••••name="ボタン名"
value="送信されるテキスト"

<input> タグを指定したときと同様のボタンを作成しますが、このタグでは <button> タグと </button> タグの間の内容をボタンの上に表示することができます。そのためテキストの表示方法を変えたり、ボタン上に画像を表示させたり、あるいはそれらを組合わせたりすることが可能になります。

type 属性でボタンのタイプに、submit（送信）、reset（リセット）、button（押しボタン）のいずれかを指定してください。デフォルトは submit です。button を指定すると汎用的に利用できる押しボタンが作成されます。JavaScript を使う場合など、送信やリセット以外にボタンが必要なときに利用できます。

name、value 属性には複数のボタンを配置する場合に、受信側で押されたボタンを判別するための値を設定します。

SOURCE

```
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p> テキストを使ったボタンです </p>
  <p>
  <button type="submit" name="submit" value="submit">
  <font size="4"> そうしん！ </font></button>
  <button type="reset" name="reset" value="reset">
  <font size="4"> りせっと！ </font></button>
  </p>

  <hr width="500" align="left">
  <p> 画像を使ったボタンです </p>
```

フォーム

```
<p>
  <button type="button" name="imagebutton">
  <img src="cat_40.gif" width="40" height="40" alt=" "><br>更新
  </button>
  </p>
</form>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	○

参照
送信ボタンを作りたい……p.166
リセットボタンを作りたい……p.168
画像を送信ボタンにしたい……p.170

7 FORM

1行のテキスト入力フィールドを作りたい

<input type="★" ☆ >

★ ••••••text、password
☆ ••••••name="フィールド名"
size="フィールド幅"（文字数）
value="デフォルトで表示されるテキスト"
maxlength="入力可能な最大文字数"

1行のテキスト入力フィールドを作成します。

name属性は、送信されてきたデータを解読するときなどに使用する名前を指定するものです。

size属性は、表示されるフィールドの幅を文字数で指定します。

value属性で指定される値は、入力フィールドにあらかじめ表示されるテキストです。

maxlength属性は、フィールドに入力できる最大の文字数を指定します。

また、type="text"の代わりにtype="password"を指定すると、入力した文字が直接には表示されなくなり、一般的には「＊」や「●」で置き換えて表示されます。ただし、データが暗号化されるわけではなく、送信されたデータを直接見れば解読することができるので、利用には注意が必要です。

フォーム

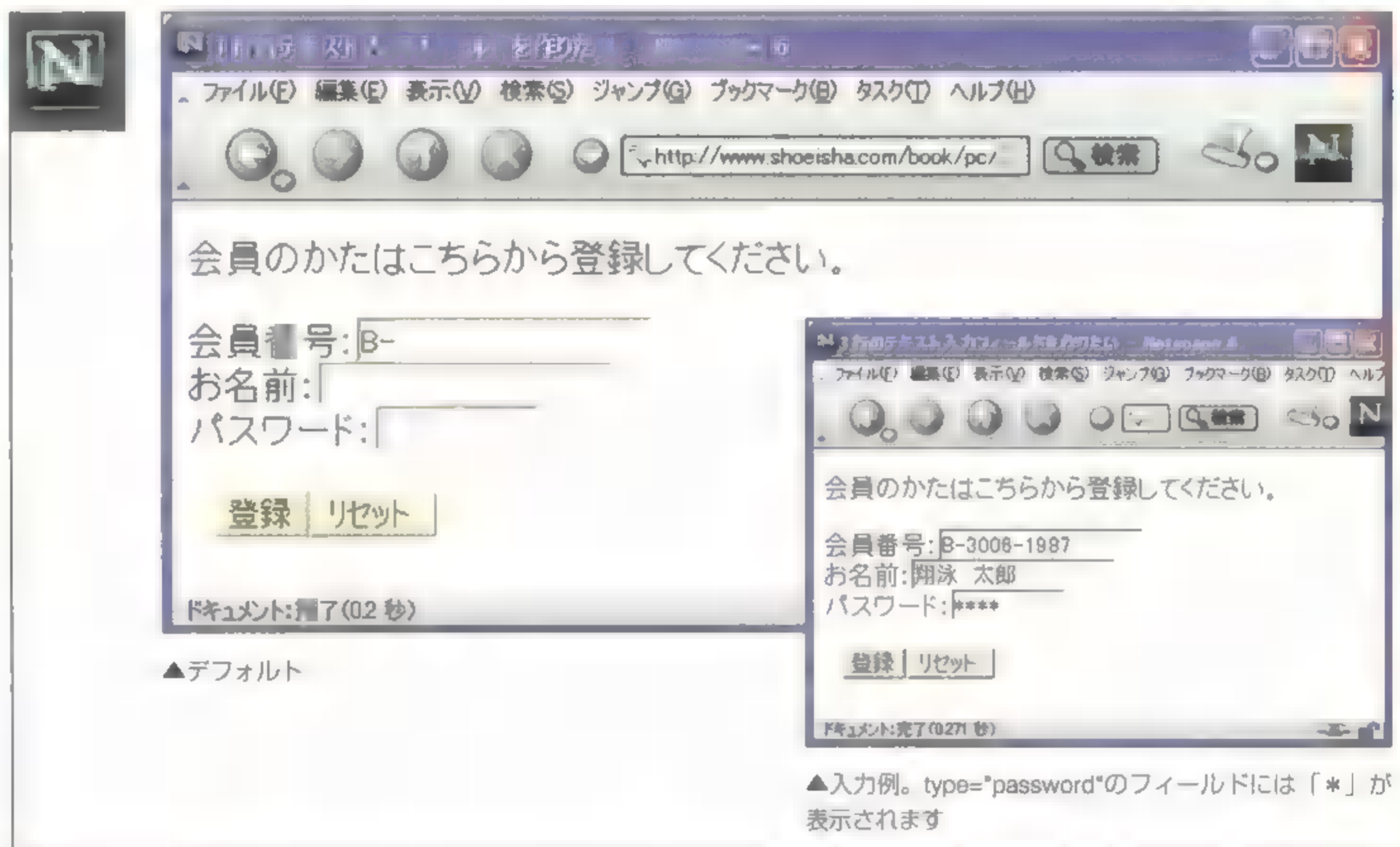
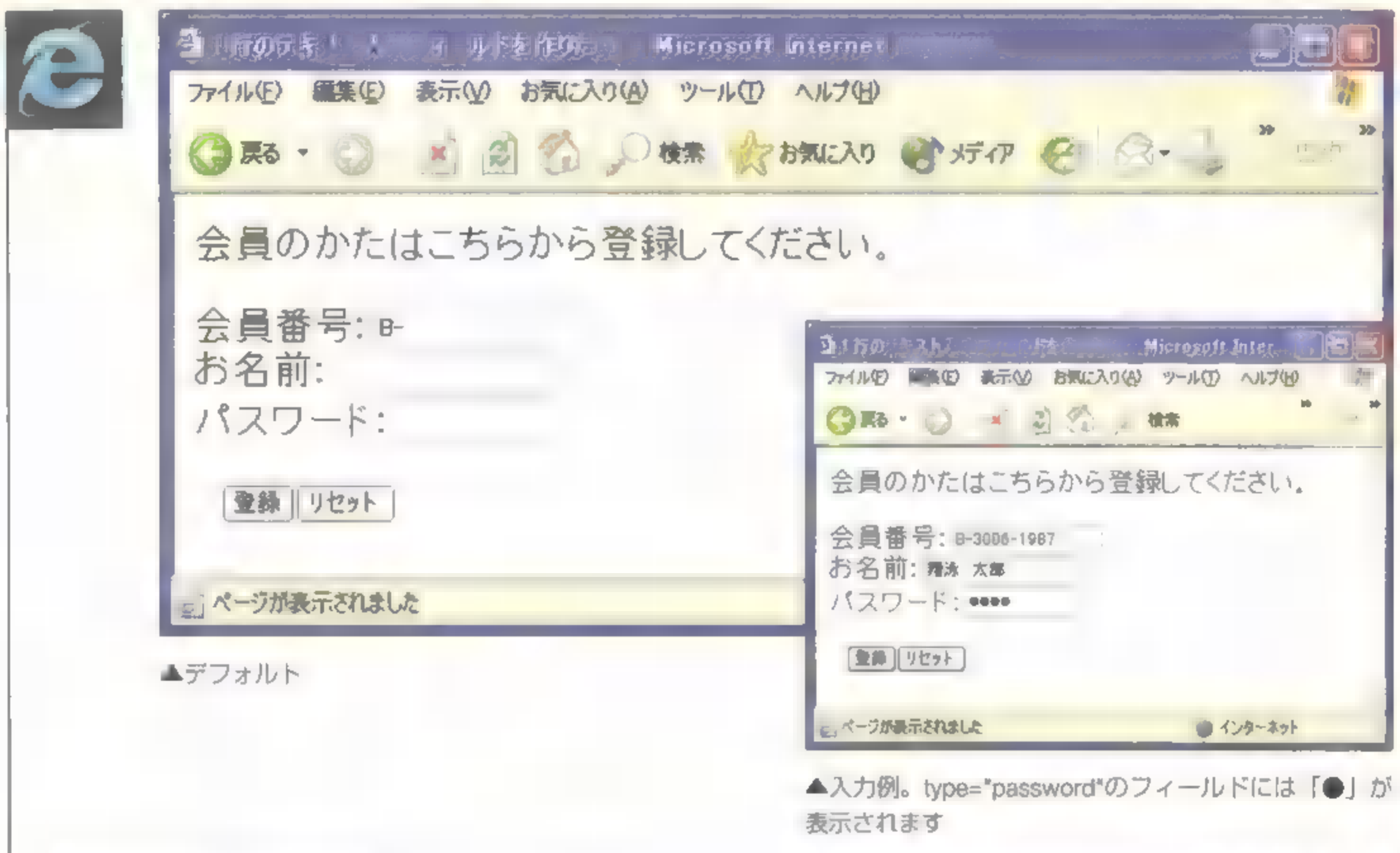
SOURCE

```
<p>会員のかたはこちらから登録してください。</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  会員番号：<input type="text" name="number" value="B-"><br>
  お名前：<input type="text" name="yourname"><br>
  パスワード：<input type="password" name="pw" size="10">
  </p>
  <input type="submit" value="登録"><input type="reset">
</form>
```

▲デフォルト

▲入力例。type="password"のフィールドには「●」が表示されます

▲デフォルト

▲入力例。type="password"のフィールドには「＊」が表示されます

```
number=B-3006-1987
yourname=翔泳　太郎
pw=hana
```

▲フォームの受信例。type="password"の入力内容もそのまま受信できます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

複数行のテキスト入力フィールドを作りたい……p.176

複数行のテキスト入力フィールドを作りたい

<textarea ★ > ～ </textarea>

★ ••••••name="フィールド名"
cols="幅"（半角文字数）
rows="行数"
wrap="soft"、"hard"、"off"（改行方法）

<textarea> タグは複数行の入力が可能なフィールドを作成します。

cols 属性で幅（1 行に入力可能な半角文字数）を、rows 属性で行数を指定してフィールドの大きさを決めるので、この 2 つは必ず指定しなければなりません。

name 属性は、送信されてきたデータを解読するときなどに使用する名前を指定するものです。

wrap 属性は、テキストがフィールド右端にまで達したときの改行方法を指定します。

soft　画面上では自動的に改行して表示されるが、実際に送信されるデータは改行されない
hard　画面上で自動的に改行して表示し、送信されるデータにも改行が入る
off　改行されない

Internet Explorer、Netscape 6 ともに、デフォルトが soft となっているため wrap 属性がなくても表示上改行されますが、4.7 以前の Netscape Navigator でこの属性が指定されていない場合は改行されずに表示されます。この wrap 属性は Internet Explorer と Netscape Navigator が独自に拡張したもので、HTML4.01 では定義されていません。

<textarea> タグと </textarea> タグの間にテキストを記述しておけば、入力フィールドの中にそのテキストをあらかじめ表示させることができます。

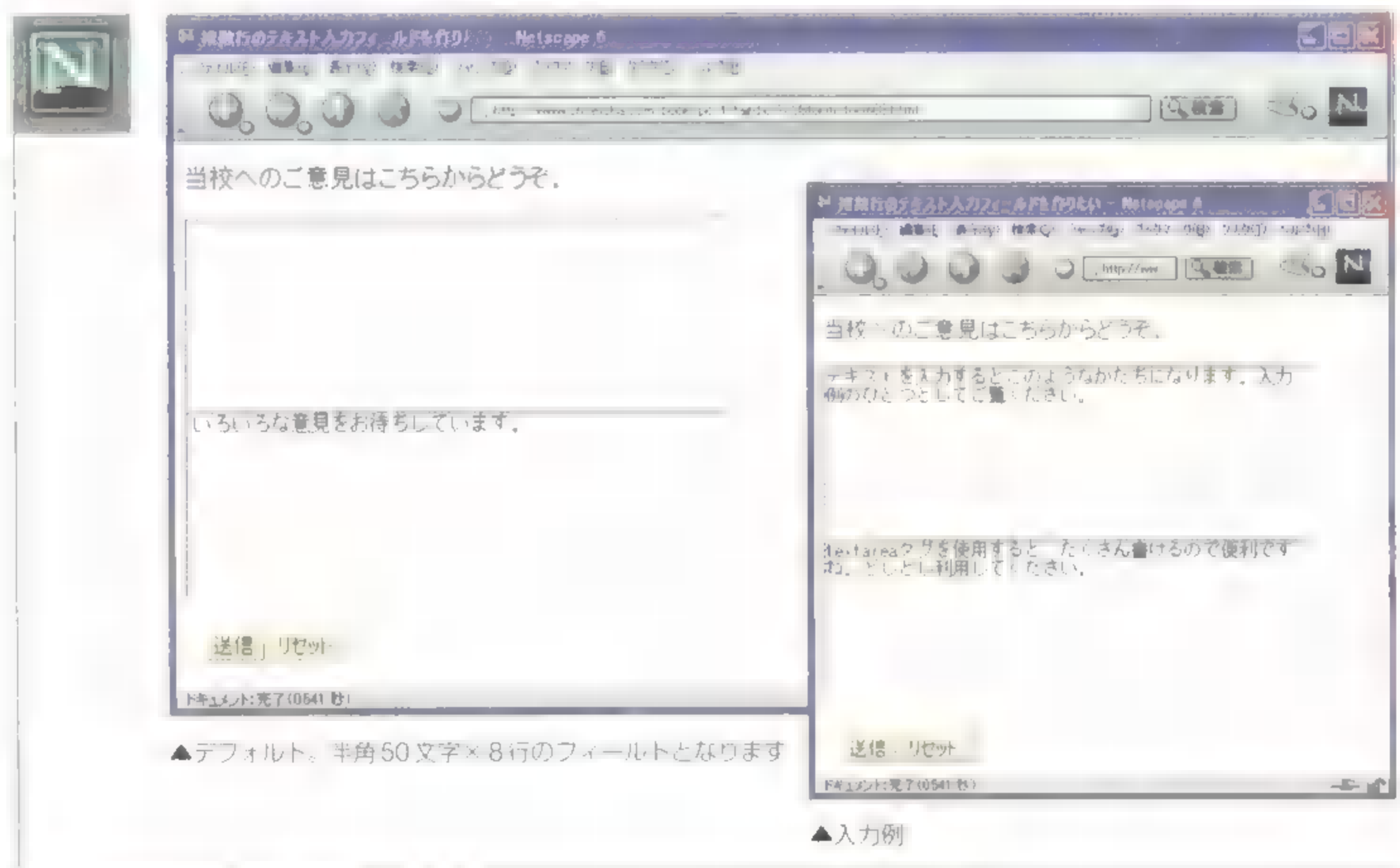
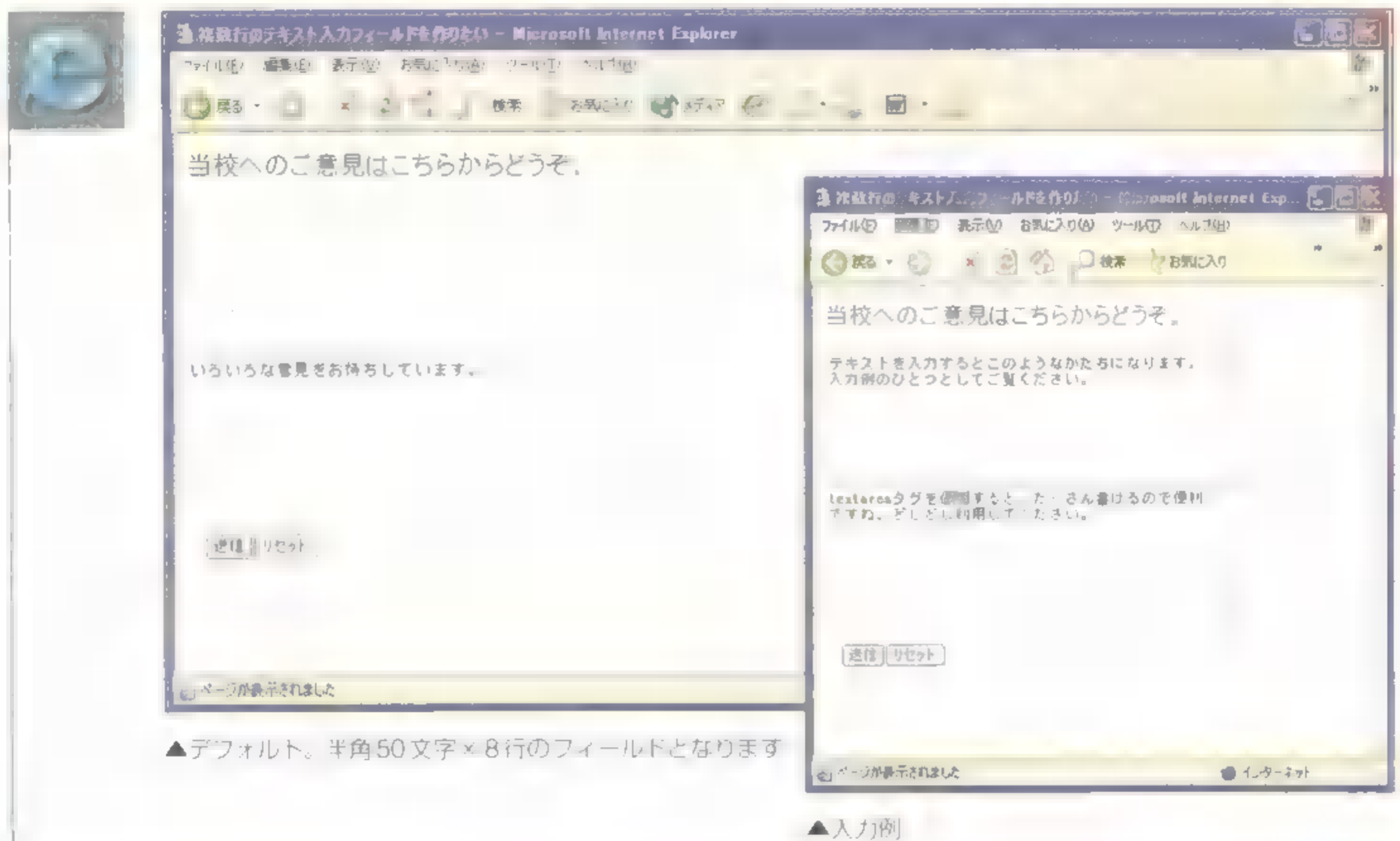
SOURCE

```
<p>当校へのご意見はこちらからどうぞ。</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <textarea name="opinion1" rows="8" cols="50"></textarea><br>
  <textarea name="opinion2" rows="8" cols="50" wrap="hard">
  いろいろな意見をお待ちしています。</textarea>
  </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

▲デフォルト。半角50文字×8行のフィールドとなります

▲入力例

▲デフォルト。半角50文字×8行のフィールドとなります

▲入力例

option1=テキストを入力するとこのようなかたちになります。入力例のひとつとしてご覧ください。
option2=textareaタグを使用すると、たくさん書けるので便利
ですね。どしどし利用してください。

▲フォームの受信例（Internet Explorerからの送信）。wrap属性の値によって改行の状態が異なります

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.1
○	○	○	○	○	○	○

1行のテキスト入力フィールドを作りたい………p.174

9 FORM

隠しフィールドを作りたい

<input type="hidden" ★ >

★••••••name="フィールド名"
value="送信されるテキスト"

type="hidden"で、隠しフィールドを作成します。

これで作成されたフィールドは画面上に表示されませんが、value属性で設定した値が送信されるしくみになっています。ユーザーには特に見せる必要のない値を送信したいときなどに利用します。

name属性は、送信されてきたデータを解読するときなどに使用する名前を指定するものです。

SOURCE

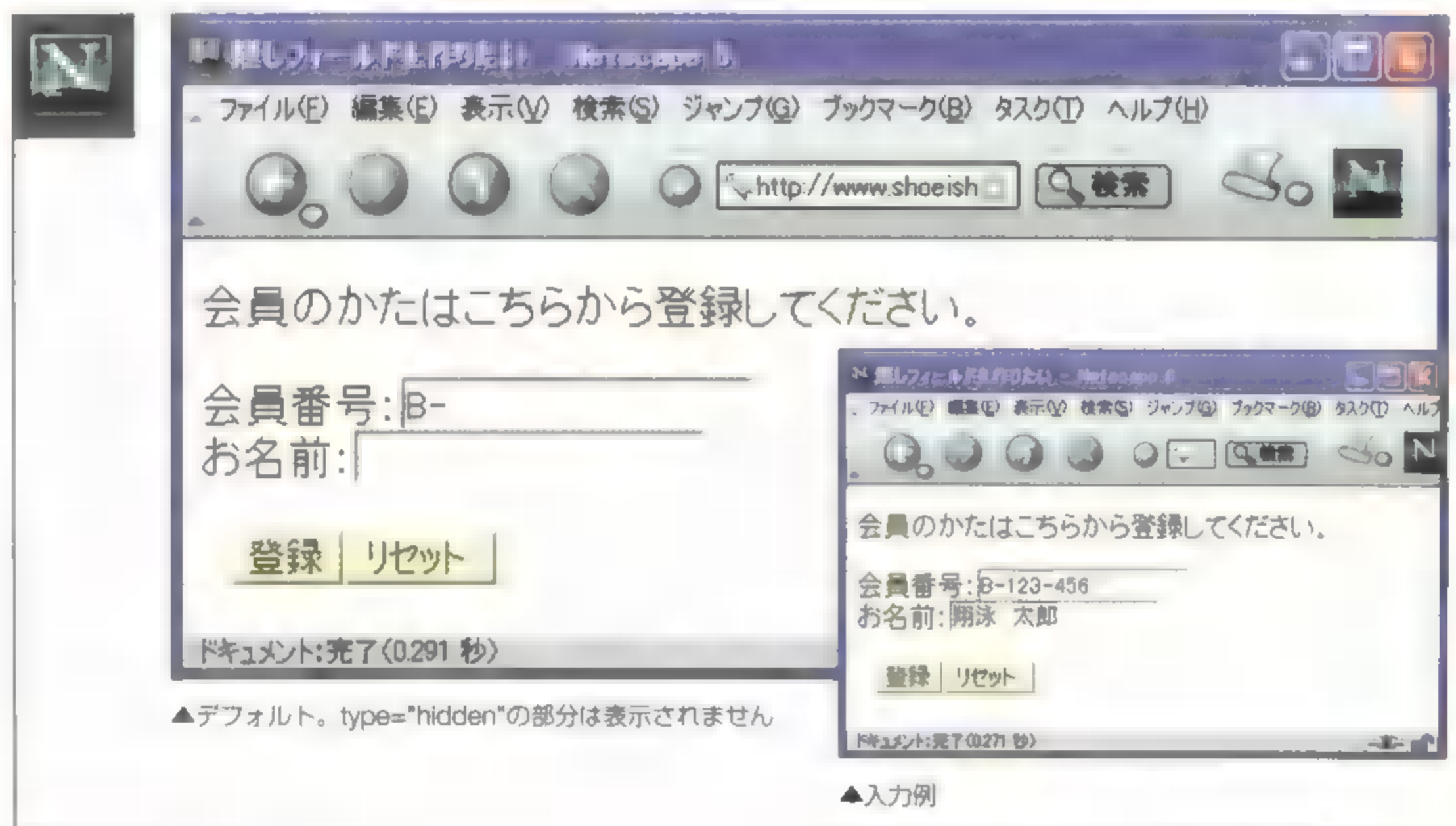
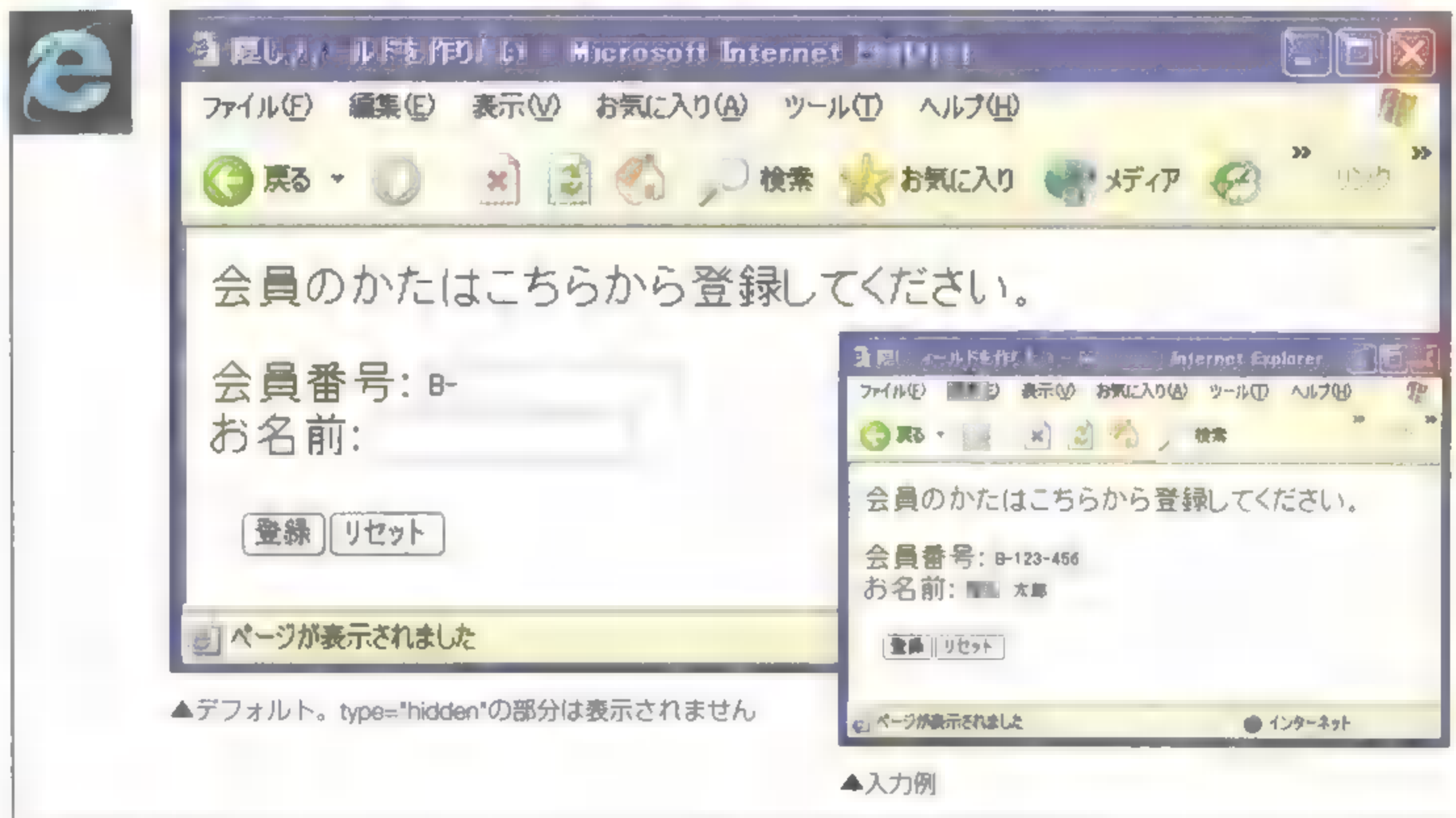
```
<p>会員のかたはこちらから登録してください。</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <input type="hidden" name="present" value="frompage3">
  会員番号：<input type="text" name="number" value="B-"><br>
  お名前：<input type="text" name="yourname">
  </p>
  <input type="submit" value="登録"><input type="reset">
</form>
```

フォーム

▲デフォルト。type="hidden"の部分は表示されません

▲入力例

▲デフォルト。type="hidden"の部分は表示されません

▲入力例

```
present=frompage3
number=B-123-456
yourname=翔泳　太郎
```

▲フォームの受信例。type="hidden"で指定されたname属性とvalue属性の値も送信されます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

10 FORM

ラジオボタンを作りたい

```
<input type="radio" ★ >
<input type="radio" ★ checked>
```

★ ••••••name="ボタン名"
　　　　value="送信されるテキスト"

丸いボタンを作成し、選択肢からひとつを選択できるようにします。

value属性はデータが送信されたときに、選択された項目が何であるかを判別するための値です。

name属性でボタンに名前をつけますが、この値が同じボタンは同一のグループとして扱われます。共通の項目に対する選択肢の場合には、同じ値を設定してください。同じグループのラジオボタンではひとつの項目しか選択できません。

また、checked属性を指定しておくと、そのボタンがあらかじめ選択された状態で表示されるようになります。

```
<p>
当校を選んだ一番の理由をお聞かせください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <input type="radio" name="reason" value="famous">有名だから<br>
  <input type="radio" name="reason" value="location">駅から近いから<br>
  <input type="radio" name="reason" value="variety" checked>講座の種類
  が豊富だから<br>
  <input type="radio" name="reason" value="instructor">講師陣が優れている
  から<br>
  <input type="radio" name="reason" value="cost">受講料が適切だから<br>
  <input type="radio" name="reason" value="others">その他
  </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

フォーム

▲デフォルト。checked属性が指定された項目が選択されています

▲入力例。項目はひとつしか選べません

ラジオボタンを作りたい - Netscape 6

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ジャンプ(G) ブックマーク(B) タスク(T) ヘルプ(H)

http://www.shoeisha.com/book/pc/t/tagd　検索

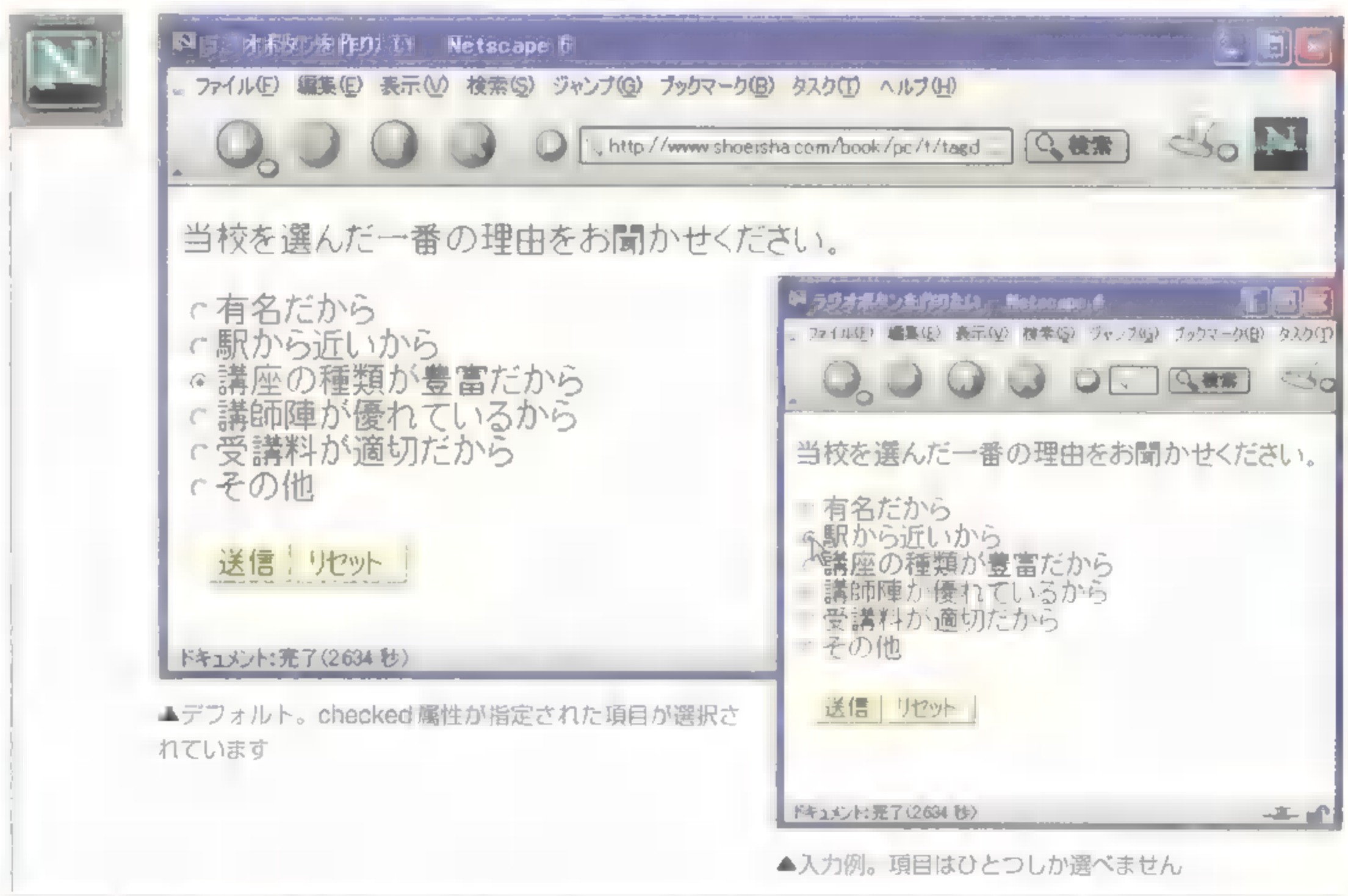
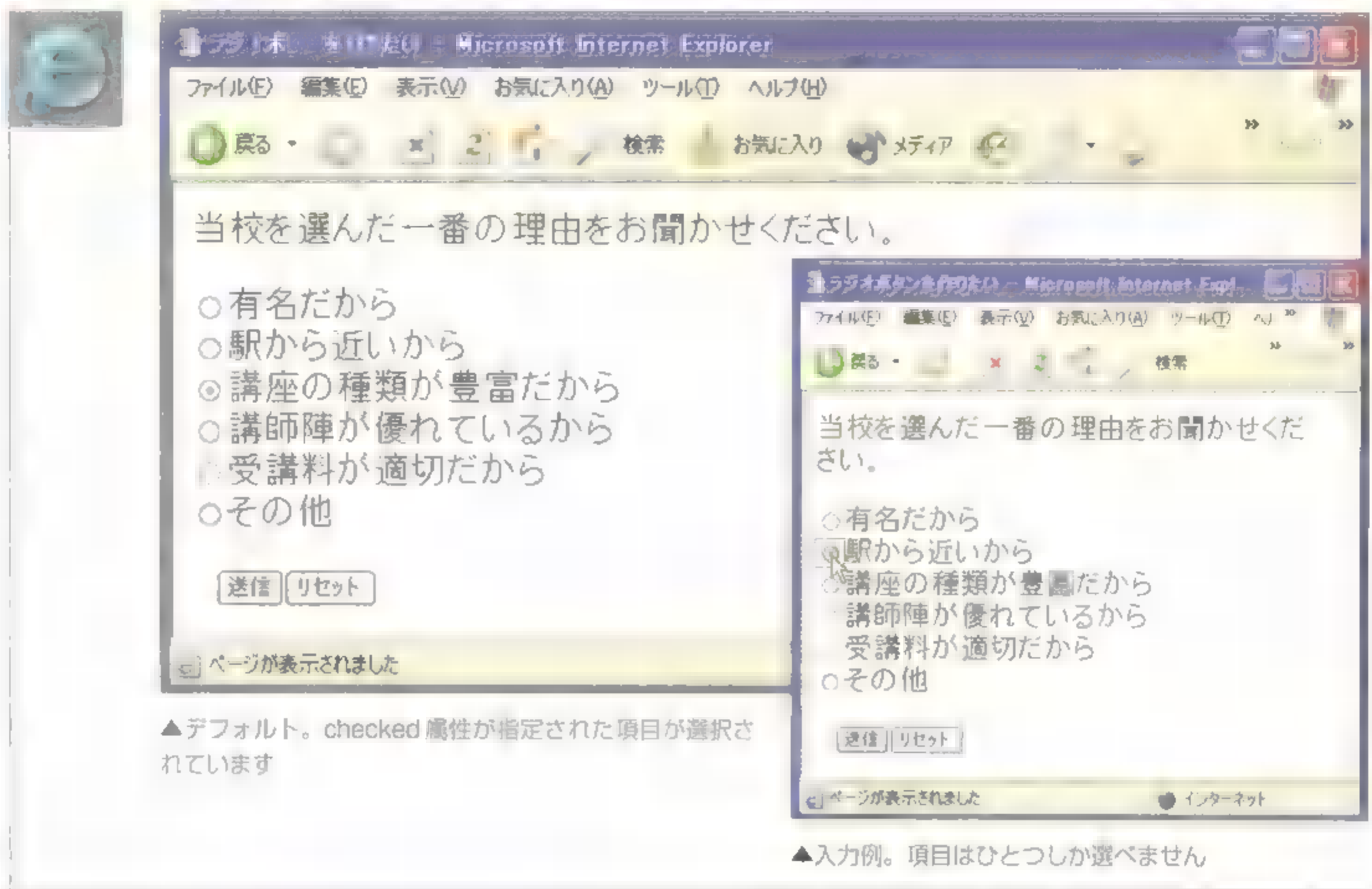
当校を選んだ一番の理由をお聞かせください。

有名だから
駅から近いから
講座の種類が豊富だから
講師陣が優れているから
受講料が適切だから
その他

送信 リセット

ドキュメント: 完了 (2.634 秒)

▲デフォルト。checked属性が指定された項目が選択されています

▲入力例。項目はひとつしか選べません

```
reason=location
```

▲このような内容が送信されます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

チェックボックスを作りたい……………………p.182

11 FORM

チェックボックスを作りたい

```
<input type="checkbox" ★ >
<input type="checkbox" ★ checked>
```

★ ••••••name="ボタン名"
　　　value="送信されるテキスト"

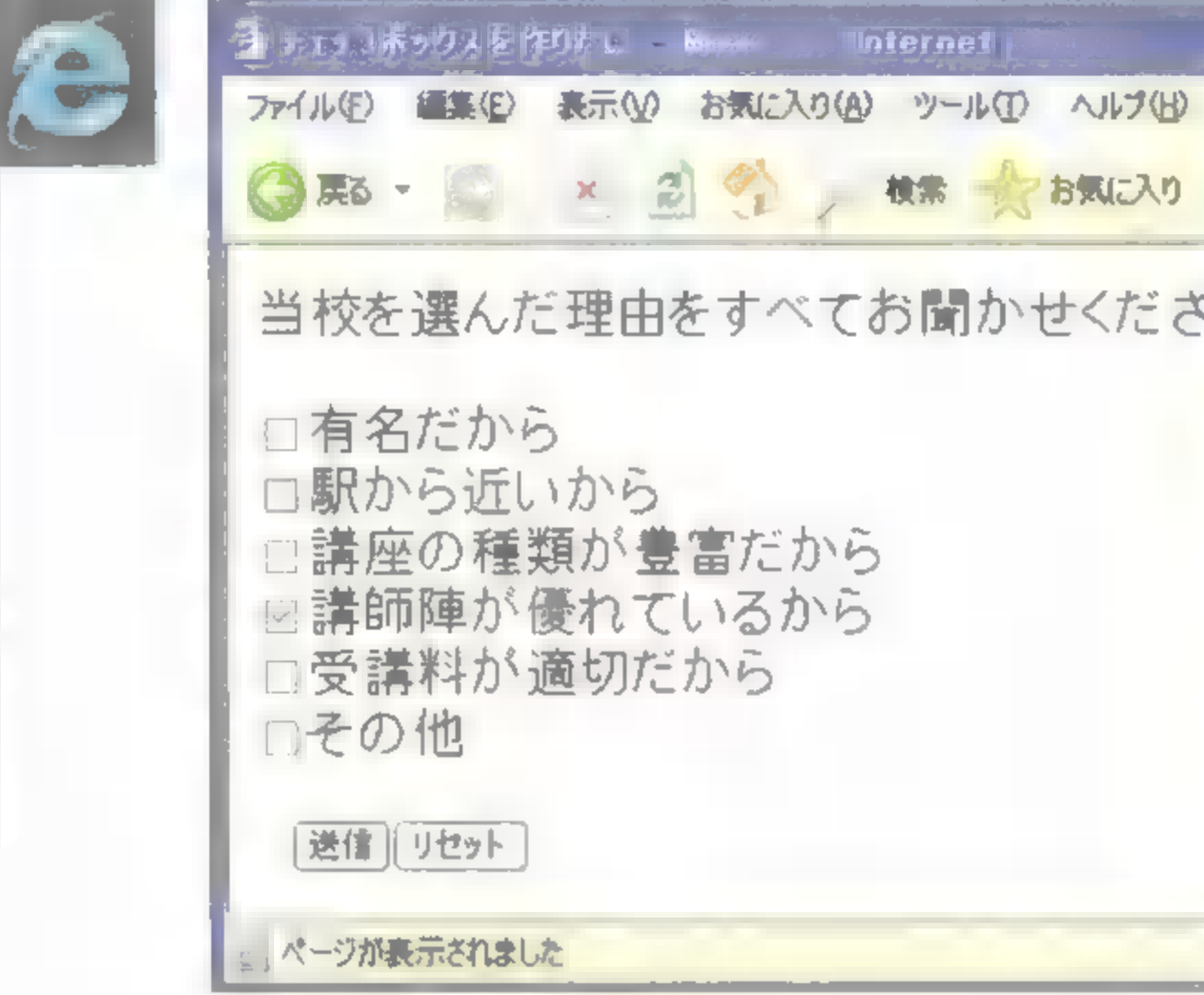
矩形のボタンを作成し、選択肢から項目を複数選択できるようにします。

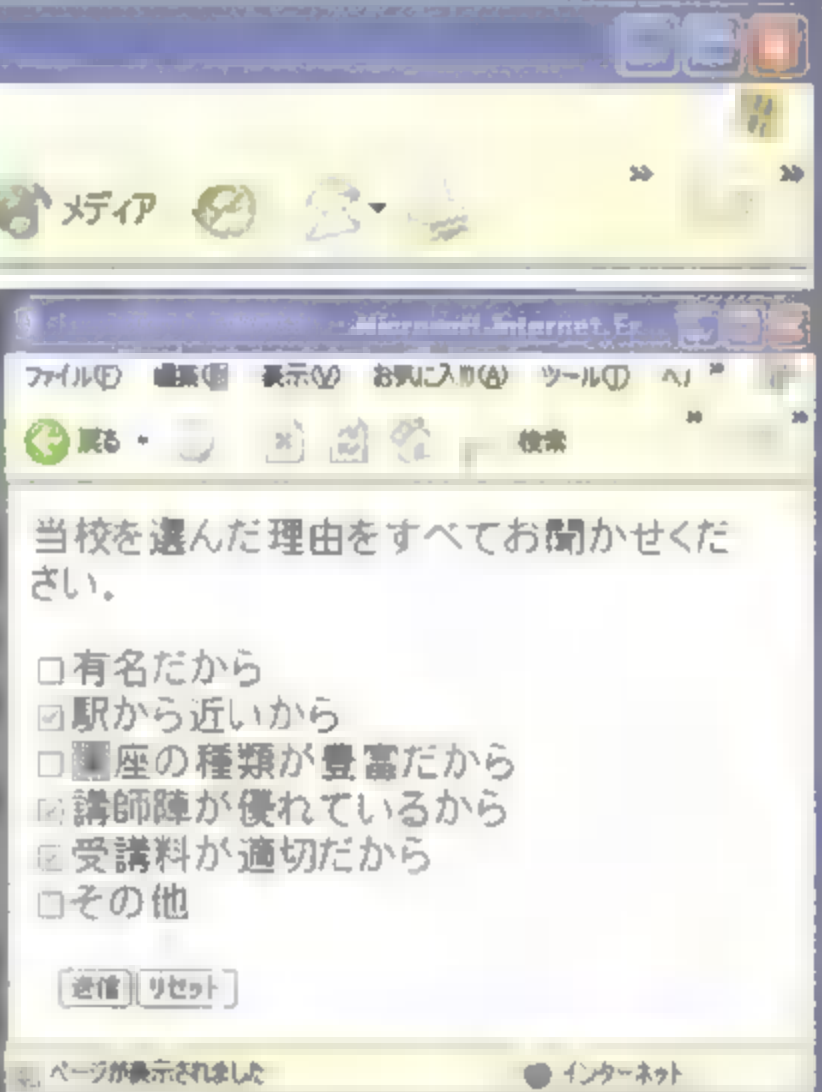
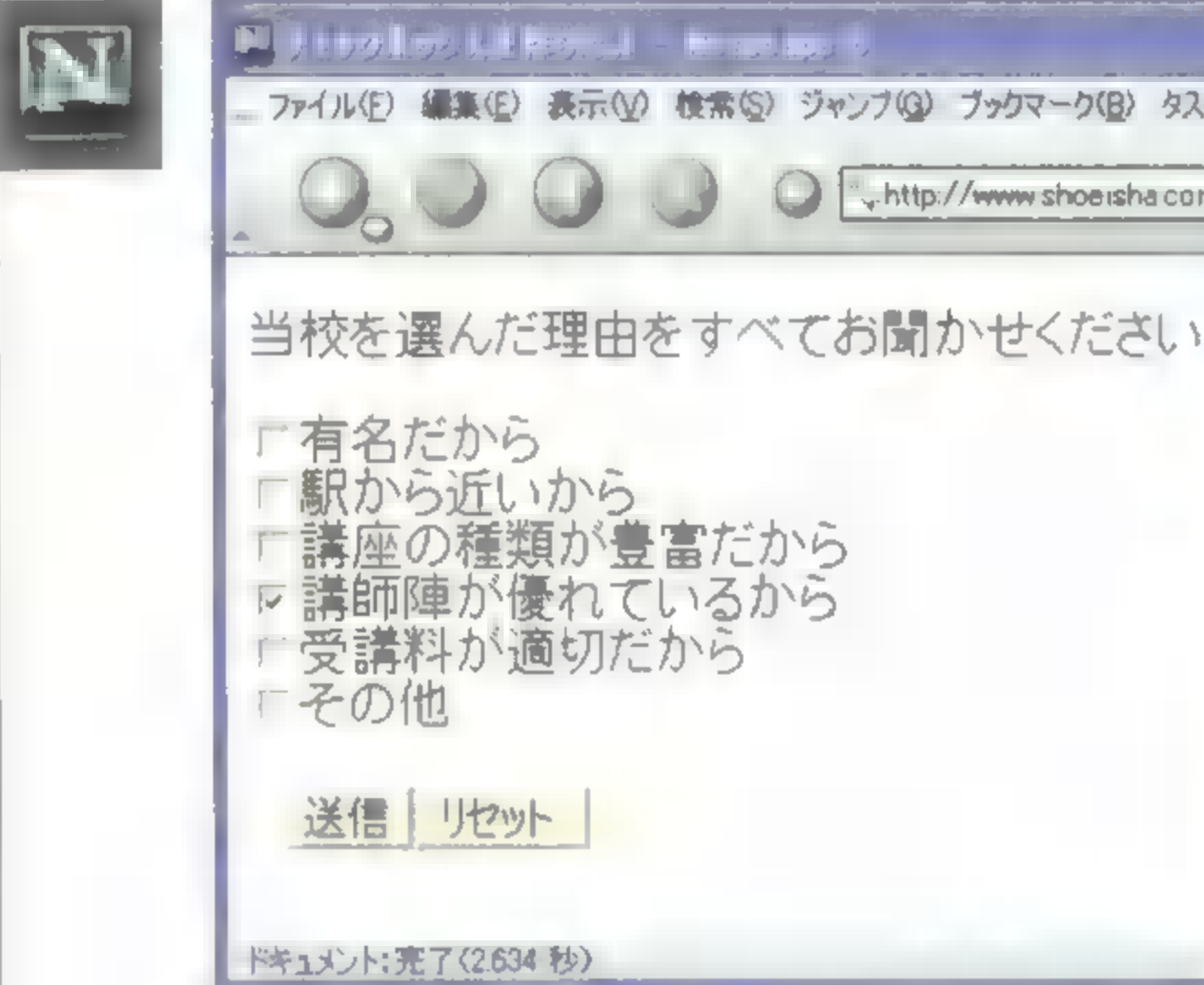
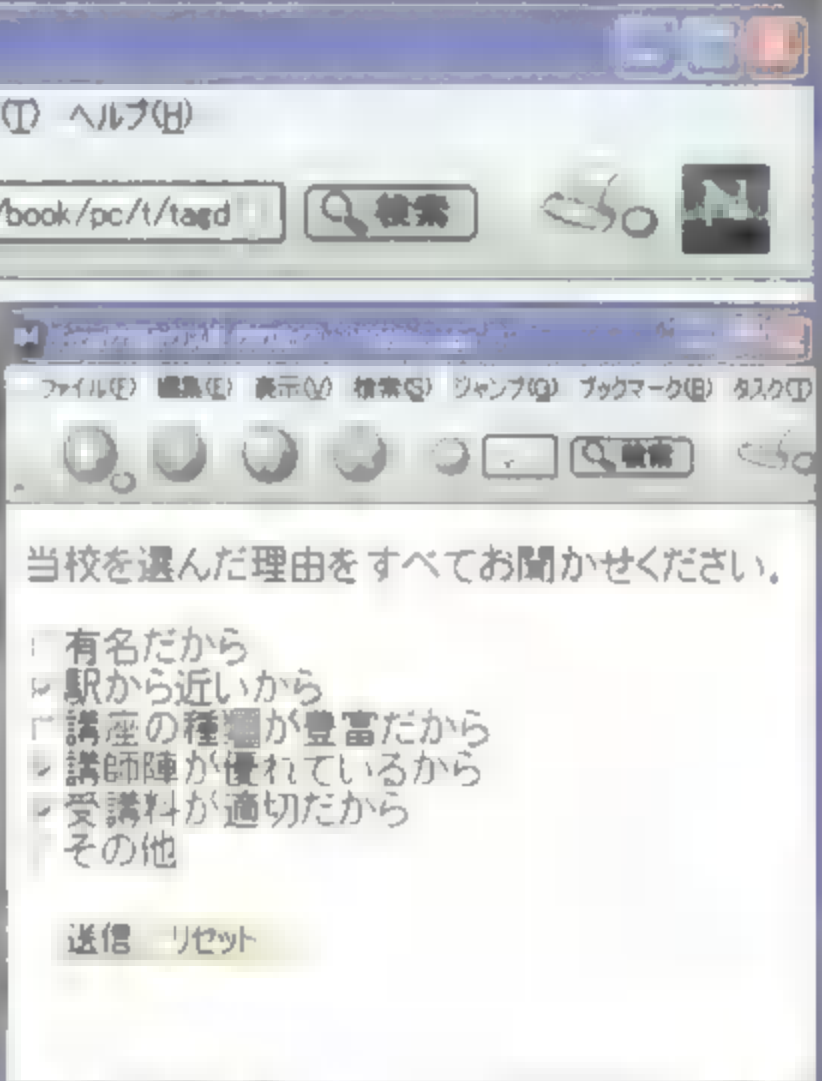
value属性はデータが送信されたときに、選択された項目が何であるかを判別するための値です。

name属性ではボタンに名前をつけますが、この値が同じボタンは同一のグループとして扱われます。共通の項目に対する選択肢の場合には、同じ値を設定してください。チェックボックスは、同一グループでも複数選択が可能です。

また、checked属性を指定しておくと、そのボタンがあらかじめ選択された状態で表示されるようになります。

SOURCE

```
<p>
当校を選んだ理由をすべてお聞かせください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <input type="checkbox" name="reason" value="famous">有名だから<br>
  <input type="checkbox" name="reason" value="location">駅から近いから
  <br>
  <input type="checkbox" name="reason" value="variety">講座の種類が豊富
  だから<br>
  <input type="checkbox" name="reason" value="instructor" checked>講師
  陣が優れているから<br>
  <input type="checkbox" name="reason" value="cost">受講料が適切だから
  <br>
  <input type="checkbox" name="reason" value="others">その他
  </p>
```

フォーム

```
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

▲デフォルト。checked 属性が指定された項目が選択されています

▲入力例。複数選択することができます

▲デフォルト。checked 属性が指定された項目が選択されています

▲入力例。複数選択することができます

```
reason=location
reason=instructor
reason=cost
```

▲フォームの受信例

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

ラジオボタンを作りたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.180

12 FORM

プルダウン形式のメニューを作りたい

<select ★ ><option ☆ > ～ </option></select>

★……name="メニュー名"
☆……value="送信されるテキスト"
selected

プルダウン形式のメニューを作成します。

<select>タグのname属性は、データ解読の手がかりなどに利用される名前をメニュー自体につけます。

選択肢は<option>タグを使って設定し、<option>タグと</option>タグで挟まれたテキストがそれぞれメニューに表示される項目となります。

value属性はデータが送信されたときに、選択された項目が何であるかを判別するための値を指定します。この値を指定しない場合は、<option>タグと</option>タグで挟まれたテキスト、つまりメニュー内に表示されたテキストが選択された項目として送信されます。

また、selected属性を指定しておくと、その項目があらかじめ選択された状態で表示されるようになります。

SOURCE

```
<p>
当校を選んだ一番の理由をお聞かせください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <font size="2">デフォルト</font><br>
  <select name="reason">
    <option value="famous">有名だから</option>
    <option value="location">駅から近いから</option>
    <option value="variety">講座の種類が豊富だから</option>
    <option value="instructor">講師陣が優れているから</option>
    <option value="cost">受講料が適切だから</option>
    <option value="others">その他</option>
  </select>
  </p>
  <p>
  <font size="2">最初に選択されている項目を変更します</font><br>
  <select name="reason2">
    <option value="famous">有名だから</option>
    <option value="location">駅から近いから</option>
    <option value="variety">講座の種類が豊富だから</option>
    <option value="instructor">講師陣が優れているから</option>
    <option value="cost">受講料が適切だから</option>
    <option value="others" selected>その他</option>
  </select>
  </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

フォーム

▲デフォルト

▲選択例

▲デフォルト

▲選択例

```
reason=variety
reason2=cost
```

▲フォームの受信例

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

リストボックスを作りたい……………………p.187
メニューの選択肢をグループ化したい…………p.190

13 FORM

リストボックスを作りたい

<select size="★" ☆ ><option ◆ > ～ </option></select>

★ ••••••リストボックスの表示行数
☆ ••••••name="メニュー名"
multiple
◆ ••••••value="送信されるテキスト"
selected

リストボックス形式のメニューを作成するには、<select>タグに表示行数を指定するsize属性を設定します。name属性は、データ解読の手がかりなどに利用される名前をメニュー自体につけます。

multiple属性を指定しておくと、複数の項目を選択できるようになります。この属性が指定されていない場合は、ひとつの項目しか選択できません。

選択肢は<option>タグを使って設定し、<option>タグと</option>タグで挟まれたテキストがそれぞれメニューに表示される項目となります。

value属性はデータが送信されたときに、選択された項目が何であるかを判別するための値を指定します。この値を指定しない場合は、<option>タグと</option>タグで挟まれたテキスト、つまりメニュー内に表示されたテキストが選択された項目として送信されます。

また、selected属性を指定しておくと、その項目があらかじめ選択された状態で表示されるようになります。

SOURCE

```
<p>
当校を選んだ理由をお聞かせください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <font size="2">3行だけ表示</font><br>
  <select size="3" name="reason">
    <option value="famous">有名だから</option>
    <option value="location">駅から近いから</option>
```

```
    <option value="variety">講座の種類が豊富だから</option>
    <option value="instructor">講師陣が優れているから</option>
    <option value="cost">受講料が適切だから</option>
    <option value="others">その他</option>
  </select>
  </p>
  <p>
  <font size="2">すべて表示して複数選択も可能です</font><br>
  <select size="6" name="reason2" multiple>
    <option value="famous">有名だから</option>
    <option value="location">駅から近いから</option>
    <option value="variety">講座の種類が豊富だから</option>
    <option value="instructor">講師陣が優れているから</option>
    <option value="cost">受講料が適切だから</option>
    <option value="others">その他</option>
  </select>
  </p>
  <p>
  <font size="2">最初に選択されている項目を変更します</font><br>
  <select size="6" name="reason3" multiple>
    <option value="famous">有名だから</option>
    <option value="location">駅から近いから</option>
    <option value="variety">講座の種類が豊富だから</option>
    <option value="instructor">講師陣が優れているから</option>
    <option value="cost">受講料が適切だから</option>
    <option value="others" selected>その他</option>
  </select>
  </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

▲デフォルト

▲選択例

▲デフォルト

▲選択例

```
reason=famous
reason2=famous
reason2=variety
reason2=cost
reason3=location
```

▲フォームの受信例

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

プルダウン形式のメニューを作りたい・・・・・・・・・・・・p.184

14 FORM

メニューの選択肢をグループ化したい

<optgroup label="★"><option label="☆"> ～
</option></optgroup>

★……グループ名
☆……簡略化した選択肢

メニューの選択肢をグループ化します。対応したブラウザではメニューが階層化されて表示されます。リストの選択肢が長いときなどに便利ですが、<optgroup>の中にさらに<optgroup>を使うことはできません。

label属性はメニューに表示されるテキストを設定する働きをもち、<optgroup>タグのlabel属性でグループ名を、<option>タグのlabel属性で簡略化した選択肢名を設定します。<option>タグのlabel属性を省略した場合や、この属性に対応していないブラウザでは、<option>タグと</option>タグの間の内容がそのまま選択肢として表示されます。

SOURCE

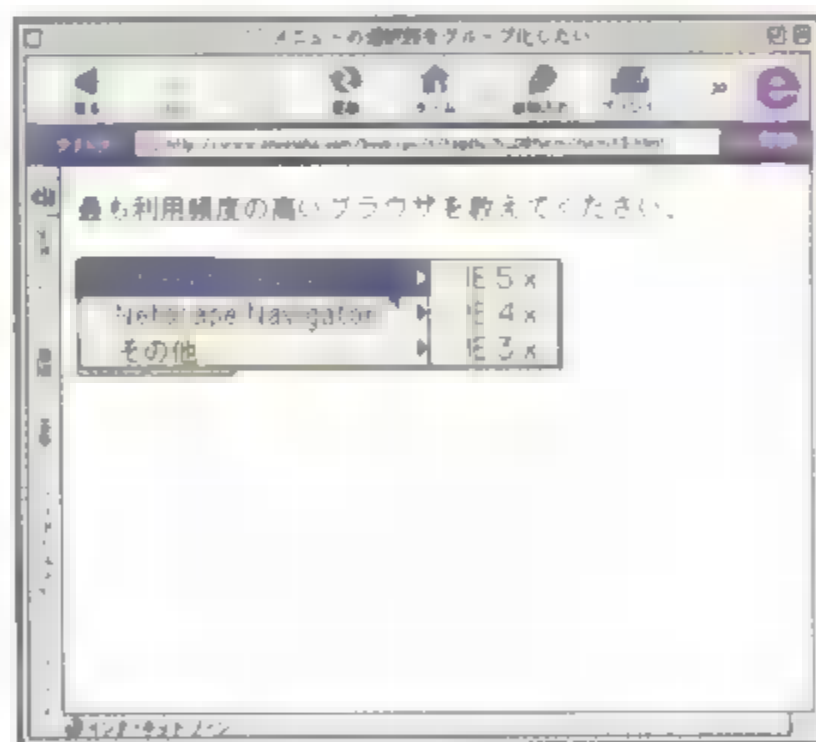
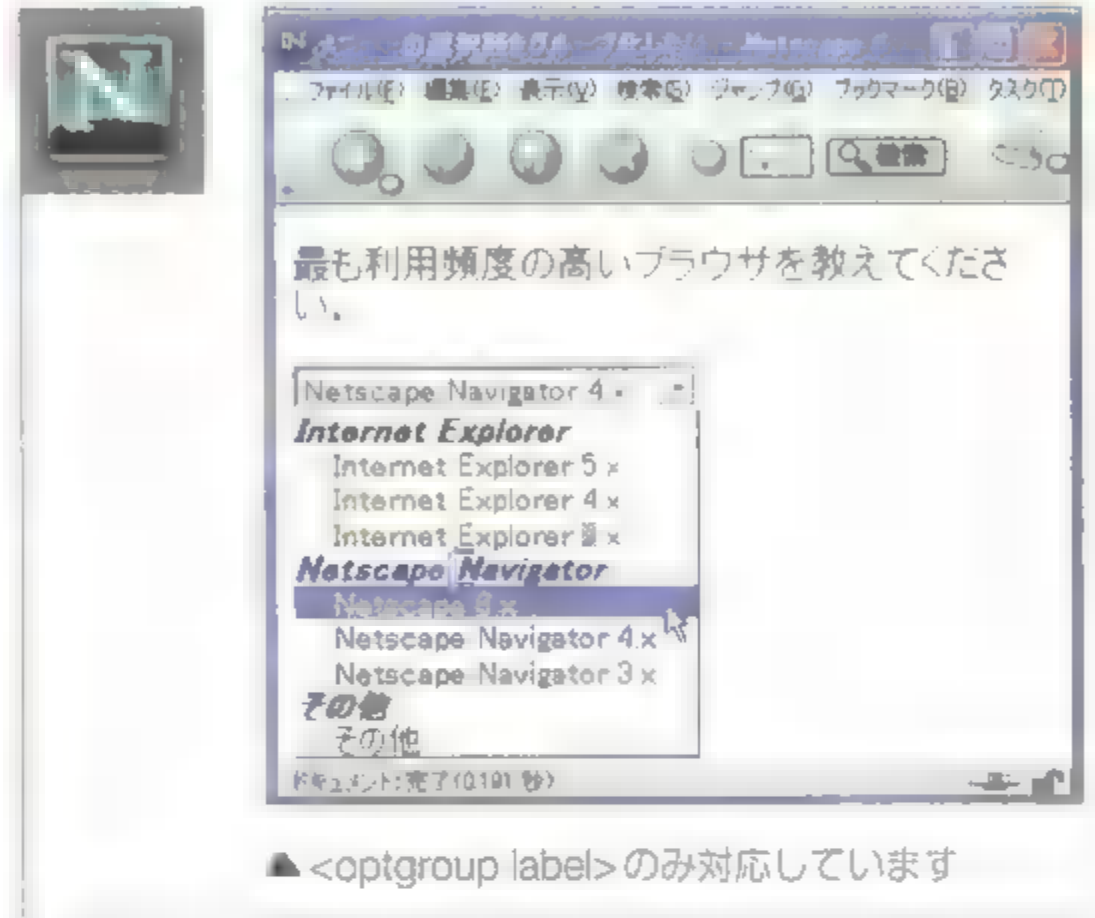
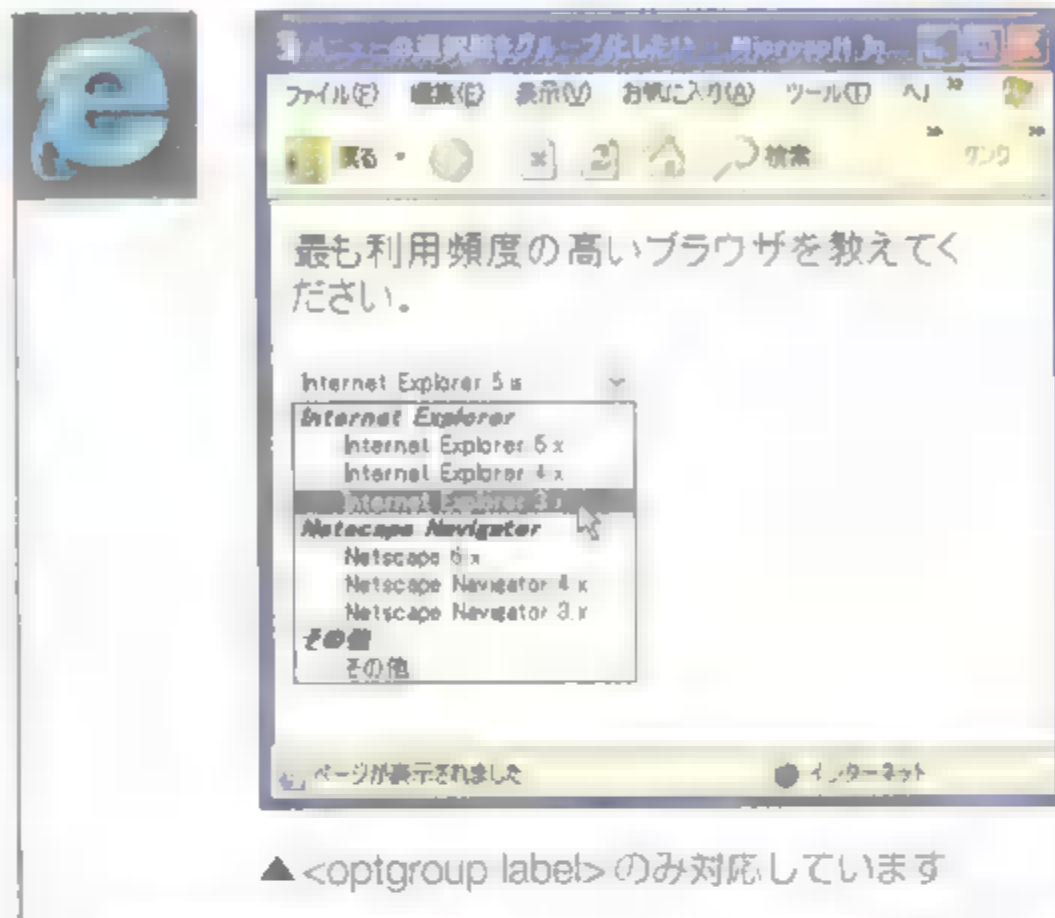
```
<p>
最も利用頻度の高いブラウザを教えてください。
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <select name="browser">
    <optgroup label="Internet Explorer">
      <option label="IE 5.x" value="ie5">Internet Explorer 5.x</option>
      <option label="IE 4.x" value="ie4">Internet Explorer 4.x</option>
      <option label="IE 3.x" value="ie3">Internet Explorer 3.x</option>
    </optgroup>
    <optgroup label="Netscape Navigator">
      <option label="N 6.x" value="n6">Netscape 6.x</option>
      <option label="NN 4.x" value="nn4">Netscape Navigator 4.x</option>
      <option label="NN 3.x" value="nn3">Netscape Navigator 3.x</option>
    </optgroup>
```

フォーム

```html
      <optgroup label="その他">
        <option label="その他" value="other">その他</option>
      </optgroup>
    </select>
    </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
  </form>
```

▲<optgroup label>のみ対応しています

▲<optgroup label>のみ対応しています

▲Macintosh版Internet Explorer 5では[illegible]化も行われます

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN3	NN4	NN4.7	N6.[illegible]
optgroup label	×	×	×	○	×	×	×	○
option label	×	×	×	×	×	×	×	×

※Macintosh版Internet Explorer 5は<optgroup label>、<option label>ともに対応しています

プルダウン形式のメニューを作りたい…………p.184

15 FORM　align属性のみDEPRECATED

入力項目をグループ化したい

<fieldset> ～ </fieldset>

<legend align="★"> ～ </legend>

★……top、bottom、left、right

フォームに含まれるユーザーが入力可能な項目をグループ化します。

<legend>タグは、グループ化した入力項目に対してタイトルをつける機能を持ち、<fieldset>と</fieldset>タグの間の一番最初におきます。align属性で、タイトルの表示位置を指定することもできますが、align属性は推奨しない属性に指定されているので使用には注意してください。

top	タイトルを上に表示（デフォルト）
bottom	タイトルを下に表示
left	タイトルを左に表示
right	タイトルを右に表示

SOURCE

```
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
 <fieldset>
  <legend>アンケート</legend>
  <p>
  現在稽古事をしていますか？：
  ……（中略）……
  <textarea rows="5" cols="70" name="freemessage" wrap="hard">
  </textarea>
  </p>
 </fieldset>
 <br>
 <fieldset>
  <legend>個人情報</legend>
  <p>
  お名前：<input type="text" name="yourname">
  ……（中略）……
```

```
    E-mail : <input type="text" size="40" name="email">
    </p>
  </fieldset>
  <p>
  ありがとうございました。
  </p>
  <input type="submit" value="送信"><input type="reset">
</form>
```

▲<fieldset>タグで挟まれた項目がグループ化され、枠線で囲まれます。Internet Explorer 6では<legend>タグによるタイトルが青色表示されます

▲<fieldset>タグで挟まれた項目がグループ化され、枠線で囲まれます。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	○

※Internet Explorer 5.5以前では<legend>タグによるタイトルの文字色は特に変わりません

16 FORM

部品にラベルをつけたい

<label> ～ </label>

<label for="★"> ～ </label>

★……参照する id 属性の値

ユーザーによる入力や選択が可能な項目（部品）に対して、ラベルなどの情報を付加します。これによって、フォームに含まれるテキスト部分と入力・選択項目などを関連付けることができます。

設定の仕方には <label> タグのみを利用する方法と、for 属性を利用する方法とがあります。

<label> タグで設定する場合には、ラベルとなるテキストと関連付けたい部品（例：<input text="☆"> など）を <label> タグと </label> タグの間に記述します。

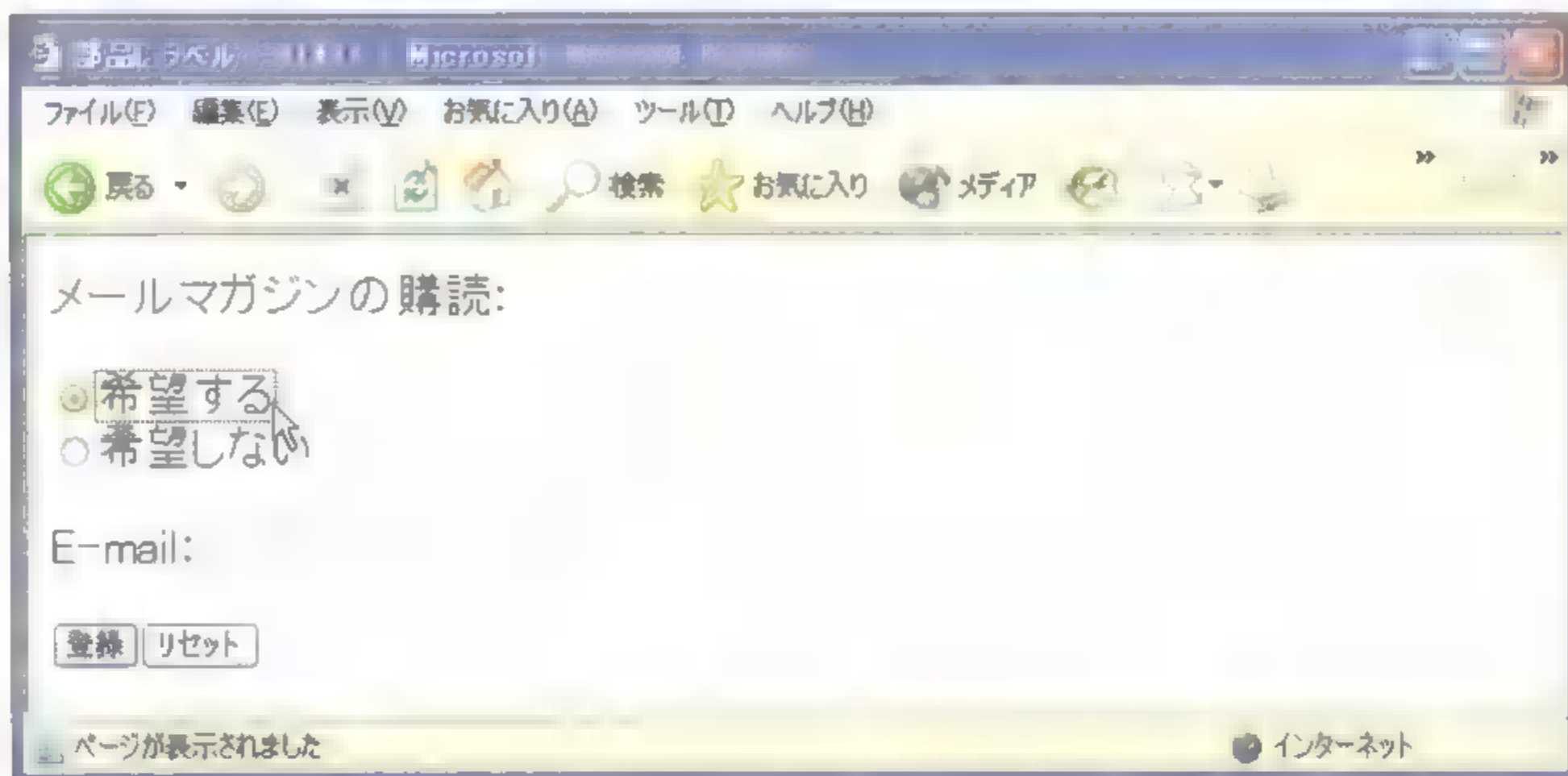
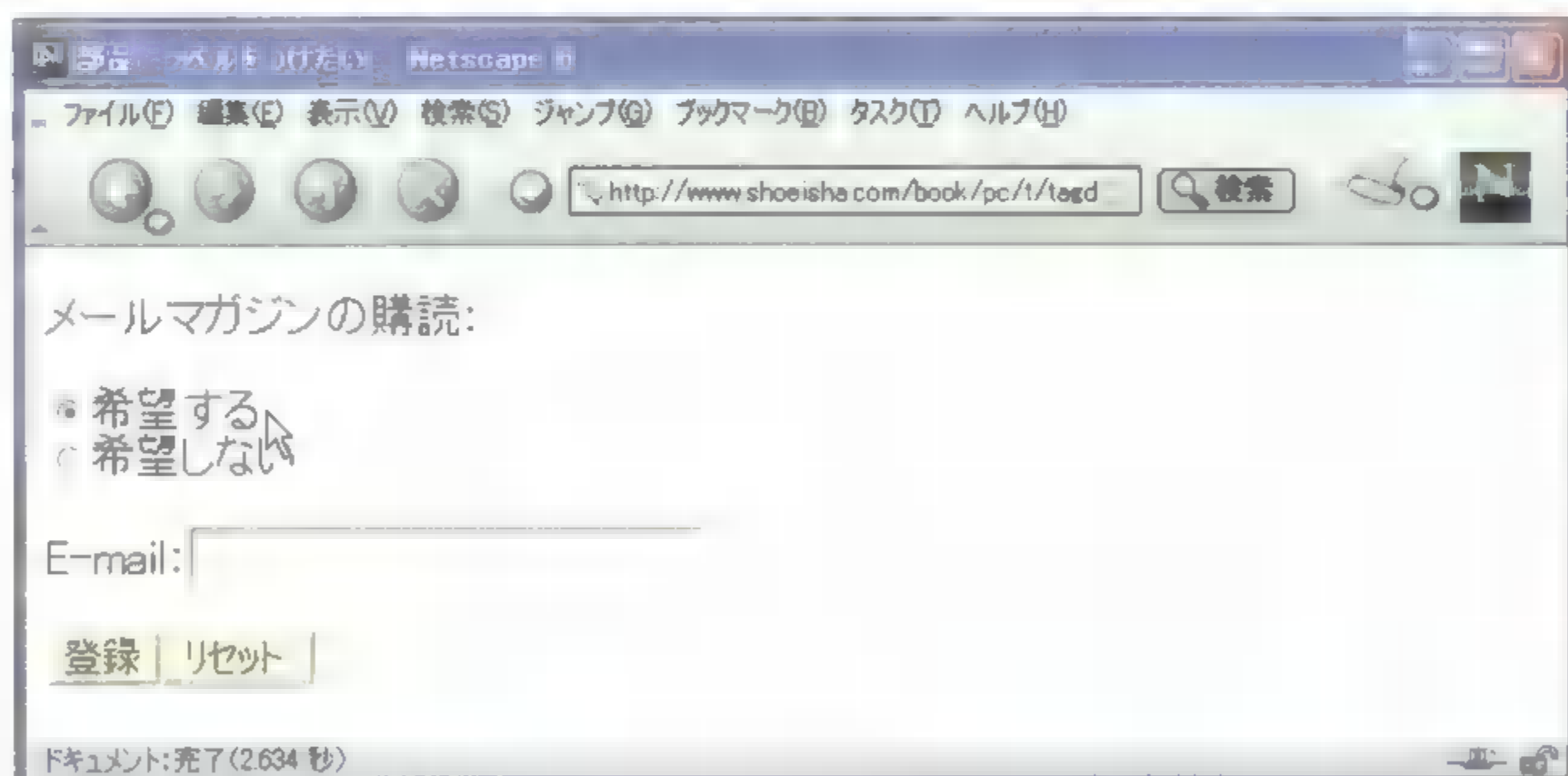
for 属性を利用する場合には、<label for="★"> タグと </label> タグの間にはラベルとなるテキストのみを記述します。そして、関連付けたい部品には id（p.6 参照）を設定し、その id と同じ値を <label> タグの for 属性に指定して参照させます。

このような設定を行うことで、自動的にラベルのつく部品や value 属性の値が表示される部品以外にもラベルをつけられるようになり、たとえばテキスト部分をクリックしても関連付けられた各部品にフォーカスが移動するなどの効果を得ることができます。

なお現時点では Internet Explorer は <label for="★"> の形式にのみ対応、Netscape も完全には対応していないようです。

SOURCE

```
<p>
メールマガジンの購読：
</p>
<form action="cgi-bin/formsample.cgi" method="post">
  <p>
  <input type="radio" name="member" value="yes" id="kaiin">
  <label for="kaiin"> 希望する </label><br>
  <input type="radio" name="member" value="no" id="ippan">
  <label for="ippan"> 希望しない </label>
```

```
  </p>
  <p>
  <label>E-mail : <input type="text" name="name" size="30"></label><br>
  </p>
  <input type="submit" value="登録"><input type="reset">
</form>
```

▲「希望する」「希望しない」がラジオボタンのラベルとなり、その部分をクリックすることで、ラジオボタンのチェックができるようになります

▲「希望する」「希望しない」がラジオボタンのラベルとなり、その部分をクリックすることで、ラジオボタンのチェックができるようになります

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
	○	○	○	△	×	×	△

1 TABLE

テーブル(表)を作りたい

<table ★ > ～ </table>	表
<tr> ～ </tr>	横一列（行）
<td> ～ </td>	セル

★••••••border="ピクセル"（枠線を表示）

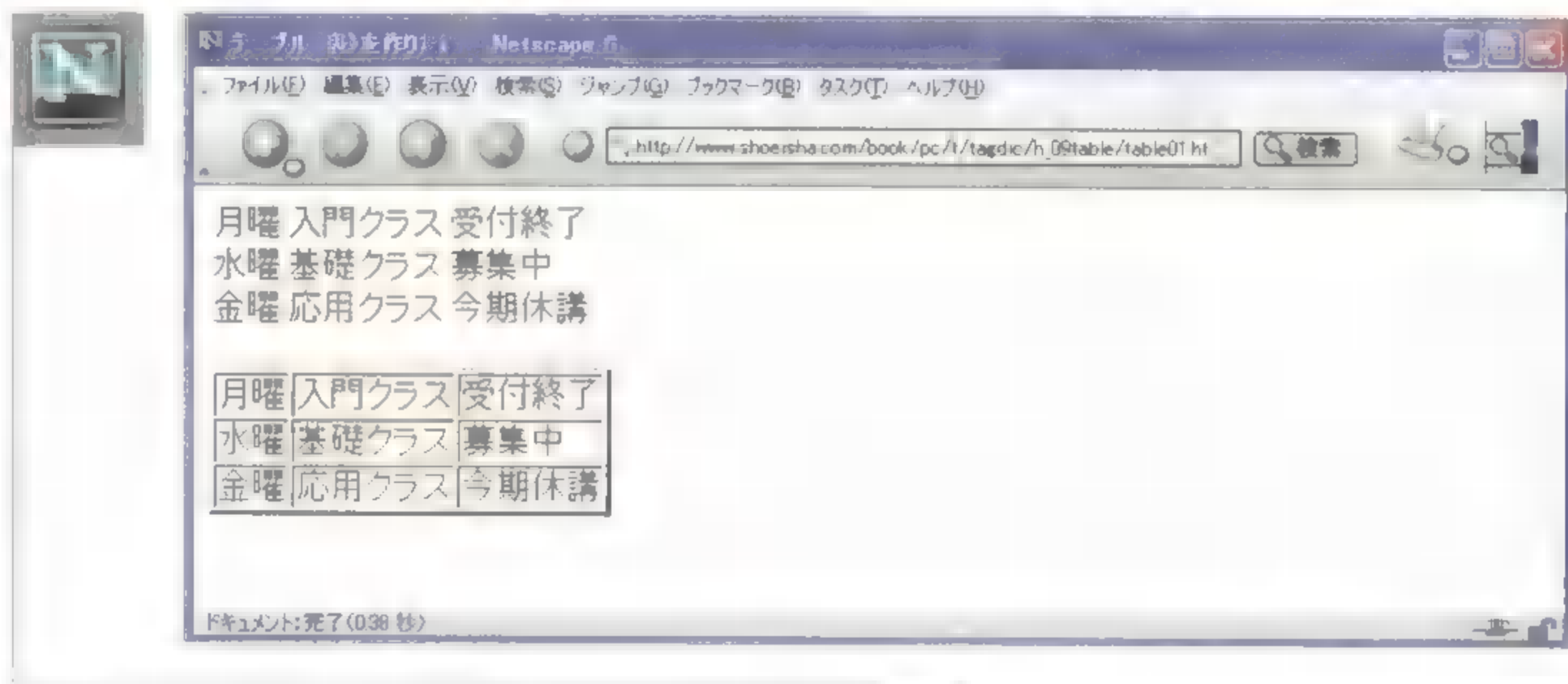
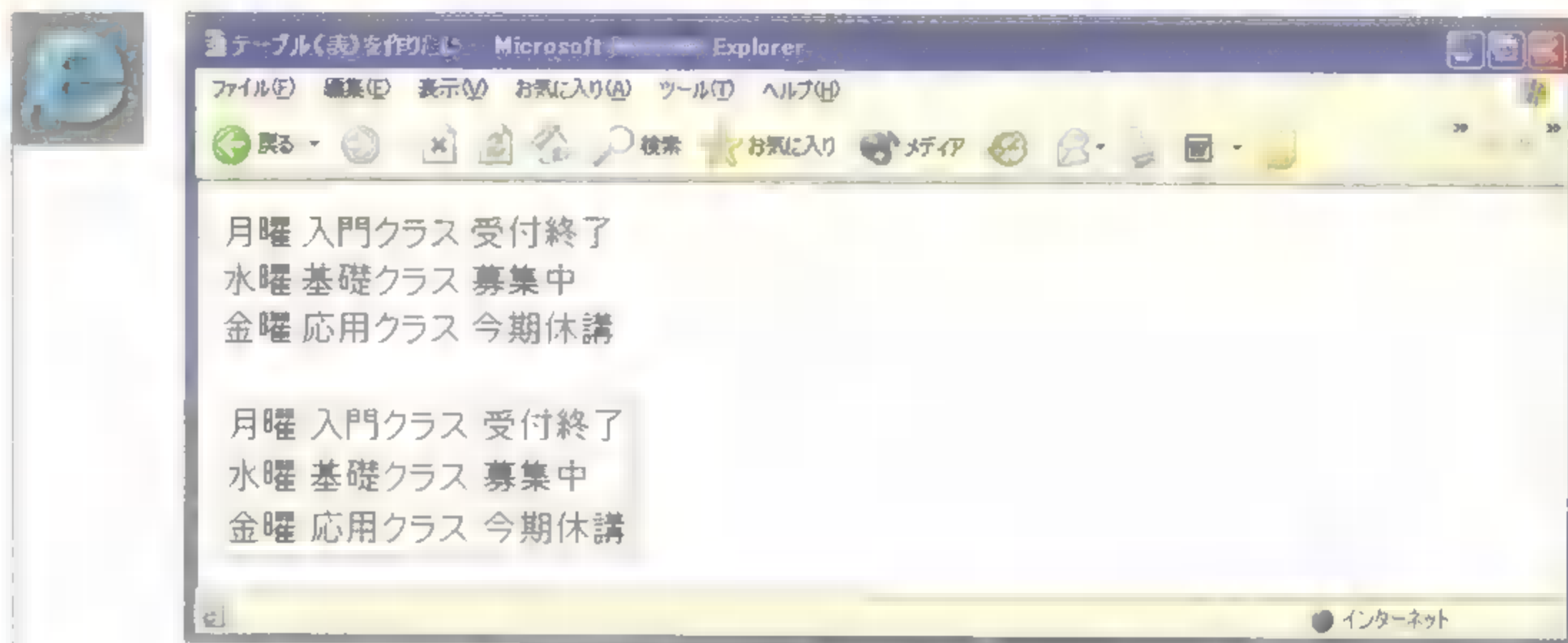
<table>と</table>は、これに挟まれた範囲がテーブル（表）であることを示す基本のタグです。テーブルを構成する各要素の最初と最後に置きます。枠線を表示する場合はborder属性を指定します（p.200参照）。

<tr>と</tr>は行を定義するタグです。横一列分のデータの最初と最後に記述します。

セルに入るデータはそれぞれ<td>タグと</td>タグの間に記述します。

SOURCE

```
<table>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="2">
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

[illegible]

<table>タグは、統計結果などを純粋に「表」形式で表示させるというよりも、むしろページのレイアウト目的で利用されることのほうが多くなっています。HTMLは表示方法について、本来（性質上当然というべきですが）決定的な手段を持っていません。それに対処するためテーブルのもつ配列機能に目が向けられたのです。上手く活用すると、驚くほど凝ったレイアウトのページを作成することができます。

テーブルの短所はソースが複雑になりやすいことです。慣れるまで、意図したとおりのテーブルをくみ上げるには根気を要するかもしれません。実際にテーブルを上手く使ったページのソースを見て研究したり、また最近では優秀なHTMLエディタがいくつも出まわっているので、そうしたソフトを活用してみるのもひとつの手です。

またテーブルは、開始タグ<table>から終了タグ</table>までを読み込んでから表示が始まる性質があるため、表示が遅くなりがちだという短所もあります。この点にも注意して利用する必要があります。

ただし、HTML4.01ではレイアウト目的でテーブルを使用することは好ましくない方法だとし，レイアウトにはスタイルシートを使用するよう定義している点をお忘れなく。

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

枠線の幅を指定したい……………………………p.220

テーブル

2 TABLE

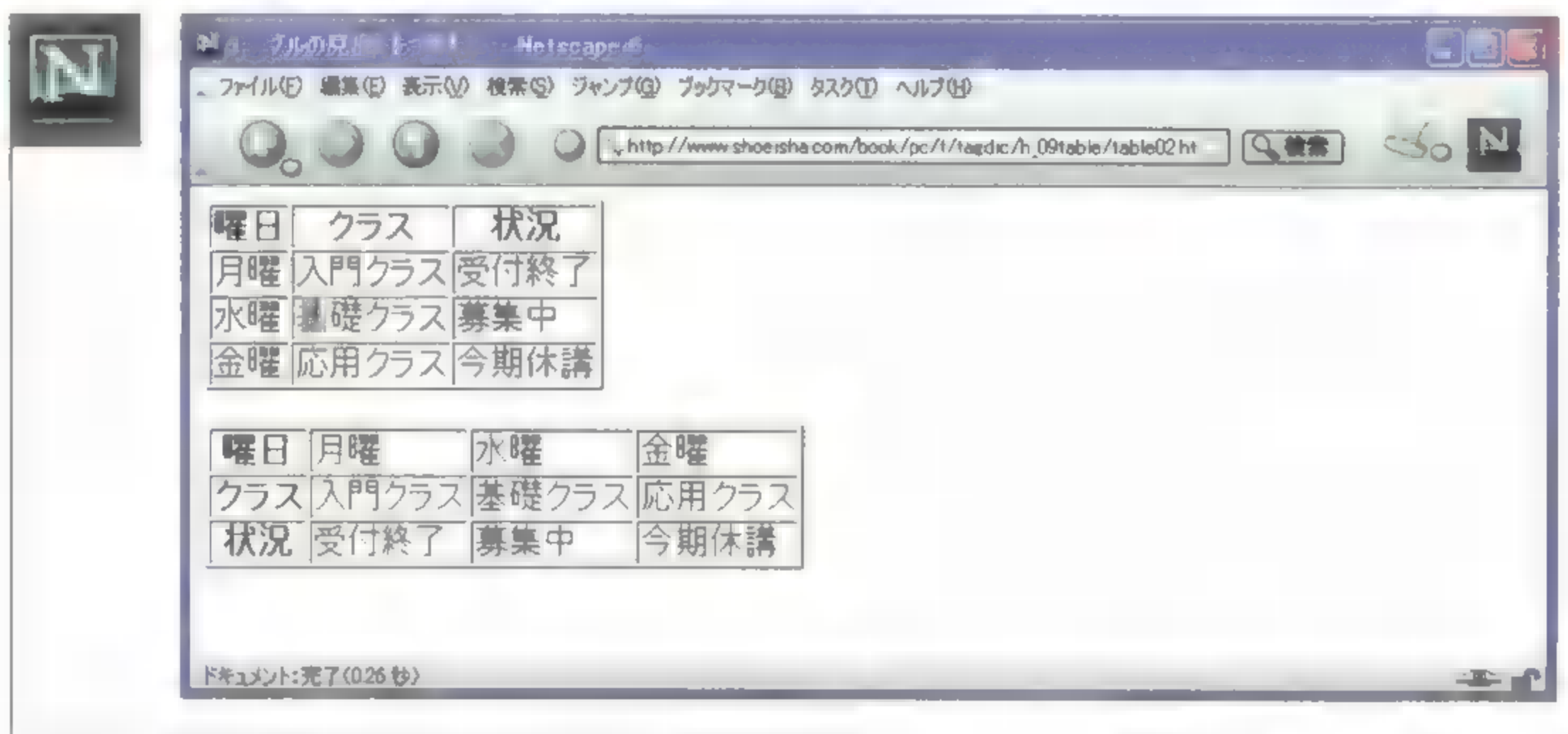
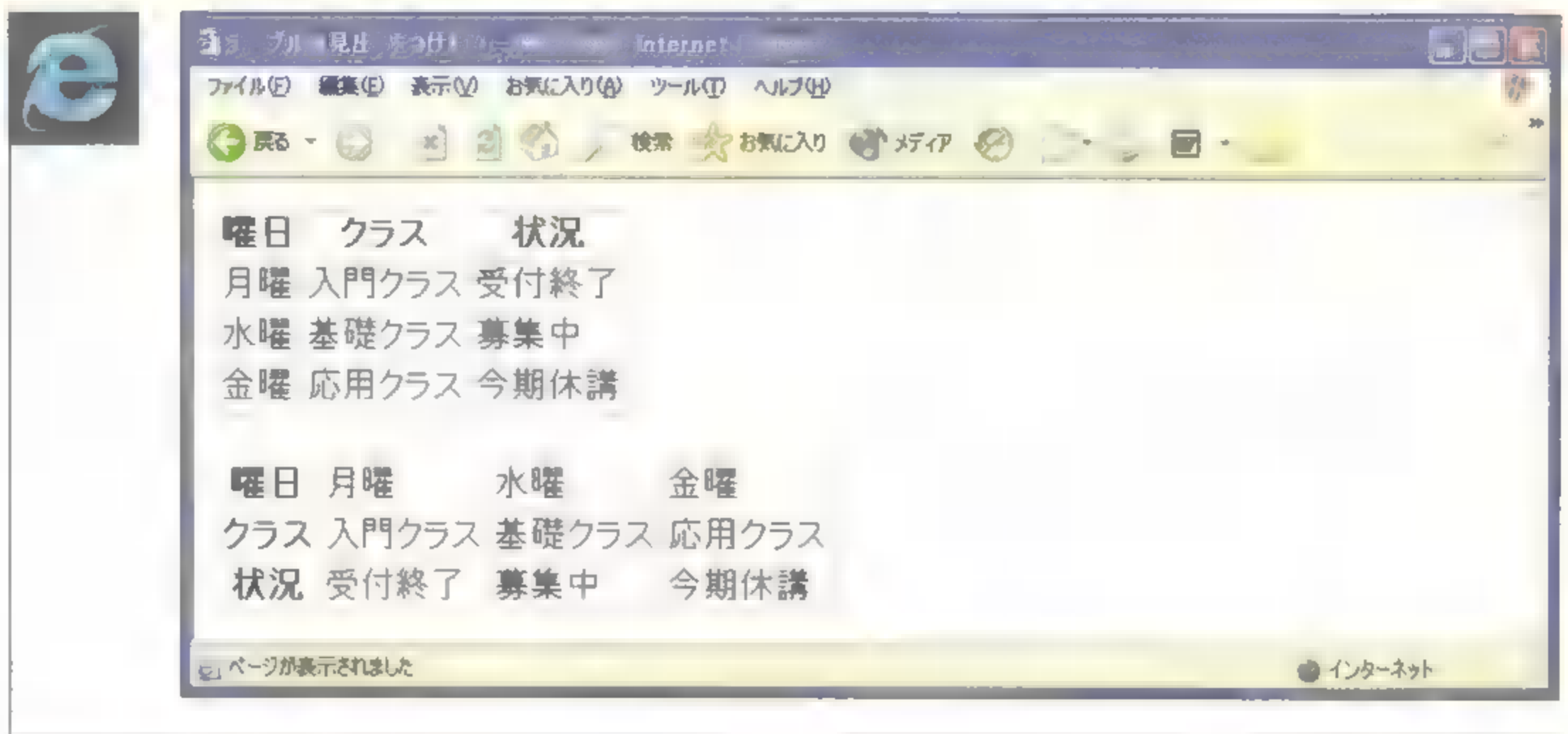
テーブルの見出しをつけたい

<th> ～ </th>

<th>タグと</th>タグで行や列の見出しを作成します。見出しとして定義されたテキストは、一般的には太字でセンタリングされて表示されます。

align属性を指定すれば、見出しの表示位置も変更することが可能です（p.216参照）。ただし、align属性は推奨しない属性に指定されているので使用には注意してください。

SOURCE

```
<table border="1">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1">
  <tr><th>曜日</th><td>月曜</td><td>水曜</td><td>金曜</td></tr>
  <tr><th>クラス</th><td>入門クラス</td><td>基礎クラス</td><td>応用クラ
  ス</td></tr>
  <tr><th>状況</th><td>受付終了</td><td>募集中</td><td>今期休講</td>
  </tr>
</table>
```

セルの大きさ

デフォルトの状態では、セルの大きさは中のテキストに合わせて自動的に変化します（p.212 参照）。

テーブル

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

3 TABLE

枠線の幅を指定したい

```
<table border="★"> ～ </table>
```

★……枠線の幅（ピクセル）

border属性で枠線の幅を指定します。1以上の数値をピクセルで指定してください。

この属性を指定しなければ枠線は表示されません。また、border="0"を設定したときも枠線は表示されません。

SOURCE

```
<table border="5">
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="10">
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

テキストに対するテーブルの位置を指定したい

<table align="★"> ～ </table>

★……left、right、center

align属性でテーブルを左、右、中央のいずれかに配置します。

left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、
タグのclear属性を使用します（次項参照）。

デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。

SOURCE

```
<table border="1" align="left" width="40%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<p>
align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、&lt;br&gt;タグのclear属性を使用します。
デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
<br>
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用するよう推奨されています。使用には注意してください。
<br clear="all">
</p>

<hr>
```

```
<table border="1" align="right" width="40%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<p>
align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指
定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除す
るには、&lt;br&gt;タグのclear属性を使用します。
デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
<br>
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用す
るよう推奨されています。使用には注意してください。
</p>

<hr>

<table border="1" align="center" width="40%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>入門クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<p>
align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指
定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除す
るには、&lt;br&gt;タグのclear属性を使用します。
デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
<br>
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用す
るよう推奨されています。使用には注意してください。
</p>
```

テキストに対するテーブルの位置を指定したい - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、
タグのclear属性を使用します。デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用するよう推奨されています。使用には注意してください。

align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、
タグのclear属性を使用します。デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用するよう推奨されています。使用には注意してください。

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	入門クラス	今期休講

align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、
タグのclear属性を使用します。デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。

ページが表示されました　インターネット

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	入門クラス	今期休講

align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。回り込みを解除するには、
タグのclear属性を使用します。デフォルトはalign="left"ですが、この属性が指定されていないとテキストは回り込みません。
ただし、align属性は推奨しない属性に指定されており、代わりにスタイルシートを利用するよう推奨されています。使用には注意してください。

ドキュメント: 完了 (0.22 秒)

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

画像にテキストを回り込ませたい……………p.136
テーブルに対する回り込みを解除したい………p.205
テーブルとテキストの間隔を指定したい………p.208

5 TABLE DEPRECATED

テーブルに対する回り込みを解除したい

<br clear="★">

★ ••••••all、left、right

テキストの回り込み（前項）を解除して、それ以降のテキストはテーブルの下の行から続けたいときは、
 タグに clear 属性を指定します。値と効果は以下の通りです。

left	テーブルが左側にあるとき（<table align="left">）の回り込みを解除
right	テーブルが右側にあるとき（<table align="right">）の回り込みを解除
all	どちらの場合にも有効

SOURCE

```
<table border="1" align="right">
  <tr><th> 曜日 </th><th> クラス </th><th> 状況 </th></tr>
  <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td><td> 受付終了 </td></tr>
  <tr><td> 水曜 </td><td> 基礎クラス </td><td> 募集中 </td></tr>
  <tr><td> 金曜 </td><td> 応用クラス </td><td> 今期休講 </td></tr>
</table>
<p>
align 属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、または right を指
定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。
<br clear="right">
テキストの回り込みを解除して、それ以降のテキストはテーブルの下の行から続けたいとき
は、&lt;br&gt;タグの clear 属性を指定します。
</p>
```

ファイル(F)
表示(V)
お気に入り(A)
ツール(T)
ヘルプ(H)
戻る
検索
お気に入り
メディア
align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。
曜日 クラス 状況
月曜 入門クラス 受付終了
水曜 基礎クラス 募集中
金曜 応用クラス 今期休講
テキストの回り込みを解除して、それ以降のテキストはテーブルの下の行から続けたいときは、
タグのclear属性を指定します。
ページが表示されました
インターネット

ファイル(F)
編集(E)
表示(V)
検索(S)
ジャンプ(G)
ブックマーク(B)
タスク(T)
ヘルプ(H)
http://www.shoeisha.com/book/pc/t/tagdic/h_09table/tab
検索
align属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。
曜日 クラス 状況
月曜 入門クラス 受付終了
水曜 基礎クラス 募集中
金曜 応用クラス 今期休講
テキストの回り込みを解除して、それ以降のテキストはテーブルの下の行から続けたいときは、
タグのclear属性を指定します。
ドキュメント:完了(0.22 秒)

CSSによる回り込みとその解除

スタイルシートを利用して同様にテーブルにテキストを回り込ませ、またその回り込みを解除する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは、本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
table       {float:right}
br#right    {clear:right}
</style>
<body>
<table border="1" align="right">
  <tr><th>[illegible]</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<p>
align属性でテーブルの[illegible]左、右、中央のいずれかに配置します。left、またはrightを指定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。
<br id="right">
テキストの回り込みを[illegible]して、それ以降のテキストはテーブルの下の行から続けたいときは、&lt;br&gt;タグのclear属性を指定します。
</p>
</body>
```

	IE4	IE5	IE[illegible].5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

参照
画像に対する回り込みを解除したい……p.138
テキストに対するテーブルの位置を指定したい……p.202
テーブルとテキストの間隔を指定したい……p.208

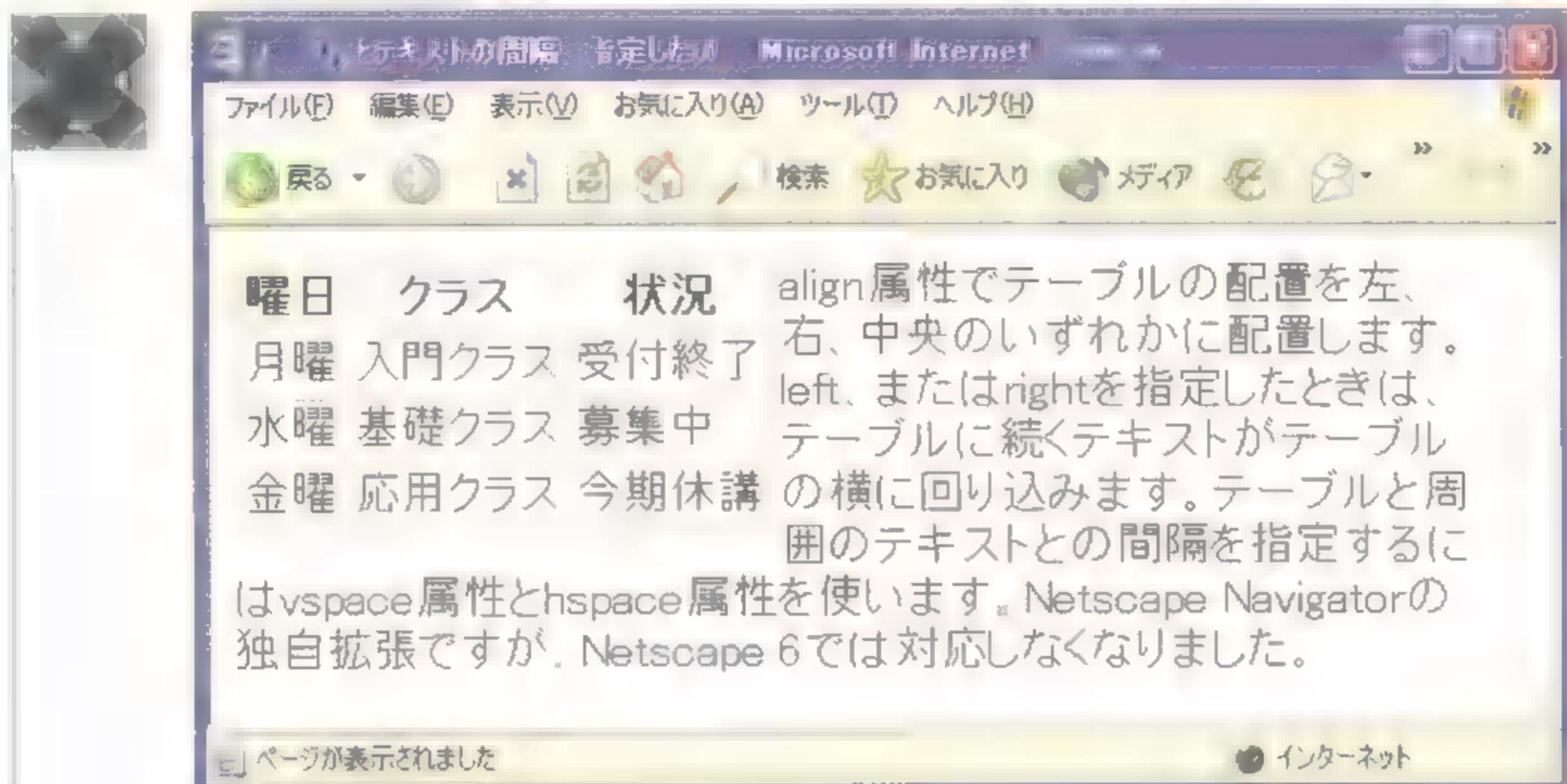
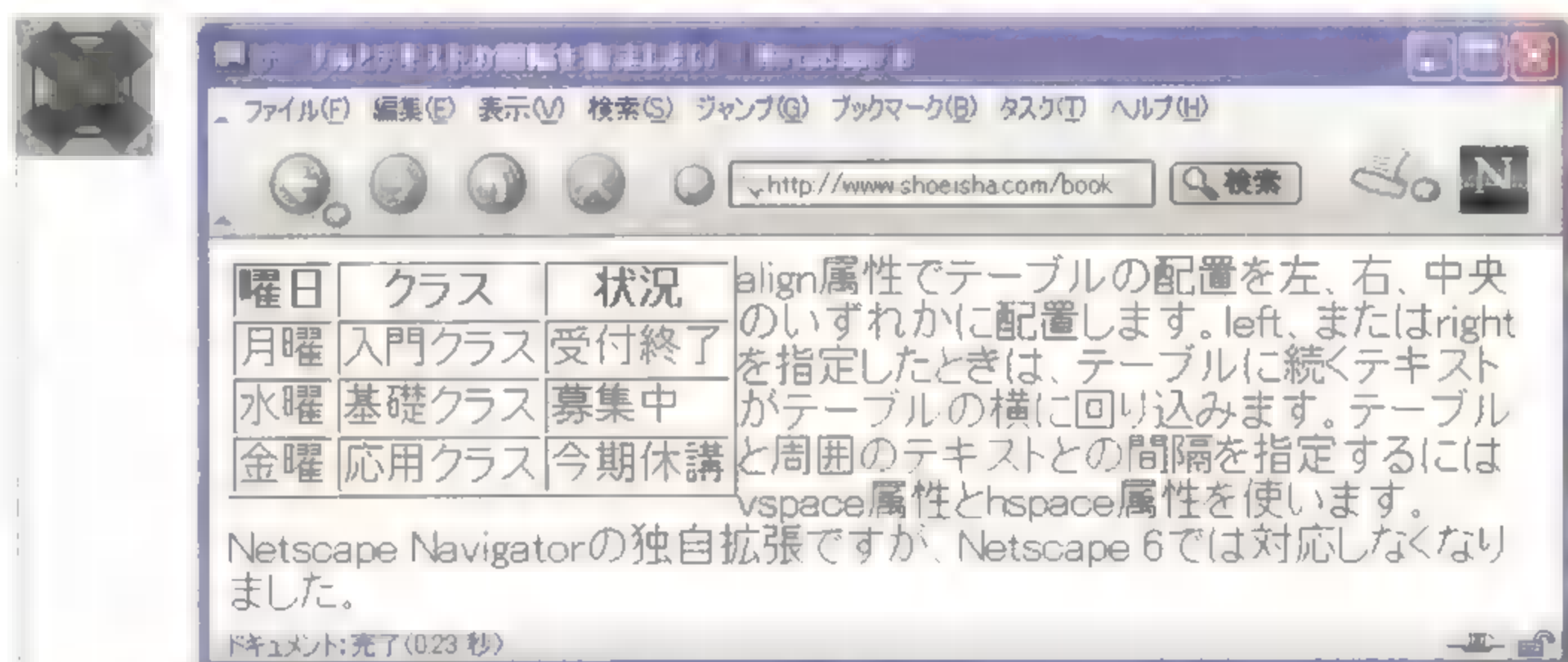
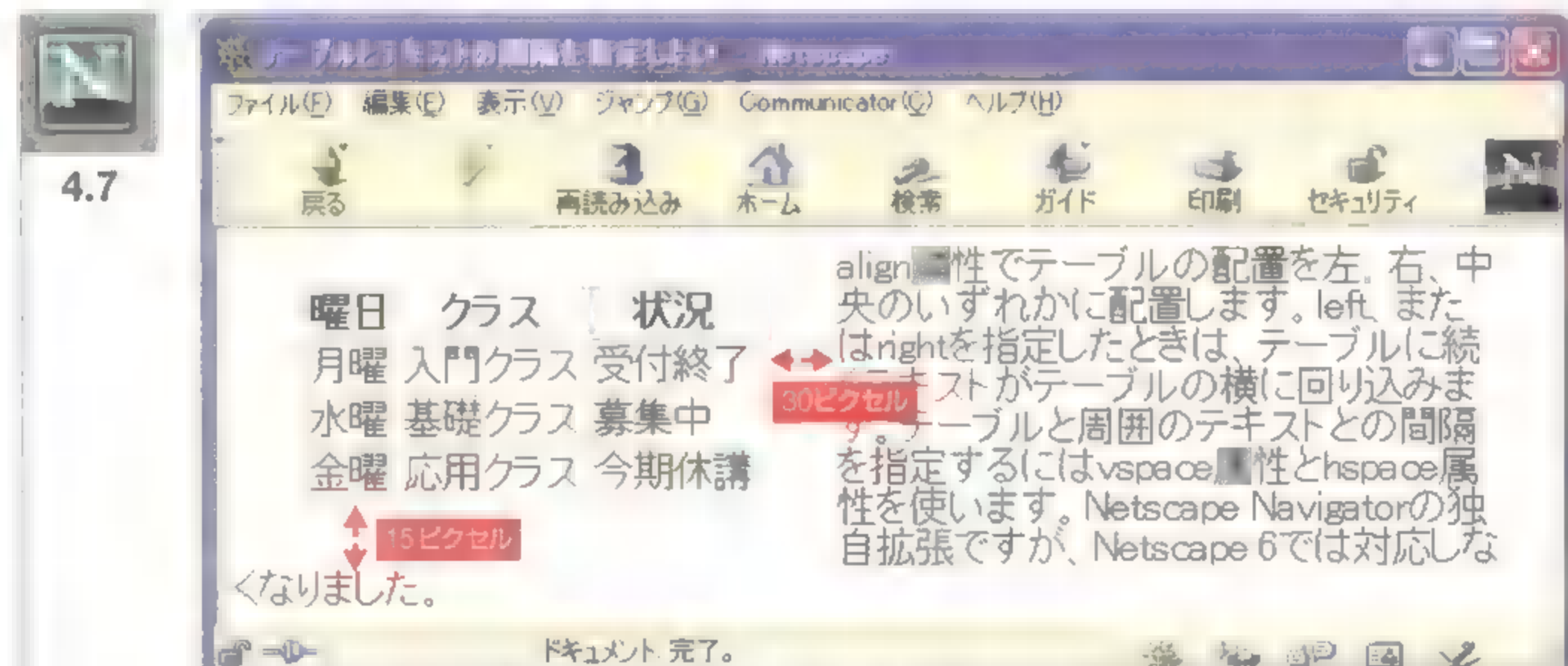
テーブルとテキストの間隔を指定したい

<table vspace="★" hspace="☆" align="◆"> ～ </table>

★ ••••••縦方向の間隔（ピクセル）
☆ ••••••横方向の間隔（ピクセル）
◆ ••••••left、right

テキストの回り込みを設定したときの、テーブルと周囲のテキストとの間隔を指定します。Netscape Navigator が独自に拡張した属性ですが、Netscape 6 で対応しなくなりました。

SOURCE

```
<table border="1" align="left" vspace="15" hspace="30">
  <tr><th> 曜日 </th><th> クラス </th><th> 状況 </th></tr>
  <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td><td> 受付終了 </td></tr>
  <tr><td> 水曜 </td><td> 基礎クラス </td><td> 募集中 </td></tr>
  <tr><td> 金曜 </td><td> 応用クラス </td><td> 今期休講 </td></tr>
</table>
<p>
align 属性でテーブルの配置を左、右、中央のいずれかに配置します。left、または right を指
定したときは、テーブルに続くテキストがテーブルの横に回り込みます。テーブルと周囲の
テキストとの間隔を指定するには vspace 属性と hspace 属性を使います。Netscape
Navigator の独自拡張ですが、Netscape 6 では対応しなくなりました。
</p>
```

▲Internet Explorerは対応していません

▲Netscapeはバージョン6で対応しなくなりました

▲Netscape Navigator 4.7以前ではこのように表示されます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
×	×	×	×	○	○	×

テキストに対するテーブルの位置を指定したい････p.202
テーブルに対する回り込みを解除したい･･････････p.205

7 TABLE

テーブルのサイズを指定したい

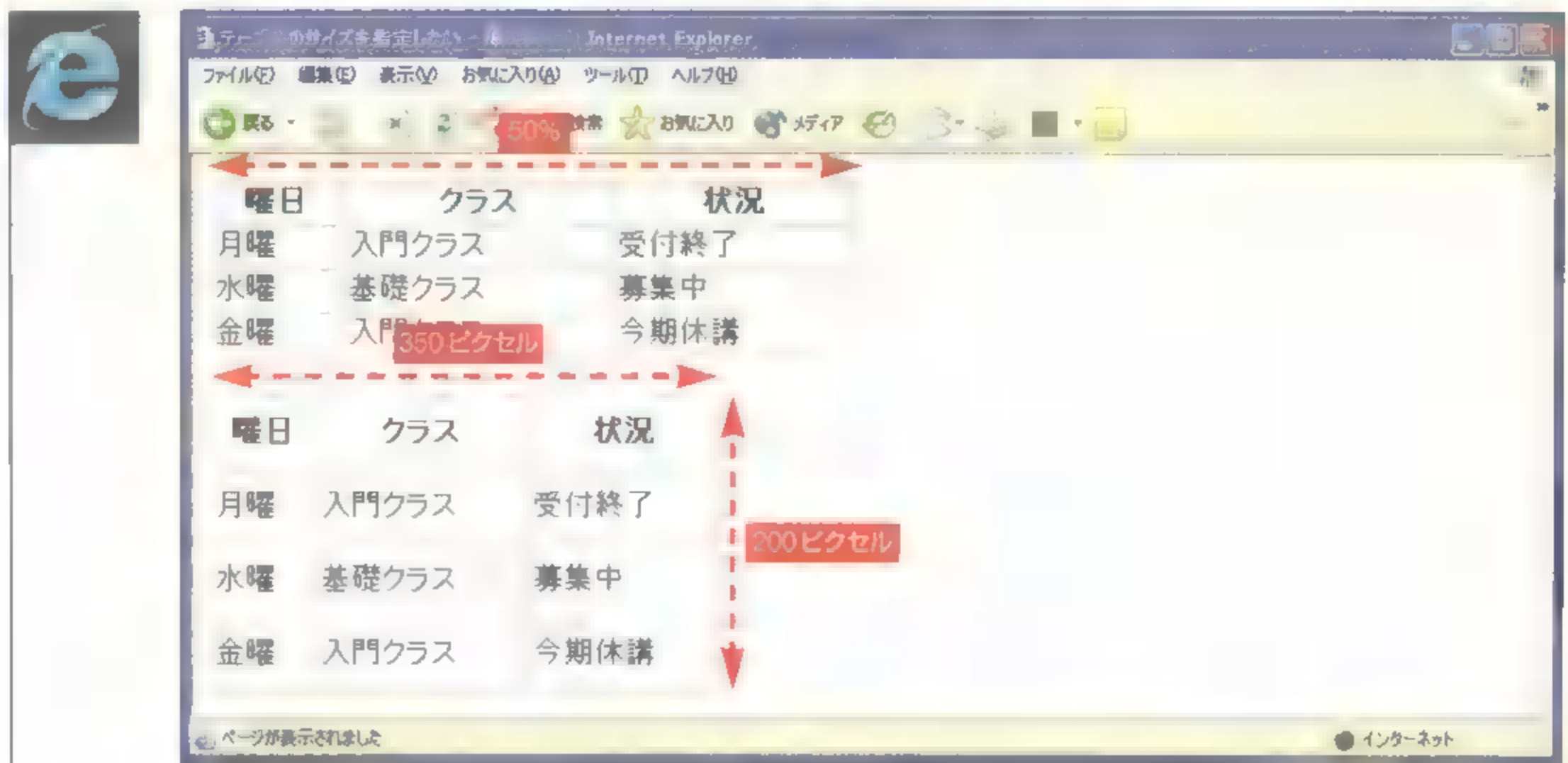
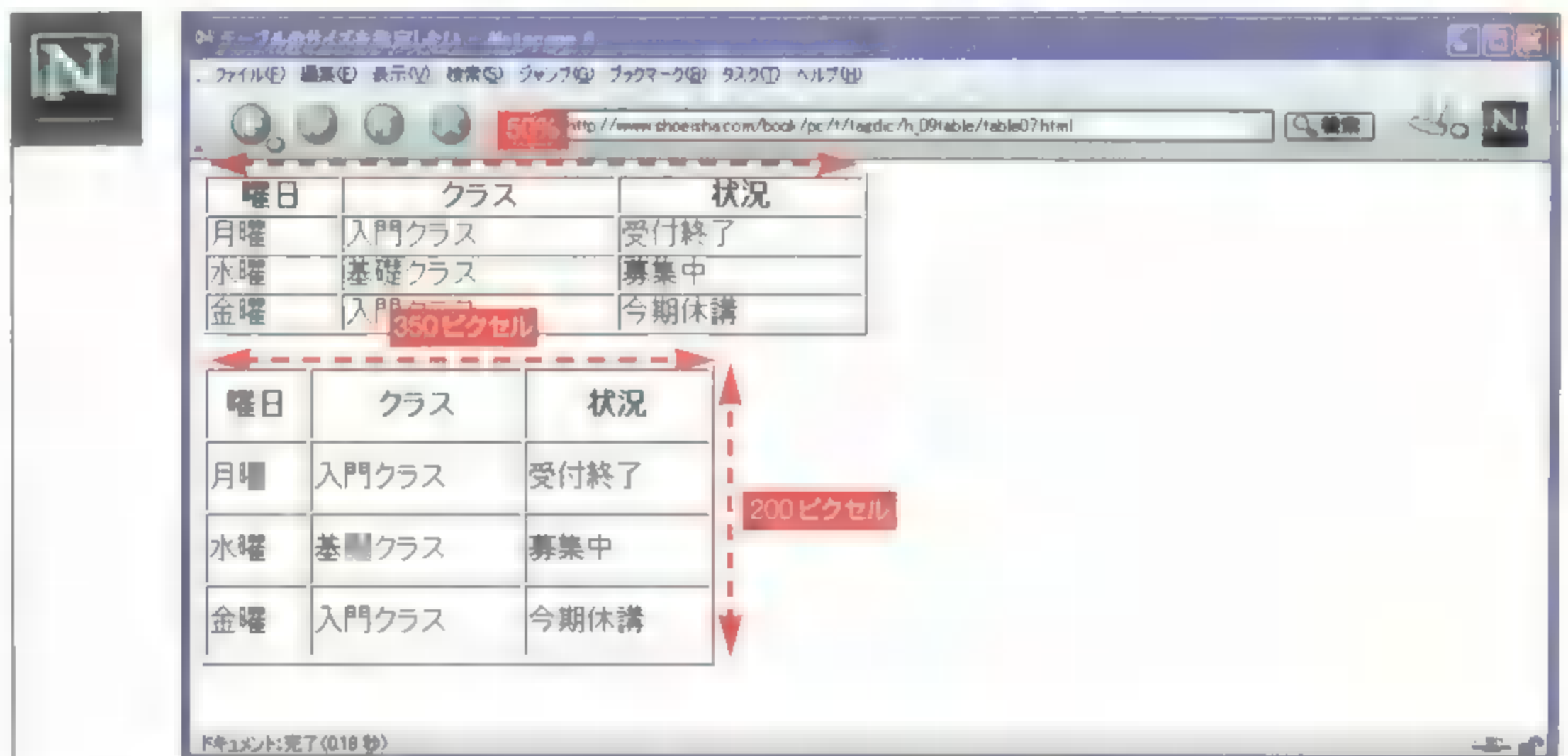
<table width="★" height="☆"> ～ </table>

★ ••••••テーブルの幅 （ピクセルまたは%）
☆ ••••••テーブルの高さ（ピクセル）

width属性でテーブル全体の幅を指定します。パーセントで指定するとブラウザのウィンドウサイズに対する割合となり、ブラウザの大きさが変わればテーブルの大きさも変わります。ピクセル数で指定すると指定された大きさで固定されます。

また、ブラウザによっては<table>タグに対してheight属性を設定することでテーブル全体の高さを指定することもできますが（ピクセル指定のみ）、この方法はHTML4.01では定義されていません。テーブルの高さを指定するときは、スタイルシートもしくは<th>タグや<td>タグの属性として定義されているheight属性（次項参照）を利用したほうがよいでしょう。

SOURCE

```
<table border="1" width="50%">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>入門クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1" width="350" height="200">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>入門クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

▲上のテーブルは幅を % で指定しているのでブラウザのウィンドウサイズによって大きさが変わります

▲Netscape も同様ですが、height 属性を指定すると下枠の太さが変わるなどの現象が起こります

テーブル

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	△

※Netscape 6は正常に表示されます

参照
セルのサイズを指定したい……………………p.212
セル内のテキストの位置の指定をしたい…………p.216
セルの[illegible]マージンを指定したい……………p.219

8

セルのサイズを指定したい

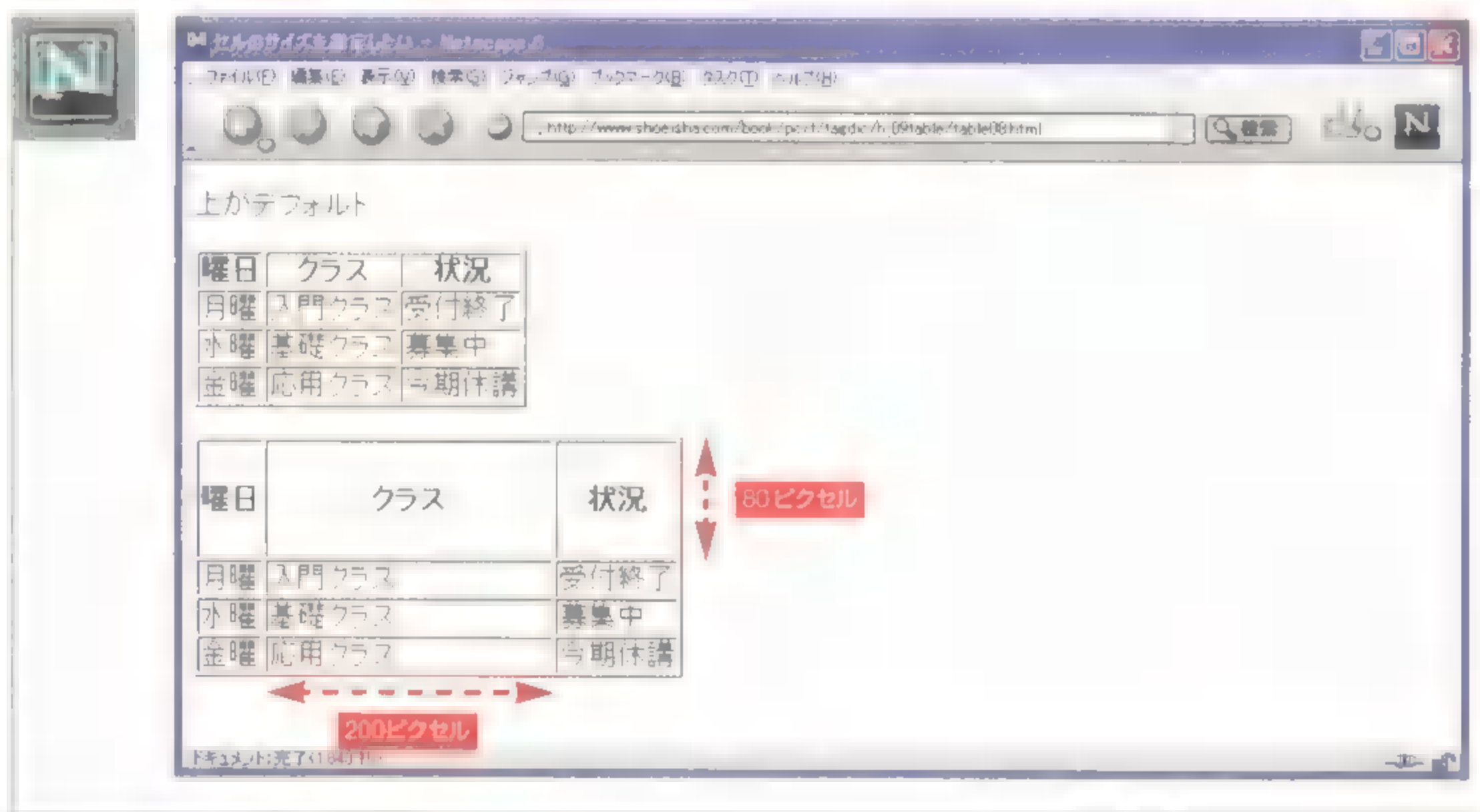
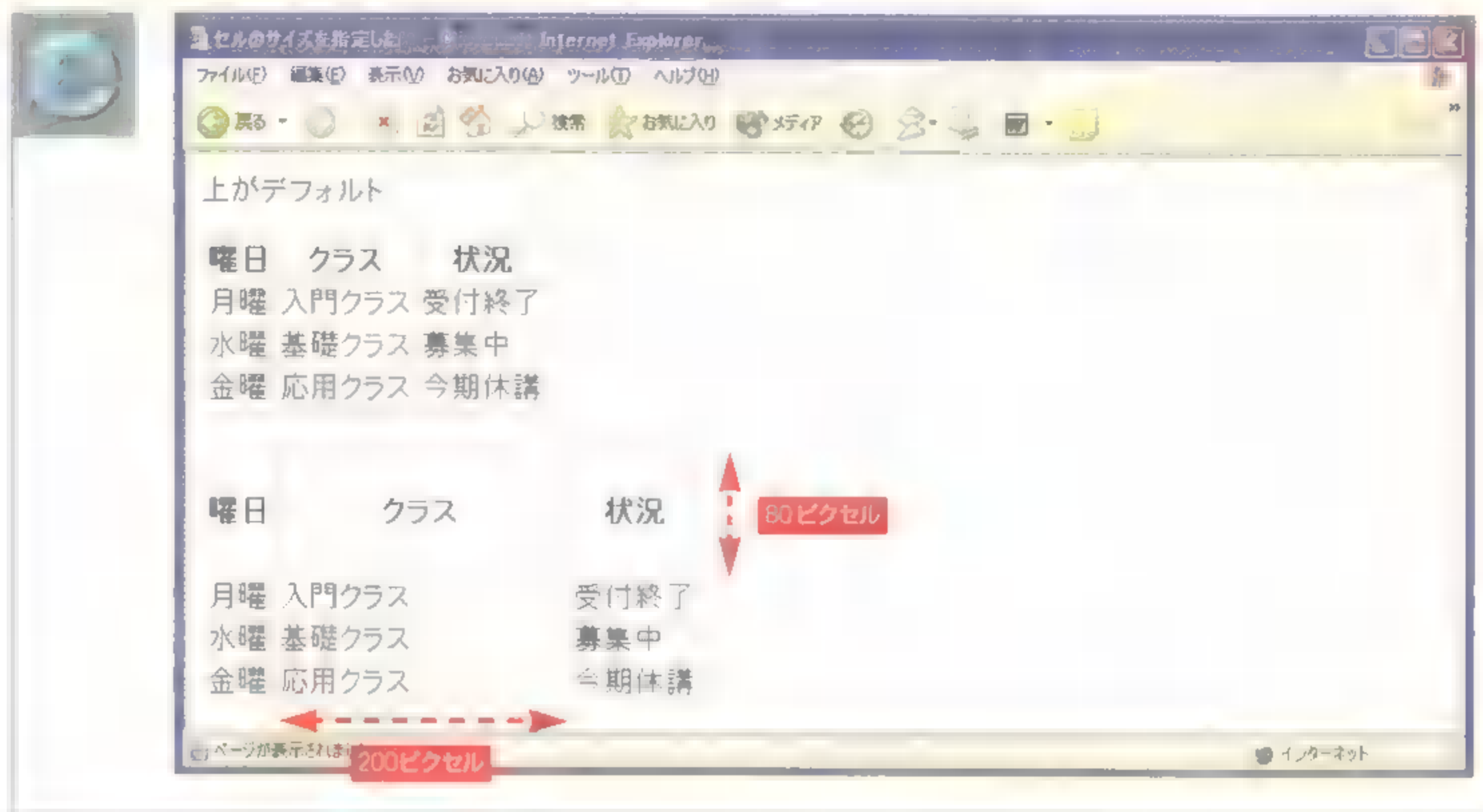
```
<th width="★" height="☆"> ~ </th>
<td width="★" height="☆"> ~ </td>
```

★……セルの幅（ピクセル）
☆……セルの高さ（ピクセル）

<th>タグ、<td>タグにwidth属性やheight属性を指定すると、セルの幅や高さを指定することができます。

SOURCE

```
<p>
上がデフォルト
</p>
<table border="1">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1">
  <tr><th height="80">曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td width="200">応用クラス</td><td>今期休講</td>
  </tr>
</table>
```

テーブル

参照
テーブルのサイズを指定したい……………………p.210
セル内のテキストの位置を指定したい…………p.216
セルの間隔やマージンを指定したい……………p.219

align 属性のみ DEPRECATED

キャプションをつけたい

<caption> 〜 </caption>

<caption align="★"> 〜 </caption>

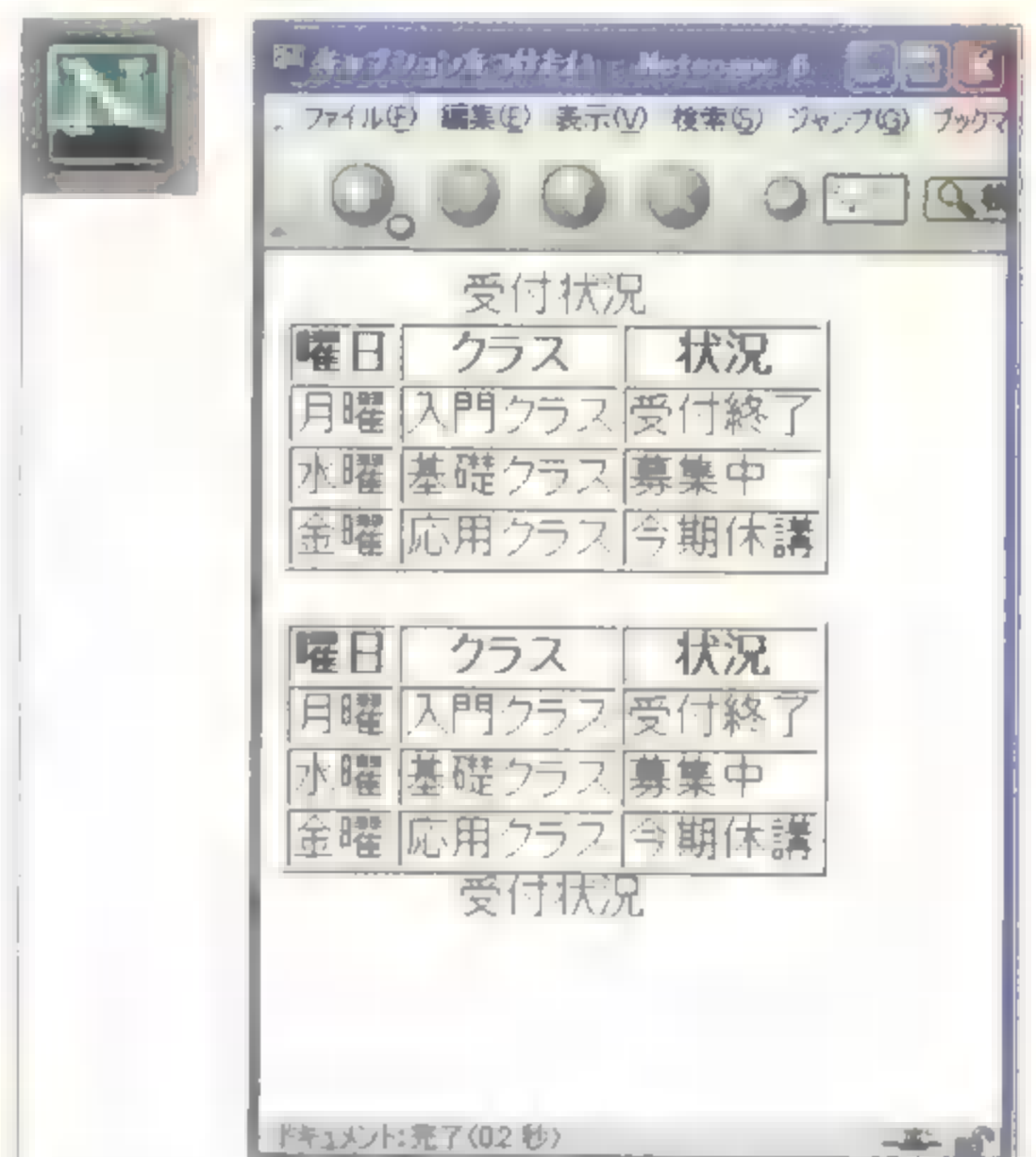
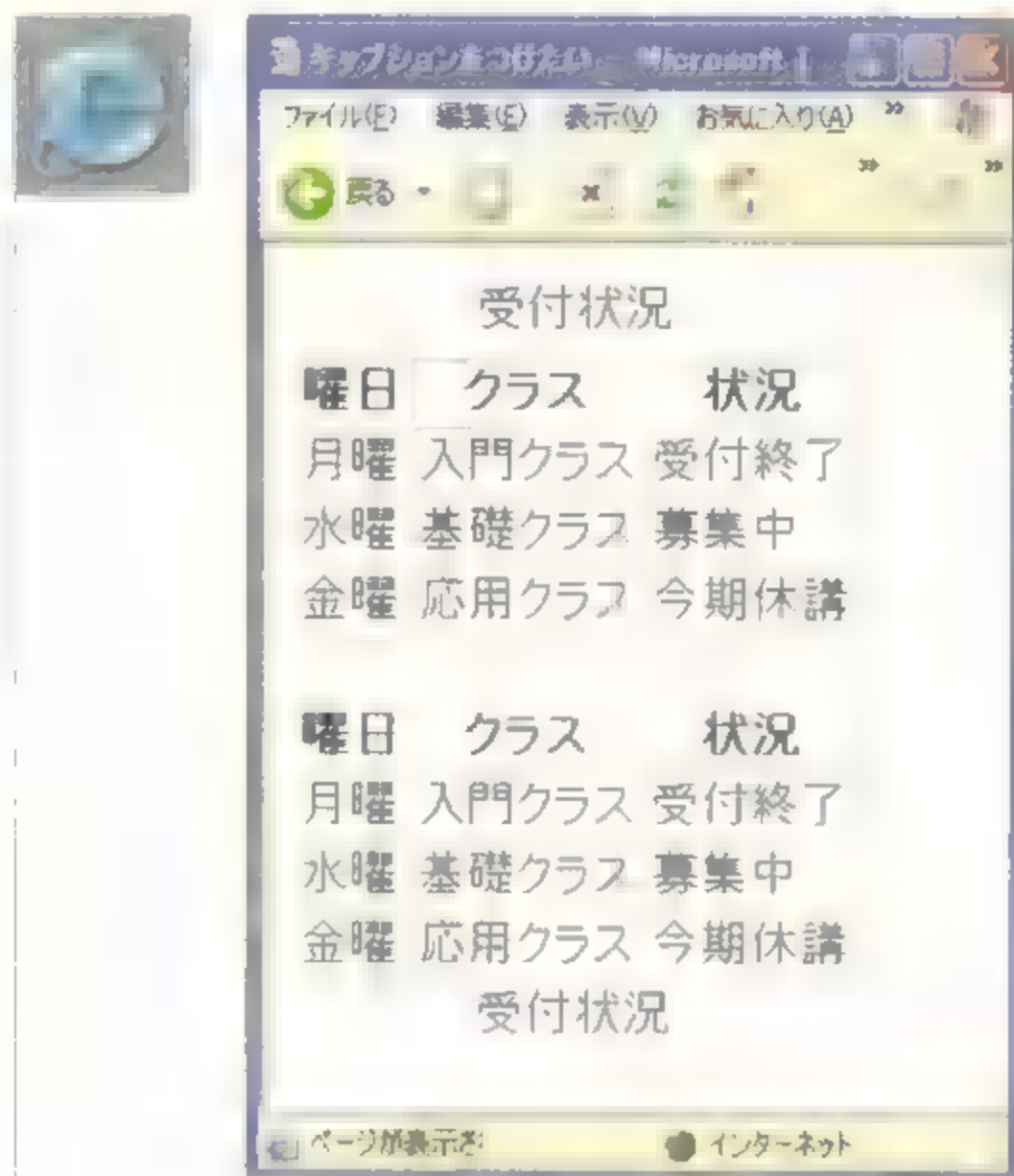
★ ••••••top、bottom

テーブルにキャプション（タイトル）をつけるには<caption>タグを使用します。デフォルト、つまり位置を指定しない場合は、キャプションはテーブルの上部にセンタリングして表示されます。

align 属性を使うとキャプションの位置を指定することができます。top ではテーブルの上部、bottom ではテーブルの下部に、それぞれセンタリングして表示されます。

SOURCE

```
<table border="1">
  <caption>受付状況</caption>
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1">
  <caption align="bottom">受付状況</caption>
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

10 TABLE

セル内のテキストの位置を指定したい

```
<tr align="★" valign="☆"> ～ </tr>
<th align="★" valign="☆"> ～ </th>
<td align="★" valign="☆"> ～ </td>
```

★……left、center、right
☆……top、middle、bottom、baseline

セル内のデータが表示される位置を指定するには、align属性とvalign属性を使います。

alignではデータの行揃え（横方向）を指定し、valignでは垂直方向（縦方向）を指定します。値の意味は以下の通りです。

left	左揃え
center	中央揃え
right	右揃え
top	上
middle	中央
bottom	下
baseline	横方向のデータのベースライン基準。各セル内の1行目のベースラインを揃える

デフォルトはalign="left"、valign="middle"です。

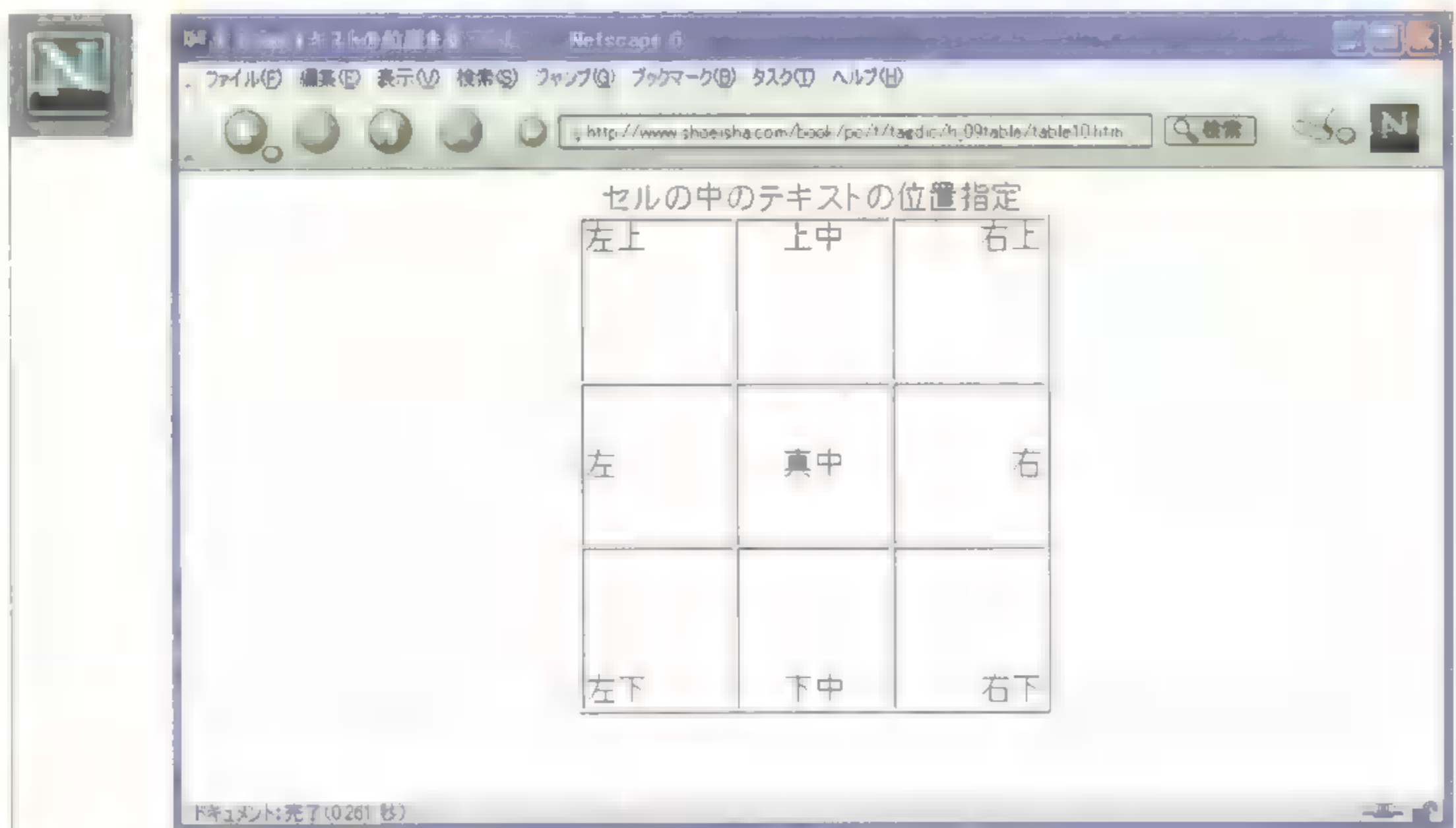
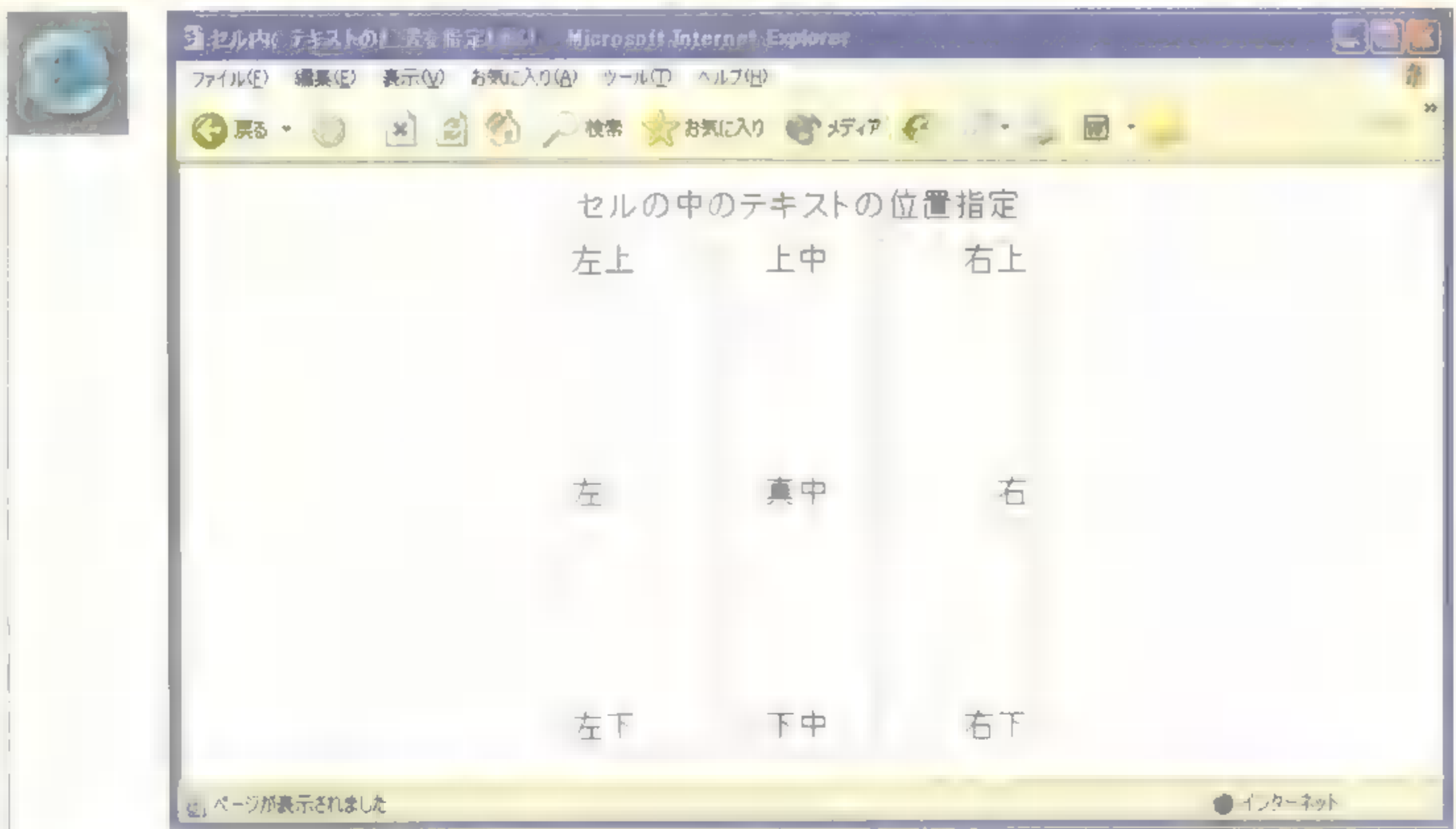
[illegible]の位置

行をグループ化する<thead>、<tbody>、<tfoot>タグ（p.238参照）や列をグループ化する<col>や<colgroup>タグ（p.240、242参照）でも同様にalign属性とvalign属性を指定すると、セルの中のテキスト位置を指定することができます。

SOURCE

```
<div align="center">
<table border="1" width="300">
  <caption>セルの中のテキストの位置指定</caption>
  <tr>
    <td align="left" valign="top" height="100">左上</td>
    <td align="center" valign="top">上中</td>
    <td align="right" valign="top">右上</td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="left" valign="middle" height="100">左</td>
    <td align="center" valign="middle">真中</td>
    <td align="right" valign="middle">右</td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="left" valign="bottom" height="100">左下</td>
    <td align="center" valign="bottom">下中</td>
    <td align="right" valign="bottom">右下</td>
  </tr>
</table>
</div>
```

テーブルのサイズを指定したい……………………p.210
セルのサイズを指定したい…………………………p.212

11 TABLE

セルの間隔やマージンを指定したい

```
<table cellspacing="★" cellpadding="☆"> ～ </table>
```

★••••••セルの間隔（ピクセル）
☆••••••セル内のマージン（ピクセル）

cellspacingはテーブルの外枠とセル、およびセルとセルの間隔を指定します。外見的にはテーブルの各線の太さが変更されたようになります。

cellpaddingはセルの枠とセル内の内容との間隔（マージン）を指定します。

SOURCE

```
<table border="1" cellspacing="0" cellpadding="0">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1" cellspacing="10" cellpadding="0">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1" cellspacing="0" cellpadding="10">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td></tr>
</table>
<br>
<table border="1" cellspacing="10" cellpadding="10">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td></tr>
</table>
<br>
```

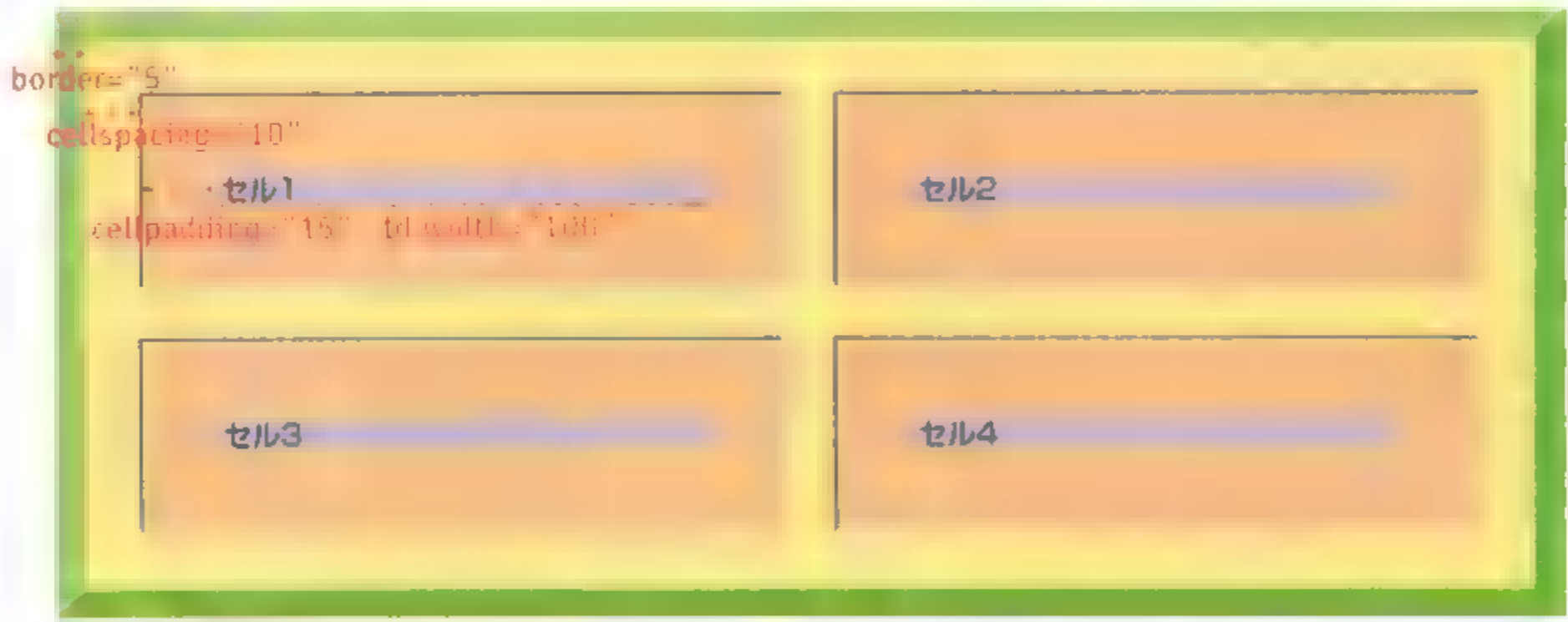
```
<table border="10" cellspacing="10" cellpadding="10">
  <tr><th> 曜日 </th><th> クラス </th></tr>
  <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td></tr>
</table>
```

▲cellspacing と cellpadding はこのような関係になります

border、cellspacing、cellpadding属性の指定はテーブルのサイズに影響を与えます。width属性やheight属性でテーブルのサイズを指定する際は、これらの属性の値も考慮に入れるようにしましょう。

```
<table border="5" cellspacing="10" cellpadding="15">
<tr>
<td width="100">セル1</td>
<td width="100">セル2</td>
</tr>
<tr>
<td>セル3</td>
<td>セル4</td>
</tr>
</table>
```

セル1	セル2
セル3	セル4

このようなソースでできるテーブルは下のようになります。

つまりテーブル全体の横幅は

5+10+1+15+100+15+1+10+1+15+100+15+1+10+5=304（ピクセル）

となります（「1」はセルの内側の影の部分です）。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

枠線の幅を指定したい……………………………p.200
テーブルのサイズを指定したい…………………p.210
セルのサイズを指定したい……………………p.212
セル内のテキストの位置を指定したい…………p.216

12 TABLE

枠線の色を指定したい

```
<table border bordercolor="★"> ~ </table>
<table border bordercolorlight="★" bordercolordark="★"> ~ </table>
```

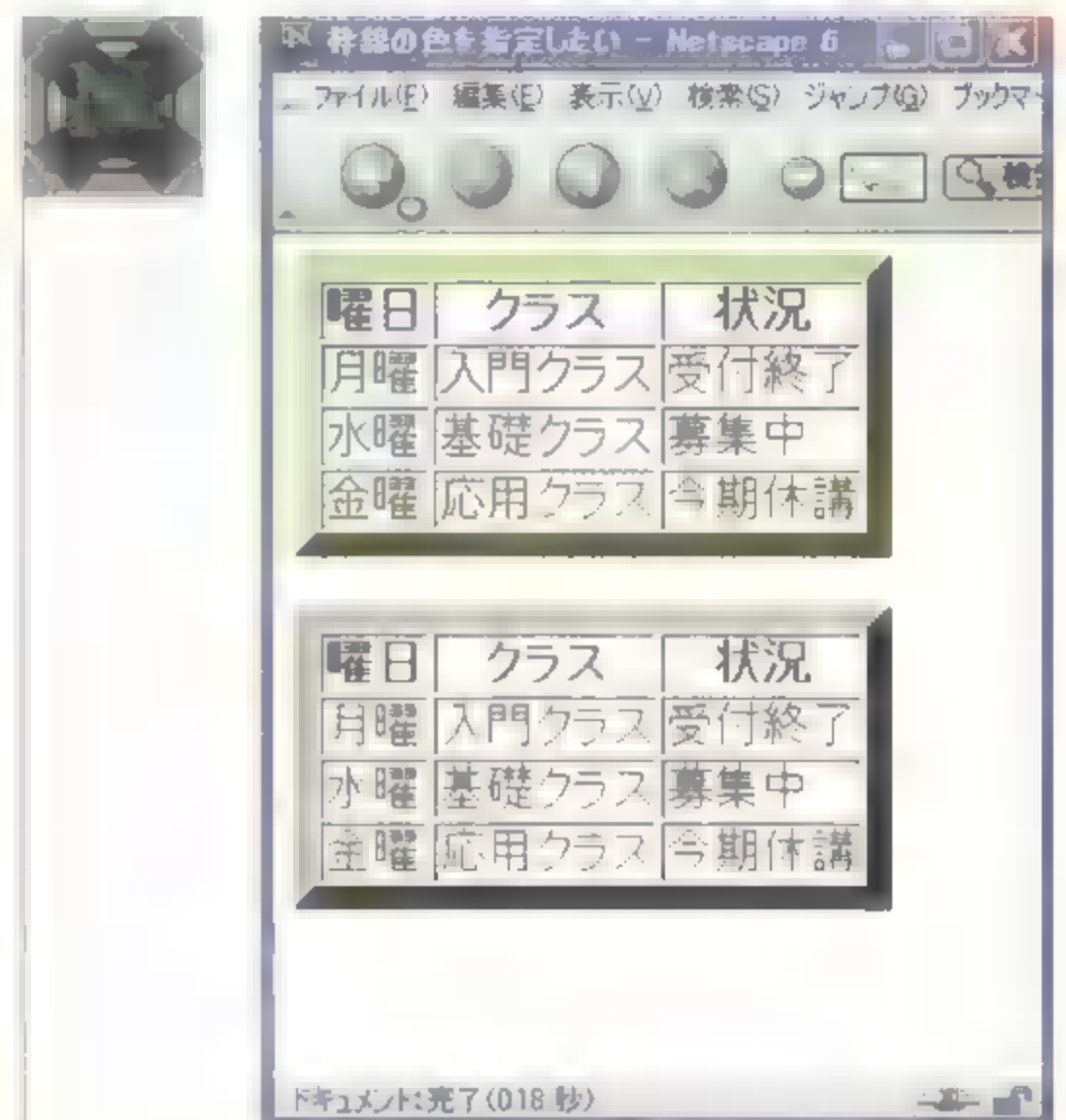
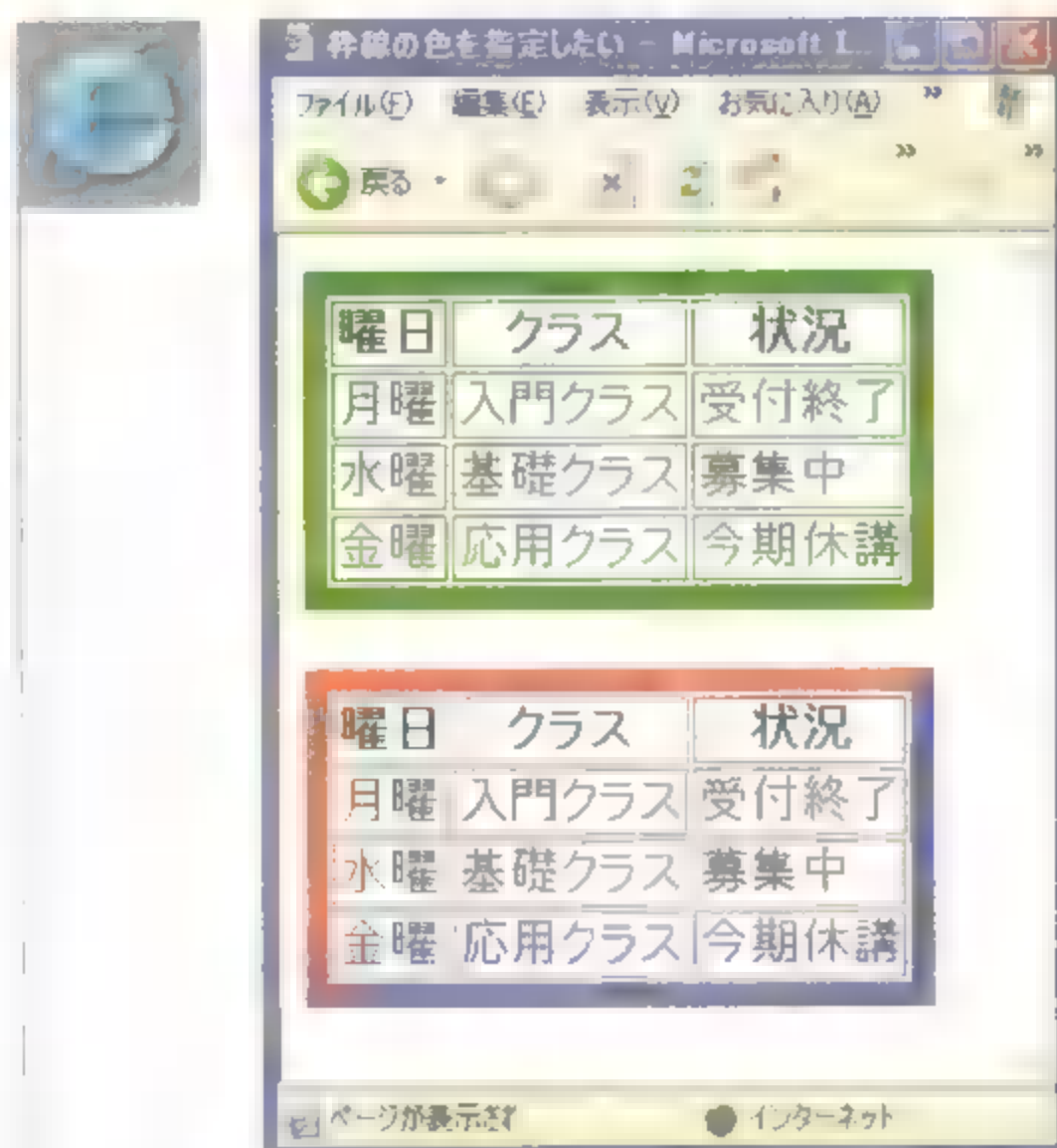
★……色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

テーブルの枠線の色を指定するには、<table border> に bordercolor、bordercolorlight、bordercolordark の各属性を付けます。

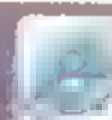
bodercolor 属性は、枠線全体の色を一色で指定します。

bordercoorlight 属性と bordercolordark 属性を使うと、色を使い分けて立体的な枠線のテーブルを表現できます。

SOURCE

```
<table border="10" bordercolor="green">
  <tr><th> 曜日 </th><th> クラス </th><th> 状況 </th></tr>
  <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td><td> 受付終了 </td></tr>
  <tr><td> 水曜 </td><td> 基礎クラス </td><td> 募集中 </td></tr>
  <tr><td> 金曜 </td><td> 応用クラス </td><td> 今期休講 </td></tr>
</table>
<br>
<table border="10" bordercolorlight="#ff6600"
bordercolordark="#0000ff">
  <tr><th> 曜日 </th><th> クラス </th><th> 状況 </th></tr>
  <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td><td> 受付終了 </td></tr>
  <tr><td> 水曜 </td><td> 基礎クラス </td><td> 募集中 </td></tr>
  <tr><td> 金曜 </td><td> 応用クラス </td><td> 今期休講 </td></tr>
</table>
```

■ Netscape は bordercolor 属性に不完全に対応、bordercolorlight 属性と bordercolordark 属性には対応していません

	IE4	IE5	[illegible].5	IE6	NN4	[illegible]	N6
bordercolor	○	○	○	○	△	△	△
bordercolorlight	○	○	○	○	×	×	×
bordercolordark	○	○	○	○	×	×	×

枠線の幅を指定したい……………………………p.200

外枠の表示方法を指定したい

<table frame="★"> ～ </table>

★……void、above、below、hsides、vsides、lhs、rhs、box、border

frame属性で、テーブルの外枠線の表示方法を設定することができます。次のような値をとります。

void	外枠なし（デフォルト）
above	上のみ
below	下のみ
hsides	上下のみ
vsides	左右のみ
lhs	左側のみ
rhs	右側のみ
box	外枠すべて
border	四辺の縁取り

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲void

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲above

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲below

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲hsides

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲vsides

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲lhs

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲rhs

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲box

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲border

SOURCE

```
<table border="3" frame="hsides">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="8" frame="vsides">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	○

参照
枠線の幅を指定したい……………………………p.200
内側罫線の表示方法を指定したい………………p.226

14 TABLE

内側罫線の表示方法を指定したい

<table rules="★"> ～ </table>

★・・・・・・none、groups、rows、cols、all

rules属性は、セルの間に引かれる罫線の表示方法を設定します。次のような値をとります。

none	罫線なし（デフォルト）
groups	thead、tfoot、tbody、colgroup、col の境界のみ
rows	横の列の境界のみ
cols	縦の列の境界のみ
all	すべての境界

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲none

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲rows

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲cols

曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講

▲all

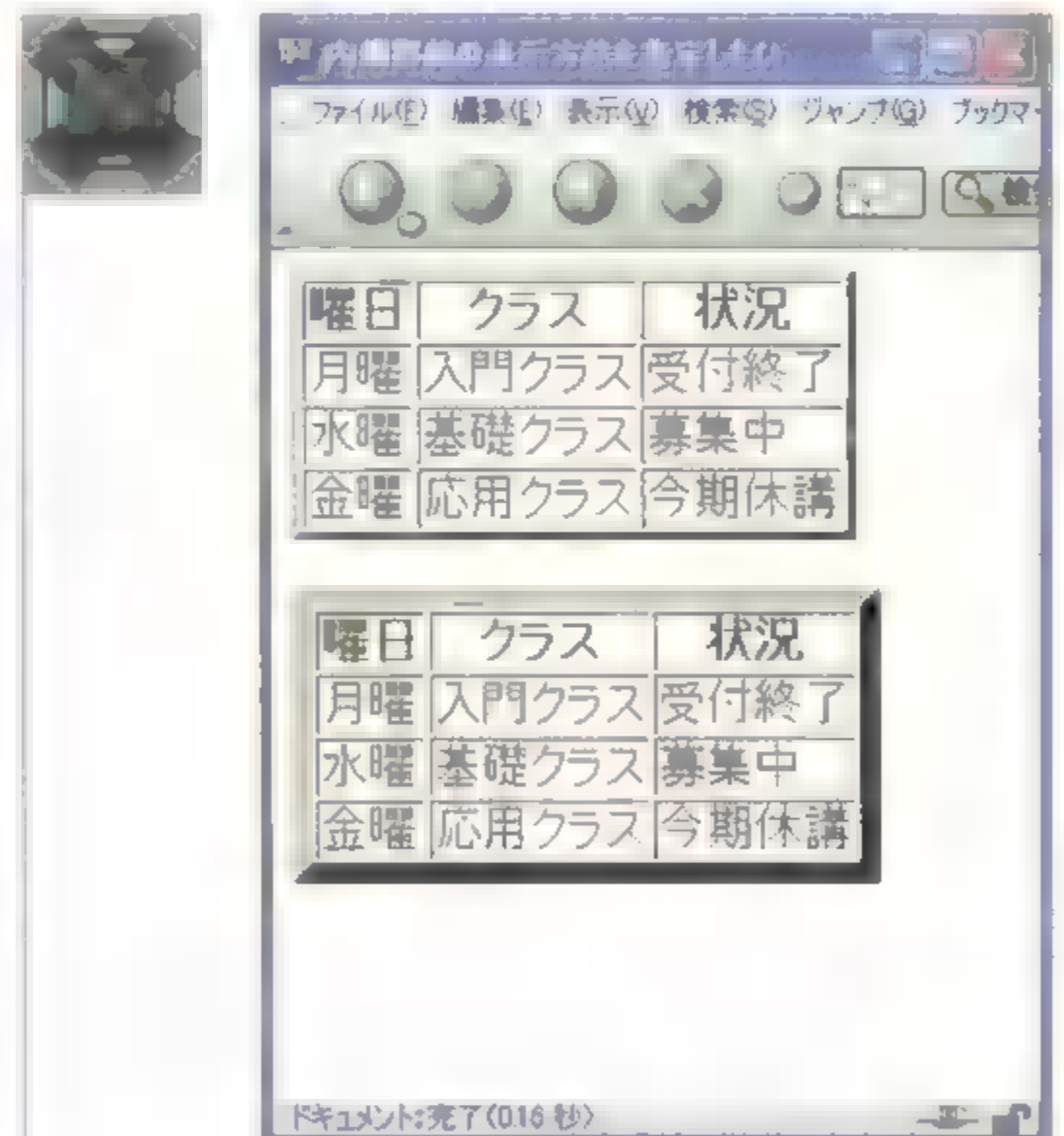
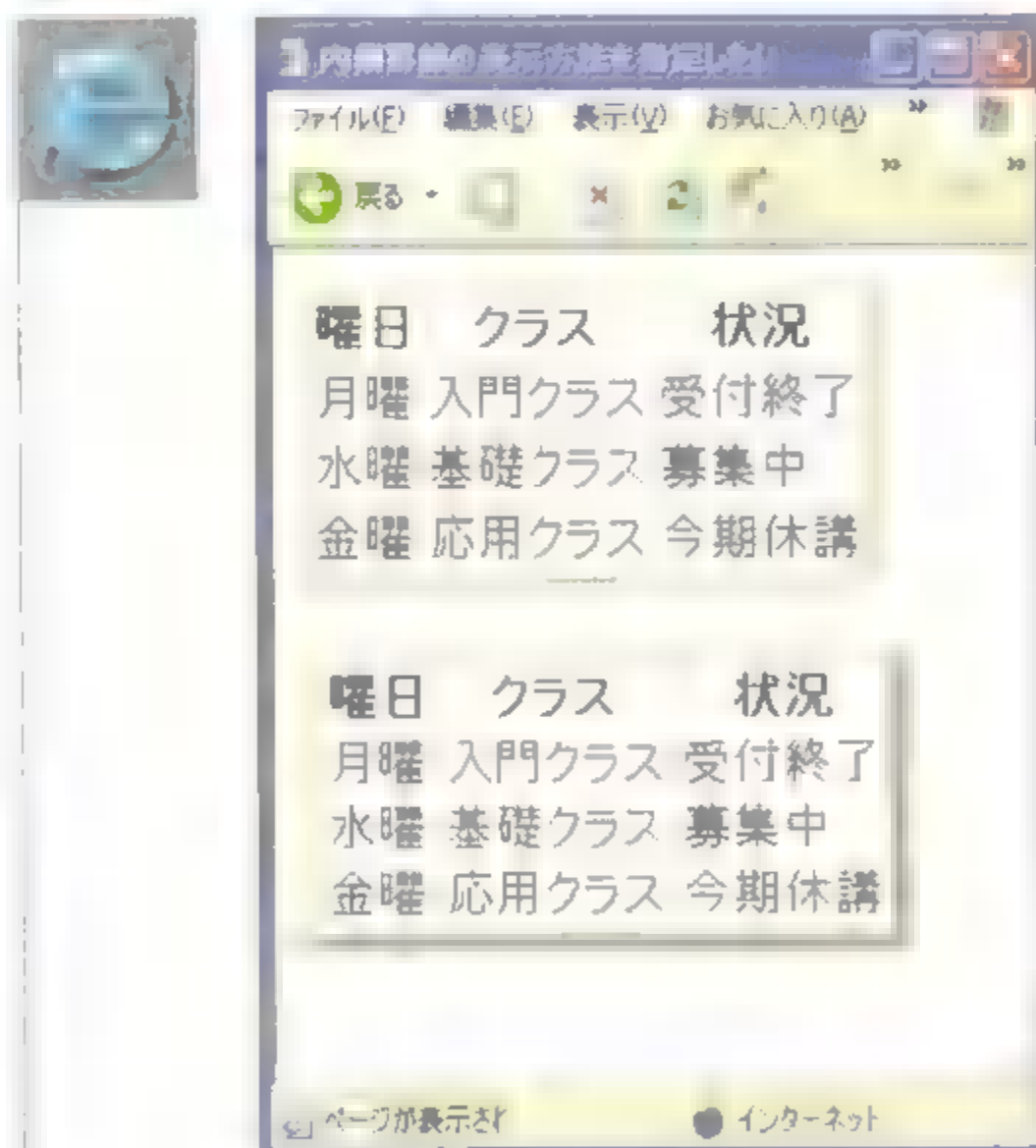
曜日	クラス	状況
月曜	入門クラス	受付終了
水曜	基礎クラス	募集中
金曜	応用クラス	今期休講
備考	2月28日現在	

▲groups（この値はthead等を指定しないと効果がありません。図はp.238のサンプルソースを元にしたもの）

テーブル

SOURCE

```
<table border="3" rules="rows">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
<br>
<table border="8" rules="cols">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

▲Netscapeは対応していません

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	×	×	×	×

参照
枠線の幅を指定したい……………………………p.200
外枠の表示方法を指定したい…………………p.224

15 TABLE DEPRECATED

テーブルの背景色を指定したい

```
<table bgcolor="★"> ~ </table>
<tr bgcolor="★"> ~ </tr>
<th bgcolor="★"> ~ </th>
<td bgcolor="★"> ~ </td>
```

★……色指定値（#rrggbb）、または色名（colorname）

bgcolor 属性でテーブルの背景色を設定します。

<table> タグに指定した場合はそのテーブル全体に、<tr> タグに指定した場合はその横１列（行）に色がつきます。

<th> タグと <td> タグに指定した場合には、そのセルにのみ色がつきます。

SOURCE

```
<table border="2" cellpadding="15" bgcolor="#9966ff">
  <tr><th bgcolor="#33ccff">曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr bgcolor="#ff9999"><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了
  </td></tr>
  <tr><td bgcolor="#c0c0c0">水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中
  </td></tr>
</table>
```

テーブル

CSSによるテーブルの背景色の指定

スタイルシートを利用して同様にテーブルの背景色を指定する場合は、一例として次のようになります。スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書『スタイルシート辞典 第3版』を参照してください。

```
<style type="text/css">
table         {background-color:#9966ff}
th#sample1 {background-color:#33ccff}
tr#sample2  {background-color:ff9999}
td#sample3  {background-color:#c0c0c0}
</style>
<body>
<table border="2" cellpadding="15">
  <tr><th id="sample1">曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr id="sample2"><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td id="sample3">水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
</table>
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

参照
背景色を指定したい……p.74
枠線の色を指定したい……p.222
テーブルの背景画像を指定したい……p.230
セルの背景画像を指定したい……p.232

16 TABLE HTML4.01 規格外

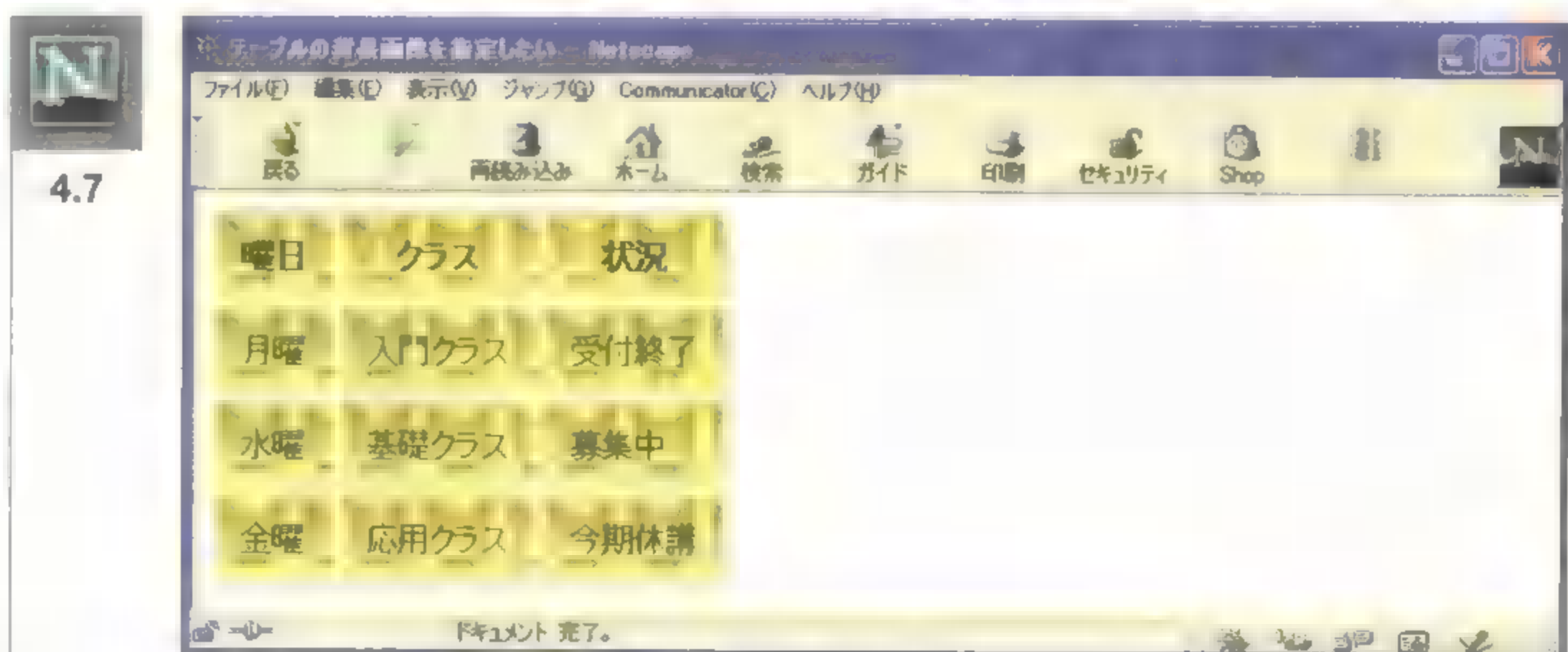
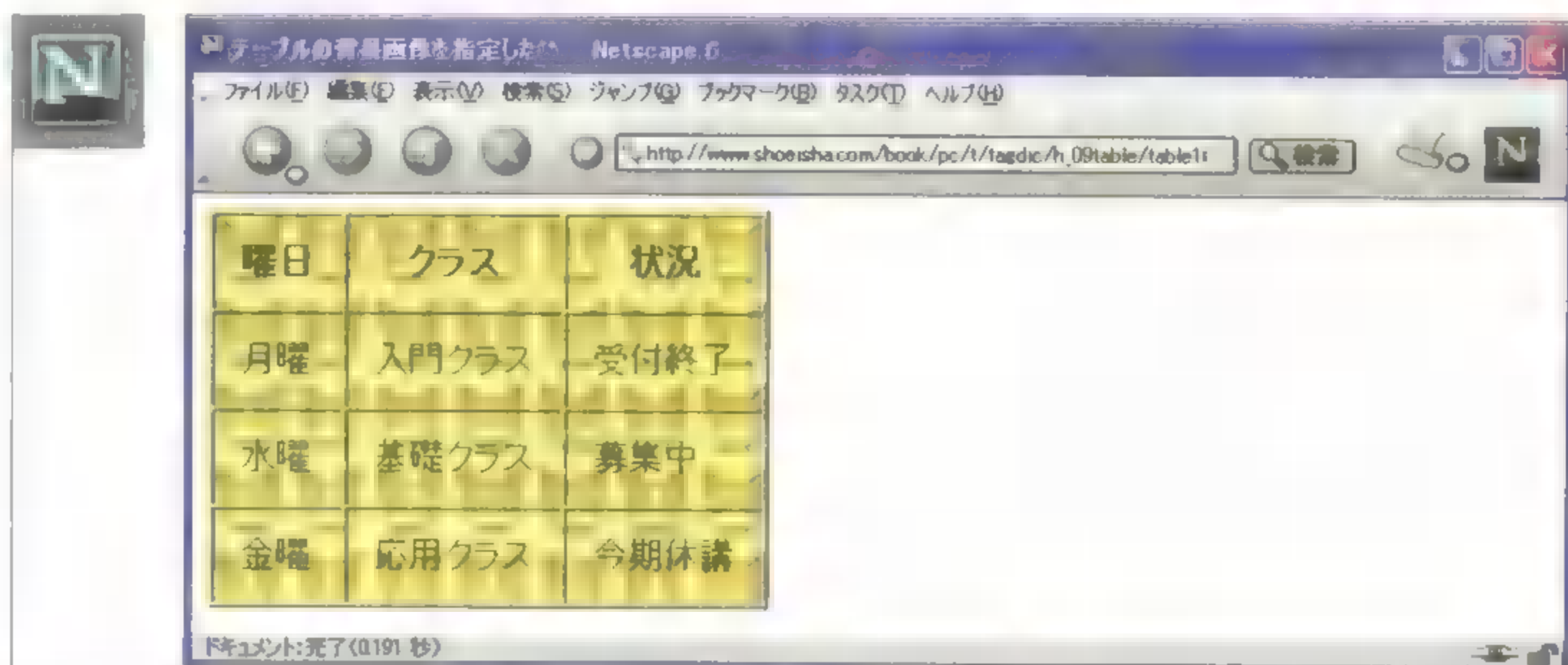
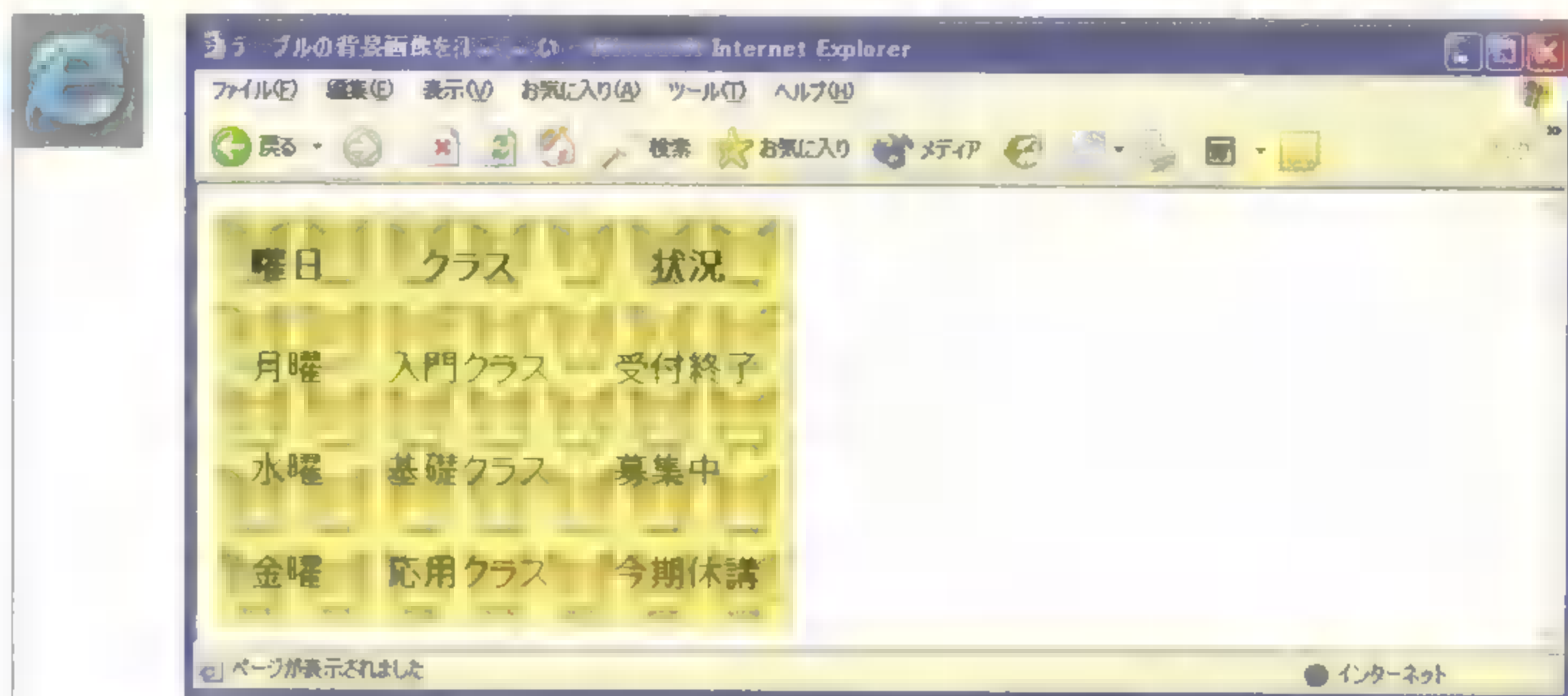
テーブルの背景画像を指定したい

<table background="★"> ～ </table>

★……画像ファイル名（URL）

background属性でテーブルの背景に画像を貼り込むことができますが、ブラウザによって表示方法が異なるので注意が必要です。

Internet ExplorerとNetscape 6ではテーブル全体を基準に画像を貼り込むため、セルの大きさや数には関係なく画像が表示され、画像が小さければタイル状に並べられます。これに対し、Netscape Navigator 4.7以前では各セルごとに画像を表示します。

HTML4.01では定義されていない属性です。

SOURCE

```
<table border="1" cellpadding="15" background="cat.gif">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
</table>
```

テーブル

セルの背景画像を指定したい

```
<tr background="★"> ～ </tr>
<th background="★"> ～ </th>
<td background="★"> ～ </td>
```

★……画像ファイル名（URL）

<tr>、<th>、<td>タグのbackground属性でセルの背景に画像を貼り込むことができます。

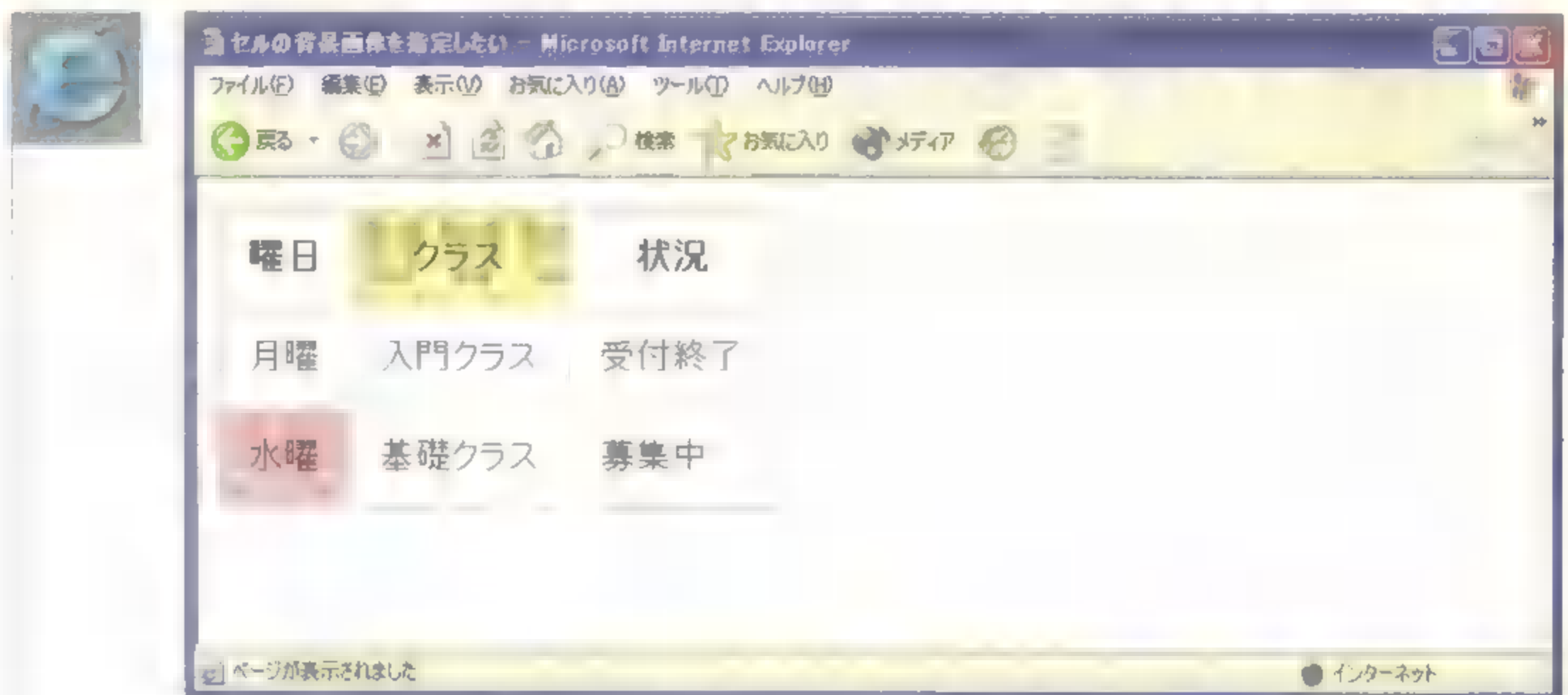
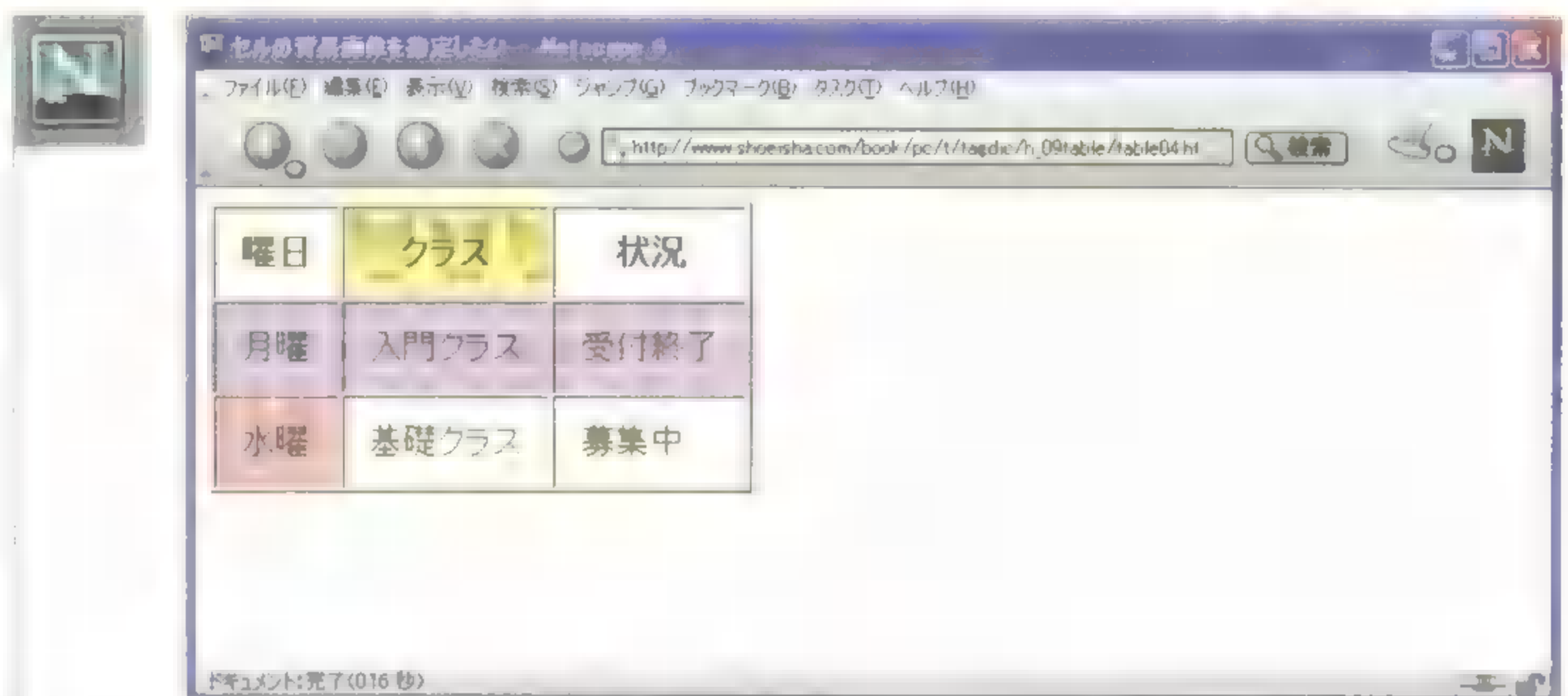
<tr>タグに対して指定すると、その横一列の背景として表示されます。ただしこの指定はNetscape（Navigator）のみの対応で、Internet Explorerでは対応していません。

<th>タグ、<td>タグに対して指定すると、指定したセルの背景として表示されます。

いずれの場合にも、画像の大きさがセルよりも小さいときは、繰り返してタイル状に並べられます。

HTML4.01では定義されていない属性です。

SOURCE

```
<table border="1" cellpadding="15">
  <tr><th>曜日</th><th background="cat.gif">クラス</th><th>状況
  </th></tr>
  <tr background="bg2.gif"><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了
  </td></tr>
  <tr><td background="bg3.gif">水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中
  </td></tr>
</table>
```

▲Internet Explorerは<tr>タグのbackground属性には対応していません

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	[illegible]	NN4	[illegible]
tr background	×	×	×	×	○	○	○
th background	○	○	○	○	○	○	○
td background	○	○	○	○	○	○	○

背景に画像を設定したい……p.76
テーブルの背景色を指定したい……p.228
テーブルの背景画[illegible]を指定したい……p.230

18 TABLE DEPRECATED

セル内の改行を禁止したい

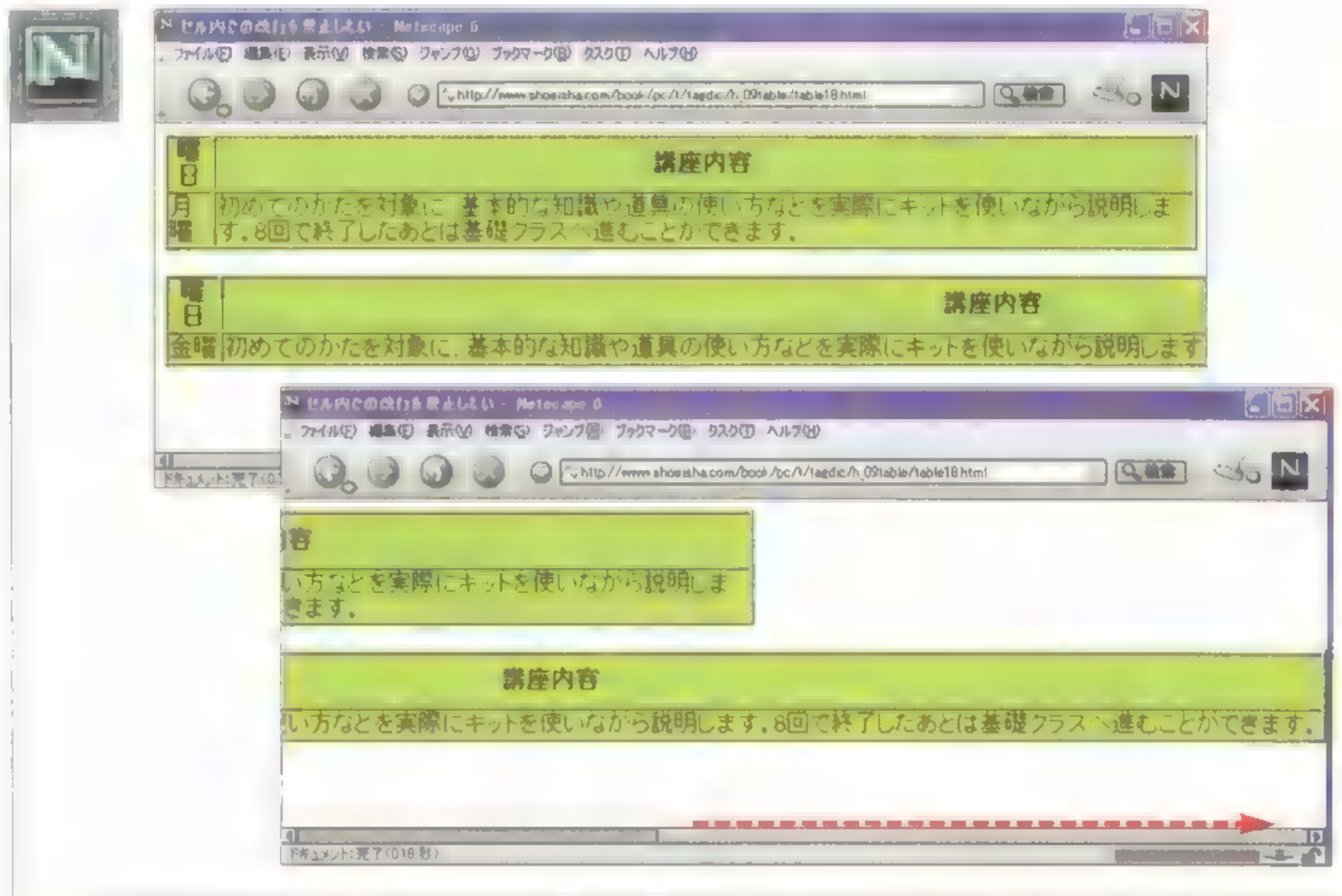
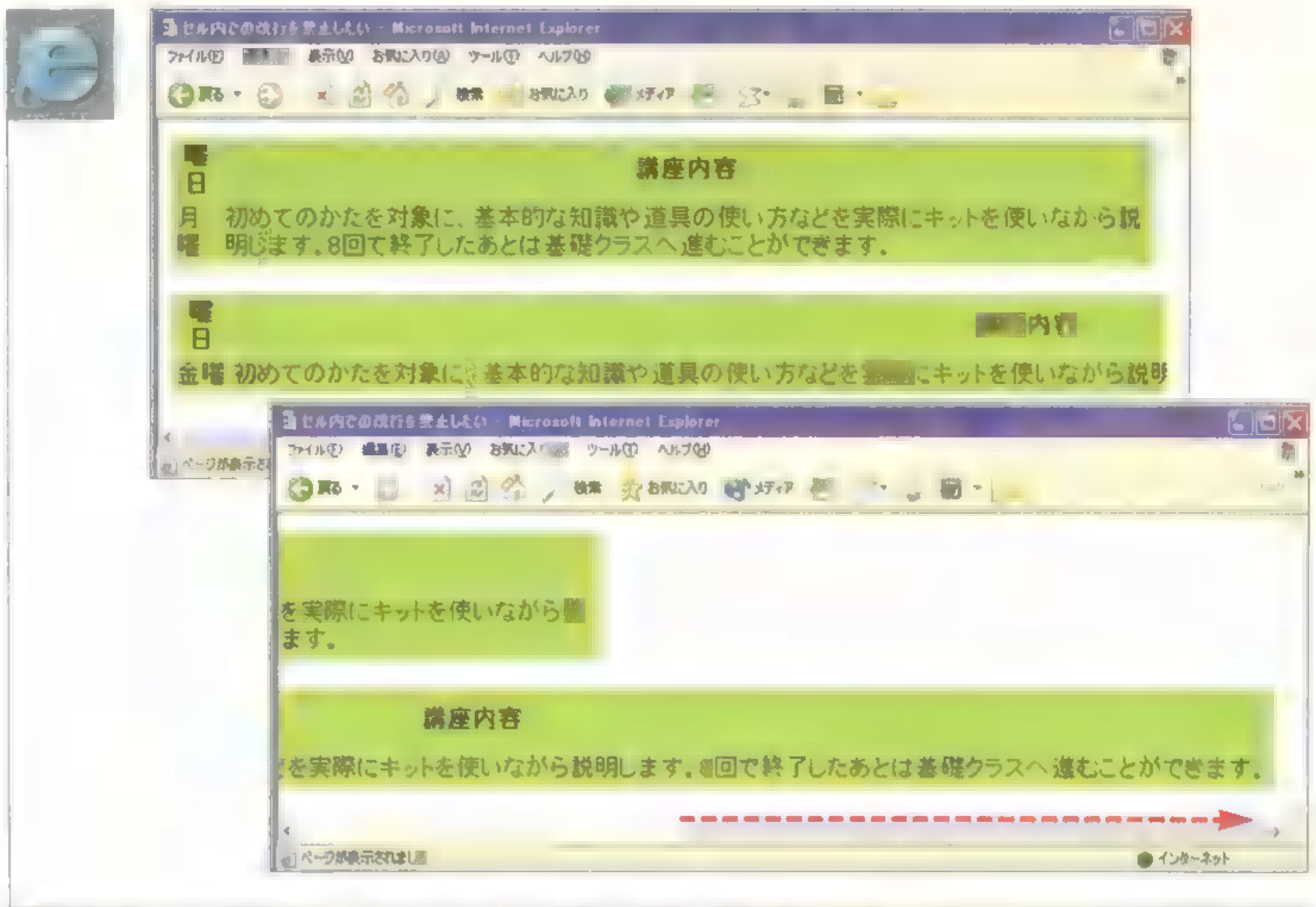
<th nowrap> ～ </th>
<td nowrap> ～ </td>

通常、テーブルの大きさはブラウザが自動的に調節し、データを各セルにうまくおさめようとするため、セル内のテキストが長い場合には自動的に改行されてしまいます。

このような自動改行をしないよう設定するには<th>、<td>タグにnowrap属性を指定します。nowrap属性を指定したときと指定しないときの違いを、下の例で比べてみてください。

SOURCE

```
<table border="1" bgcolor="#99ff99">
  <tr><th>曜日</th><th>講座内容</th></tr>
  <tr>
  <td>月曜</td>
  <td>初めてのかたを対象に、基本的な知識や道具の使い方などを実際にキットを使いながら説明します。8回で終了したあとは基礎クラスへ進むことができます。</td>
  </tr>
</table>
<br>
<table border="1" bgcolor="#99ff99">
  <tr><th>曜日</th><th>講座内容</th></tr>
  <tr>
  <td nowrap>金曜</td>
  <td nowrap>初めてのかたを対象に、基本的な知識や道具の使い方などを実際にキットを使いながら説明します。8回で終了したあとは基礎クラスへ進むことができます。</td>
  </tr>
</table>
```

テーブル

IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
○	○	○	○	○	○	○

改行させないで表示させたい……………………p.44

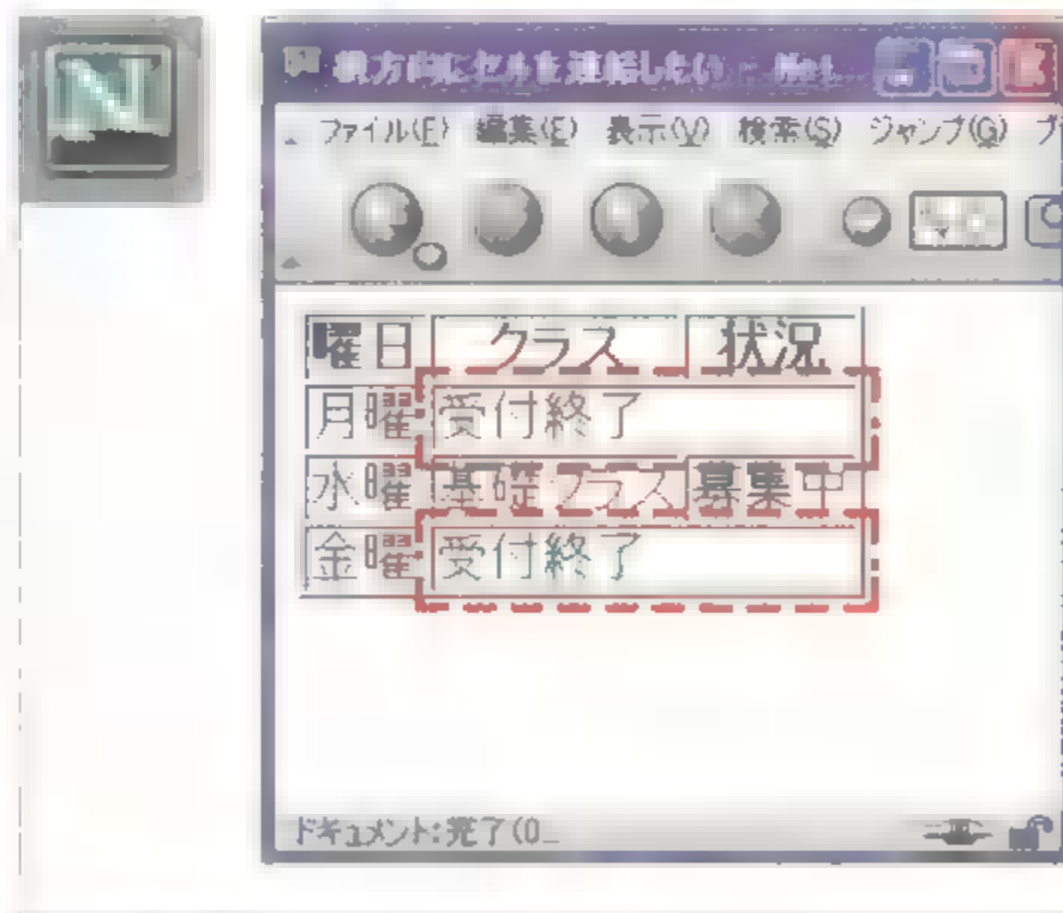
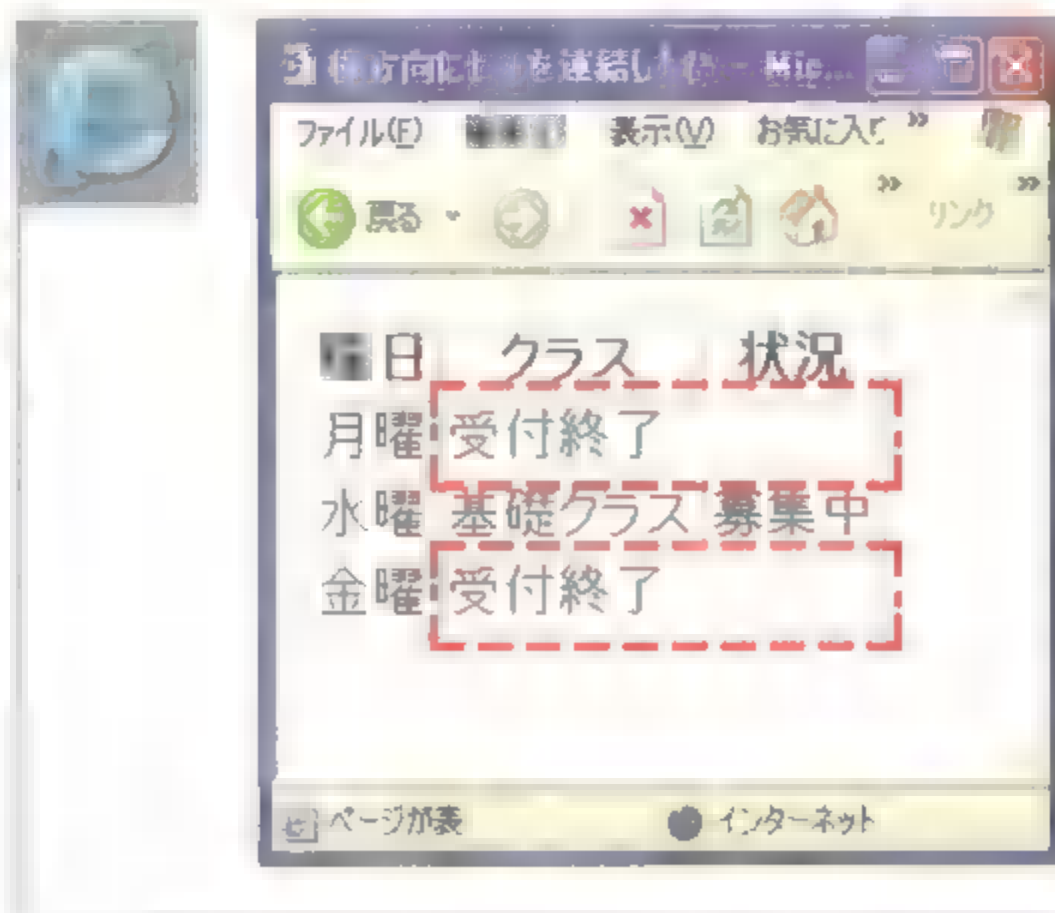
テーブル

19 TABLE

縦方向にセルを連結したい

```
<th rowspan="★"> ～ </th>
<td rowspan="★"> ～ </td>
```

★……連結するセル数

<th>、<td> タグに rowspan 属性を指定すると、そのセルから指定された数の下方向のセルを連結して、ひとつのセルにすることができます。

SOURCE

```
<table border="1">
  <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td rowspan="3">募集中</td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td></tr>
</table>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	[illegible]	NN4.7	N6
	○	○	○	○	○	○	○

横方向にセルを連結したい……………………p.237

テーブル

21 TABLE

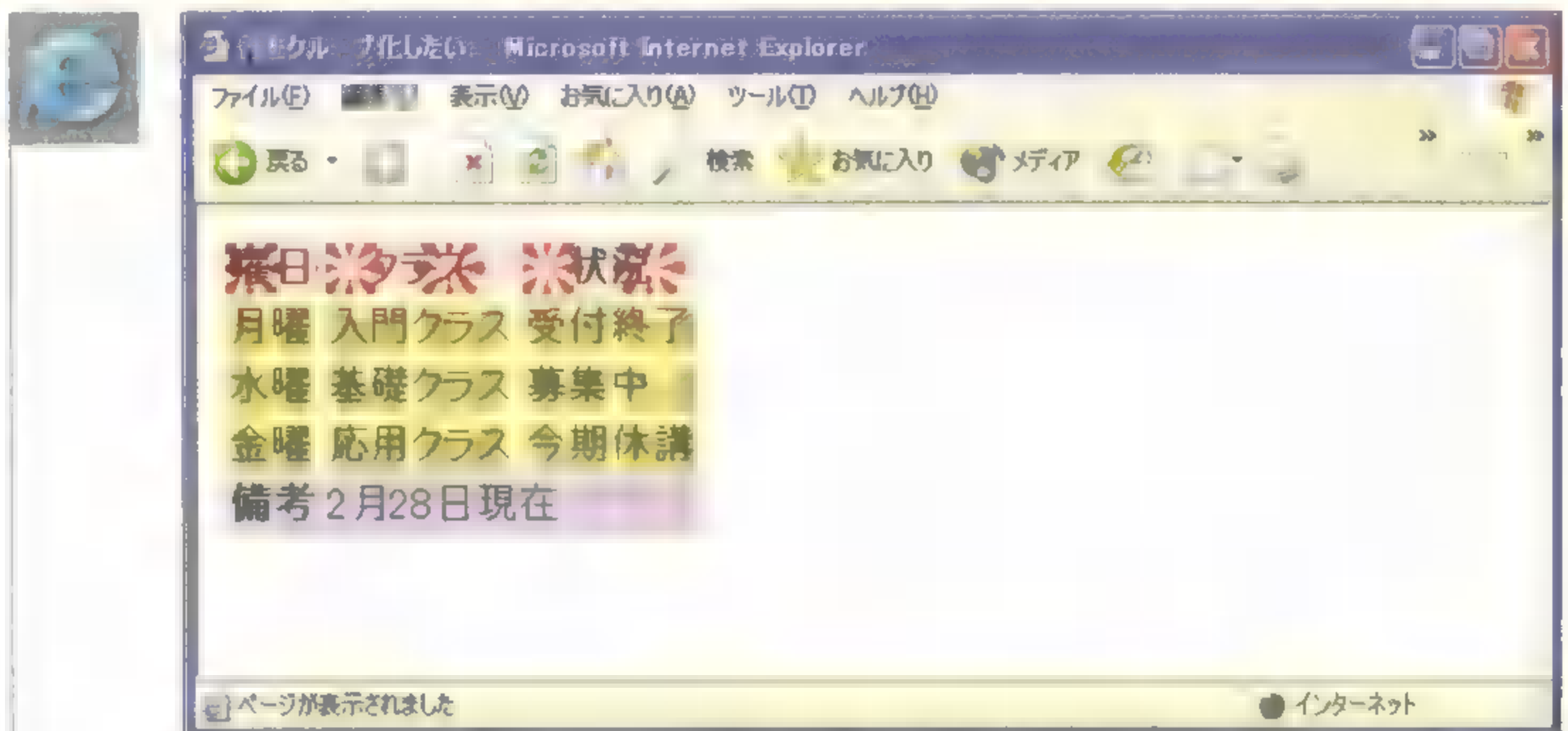
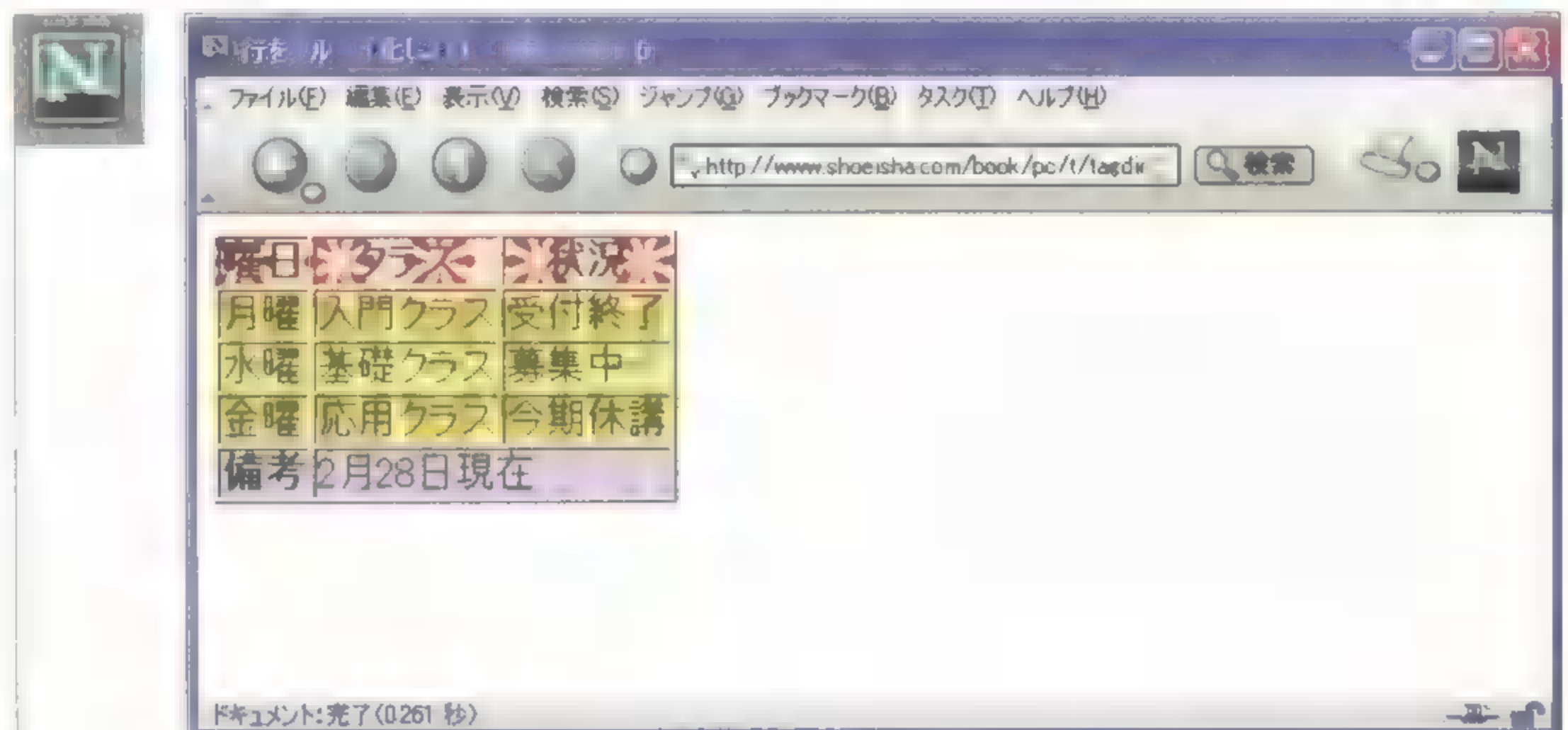
行をグループ化したい

<thead> ～ </thead>　テーブルのヘッダ
<tfoot> ～ </tfoot>　テーブルのフッタ部分
<tbody> ～ </tbody>　テーブルの本体部分

テーブルの横方向の並び（行）をヘッダ、フッタ、本体という３つの論理的な構造に分け、それぞれをまとめてグループ化します。

このようにグループ化することで、現在はそのような機能を持つブラウザはありませんが、ヘッダとフッタ部分を固定したまま本体部分だけをスクロールしたり、長いテーブルを印刷する場合、各ページにヘッダとフッタをつけることなどが可能になります。<tbody>部分は１つに限らず複数配置できますが、いずれの場合にも必ず<thead><tfoot><tbody>の順番で記述してください。これは本体部分がすべて表示される前に、フッタを表示できるようにするためです。

SOURCE

```
<table border="1">
  <thead style="background-image:url('bg1.gif')">
    <tr><th>曜日</th><th>クラス</th><th>状況</th></tr>
  </thead>
  <tfoot style="background-image:url('bg2.gif')">
    <tr><th>備考</th><td colspan="2">2月28日現在</td></tr>
  </tfoot>
  <tbody style="background-image:url('cat.gif')">
    <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>受付終了</td></tr>
    <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>募集中</td></tr>
    <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>今期休講</td></tr>
  </tbody>
</table>
```

列をグループ化したい

<colgroup ★ > ～ </colgroup>

★ ••••••span="グループ化する列数"（デフォルトは 1）
width="列幅"（ピクセル、%、*）
align="left"、"center"、"right"
valign="top"、"middle"、"bottom"、"baseline"

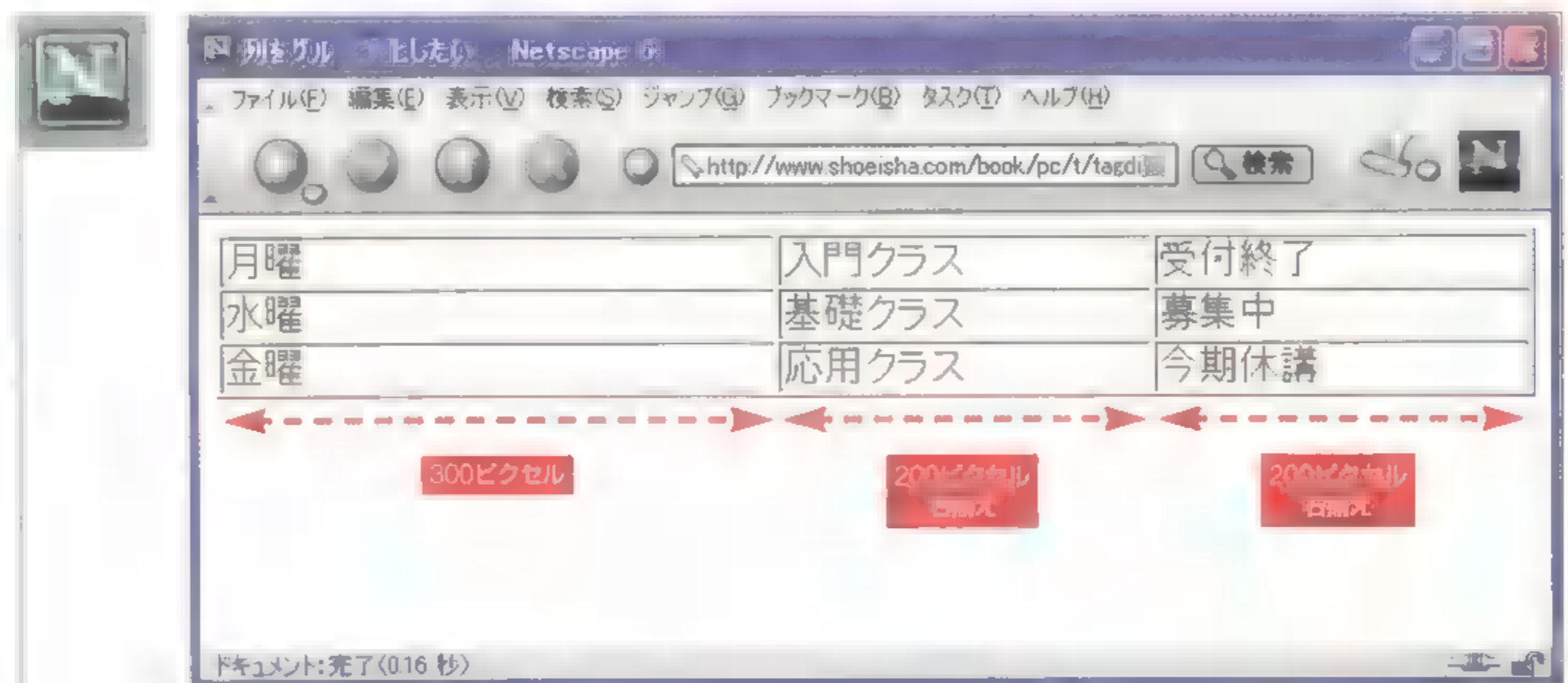
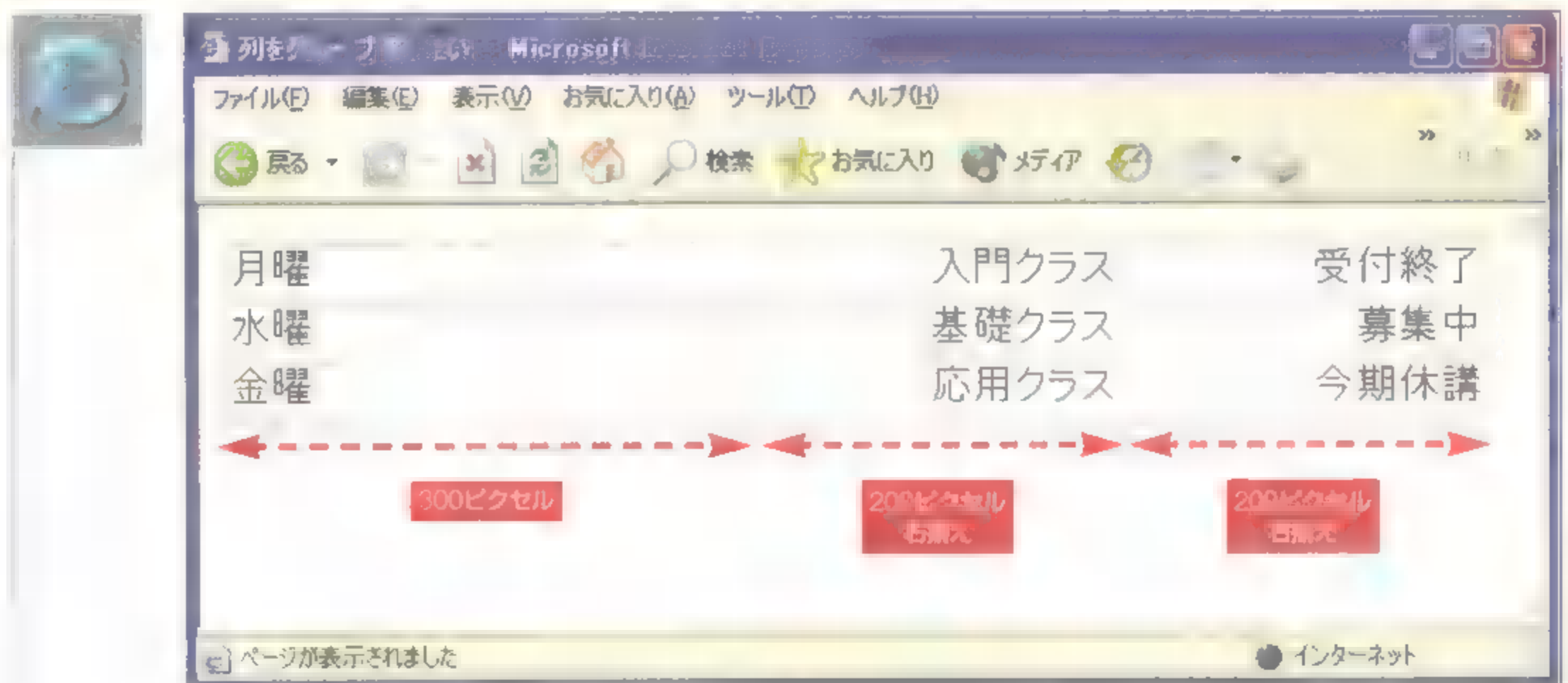
縦列の構造的なグループ化を行います。

span 属性でグループ化する縦列の数を、width 属性で列の幅を指定します。また、align、valign 属性でグループ内のデータが表示される位置を指定します。終了タグ </colgroup> は省略が可能です。

このようにグループ化することで、複数の縦列に対してまとめてスタイルシートを適用したり、行揃えや色の変更といった HTML の属性を指定できるようになります。

ただし、span、width の各属性が <col> タグ（次項参照）に指定されている場合は、そちらが優先されます。

SOURCE

```
<table border="1">
  <colgroup width="300"></colgroup>
  <colgroup span="2" width="200" align="right"></colgroup>
    <tr><td> 月曜 </td><td> 入門クラス </td><td> 受付終了 </td></tr>
    <tr><td> 水曜 </td><td> 基礎クラス </td><td> 募集中 </td></tr>
    <tr><td> 金曜 </td><td> 応用クラス </td><td> 今期休講 </td></tr>
</table>
```

▲Netscapeではalign属性が無視されるなど完全には対応していません

IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	×	×	△

※Macintosh版Internet Explorer 5はwidth属性が無視されるなど、完全には対応していません

参照
セル内のテキストの位置を指定したい…………p.216
行をグループ化したい…………p.238
列にまとめて[illegible]を設定したい…………p.242

テーブル

23 TABLE

列にまとめて属性を設定したい

<col ★ >

★……span="グループ化する列数"（デフォルトは1）
width="列幅"（ピクセル、%、*）
align="left"、"center"、"right"
valign="top"、"middle"、"bottom"、"baseline"

複数の縦列に対して、まとめて属性を設定したいときに使用します。

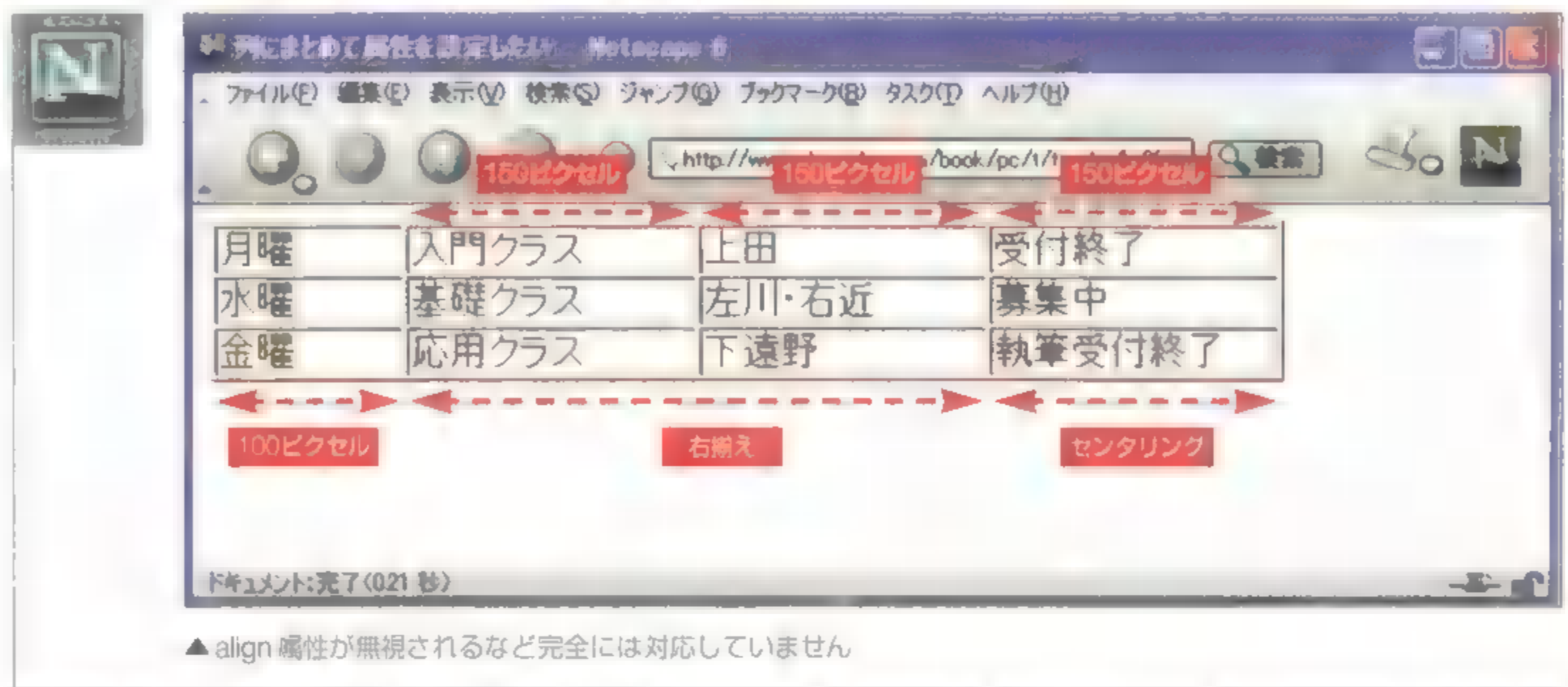
<colgroup>タグのように列をグループ化する働きは持ちません。

ここで指定したspan、widthの各属性は<colgroup>タグ（前項参照）に指定した場合よりも優先されます。

SOURCE

```
<table border="1">
<colgroup>
  <col width="100">
</colgroup>
<colgroup span="3" width="150">
  <col span="2" align="right">
  <col algin="center">
</colgroup>
  <tr><td>月曜</td><td>入門クラス</td><td>上田</td><td>受付終了
  </td></tr>
  <tr><td>水曜</td><td>基礎クラス</td><td>左川・右近</td><td>募集中
  </td></tr>
  <tr><td>金曜</td><td>応用クラス</td><td>下遠野</td><td>執筆受付終了
  </td></tr>
</table>
```

テーブル

1 FRAME

フレームを作りたい

<frameset ★ > ~ </frameset>

★ ••••••rows="横割の指定"（ピクセル、%、*）
　　　cols="縦割の指定"（ピクセル、%、*）

フレーム機能を使用すると、ひとつのブラウザウィンドウをいくつかに区切って、それぞれに別の文書を表示させることができます。どのように分割するかは <frameset> タグと </frameset> タグに挟んで設定します。

通常のHTML文書は、<head> と <body> から構成されますが（p.20参照）、フレームの分割を設定する文書は <head> と <frameset> で構成されます。つまり、通常 <body> と </body> タグがあるべき部分に、代わりに <frameset> と </frameset> タグを配置することになります。<body> タグは使用できませんので注意してください。

rows属性とcols属性は分割のしかたを指定する属性です。

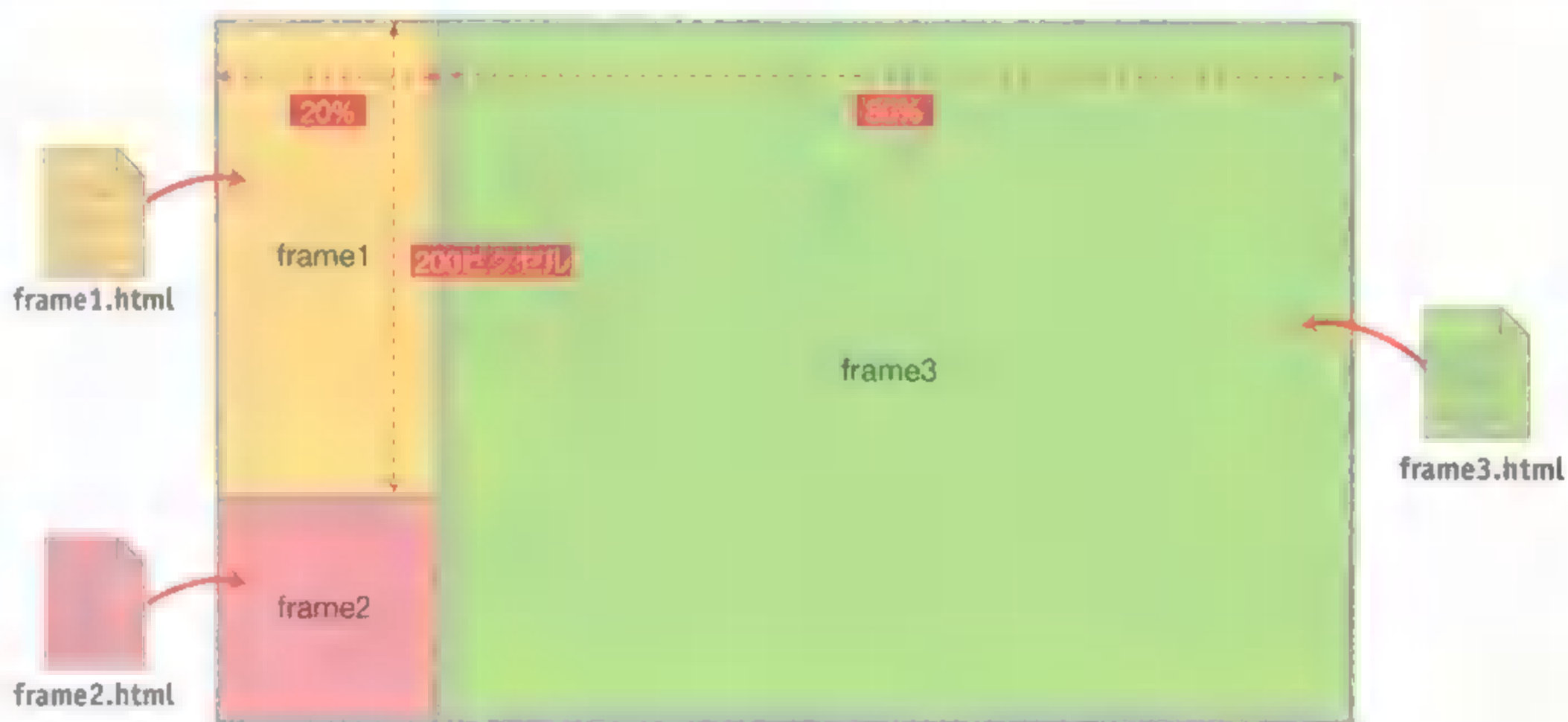
rows属性ではフレームを横に分割しそれぞれの高さを上から順に、cols属性ではフレームを縦に分割しそれぞれの幅を左から順に、「,」（カンマ）で区切って指定します。使用できる単位はピクセル、%、*（アスタリスク）です。

なお、さらに分割する場合には、<frameset> と </frameset> タグを入れ子にして指定します。

フレーム機能を使用する場合のDTD（p.16参照）は次のようになります。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
    "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
```

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>

<head>
<title> フレームを作りたい </title>
</head>

<frameset cols="20%, 80%">
  <frameset rows="200, *">
    <frame src="frame1.html">
    <frame src="frame2.html">
  </frameset>
  <frame src="frame3.html">
</frameset>

</html>
```

▲このフレームでは、フレームを定義するHTML（上のサンプルソース）、frame1.html～frame3.htmlの合計4つのHTMLファイルが必要です

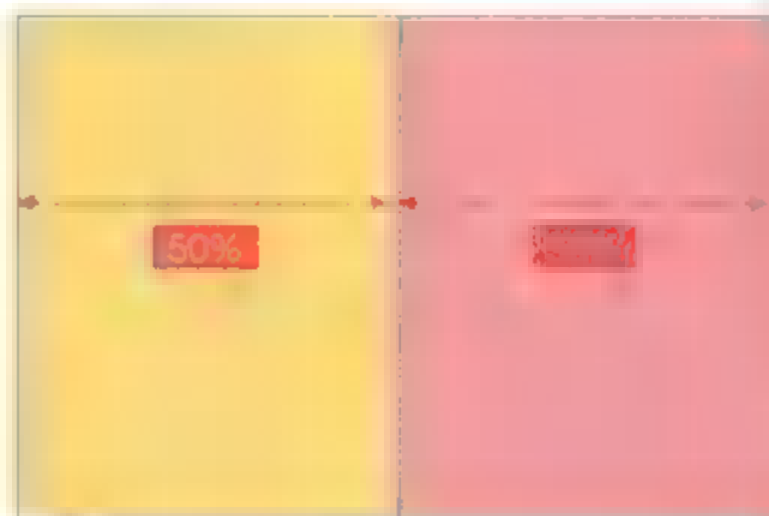
「*」を使った長さの割合の指定

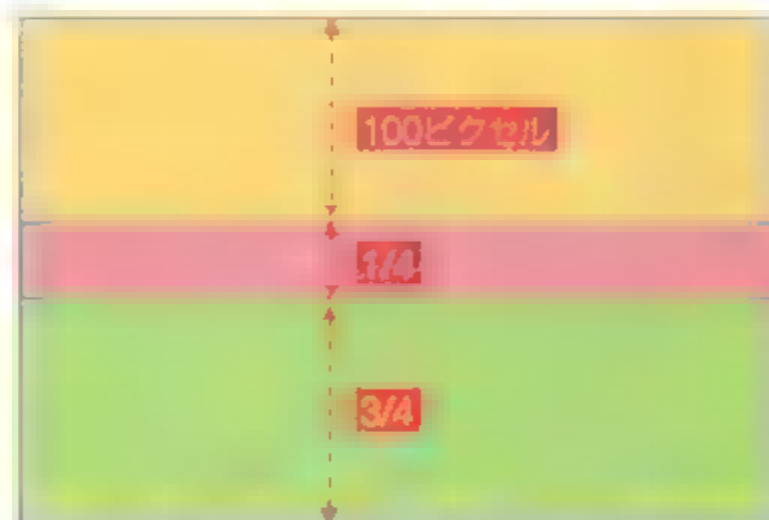
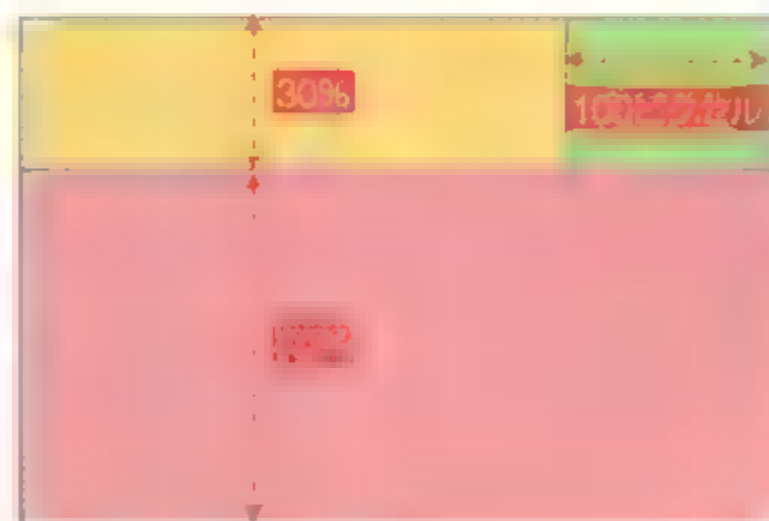
長さ（幅や高さなど）を指定する方法には、「ピクセル」や「パーセント（%）」のほかに「アスタリスク（*）」を利用する方法があります。これらが一度に指定された場合は、まず「ピクセル」と「%」で指定された分が確保され、その残りの分が「*」の前につけられた数字の割合で分配されます（単に「*」と指定されたものは「1*」であることを示しています）。たとえば、60ピクセルに対して「*,2*,3*」と指定した場合には、60ピクセルを分割（1+2+3）して、それぞれ10,20,30ピクセルということになります。

この方法は、<frameset>のrow、col属性や、<colgroup>、<col>のwidth属性（p.240～242参照）でも利用可能です。

```
<frameset cols="50%,50%">
  :
</frameset>
```

同じ幅のフレームを2つ作成する

```
<frameset rows="100,*,3*">
  :
</frameset>
```

横に3分割し、上から100ピクセル、残りの高さの1/4、3/4のフレームを作成する

```
<frameset rows="30%,70%">
  <frameset cols="*,100">
    :
  </frameset>
  :
</frameset>
```

横に2分割しそれぞれ30%、70%の高さのフレームを作成する。さらに上のフレームを縦に2分割し、そのうちの右側のフレームの幅は100ピクセルにする

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

HTMLのバージョンを指定する…………………p.16
フレームを表示しない環境に対処したい………p.266

FRAME

フレームに表示されるファイルを指定したい

<frame src="★">

★ ••••••ファイルの URL

フレームは、ウィンドウごとに表示するHTMLファイルを保存しておき、これをリンクを使って読み込むしくみになっています。<frame src="★"> でフレームに表示されるファイルを設定します。rows を使って分割した場合には上から下、cols を使って分割した場合には左から右とそれぞれ分割したウインドウに対応するよう、順番に記述してください。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">

<html>
<head>
<meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">
<title> フレームに表示されるファイルを指定したい </title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html">
  <frame src="contents.html">
</frameset>

</html>
```

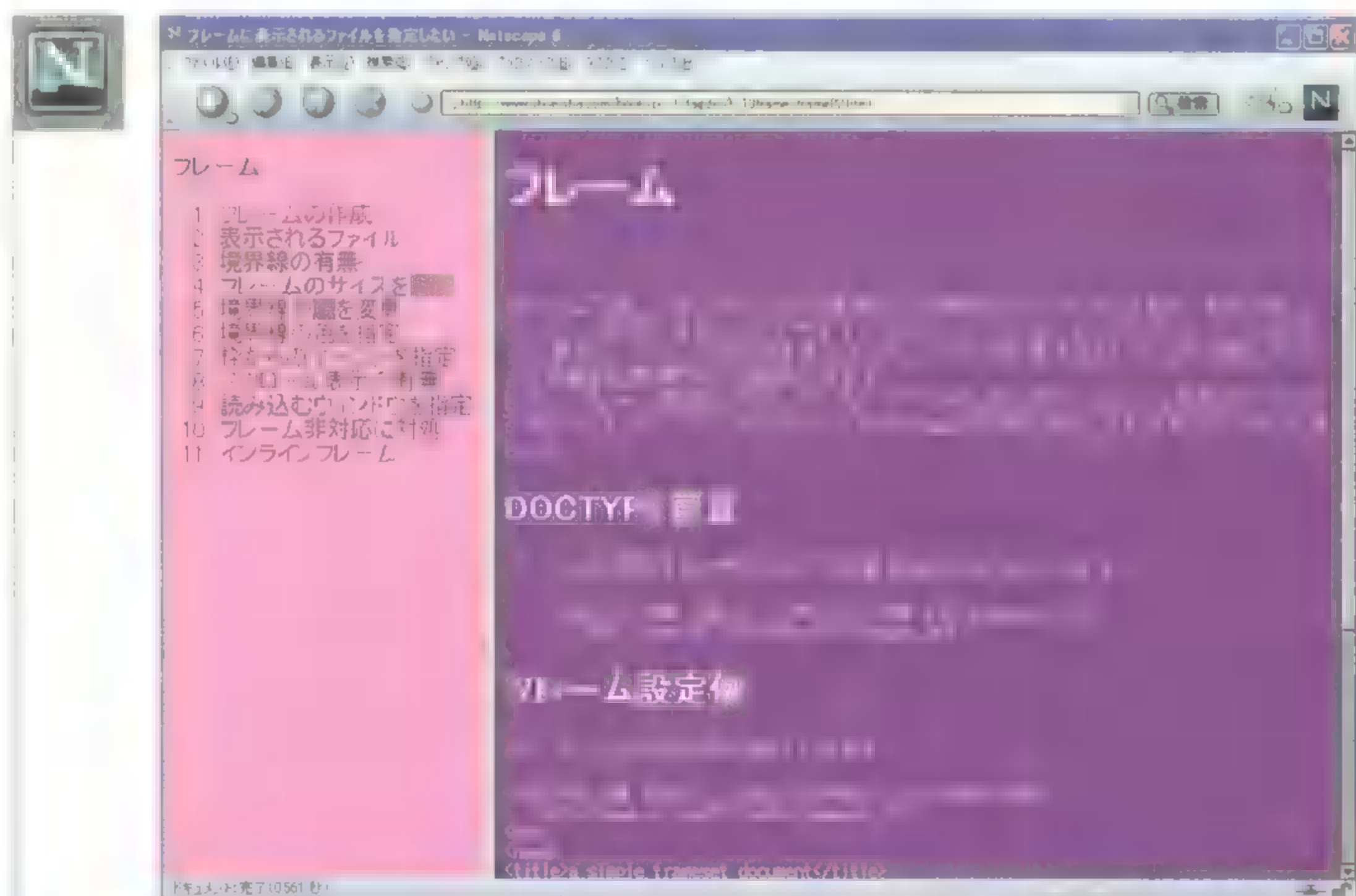
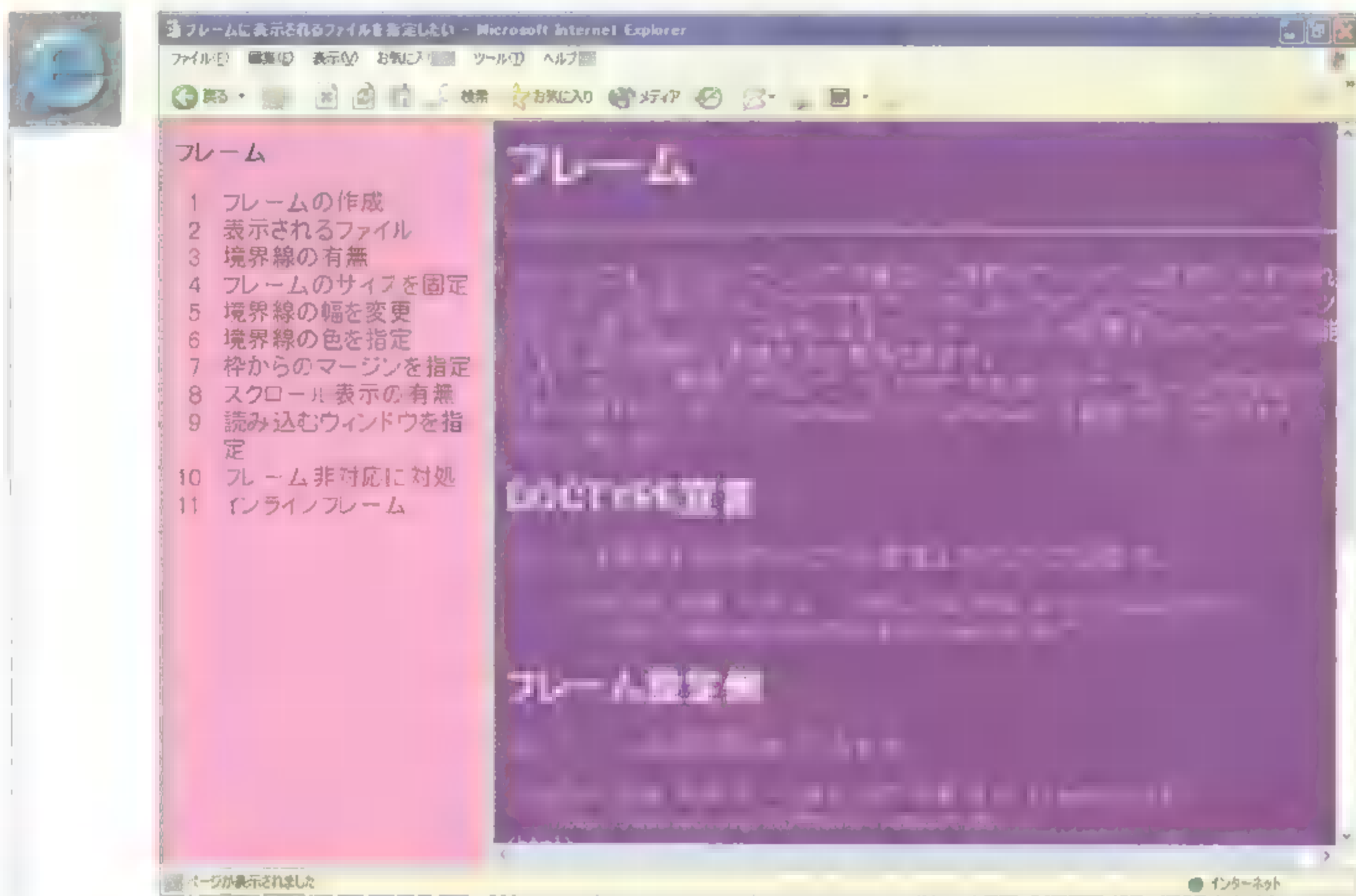
左のフレームに表示されるmenu.html

```
<body bgcolor="#ff99cc">
<p>
<b> フレーム </b>
</p>
<ol>
  <li> フレームの作成 </li>
  <li> 表示されるファイル </li>
  <li> 境界線の有無 </li>
  <li> フレームのサイズを固定 </li>
  <li> 境界線の幅を変更 </li>
  <li> 境界線の色を指定 </li>
  <li> 枠からのマージンを指定 </li>
  <li> スクロール表示の有無 </li>
  <li> 読み込むウィンドウを指定 </li>
  <li> フレーム非対応に対処 </li>
  <li> インラインフレーム </li>
</ol>
</body>
```

右のフレームに表示されるcontents.html

```
<body bgcolor="#990099" text="#ffffff">
<h1> フレーム </h1>
<hr>
<p>
フレームでは、ブラウザウィンドウを独立した複数のウィンドウに区切り、それぞれにコン
テンツを表示することができます。これによってメニューとメインのコンテンツを別々に表
示し、メニューはそのままでコンテンツのみを変更するということも可能になり、より効果
的な表現方法が期待できます。<br>
しかし、フレーム機能に対応していないブラウザもあるので、フレーム未対応ブラウザへ向
けたコンテンツ（&lt;noframes&gt;～&lt;/noframes&gt;）を設定することも忘れないよう
にしましょう。
</p>
……（後略）
```

フレーム

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	[illegible]	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

リンクを設定したい……………………………p.146
リンクを読み込むウィンドウを指定したい………p.262

3

FRAME　frameset への指定のみ HTML4.01 規格外

境界線の表示・非表示を指定したい

<frame src="★" frameborder="☆">
<frameset frameborder="☆"> ～ </frameset>

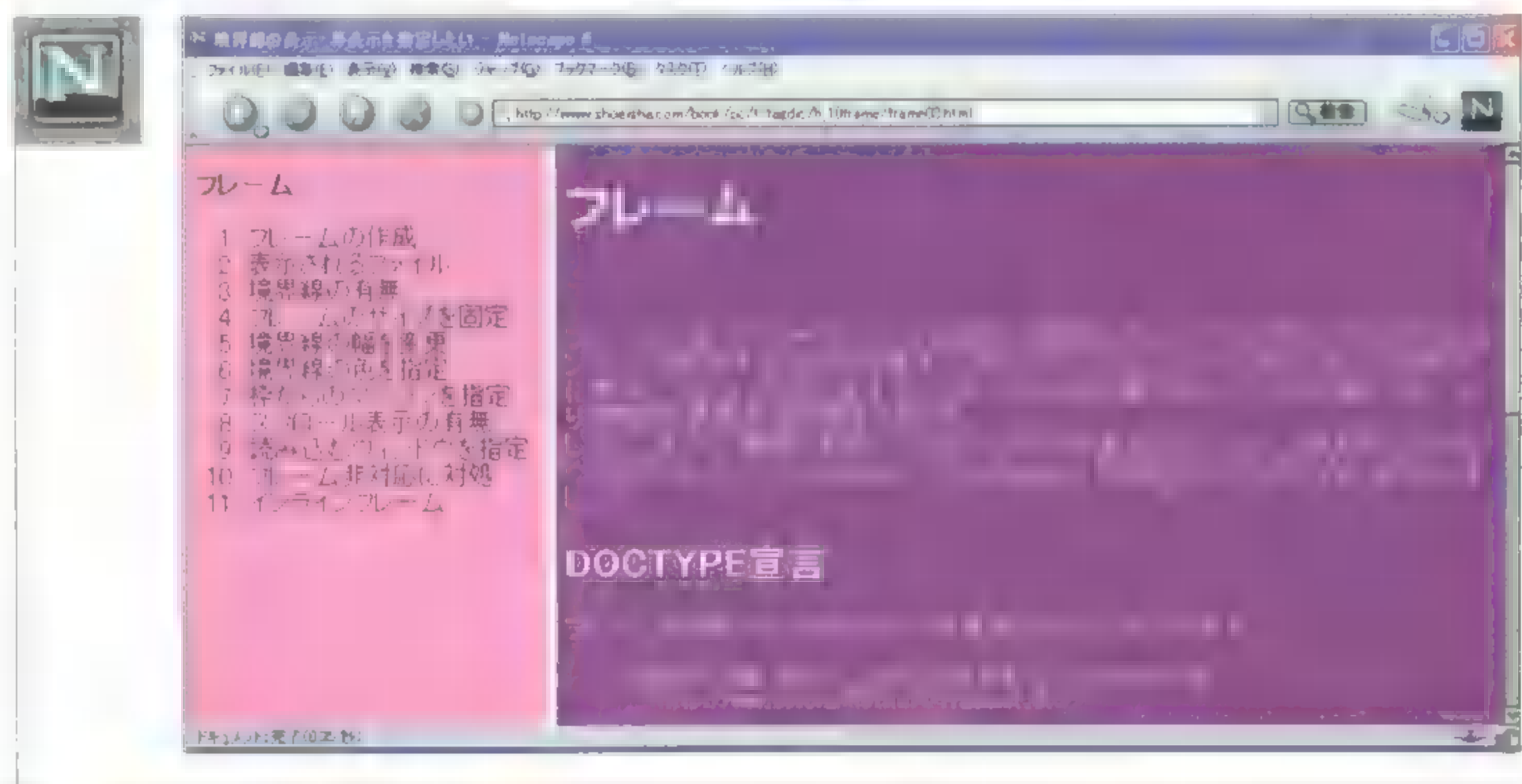
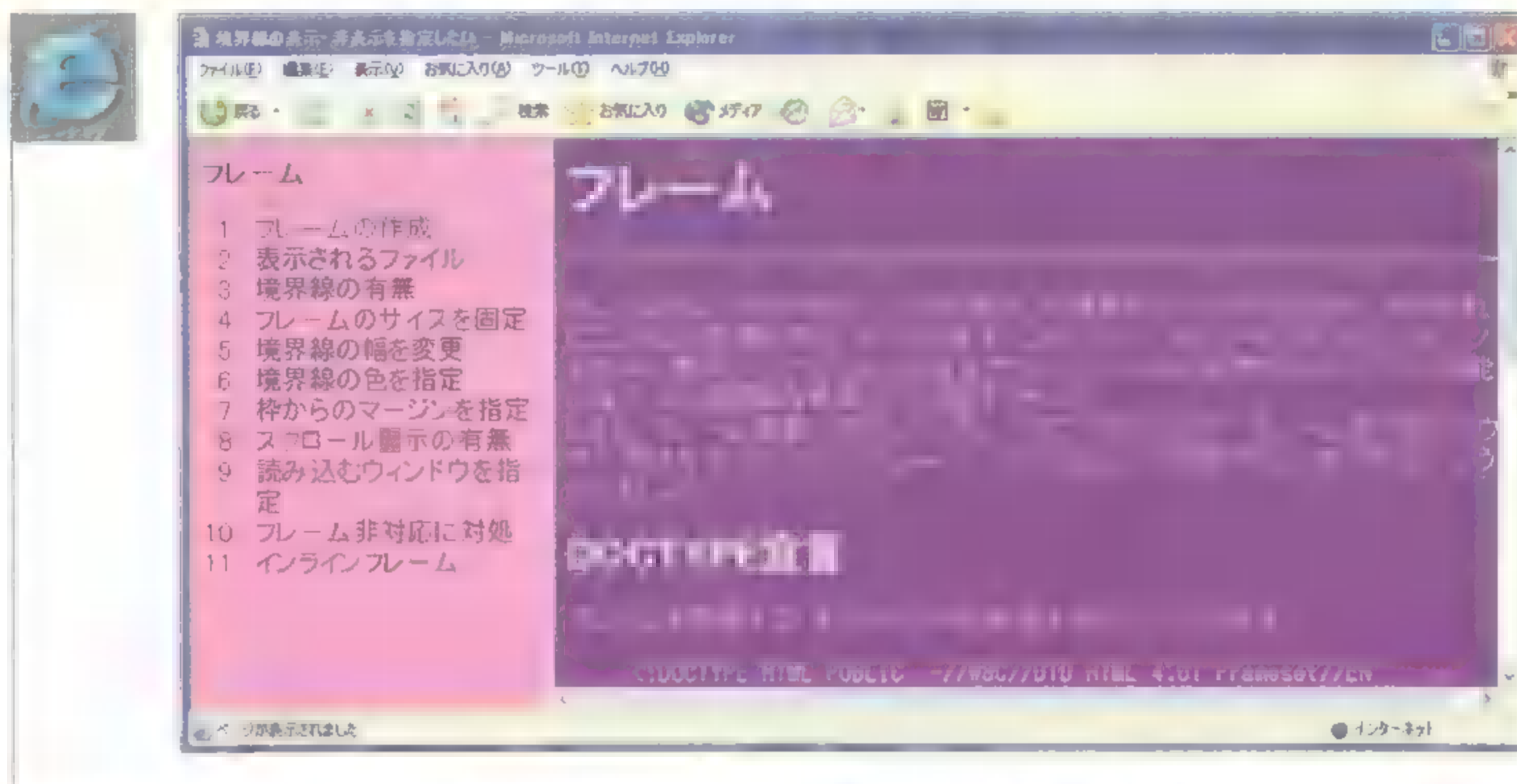
★ ••••••ファイルの URL
☆ ••••••1（表示、デフォルト）、0（非表示）

frameborder 属性でフレームとフレームを区切る境界線の表示／非表示を指定します。1 を指定すると境界線を表示し（デフォルト）、0 で境界線を表示しません。

一般的なブラウザでは <frameset> タグと <frame> タグのどちらにも指定できますが、HTML4.01 では <frame> タグにのみ定義されている属性です。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title> 境界線の有無を決める </title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html" frameborder="0">
  <frame src="contents.html" frameborder="0">
</frameset>

</html>
```

※ menu.html と contents.html のソースは p.248 を参照してください

境界線を完全に消すには

frameborder属性で境界線を非表示（frameborder="0"）にしても、サンプルのように境界部分は残ってしまいます。この部分を完全に消すには、<frameset>タグにframeborder属性を指定するほかに、Internet Explorerが独自に拡張したframespacing属性、およびNetscape Navigatorが独自に拡張したborder属性をそれぞれ指定する必要があります。

```
<frameset cols="280,*" frameborder="0" framespacing="0" border="0">
        :
</frameset>
```

ただし、これらの機能はHTML4.01では定義されていないだけでなく、フレームのサイズ変更ができなくなってしまうためユーザーが利用しづらいページになる可能性があることにも注意してください。

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6
	○	○	○	○	○	○	○

参照
境界線の幅を指定したい……………………p.254
境界線の色を指定したい……………………p.256

4 FRAME

フレームの境界線を固定したい

```
<frame src="★" noresize>
```

★……ファイルのURL

noresize属性はフレームとフレームを区切る境界線を固定し、ウィンドウのサイズを変更できないようにします。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>フレームの境界線を固定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html" noresize>
  <frame src="contents.html">
</frameset>

</html>
```

※menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

5 FRAME

境界線の幅を指定したい

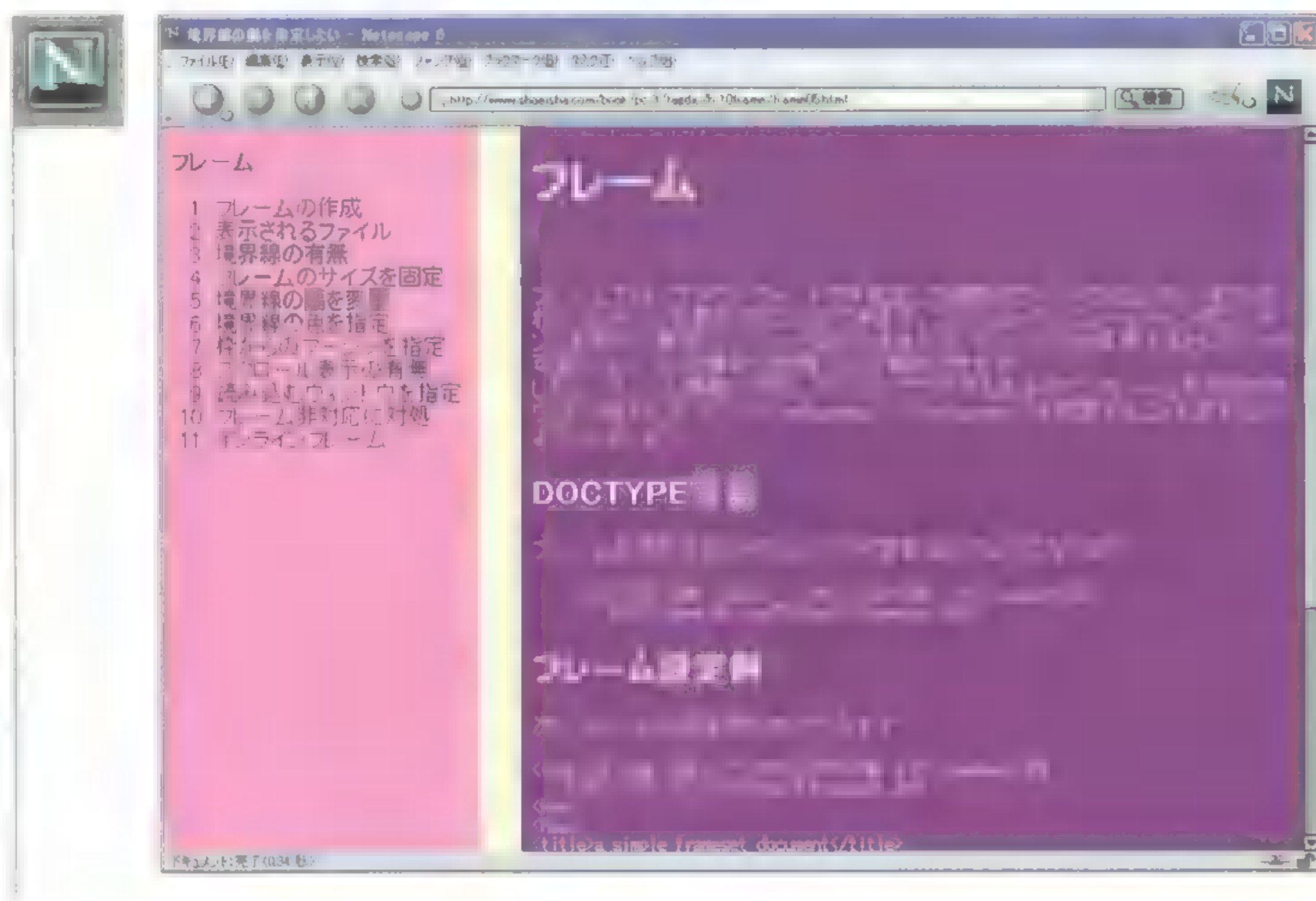
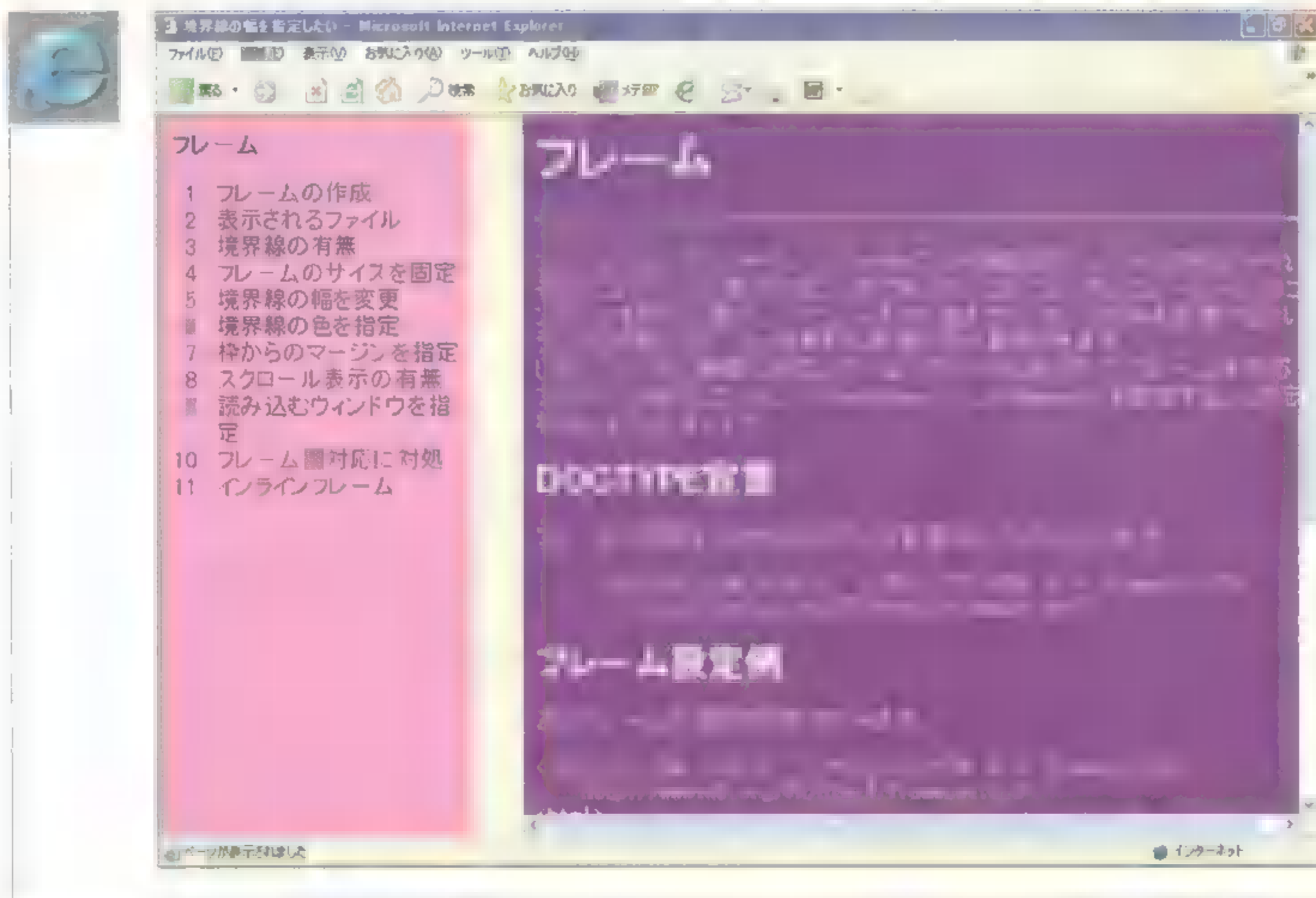
<frameset border="★"> ～ </frameset>

★……境界線の幅（ピクセル）

境界線の幅を変更するには、<frameset>タグにborder属性を指定します。
Netscape Navigatorで拡張された属性ですが、Internet Explorerでも利用できます。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>境界線の幅を指定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*" border="40">
  <frame src="menu.html">
  <frame src="contents.html">
</frameset>

</html>
```

※menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

境界線の色を指定したい

<frameset bordercolor="☆"> ～ </frameset>

<frame src="★" bordercolor="☆">

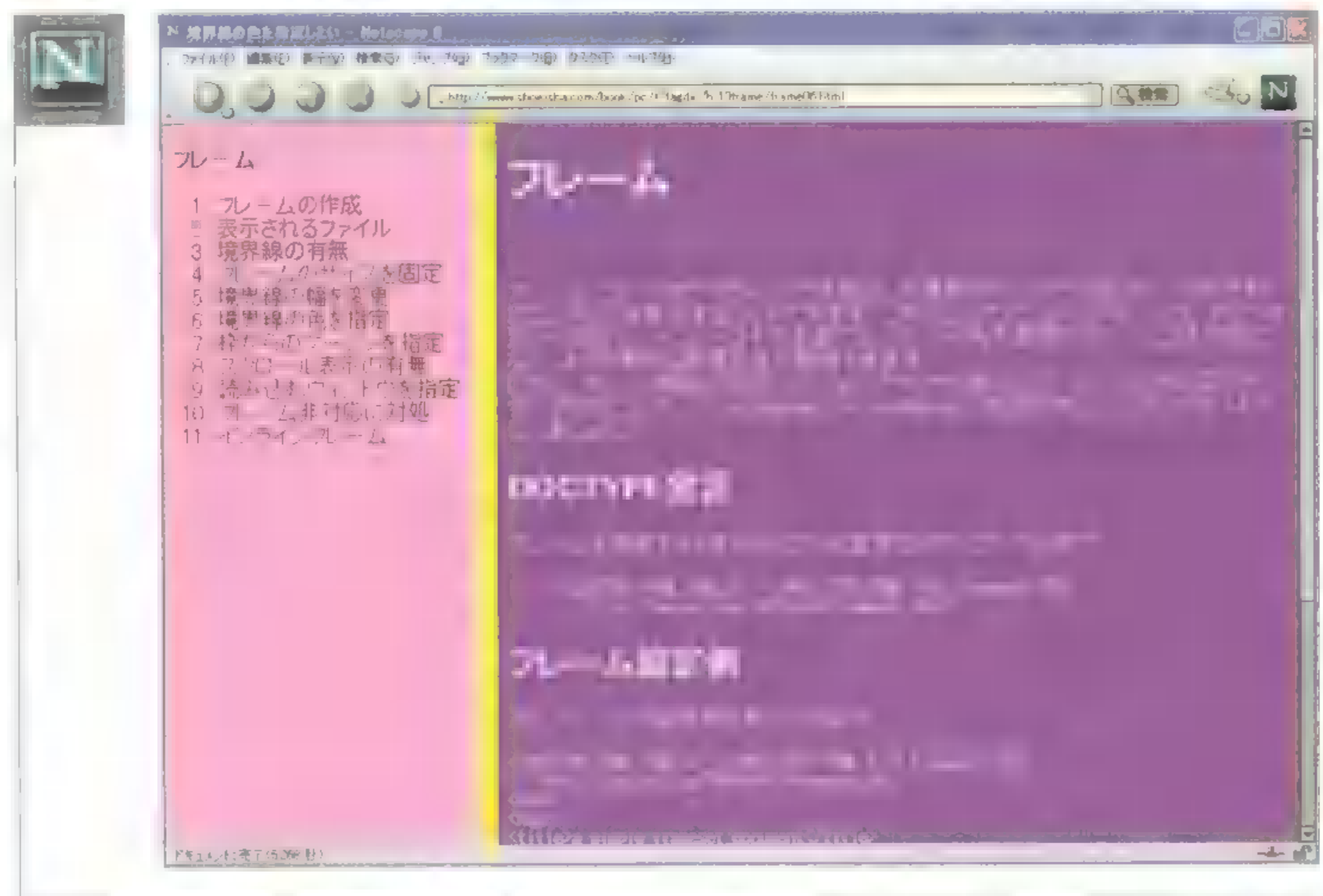
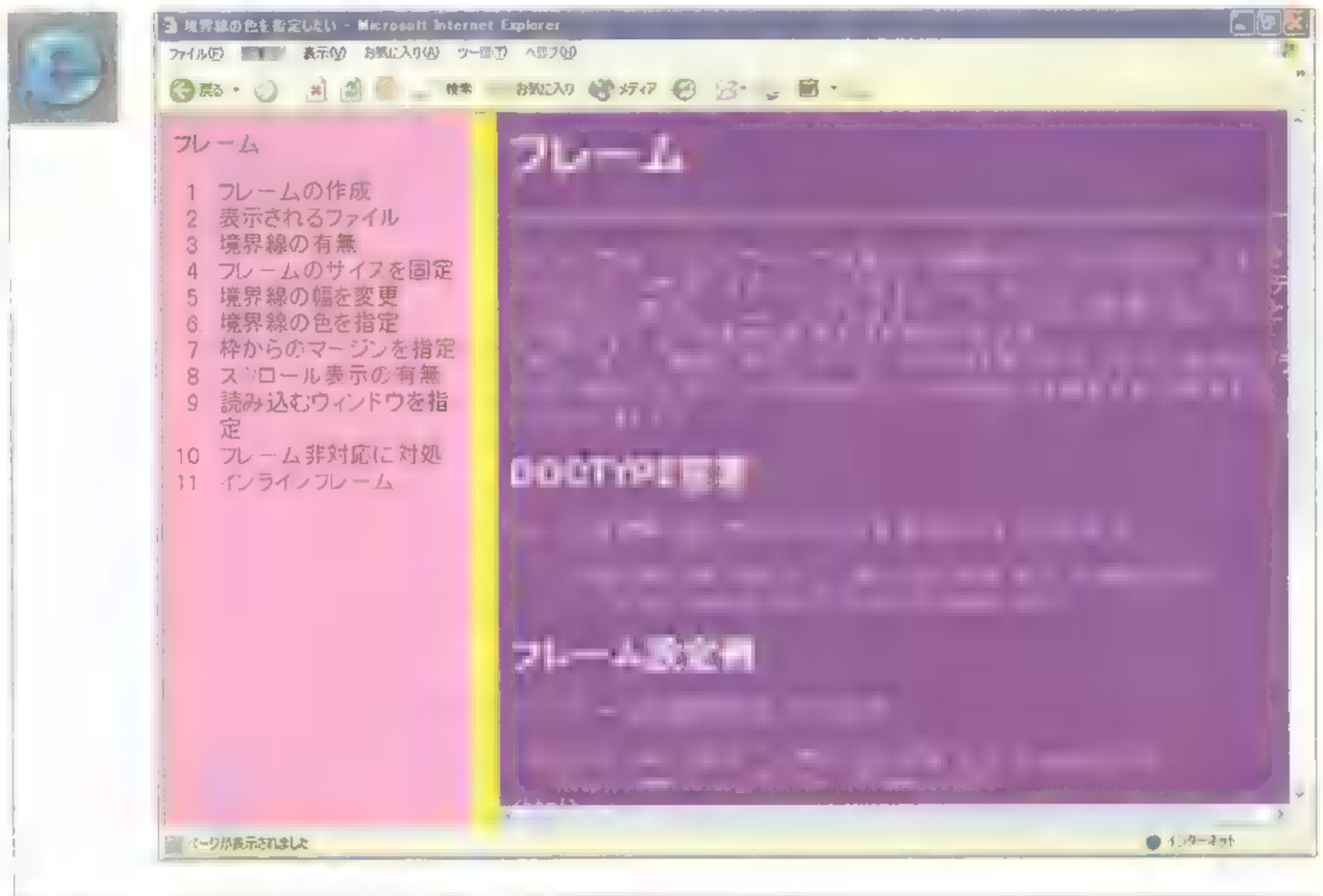
★……ファイルのURL
☆……色指定値（#rrggbb）または色名（colorname）

境界線の色を設定するには、bordercolor属性を使用します。これは<frameset>タグ、<frame>タグどちらにも指定できます。

ただし、HTML4.01では定義されていない属性です。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>境界線の色を指定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*" border="20" bordercolor="yellow">
  <frame src="menu.html">
  <frame src="contents.html">
</frameset>

</html>
```

※ menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

7 FRAME

フレーム枠からのマージンを指定したい

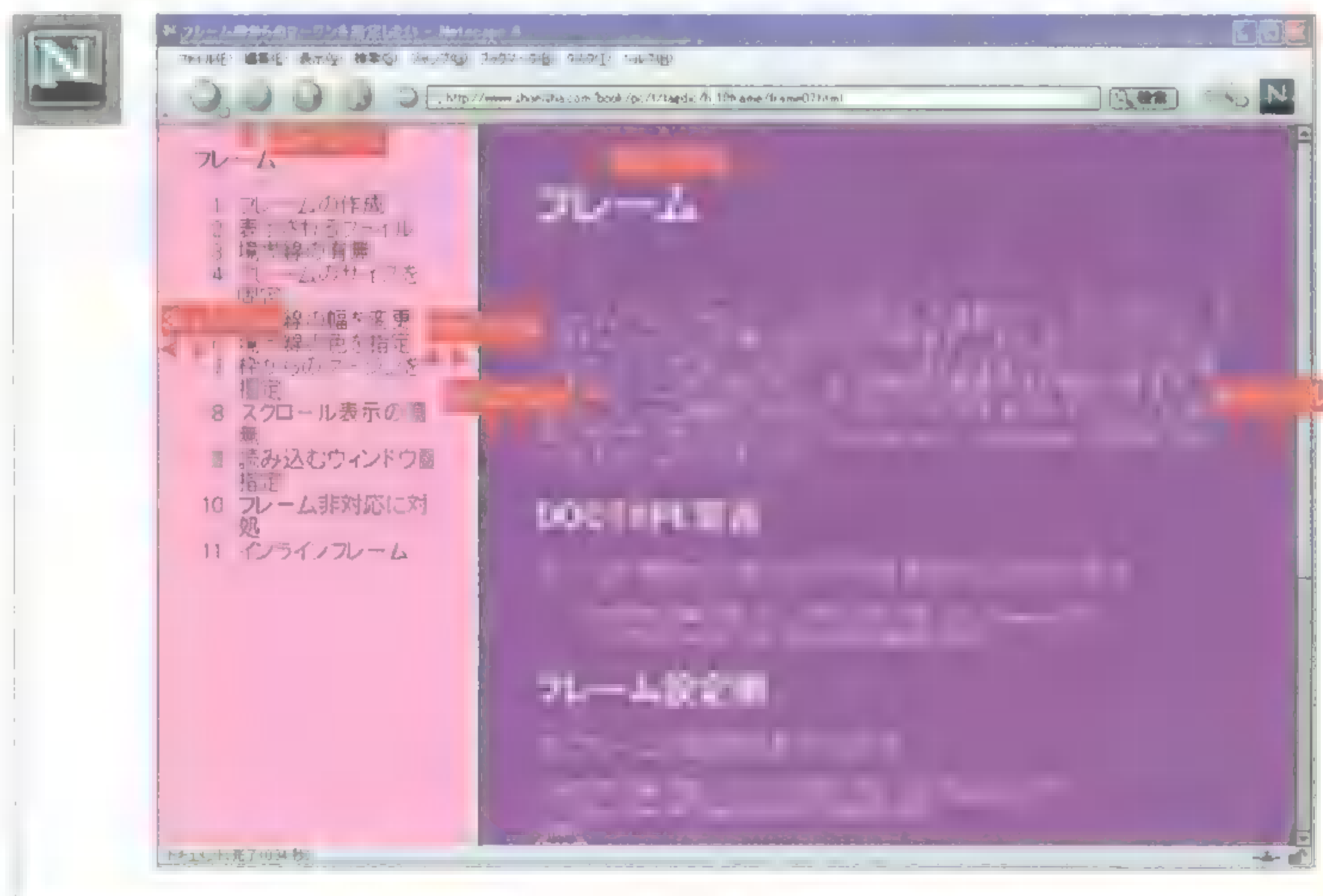
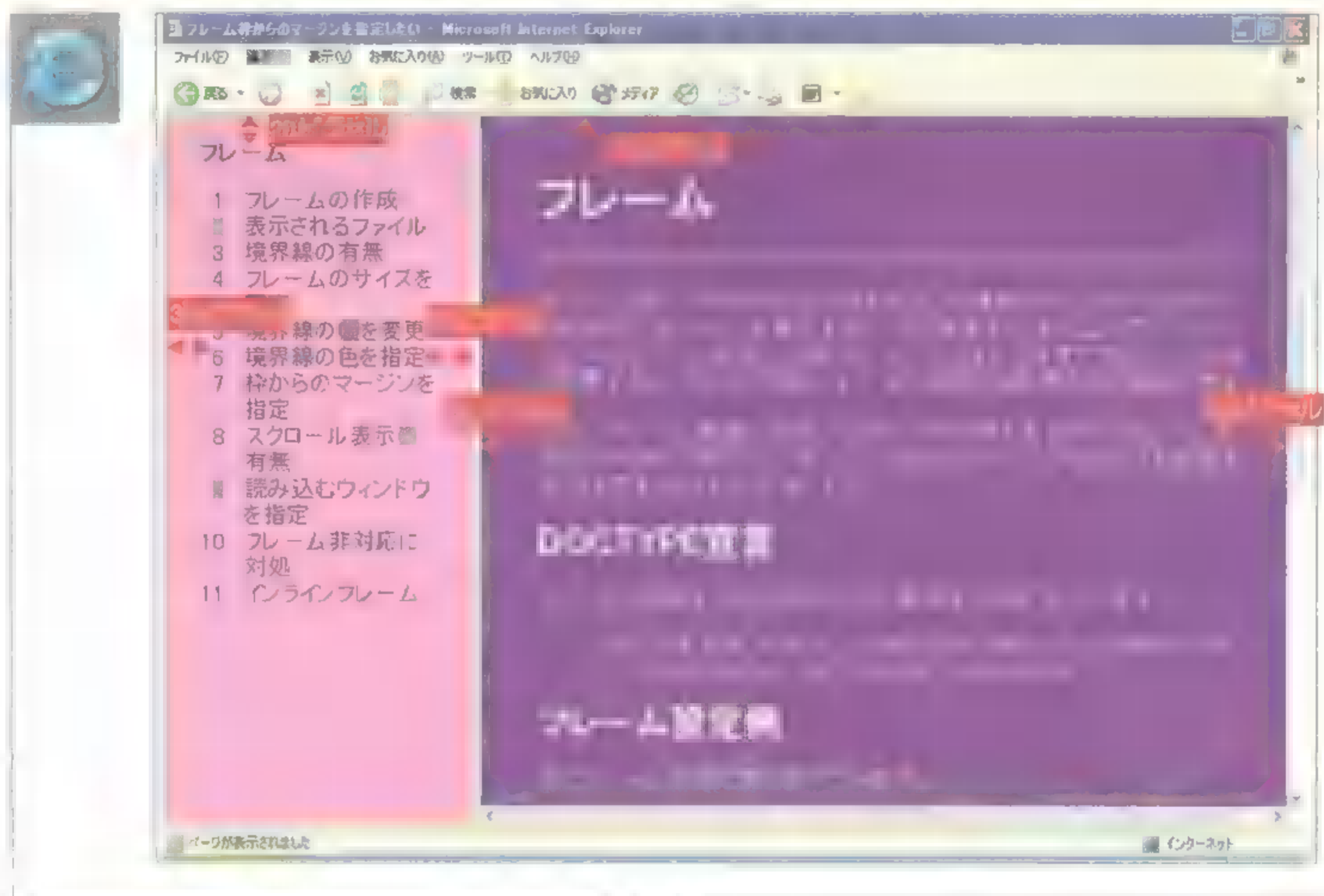
<frame src="★" marginwidth="☆" marginheight="▲">

★……ファイルのURL
☆……左右のマージン（ピクセル）
▲……上下のマージン（ピクセル）

フレーム枠（境界線）とコンテンツとの余白（マージン）を指定します。どちらもピクセルで指定します。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>フレーム枠からのマージンを指定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html" marginwidth="30" marginheight="20">
  <frame src="contents.html" marginwidth="50" marginheight="50">
</frameset>

</html>
```

※menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

ページのマージンを指定したい ……………………p.96

スクロールバーの表示・非表示を指定したい

<frame src="★" scrolling="☆">

★••••••ファイルの URL
☆••••••auto、yes、no

フレーム内でのスクロールバーの表示／非表示を設定します。

auto	コンテンツに応じてスクロールバーが必要かどうかをブラウザ側が判断し、必要なときには自動的にスクロールバーが表示される（デフォルト）
yes	スクロールバーを表示し、常にスクロール可能
no	スクロールバーは非表示、常にスクロール不可

ただし、Netscape 6ではyesを指定してもautoと同様に解釈されるようです。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>スクロールバーの表示非表示を設定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html" scrolling="yes">
  <frame src="contents.html" scrolling="no">
</frameset>


</html>
```

※menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

9 frame

リンクを読み込むウィンドウを指定したい

<frame src="★" name="☆">

 ～

★ ••••••ファイルの URL
☆ ••••••フレーム名または _blank、_self、_parent、_top
◆ ••••••読み込むファイルの URL

通常リンク先の内容はリンク元と同じウィンドウやフレーム内に読み込まれますが、読み込むフレームをtarget属性で指定しておけば、別のフレームに読み込ませることもできます。

このためには、まず各フレームに名前をつけておく必要があります。<frame>タグのname属性で、フレームに名前を設定してください。そして、この名前をリンクのtarget属性で指定すれば、そのフレームに内容が読み込まれます。

また、_blank、_self、_parent、_topという規定の値で読み込むフレームを決める方法もあります。その場合の読み込まれ方は次のとおりです。

_blank	名前が付けられていない新しいフレームに内容を表示
_self	リンク元と同じフレームに内容を表示
_parent	フレームを一段だけ解除し、親フレーム(<frameset>で各フレームを設定しているフレーム)に表示。親フレームがない場合には「_self」と同じ結果
_top	すでにあるフレームをすべて解除して、ウインドウいっぱいに表示。親フレームがない場合には「_self」と同じ結果

target属性の値と読み込むフレームの関係(の一例)は以下の通りです。

▲上記のような単純なフレームでは_parentと_topは同じ結果となりますが、フレームを入れ子(framesetの定義ファイルをフレームに読み込む)にした場合は結果が異なってきます

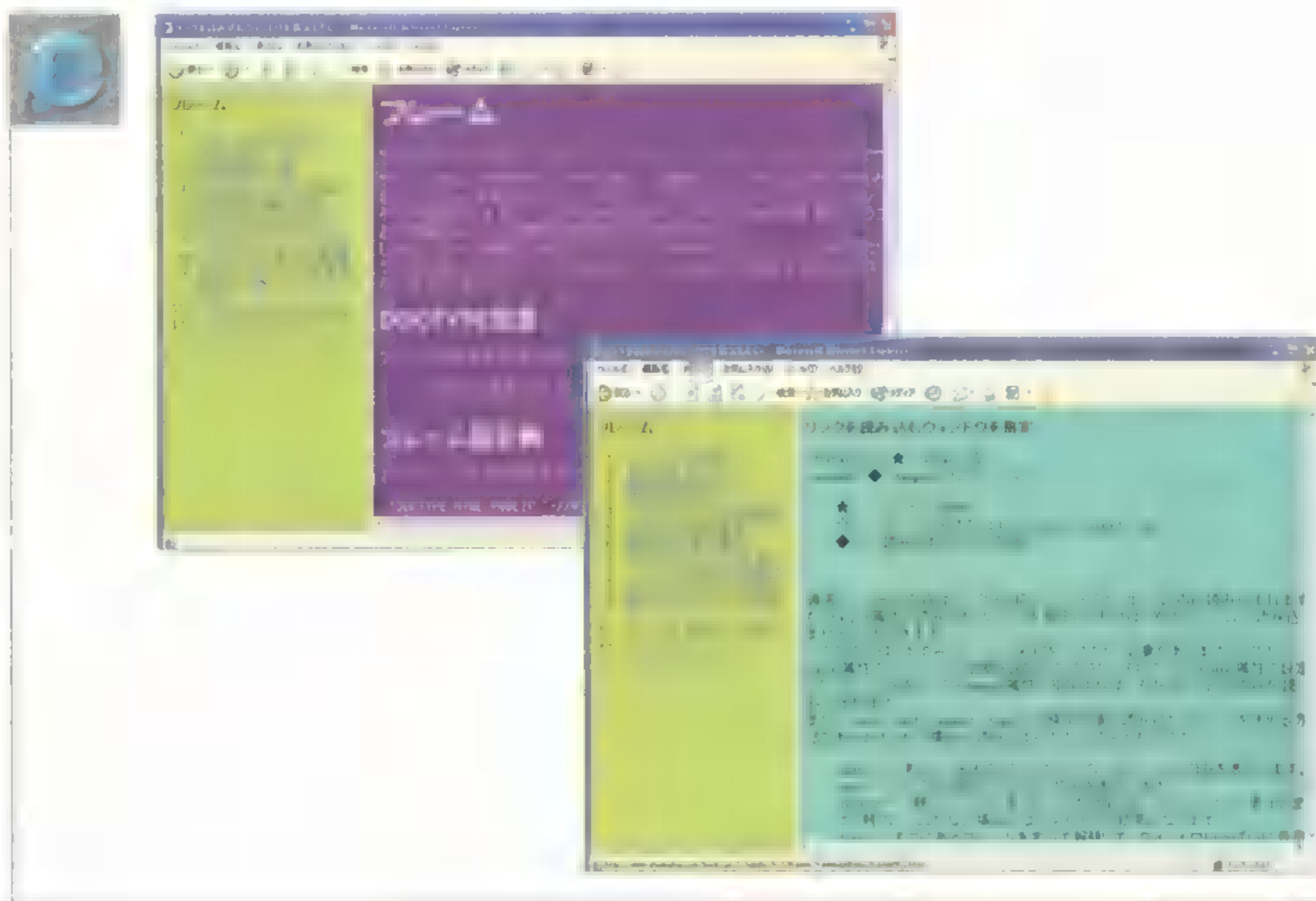
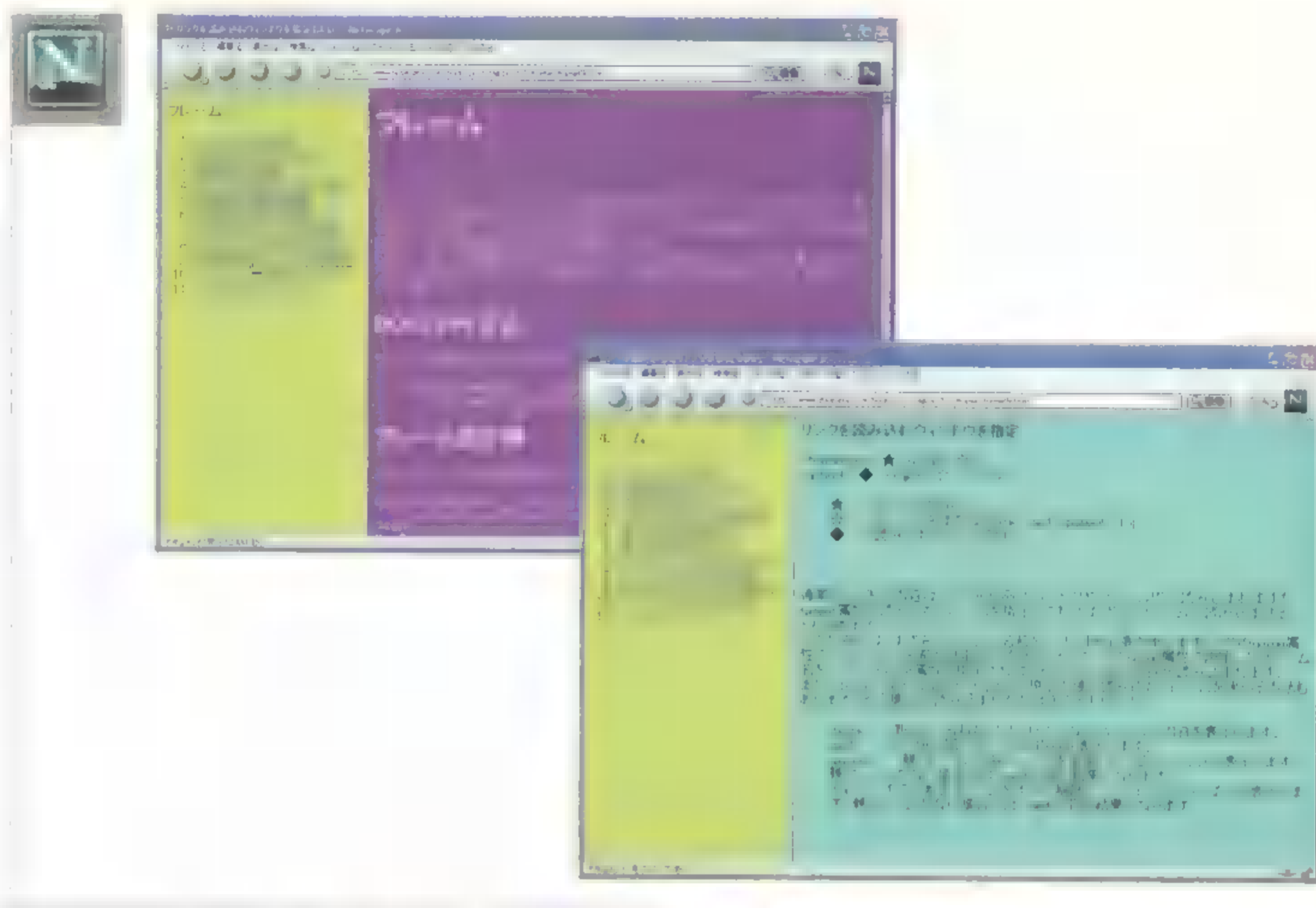
SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>リンクを読み込むウィンドウを指定したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html" name="menu">
  <frame src="contents.html" name="contents">
</frameset>

</html>
```

左のフレームに表示される menu.html

```
<html>
<head>
<title>フレーム・メニュー</title>
</head>

<body bgcolor="#cccc66">
<p>
<b>フレーム</b>
</p>
<ol>
  <li><a href="frame1.html" target="contents">フレームの作成</a></li>
  <li><a href="frame2.html" target="contents">表示されるファイル</a></li>
  <li><a href="frame3.html" target="contents">境界線の有無</a></li>
  <li><a href="frame4.html" target="contents">フレームのサイズを固定</a></li>
  <li><a href="frame5.html" target="contents">境界線の幅を変更</a></li>
  <li><a href="frame6.html" target="contents">境界線の色を指定</a></li>
  <li><a href="frame7.html" target="contents">枠からのマージンを指定</a></li>
  <li><a href="frame8.html" target="contents">スクロール表示の有無</a></li>
  <li><a href="frame9.html" target="contents">読み込むウィンドウを指定</a></li>
```

```
  <li><a href="frame10.html" target="contents">フレーム非対応に対処</a></li>
  <li><a href="frame11.html" target="contents">インラインフレーム</a></li>
</ol>
</body>

</html>
```

※contents.htmlのソースはp.248を参照。frame9.htmlのソースは省略します

<base>タグによる読み込み先の指定

<base>タグのtarget属性を使用して読み込み先を指定しておけば、各a要素のtarget属性を省略することができます。<base>タグにはそのファイル自身の絶対URLを記述してください（p.22参照）。

```
<html>
<head>
<title>フレーム・メニュー</title>
<base href="http://www.ank.co.jp/xxx/menu.html" target="contents">
</head>
<body>
<p>
<b>フレーム</b>
</p>
<ol>
  <li><a href="frame09_3.html">フレームの作成</a></li>
  <li><a href="frame09_3.html">表示されるファイル</a></li>
  <li><a href="frame09_3.html">境界線の有無</a></li>
  :
```

	IE4	IE5	[illegible]	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	○	○	○

基準となるURLを指定したい……………………p.22
新しいウィンドウにリンク先を表示したい………p.156
フレームに表示されるファイルを指定したい……p.247

フレーム

10 FRAME

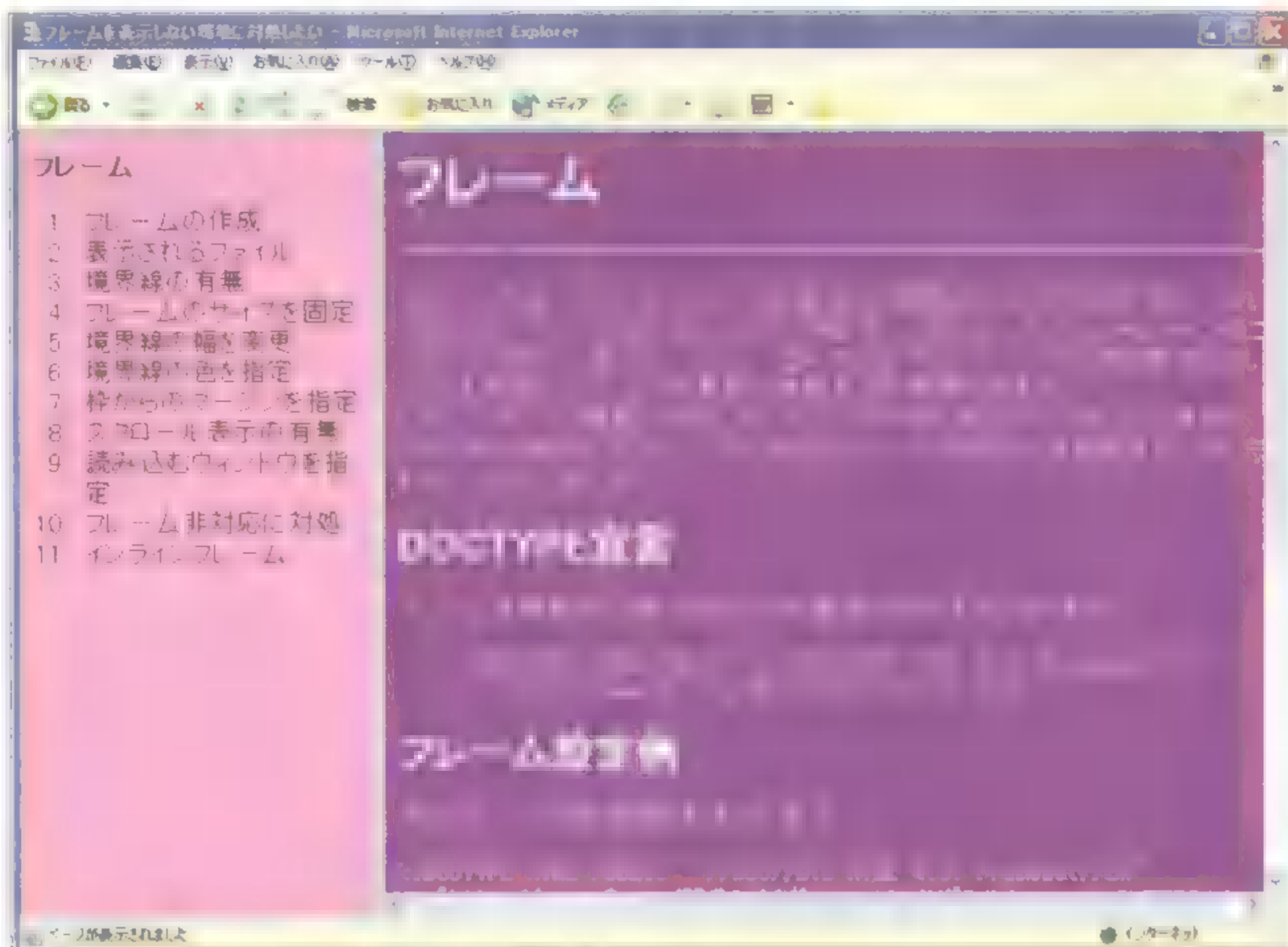
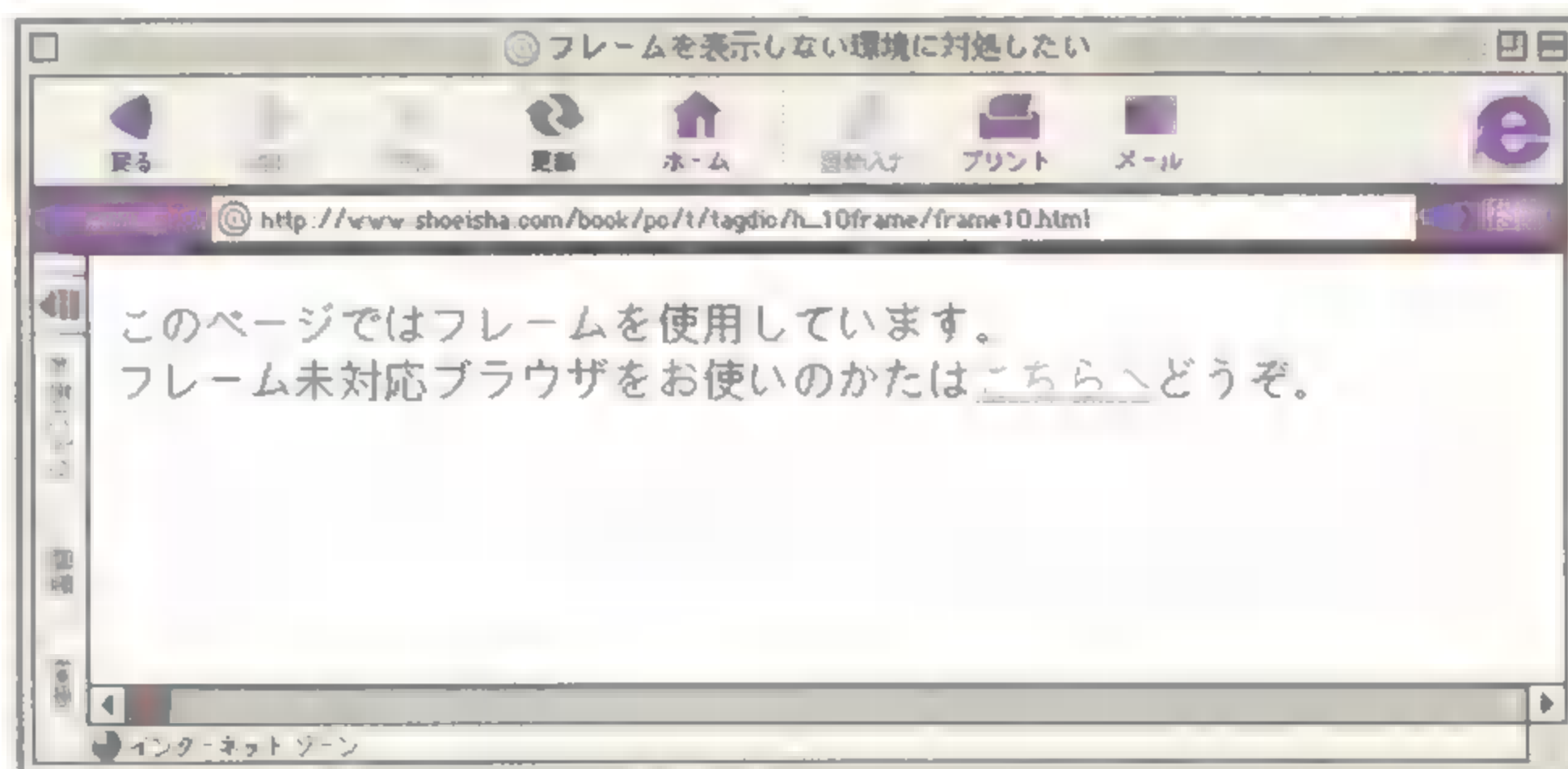
フレームを表示しない環境に対処したい

<noframes> ～ </noframes>

フレームに対応していないブラウザを使用している場合や、ユーザーがフレームを表示しない設定にしている場合などに、代わりに表示する内容を設定します。<noframes>～</noframes>は、<frameset>と</frameset>タグの中の最後においてください。<noframes>と</noframes>タグの間には、単純な代替テキストだけでなく、HTML文書を記述することができます（ただし、<body>タグを書くことはできません)。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">
<html>
<head>
<title>フレームを表示しない環境に対処したい</title>
</head>

<frameset cols="280,*">
  <frame src="menu.html">
  <frame src="contents.html">
<noframes>
  <p>
  このページではフレームを使用しています。<br>
  フレーム未対応ブラウザをお使いのかたは<a href="noframes-index.html">こちら
  へ</a>どうぞ。
  </p>
</noframes>
</frameset>

</html>
```

※ menu.htmlとcontents.htmlのソースはp.248を参照してください

▲フレームを表示するブラウザの場合

▲フレーム表示しないブラウザでは，<noframe>タグに挟まれた部分が表示されます（図はMacintosh版Internet Explorer 5でフレームを非表示に設定したもの）

フレームを作りたい……………………………p.244

11 FRAME

インラインフレームを作りたい

<iframe src="★" ☆> ～ </iframe>

★……ファイルのURL
☆……設定したい属性

<iframe>タグを使用すると、ウィンドウを分割する形式のフレームではなく、ウィンドウ内に挿入する形式のインラインフレームを作成できます。これにより、HTML文書内にほかのHTML文書を埋めこむことが可能になります。

このタグは<body>タグ内で使用し、フレーム内に表示される内容はsrc属性で指定します。name属性でフレームに名前をつけ、これをtarget属性で参照すれば、サンプルのようにリンクを使って複数のファイルを読み込むことができます。

また、フレームが表示される位置や大きさなどを指定することもできます。その場合には以下のような属性をとります。

name="フレーム名"
width="フレームの横幅"（ピクセルまたは%）
height="フレームの高さ"（ピクセルまたは%）
marginwidth="フレーム内の左右のマージン"（ピクセル）
marginheight="フレーム内の上下のマージン"（ピクセル）
scrolling="auto"、"yes"、"no"（スクロールの指定／auto:必要に応じて―デフォルト、yes:可能、no:不可）
frameborder="0"、"1"（フレーム枠の表示／0:非表示、1:表示―デフォルト）
align="left"、"center"、"right"（テキストの回り込み）

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<title>インラインフレームをつくりたい</title>
</head>
```

フレーム

```
<body bgcolor="#ff9966">
<p>
<font size="5">インラインフレームをつくりたい</font>
</p>
&lt;iframe src="url" ★ &gt;～ &lt;/iframe&gt;
<p>
&lt;iframe&gt;タグを……（中略）……また、表示される位置や大きさなどを指定すること
もできます。<a href="attribute.html" target="sample">このような属性（★）
</a>が用意されています。
</p>
<p>
<iframe src="i-sample.html" name="sample" width="500" height="200">
  このページではインラインフレームを使用しています。<br>
  インラインフレームに未対応のブラウザをお使いのかたは
  <a href="noframes-index.html">こちらへ</a>どうぞ。
</iframe>
</p>
</body>

</html>
```

インラインフレームに表示されるi-sample.html

```
<html>
<head>
<title>インラインフレームサンプル</title>
</head>
<body bgcolor="#996600" text="#ffffff">
<p align="center">インラインフレームサンプル</p>
<p>
幅500ピクセル、高さ200ピクセルのインラインフレームを作成した例。&lt;object&gt;タ
グでオブジェクトを埋め込む方法に似ています。
</p>
</body>
</html>
```

フレーム

インラインフレームに表示される attribute.html

```
<html>
<head>
<title> インラインフレームの属性 </title>
</head>
<body bgcolor="#ffffcc">
<p>
★に指定可能な属性
</p>
<p>
name="フレーム名"<br>
……（中略）……
frameborder="0"、"1"（フレームの枠の表示）
</p>
</body>
</html>
```

1 OTHER

スタイルシートを使いたい

<style type="text/css"> ～ </style>

HTML 文書の中にスタイルシート（p.317 参照）を記述する場合に使用します。

<head> タグと </head> タグの間に記述してください。その際、スタイルシートに対応していないブラウザがスタイルの設定個所を表示してしまうのを防ぐため、設定個所全体を <!--と--> でコメントアウトしておくとよいでしょう。

この形式で設定したスタイルは同じ HTML 文書内でのみ有効になるため，ページごとにスタイルを設定したい場合などに便利な方法です。

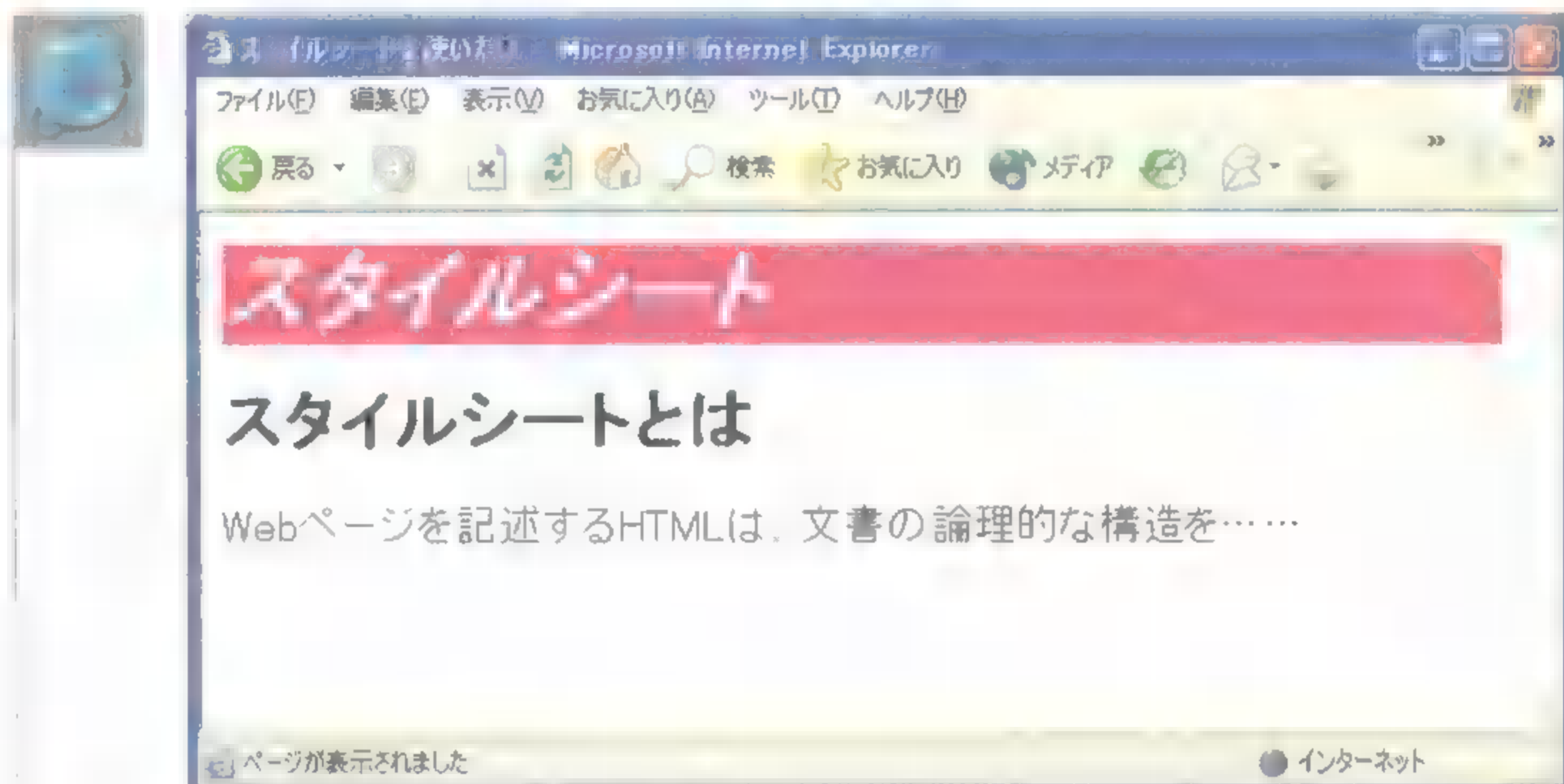
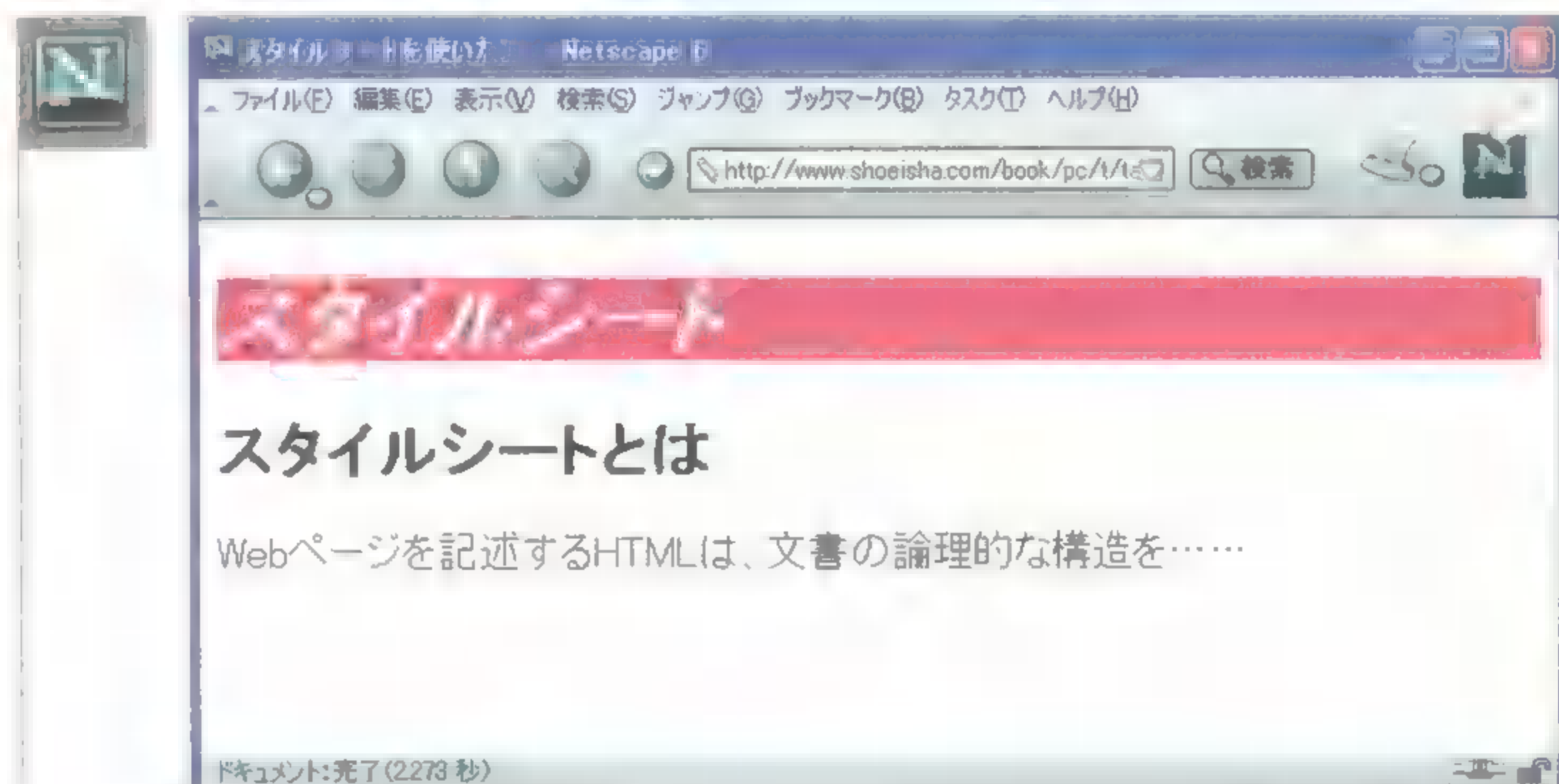
別に保存したスタイルファイルを読み込んでスタイルシートを利用する場合には <link> タグ（p.34 参照）を使用します。

スタイルシートについて詳しくは本書姉妹書「スタイルシート辞典第３版」を参照してください。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<title>スタイルシートを使いたい</title>
<style type="text/css">
<!--
h1      { color:white;
          font-style:italic;
          background-color:#ff3366}
-->
</style>
</head>
<body>
<h1>スタイルシート</h1>
<h2>スタイルシートとは</h2>
<p>
```

その他

```
web ページを記述する html は、文書の論理的な構造を……
</p>
</body>
</html>
```

▲スタイルシートが <h1> タグに適用されます

▲スタイルシートが <h1> タグに適用されます

IE4	IE5	IE5.5	IE6	[illegible]	NN4.7	N6.2
○	○	○	○	○	○	○

参照
文書同士の関係を示したい……p.34
特定の範囲を設定したい……p.36
スタイルシート……p.317

その他

2 OTHER

スクリプトを使いたい

<script ★ > ～ </script>

★••••••type="スクリプト言語のMIMEタイプ"
language="スクリプト言語名"
src="スクリプトファイル名"（URL）

HTML文書の中にスクリプトを組み込む場合に使用します。

language属性は従来から使われている属性で、使用するスクリプト言語を指定しますが、HTML4.01では推奨しない属性となっています。代わってtype属性が定義され（必須）、スクリプト言語のMIMEタイプ（text/javascript、text/vbscriptなど）を指定する決まりになっています。

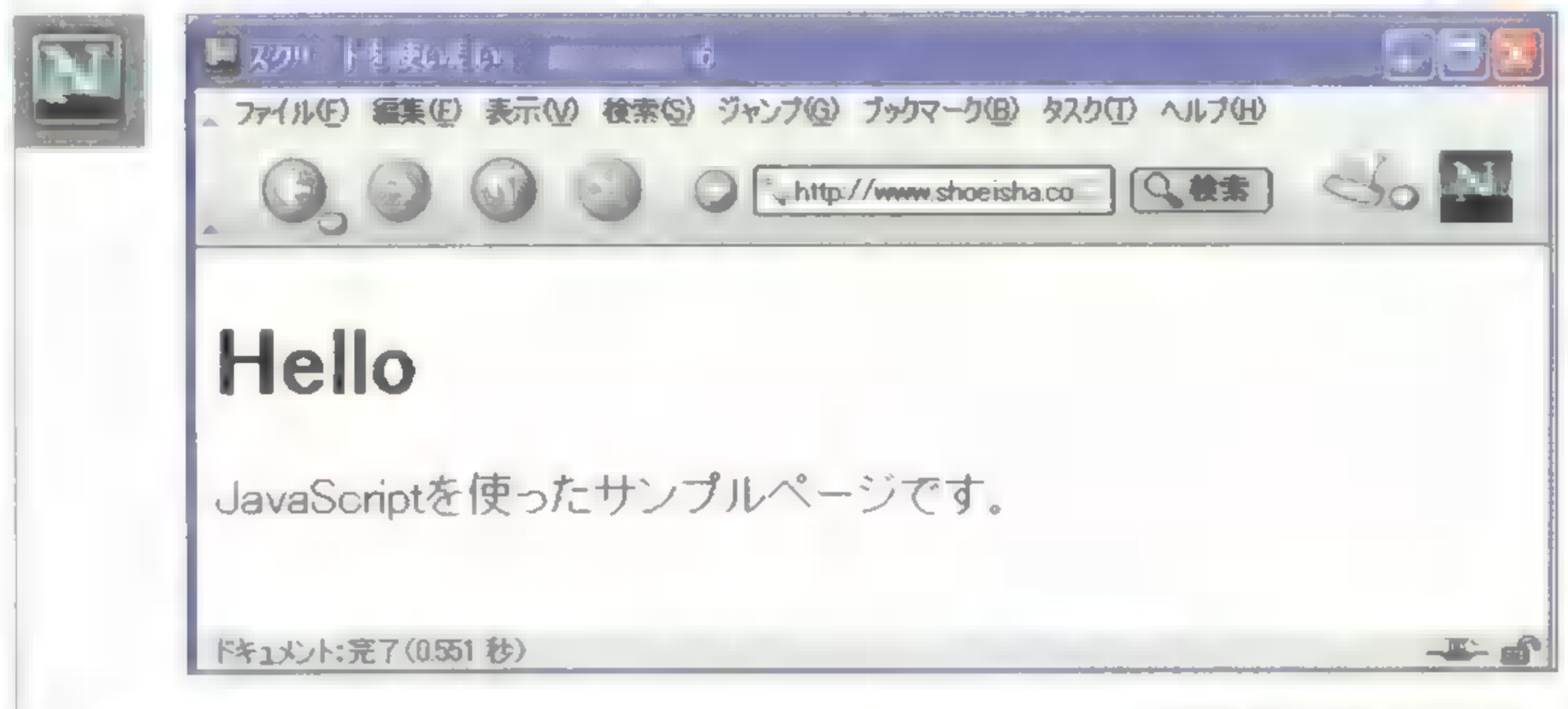
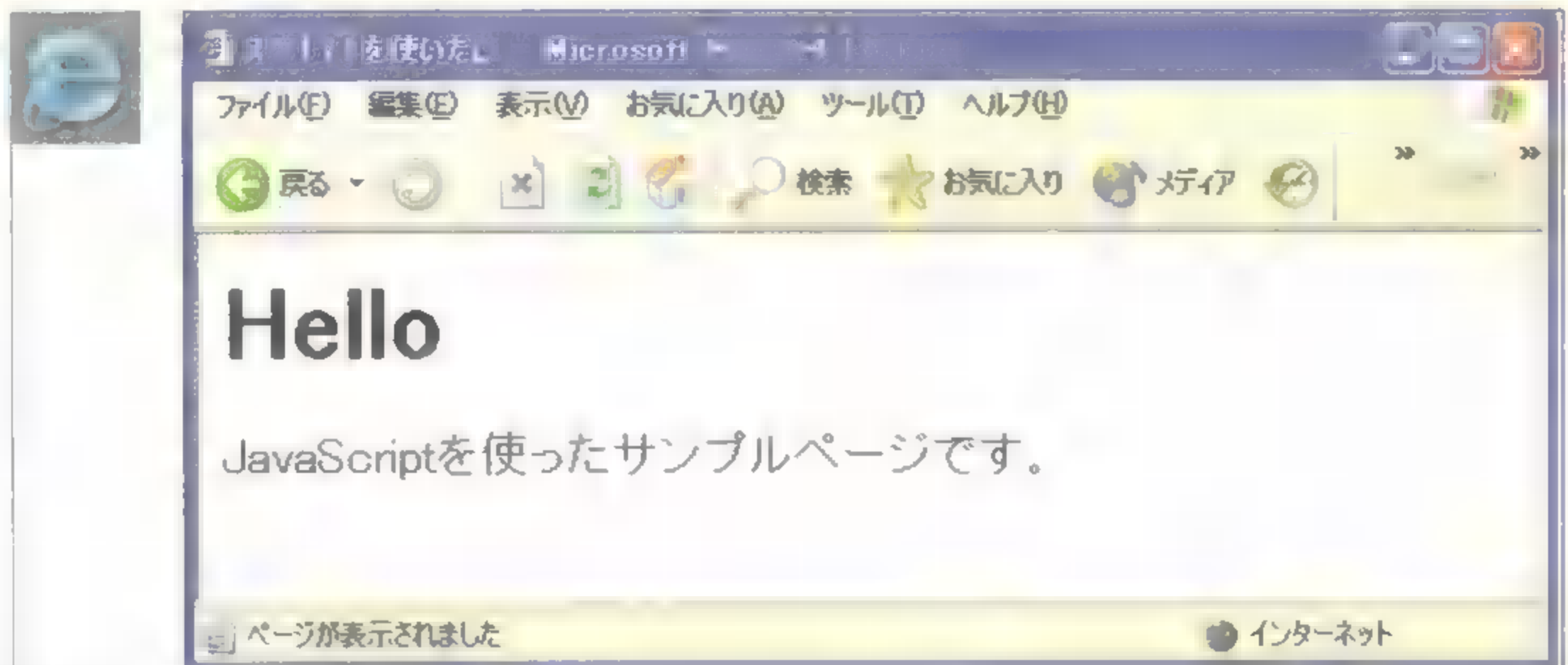
スクリプトをHTML文書中に直接記述する場合には、スクリプトに対応していないブラウザがスクリプト内容を表示してしまうのを防ぐため、設定個所全体を<!--と//-->でコメントアウトしておくとよいでしょう。

また、別に保存したスクリプトファイルを読み込んで利用する場合には、src属性でスクリプトファイルのURLを指定し、スクリプトを読み込みたいところに記述します（p.329参照）。

SOURCE

```
<body>
<script type="text/javascript">
<!--
document.write("<h1>Hello</h1>");
// -->
</script>
JavaScriptを使ったサンプルページです。
</body>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

その他

参照
初期情報を指定したい ··························p.28
スクリプトが実行されない■■■に対処したい······p.276
JavaScript ·······························p.326

3 OTHER

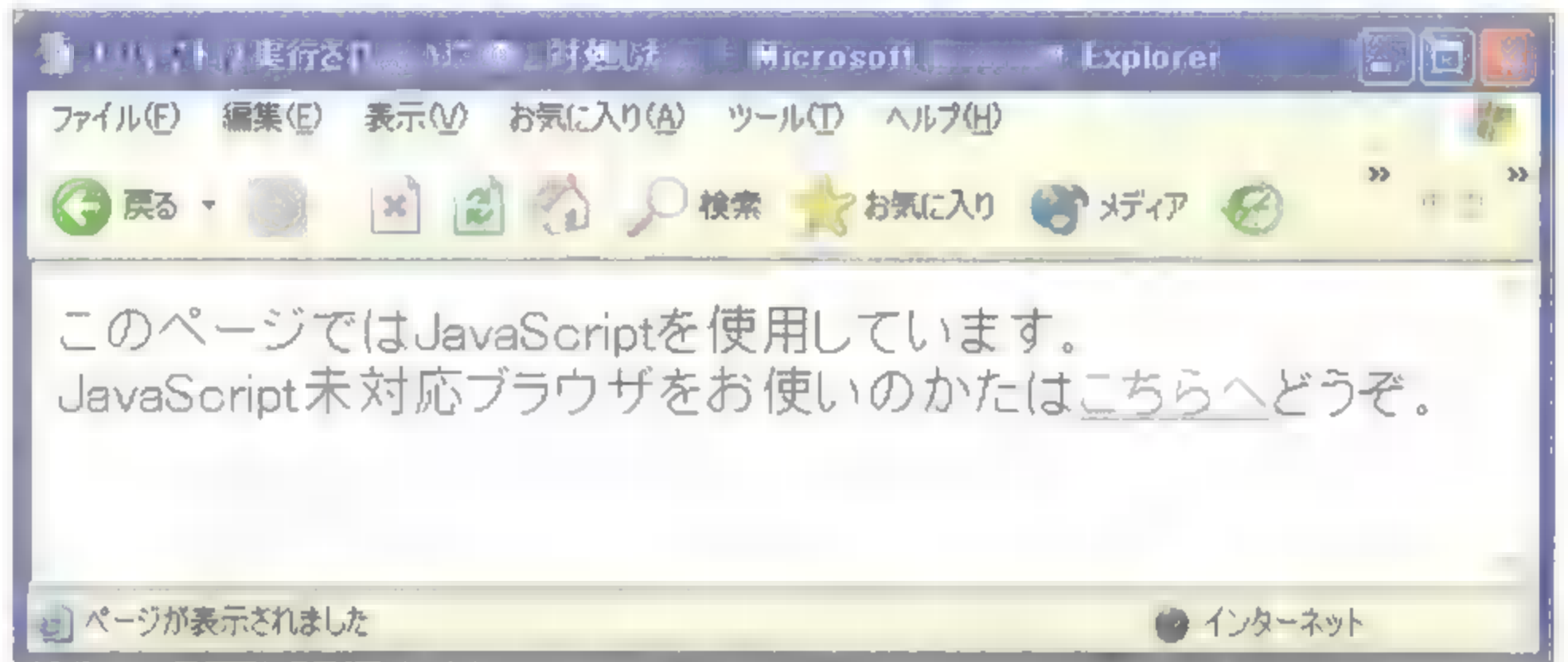
スクリプトが実行されない環境に対処したい

<noscript> ～ </noscript>

スクリプトに対応していないブラウザを使用している場合や、ユーザーがスクリプトを実行しない設定にしている場合などに、代わりに表示する内容を設定します。この<noscript>と</noscript>タグは、<body>と</body>タグの間においてください。

SOURCE

```
<html>
<head>
<title>スクリプトが実行されない場合に対処したい</title>
</head>
<body>
<script type="text/javascript">
<!--
document.write("<h1>hello</h1>");
// -->
</script>
<noscript>
  <p>
  このページでは JavaScript を使用しています。<br>
  JavaScript 未対応ブラウザをお使いのかたは
  <a href="noscript-index.html">こちらへ</a>どうぞ。
  </p>
</noscript>
</body>
</html>
```

▲スクリプトが実行される場合

▲スクリプトが実行されないブラウザの場合（Internet Explorer でスクリプトを無効に設定）

スクリプトを使いたい……………………………p.274

BGMを鳴らしたい

<bgsound src="★" loop="☆">

★ ••••••サウンドファイル名
☆ ••••••回数または、0、-1

効果音やBGMなどのサウンドデータを、ページを開いたときに鳴らすようInternet Explorerが独自に拡張したタグです。<head>タグと</head>タグの間に記述します。

src属性ではサウンドファイルのURLを指定します。対応するファイル形式は、WAV（.wav）形式、AU（.au）形式、MIDI（.mid）形式、AIFF（.aif）形式です。

再生回数はloop属性で指定します。0を指定すると1回、-1を指定するとページが開かれている限りBGMを鳴らしつづけるようになります。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
        "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<title>BGMを鳴らしたい</title>
<bgsound src="sound/test.wav" loop="-1">
</head>
<body>
    :
    :
</body>
</html>
```

[illegible]

再生が終わったサウンドデータを再び鳴らしたいときは、ブラウザの［表示］メニューから、［最新の情報に更新］を選んでクリックしてください。

[illegible]

<bgsound> タグは Internet Explorer が独自に拡張したタグのため、ほかのブラウザでは無視されてしまいます。なるべく多くの環境で BGM を鳴らすためには <embed> タグ（p.280 参照）を利用するなど、別の方法を使ったほうがよいでしょう。<embed> タグを使う場合はたとえば以下のような指定になります。

```
<embed src="xxxx.mid" repeat="false" autostart="true" width="150" height="20">
```

src 属性でサウンドファイル名を指定します。repeat は繰り返し再生するかどうか、autostart はページを開いたときに自動的に再生するかどうかを設定する属性です。どちらも true もしくは false を指定します。width、height 属性は、画面に表示されるサウンド再生用のパネルの大きさを、ピクセルで設定します。

ただし、現在では <object>（p.281 参照）を用いる方向で標準化の動きが進んでいます。

	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	×

プラグインを利用したい……………………p.280
さまざまな形式のデータを扱いたい……………p.281

プラグインを利用したい

```
<embed src="★" width="☆" height="◆">
<noembed> ～ </noembed>
```

★……プラグインデータのURL
☆……プラグイン領域の幅（ピクセル）
◆……プラグイン領域の高さ（ピクセル）

プラグインデータをHTML文書に貼り込めるように、一部のブラウザで拡張されたタグです。対応するブラウザではこれによって、外部アプリケーション（ヘルパーアプリケーション）を起動させることなくサウンドやムービーデータを扱えるようになりました。

src属性でプラグインデータを指定します。width、height属性はプラグインの操作画面の大きさを指定するものです。その他、使用するプラグインデータの種類に応じてさまざまな属性が利用可能ですが（p.279参照）、詳細は本書では省略します。

<noembed>タグと</noembed>タグの間には、プラグインが利用できない場合に代わりに表示させたい内容を記述します。

HTML4.01ではこの<embed>タグに代わる要素として<object>タグ（次項参照）が定義されていますが、<object>タグをサポートするブラウザがまだ少ないため、<embed>タグのほうが広く利用されています。

SOURCE

```
<p>
<embed src="test.swf" width="200%" height="200%">
<noembed>
  このページを見るためには、
  <a href="http://www.macromedia.com/jp/">Shockwave Flash プラグイン
  </a> が必要です。
</noembed>
</p>
```

IE4	IE5	[illegible]	[illegible]	NN4	[illegible]	[illegible]
○	○	○	[illegible]	[illegible]	[illegible]	○

※一部の属性は対応なし

さまざまな形式のデータを扱いたい……………p.281

6 OTHER

さまざまな形式のデータを扱いたい

<object ★ > ～ </object>

★ ••••••データタイプに応じた各種属性

<object>タグは、画像、アプレット、動画、ほかのHTML文書など、さまざまなデータをHTML文書に埋め込むという汎用的な性質を持っています。つまり、<img>、<applet>などこれまで別々のタグで扱われていたデータを、一括して同じタグで処理しようとするものです。そのため、データ形式に応じてさまざまな属性が定義されていますが、実際のところブラウザ側ではまだあまり対応がなされていません。ここでは詳細は省略します。

SOURCE

```
<p>
<object data="ryokou.mpeg" type="application/mpeg" width="300"
height="200">
<object data="ryokou.jpg" type="image/jpeg" width="300" height="200"
alt="10月の社員旅行の様子です。">
</object>
</object>
</p>
```

	IE4	IE5	IE5.5	IE6	NN4	NN4.7	N6.2
	○	○	○	○	×	×	○

※一部の属性は対応なし

Javaアプレットを利用したい ………………p.282

DEPRECATED

Javaアプレットを利用したい

<applet> ～ </applet>

<applet><param> ～ </applet>

HTML文書にJavaアプレットを貼り込むためのタグです。

JavaはSun Microsystems社が開発したプログラミング言語で、OSに依存せずユーザーのマシン上で実行させることができます。Javaについての説明は本書の[illegible]をこえるためここでは扱いません。p.330にJavaの概要については、[illegible]していますが、詳細についてはWebページや専門書を参照してください。

なお、HTML4.01では<applet>タグは廃止される予定となっており、代わりに<object>タグ（前項参照）の使用が定義されています。しかしこの<object>タグはまだブラウザ側であまり対応していないため、<applet>タグが引き続き利用されています。

[illegible]

```
<p>
<applet code="audioitem" width="15" height="15">
  <param name="snd" value="organ.au">
  オルガン曲を演奏するJavaアプレット
</applet>
</p>
```

[illegible]	IE4	IE5	IE[illegible]	IE6	NN4	[illegible]	[illegible]
	○	○	○	○	○	○	○

※一部の属性は対応なし

さまざまな形式のデータを扱いたい……………p.281
Java……………………………………p.330

インターネット上で使える画像

画像作成のコツ

画像を美しくしたい

透過 GIF で表現力を高めたい

データ転送中のストレスを軽減したい

動画データの利用

アニメーション GIF を作りたい

ムービーを使いたい

Flash や Shockwave を使いたい

サウンド・データを使いたい

第2部

マルチメディア Web ページテクニック

MULTIMEDIA TECHNIQUE

1 MULTIMEDIA TECHNIQUE

インターネット上で扱える画像

Windows や Macintosh で画像を扱う場合、基本的な画像ファイル形式として BMP や PICT などが使われています。これらのファイル形式では画像のピクセルデータをそのまま保存しているため、ファイルサイズが大きなものとなります。

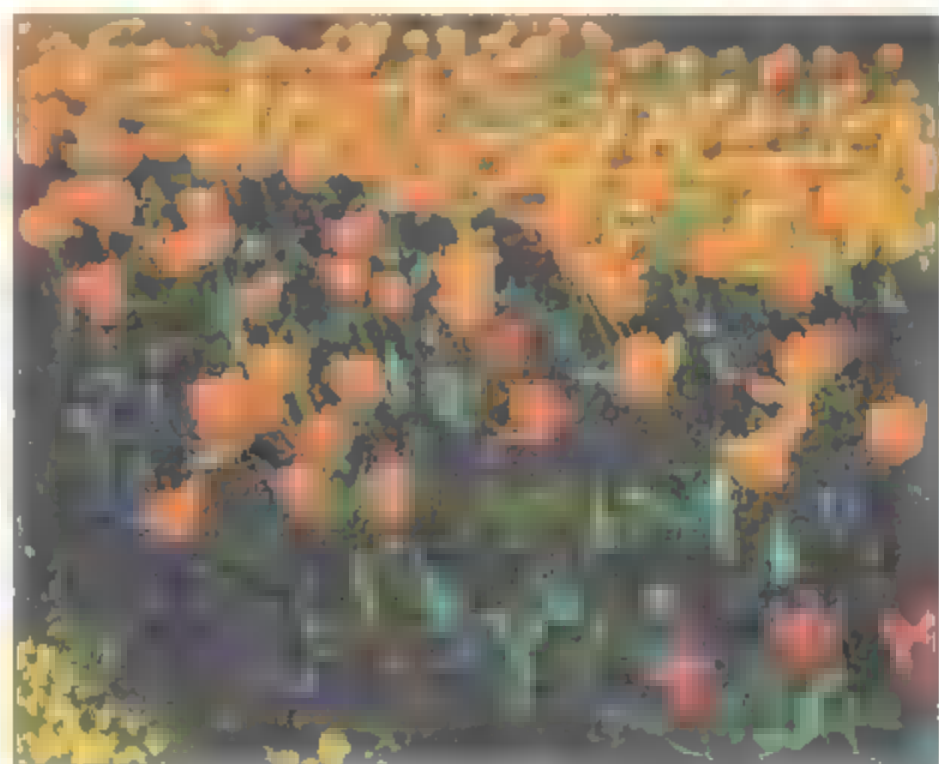
一方インターネットの世界においては、転送時間やネットワークリソースの消費の点で、大きなデータを使用することは好ましくありません。そこで、インターネット上では、主に JPEG と GIF という 2 つのファイル形式が使われています。また、最近ではブラウザ側での PNG 形式への対応も進められています。これらのファイル形式ではデータを圧縮して保存することができ、ファイルサイズを小さくすることが可能です。

● JPEG

JPEG（Joint Photographic Experts Group）ファイルでは、1677 万色の色を扱うことができ、写真など微妙な階調の画像を保存するのに向いています。保存の際に、画像データを圧縮して保存するか、圧縮せずにそのまま保存するかを選ぶことができます。圧縮する場合には画像データから色の情報を間引きして保存するため、画質は劣化し、圧縮率が高いほど画質の劣化が目立つようになります（p.287 参照）。このため、インターネット上で使用する場合には、ファイルサイズと画質を比べながら折り合いをつける必要があります。圧縮で劣化した画質を再び元に戻すことはできません。このような圧縮を「不可逆圧縮」と言います。

また JPEG 形式には、ブラウザへ画像をダウンロードして表示する際の方法を決めるオプション設定があります。通常の JPEG 画像はダウンロードされるにしたがって、上の方から徐々に画像が表示されていきます。オプション設定のプログレッシブ JPEG 方式（p.297 参照）で保存された画像では、まず画像全体がぼんやりした状態で表示され、ダウンロードが進むにつれ、徐々に鮮明になっていきます。

◀ JPEG に適した画像例

● GIF

GIF（Graphics Interchange Format）ファイルで扱うことのできる色は、256色までです。したがって、色数の多い画像の場合には、[illegible]似色同士をまとめるなどの減色処理を行うことになります。色数の少ない、はっきりしたイラストなどの[illegible]の保存に向いたファイル形式であると言えるでしょう。

GIF形式にもJPEG形式と同様に、ダウンロード中の画像の表示方法を決定するオプション設定があります。上から順番に表示していく方式をノンインターレースといいます。一方、プログレッシブJPEGのようにまずモザイク状のぼんやりした状態で[illegible]全体が表示され、ダウンロードされるにしたがって徐々に鮮明になっていく方式をインターレースと言います（p.296参照）。

また、現在GIFの仕様には、主に87aと89aという2種類のバージョンがあります。89aからは、透過色とアニメーションのサポートが追加されました。

透過GIFでは、画像で使用しているカラーパレットから1色を選び、透過色として設定することができます。透過GIFに対応したブラウザなどのアプリケーションでこの画像を表示すると、設定された透過色の部分は透明な領域として扱われます。壁紙の上に別の画像を重ねて表示するときなどに便利です（p.294参照）。

アニメーションGIFは、1つのGIFファイル内にフレームとして[illegible]の画像を記録し、順番に表示していくことが可能です。各フレームの表示時間や表示位置、アニメーションのループなども設定することができます（p.300参照）。

▲GIFに適した画像例

● PNG

GIFファイルでは画像の圧縮にLZWという方式を利用しているため、GIF対応のアプリケーションを開発する場合は米国Unisys社へ特許料を支払う必要があります。このライセンス問題を避けるため、PNGファイルでは画像の圧縮方式にライセンス料の発生しないZIPを採用しています。

PNG（Portable Network Graphics）ファイルには、高圧縮率と同時に、画質を劣化させることなく圧縮することが可能な「可逆圧縮」を行うという特徴があります（注：画像の減色と圧縮保存は別の動作です。減色して保存する場合には、減色に使用するツールによって画質の劣化度合は変化します）。8ビットカラー（256色）で利用する場合は、同じ画像をGIFで保存した場合よりもファイルサイズを縮小することができます。最大48ビット（280兆色）までのフルカラーをサポートしており、8ビットのアルファチャンネルによる256段階の透過レベルを指定することが可能です。また、PNGファイルはデータの中に画像の明るさを指定するガンマ値を含むため、OSによって画像の色調が変わることがありません。インターレースのオプションも備えています。

このようにPNG形式にはさまざまなメリットが存在するものの、ブラウザ側でのサポートがまだ完全ではないという問題があります。Netscape Navigator、Internet Explorerとも、4.x以降（Machintosh版Internet Explorerでは5.x以降）から表示が可能となっていますが、現時点ではPNGのすべての特徴には対応できていません。しかし、今後インターネット上での主要な画像形式となっていくことが予想されています。

PNG自体にはアニメーション作成のオプションはありませんが、現在MNG（Multi-image Network Graphics）という動画用の画像形式の仕様が策定中です。

iモードで扱える画像

現在iモードでは、一部のJPEG対応機種をのぞき、GIF画像のみをサポートしているので、iモード用のページで問題なく画像を表示させるためには使用する画像をすべてGIF形式で保存する必要があります。また、[illegible]によって表示できる色数や、GIFのオプション設定への対応状況が異なるため、注意が必要です。透過GIFを表示できるのはカラー[illegible]の一部のみですが、透過GIFに対応していない[illegible]では、透過色がそのまま表示されます。

アニメーションGIFも一部の機種では対応していません。アニメーションGIFに対応していない機種では、最初のフレームのみが表示されます。iモードで表示できるアニメーションGIFにはいくつか制限があり、表示できる最大フレーム数は5フレームまで、また、各フレームが同一のサイズで、開始座標も同一である必要があります。ループ再生は16回まで行うことができ、設定値がこれを超えた場合は、16回再生後にアニメーションが停止します。アニメーションGIFは1画面に最大4個まで表示することができます。

1つのページを構成するすべてのファイルの総ファイルサイズには、5KBまでという制限があります。このため、1個の画像ファイルのサイズは2KB以内に収めることが推奨されています。

横72x縦96ピクセル程度の画像であれば、ほとんどの機種上でスクロールさせることなく一度に全体を表示することができます。

iモード用のWebページについてはp.314を参照してください。

2 MULTIMEDIA TECHNIQUE

画像作成のコツ

画像を利用することでWebページの表現の幅は広がりますが、ページ内の画像が増えることは表示のための読み込み時間が長くなることにもつながります。見る側のストレスを減らすため、なるべく画像ファイルの数を少なく、ファイルサイズを小さくするよう心がけておく必要があります。

● ファイルサイズを小さくする

ファイルサイズを小さくする方法はファイル形式によって異なりますが、基本的には画像の縦横サイズの小さい方がファイルサイズは小さくなります。

GIF形式や8ビットカラー（256色）のPNG形式で保存する場合には、画像中で使用している色数を減らすことでファイルサイズを縮小することができます。減色の方法や減色後の画質はツールによってさまざまですが、減色による画質の劣化を抑えるためには、初めから色数の少ない画像を作成しておくようにしましょう。たとえば、文字などを画像にする場合には、文字にアンチエイリアスをかけない設定で入力を行います。多少エッジのギザギザが目立つようになりますが、画像で使用している色数は大幅に減ることになります。

JPEGの場合は、圧縮率を高める（＝画質を下げる）ことでファイルサイズを縮小することができます。また、画像のコントラストを少し低くしておくと同じ圧縮率でもファイルサイズは小さくなります。ファイルサイズと画質を確かめながら、納得する圧縮率を選んでください。

▲圧縮率の違いによるJPEGファイルの画質。左から画質80（ファイルサイズ50KB）、画質50（ファイルサイズ25KB）、画質10（ファイルサイズ12KB）

使い方を工夫する

一度読み込んだ画像がキャッシュに残っている場合には次回からの表示が早くなります。ロゴなど、使い回せるものは複数ページ間で同じ画像ファイルを読み込むようにしましょう。そうすることでページ全体に統一感も生まれます。

また。写真など色数の多いものはJPEG、イラストなど単純で色数の少ないものはGIFという具合に、画像形式を特徴によって使い分けましょう。写真をGIF用に減色するとザラザラした感じの画像になります。また、輪郭のはっきりしたイラストや文字などをJPEGで保存すると画質劣化による汚れが目立つようになります。画像の性質に合った形式を使うように心がけましょう。

文字などで代用する

文字色や背景色など、タグのみで色を変えることのできるもので代用することも考えてみましょう。たとえば、文字色を1文字ずつ変えることで、グラデーションに似た効果を得ることができます。また、テーブルの背景色を上手く利用すると、背景画像を使っているような印象を与えることもできます。このような方法であれば、画像を使用しないため読み込みが早くなります。

Paint Shop Pro

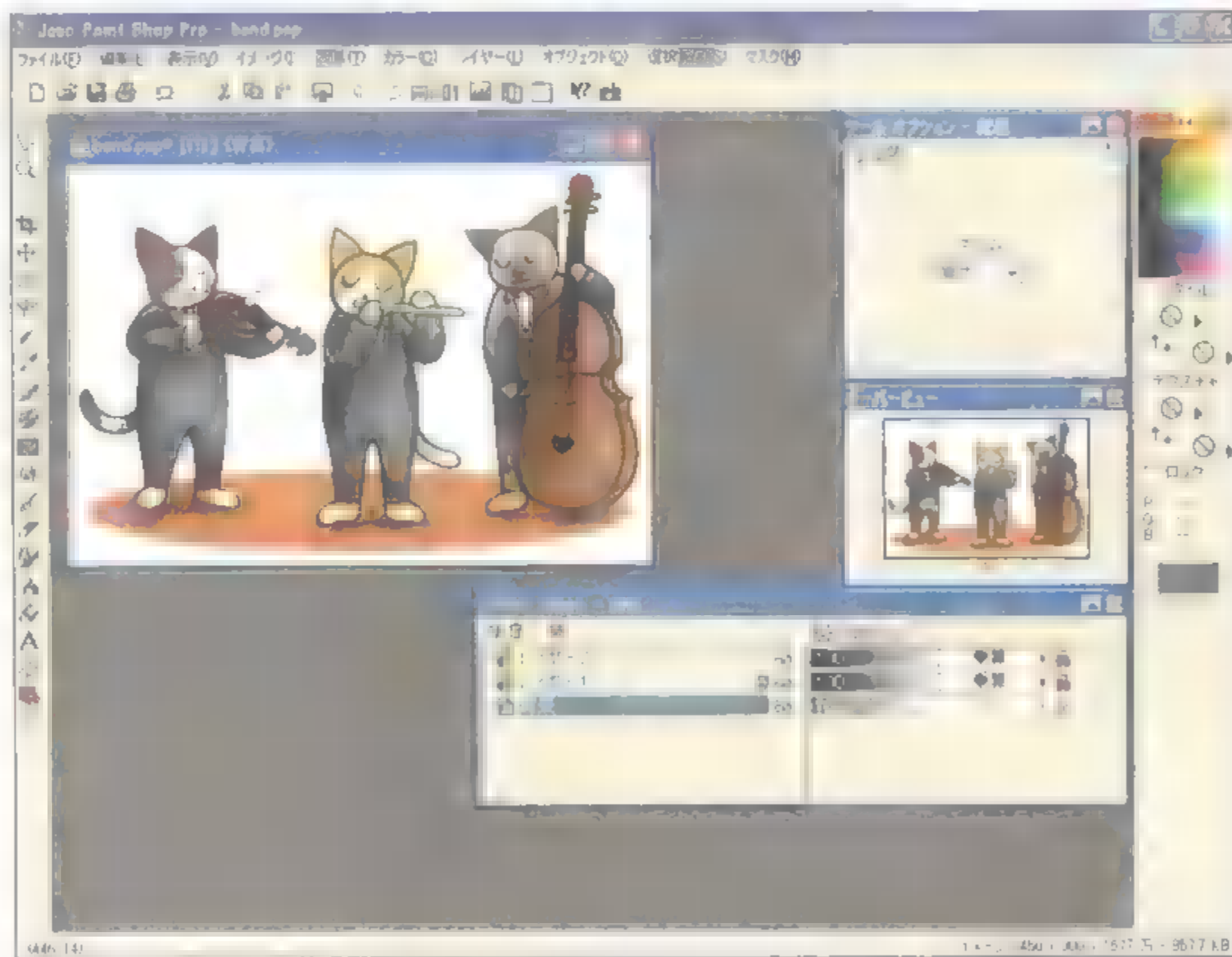
Paint Shop Proは、低価格ながら高度な画像編集機能を備えたグラフィックソフトです。

Version 7ではレタッチ機能がさらに充実し、初心者でも手軽に写真補正や加工を行うことができるようになっています。また、前バージョンから加わったドロー機能にも改良が加えられ、操作性が向上しています。そのほかにも、マルチレイヤー対応のペイントツールとしての多くの機能を備えています。

Version 7にはWebページ作成に便利な機能として、本書で紹介するGIFやJPEGへのエクスポート機能やイメージスライス機能が搭載されています。ほかにもイメージマップ機能では、プレビュー画面で範囲を指定しながら、HTMLファイルへクリッカブルマップの設定を書き出すことができます。

Paint Shop Proの体験版（30日間限定）は、いろいろなパソコン雑誌にも収録されており、簡単に入手することができます。また、国内販売代理店であるP&AのWebサイトには、日本語版の体験版も用意されています。製品版は、店頭でのパッケージ販売のほかに、下記のURLやソフトウェアダウンロードサイトからオンラインで購入することが可能です。

Jasc Software Inc.（製造元）
　http://www.jasc.com/
（株）P&A（国内販売代理店）
　http://www.panda.co.jp/

標準価格：　14,800円（通常版）、9,800円（乗換版）、7,800円（アカデミック版）
対応OS：　Windows95/98/ME/NT4.0/2000

▲Paint Shop Proのインターフェイス

3 MULTIMEDIA TECHNIQUE

画像を美しくしたい

Webページで利用するため、デジタルカメラで撮影を行う人も多いでしょう。しかし、そのまま使用できるレベルの写真を撮ることは難しく、たいていの場合はグラフィックソフトを使ったなんらかの補正が必要となります。

まず、見栄えのする構図となるように、写真の必要な部分だけを切り抜いておいたほうがよいでしょう。また、画像に写ったゴミやキズなどは、スクラッチ機能や周囲の色をコピーするクローンブラシ機能を使うと消すことができます。

次に、明るさ・色調・画質などを補正します。デジカメで撮影した写真の場合、暗く平坦な印象に写りがちなので、ガンマ補正や明るさ・コントラストの補正が必要となります。デジタル画像ではピクセルが色の情報を含んでいれば、アナログの場合よりも手軽に補正を行うことができます。しかし、真っ黒な影や光が当たって白く飛んでいる部分などは、色の情報を持っていないので補正することができません。

蛍光灯の下で撮った写真は青がかっていることがあります。また、夕方に撮った写真は黄色っぽく写っていることがあります。このようにイメージ通りに写らなかった色調も補正することができます。色調の補正は、たとえば人物の肌など基準となる部分を決めておき、その部分がイメージ通りの色となるように調整していくとわかりやすいでしょう。カラーバランスや色相・明度・彩度などによって補正します。

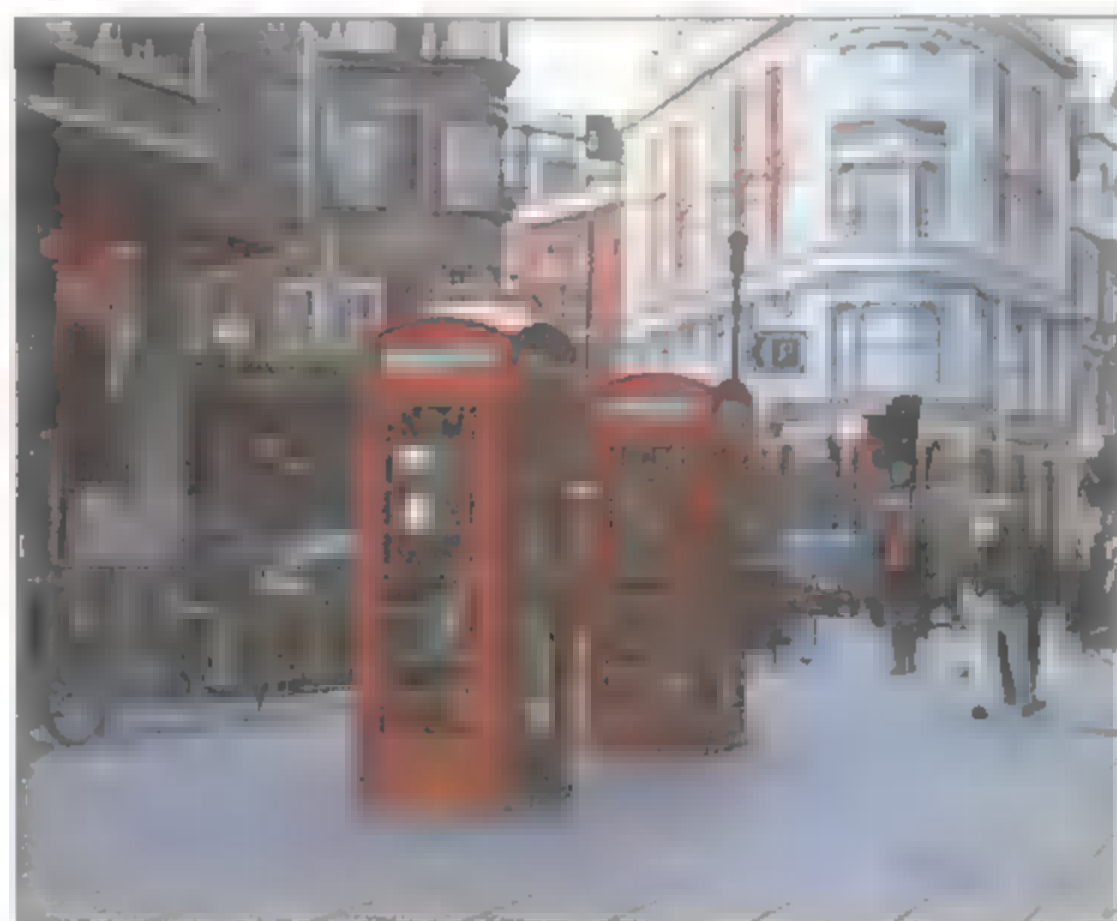
画像全体のイメージがぼんやりしているのであれば、シャープ処理を行う機能を使って引き締めます。逆に画像をぼかす機能を使うと、ソフトフォーカスがかかったような効果や遠近感・動きなどの効果を作ることができます。

Paint Shop Pro7（前ページ参照）を使って、画像を補正してみましょう。

● 明るさの補正

1　この写真は、被写体が暗く写ってしまっています。

2　Paint Shop Pro7には写真の自動補正機能もありますが、ここでは「ガンマ補正」を使って補正してみます。
[カラー]→[調整]→[ガンマ補正...]を選んでダイアログを表示します。[リンク] にチェックを入れたままスライダを動かすと、RGBすべての値が同時に変更されます。RGBの値は1がデフォルトです。画像を明るくする場合は、プレビューを見ながら値を増やしていきます。

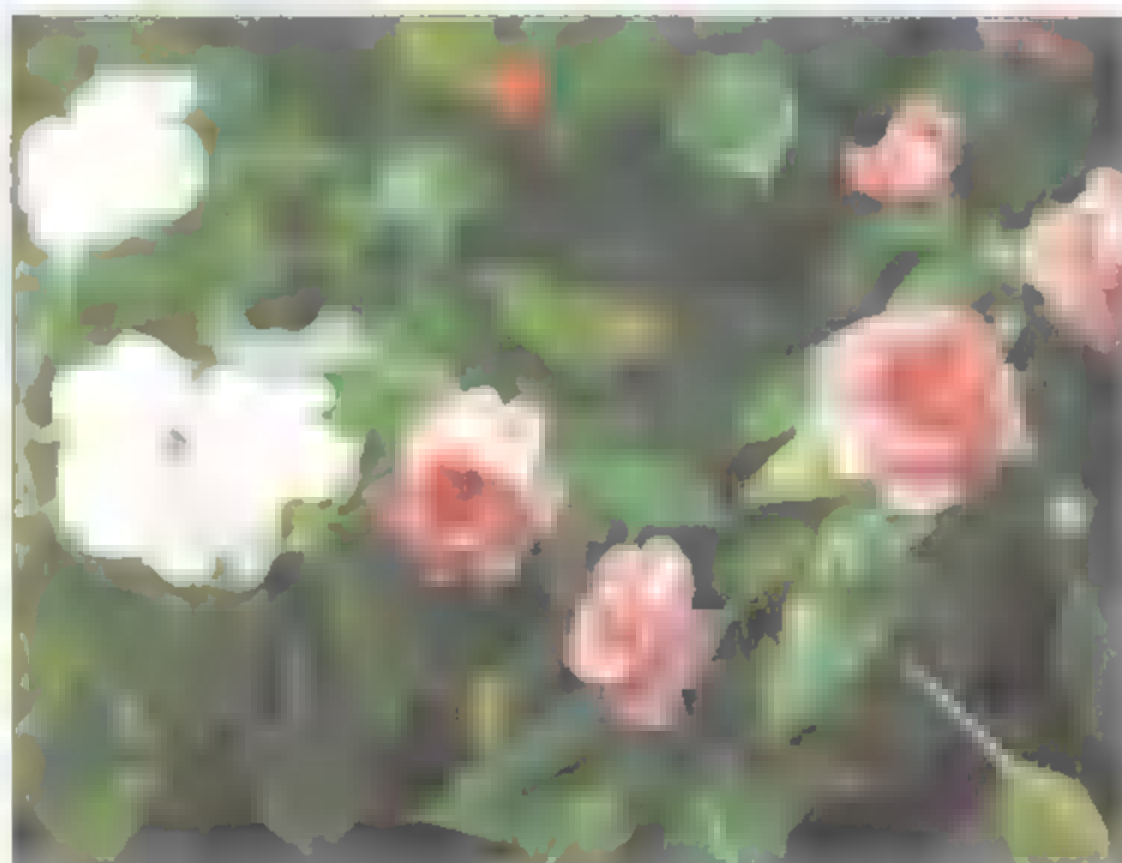
3　画面全体の色が明るくなりました。極端な補正を行ったり補正を繰り返したりすると、画像の劣化が目立つようになるので注意してください。

●色調の補正

1 今度は色調を補正してみます。この写真は、夕暮れ時で全体にオレンジがかっています。

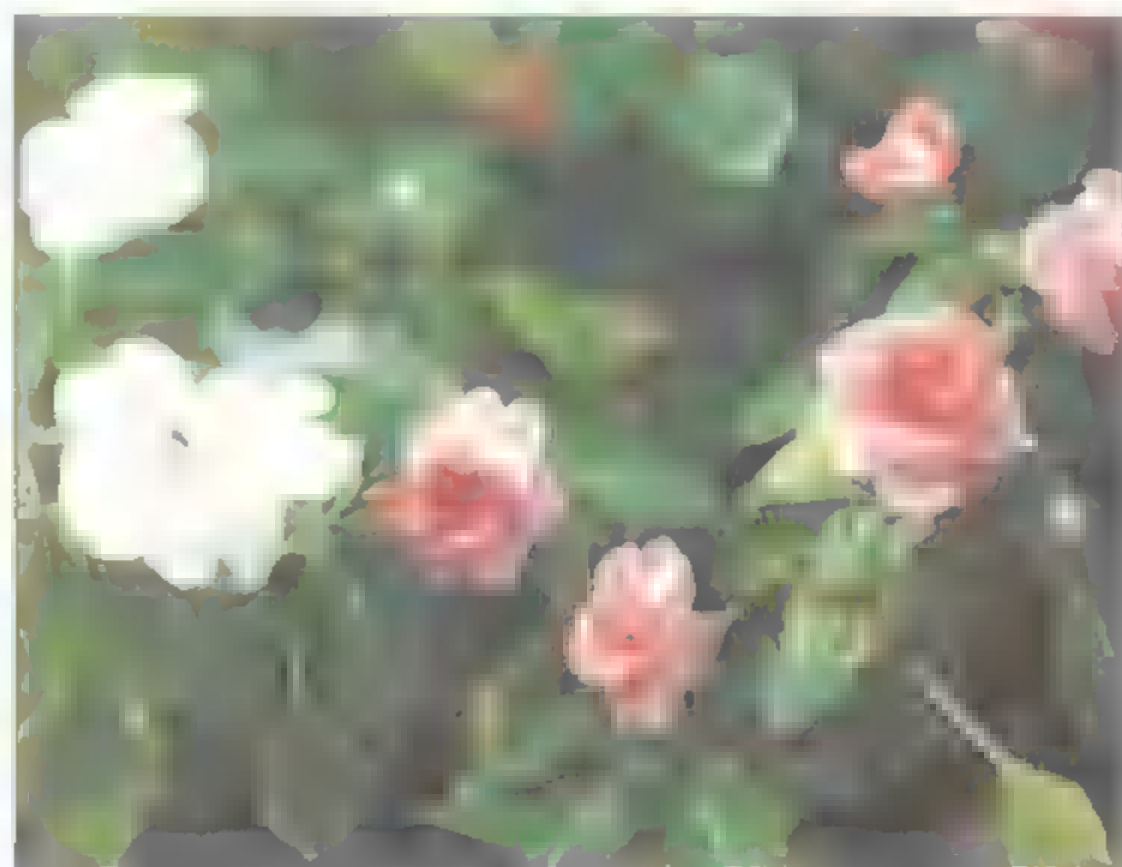
2 ここでも「ガンマ補正」を使って補正してみましょう。先に「リンク」のチェックを外しておきます。まず[illegible]色を抑えたいので、[illegible]色の補色である青のスライダを動かして値を[illegible]やします。次に、赤を抑えるため、赤のスライダを動かして[illegible]を減らします。

3 補正されて、普通に昼間に撮影したようになりました。
色調を正しく補正するには、色についての知識が必要となります。

● 画質の補正

1　ピンぼけの写真もデジタルであれば簡単に補正できます。

2　［効果］→［シャープネス］→［アンシャープマスク...］を選んで、ダイアログを表示します。「半径」は輪郭線の幅、「強さ」は輪郭線のコントラストなどを高める量、「クリッピング」はどの程度のコントラストの部分を輪郭線とするかを指定します。「半径」には通常0.5～2程度の設定が使われます。

3　はっきりした画像になりました。

4 MULTIMEDIA TECHNIQUE

透過GIFで表現力を高めたい

透過GIFは、前述の通りGIF形式のオプションです。画像で使用しているカラーパレットから1色を選び透過色として設定すると、ブラウザなどではその色で塗られているピクセルは透明なものとして扱われます。このため、透明なフィルムに描かれたセル画のように、透過色で塗られているピクセルでは背景が透けて見えます。

透過GIFは背景画像の上に別の画像を重ねて表示する場合に有効ですが、ほかにも便利な使い方があります。透過色のみで塗りつぶされた透過GIFを用意しておくと、この目に見えない画像を読み込むことによって、文書中に自由なサイズでスペースを空けることができるのです。表示する際の画像のサイズは<img>タグのサイズ指定で自由に指定することができるので、用意する透過GIFのサイズは1x1ピクセルなどの小さなもので構いません。

▲透過GIFにすると絵柄を背景になじませることができます

● 透過GIF画像の作り方

1　Paint Shop Pro7を使って、背景部分を透過色に設定してみましょう。
[ファイル]→[エクスポート]→[GIFイメージ...] を選んで、ダイアログを表示します。
先に、[色] タブで減色の方法について設定しておいた方がよいでしょう。

2　次に［透過色］タブを開き、透過領域として「次の色に合致する領域」を選びます。画像のイメージウィンドウ上にカーソルを持って行くと、スポイトに変わります。背景部分でクリックすると、背景の色が透過色として設定されます。

3　すべての設定が終わったら［OK］をクリックして保存します。

5 MULTIMEDIA TECHNIQUE

データ転送中のストレスを軽減したい

ファイルサイズを小さくしても、画像の読み込みにはある程度の時間がかかります。Webページを表示する際に画像の概要がはじめにわかるようにしておくと、見る側では何が表示されるのかイライラと待つ必要がなくなります。

GIFやPNGのインターレースオプションは、はじめは画像全体を荒いモザイク状に表示し、データを読み込むにつれてだんだん詳細に表示していくようにするオプションです。プログレッシヴJPEGも同様に、読み込むにつれて画像が徐々に鮮明になっていきます。

これらのオプションを利用するほかにも、<img>タグに[illegible]の横縦のサイズ（width、height）や説明（alt）などの属性を記述しておくことで、すべての読み込みが終わる前にWebページ全体の概要を読み取ることができるようになります。

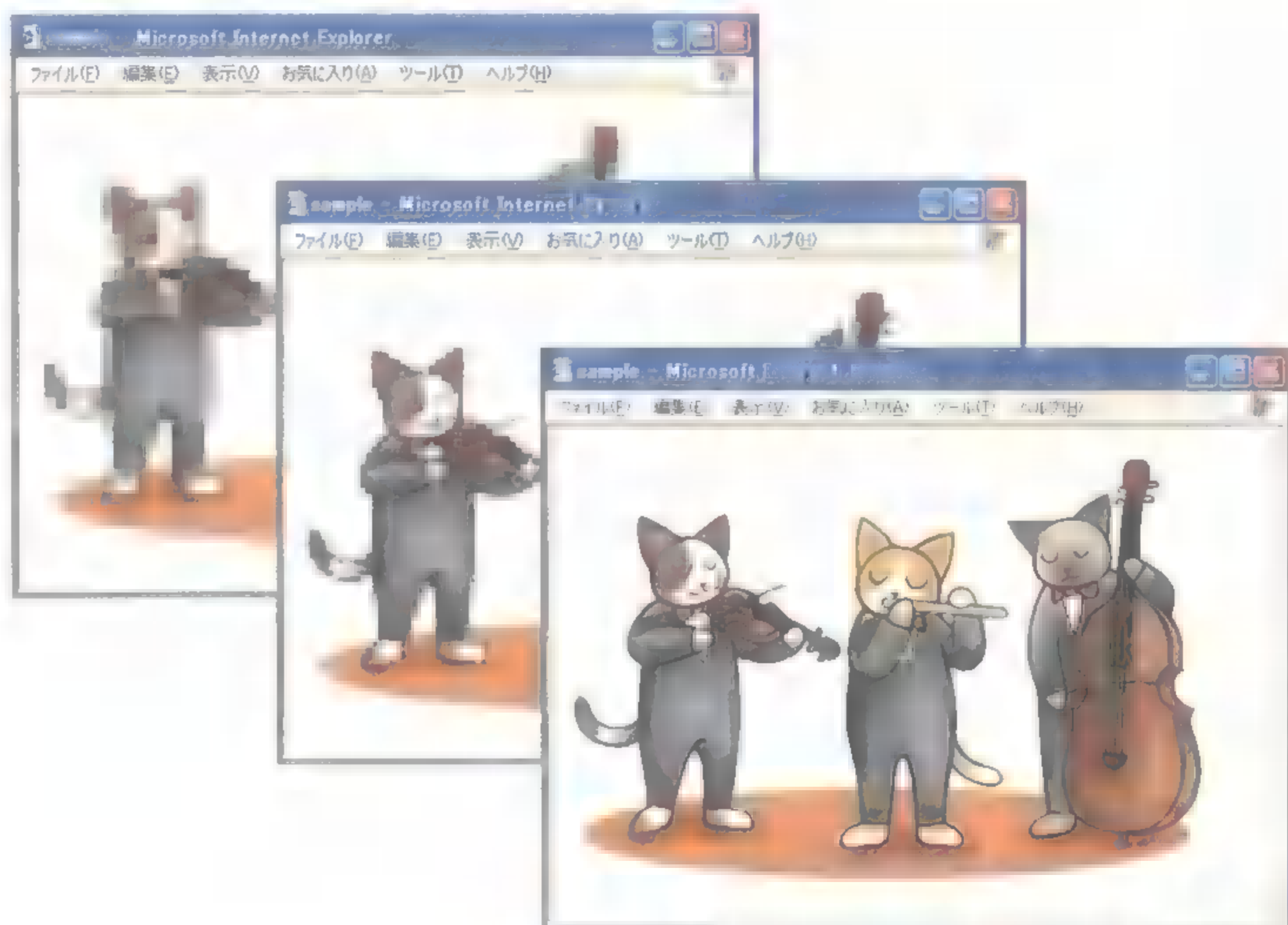
● インターレースGIFの作り方

1　Paint Shop Pro7の「GIFイメージのエクスポート」ダイアログを使って保存する場合は、［フォーマット］タブでタイプを「インタレース」に設定します。
［ファイル］→［上書き保存...］などで保存する場合には、保存ダイアログでファイルの種類にGIFを選び「オプション」ボタンをクリックしてオプションを選択します。

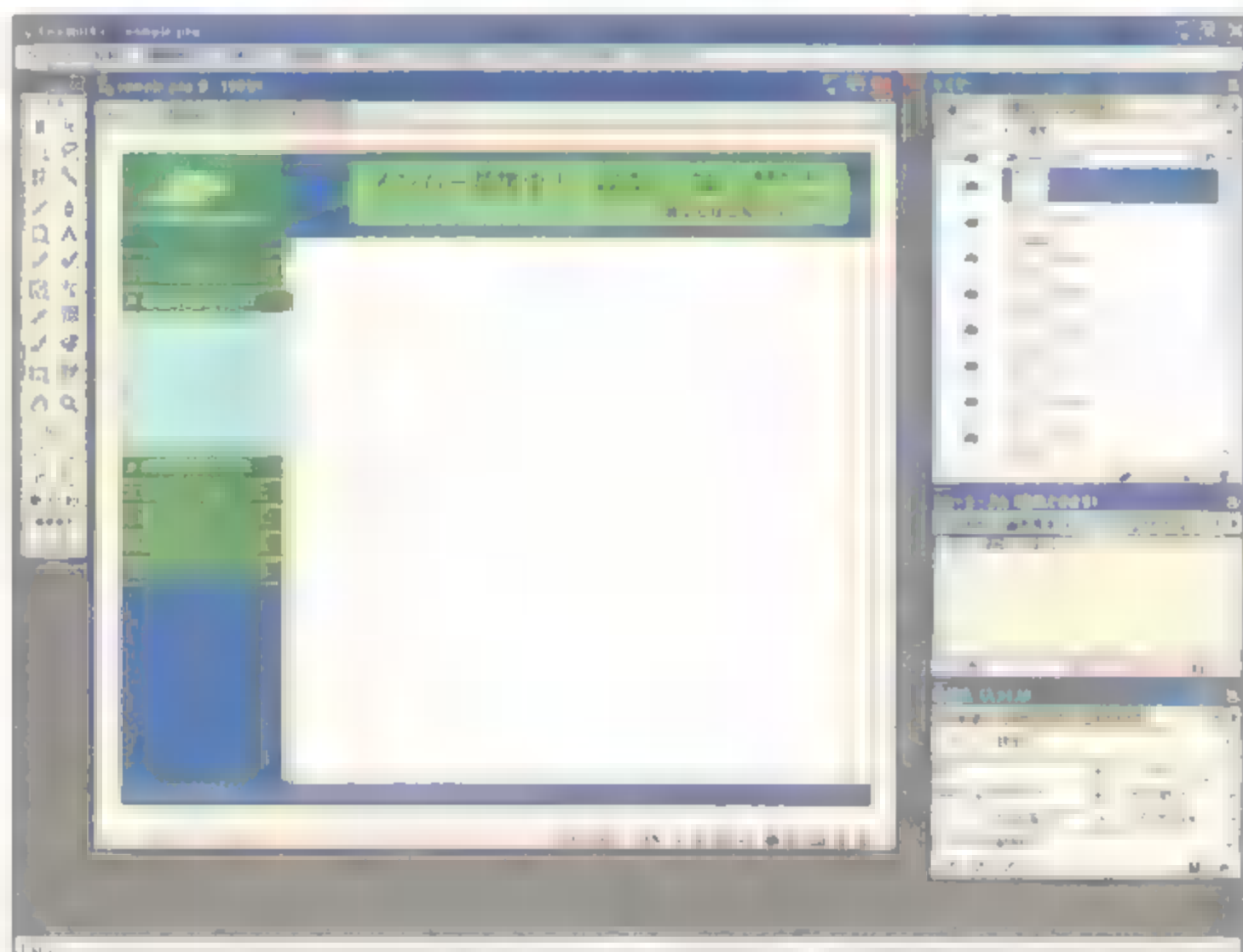
● プログレッシブJPEGの作り方

1　Paint Shop Pro7の［ファイル］→［エクスポート］→［JPEGイメージ...］を選んで、ダイアログを表示します。［画質］タブで圧縮率を設定した後、［フォーマット］タブで「プログレッシブ」を選択します。

▲インターレースGIFでやプログレッシブJPEGでは、このように[illegible]に画像全体のイメージが表示され、[illegible]々に鮮明な画像になります

● スライス──画像を分割して表示を速くする

Webページを開いたときに、画像が全体の途中の部分からバラバラに表示されていくのを目にしたことがある人も多いかと思います。このようなページでは、大きな画像を複数の小さなパーツに切り分けて分割しておき、それらをブラウザ上で順番に隙間なく並べて表示させることで再構成するという手法が使われています。画像の再構成は、主にテーブルによって行われています。この手法を「スライス」と言います。

大きな画像をスライスするメリットは、第一に、パーツごとに最適な画像形式で保存することができるため、全体としての画質が向上するだけでなく、ファイルサイズの総計を小さくできるという点です。画像内の一部にリンクやロールオーバーを設定したり、画像の一部分だけを変更したりするのも簡単です。また、画像を再構成するときに、パーツ画像をテーブルのセルの背景画像として利用したり、セル内へパーツ画像ではなくテキストを挿入したりすることもできるので、複雑なレイアウトが実現できるようになります。

最近の画像ソフトには、画像をスライスして個別に保存するための「スライス機能」を備えたものも増えてきました。この機能を利用すると、元画像を実際に分割しなくても、1つの画像ファイル上に複数のスライス領域を作成し、それぞれに対し最適化設定を行ってWeb用に保存することができるだけでなく、テーブルを使って再構成するためのHTMLファイルを自動的に書き出すことができます。

▲Macromedia社Fireworks 4で、スライス設定を行っているところ。1個の画像を赤い線で示されているように分割します。このように、スライス機能のある画像ソフトでは、画像ファイル内にスライス設定を保存することができます

Macromedia社
　http://www.macromedia.com/jp/

Macromedia Dreamweaver Fireworks Studio
標準価格：　22,000円（通常版）
対応OS：　Windows 95/98/ME/NT4.0/2000/XP　Mac OS 8.6/9.0

6 MULTIMEDIA TECHNIQUE

動画データの利用

お知らせの文字が点滅する、バナーが回転する、キャラクターが動き回るなど、Webページに動きを持たせるのは訪問者の目を引く有効な手段です。また、リンク箇所にマウスを持って行くと色が変わったり、ボタンが押されたりするようなインターフェイスや、Web上で実行可能なゲーム、自分で撮影・編集したビデオムービーの公開など、Webページ上ではますます動画が利用されるようになってきました。Webページに動きを持たせる方法には<marquee>タグを使ったテキストのスクロールや、<blink>タグによるテキストの点滅などもありますが、これらのテキストの装飾についてはそれぞれのタグに関する説明を参照してください。

動画には普通の画像と同様に扱うことのできるもののほかに、プラグインを必要とするものや、Javaアプレット、JavaScriptなどと組み合わせて実現するものなどがあります。Java関連の解説はこの[illegible]の範囲を超えるので、Javaの[illegible]や他の[illegible]などを参照してください。次項以降ではよく利用される[illegible]形式について説明します。

7 MULTIMEDIA TECHNIQUE

アニメーションGIFを作りたい

アニメーションGIFはGIF形式のオプションで、もっとも手軽な動画形式です。ひとつのファイル内に複数のGIF画像をそれぞれフレームとして保存し。これを[illegible]に表示することでアニメーションとして表現します。作成が簡単であり、<img>タグで通常のGIFファイルと同様に扱うことができるという利点を持ちますが、ファイルサイズが大きくなりがちであり表示の際の処理もやや重いため、同一ページ内に複数のアニメーションGIFを使用する場合には注意が必要です。

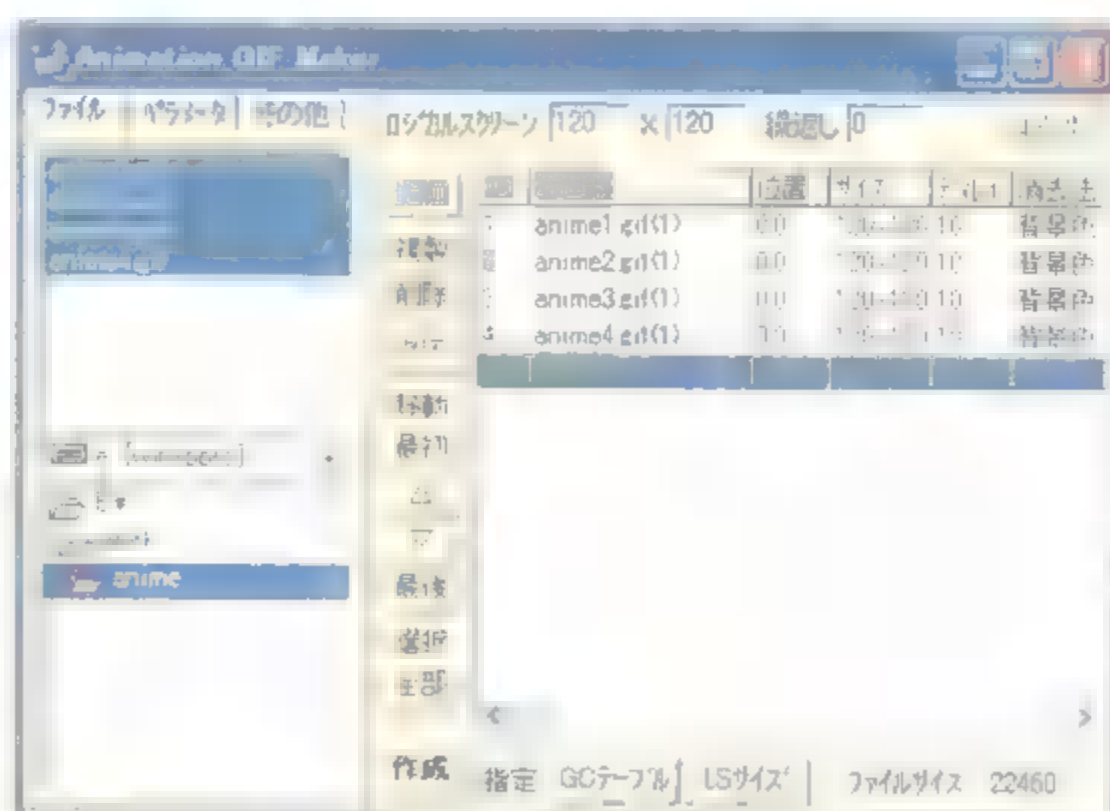
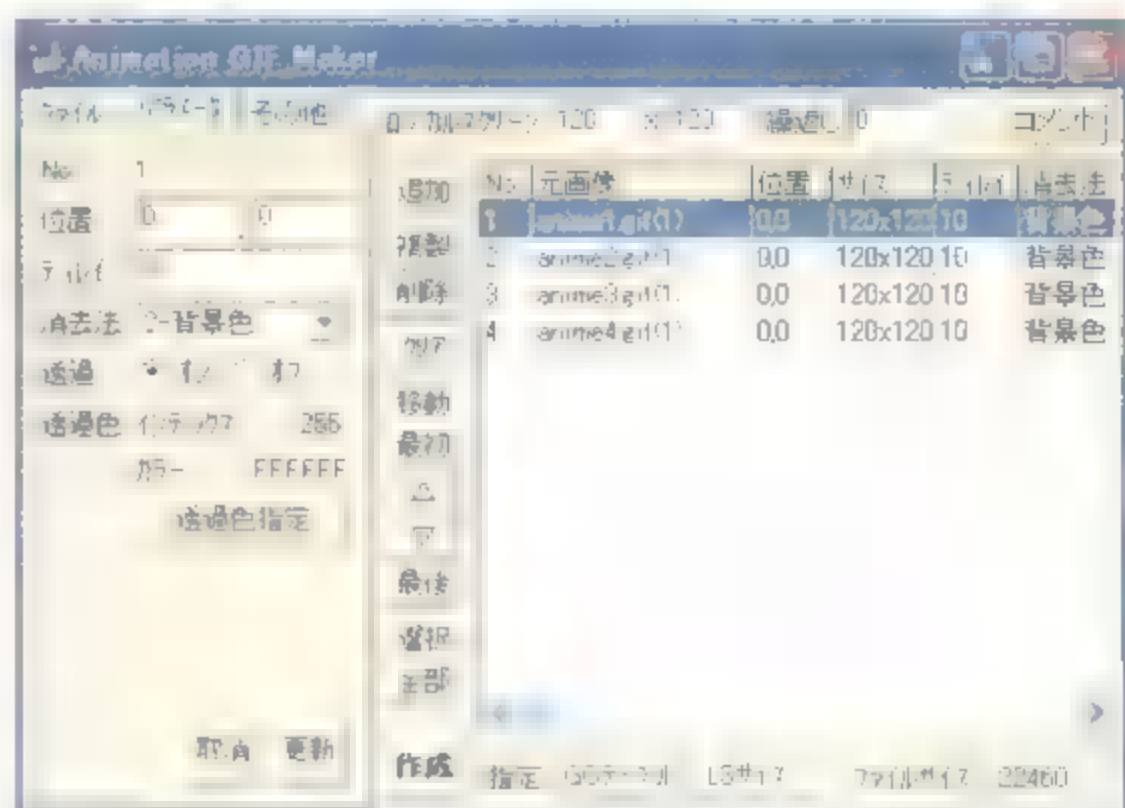
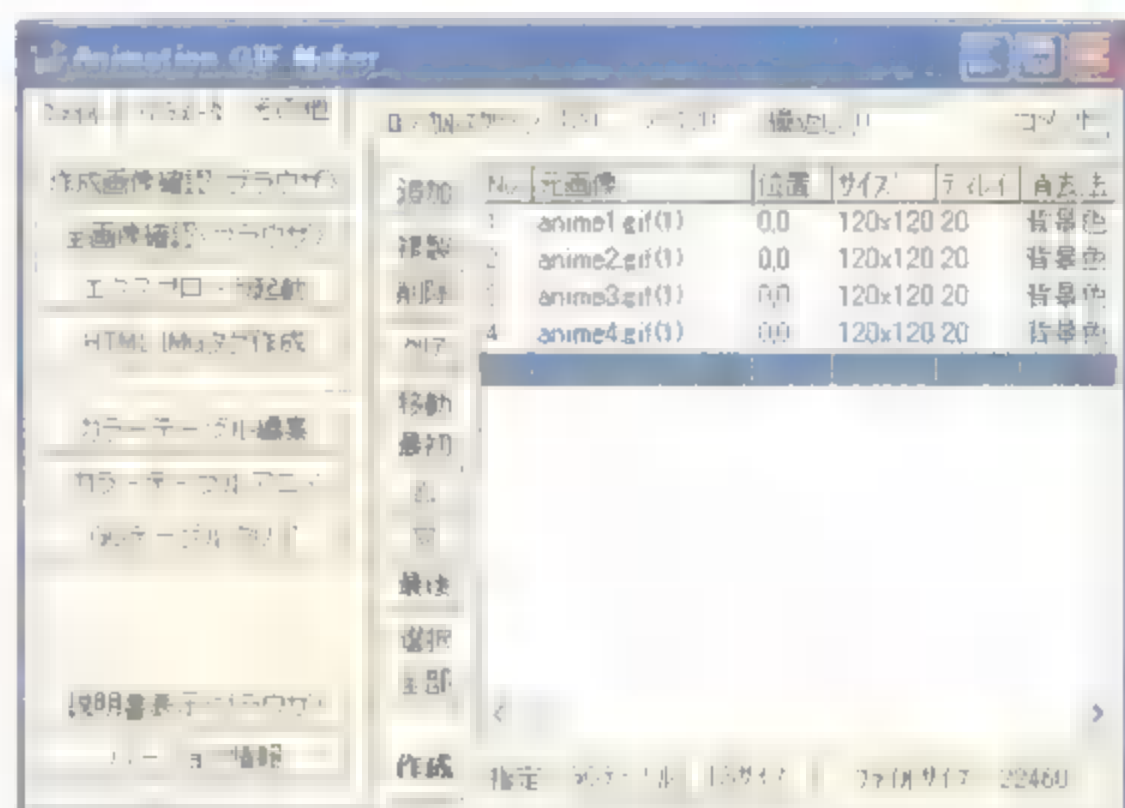
1 GIFアニメーション作成ツール「Animation GIF Maker」を使って、アニメーションGIFを作成してみましょう。先に、アニメーションの各フレームとなるGIF画像を用意します。

▲anime1.gif

▲anime2.gif

▲anime3.gif

▲anime4.gif

2 左側の［ファイル］タブからGIF画像のファイルを選んで、順番に右側の画像リストに追加します。

3 各フレームの設定は［パラメータ］タブで行います。画像リストから画像（フレーム）を選んで、左側のダイアログで設定を変更します。変更箇所は赤字で表示されます。最後に［更新］ボタンをクリックして、画像リストに変更を反映させます。

4 ［その他］タブでは、ブラウザで表示を確認したり、タグを作成したりすることができます。ここで表示を確認しては［パラメータ］タブに戻り、各フレームのディレイ（表示時間）などを設定していくとよいでしょう。設定が終わったら、［作成］ボタンをクリックしてアニメーションGIFを保存します。

Animation GIF Maker

Animation GIF Makerは、服部宣広氏によるフリーのアニメーションGIF作成ソフトです。

はっとりワールド（http://www.hornet-works.com/hattoriworld/）や、Vectorなどからダウンロードすることができます。Animation GIF MakerではアニメーションのGIF画像を作成することはできないので、あらかじめほかのグラフィックソフトを使ってGIF画像を作成しておく必要があります。作成中のアニメーションの表示には、ブラウザが使用されます。

8 MULTIMEDIA TECHNIQUE

ムービーを使いたい

ムービーにはさまざまなファイル形式があります。インターネット上では主に、QuickTime、AVI、MPEGの3種類の形式が利用されています。これらの形式では動画だけでなく音声の記録も可能です。

QuickTime「.qt」「.mov」

QuickTimeはApple社がMacintosh用に開発した動画用ソフトウェアで、WindowsやUNIX環境でも広く利用されています。本来のQuickTime用のファイル形式であるQT、MOVなどのほかに、現在ではWindows標準の動画・音声形式であるAVI形式やWAV形式の再生も可能となっています。ISO（国際標準化機構）により動画形式の国際標準MPEG-4規格として採用されており、現在もっとも汎用性のある[illegible]式です。

AVI「.avi」

Microsoft社が開発した、Windowsで動画を扱うためのファイル形式で、Windowsに附属のMedia Playerなどで再生できます。Macintosh上でもQuickTime 3.0以降を利用することで再生が可能です。

MPEG「.mpeg」

ISO（国際標準化機構）により仕様が策定された、[illegible]・音声形式の国際標準規格です。動画・音声データとも非常に高い圧縮率を実現していますが、動画の各コマを比較して変化のある部分だけを記録するなどの方法でデータを圧縮するため、[illegible]きの大きな動画の場合などには圧縮率が落ちることになります。再生品質によってMPEG-1からMPEG-4までの各規[illegible]が制定されており、現在はマルチメディアにおける利用を考慮したMPEG-7規格の標準化が進められています。

MPEG形式のうち音声データ部分のみを保存したMP2、MP3などの音声ファイル形式もよく利用されています。

● ムービー掲載の注意

再生には専用のソフトウェアまたはプラグインなどが必要な場合もあるので、ムービーを扱う際には見る側の環境を考慮しておかなければなりません。余裕があれば、何種類かのファイルを用意しておいた方がよいでしょう。その場合、.aviと.movファイルを用意しておけば、たいていの環境で再生可能です。1種類に絞る場合には、汎用性の高い.movファイルがお勧めです。

HTML上では、<a>タグでムービーファイルに直接リンクさせるか、<embed>タグでページ内にムービーファイルを貼り込みます。一般にムービーはファイルサイズが大きくなるので、ムービーをサポートしていない環境や転送速度に問題のある人のための配慮も必要です。事前にファイル形式やファイルサイズなどの説明を表示しておく、画像の表示されるはずの場所に言葉での説明を追加しておくなどの対応をしておきましょう。

ムービーファイルの作成には、ビデオカメラの映像をビデオキャプチャカードを使って取り込む方法や、デジタルビデオのデータをそのまま利用する方法などがあります。また、グラフィックソフトで作成した画像を使ったアニメーションを作成することもできます。

動画編集アプリケーションは、プロ仕様の本格的な編集ツールであるAdobe社のPremiereをはじめとして、さまざまなものが提供されています。個人で楽しむためであれば、デジタルビデオメーカーが紹介している家庭用ビデオ編集ツールなどがわかりやすく、十分な機能を備えています。

ストリーミングビデオ

QuickTime、AVI、MPEGとも、すべてのデータをダウンロードしてから再生を開始するため、再生までに長時間待たなければなりません。この待ち時間を解消するために開発されたのが「ストリーミング」と呼ばれる技術で、データをダウンロードしながら同時に受信側で再生を行うことが可能です。代表的なものに「RealVideo」「StreamWorks」「VDOLive」「VivoActive」などがあります。これらの方式で作成されたコンテンツには互換性がないため、それぞれ専用のプラグインが必要となります。

9 MULTIMEDIA TECHNIQUE

Flash や Shockwave を使いたい

Shockwaveとは、Macromedia社から提供されている一群のブラウザ用のプラグインソフトウェアの総称です。これらのプラグインを使用すると、Macromedia社のFlash、Director、Authorware、Freehandなどのソフトウェアで作成されたデータをブラウザ上で表示・再生することが可能となります。

Flash Player

プラグインのひとつであるFlash Playerは、近年人気を集めているFlashによって作成されたデータ（.swf、.spl）を再生するために必要なもので、MAC OS 9やInternet Explorer、Netscapeなどでは標準搭載されています（ただし、搭載されているプラグインが最新バージョンではないこともあります）。

Flashはベクトルデータを使って、ドローベースのグラフィック・アニメーションを作成するためのツールです。ベクトルデータを使用するためデータ量は小さくてすみ、拡大・縮小によって画質が落ちることがありません。また、拡大してもデータ量は変わりません。ベクトルデータ以外にも、PICT、GIF、JPEG、PNGなどの画像ファイル、WAVなどの音声ファイルを読み込むことができ、しかも、元になるひとつのファイルデータから、このデータを拡大・縮小したり、回転・移動させたりするアニメーションを作成できるため、フレームごとに別のデータを用意する必要がありません。スクリプトを組み込むことで、クリッカブルマップや対話型のコンテンツを作成することも可能です。Flashで作成されるSWFファイルも、ストリーミング再生に対応しています。

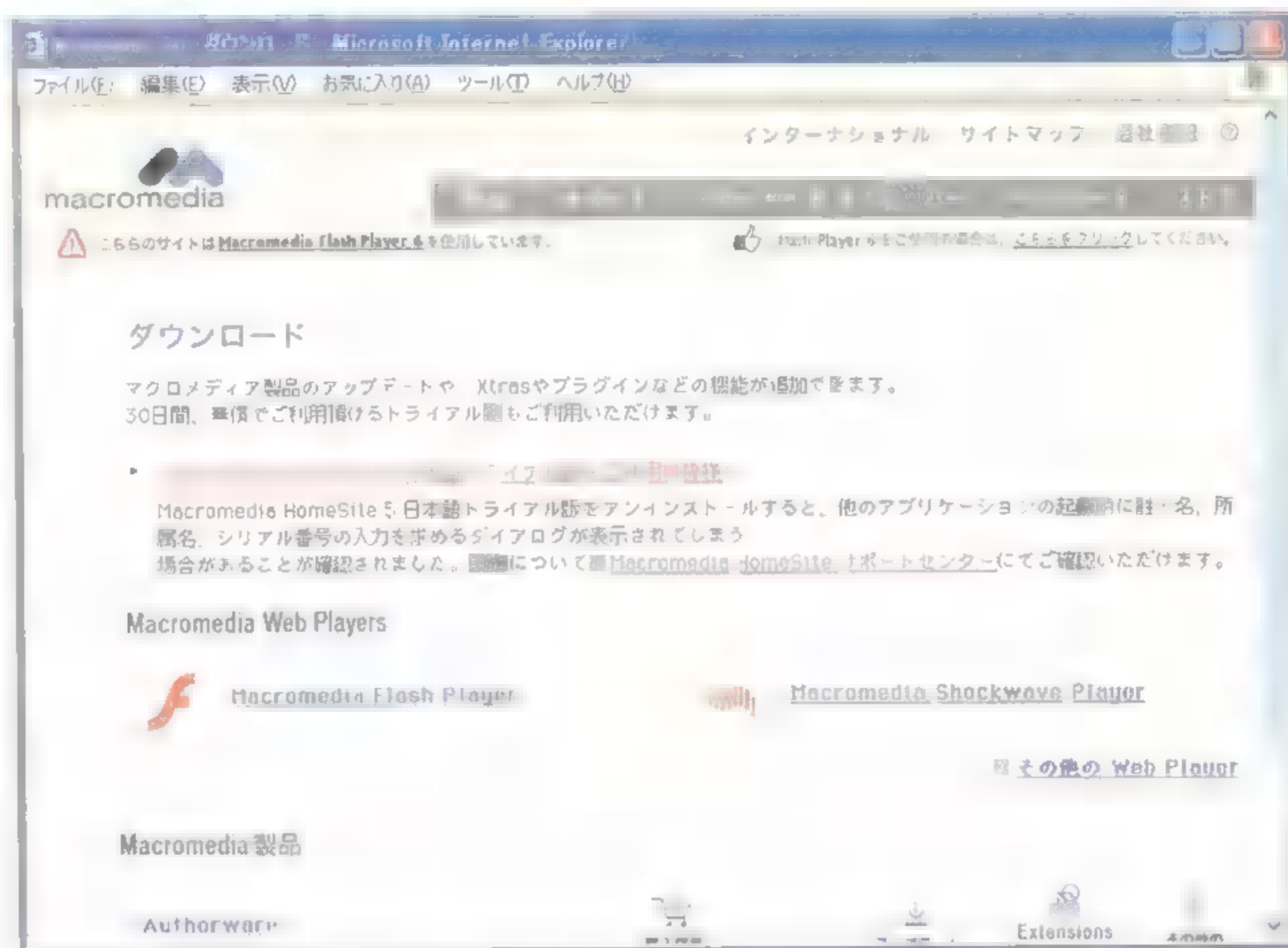
SWFファイルはMacromedia社の製品だけでなく、Adobe社のLiveMotionなどでも作成可能です。

Shockwave Player

Shockwave Playerは、Directorで作成したムービー（.dcr、.dir、.dxr）を再生するためのプラグインとして、多くのWeb制作者に支持されています。DirectorはLINGOというマクロ言語によって詳細な制御を行い、CD-ROMコンテンツやゲーム、アニメーションなど高度なマルチメディアコンテンツを作成することのできるツールですが、Web用に機能を限定したDirector Liteも発売されています。Shockwaveムービーは、データをダウンロードしながらムービーの再生を行うストリーミング再生に対応しています。

● Shockwave コンテンツ掲載の注意

HTML上では、<embed>タグでShockwaveコンテンツを貼り込みます。

見る側の環境に古いバージョンのプラグインがインストールされている場合には、最新版のツールで作成したShockwaveやFlashのムービーを再生できないことがあります。ページ内でこれらのムービーを使用する際には、最新のプラグインのダウンロードページへのリンクを用意しておいた方がよいでしょう。Shockwave PlayerやFlash Playerは、Macromedia社のWebサイトから無料でダウンロードすることができます。

▲Macromedia社のWebサイト（http://www.macromedia.com/jp/downloads）。ここからShockwave Playerがダウンロードできます

10 MULTIMEDIA TECHNIQUE

サウンド・データを使いたい

サウンドにはさまざまなファイル形式がありますが、Webページでサポートされる代表的なファイルには次のようなものがあります。ここは主なサウンド形式の紹介にとどまっていますので、それぞれのファイル形式の詳細や作成方法については専門書を参考にしてください。

また、サウンドファイルもほかの素材と同様にWeb上でも数多く配布されています。そういったファイルを利用してみるのもよいでしょう。利用にあたっては各サイトの規定にしたがってください。また著作権の侵害にあたらないかどうかにも十分注意しましょう。

WAV「.wav」

Windowsで標準的に使われるファイル形式です。

AIFF「.aif」

Macintoshで標準的に使われるファイル形式です。

AU「.au」

UNIXで標準的に使われるファイル形式です。WindowsとMacintoshの両方で利用することができます。

MP3「.mp3」

MPEG-1 Audio Layer3の略で、国際的な動画の圧縮規格のMPEG-1で利用されるサウンド圧縮形式のひとつです。音質の劣化を抑えながら高い圧縮率を実現できる点が特徴です。

RealAudio「.rm」

Realnetworks社（http://www.jp.real.com/）による、ストリーミング再生で有名な形式です。データの一部を読み込むと同時に再生を開始するため、時間がかからずファイルサイズの心配もありません。同社のRealPlayerで再生できます。

● Webページにサウンドをつける方法

サウンドをWebページに組み込むには、いくつかの方法があります。

 〜

リンクをクリックすると、関連づけられたプラグインやヘルパーアプリケーションが起動してサウンドを再生します。

<embed src="url">

プラグインを利用してサウンドを再生します。

HTML4.01では<object>タグ（p.281参照）を利用することになっていますが、<object>タグをサポートするブラウザがまだ少ないため、<embed>タグのほうが広く利用されています。

<bgsound src="url">

Internet Explorerが独自に拡張した機能で、Netscapeは対応していません。p.278を参照してください。

● サウンド掲載の注意

Webページを利用するユーザーが、サウンドやそのページの[illegible]楽しめるよう気を配りたい点があります。何事も同じですが、サウンドについてもユーザーが再度訪問をしたくなるようなページを作りたいものです。サウンドの効果的な使い方を研究してみてください。

ファイルサイズを小さくする

ユーザーの通信環境が必ずしも快適であるとは限りません。データのサイズはなるべく小さくするよう心がけましょう。

ファイルの形式とサイズを明記する

用意したファイルが相手の環境に対応しているかどうか、ダウンロードにどのくらいの時間がかかるか、あらかじめわかるようにファイル形式とそのサイズを書き添えておいたほうが親切です。

[illegible]くことができない場合への配慮をする

何らかの制約から、サウンドを再生したり聴いたりすることができない場合もあります。内容を説明するテキストを添えておくなどの配慮も必要です。

また、再生できる環境を制限するような組み込み方、データ形式も好ましいものではありません。

自動演奏はなるべく避ける

　ページを開くと同時に自動的にサウンドを再生するページがありますが、会社や学校をはじめ周囲を気にする場で閲覧しているユーザーには、迷惑になることもあります。なるべくならこのようなページの設定は避け、ユーザーがオン／オフを選択できるようにしましょう。

XHTML

iモード対応HTML

スタイルシート

JavaScript

Java

DynamicHTML

CGI

アクセシビリティ

第3部 Webページアドバンスドテクニック

ADVANCED TECHNIQUE

1 ADVANCED TECHNIQUE

XHTML

2000年1月にXHTML（eXtensible HyperText Markup Language）1.0が、続いて2001年3月にはXHTML1.1がW3Cから勧告されました。このXHTMLは、HTMLの機能をXML（eXtensible Markup Language）の仕様にしたがって定義し直した、HTMLの次期バージョンといえるものです。Webページの記述言語としてHTMLが広く普及し、定着している中、なぜこのような変更が加えられたのでしょうか。

HTMLからXHTMLへ

HTMLは、SGML（Standard Generalized Mark-up Language）という国際標準規格に基づいて作られた言語です。SGML自体は複雑な仕様になっていますが、そこから作られたHTMLは非常に簡単な仕組みであり、扱いやすい言語であったため、急速に普及しました。しかし同時に、この簡単で扱いやすいという点が問題を生む原因でもあったといえます。たとえば、ブラウザメーカーが独自に拡張を行ったり、ユーザー（Webページ制作者）の側がレイアウトのためにタグを意図的に誤用するなど、「文書の構造を定義するマークアップ言語」という本来の姿とは異なった方向へ発展してしまっています。また、実際にHTMLでWebページを作成してみるとわかりますが、HTMLは数多くの複雑なデータを処理するには向いていません。WWWの発展とともにいくつもの問題が指摘され、解決策が求められるようになったのです。

HTML4.0はこのような状況において、文書の体裁に関わるタグを廃止し、HTML本来の目的にのみ専念しようという方針をとったバージョンです。HTML4.0は多少の修正を加えられてHTML4.01となりました。さらにこのHTML4.01をXMLの仕様で定義し直して勧告されたのがXHTML1.0なのです。

XMLもまたSGMLの仕様によって定義されたものですが、「extensible」の名の通り、既存のタグしか利用することができないHTMLとは違ってユーザー側で独自のタグを定義できるという特色を持っています。XHTMLへの移行の目的は、HTMLにこのXMLの拡張性や汎用性を導入することにありました。

XHTMLの利点と将来性

XMLをベースとしたXHTMLでは、要素や属性を新たに定義して利用することが可能になります。またモジュール化という概念が導入されることで（XHTML1.1）、文書の構成要素を小さな単位に分け、必要に応じてそれらを組み合わせて使うといったこともできるようになります。このようにして、XHTMLでは従来のHTMLよりもより適切に文書データが扱えるようになると期待されています。

Webページの記述言語としてはまだHTMLが主流ですが、XHTMLへの移行を考え始めても

早すぎるということはありません。HTMLがSGMLをベースにしている一方、XHTMLはXMLをベースにしているという違いがありますが、XHTMLはHTMLの機能をXMLの仕様で定義しなおしたものですから、HTMLで定義されている要素や属性をそのまま利用できます。また、記述の仕方も、基本的に大きく異なるものではありません。ただし、従来のHTMLとの互換性をとるために、いくつかの点で注意する必要があります。

● HTML4.01との違い

XHTMLを使って文書を作成する場合の、HTMLとXHTMLとの主な違いを簡単にまとめておきます。

XML宣言

文書の文字コードとしてデフォルトのUTF-8、UTF-16以外のものを使用する場合には、文書の先頭に次のXML宣言を記述します。UTF-8、UTF-16を使用する場合は「encording=」以下を省略してもよく、XML宣言そのものを省略することもできます。

```
<?xml version="1.0"  encording="文字コード" ?>
```

文書型宣言

XHTML1.0にはHTML4.01と同様に3種類のDTDが用意されています（p.16参照)。このXHTML1.0にしたがって文書を作成する場合の文書型宣言は次のようになります。XML宣言につづいて適切なものを記述してください。

Strict DTD

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Strict//EN"
  "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">
```

Transitional DTD

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
  "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
```

Frameset DTD

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Frameset//EN"
  "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-frameset.dtd">
```

名前空間

XML文書では、複数の文書型定義を使用してほかで定義されている要素や属性を組み込むことができますが、そうした場合に同じ名前が衝突してしまう恐れがあります。その回避策として「名前空間（ネームスペース)」という手段を利用します。XHTML文書を作成する場合は、html要素に次のように記述することで、当該文書で使われる要素名や属性名がXHTMLの名前空間に属しておりXHTMLの規則にしたがっていることを示します。

```
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
```

文書は整形式でなければならない

整形式とは、簡単にいえば、開始タグと終了タグがあり、正しい入れ子関係になっていなければならないということです。正しく入れ子関係になっていなくてはならないのはHTMLでも同じですが、これまではブラウザが寛容に処理して表示できていたような誤りも、XHTMLではエラーの原因となるため、注意して記述しなければなりません。

要素名、属性名は必ず小文字で書く

HTMLでは大文字と小文字の区別はなく、どちらを利用しても問題はありませんでした。XMLでは大文字と小文字は区別され、たとえばLIとliは別の要素名として認識されます。XHTMLの仕様ではすべての要素名や属性が小文字で定義されているため、XHTML文書を作成する場合には要素名や属性をすべて小文字で記述しなければなりません。

タグは省略できない

XHTMLでは開始タグと終了タグの両方を必ず書かねばなりません。HTMLでは開始タグと終了タグの両方が省略できた要素（htmlなど）や、終了タグが省略できた要素（p、liなど）も、XHTMLではすべて開始タグと終了タグの両方を記述しなければなりません。

属性値はつねに引用符で囲む

HTMLでは属性値を引用符で（"や'）囲まずに記述することも認められていましたが、XHTMLではすべての属性値を引用符で囲まなければなりません。

属性は最小化できない

HTMLではcompact、selectedのように属性名を省略して記述することも認められていましたが、XHTMLではこうした表記の最小化は認められません。必ずcompact="compact"、selected="selected"のように「属性名="値"」の形式で書く必要があります。

空要素も閉じる

HTMLでは内容を持たない空要素を
<hr>の形式で書いていましたが、XHTMLでは
（要素名の後ろに「/」を入れる）か、<hr></hr>（終了タグを書く）のいずれかの形式にしなければなりません。なお、旧バージョンのブラウザでは
の形式が正しく表示されない場合があります。そのため、そうしたブラウザとの互換性を考えて
のように、「/」の前にスペースをひとつ置いて記述したほうがよいでしょう。また、<要素名/>（<要素名 />）と<要素名></要素名>では表示が異なるブラウザもあります。

script 要素と style 要素について

XHTML では「<」の文字はすべてタグをあらわす記号とみなされ、また、コメント扱いした内容は無視される仕様になっています。そのため、文書内にスクリプトやスタイルシートを組み込む場合には、「<![CDATA[」と「]]>」を使って次のように記述することになります。

```
<script type="text/javascript"><![CDATA[
        :
      スクリプト
        :
]]></script>

<style type="text/css"><![CDATA[
        :
      スタイル
        :
]]></style>
```

なお、代替策として外部スクリプトや外部スタイルシートの使用が推奨されています。

識別子は name 属性の代わりに id 属性を利用する

ある要素に固有の名前を指定する場合、従来の HTML では name 属性を使用していましたが、HTML4.0 から新しく id 属性が導入されました。name 属性は今後廃止される予定になっており、XHTML では、代わりに id 属性で指定するように定義されています。しかし、旧バージョンのブラウザとの互換性を考えて、name 属性も併記する方法もあります。この場合、id 属性と name 属性には同じ値を指定してください。

memo

XHTML について詳しくは下記 URL を参照してください。

http://www.w3.org/MarkUp/
http://www.w3.org/TR/xhtml1/

2 ADVANCED TECHNIQUE

iモード対応HTML

一般にインターネットのWebページはHTML（Hyper Text Markup Language）を用いて記述し、閲覧者側ではこのHTMLで書かれたファイルをInternet ExplorerやNetscape（Navigator）をはじめとするブラウザを使って表示させるというしくみになっています。

一方、iモード用のWebページを作成する場合は「iモード対応HTML」を使用します。これは携帯電話やPDA（個人用携帯情報端末）などでWebページを利用するために定義されたCompactHTMLをもとに、NTTドコモが独自に規定したiモード専用のページ記述言語です。CompactHTMLはHTML2.0、3.2、4.0のサブセットとして一部の要素や属性を省いたものですから、そのCompactHTMLを基盤としているiモード対応HTMLも、HTMLの知識があれば容易に扱うことができます。iモード対応HTMLには現在、1.0、2.0、3.0の3つのバージョンがあります。バージョンがあがるにつれて対応する機種が限定されますが、iモード対応HTML1.0を利用すれば全機種で動作させることができます。

iモード対応HTMLの詳細は、付録の「iモード対応HTML一覧」を参照してください。

● iモード対応HTMLとHTMLの違い

すでに述べたようにiモード用のホームページは、「iモード対応HTML」を使って記述します。iモード対応HTMLはHTMLのサブセットとして位置づけられており、HTMLの知識がほぼそのまま活用できるため、ここでは一般的なPC向けWebページを作成する場合とは異なる点のみに絞って、簡潔に説明します。その他Webページを作成するうえでの基本的な知識についてはp.12～p.15を参考にしてください。

文字

文字コードは、SHIFT-JISのみ対応しています。

また、PC用のWebページとは異なる大きな特徴として、iモードでは半角カタカナが使えます。さらに、あらかじめ用意された177種類の絵文字を利用できます。絵文字については付録の「iモード用絵文字一覧」を参照してください。

画像のファイルサイズ

最大94×72ドットまでに収めるよう推奨されています。

1画面に表示させるファイルは5KB未満となっていますが、これは表示される部分だけでなく、その他ファイルに含まれるタグの分も含めたサイズです。推奨ファイルサイズは2KBですので、ここから表示用のタグを除いた分量が、利用可能な画像サイズということになります。

■画像ファイル形式

iモードで利用できる画像形式はGIF形式とJPEG形式（一部対応機のみ）です。対応画像の詳細は下の表のようになっています。画像についてはp.286も参照してください。

iモード対応HTMLバージョン	3.0	2.0	1.0
ノンインターレースGIF	○	○	○
インターレースGIF	○	○	×[*1]
透過GIF	○	△[*2]	×[*1]
アニメーションGIF	○	○	×[*1]
JPEG	△[*3]	×	×

*1　ノンインターレースGIFとして表示
*2　カラー対応機種のみ
*3　JPEG対応機種のみ

● iモード対応HTMLでできること

リンクを利用して電話をかけることができます。下の例ではリンクをクリックすると01-2345-6789へ電話をかけます。

```
<a href="tel:01-2345-6789">～</a>
```

ダイレクトキーを設定することができます。「0～9」、「*」、「#」が利用できますが、「*」、「#」が利用できない端末もあります。下の例では携帯電話の「1」ボタンを押すと指定したURLへリンクします。

```
<a href="http://www.abc.co.jp/tko.htm" accesskey="1">～</a>
```

iモード用Java（iアプリ）をダウンロードすることができます（対応機のみ）。

<object>タグのid属性には<object>タグのIDを、data属性にはADFファイル（iアプリの設定情報が記述されているファイル）のURLを指定します。type属性の値は常にapplication/x-jamです。そして<a>タグのijam属性に<object>タグで指定したIDを設定して呼び出し、href属性でJava非搭載機種用メッセージを記述したHTMLのURLを記述します。

下の例では、リンクをクリックするとsample.jamで指定したiアプリがダウンロードされ、Java非搭載機種用ではerror.htmlの内容が表示されます。

```
<object declare id="imode1" data="sample.jam" type="application/x-jam">
</object>
<a ijam="#imode1" href="error.html">iアプリをダウンロード</a>
```

リンクを利用して電話帳登録を行うことができます（対応機のみ）。

<a>タグの属性として、telbook属性ではアドレス帳での表示上の名前を20byteまで指定（絵文字は使用不可）し、kana属性でアドレス帳で検索用の半角の名前を18byteまで指定（半角文字のみ）、email属性でアドレス帳でのメールアドレスを50byteまで指定できます。

次ページの例1では、リンクをクリックすると01-2345-6789へ電話をかけるとともに、「株式会社アンク」「ｱﾝｸ」「xxx@docomo.ne.jp」の情報が電話帳に登録されます。

例2ではリンクをクリックするとxxx@docomo.ne.jpへのメール送信画面が開くとともに、「株式会社翔泳社」「se」の情報が電話帳に登録されます。

例1
```
<a href="tel:01-2345-6789" telbook="株式会社アンク" kana="ｱﾝｸ"
email="xxx@docomo.ne.jp">
```
例2
```
<a href="mailto:xxx@docomo.ne.jp" telbook="株式会社翔泳社" kana="se">
```

メール送信画面を起動し、サブジェクトと本文の初期設定を行うことができます（対応機のみ）。

「mailto:メールアドレス」に続けて、?と「subject=」でサブジェクト名（題面）、&に続けて「body=」で本文を記述します。

下の例では、リンクをクリックするとxxx@docomo.ne.jpへのメール送信画面が、サブジェクト「Hello」、本文「Please mail me」が記入された状態で開きます。

```
<a href="mailto:xxx@docomo.ne.jp?subject=Hello&body=Please mail me">
```

● 全機種対応の画面を作成する目安・基準

携帯電話の機種は数多く、またより性能の良い新しい機種も続々と登場します。しかし、ページを見る人がすべて最新の機種でアクセスしてくるわけではありません。そのためｉモード用のWebページを作る際にはなるべく多くの環境で問題なく表示できるように気を付けたいものです。

現在のところ、NTTドコモが提示するどの機種でも問題なく表示できるWebページの基準を大きくまとめると、次のようになります。

テキスト表示	横全角8文字（半角時は16文字）×縦6行。
画像	モノクロ2階調のGIF形式で、サイズは最大96×72ドット、5KB以内にします。カラー画像を使用する場合も同様に5KB以内となります。
画面の容量	1画面が5KB未満になるようにします（NTTドコモでは2KB未満を推奨）。この5KBは、HTMLファイルだけでなく、同じ画面に表示される画像ファイルを含めたサイズを指すことに注意してください。

詳しくは

ｉモード対応HTMLについて詳しくはNTTドコモのWebページを参照してください。
http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/imode/

他社の携帯電話と接続サービスについて

携帯電話によるインターネットへの接続サービスは、各社がドコモのｉモードに続いてそれぞれ独自に対応をはじめ、すでに多くのユーザーに利用されています。基本的にWebページの閲覧とメールの送受信がメインサービスとなっている点は各社共通していますが、採用する規格が異なっているため、ひとつですべての機種をカバーする携帯電話用Webページを用意することは難しいというのが現状です。

3 ADVANCED TECHNIQUE

スタイルシート

Webページを記述するHTMLは、文書の論理的な構造をコンピュータに知らせるために開発された言語です。しかし実際は、Webの発展にともない、色やフォントサイズの指定、レイアウトのためのテーブルの利用など、文書の体裁、つまり見栄えまでも定義するようになっていきました。W3Cではこの状況を改めるため、構造に関する指定と体裁に関わる指定とを分離させ、HTMLの機能ではない体裁の制御については別の方法を導入しようと考えるようになりました。こうした姿勢のもとに生み出されたのがスタイルシートの概念です。

W3Cは1996年12月にCSS1（Cascading Style Sheets Level 1）を勧告し、Internet Explorer 3.0とNetscape Navigator 4.0がこの技術を導入しはじめました。その後1998年5月12日には次の規格であるCSS2が出され、現在ではCSS3の規格が検討されるまでになっています。

基本の書式

スタイルシートの基本的な書式は次のようになります。

```
h1   { color : yellow }
```

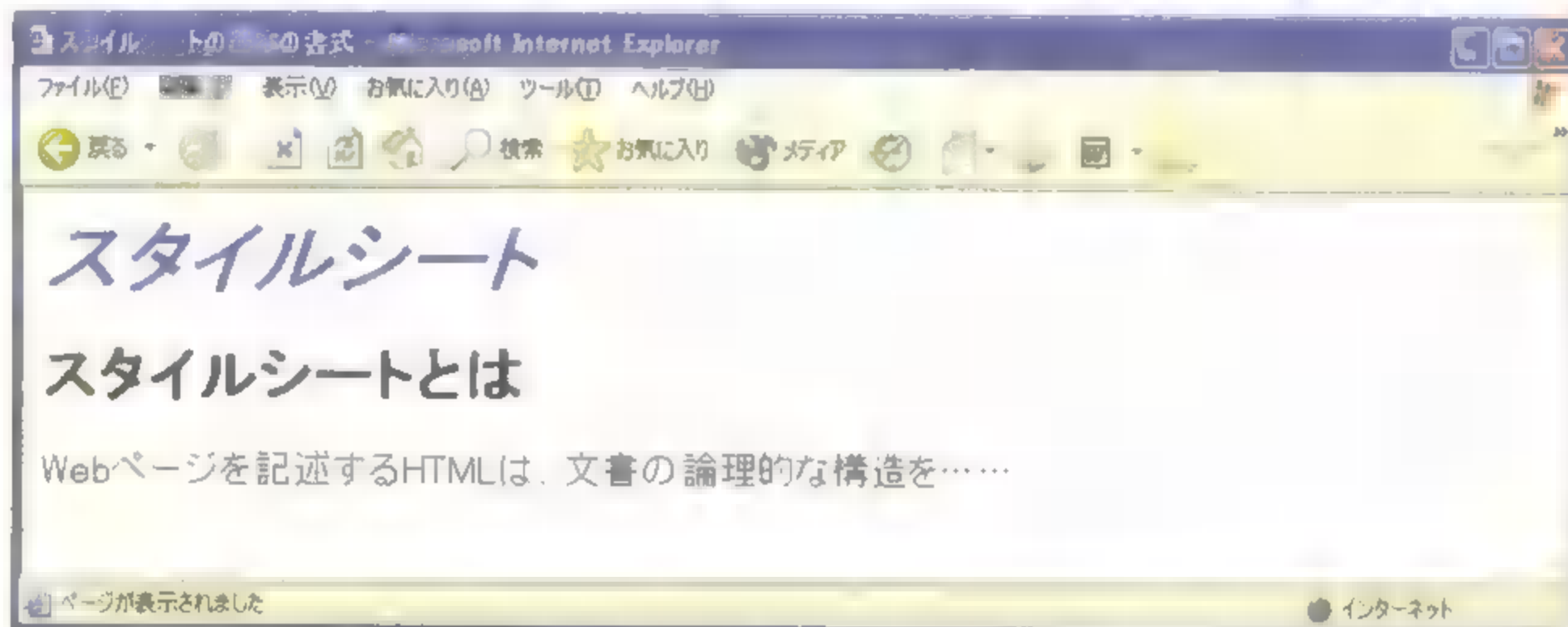
このように、スタイルシートは「"セレクタ"の"属性"を"値"にする」という形で設定し、HTML文書に組み込んでいくものです。

この例ではh1要素（<h1>タグ）に対して色を黄色にするよう指定しています。このスタイルを設定した文書ではh1要素が出てきた場合、その範囲は黄色で表現されることになるのです。

つまり、セレクタとはスタイルを適用させる対象です。属性と値には、セレクタに対してどのような指定をするか、指定するスタイルの種類とその具体的な値を記述します。

では、前述の例を使って実際に簡単なソースを書いてみましょう。

SOURCE

```
<html>
<head>
<title>スタイルシートの基本の書式</title>
<style type="text/css">
<!--
h1      {color:blue;
         font-style:italic }   /* h1要素をブルーのイタリック体に設定 */
-->
</style>
</head>
<body>
<h1>スタイルシート</h1>
<h2>スタイルシートとは</h2>
<p>
Webページを記述するHTMLは、文書の論理的な構造を……
</p>
</body>
</html>
```

文書中のh1要素（<h1>タグで囲まれた範囲）が、ブルー（color:blue）のイタリック体（font-style:italic）で表示されています。また/* */はコメントの部分です。

<!--と-->でスタイルの設定個所全体をコメントアウトして、スタイルシートに対応していないブラウザに対しては、その部分がそのまま表示されるのを防ぎます。

スタイルシートはこのように設定していきます。

● クラスとIDセレクタ

先の例ではセレクタはタグでしたが、「クラス」や「ID」という手段を利用する方法もあり、これらによって同じタグの特定部分や複数のタグなど、任意の範囲に柔軟にスタイルシートを適用することができるようになります。

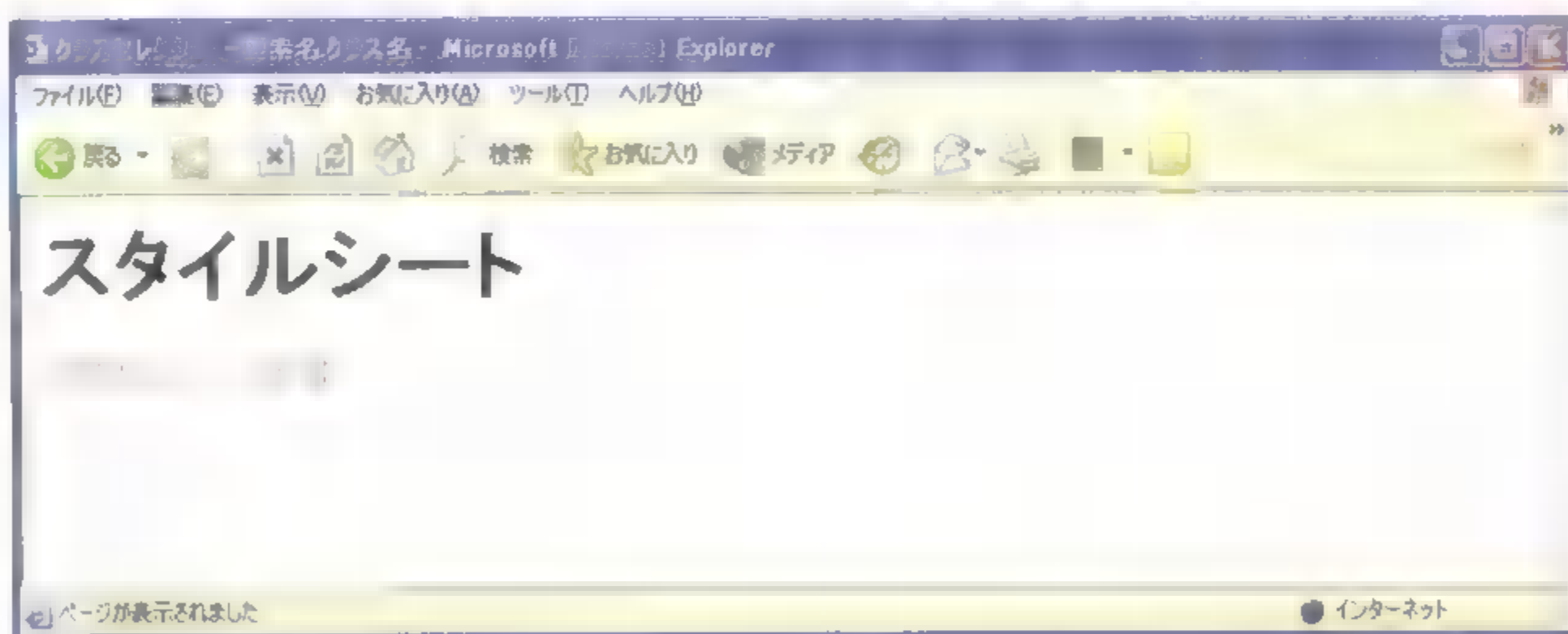
クラスによるセレクタ

特定のスタイルに名前をつけて定義するものです。ピリオド（.）を前につけて設定し、各タグのclass属性で指定します。

要素名.クラス名

ある要素の中でこのクラスが指定された要素にのみ、スタイルを適用します。

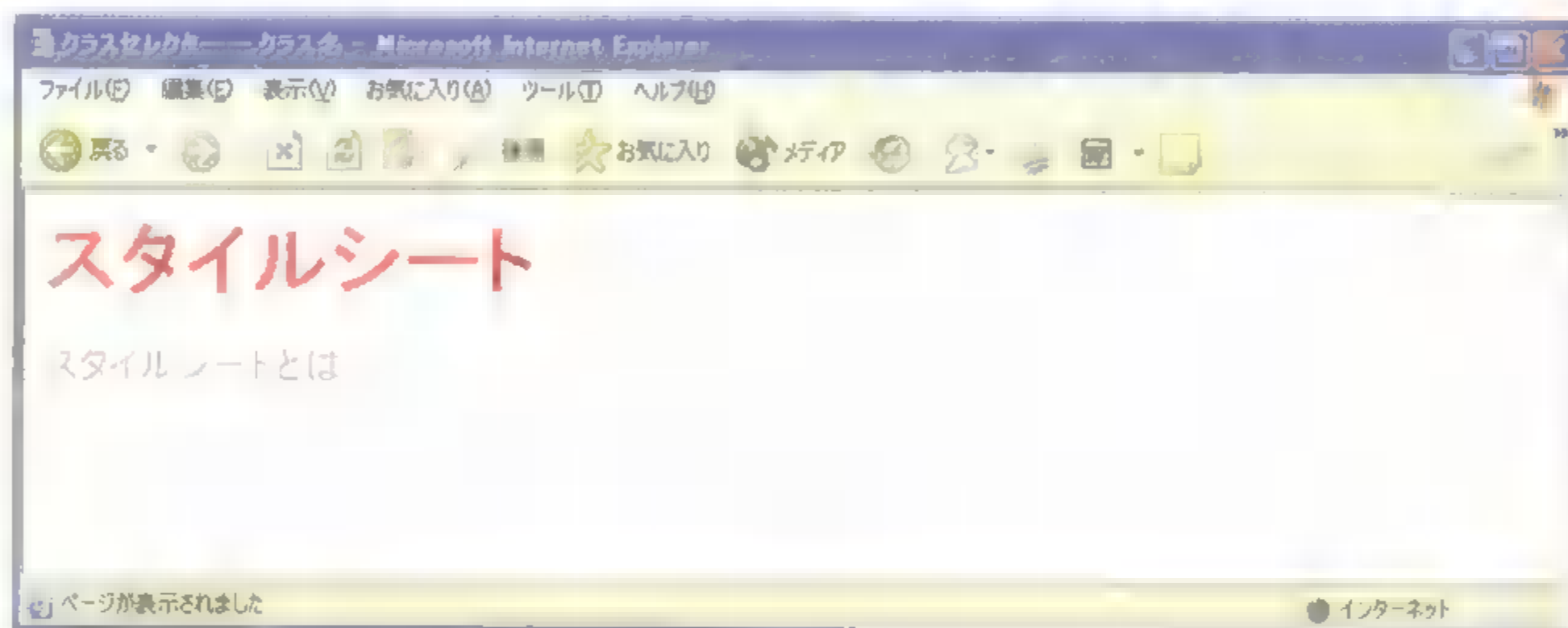
SOURCE

```
<style type="text/css">
p.text1   { color : red}
</style>

<h1 class="text1"> スタイルシート </h1>
<p class="text1"> スタイルシートとは </p>
```

これはp要素に対してtext1というクラスを適用する設定です。文書中text1というクラス名が指定されたp要素の範囲だけが、赤（color:red）で表示されます。同じtext1というクラス名を持っていても、要素が違うためh1要素にはスタイルが適用されません。

.クラス名

要素は特定せず、そのクラス名が指定された要素に対してスタイルを適用します。どの要素に対しても指定できる汎用のクラスです。

SOURCE

```
<style type="text/css">
.text1  { color : red }
</style>
  :
<h1 class="text1"> スタイルシート </h1>
<p class="text1"> スタイルシートとは </p>
```

ここではtext1という汎用的なクラス名を設定しています。要素の指定がないためどの要素にも適用でき、text1というクラス名をもったh1要素とp要素の両方にスタイルが適用されます。

IDによるセレクタ

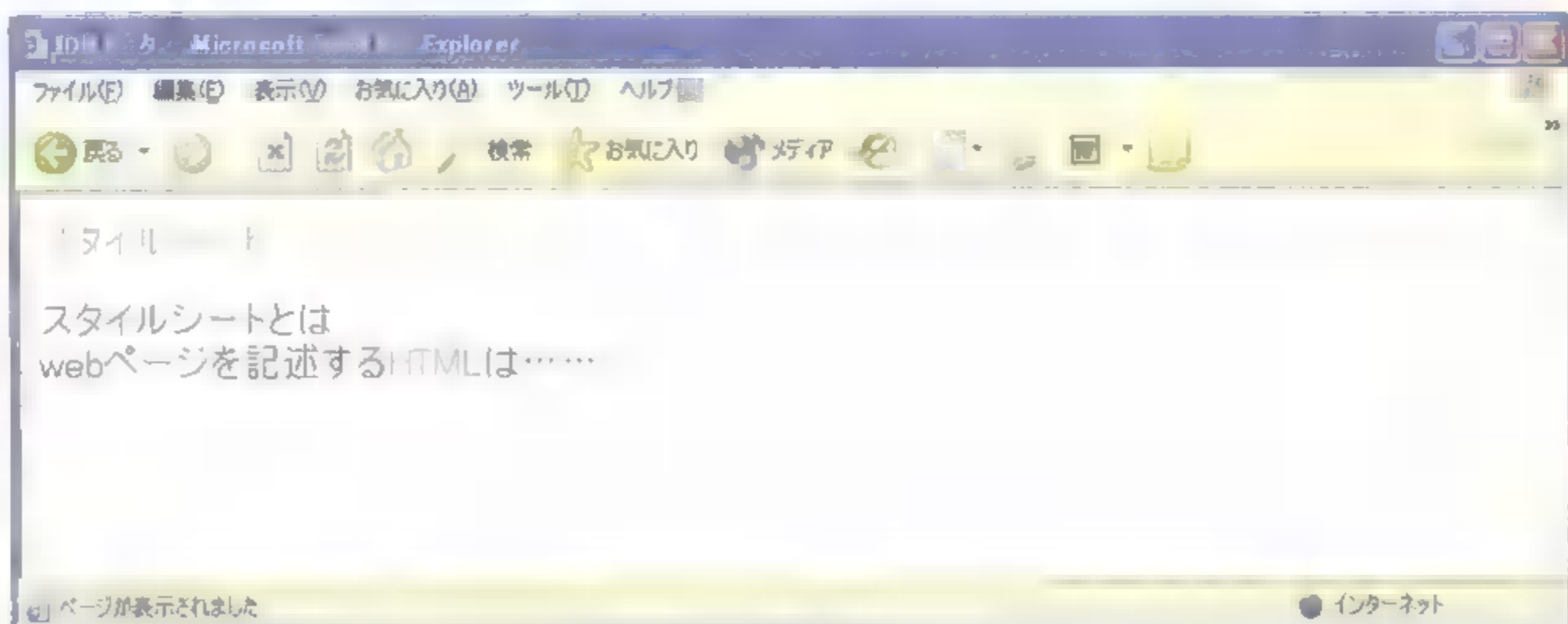
IDも特定のスタイルに名前をつけて定義するものですが、理論上は文書中の1箇所にしか指定できないことになっています（実際はInternet ExplorerでもNetscape（Navigator）でも複数箇所に指定できるようです）。「#」（シャープ）を前につけて設定し、各要素のid属性で指定します。クラス同様、要素を指定して定義する方法と、要素を指定しないで定義する方法とがあります。

要素#ID

#ID

要素#IDのかたちでは、そのIDが指定された要素に対してのみスタイルを適用します。一方#IDのかたちでは、どの要素に対しても指定できます。

SOURCE

```
<style type="text/css">
p#text1  { color : blue }
#text2   { color : red }
</style>
      :

<p id="text1">スタイルシート</p>
<p>スタイルシートとは<br>
webページを記述する<span id="text2">HTML</span>は……</p>
```

ここではp要素に対してのみ使用できるtext1というIDと、使用する要素を問わないtext2というIDを設定しています。text1をIDにもつp要素にtext1のスタイル、text2をIDにもつspan要素にtext2のスタイルが適用されます。

● 適用方法と適用の優先順位

HTML文書にスタイルシートを組み込むにはいくつかの方法がありますが、基本となるのは次の3通りです。

インラインスタイルシート
埋め込みスタイルシート
スタイルファイルの使用

このほかにブラウザが初期設定として持っているスタイルシートやユーザーが定義するスタイルシート、また「!important」を利用してスタイルの優先順位を逆転させる方法などもあります。

そのため複数のスタイルが設定された場合にどのスタイルが優先されるのか、そのルールはやや複雑ですが、ページ制作者の立場から上記の3通りの方法について見るならばおおむね次のようになります。

インラインスタイルシート	埋め込みスタイルシート	スタイルファイルの使用
← 高い	優先順位	低い

つまり、同じタグに対していくつかの方法でスタイルが設定されていた場合、タグに直接記述するインラインスタイルシートがもっとも優先されるということです。

この点をふまえて状況に応じて使い分けることが、スタイルシートを使いこなすコツといえます。それぞれの記述方法優先順位別にみていきましょう。

インラインスタイルシート

style属性（p.6参照）を使用し、タグに直接スタイルを記述する方法です。 たとえば次のようになります。

```
<h1 style="color:bule">見出し1</h1>
```

この場合、指定したタグの範囲にのみ、スタイルが適用されます。

埋め込みスタイルシート

<style>と</style>タグ（p.272参照）の間でスタイルを定義し、これを<head>と</head>タグの間に配置する方法です。記述したページ内でのみ有効となります。ページごとにスタイルを適用したい場合などに便利な方法です。具体的な記述方法は『基本の書式』（p.318）の例を参照してください。

スタイルファイルの使用――<link> タグによる読み込み

HTML 文書とは別にスタイルを設定したスタイルファイル（拡張子 *.css）を用意し、これを <link> タグ（p.34 参照）で読み込む方法です。

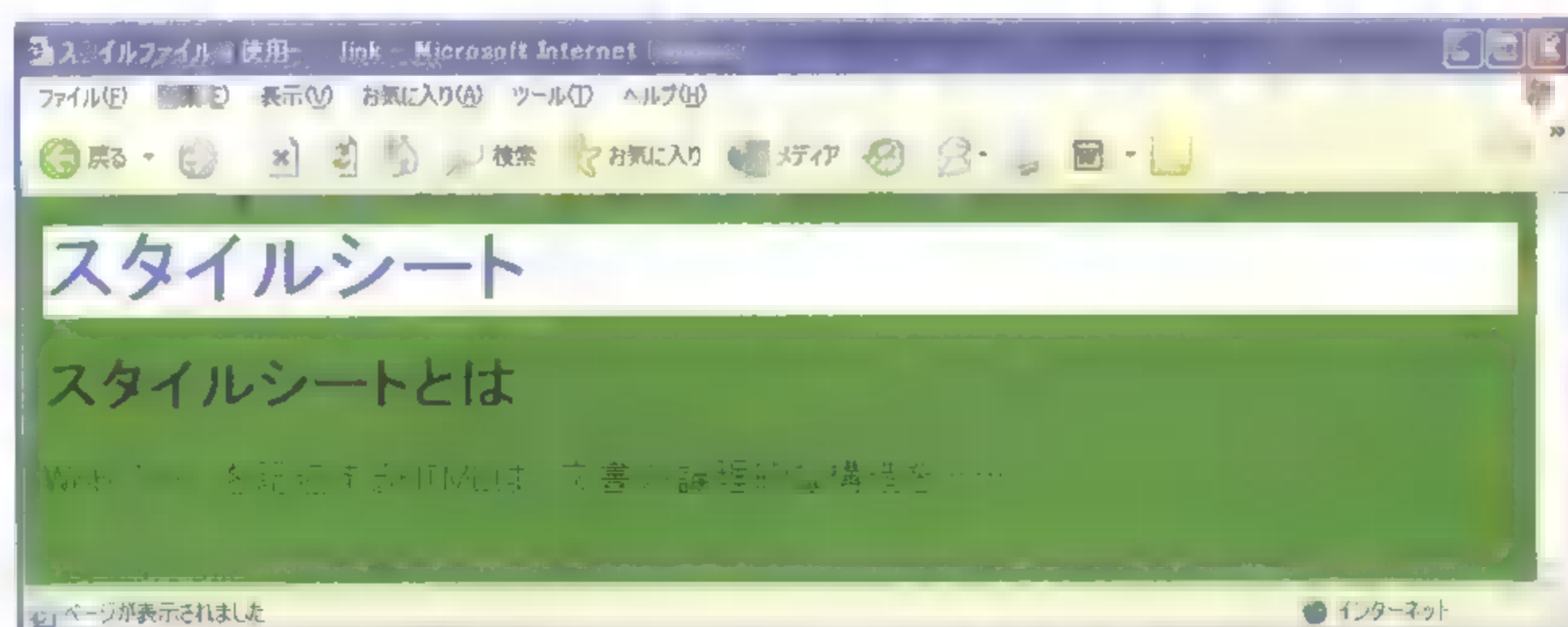
これは複数の HTML 文書に同じスタイルを適用したい場合などに便利な方法です。またサイトの保守管理が比較的容易だというメリットもあります。

たとえば次のようになります。

style.css の SOURCE

```
body    {background-color:green}
h1      {color:blue;
         background-color:white}
```

SOURCE

```
<html>
<head>
<title>スタイルファイルの使用――link</title>
<link rel="stylesheet" href="style.css" type="text/css">
</head>
<body>
<h1>スタイルシート</h1>
<h2>スタイルシートとは</h2>
<p>
Web ページを記述する HTML は、文書の論理的な構造を……
</p>
</body>
</html>
```

▲別ファイル（style.css）で定義したスタイルが適用されます

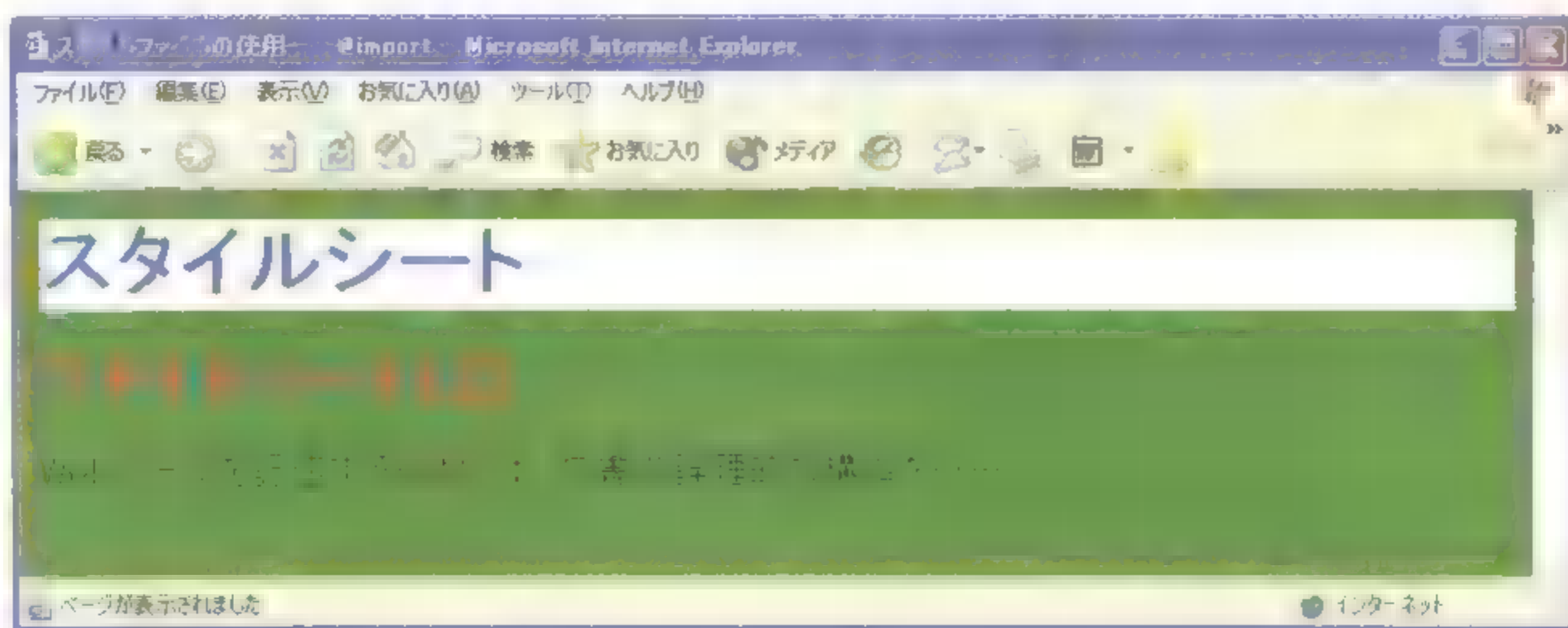
スタイルファイルの使用――@importによる読み込み

HTML文書とは別にスタイルを設定したスタイルファイル（拡張子*.css）を用意し、これを「@import」で読み込む方法です。「@import」は、<style>タグと</style>タグの間に記述し、同時にほかのスタイルも記述する場合には、「@import」の後に記述するようにしてください。ただし、Netscape Navigator 4.xで「@import」を使用すると、エラーが発生する場合がありますので、注意してください。

style.cssのSOURCE

```
body    {background-color:green}
h1      {color:blue;
         background-color:white}
```

SOURCE

```
<html>
<head>
<title>スタイルファイルの使用――@import</title>
<style type="text/css">
<!--
@import url("style.css");
h2 { color: red }
-->
</style>
</head>
<body>
<h1>スタイルシート</h1>
<h2>スタイルシートとは</h2>
<p>
Webページを記述するHTMLは、文書の論理的な構造を……
</p>
</body>
</html>
```

▲別ファイル（style.css）で定義したスタイルが適用されます

スタイルシートのメリットとデメリット

スタイルシートを使うと、構造と体裁を分離してそれぞれを別の手段で表現できますので、体裁だけを一括して指定・変更できるようになります。これによってサイトの体裁や雰囲気を統一しやすくなるとともに、保守管理の手間が大幅に軽減されます。また同時に、実に多様で柔軟な表現を期待できるようになります。

そしてW3Cが打ち出している「アクセシビリティ」の向上があります（p.336参照）。アクセシビリティとは、ユーザーがどんな状況にあってもアクセスしやすく、情報を得やすくするというような意味です。Webページにアクセスしてくるユーザーの環境は必ずしも1つではありません。たとえば、ブラウザや機器環境の問題から、あるいは身体的なハンディから、アクセスすること自体が難しく、それに対処するための特別な環境を備えている人もいるのです。また、レイアウトに頼った表現を理解できない人もいます。このような場合、あらかじめ文書の構造と体裁を分離しておけば、文書の構造を基本として、その他の体裁（や情報自体の提供方法。たとえば視覚に頼らなくてもすむよう、音声に変換するなど）についてはそれぞれの状況に応じた処理を行うといったことが可能になるのです。

このようにさまざまなメリットが考えられるスタイルシートですが、同時にデメリットも存在します。

まず、未対応のブラウザがあるということです。対応をうたうブラウザでも、完全には対応していない場合もありますし、ブラウザやそのバージョンによっても動作や見え方が異なる場合があります。こうした点から、スタイルシートを使用する際には充分に注意し、サポートしていないブラウザに対する配慮も必要です。

このように、大きなメリットを持つと同時にデメリットもまだ少なくない状態にありますが、W3CがWebページにおける構造と体裁の分離を打ち出した現在、スタイルシートは正しくWebページを記述するためにけして無視できない技術となっています。

スタイルシートの詳細は、本書姉妹書の『スタイルシート辞典 第3版』をご覧ください。

4 ADVANCED TECHNIQUE

JavaScript

Webページにアクセスするとブラウザのステータスバーに文字が流れたり、ボタンやリンク元をクリックしたときにアラート（警告）が表示されたりすることがあります。こうした機能はJavaScriptを使うことで実行できます。

この項では、JavaScriptがどのようなものであるのか、概要に絞ってみていくことにします。

同様にページに動きを加える技術としてJava（次項参照）というものがあります。JavaScriptと名前は似ていますが、両者はまったく別のものですので混同しないように注意してください。

● JavaScriptとは

JavaScriptはNetscape社が開発したスクリプト言語です。開発当初はLiveScriptと呼ばれていましたが、後にJavaScriptと名称を変更し現在に至っています。このJavaScriptはまずNetscape Navigator 2.0に導入され、その後Internet Explorer 3.0でも導入されました（より正確にいえば、Internet Explorerに導入されているのはJavaScript互換のJScriptといわれるものです）。

Webページは基本的にHTMLとスタイルシートで記述します。しかし、HTMLやスタイルシートはページがどのような構造になっていて、どのように表示されるべきかを指定する働きしかもっていません。作成されたページはあくまでも静的なものでした。JavaScriptを利用すると、こうしたページに動きをもたせたり、これまでCGIを必要としていた処理をある程度行ったりできるようになるのです。

JavaScriptの主な特徴として、まず、HTML文書内に直接記述できるという点があります。コンパイル（プログラミング言語で作成したソースコードをコンピュータが理解できる機械語に変換すること）のような作業は必要ありません。そして、ユーザー側にはJavaScriptに対応したブラウザさえあれば、OSの種類が違っていても（理論上は、ですが）スクリプトの実行が可能であるという点もあげられます。

● JavaScriptでできること

JavaScriptを使うと何ができるのでしょうか。Webページで比較的よく見かける使用例をいくつかあげてみると、次のようになります。

- ステータスバーにテキストを表示する
- クリックしたときにアラートを表示する
- ユーザーのブラウザのバージョンをチェックして、適切なページに振り分ける
- 任意の設定で新しいウィンドウを開く。新しいウィンドウから元のウィンドウの内容を操作する
- マウスカーソルが通過したときに、画像を変更する

● JavaScriptの記述方法

HTML文書にJavaScriptを組み込むには、いくつかの方法があります。

<script> タグの使用

JavaScriptでは<script>タグ（p.274参照）を使用してスクリプトをそのままHTML文書に記述することができます。これがもっとも一般的な方法です。

```
<script language="JavaScript">
<!--
  ここにスクリプトを記述
//-->
</script>
```

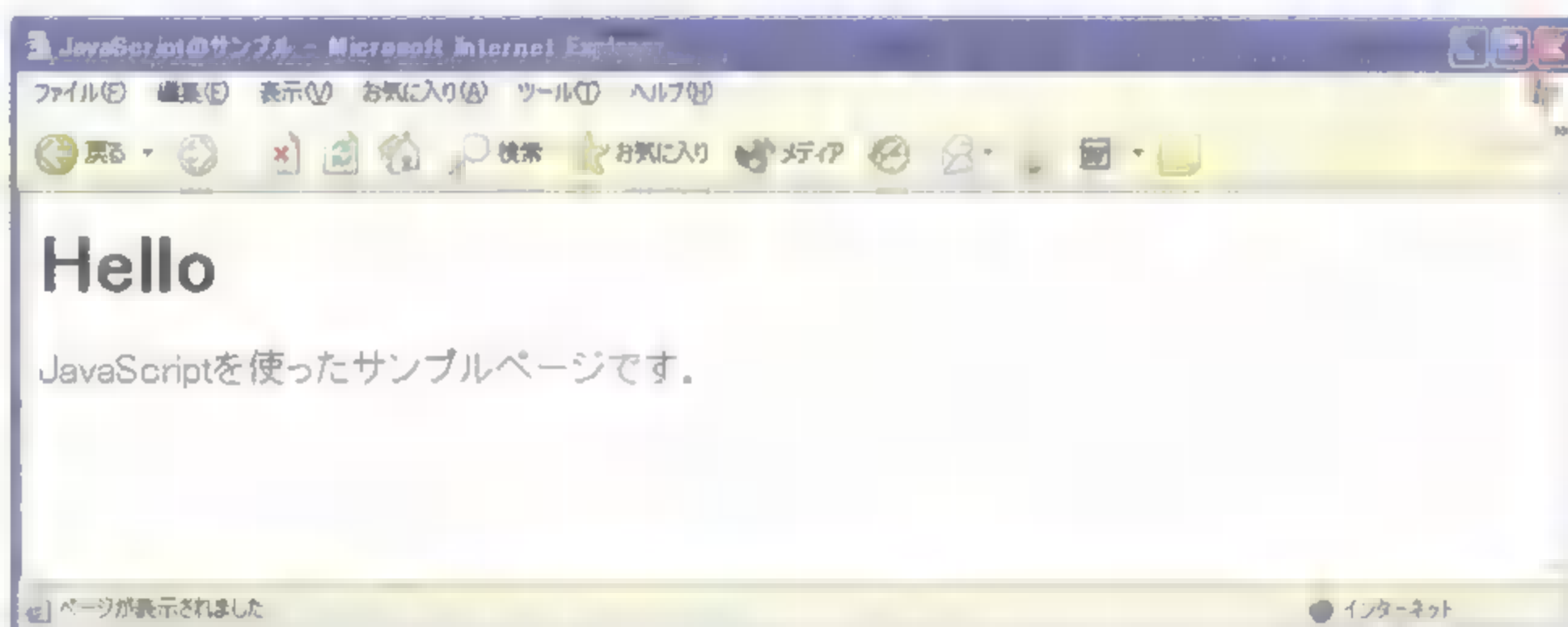
このように記述することで、ブラウザは<script>タグと</script>タグの範囲をJavaScriptであると認識し処理を実行します。

JavaScriptは現在までに、JavaScript1.0、1.1、1.2、……1.5と数種類のバージョンが公開されています。language="JavaScript1.x"とバージョンを指定すると、指定されたバージョンに対応したブラウザでのみ動くようになります。こうすると、新しいバージョンのJavaScriptでスクリプトを記述した際などに、そのバージョンに未対応のブラウザでエラーが発生することを防ぐことができます。

JavaScriptに対応していないブラウザに対しては、<!--と//-->でスクリプトをコメントアウトして、スクリプトがそのまま表示されるのを防ぎます。必ずしも書かなくてはいけないものではありませんが、JavaScriptに対応していないブラウザを使用しているユーザーへの配慮として記述しておくと良心的です。

では実際に<script>タグを使って、簡単なスクリプトを書いてみましょう。

```
<html>
<head>
<title>JavaScriptのサンプル</title>
</head>
<body>
<script language="JavaScript">
<!--
  document.write("<h1>Hello</h1>");
// -->
</script>
JavaScriptを使ったサンプルページです。
</body>
</html>
```

このHTML文書をブラウザで読み込むと次のようになります。

language属性はdeprecated

<script>タグを使ってHTML文書中にJavaScriptを記述する場合は、従来からの流れで<script language="JavaScript">を使用するのが一般的です。しかし、このlanguage属性はHTML4.0で推奨しない（deprecated）属性に指定され、代わりにtype属性を使用するよう規定されました。HTML4.0にしたがう場合は、language属性に代わってこのtype属性を指定するのが仕様上の正式な記述方法です。ただし、旧バージョンのブラウザとの互換性の問題があるため、使用には注意が必要です。

```
<script type="text/javascript">
<!--
    スクリプト
//-->
</script>
```

外部ファイルを読み込む

また、スクリプトを記述したファイルを別に保存しておき（拡張子*.js）、これをHTML文書に読み込んで実行するという方法もあります。この場合、スクリプトファイルはsrc属性で指定し、スクリプトを読み込みたいところに次のように記述します。複数のページで同一のスクリプトを使用したいときなどに便利な方法です。

```
<script src="xxx.js"> ~ </script>
```

実際にJavaScriptを記述するためには、一定の文法やオブジェクト・プロパティ・メソッド等さまざまな用語を理解する必要がありますが、これらについては本書姉妹書『JavaScript辞典　第2版』をご覧ください。

● JavaScriptを使う際の注意

JavaScriptを使ったページを作成しようと思ったときに注意しなくてはならないのは、ブラウザの種類やブラウザのバージョンによって、動作が異なる場合があるということです。スクリプトによってはうまく動作しなかったり、エラーが発生する原因になることもありますから、充分にテストしてから使用するようにしましょう。

そして当然のことながらJavaScriptをサポートしていないブラウザや、ユーザーがJavaScriptを実行しない設定にしている場合にも動作しません。アクセスしてくるユーザーの環境はさまざまだということを忘れず、JavaScriptに対応していない場合への対処方法を用意することも重要です。

Web上にはコピー&ペーストするだけで利用可能なスクリプトを提供するサイトがたくさんあります。もちろんそうしたソースを利用するのもひとつの手ですが、そのスクリプトがどのような処理を行っているのか理解でき、自分でも作成することができるようになれば、Webページを作成する楽しみがさらに増えることでしょう。

本書姉妹書『JavaScript辞典　第2版』を参考に、ぜひチャレンジしてみてください。

5 ADVANCED TECHNIQUE

Java

JavaScriptと名前が似ているという理由から、JavaやJavaアプレットという名前に反応した人もいるのではないでしょうか。しかし、JavaScriptの項でも述べたように、JavaとJavaScriptは別のものです。

ここではそのJavaについて簡単に説明します。

● Javaとは

JavaはSun Microsystems社が開発したプログラミング言語です。さまざまなデバイス（装置）上で同じソフトウェアを動かせるようにしようという発想のもと、セキュリティ面やネットワーク機能を強化して開発されました。そのため、同じプログラムをどのようなコンピュータでも実行できるという点が最大の特徴となっています。この特徴はJava仮想マシン（Javaバーチャルマシン・JavaVM）というしくみによって実現されます。これはJava仮想マシンがコンピュータのなかにJavaが動作するための仮のマシンをつくり、ここでJavaを動作させるというものです。ですからOSやハードウェアが異なるコンピュータであっても、Java仮想マシンさえあれば同じJavaプログラムが動作可能なのです。

こうした特徴を活かし、Javaはさまざまな用途で利用されています。通常Javaで作成したプログラムはJavaアプリケーションと言いますが、Webページで利用されるような比較的小さなプログラムは特にJavaアプレットと呼ばれています。

● Javaアプレットでできること

Javaアプレットを利用すると、Webページに動きを加えることができます。HTMLやスタイルシートで記述されたWebページは文書の構造や体裁の情報しか持たないため、基本的に動きというものはありません。しかし、ここにアプレットを組み込むことで、テキストや画像を制御したりタイマーを設定するなど、動的な表現が可能になるのです。

● Javaアプレットを Webページに組み込む

プログラミングについては本書の域をこえるためここでは割愛します。アプレットは素材を提供するサイトから入手することも可能です。そういったものを利用してみるのもよいでしょう。

アプレットを Web ページに組み込むには <applet> タグを利用します。

```
<applet code="クラスファイル名"
        width="アプレットの幅"（ピクセルまたは %）
        height="アプレットの高さ"（ピクセルまたは %）
        name="他のアプレット等との間でアプレットを認識させるための名前（省略可）">
<param  name="引数の名前"
        value="name で指定した引数に対する値（省略可）">
ここにアプレットに対応していないブラウザに表示させる内容を書くことができます。
</applet>
```

HTML4.01 では <applet> タグは推奨しないタグに指定されており、代わりに <object> タグ（p.281 参照）を利用することになっています。しかし <object> タグをサポートするブラウザがまだ少ないため、<applet> タグが引き続き利用されています。

● Javaアプレットを利用するには

Java は OS やハードウェアに依存せず、どのような環境でも動作可能というだけでなく、本格的なプログラムを作成してネットワーク上やローカル環境で利用できるというメリットがあります。たとえば、データベースを有効に活用できるようにしたり、企業内でアプリケーションの導入・管理にかかるコストの削減につなげることもできるのです。

しかし、本格的なプログラムを作成できるということは同時にプログラミングが難しいということでもあります。習得は容易ではありませんし、インターネットやイントラネットなどネットワークで利用したい場合にはネットワークの知識も要求されます。また、開発用の環境を用意し、コンパイル（プログラム言語で作成したソースコードをコンピュータが理解できる機械語に変換すること） 作業を経なければなりません。総じてあまり手軽とはいえない言語です。

だからといって Java アプレットは自分とは無縁のものだと即断することはありません。タグの説明の部分で触れたように Web ページ用の素材として自作のアプレットを公開配布しているサイトは数多くあり、そのような素材を借用することも可能だからです。ただし、利用は自己責任のもとで行うとともに、Java アプレットを利用できない環境にある人への配慮も忘れないようにしましょう。

Java についての説明は本書の域をこえるためこれ以上の説明は割愛します。より詳細については Web ページや専門書を参照してください。

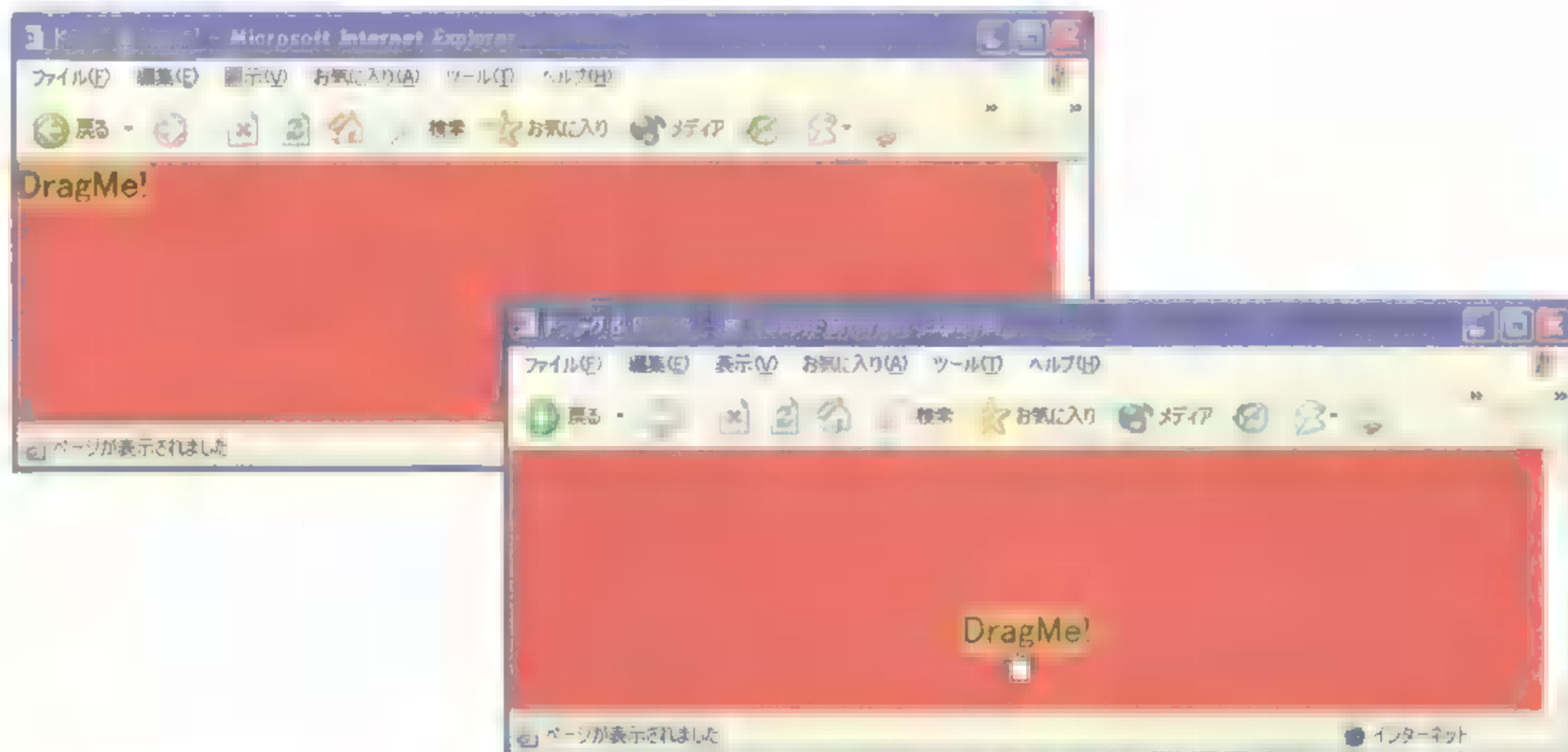
6 ADVANCED TECHNIQUE
DynamicHTML

Internet ExplorerおよびNetscape Navigatorのいずれもバージョン4から導入されたDynamic HTMLでは、HTMLやスタイルシートなどによって構築したページにおいて、ページ上の各種要素をオブジェクトとして扱い（Document Object Model：DOM）、スクリプト言語を通じて変化を加えることができます。一般的にHTMLのみで作成されたページは、リロード（再読み込み）をしないとページ内容を変化させることはできませんが、Dynamic HTMLでは、リロードすることなくページを変化させることができるのです。また、マウスの動作やキーボード入力など、さまざまなイベントをキャッチすることができます。このためDynamic HTMLを用いることにより、ユーザーの入力に反応するインタラクティブなページの構築が可能となります。

Dynamic HTMLについて詳しくは専門の書籍をご覧ください。本書では大まかな概要のみを解説します。

● Dynamic HTMLでできること

具体例として、Dynamic HTMLでは以下のような機能を、Webサーバへアクセスすることなく実現できます。

- 文字の色、サイズ、スタイル、表示・非表示の変更
- 画像の拡大、縮小、特殊効果の付与
- 文字や画像の位置変更、重ね合わせ、アニメーション効果の演出
- ページ要素のドラッグ・アンド・ドロップ

▲簡単なDynamic HTMLの例。ユーザーがページ上のオブジェクトをドラッグ＆ドロップすることができます

● Dynamic HTMLのデメリット――汎用性

このようにDynamic HTMLは、Webページの可能性を拡張するすばらしい技術ですが、問題点として汎用性が挙げられます。まず、Dynamic HTMLという単一の名称を用いながら、Netscape NavigatorとInternet Explorerでは規格が異なるため、一方の規格に準拠して作成したページが、もう一方のブラウザでは閲覧できないという事態が発生します。また、ブラウザのバージョンによっても利用可能なDynamic HTMLに違いがあります。このためDynamic HTMLを用いる際には、ユーザーにおけるブラウザ環境を考慮し、複数のページを用意するなどの配慮が必要です。以下では、ブラウザごとのDynamic HTMLの特徴を説明します。

Internet Explorer

Internet ExplorerにおけるDynamic HTMLは、バージョンを重ねるにつれてその機能を拡張しています。バージョン4からページ上のテキストやテーブル、画像などほぼすべての要素について、直接それらの位置・サイズ・スタイル・表示条件などが自由に設定・変更できます。また、これらの要素はユーザー入力などの各種イベントを、個々に取得できます。ブラウザ自体が各種オブジェクトに対して視覚的な特殊効果を与える機能を持ち、またHTMLファイルとは別に用意したデータファイルを、データベース的に扱う機能も備えています。バージョン5では、Dynamic HTML機能のコンポーネント化が可能となり、バージョン5.5では単体で機能するアプリケーションの構築や、独自のタグの宣言などが可能となっています。

Netscape Navigator

Netscape NavigatorにおけるDynamic HTMLは、Internet Explorerに比べるといささか状況が複雑です。

バージョン4.xにおけるDynamic HTMLは、<layer>というタグを用いることによって実現します。レイヤーは、透明な膜に例えるとわかりやすいでしょう。Netscape Navigator 4.xにおいては、これらレイヤーに対して変化を加えることでDynamic HTMLを実現します。つまり、ページ上のテキストやテーブル、画像などの位置・サイズ・表示条件などを変更する場合、まず対象となる要素をレイヤー上に配置した上で、レイヤーに対してスクリプトを通じ変化を加えます。同様にイベントの取得を行うためには、レイヤーにイベントハンドラを設定します。

レイヤー以外に挙げられるNetscape Navigator 4.xのDynamic HTML機能としては、ユーザー環境にインストールされていないフォントを、サーバ上からダウンロードして表示するダイナミックフォント機能があります。

なお、Netscape 6ではDynamic HTMLへの対応を全面的に廃止しています。このためレイヤーやダイナミックフォントは使用できません。しかしながら、JavaScript 1.5およびDOM1、HTML 4.xを駆使することによりDynamic HTML的な動作を実現することができます。またNetscape 6では、オブジェクトにおいて取得できるイベントが豊富になったため、バージョン4と比べてInternet ExplorerにおけるDynamic HTML機能との類似点がより多くなっています。

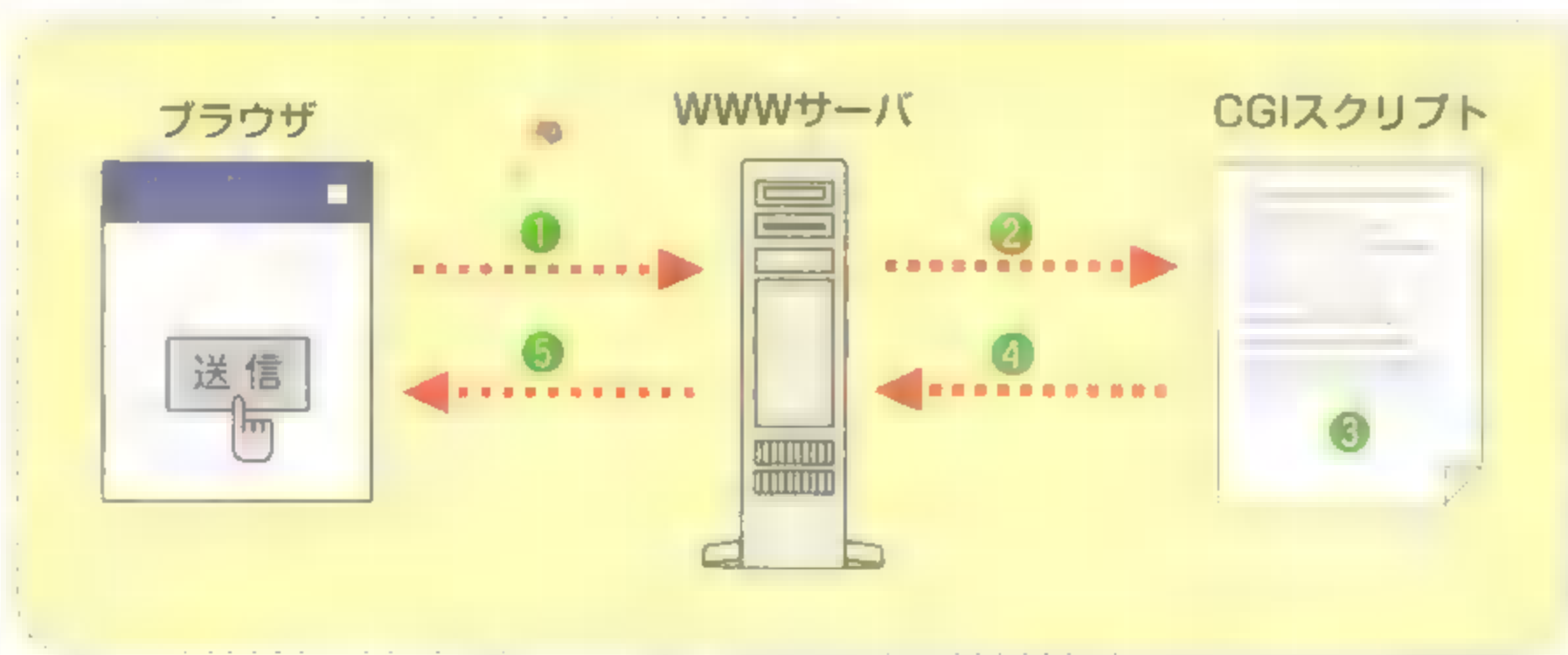
ADVANCED TECHNIQUE

CGI

Webページで頻繁に見かけるアクセスカウンタや掲示板は、CGI（Common Gateway Interface）というシステムによって実現されています。これは、ブラウザからの入力をサーバに渡し、その要求に応じてサーバ内のプログラムを実行させて、その実行結果を再びブラウザに返すしくみのことです。アクセスカウンタや掲示板のほか、フォームに入力された内容をメールで送信するフォームメール、パスワードによるアクセス制限など、さまざまなことに利用されています。

ここでは簡単にCGIについて説明します。

● CGIのしくみ

CGIで処理を行うしくみは次のようになっています。

❶ ブラウザがWWWサーバにCGIスクリプトの起動を要求
❷ WWWサーバがCGIスクリプトを起動
❸ サーバ上で処理
❹ CGIスクリプトが実行結果を返す
❺ 実行結果をWWWサーバがブラウザに返す（ブラウザに表示）

ブラウザ側は入力および実行結果の表示を行うだけで、特別な処理を必要としません。そのため一般のPC用のWebページだけでなく、iモードなどの携帯端末でもCGIが利用できるのです。

CGIスクリプトは、現在はPerlという言語で書かれることがもっとも多いのですが、C言語やUNIXのシェルスクリプトなども使われます。いずれにせよプログラムの知識が要求されるため、HTMLファイルの作成よりは高度な作業となります。だからといって、即CGIの利用をあきらめることはありません。無料のスクリプトがWeb上で数多く公開されていますので、それを活用す

ればよいでしょう。

CGIの利用

スクリプトを入手しただけではCGIは利用できません。利用するためには、まず、自分のWebページのサーバ（プロバイダなど）がCGIの使用を許可していることが前提となります。セキュリティの面からCGIの使用を制限したり、使用自体を禁止しているプロバイダもあるからです。CGIが使用できる場合は、Perlのパスや CGI関係のファイルを置くディレクトリの確認、.htaccessの設定、パーミッションの変更など、実際にCGIを利用するまでにさらにいくつかの手順を経る必要もあります。詳細はプロバイダによって異なりますので、それぞれの規定を参照してください。

アクセスカウンタや掲示板といった定番のCGIは、プロバイダ側があらかじめ用意していることもあります。こうしたCGIを利用すれば、より簡単に設置することができますし、もっと簡単に利用したいのであれば、レンタルサービスを提供しているサイトに登録するという方法もあります。この場合はそのサイトにリンクを張って利用する形になります。

CGI利用の注意

CGIではサーバのCPUを使って処理が行われるため、利用の仕方によってはサーバに多大な負担をかけたり、サーバのセキュリティを脅かす危険性も十分に含んでおり、最悪の場合は、サーバ自体をダウンさせてしまうこともあります。このような場合、同じサーバを共有するユーザーに与える迷惑や被害は小さくありません。CGIの利用に際しては、けしてそのようなことのないよう細心の注意を払うようにしてください。

また、掲示板などについては、悪質な書き込みの標的となる可能性もありますので、日頃から責任を持って管理する必要があります。

そして、iモード用のページでCGIを利用する場合は特に、ユーザーが携帯電話という小さな道具でアクセスしてくることも考慮しましょう。iモードではPC用のWebブラウザと違って入力方法やサイズに制限があります。この点を考慮した入力フォームをHTMLで作成すると、利用しやすいページになります。

CGIでは、HTMLだけでは実現できなかったページの作成が可能ですが、同時に少なからずマイナス点も含んでいます。このようなことを、十分に理解した上で利用するようにしてください。

8 ADVANCED TECHNIQUE

アクセシビリティ

Webページ作成のアドバンスドテクニックとは多少意味合いが異なりますが、W3Cで重視されているものに、アクセシビリティというものがあります。これは、Webページを作成する際にぜひとも考慮したい概念ですので、ここで[illegible]を紹介しておきたいと思います。

アクセシビリティとは

アクセシビリティ（accessibility）という言葉にはもともと「アクセスしやすい」「アクセスできる」などの意味があります。ここから情報通信の世界では「障害の有無や年齢を問わずより広い範囲のユーザーがコンピュータを利用し、情報の送受信ができるということ」といった意味で使われるようになりました。

なぜこのような概念が生まれたのかは、Webページを利用するユーザーの環境を考えてみると理解できます。W3CによるWeb Content Accessibility Guideline 1.0を参考に、Webページを利用する環境として現在あり得る状況を考えてみましょう。

- 見ること、聞くこと、動くことができない。または、ある[illegible]の[illegible]を簡単には、もしくはまったく処理できない
- テキストを読んだり文章を理解したりすることが[illegible]
- キーボードやマウスを使用をしてないか、使うことができない
- テキストしか表示できない画面や小さな画面を使っている、もしくは低速でしかインターネットに接続できない
- 文書が書かれている言語を容易に話したり理解したりすることができない
- 目や耳、手が使えない、もしくはふさがった状況にある（たとえば運転中や[illegible]環[illegible]で働いている場合など）
- 古いバージョンのブラウザ。まったく異なった種類のブラウザ、音声ブラウザ、もしくは異なったOSを使っている

このようにWebページを利用する環境はさまざまであり、ページの作者の環境とは必ずしも同じではありません。「当然」「容易」と思っていたことが、実は当然でも容易でもなく、さまざまに制約のある環境におかれているユーザーもいるのです。アクセシビリティとは、そうしたユーザーにも配慮し、ユーザーがどのような機器を利用していても、どのような状況にあっても利用しやすいページを作成するための概念と技術なのです。

アクセシビリティとHTML4.01

それを受けて、アクセシビリティを考慮したWebページ（これを「アクセシブルなページ」と表現したりします）とは、「確実に適切な変換が行われ」「内容を理解しやすくかつ操作しやすい」ページであるとされています。

「確実に適切な変換が行われるページ」とは

身体的なハンディキャップ、使用するハードウェアや周囲の状況による制約があっても利用できるページであること。音声や画像、映像の代わりとなる情報も同時に提供され、また、画面の大小やマウス・キーボードなど特定のハードウェアに依存しないようなページを作成するということです。その際、構造と体裁を分離し、テキストを適切に利用することは重要なポイントです。

「内容を理解しやすく、かつ操作しやすいページ」とは

わかりやすい言葉を使うことはもちろんですが、イメージマップやスクロールバーなど視覚的な方法が使用できない場合や、ページ全体を見ることができない場合などを考慮して、ページの相互関係も理解しやすくするということです。

アクセシブルであるためのポイント

そして、このようなページを作成するために、W3Cは次のようなポイントを提示しています。

- 音声や画像には同等の意味を持つ代替手段を用意する
- 色だけに依存しない
- 正しくタグ付けし、スタイルシートを適切に使用する
- 文書で使用する言語を明示する
- テーブルは適切に変換・表現されるように記述する
- 新技術を利用したページは、その技術をサポートしていない環境でも情報が伝わるようにする
- 移動、点滅、スクロール、自動更新などページ内容が動くものは、ユーザー側で停止できるようにする
- プラグインなど組み込まれたオブジェクトにも、アクセシビリティを考慮する
- 装置に依存しない設計にする
- 古いブラウザやユーザーを補助する技術を使用した場合にも、適切に情報を得られるようにする
- W3Cの技術とガイドラインを利用し、推奨されない機能や外部によって独自に拡張された機能などは使用しない
- 文脈や文書の前後関係を表す情報を提供する
- ナビゲーションバーやサイトマップなど、明瞭なナビゲーションのための機能を用意する

■文書は簡潔明瞭であること

それぞれのポイントを実現するための具体的な手段や注意点は、W3Cの文書に詳細に示されていますのでそちらを参考にし、より多くのユーザーが利用できるWebページの作成を目指してください。

関連サイト

アクセシビリティに関しては、以下のようなサイトを参照するとよいでしょう。

Web Content Accessibility Guidelines 1.0（英語）

http://www.w3.org/TR/WAI-WEBCONTENT

W3Cが提唱する、アクセシビリティのための原則と設計に関するガイドライン。

Techniques for Web Content Accessibility Guidelines 1.0（英語）

http://www.w3.org/TR/WCAG10-TECHS/

上記ガイドラインを実践する具体的な方法などに関する技術書。

こころWeb

http://www.kokoroweb.org/

障害者・高齢者のパソコン利用や、コミュニケーションを支援するためのサイト。

Webアクセスを考える会（TWAJ）

http://thinkman.cup.com/

視覚障害者が利用しやすいバリアフリーのWebページの作成と推進を行っている団体、Webアクセスを考える会（TWAJ）のサイト。

付録

APPENDIX

1 APPENDIX

Webページカラーチャート

HTMLタグでは、背景や文字などの色を指定する際に、色を構成する3つの値を使って「#rrggbb」という色指定値か、色名（colorname）を使用します。

色指定値による指定　<body background="#ff0000">

色名による指定　<body background="red">

● 色指定値による指定

「#」につづけて、赤（red）、緑（green）、青（blue）のそれぞれの割合を2桁の16進数（00～ff）で表現し、色を指定する方法です。

コンピュータでは光の3原色である赤、緑、青のそれぞれの強さを0～255までの数値（256段階）で表すことで、特定の色を表現しています。したがってフルカラーと呼ばれるものでは256×256×256=16777216、つまり1677万7216色を扱えるということになります。

ところがコンピュータでは情報はすべて0と1の2進法で表現されるため。数値を2進数で表そうとすると桁数が非常に長くなりがちです。そこで2進数の4桁をまとめ、16進数（0～9の10種類の数字にa～fの6種類のアルファベットを加え、16ごとに桁があがる方式）で数値を表記するようになりました。色指定値（#rrggbb）方式での記述方法はこの16進数表記にしたがったものです。

たとえば、赤=51、緑=102、青=255の色を16進数で表すと、赤=33、緑=66、青=ffという指定となり、色指定値は「#3366ff」となります。

いくつかの色については実際の#rrggbbの値を掲載していますので参考にしてください。また、10進数と16進数の対応表も掲載しましたので、この関係を比較してみるとよいでしょう。

なお、もちろんコンピュータ内部ではすべての数字を2進数に置き換えて処理していることには変わりがありません。

モニタと印刷の色[illegible]

原理的に、印刷ではWeb上（モニタで見る色）の色を完全に再現することはできません。ここに記載された色はあくまでも参考にとどめ。実際にお使いになる場合は、モニタ上で色を確認してください。また、細かい色のニュアンスは、Webページを見に来る人のモニタの環境によって大きく異なる場合もあるので、注意が必要です。

なお、本書のWebページでは、ここに掲載しているカラーチャートを実際にWeb上でご覧いただくことができます。

http://www.shoeisha.com/book/pc/dic/

16色

この16色はHTML4.01で定義されている色です。これらはWindows VGAのパレットに準拠した色で、色名による指定（p.344）でも正式に使える色となります。

10進数と16進数の対応表です。色を表す256段階の数値（左側）は、16進数で表すと右側の数値となります。赤字の部分はWeb Safeカラーを構成する数値です。

10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数	10進数	16進数
0	00	32	20	64	40	96	60	128	80	160	a0	192	c0	224	e0
1	01	33	21	65	41	97	61	129	81	161	a1	193	c1	225	e1
2	02	34	22	66	42	[illegible]	62	130	82	162	a2	194	c2	226	e2
3	03	35	23	67	43	99	63	131	83	163	a3	195	c3	227	e3
4	04	36	24	68	44	100	64	132	84	164	a4	196	c4	228	e4
5	05	37	25	69	45	101	65	133	85	165	a5	197	c5	229	e5
6	06	38	26	70	46	102	66	134	86	166	a6	198	c6	230	e6
7	07	39	27	71	47	103	67	135	87	167	a7	199	c7	231	e7
8	08	40	28	72	48	104	68	136	[illegible]	168	a8	200	c8	232	e8
9	09	41	29	73	49	105	69	137	[illegible]	169	a9	201	c9	233	e9
10	0a	42	2a	74	4a	106	6a	138	8a	170	aa	202	ca	234	ea
11	0b	43	2b	75	4b	107	6b	139	[illegible]	171	ab	203	cb	235	eb
12	0c	44	2c	76	4c	108	6c	140	8c	172	ac	204	cc	236	ec
13	0d	45	2d	77	4d	109	6d	141	8d	173	ad	205	cd	237	ed
14	0e	46	2e	78	4e	110	6e	142	8e	174	ae	206	ce	238	ee
15	0f	47	2f	79	4f	111	6f	143	8f	175	af	207	cf	239	ef
16	10	48	30	80	50	112	70	144	90	176	b0	208	d0	240	f0
17	11	49	31	81	51	113	71	145	91	177	b1	209	d1	241	f1
18	12	50	32	82	52	114	72	146	92	178	b2	210	d2	242	f2
19	13	51	33	83	53	115	73	147	93	179	b3	211	d3	243	f3
20	14	52	34	84	54	116	74	148	94	180	b4	212	d4	244	f4
21	15	53	35	85	55	117	75	149	95	181	b5	213	d5	245	f5
22	16	54	36	86	56	118	76	150	96	182	b6	214	d6	246	f6
23	17	55	37	87	57	119	77	151	97	183	b7	215	d7	247	f7
24	18	56	38	[illegible]	58	120	78	152	98	184	b8	216	d8	248	f8
25	19	57	39	89	59	121	79	153	[illegible]	185	b9	217	d9	249	f9
26	1a	58	3a	90	5a	122	7a	154	9a	186	ba	218	da	250	fa
27	1b	59	3b	91	5b	123	7b	155	9b	187	bb	219	db	251	fb
28	1c	60	3c	92	5c	124	7c	156	9c	188	bc	220	dc	252	fc
29	1d	61	3d	93	5d	125	7d	157	9d	189	bd	221	dd	253	fd
30	1e	62	3e	94	5e	126	7e	158	9e	190	be	222	de	254	fe
31	1f	63	3f	95	5f	127	7f	159	9f	191	bf	223	df	255	ff

Web Safe カラー

256色の8ビットカラーのうちWindowsとMacintoshのシステムパレットに共通した216色で、Internet ExplorerとNetscapeでもほぼ同じように表示される色をWeb Safeカラーといいます。これらの色は16進数で表現した場合、RGBの各値が 00、33、66、99、cc、ff の組み合わせからできています。Web Safeカラーを使えば、たとえユーザーの環境が256色表示であっても比較的問題なく正しく表示されますが、これ以外の色を使った場合は自動的にディザリング処理（近い色に置き換えられる）されることになり、意図したとおりの色で見てもらえなくなる可能性もあるので注意が必要です。

下記の図はWeb Safeカラーを#ffffffから#000000の明度の異なるグレーを基準にして色相環状に配列したものです。

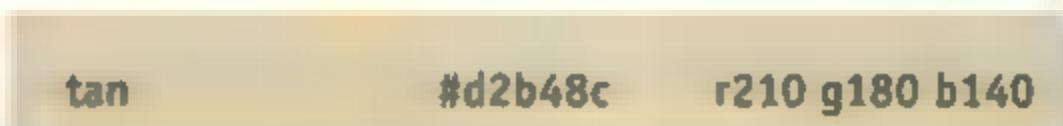
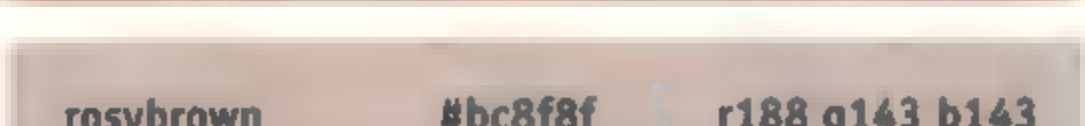
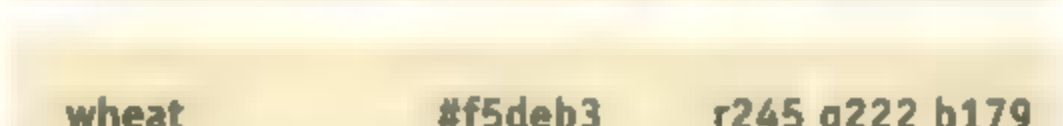
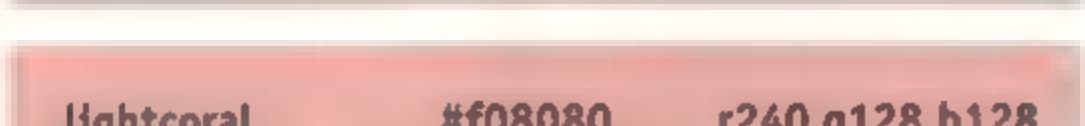
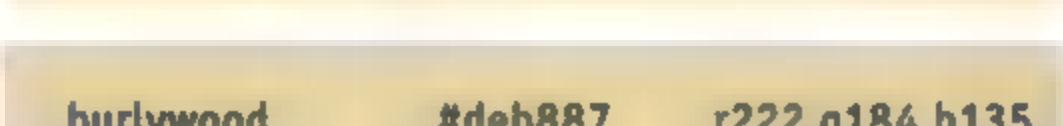
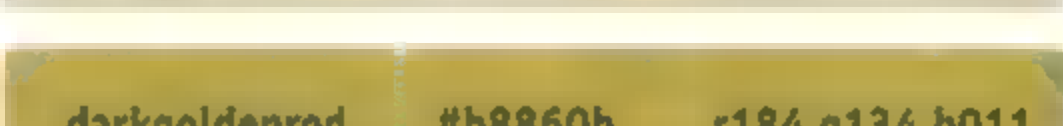
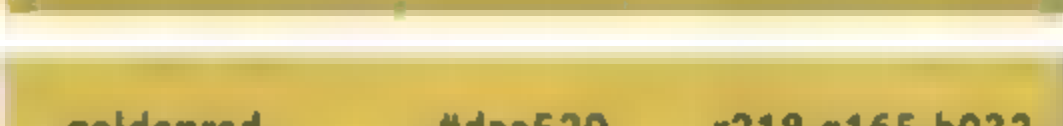
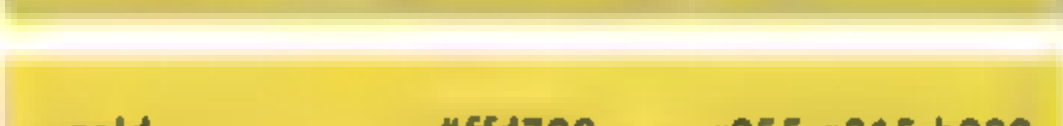
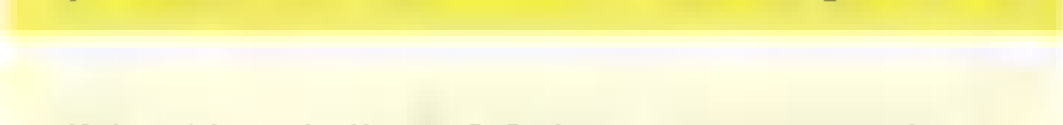
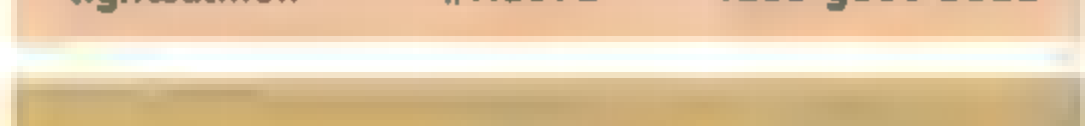
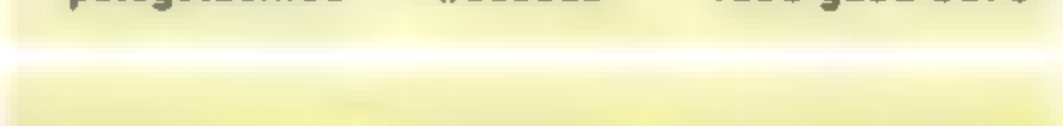
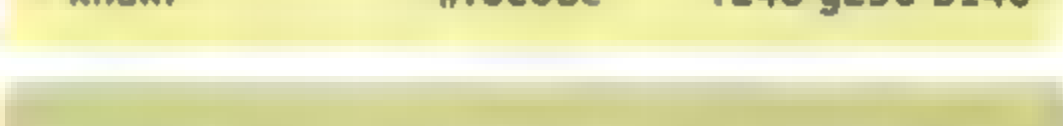
▲#ffffffを基準としたWeb Safeカラーの色相環

▲ #cccccc を基準とした Web Safe カラーの色相環

▲ #999999 を基準とした Web Safe カラーの色相環

▲ #666666 を基準とした Web Safe カラーの色相環

▲ #333333 を基準とした Web Safe カラーの色相環

▲ #000000

● 色名による指定方法

色名（colorname）によって色を指定することもできます。この場合は<font color="red">のように色名を値に直接記入します（ただし、色の指定はHTMLではなくスタイルシートで指定することが推奨されていますので、注意して使用するようにしてください）。この場合、大文字小文字は問いません。正式に使用できる色は★印のついている16色（p.341参照）だけですが、それ以外でブラウザが対応している色もあります。

色名	16進数	RGB	色名	16進数	RGB
blanchedalmond	#ffebcd	r255 g235 b205	honeydew	#f0fff0	r240 g255 b240
lightyellow	#ffffe0	r255 g255 b224	seashell	#fff5ee	r255 g245 b238
cornsilk	#fff8dc	r255 g248 b220	ivory	#fffff0	r255 g255 b240
antiquewhite	#faebd7	r250 g235 b215	azure	#f0ffff	r240 g255 b255
papayawhip	#ffefd5	r255 g239 b213	snow	#fffafa	r255 g250 b250
lemonchiffon	#fffacd	r255 g250 b205	★ white	#ffffff	r255 g255 b255
beige	#f5f5dc	r245 g245 b220	gainsboro	#dcdcdc	r220 g220 b220
linen	#faf0e6	r250 g240 b230	lightgrey	#d3d3d3	r211 g211 b211
oldlace	#fdf5e6	r253 g245 b230	★ silver	#c0c0c0	r192 g192 b192
lightcyan	#e0ffff	r224 g255 b255	darkgray	#a9a9a9	r169 g169 b169
aliceblue	#f0f8ff	r240 g248 b255	lightslategray	#778899	r119 g136 b153
whitesmoke	#f5f5f5	r245 g245 b245	slategray	#708090	r112 g128 b144
lavenderblush	#fff0f5	r255 g240 b245	★ gray	#808080	r128 g128 b128
floralwhite	#fffaf0	r255 g250 b240	[illegible]	[illegible]	[illegible]
mintcream	#f5fffa	r245 g255 b250	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ghostwhite	#f8f8ff	r248 g248 b255	★ black	#000000	r000 g000 b000

lawngreen	#7cfc00	r124 g252 b000
greenyellow	#adff2f	r173 g255 b047
chartreuse	#7fff00	r127 g255 b000
★ lime	#00ff00	r000 g255 b000
limegreen	#32cd32	r050 g205 b050
yellowgreen	#9acd32	r154 g205 b050
★ olive	#808000	r128 g128 b000
olivedrab	#6b8e2[illegible]	[illegible] g142 [illegible]
[illegible]	#556b2f	r085 g107 b047
forestgreen	#228b22	r034 g139 b034
[illegible]	#006400	[illegible] [illegible] b000
★ [illegible]	#008000	r000 g128 b000
seagreen	#2e8b57	r046 g139 b087
mediumseagreen	#3cb371	r060 g179 b113
darkseagreen	#8fbc8b	r143 g188 b143
lightgreen	#90ee90	r144 g238 b144
palegreen	#98fb98	r152 g251 b152
springgreen	#00ff7f	r000 g255 b127

mediumspringgreen	#00fa9a	r000 g250 b154
★ [illegible]	#008080	[illegible] g128 b128
[illegible]	[illegible]	[illegible] b139
lightseagreen	#20b2aa	r032 g178 b170
mediumaquamarine	#66cdaa	r102 g205 b170
cadetblue	#5f9ea0	r095 g158 b160
steelblue	#4682b4	r070 g130 b180
aquamarine	#7fffd4	r127 g255 b212
powderblue	#b0e0e6	r176 g224 b230
paleturquoise	#afeeee	r175 g238 b238
lightblue	#add8e6	r173 g216 b230
lightsteelblue	#b0c4de	r176 g196 b222
skyblue	#87ceeb	r135 g206 b235
lightskyblue	#87cefa	r135 g206 b250
mediumturquoise	#48d1cc	r072 g209 b204
turquoise	#40e0d0	r064 g224 b208
darkturquoise	#00ced1	r000 g205 b209
★ aqua	#00ffff	r000 g255 b255

Name	Hex	RGB
red	#ff0000	r255 g000 b000
[illegible]	[illegible]	[illegible]
★ [illegible]	[illegible]	r128 [illegible]
darkred	[illegible]	[illegible] b000
[illegible]	#a52a2a	[illegible] g042 [illegible]
[illegible]	#a0522d	r160 g082 b045
[illegible]	#8b4513	[illegible]
indianred	#cd5c5c	r205 g092 b092
rosybrown	#bc8f8f	r188 g143 b143
lightcoral	#f08080	r240 g128 b128
salmon	#fa8072	r250 g128 b114
darksalmon	#e9967a	r233 g150 b122
coral	#ff7f50	r255 g127 b080
tomato	#ff6347	r255 g099 b071
sandybrown	#f4a460	r244 g164 b096
lightsalmon	#ffa07a	r255 g160 b122
peru	#cd853f	r205 g133 b063
chocolate	#d2691e	r210 g105 b030
orangered	#ff4500	r255 g069 b000
orange	#ffa500	r255 g165 b000
darkorange	#ff8c00	r255 g140 b000
tan	#d2b48c	r210 g180 b140
peachpuff	#ffdab9	r255 g218 b185
bisque	#ffe4c4	r255 g228 b196
moccasin	#ffe4b5	r255 g228 b181
navajowhite	#ffdead	r255 g222 b173
wheat	#f5deb3	r245 g222 b179
burlywood	#deb887	r222 g184 b135
darkgoldenrod	#b8860b	r184 g134 b011
goldenrod	#daa520	r218 g165 b032
gold	#ffd700	r255 g215 b000
★ yellow	#ffff00	r255 g255 b000
lightgoldenrodyellow	#fafad2	r250g250b210
palegoldenrod	#eee8aa	r238 g232 b170
khaki	#f0e68c	r240 g230 b140
darkkhaki	#bdb76b	r189 g183 b107

2 APPENDIX

色の基礎知識

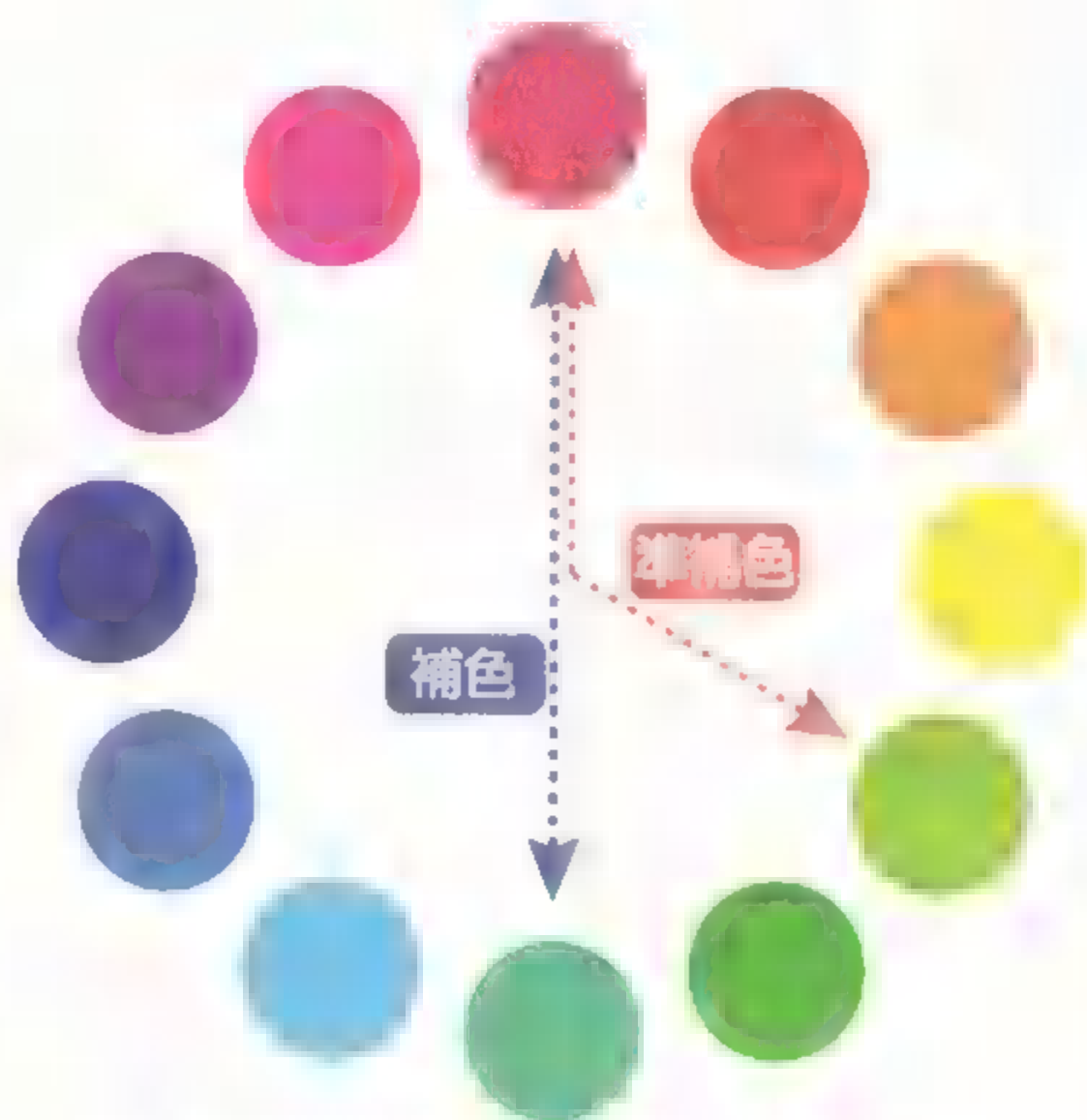
ここでは、Webの配色を考える際に参考になる、色に関する基本的な知識を紹介します。

色の属性

色の属性について理解しておくと、配色を考えやすくなります。色には「色相」「明度」「彩度」の3つの属性があります。

色相

白〜灰色〜黒を無彩色といい、それ以外の色を有彩色と言います。「色相」とは、それぞれの有彩色が持つ色合いのことです。似た色相を隣合わせに並べていくと、色の輪ができます。これは「色相環」と呼ばれ、このうちおおよそ赤〜黄の範囲の色を「暖色」、緑〜青の範囲の色を「寒色」と表現しています。

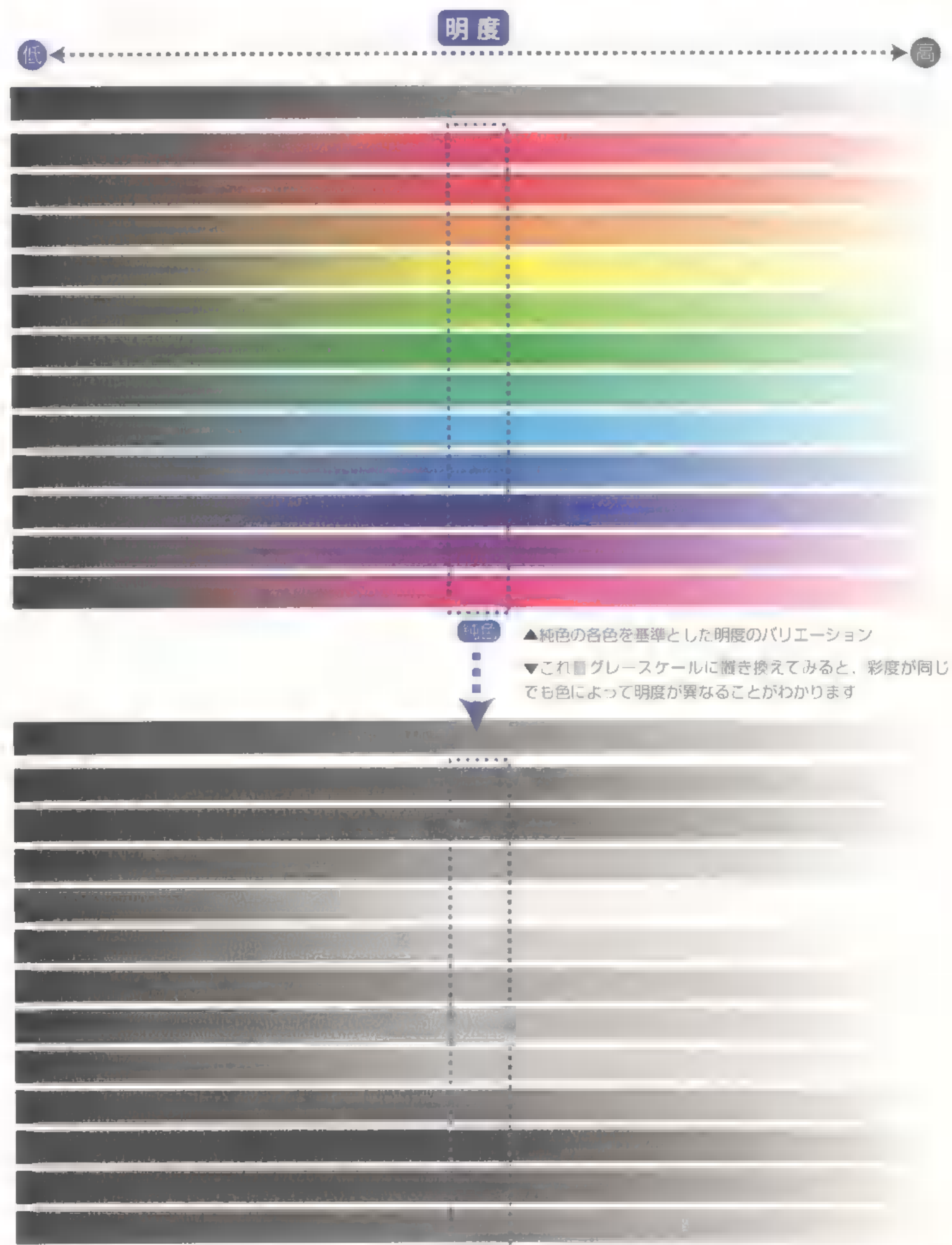
色相環上で、相対する位置にある色を「補色」といいます。補色関係にある2色を並べると、強い対比が生じ、緊張感のあるはっきりした配色になります。また、色相環上で約120度の位置にある色を「準補色」といいます。補色による配色ではどぎついという場合には、準補色同士を並べると、ゆるやかな対比を作ることができます。

▲色相環上で相対する位置にある2色を、「補色関係にある色」といいます

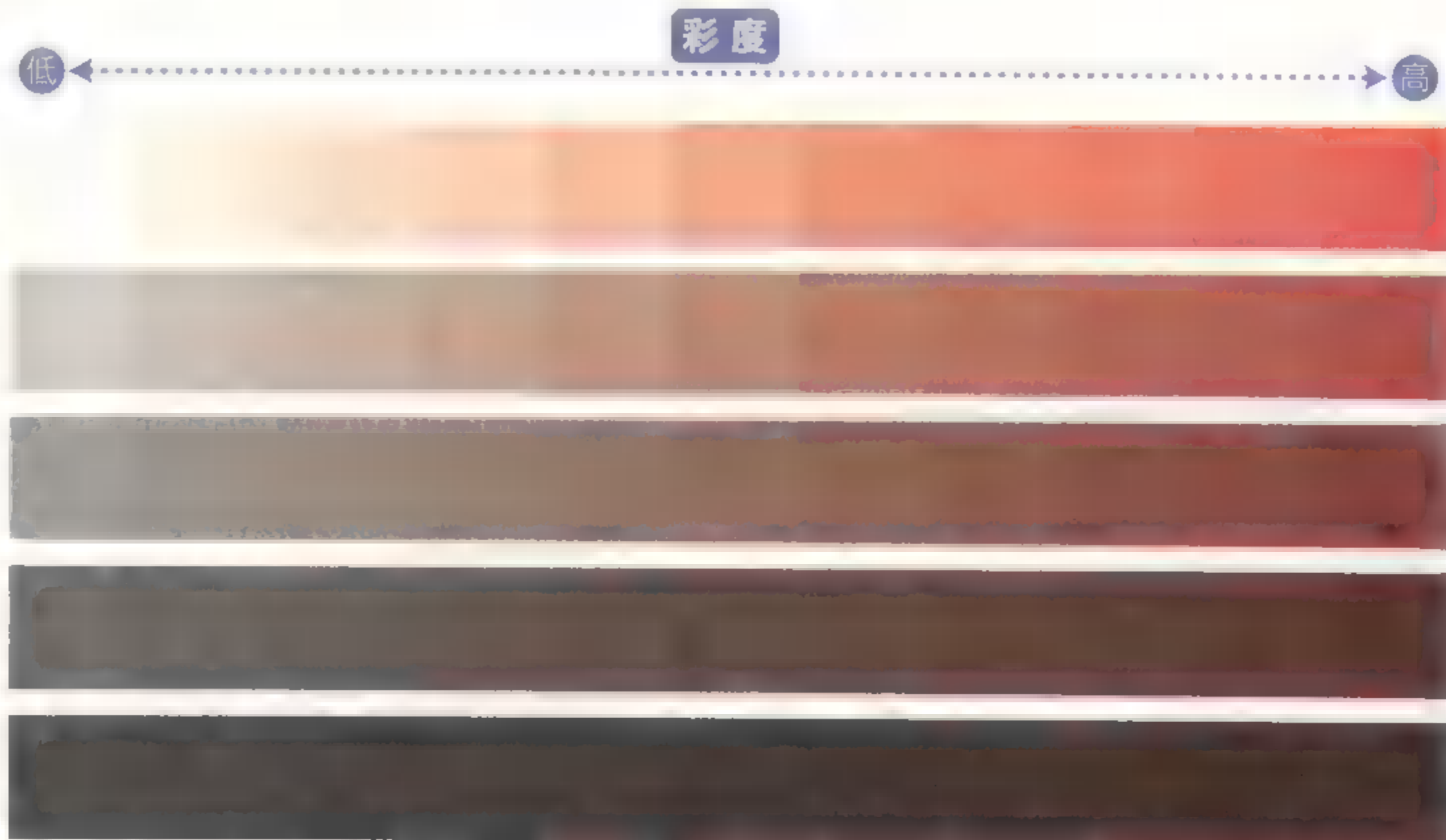
明度

「明度」は色の明るさの度合いのことで、白から黒までのグレースケールを基準としています。白に近づくほど明度は高く、黒に近づくほど明度は低くなります。たとえば、赤に白を混ぜたピンクは、元の赤より明るい色（＝高明度）です。一方、赤に黒を混ぜた茶色は、元の赤より暗い色（＝低明度）になります。

また、純色（彩度が最高の色）の赤と黄をグレースケールに置き換えてみると、黄より赤の方が暗い灰色になります。このように、同じ彩度であっても、色相によって明度は異なります。

▲純色の各色を基準とした明度のバリエーション

▼これをグレースケールに置き換えてみると、彩度が同じでも色によって明度が異なることがわかります

彩度

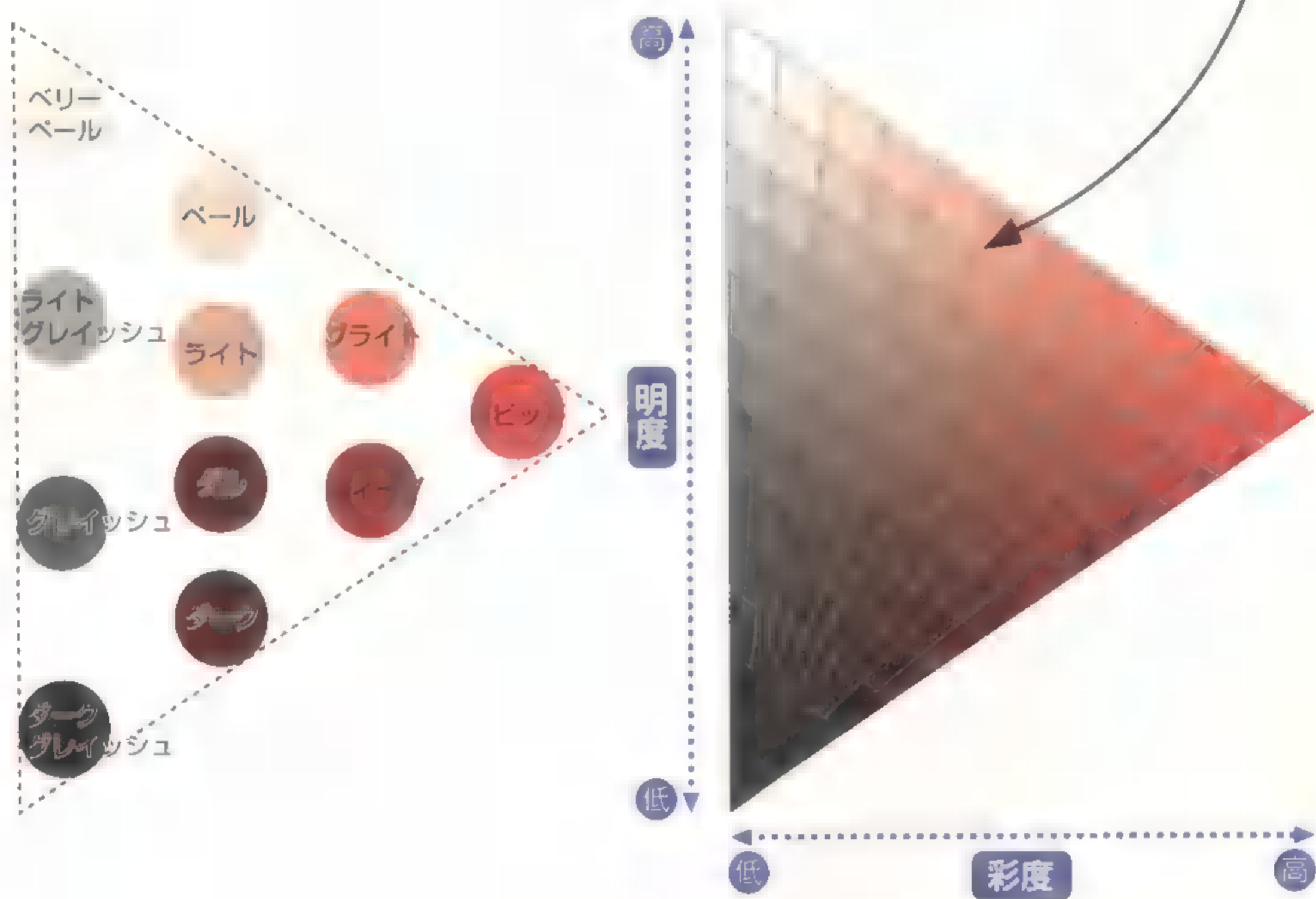
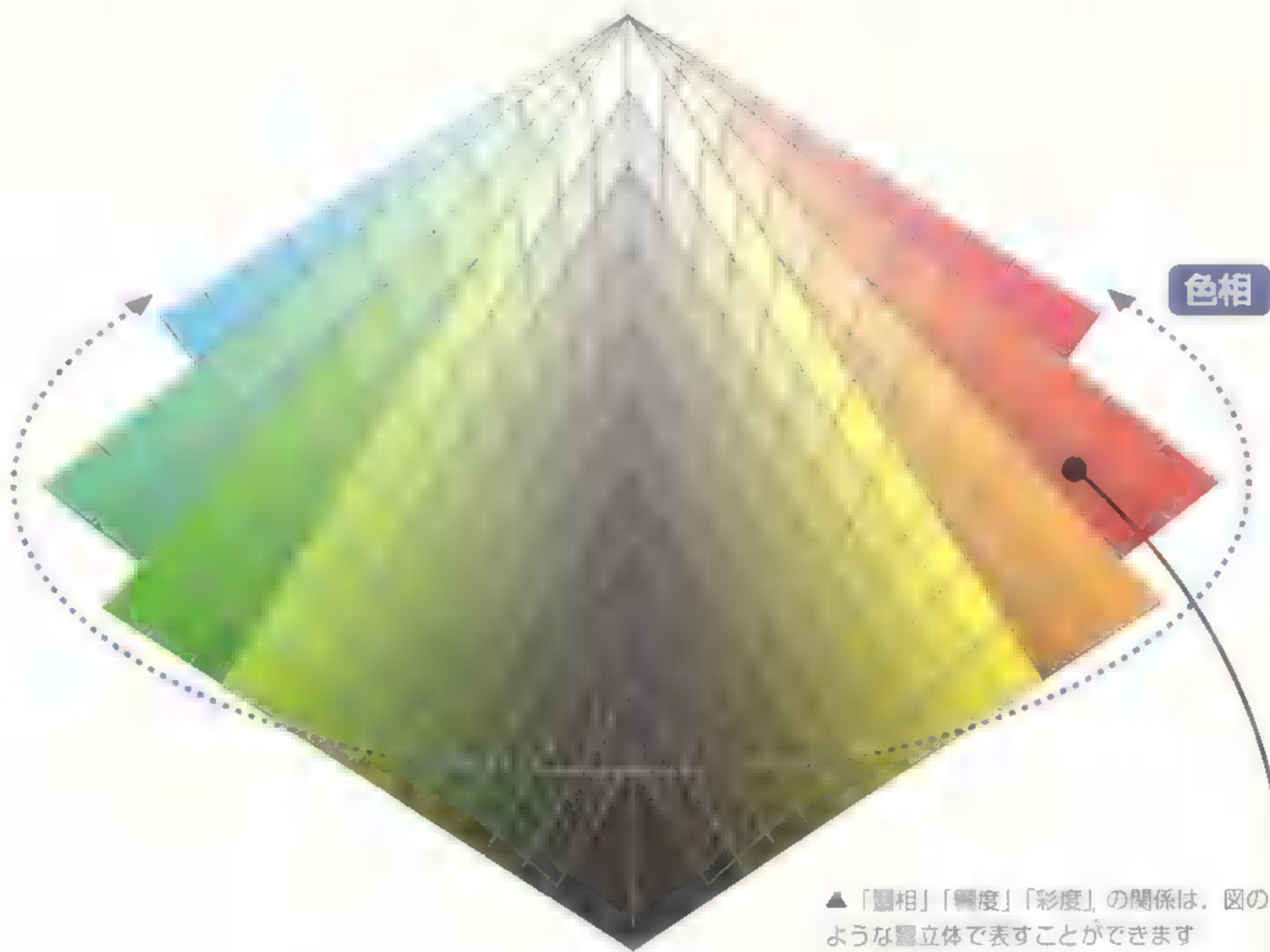
「彩度」は色の鮮やかさ（色みの強さ）の度合いのことで、無彩色の彩度は0になります。純色の赤に白や黒などの無彩色を混ぜていくと、だんだん色みが薄れて無彩色に近づき、彩度は低くなっていきます。混色された無彩色の分量が少なくて純色（彩度が最高の色）に近いほど色みが強く、彩度は高くなります。

▲無彩色の混色が少ないほど彩度は高くなります。この図では、右上がもっとも彩度の高い色です

色調（トーン）

色の３つの属性を総合して、色の分布を示した図を「色立体」といいます。色立体の中から、ある色相に関する部分を取り出し、明度・彩度に応じて分類すると、１つの色相内の色は次のような色調（トーン）のグループに分けることができます。

- 派手　ビビッド
- 明るい　ブライト、ペール、ベリーペール
- 地味　ライトグレイッシュ、ライト、グレイッシュ、ダル
- 暗い　ディープ、ダーク、ダークグレイッシュ

異なる色相の色を組み合わせて配色を行う際には、各色の色調を揃えておくと上手くまとめることができます。

▲「色相」「明度」「彩度」の関係は，図のような色立体で表すことができます

▲明度と彩度を組み合わせた「色の調子」を「色調（トーン）」といいます

3 APPENDIX

Web配色サンプル

Webページをみるとき、まっさきに目に飛び込んでくるのは、コンテンツよりもまずページの「色」ではないでしょうか。初めて会う人の服装から第一印象が決まるように、私たちは、まず色をみてWebページの印象を決定します。作りたいWebページのイメージを明確にし、効果的な配色を行うことで、サイトの主旨がはっきりし、より深くコンテンツを理解してもらうことが可能になります。

● 赤～黄系の配色

赤～黄系は、「暖色」と呼ばれる色の系統です。一般に暖色系の色は、外向的で生命や情熱、親しさなどを象徴します。熱量を感じさせ食欲をそそる色であるため、飲食関連のWebページには欠かせません。

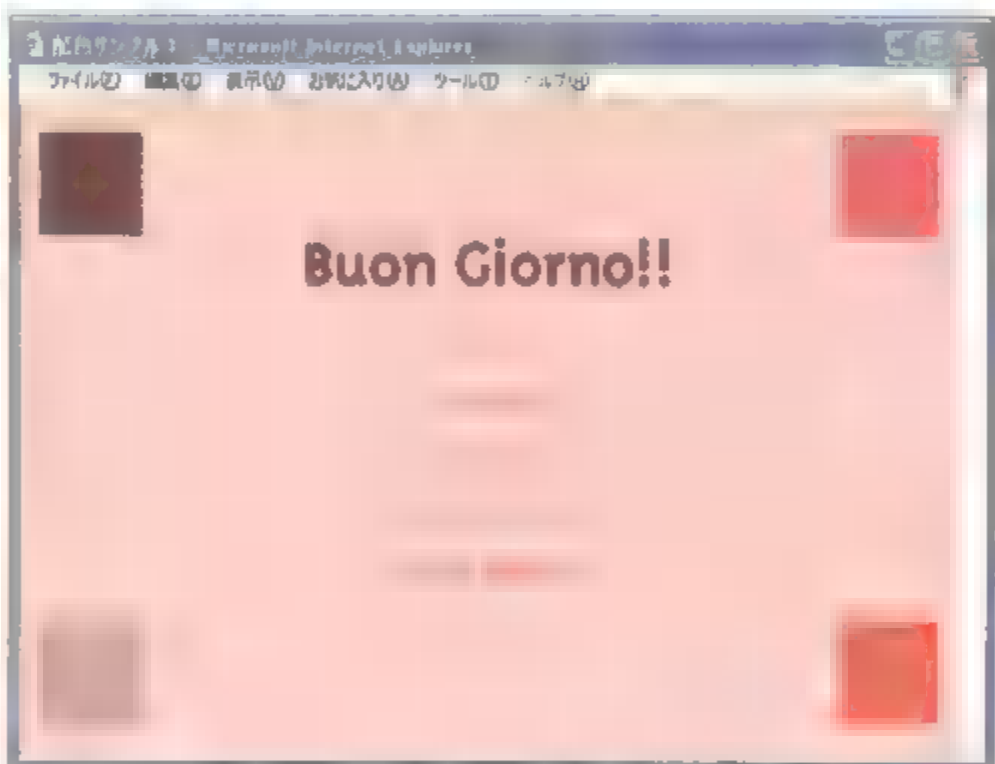
特に赤色は「炎」や「血」を連想させ、エネルギーや生命力に溢れた色です。闘争心・勇気・興奮などを伝える一方、熱狂や怒りなどの不安定なニュアンスや、強い禁止を表すためにも利用されます。

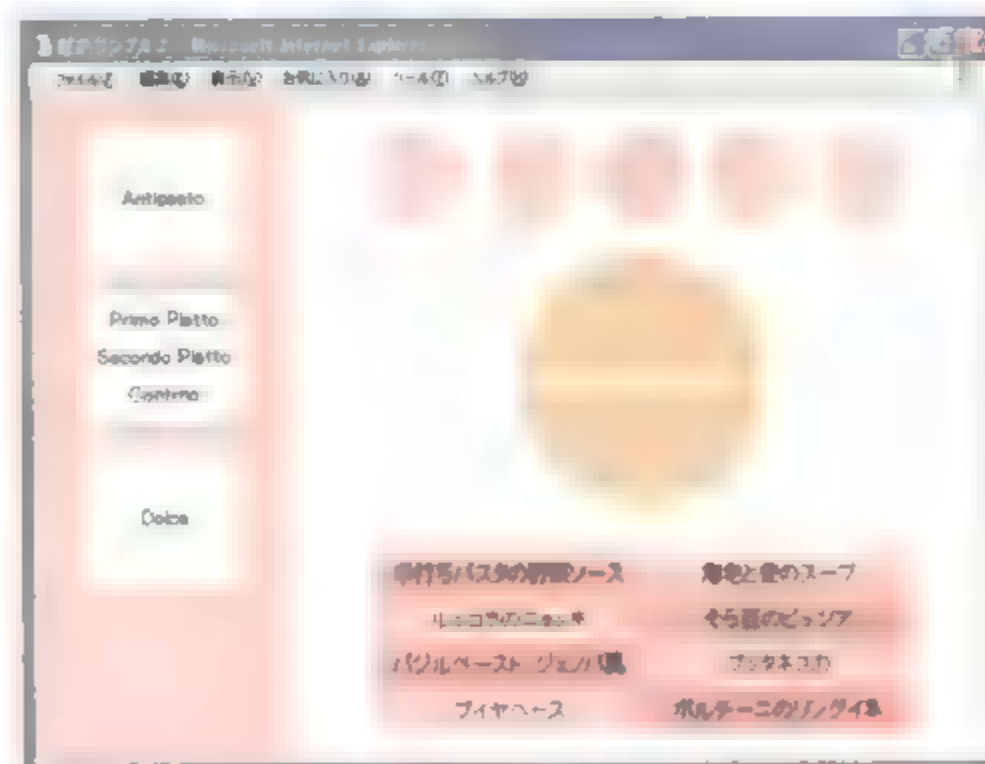
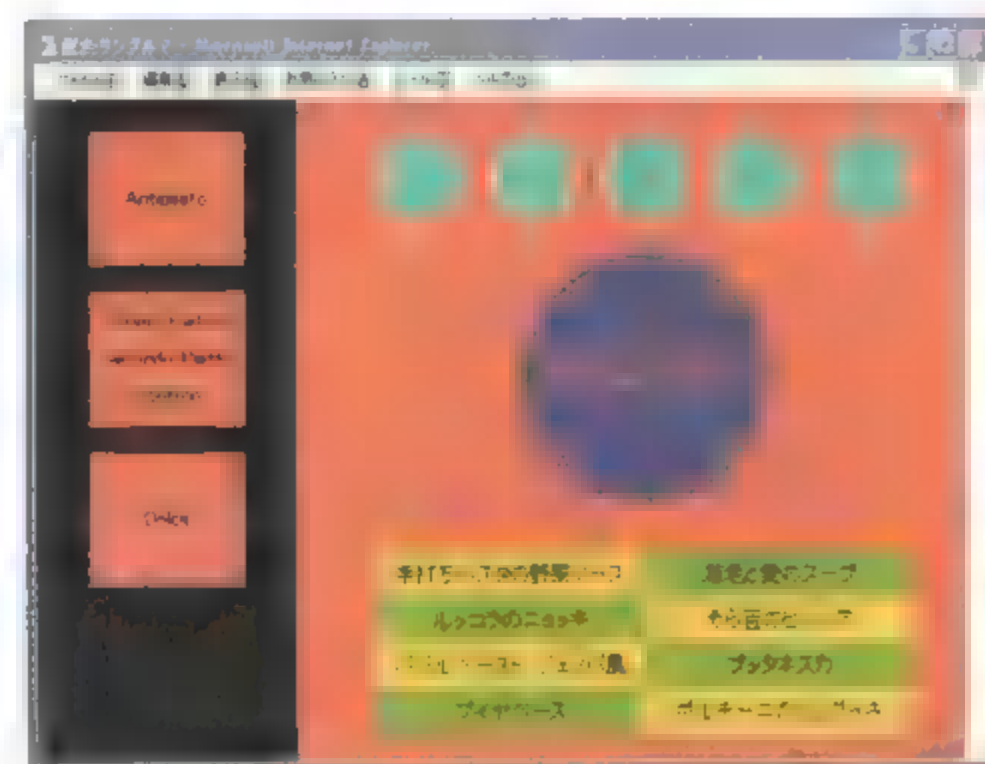
黄色は「光」を連想させる色であるため、陽気で健康なイメージ、幸福感を表します。また金色に近いため、華やかさや高貴さ、派手さを表す色でもあります。

中間のオレンジ色は、赤色・黄色の両方の性質を持っています。強い主張の中に親しみやすさや爽快感が加わり、赤色よりもやわらかい印象になります。

同系色の配色

補色・準補色との対比

明度のバリエーション

▲同系色による配色は、全体をまとめやすく、落ち着いた印象になります

▲補色を加えると、ポイントが強調され、躍動感が生まれます

▲高明度・高彩度の同系色でまとめると、明るく穏やかな印象になります

▲明度差や補色を利用すると、強い主張が感じられるようになります

緑～青系の配色

緑～青系は、「寒色」と呼ばれる色の系統です。暖色に比べて内向的で、理知や抑制を象徴します。

緑色は、「植物」の色。草木を見ると心がなごむように、緑色には穏やかで落ち着いた雰囲気を作る効果があります。また、新緑の季節のような清涼感や、新鮮な野菜、自然界のバランスなども連想させます。中庸で安定した印象のため色自体の自己主張は少なく、ポイントカラーを引き立てるベースカラーとして機能することが多くなっています。

自然界のどこででも目にするようでいて、実体を持つ青いものは少ないことから、青色には抽象的でさまざまなイメージが託されます。まず、「空」や「海」の色であることから、爽快感、広がりや永遠、[illegible]やかさ、神秘性などが連想されます。フレッシュでスポーティな色であり、ノーブル、フォーマルを象徴し、憂鬱や悲壮感を表すこともあります。このようにイメージに幅はありますが、青色は理性や冷静さが基本となっています。

同系色の配色

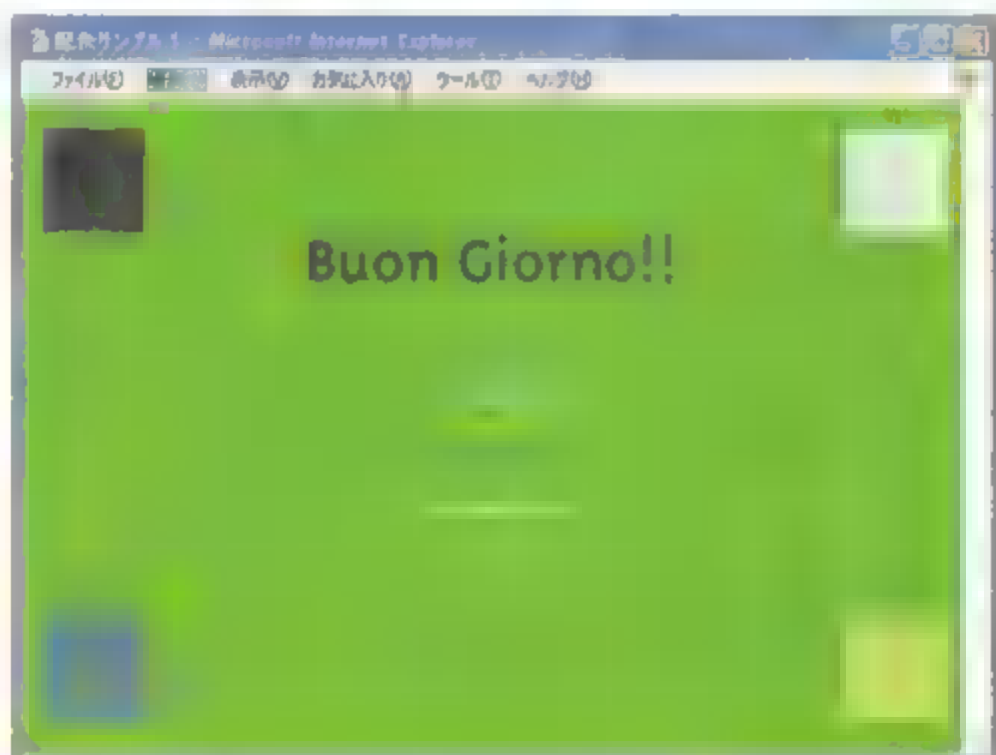
#99cc66 #66cc00 #33cc00
#66cc66 #00cc00 #00cc33
#66cc99 #00cc66 #00cc99
#66cccc #00cccc #0099cc

補色・準補色との対比

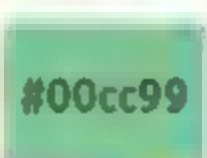
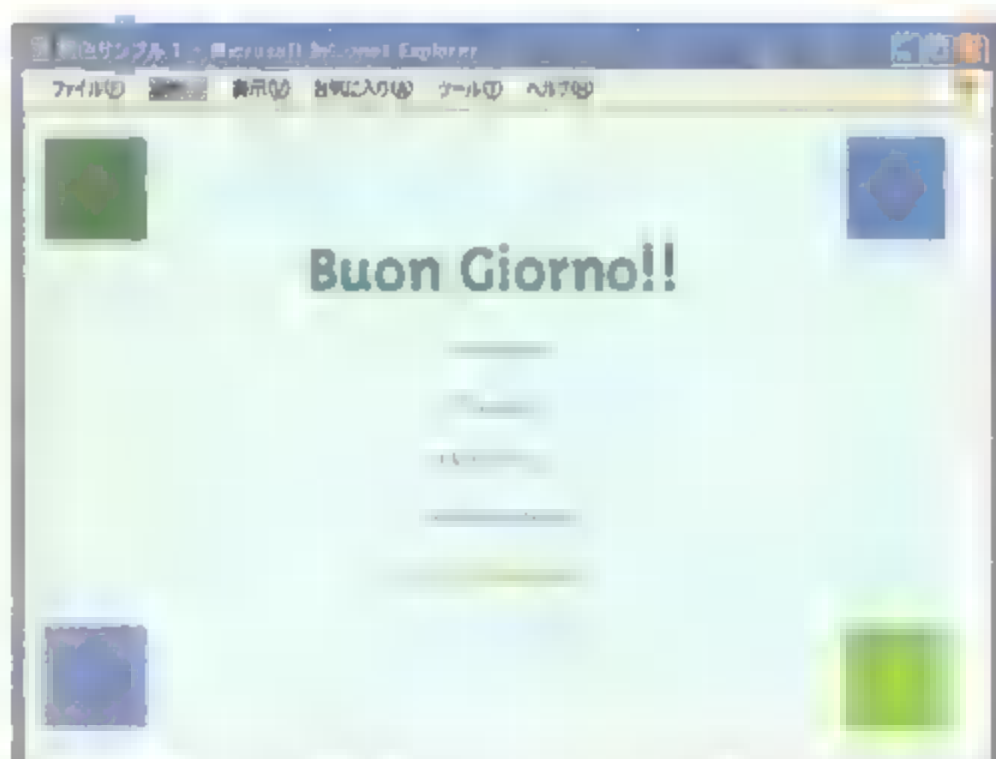
明度のバリエーション

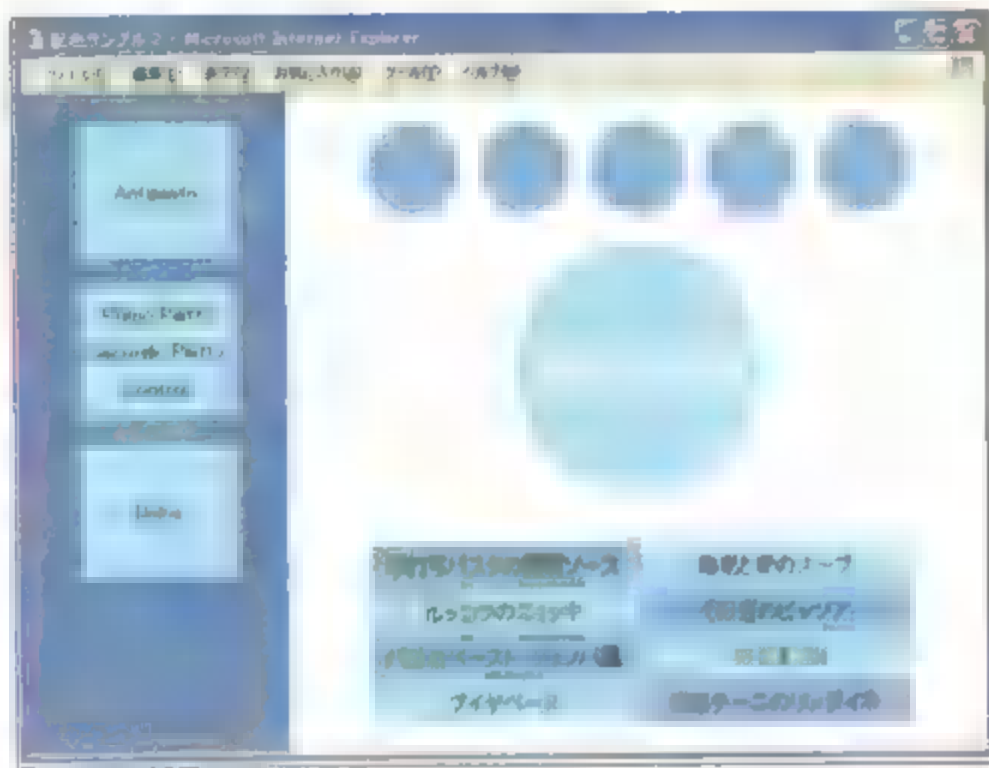
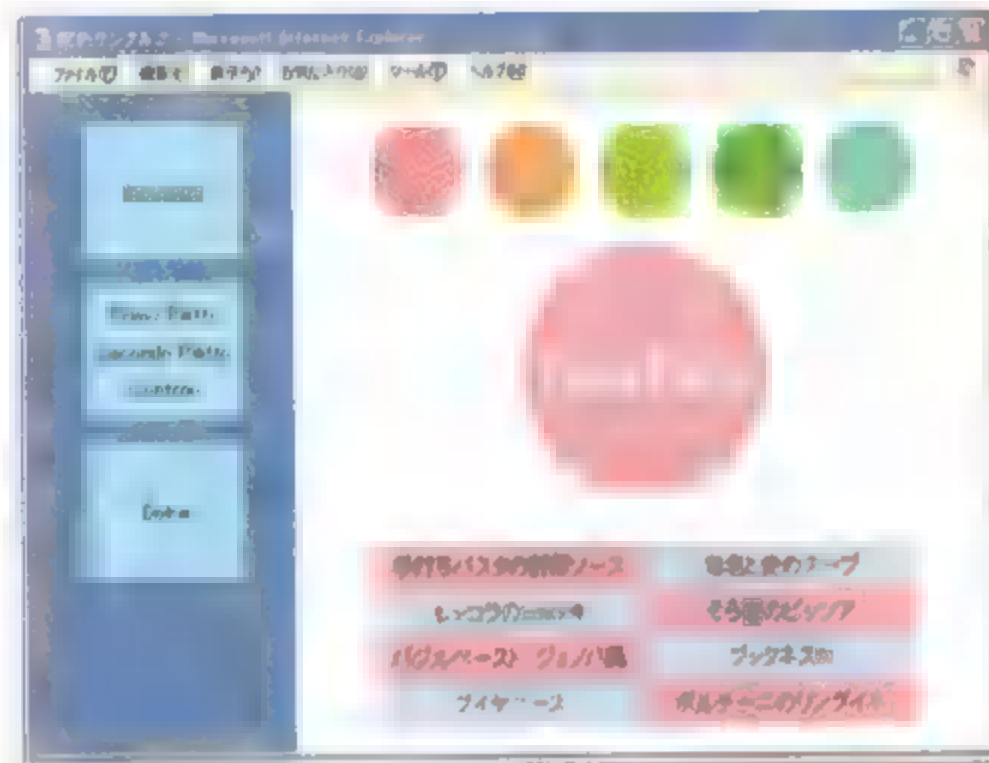
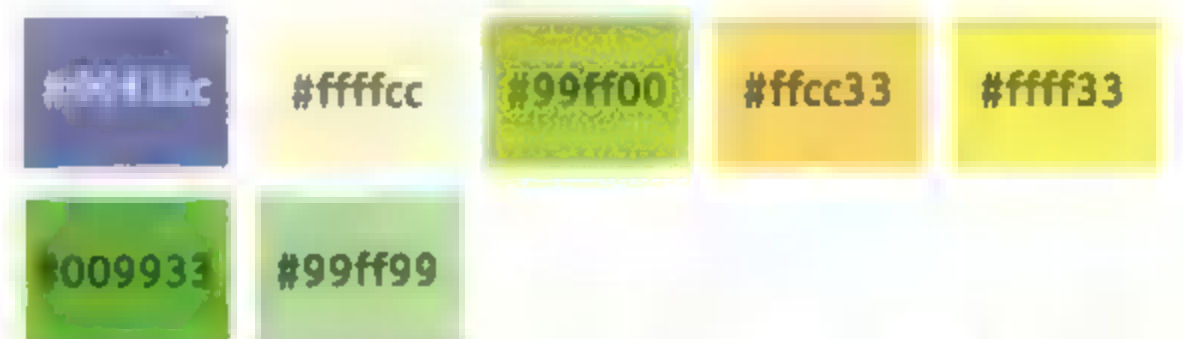
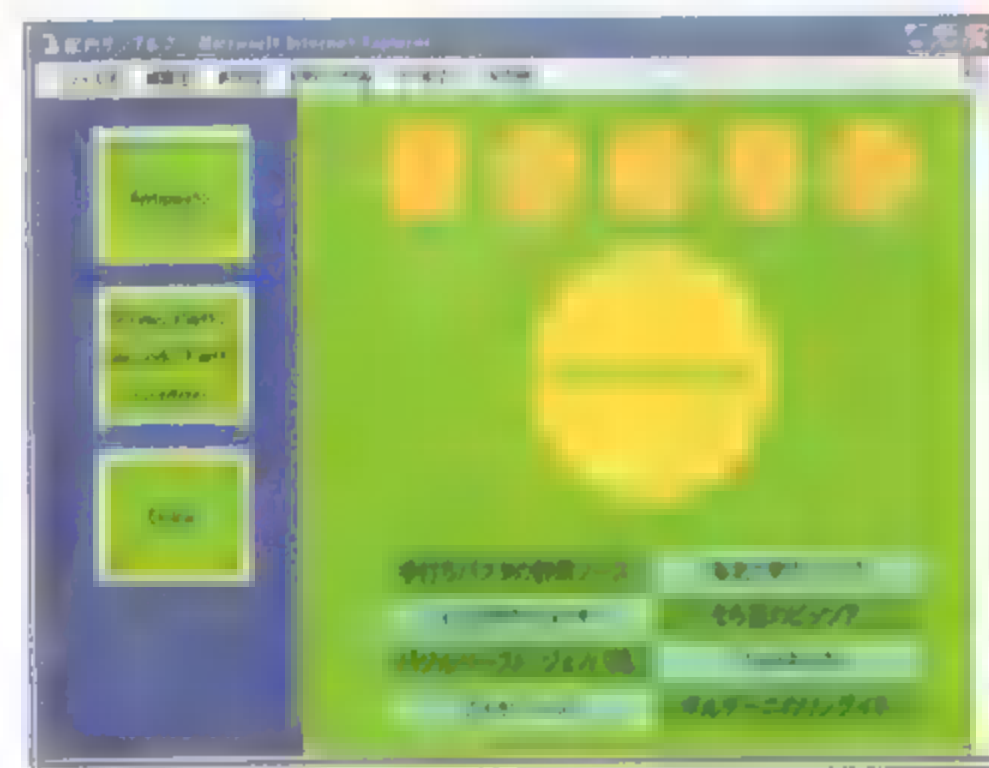
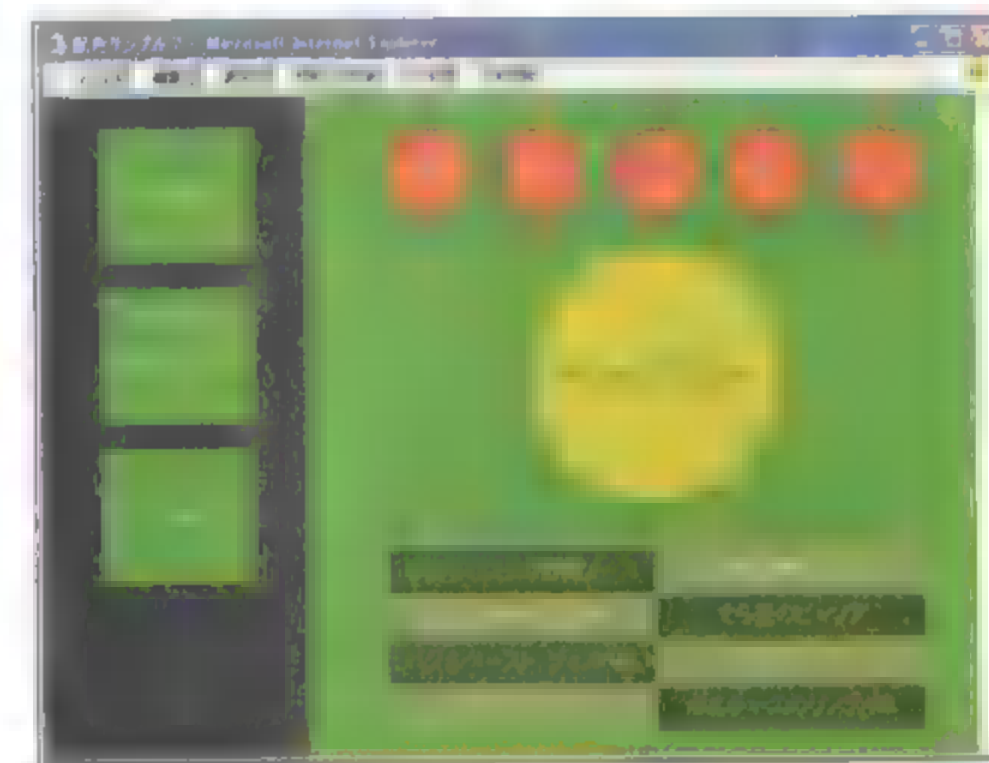
Buon Giorno!!

#ccff99
bgcolor
text
#999900
link
#339900
vlink
#339999
alink

Buon Giorno!!

#33cc33
bgcolor
#003366
text
#ccffcc
link
vlink
#ccff66
alink

bgcolor
#ccff99
text
#00ff99
link
#00cc99
vlink
#ffffff
alink

Buon Giorno!!

#ccffff
bgcolor
#006666
text
link
#6666ff
vlink
#99cc66
alink

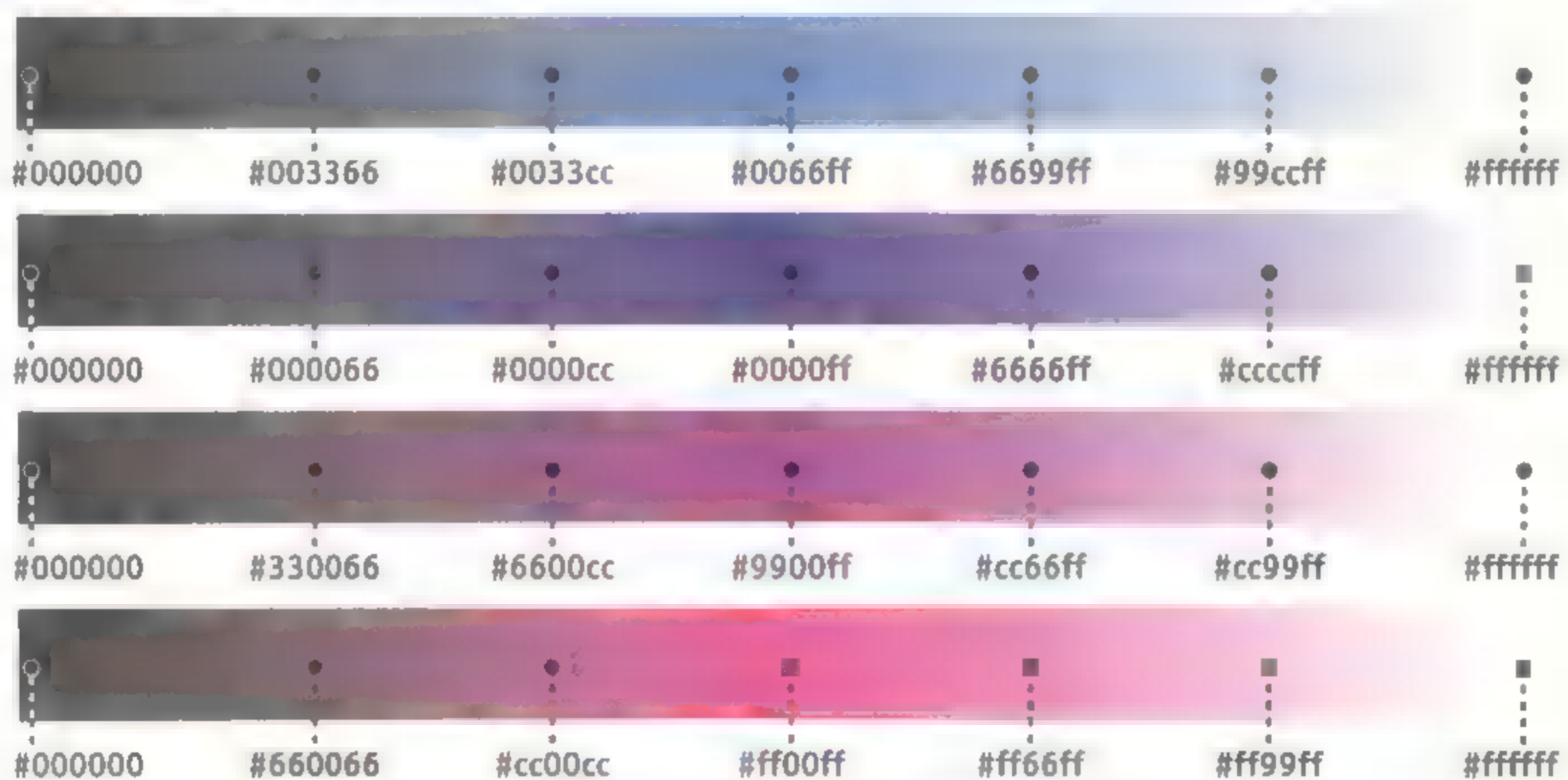
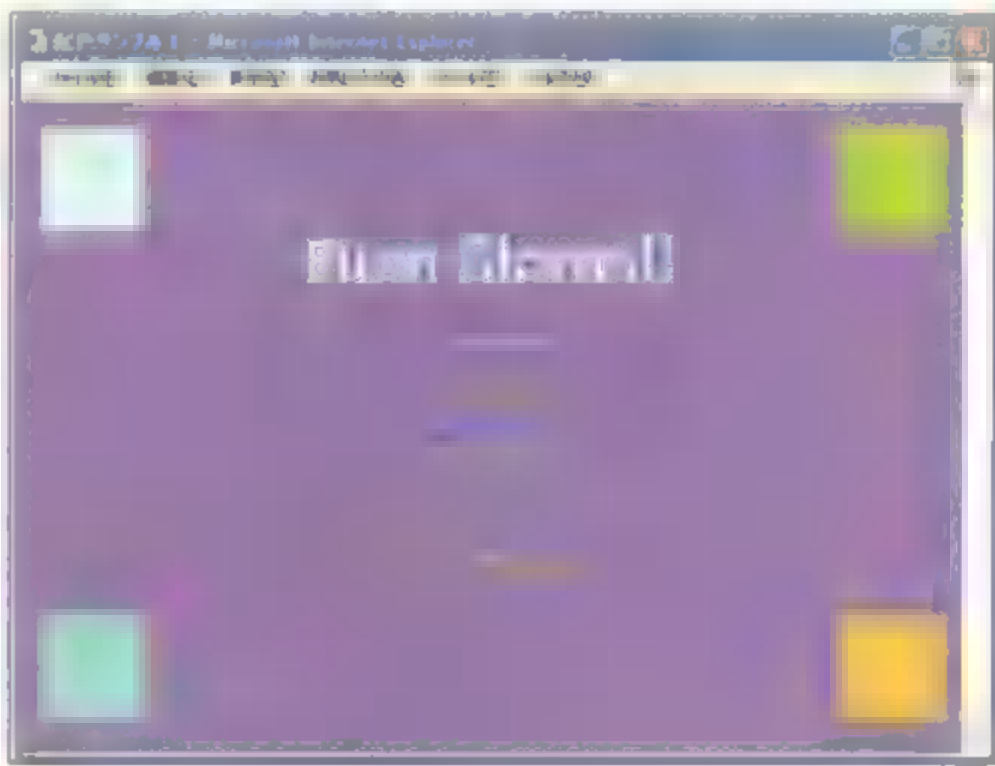
#99ccff　#ffffff　#6699ff

▲同系色による配色は、全体をまとめやすく、落ち着いた印象になります

▲全色相による配色を取り入れると、明るく賑やかな印象になります

▲彩度の高い[illegible]色を組み合わせると、若々しくスピード感が生まれます

▲[illegible]・彩度が低くなるほど、枯れて地味な印象になります

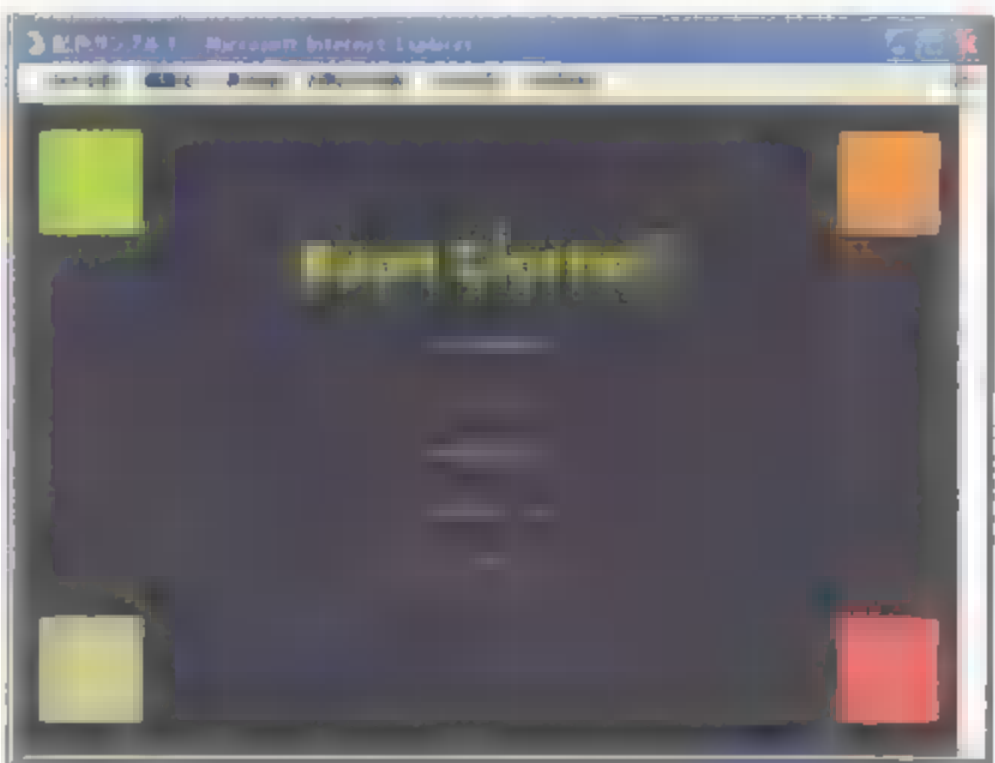
紫～赤紫系の配色

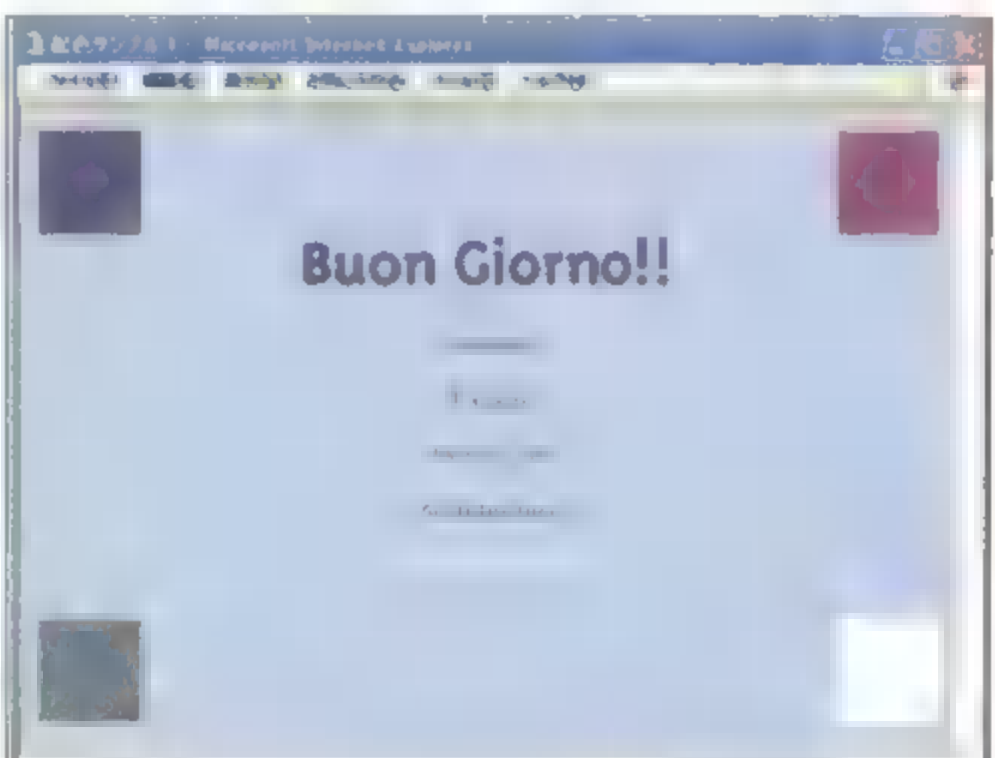
自然界に少ない紫色は、古来より神秘性や非日常性、高貴さを表す色として扱われてきました。権力を象徴し、退廃や爛熟、病的、狂気を表す色でもあります。高級感や気品、優雅さ、華麗など、大人っぽく色気のあるイメージを持ちますが、多用しすぎると、反対に下品、陰気、派手、くどい、怪しいなどのマイナスイメージを作ることになるので注意が必要です。紫色の中でも、赤みの深いワイン色などは豊かな実りを連想させますが、明るく派手な紫色は食品関連では好まれません。

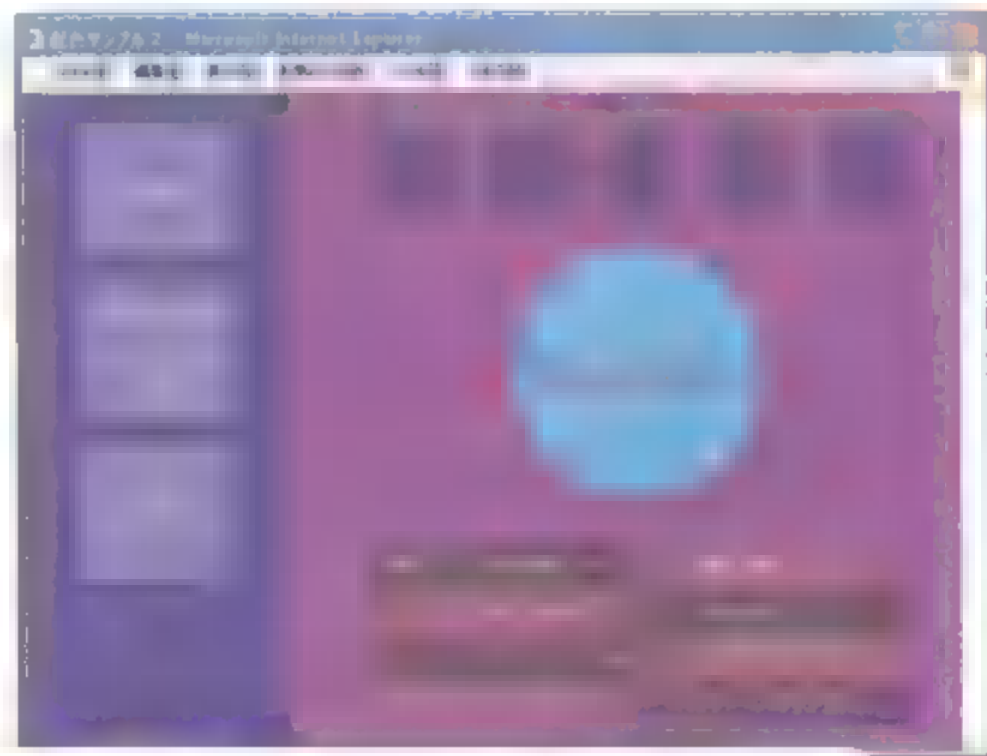
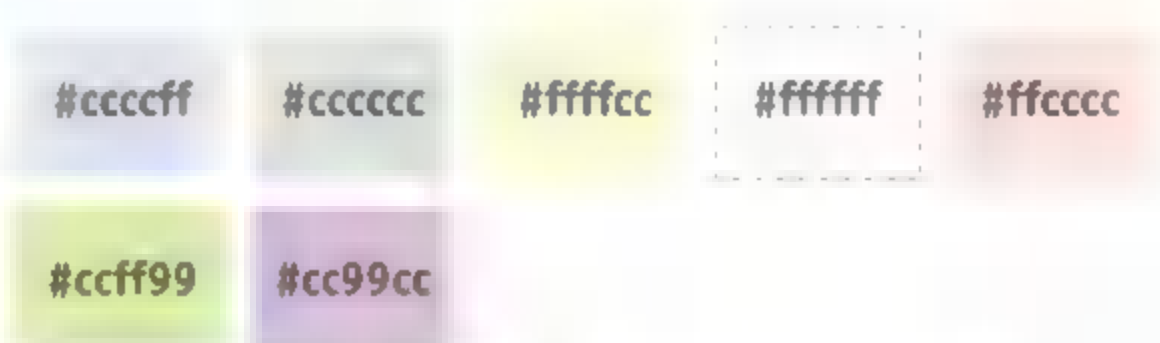
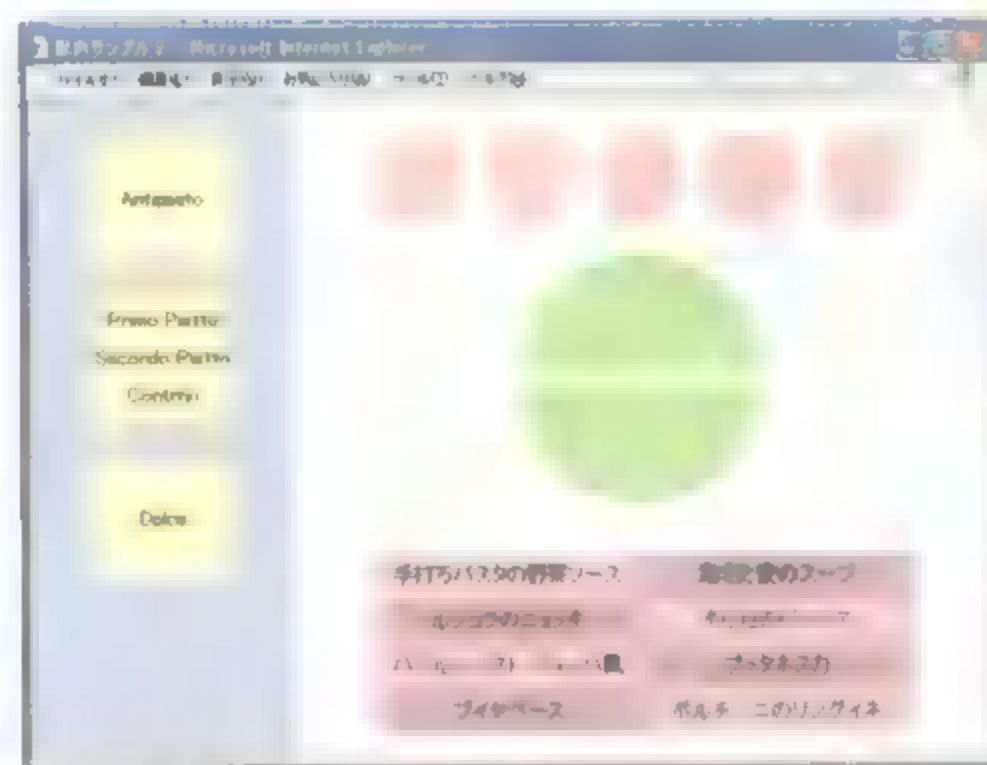
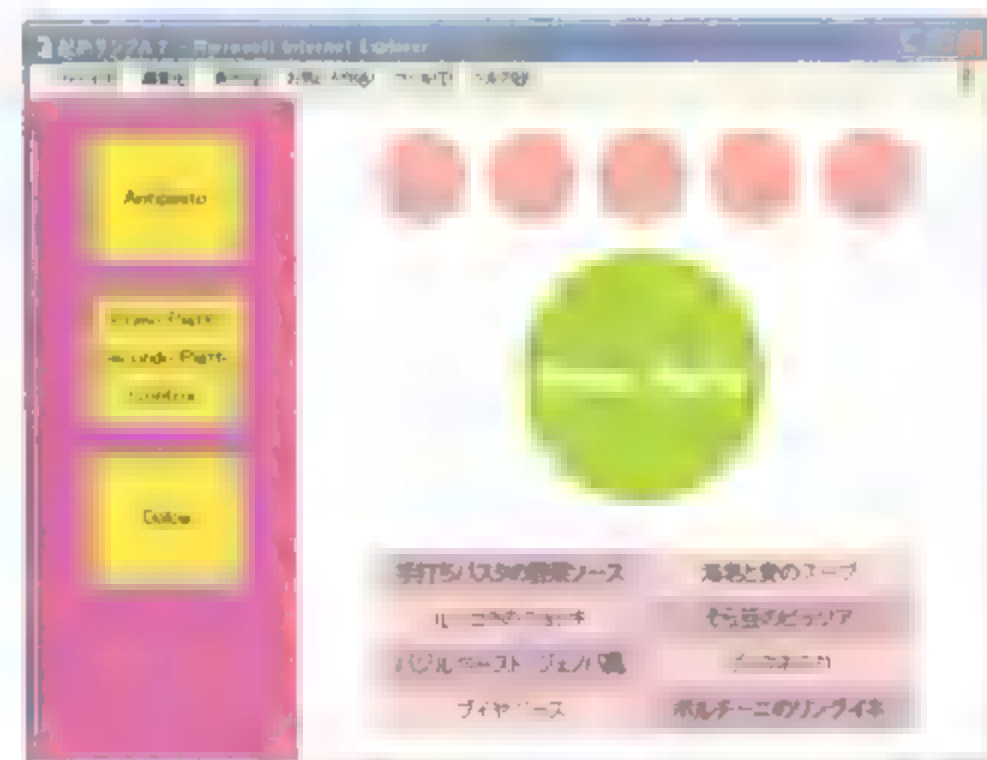
同系色の配色

補色・準補色との対比

明度のバリエーション

#9966cc
bgcolor
#ccffff
text
#ccff33
link
#99cccc
vlink
#ffcc33
alink

bgcolor
#ffcccc
text
#ff6699
link
#cc9999
vlink
#ffff99
alink

bgcolor
#ccff66
text
#ff9933
link
#cccc99
vlink
#ff3366
alink

Buon Giorno!!

#ccccff
bgcolor
text
link
vlink
#ffffff
alink

▲白地によって、すっきりした印象になります

▲紫系の同系色で[illegible]のない配色は、重苦しい感じになります

▲高明度の配色は、広い色相を取り入れやすくなります

▲純色に近い色調で広い色相を用いると、雑然とした印象になりやすくなります

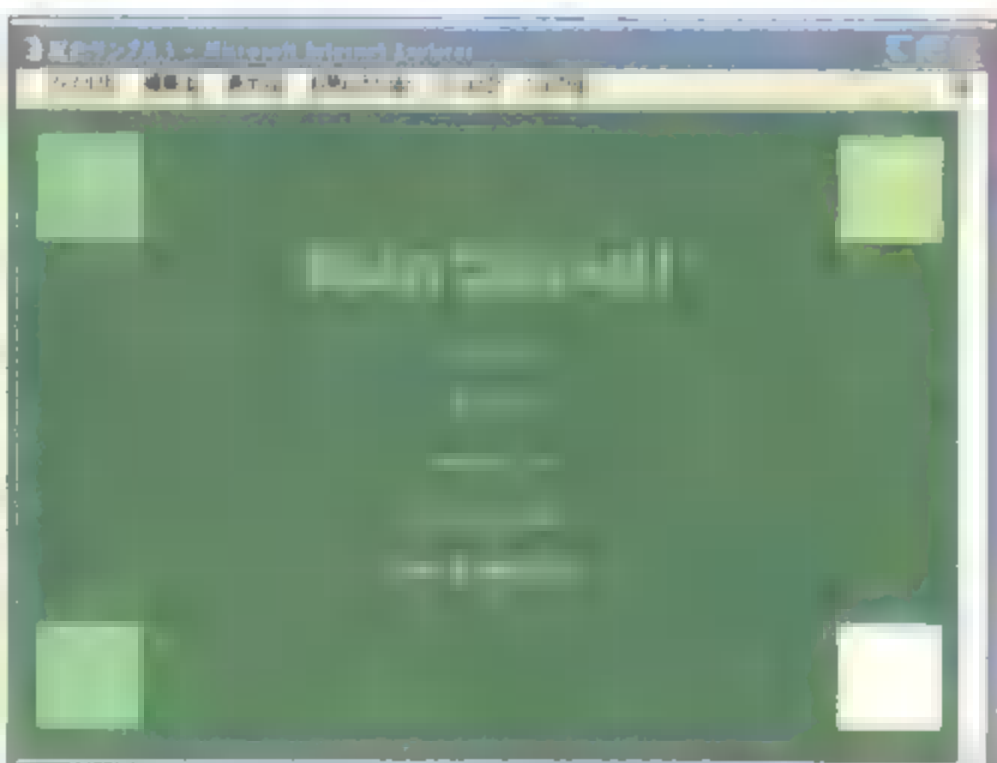
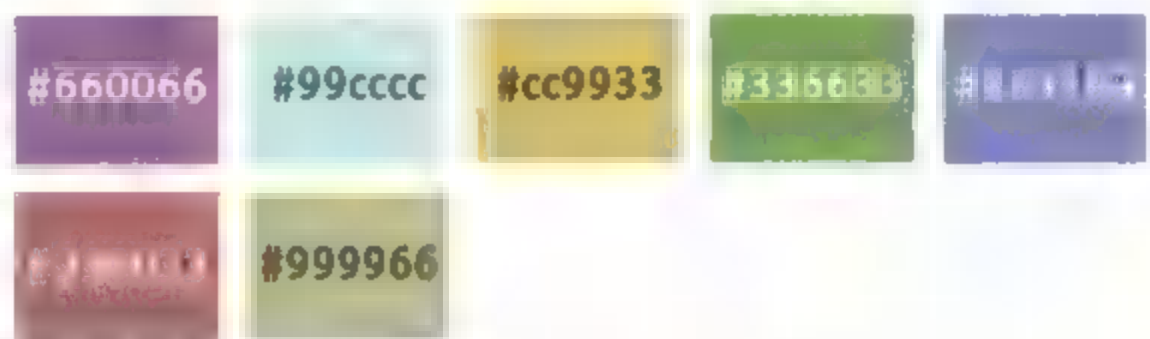
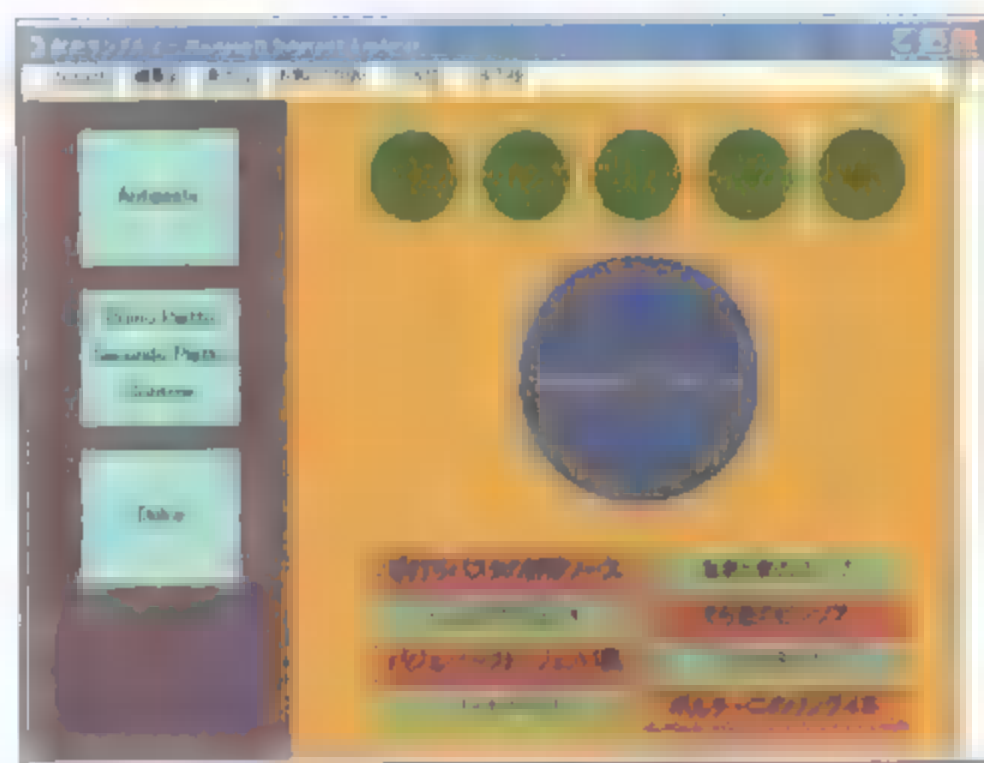
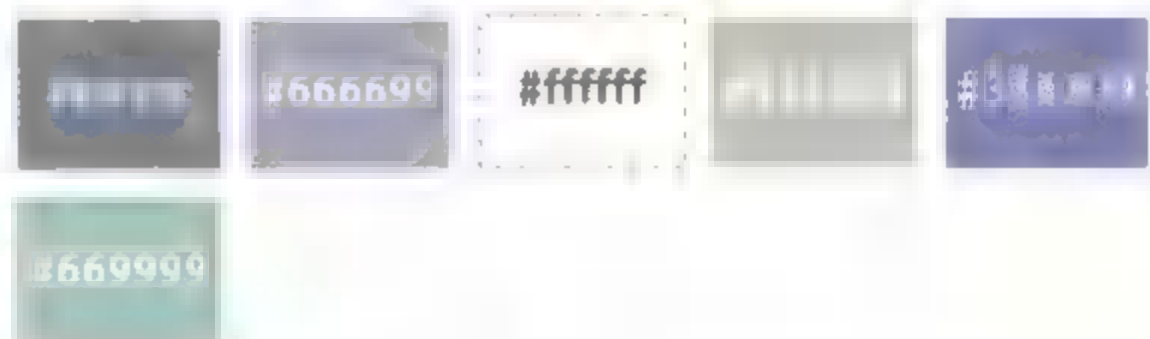
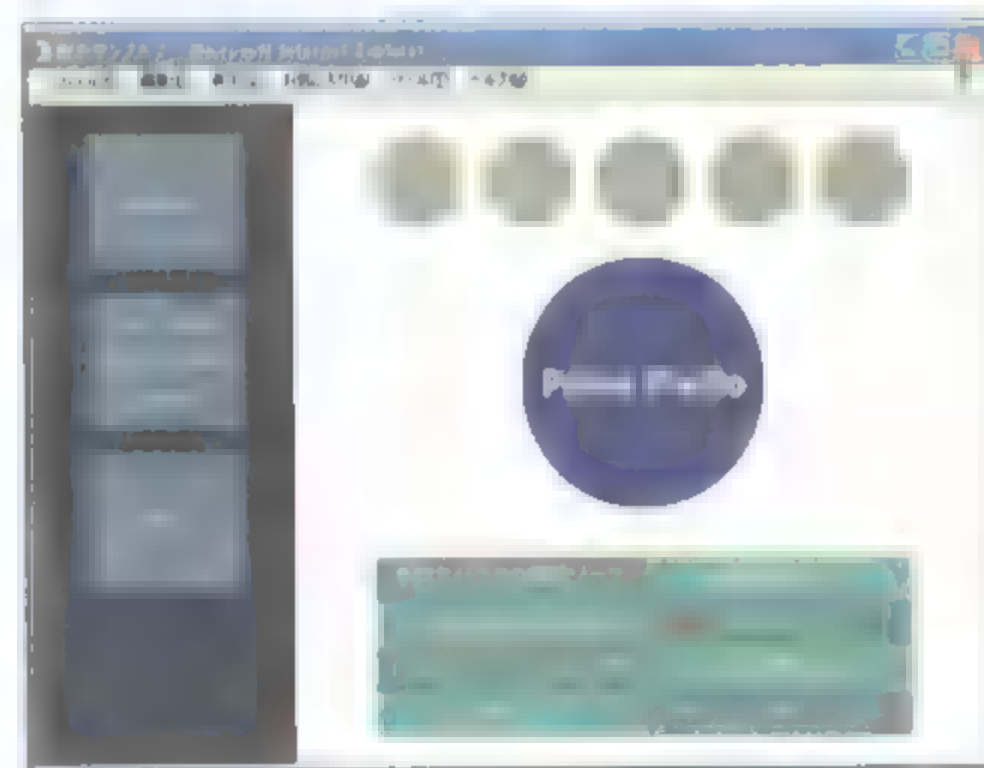
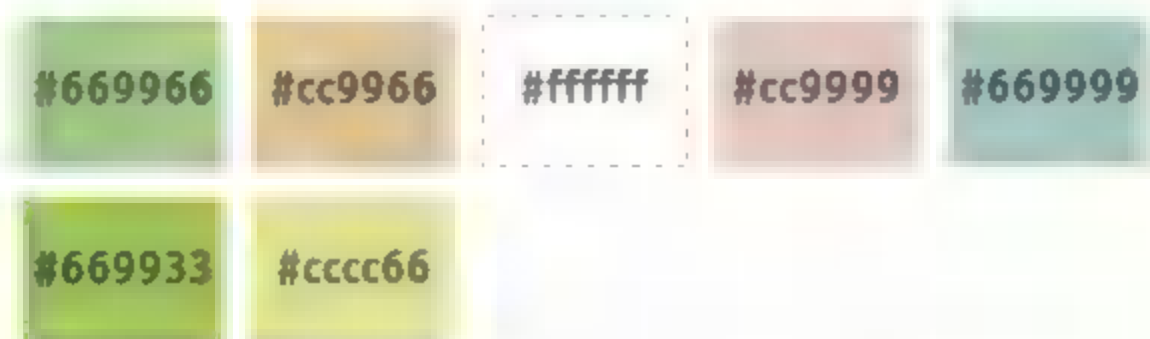
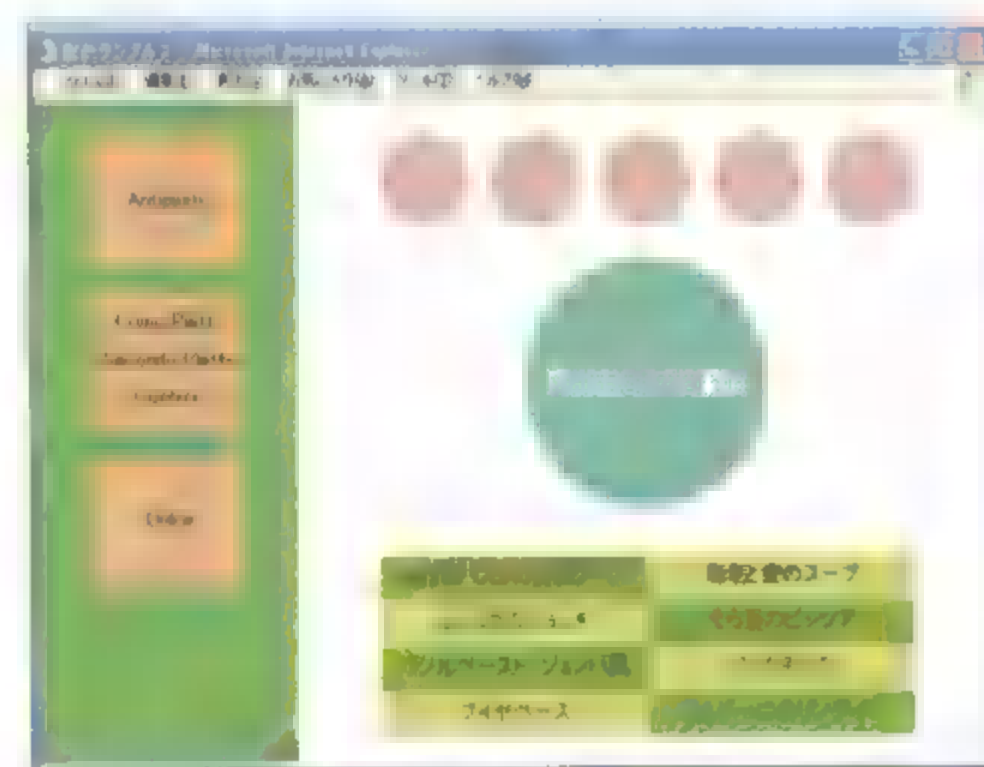
● 濃暗色系の配色

濃暗色は、彩度や明度が低い色です。彩度・明度によって「ダーク系」「ダル系」「グレイッシュ系」などに分類されます。濃暗色系の中でも、彩度・明度が比較的高い、ややくすんだ感じの色は、自然界で目にすることの多い色調であるため、「アースカラー」とも呼ばれます。

濃暗色の配色は、一般に重く鈍い印象を与えます。主に男性的で年齢層の高い印象の色で、重厚・渋み・伝統などのイメージを伝える場合には欠かせません。一方、配色によっては、暗い・寂しい・地味などのマイナスイメージを作ることにもなります。また、彩度・明度が低くなるほど無機的な印象になるため、モノトーン系の性格も含むようになります。

同系色の配色

補色・準補色との配色

明度のバリエーション

▲彩度が高く、明度が低い配色は、円熟した雰囲気を作ります

▲高彩度・低明度の色を、補色に近い対比で組み合わせると、和風またはエスニック風の配色になります

▲青系の暗色には、一般に男性的なイメージがあります

▲ややくすんだ色調のアースカラーによる配色は、好感度が高くやわらかい印象を与えます

● 淡明色系の配色

淡明色系は、■暗色系とは反対に、彩度や明度が高い色です。彩度・明度によって「ライト系」「ペール系」「ライトグレイッシュ系」などに分類されます。淡明色系の中で彩度・明度が比較的低い色も、「アースカラー」に含まれます。

淡明色系の配色は、軽やかで柔らかい印象を与え、女性に好まれる色調です。明度が非常に高く白に近いベージュなどの色は、個性は少ないものの、安心感があって受け入れられやすく、上品でやさしい印象を作ることができます。一方、淡明色だけでコントラストの少ない配色は、弱々しくあいまいな印象にもなります。

同系色の配色

#ffffcc #ffff99 #ccff99

#ccffcc #99ffcc #99ffff

#ccccff #9999ff #cc99ff

#ffccff #ff99cc #ff9999

#66ff66 #99ff99 #99ffcc

#6699ff #99ccff #99ffff

#ff66ff #ff99ff #ff99cc

#ff9966 #ffcc99 #ffff99

補色・準補色との対比

#ffff99 #9999ff

#99ffcc #ff99cc

#9999ff #ffff99

#ff99cc #99ffcc

#ffff99 #99ccff

#99ffcc #ff99ff

#9999ff #ffcc99

#ff99cc #99ff99

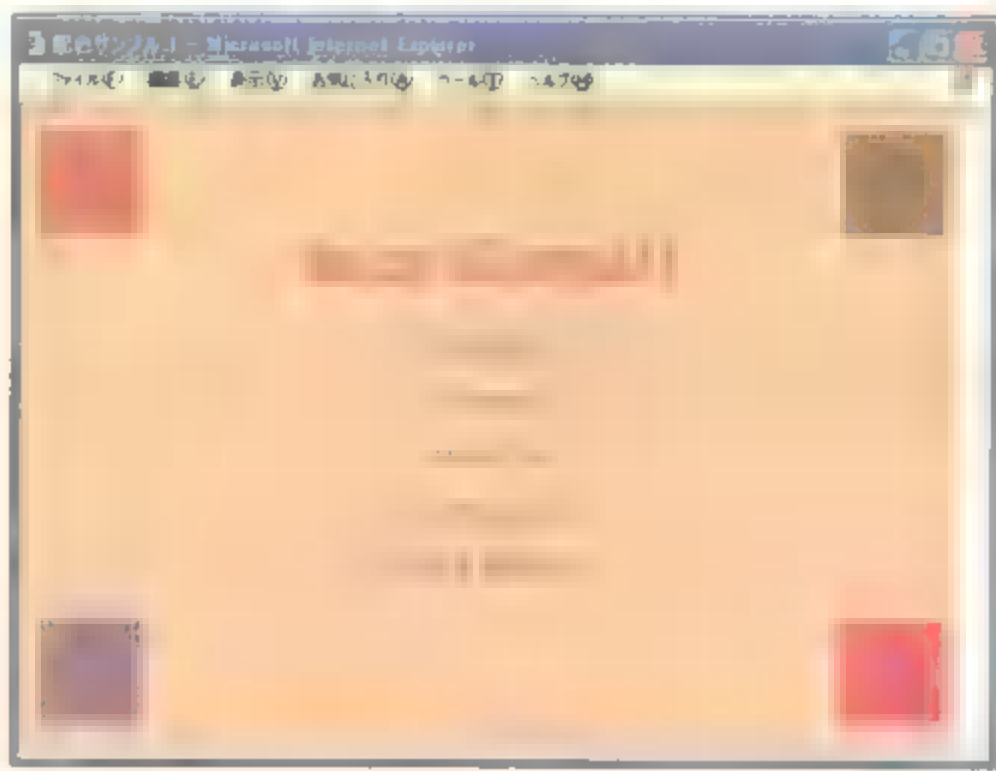
#ffff99 #cc99ff

#99ffcc #ff9999

#9999ff #ccff99

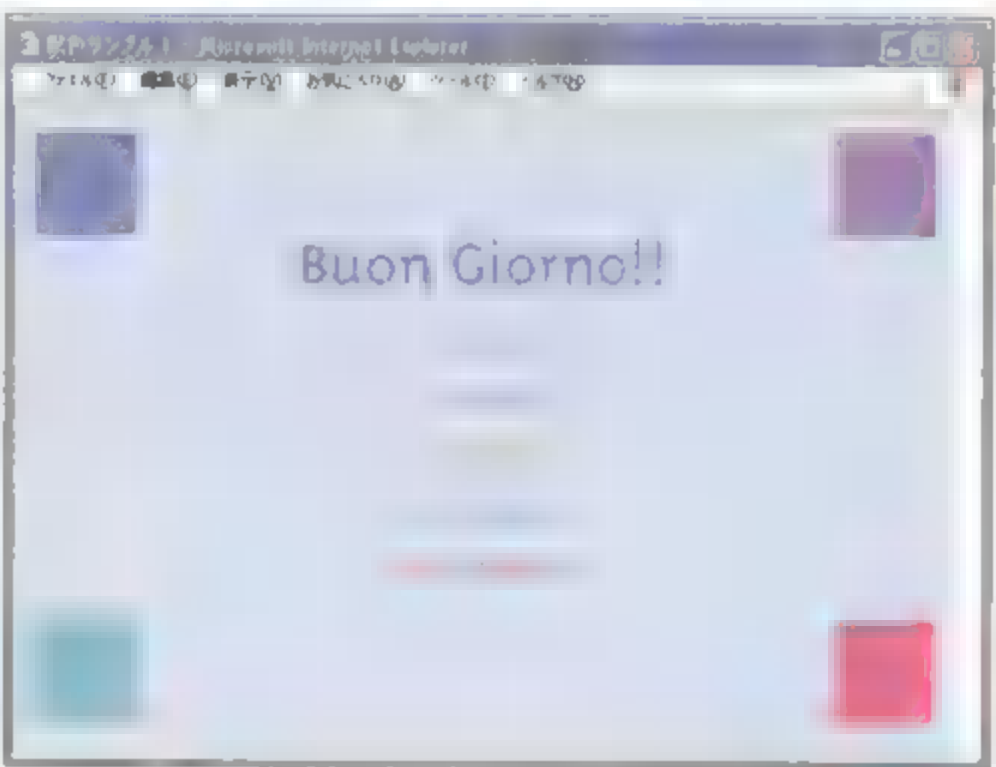
#ff99cc #99ffff

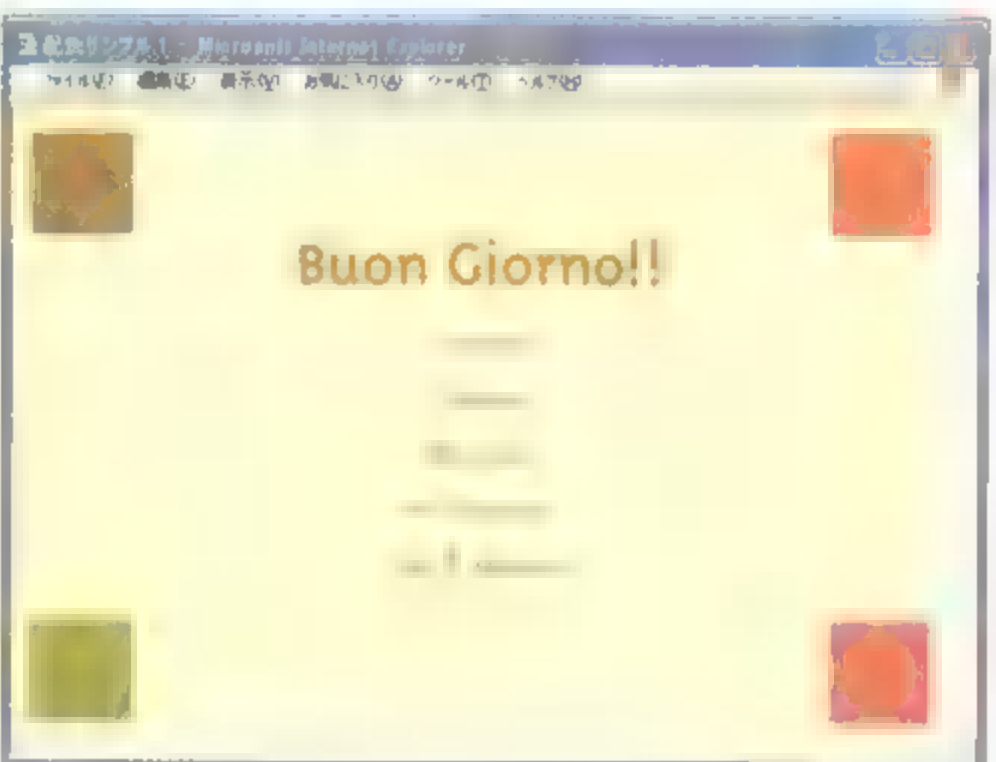
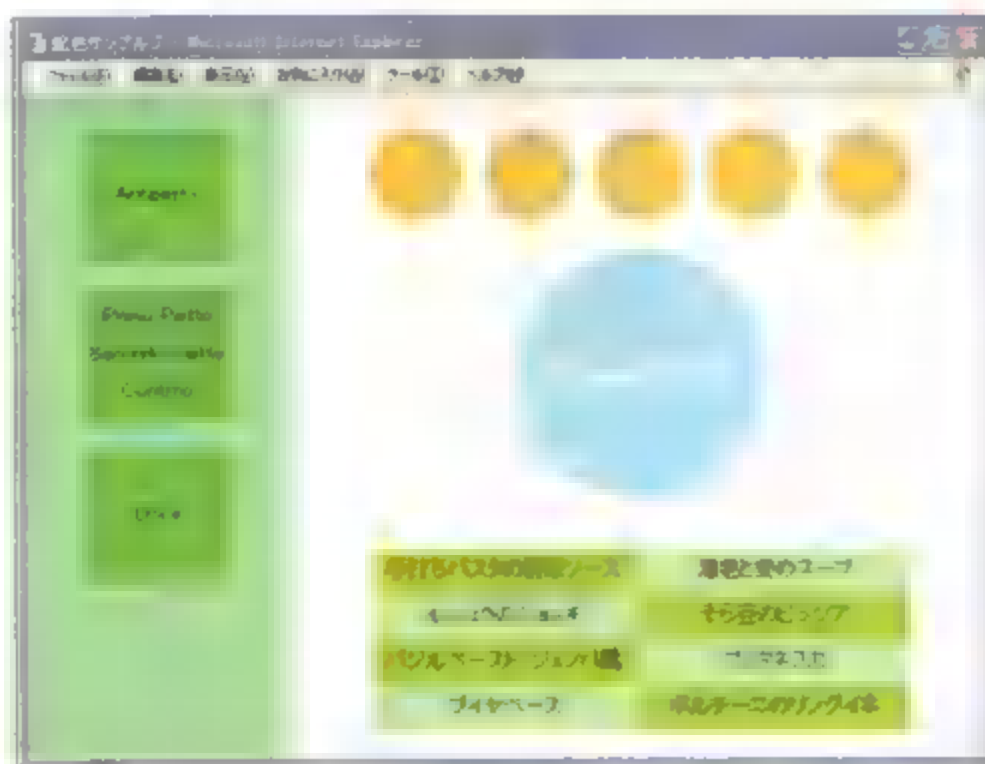
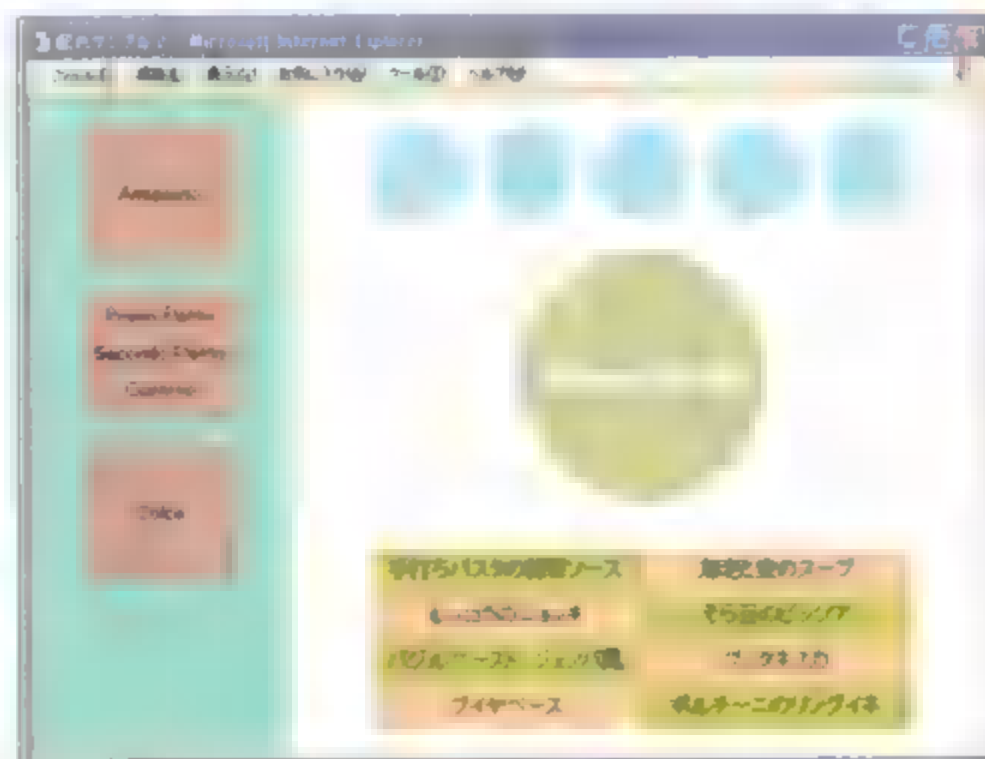
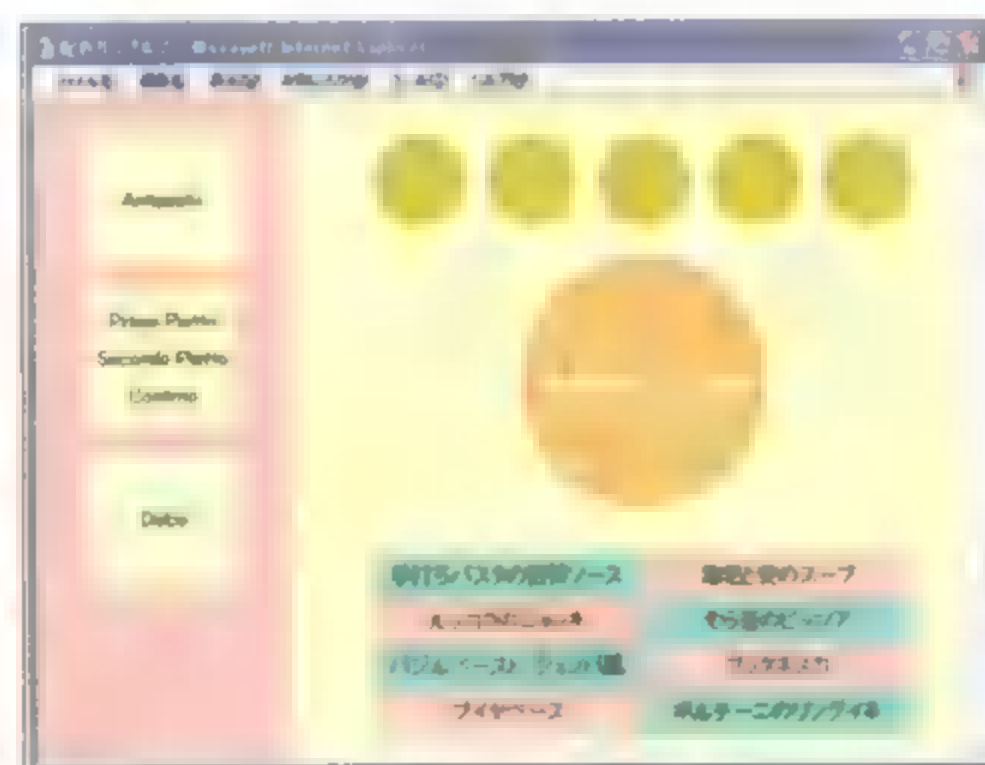
明度のバリエーション

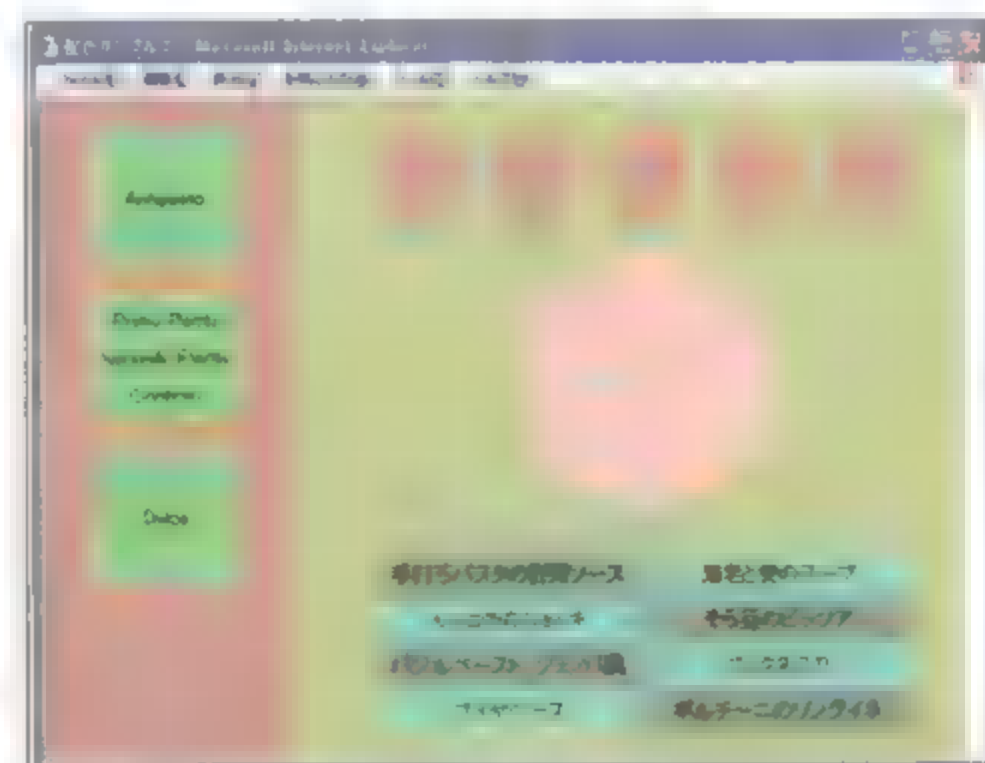
Buon Giorno!!

#ffcc99 bgcolor
#cc6666 text
#996666 link
#996699 vlink
#cc3366 alink

Buon Giorno!!

#ccff99 bgcolor
#339966 text
#999900 link
#999966 vlink
#009999 alink

Buon Giorno!!

#ccccff bgcolor
#6666cc text
#9966cc link
#6699cc vlink
#cc0099 alink

Buon Giorno!!

#ffffcc bgcolor
#996600 text
#cc6633 link
#999933 vlink
#ff0033 alink

▲彩度・明度の高い色と白を組み合わせると、若々しい印象になります

▲彩度が低く、明度の高い配色は、やわらかく落ち着いた印象になります

#ffcccc #ffffcc #cccc00 #ffcc66 #99cccc

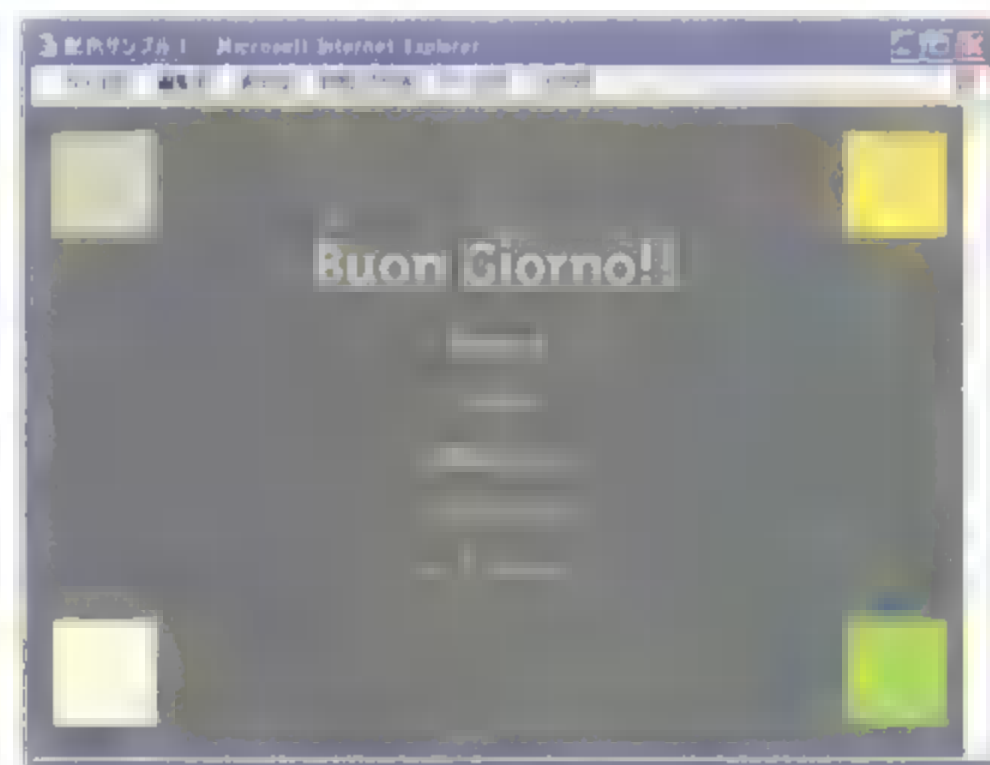
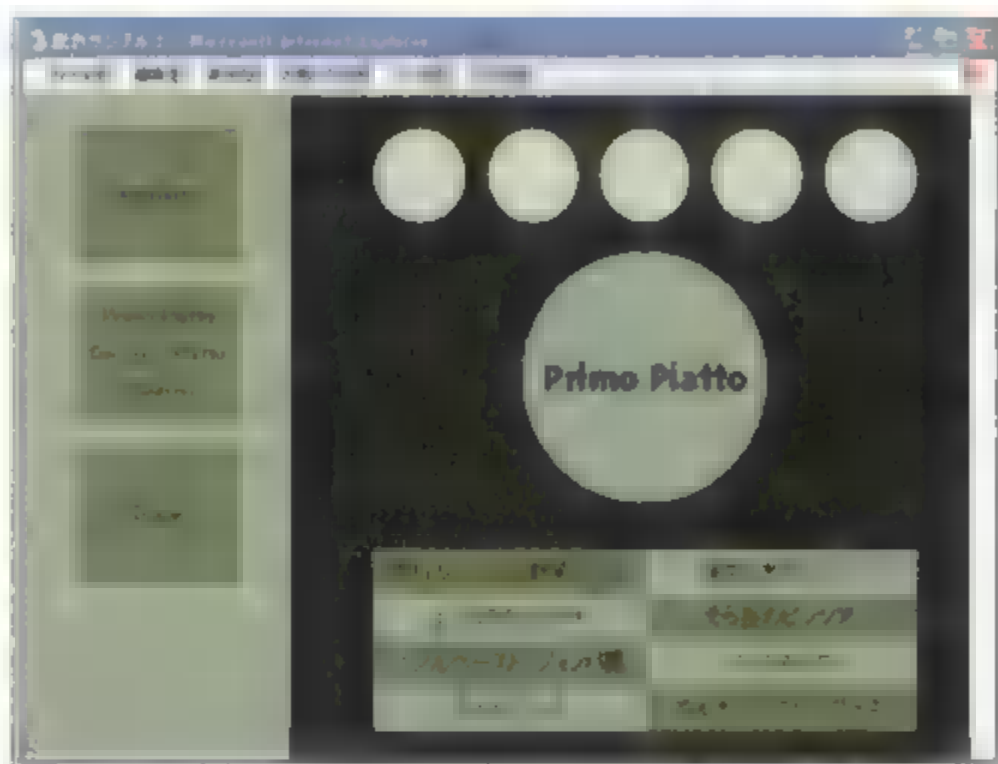
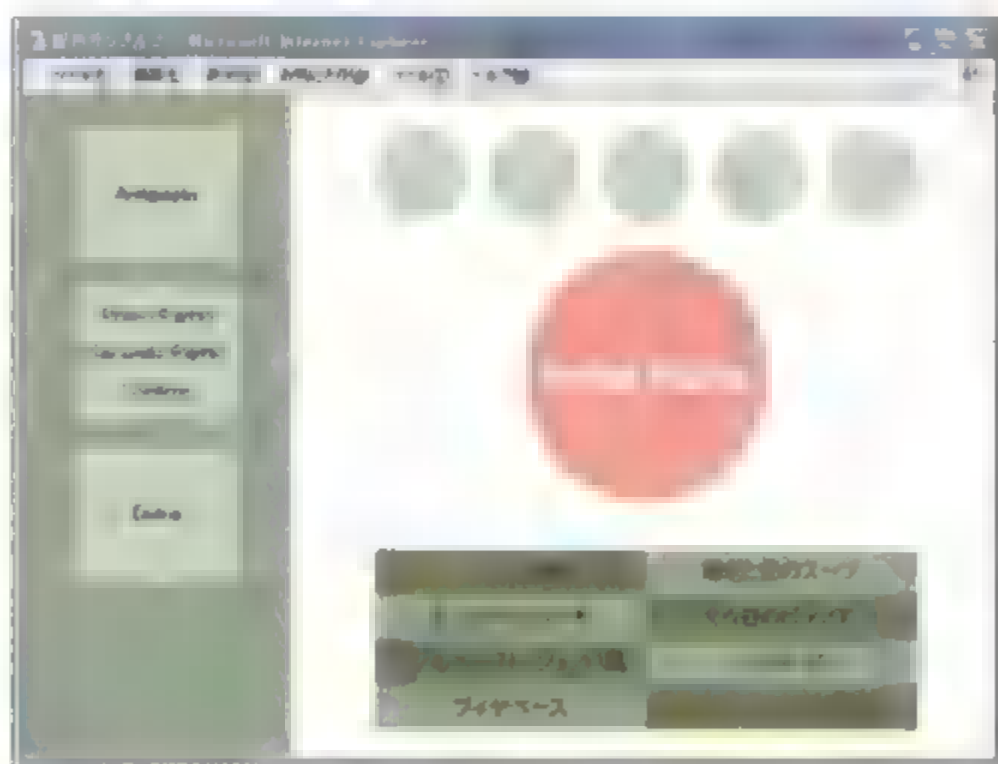
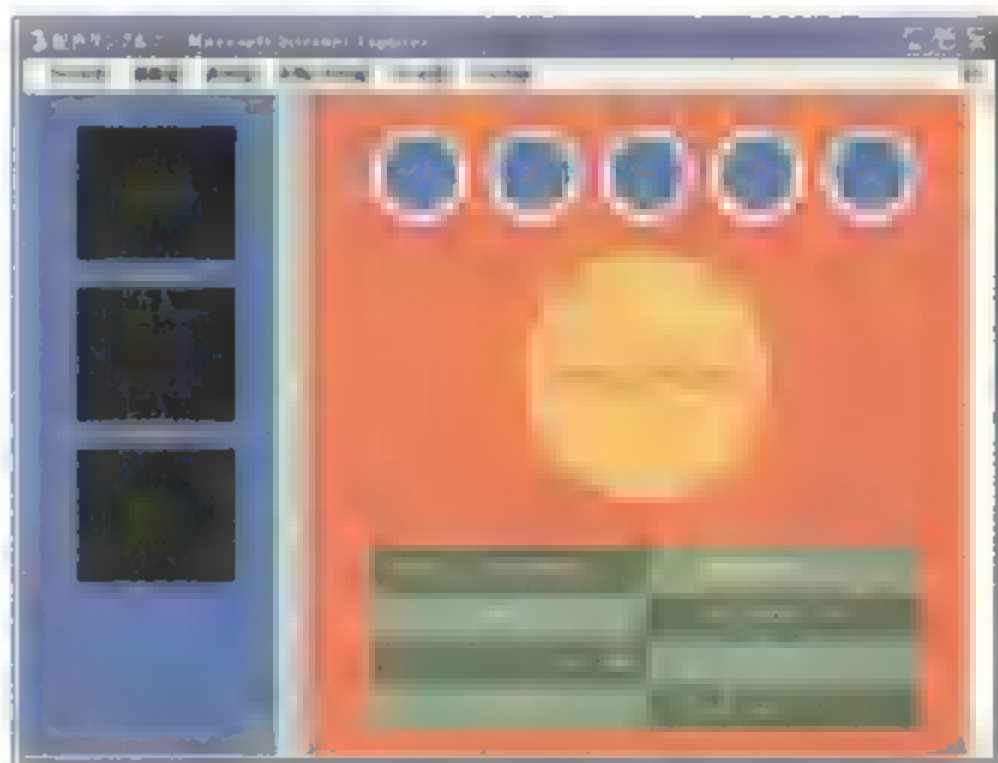
▲淡明色系の配色は、明るく女性的なイメージを作ることができます

#cc9999 #cccc99 #99cc99 #ffcccc #999999 #99cccc

▲彩度が低く、明度差の少ない配色は、あいまいでのんびりとした雰囲気になります

モノトーンの配色

無彩色の白・黒・グレーはニュートラルな色なので、どんな色とでも組み合わせることができ、配色によって印象が変わります。有彩色を加えないモノトーンの配色は、モダンで大人っぽいイメージになりますが、バランスによっては暗く重々しい印象を与えることにもなるので注意が必要です。

単色の場合、白は清潔・清楚・穢れがない・儚いなどのキーワードを連想させますが、基本的にマイナスイメージは少ない色です。反対に、黒は夜・暗闇・恐怖・死・絶望など不吉なものを象徴する一方、洗練されてシャープな印象を与える色でもあります。グレーもシックで落ち着いた印象の色ですが、使い方によっては地味で陰気なイメージとなります。

明度のバリエーション

▲無彩色による配色は、寒々しい印象になることがあります

▲黒を基本色とすると、強い主張が感じられるようになります

▲モノトーンの配色は、有彩色との組み合わせによって印象が変化します

▲補色の間に無彩色を置くと、すっきりした対比になります

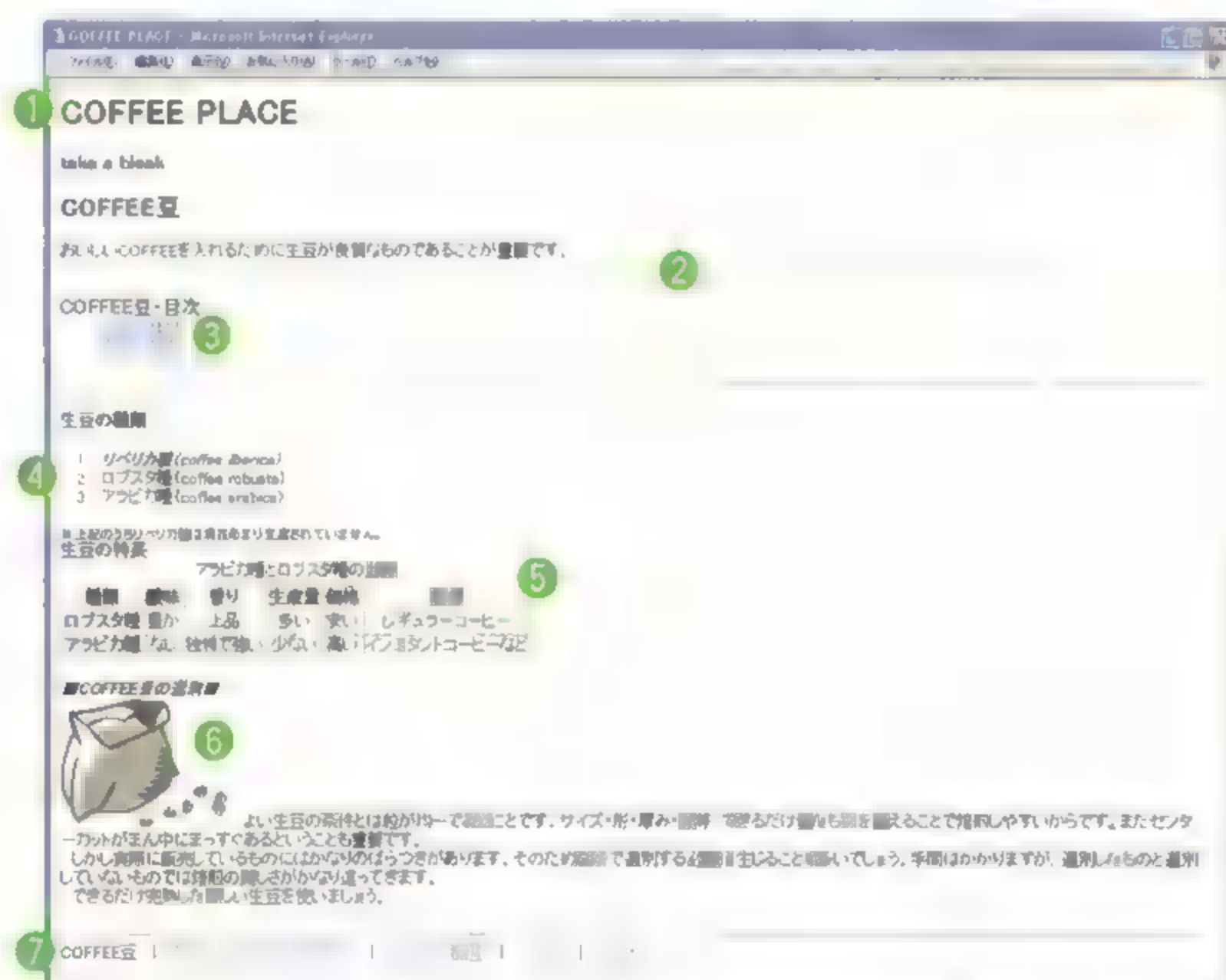
4 APPENDIX

ビジュアルインデックス

Webページビジュアルインデックスでは、本書に掲載しているHTMLタグを利用したグラフィカルなサンプルページをご紹介します。

インデックスになっていますので、気になるタグの使い方を本書の本文ですぐに調べることができます。

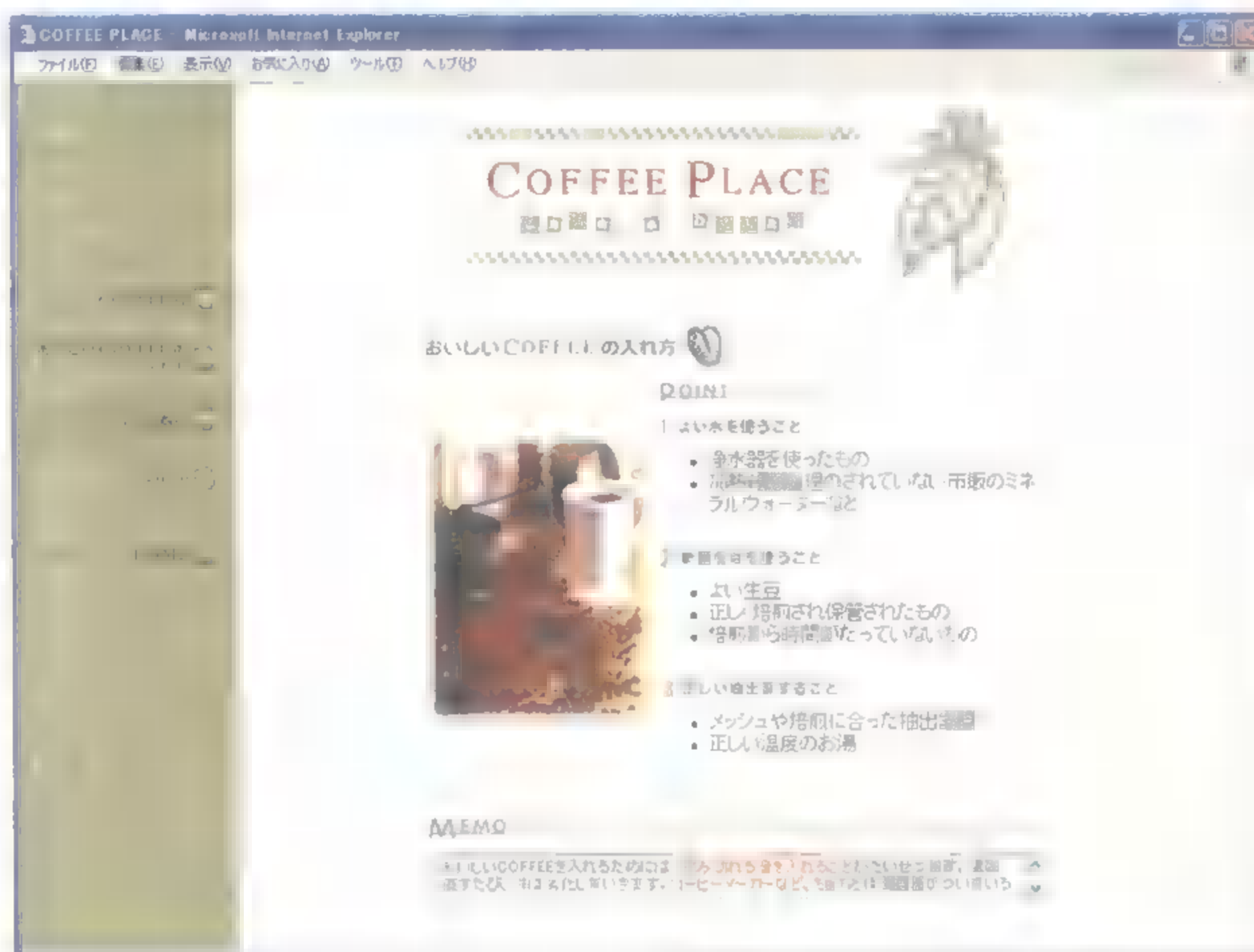
● HTML4.01の規格に準拠したページ

HTML4.01の規格に沿ったページです。できるだけタグ本来の仕様に基づいて作られています。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
          "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">                     p.16

<html>                                                                 p.20

<head>                                                                 p.20
  <meta name="keywords" content="coffee,コーヒー,珈琲">                 p.26
  <meta name="description" content="about coffee">
  <meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">  p.28
  <title>COFFEE PLACE</title>                                          p.21
  <link rel="index" href="index.html">                                 p.34
  <link rel="next" href="howtomake.html">
</head>
```

```
<body>                                                                  p.20

① <h1>COFFEE PLACE</h1>                                                 p.38
<big><b>take a bleak</b></big>                                          p.106, 108
<h2>COFFEE 豆</h2>
おいしいCOFFEEを入れるために生豆が良質なものであることが重要です。

② <hr>                                                                  p.92
<dl>                                                                    p.124
  <dt><big><b>COFFEE豆 目次</b></big></dt>
③ <dd><a href="#syurui">生豆の種類</a></dd>                              p.148
  <dd><a href="#tokucho">生豆の特長</a></dd>
</dl>

<hr>
<br>
<a name="syurui"><strong>生豆の種類</strong></a>
④ <ol>                                                                  p.115
  <li><i>リベリカ種（coffee liberica）</i></li>
  <li>ロブスタ種（coffee robusta）</li>
  <li>アラビカ種（coffee arabica）</li>
</ol>
<small>※上記のうちリベリカ種は現在あまり生産されていません。</small><br>       p.42
<a name="tokucho"><strong>生豆の特長</strong></a>
⑤ <table border="1" cellspacing="1" cellpadding="1">                    p.200, 219
  <caption>アラビカ種とロブスタ種の比較</caption>                          p.214
  <tr>                                                                  p.196
    <th>[illegible]</th><th>酸味</th><th>香り</th><th>生産量</th><th>価格</th><th>用途</th>   p.198
  </tr>
  <tr>
    <td><b>ロブスタ種</b></td>
    <td align="center">豊か</td><td align="center">上品</td>               p.216
    <td align="center">多い</td><td align="center">安い</td>
    <td align="center">レギュラーコーヒー</td>
  </tr>
  <tr>
    <td><b>アラビカ種</b></td>
    <td align="center">なし</td><td align="center">独特で強い</td>
    <td align="center">少ない</td><td align="center">高い</td>
    <td align="center">インスタントコーヒーなど</td>
  </tr>
</table>
<br>
<p><em>■COFFEE豆の選別■</em><br>                                          p.40, 54
⑥ <img src="image/ill01.gif" width="164" height="123" alt="イラスト">     p.128, 130
  よい生豆の条件とは粒が均一であることです。サイズ・形・厚み・色等、できるだけ似たものを揃える
ことで焙煎しやすいからです。またセンターカットがまん中にまっすぐあるということも重要です。<br>
  しかし……（中略）……違ってきます。<br>
  できるだけ完熟した新しい生豆を使いましょう。<br>
</p>

<hr>
⑦ COFFEE豆 | <a href="../howtomake/index.html">おいしいCOFFEEの入れ方</a>   p.10, 146
  | <a href="../utencil/utencil.html">COFFEE器具</a>
  | <a href="../shop/shop.html">SHOP</a> | <a href="../index.html">HOME</a>

</body>

</html>
```

● フレームを利用したページ

フレーム機能を利用すると、ひとつのブラウザを複数のウィンドウに区切ることができます。ここではフレームを２分割しています。

フレームセット

フレームの使用を定義するファイルです。このファイルを読み込むと、指定した menu.html と howto.html がそれぞれのフレームに表示されます。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Frameset//EN"
            "http://www.w3.org/TR/html4/frameset.dtd">                                        p.16
<html>

<head>
  <title>COFFEE PLACE</title>
  <meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">
</head>

<frameset cols="180,*" frameborder="0" border="0">
  <frame name="menu" src="menu.html" marginheight="150" scrolling="no" noresize>  p.258, 252
  <frame name="main" src="howto.html" scrolling="auto">                           p.262, 252
</frameset>
<noframes>                                                                        p.266
  <body bgcolor="#ffffff">
  このページはフレーム機能がないブラウザでは見られません。
  </body>
</noframes>

</html>
```

左のウィンドウに表示されるファイル――menu.html

フレームの左側のウィンドウに表示されるファイルです。このウィンドウでリンクをクリックすると、右側のウィンドウにリンク先が表示されます。

SOURCE

```
<html>

<head>
  <title>左フレーム</title>
  <meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">
</head>

❶ <body bgcolor="#999966" background="image/menu_bkg.gif">  ―― p.74

<center>  ―― p.90

<!-- 画像を配置するためのレイアウトテーブルここから ++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++-->
❷ <table border="0" cellspacing="1" cellpadding="1">
  <tr>
    <td align="right" valign="middle">  ―― p.216
      <a href="../beans/beans.html" target="main">
      <img src="image/menu01.gif" width="74" height="11" alt="COFFEE豆" border="0"></a>
    </td>
    <td align="center" valign="middle">
      <a href="../beans/beans.html" target="main">
      <img src="image/m_icon.gif" width="18" height="22" vspace="10" border="0" alt=""></a>
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="right" valign="middle">
      <img src="image/menu02.gif" width="123" height="26" alt="おいしいCOFFEEの入れ方" border="0">
```

```
    </td>
    <td align="center" valign="middle">
      <img src="image/m_icon.gif" width="19" height="22" vspace="10">
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="right" valign="middle">
      <a href="../utincil/utincil.html" target="main">
      <img src="image/menu03.gif" width="86" height="11" alt="COFFEE器具" border="0"></a>
    </td>
    <td align="center" valign="middle">
      <a href="../utincil/utincil.html" target="main">
      <img src="image/m_icon.gif" width="19" height="22" vspace="10" border="0"></a>
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="right" valign="middle">
      <a href="../shop/shop.html" target="main">
      <img src="image/menu04.gif" width="37" height="11" alt="SHOP" border="0"></a>
    </td>
    <td align="center" valign="middle">
      <a href="../shop/shop.html" target="main">
      <img src="image/m_icon.gif" width="19" height="22" vspace="10" border="0"></a>
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td align="right" valign="middle">
      <a href="../index.html" target="_top">
      <img src="image/menu05.gif" width="46" height="12" alt="HOME" border="0"></a>
    </td>
    <td align="center" valign="middle">
      <a href="../index.html" target="_top">
      <img src="image/m_icon.gif" width="19" height="22" vspace="20" border="0"></a>
    </td>
  </tr>
</table>
<!-- [illegible]を[illegible]るためのレイアウトテーブルここまで +++++++++++++++++++++++++++++++++++++-->
</center>

</body>

</html>
```

p.10, 156

右のウィンドウに表示されるファイル——howto.html

フレームの右側のウィンドウに表示されるファイルです。3つのテーブルを使って全体がレイアウトされています。

SOURCE

```
<html>

<head>
  <title>右フレーム</title>
  <meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">
</head>

<body bgcolor="#ffffff">

<center>

<!--タイトル画像のレイアウトテーブルここから-->
<table width="450" border="0" cellspacing="1" cellpadding="1">  ——— p.196, 219
  <tr>
    <td valign="middle">  ——— p.216
      <img src="image/title.gif" width="326" height="110" alt="COFFEE PLACE">  ——— p.126
    </td>
    <td align="right">
      <img src="image/ill01.gif" width="104" height="149" alt="イラスト">
    </td>
  </tr>
</table>
<!--タイトル画像のレイアウトテーブルここまで-->

<br>
```

```
<!--メイン部分のレイアウトテーブルここから-->
<table border="0" cellspacing="5" cellpadding="1" width="522">
  <tr><td colspan="2">
    <img src="image/header01.gif" width="264" height="35" alt="おいしいcoffeeの入れ方">
  </td></tr>
  <tr>
    <td rowspan="8" align="center">
      <img src="image/photo01.jpg" width="186" height="234" alt="photo"> <!--コーヒーの写真-->
    </td>
    <td><img src="image/header02.gif" width="321" height="18" alt="POINT"> </td>
  </tr>
  <tr><td>
      <img src="image/header02s_01.gif" width="117" height="15" alt="1よい水">
  </td></tr>
  <tr><td>
      <ul type="square">
        <li> 浄水器を使ったもの </li>
        <li> 加熱殺菌処理のされていない市販のミネラルウォーターなど </li>
      </ul>
  </td></tr>
  <tr><td>
      <img src="image/header02s_02.gif" width="133" height="15" alt="2新鮮な豆">
  </td></tr>
  <tr><td>
      <ul type="square">
        <li> よい生豆 </li>
        <li> 正しく焙煎、保管されたもの </li>
        <li> 焙煎から時間がたっていないもの </li>
      </ul>
  </td></tr>
  <tr><td>
      <img src="image/header02s_03.gif" width="147" height="15" alt="3正しい抽出">
  </td></tr>
  <tr><td>
      <ul type="square">
        <li> メッシュや焙煎に合った抽出器具 </li>
        <li> 正しい温度のお湯 </li>
      </ul>
  </td></tr>
</table>
<!--メイン部分のレイアウトテーブルここまで-->

<br>
<!--インラインフレーム部分のレイアウトテーブルここから-->
<table border="0" cellspacing="5" cellpadding="1" width="522">
  <tr><td>
      <img src="image/header03.gif" width="512" height="18" alt="MEMO">
  </td></tr>
  <tr><td>
      <iframe src="memo.html" width="512" height="40"> このページではインラインフレームを
      使っています。</iframe>
  </td></tr>
</table>
<!--インラインフレーム部分のレイアウトテーブルここまで-->

</center>

</body>

</html>
```

p.236
p.116
p.114
p.268

● フォームを利用したページ

アンケートや住所登録など、フォームを利用すると、ユーザーとのダイレクトなやりとりが可能になります。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">

<html>

<head>
  <title>Computer Graphic Conference ：会員登録</title>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
</head>

<body bgcolor="#ffffff" text="#333333" marginheight="0" topmargin="0" link="#333333"
vlink="#6699cc" alink="#00ccff">

<center>

<!-- タイトルヘッダ部分のレイアウトテーブル（入れ子３テーブル）ここから ++++++++++++++++++++-->
<table width="640" border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
  <tr><td align="right">
```

p.96

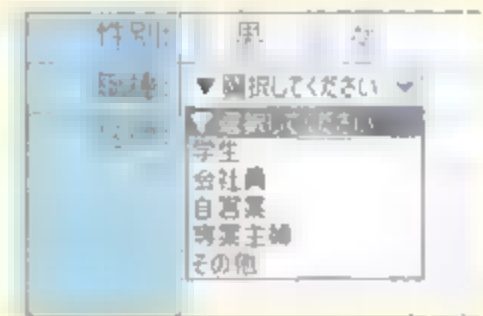
p.90

```html
    <table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
      <tr><td align="right">
        <img src="image/logo.gif" width="371" height="72" alt="Computer Graphic Conference">
      </td></tr>
      <tr><td bgcolor="#999999">
        <table width="440" border="0" cellspacing="1" cellpadding="1">
          <tr>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee">
              <font size="2"><a href="topics.html">トピックス</a></font>
            </td>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee">
              <font size="2"><a href="contents.html">活動内容</a></font>
            </td>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee">
              <font size="2"><a href="schedule.html">スケジュール</a></font>
            </td>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee">
              <font size="2"><a href="speaker.html">[illegible]</a></font>
            </td>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee"><font size="2">会員登録</font></td>
            <td align="center" bgcolor="#eeeeee">
              <font size="2"><a href="profile.html">CGC[illegible]</a></font>
            </td>
          </tr>
        </table>
      </td></tr>
      <tr><td align="right">
        <a href="login/index.html"><font size="2" color="#ff6600">会員 LOG IN</font></a>
      </td></tr>
    </table>
  </td></tr>
</table>
<!--タイトルヘッダ部分のレイアウトテーブル（入れ子3テーブル）ここまで+++++++++++++++++-->

<br>
<img src="image/title.gif" width="500" height="50" alt="会員[illegible]">
<br>
<!--メインタイトルのレイアウトテーブルここから-->
<table width="500" border="0" cellspacing="1" cellpadding="1" bgcolor="#3399ff">
  <tr><td align="center" bgcolor="#ffffff">
    <b><font color="#0066ff" size="2">～アンケートにお答えください～</font></b>
  </td></tr>
</table>
<!--メインタイトルのレイアウトテーブル[illegible]で-->
<br>

<!--メインテキストのレイアウトテーブルここから-->
<table width="500" border="0" cellspacing="0" cellpadding="1">
  <tr><td>
      このフォームで登録を済ませると、CGCでおこなっている[illegible]情報やイベントを、毎月メールにて
    お知らせします。登録およびご利用に一切お金はかかりません。ぜひお申し込みください。
  </td></tr>
  <tr><td align="center">
    <font size="2" color="#ff6633">※なお、ここで 登録されたプライベートな情報は、外部に出る
    ことはありません。</font>
  </td></tr>
  <tr><td> </td></tr>
  <tr><td>
      <font size="2">登録が完了すると、申込みいただいたアドレスに確認のメールが届きます。
    その内容をご覧になって、正しい情報が登録されたかご確認ください。</font>
```

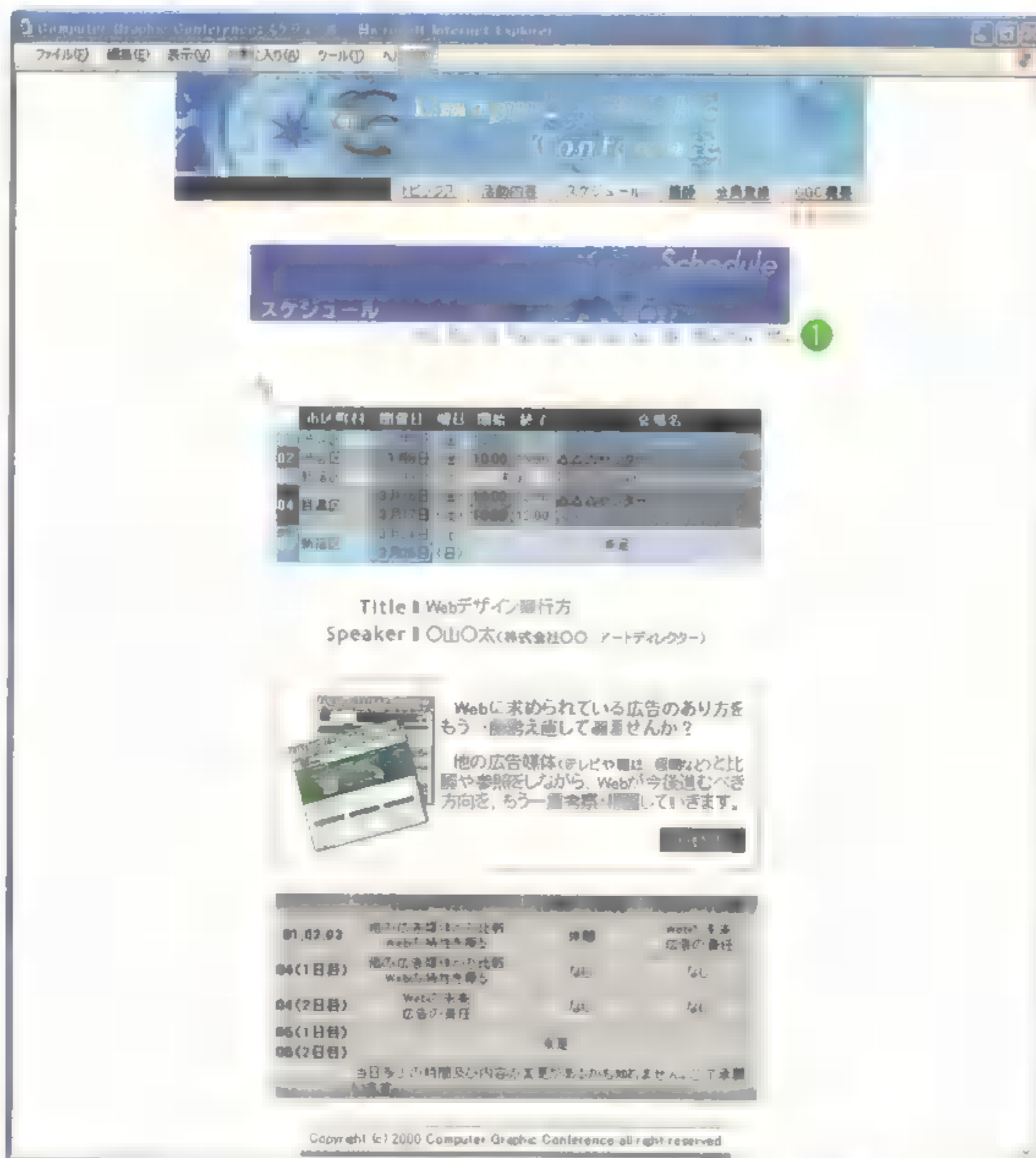
p.222

```
    </td></tr>
    <tr><td>  </td></tr>
    <tr><td><hr size="1"></td></tr>
  </table>
  <!--メインテキスト入りレイアウトテーブルここまで-->
  <form method="post" action="cgi-bin/form.cgi">
    <!--フォーム部分のレイアウトテーブルここから++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++-->
    <table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
      <tr><td>
        <font color="#0066ff" size="2"><b>■あなたのパソコン歴をおしえてください</b></font>
      </td></tr>
      <tr><td>
        約<input type="text" name="q101" size="4" maxlength="2">年
        <input type="text" name="q102" size="4" maxlength="2">ヶ月
      </td></tr>
      <tr><td>  </td></tr>
      <tr><td>
        <font color="#0066ff" size="2"><b>●よく読む雑誌の分野を教えてください</b>(複数回答可)</font>
      </td></tr>
      <tr><td>
        <input type="checkbox" name="q2" value="computer">パソコン・インターネット関連
        <input type="checkbox" name="q2" value="design">デザイン関連
        <input type="checkbox" name="q2" value="fashion">ファッション関連<br>
        <input type="checkbox" name="q2" value="sports">スポーツ関連
        <input type="checkbox" name="q2" value="travel">旅行関連
        <input type="checkbox" name="q2" value="information">情報誌関連
      </td></tr>
      <tr><td>  </td></tr>
      <tr><td>
        <font color="#0066ff" size="2"><b>■今、興味のあることは何ですか?</b>(具体的に)</font>
      </td></tr>
      <tr><td>
        <input type="text" name="q3" size="70">
      </td></tr>
      <tr><td>  </td></tr>
      <tr><td>
        <font color="#0066ff" size="2"><b>●このホームページのご感想をお聞かせください</b></font>
      </td></tr>
      <tr><td>
        <textarea name="q4" rows="5" cols="70">  </textarea>
      </td></tr>
      <tr><td>  </td></tr>
      <tr><td align="center">
        <!--フォーム入りテーブルここから-->
        <table border="0" cellspacing="1" cellpadding="2" bgcolor="#0033ff">
          <tr>
            <td align="right" bgcolor="#99ccff" nowrap>お名前:</td>
            <td bgcolor="#ffffff"><input type="text" name="yname"></td>
          </tr>
          <tr>
            <td align="right" nowrap bgcolor="#99ccff">ふりがな:</td>
            <td bgcolor="#ffffff"><input type="text" name="namef"></td>
          </tr>
          <tr>
            <td align="right" nowrap bgcolor="#99ccff">メールアドレス:</td>
            <td bgcolor="#ffffff"><input type="text" name="yadd" size="35"></td>
          </tr>
          <tr>
            <td align="right" nowrap bgcolor="#99ccff">生年月日(西暦):</td>
            <td bgcolor="#ffffff">
```

<form method="post" action="cgi-bin/form.cgi"> — p.160
① <input type="checkbox" …> — p.182
② <input type="text" name="q3" size="70"> — p.174
③ <textarea name="q4" rows="5" cols="70"> </textarea> — p.176

```
        <input type="text" name="yyear" size="6" maxlength="4"><font size="2">年</font>
        <input type="text" name="ymonth" size="4" maxlength="2"><font size="2">月</font>
        <input type="text" name="yday" size="4" maxlength="2"><font size="2">日</font>
      </td>
    </tr>
    <tr>
      <td align="right" bgcolor="#99ccff" nowrap>性別：</td>
      <td bgcolor="#ffffff">
④       <input type="radio" name="ysex" value="man">男
        <input type="radio" name="ysex" value="woman">女
      </td>
    </tr>
    <tr>
      <td align="right" bgcolor="#99ccff" nowrap>職種：</td>
      <td bgcolor="#ffffff">
⑤       <select name="occupation">
          <option selected>▼選択してください</option>
          <option value="student">学生</option>
          <option value="employee">会社員</option>
          <option value="selfemployee">自営業</option>
          <option value="housewife">専業主婦</option>
          <option value="other">その他</option>
        </select>
      </td>
    </tr>
    <tr>
      <td align="right" valign="top" bgcolor="#99ccff" nowrap>住所：</td>
      <td bgcolor="#ffffff">
        <font size="2">〒</font>
        <input type="text" name="zip01" size="5" maxlength="3"> -
        <input type="text" name="zip02" size="6" maxlength="4"><br>
        <font size="2">都道府県</font><input type="text" name="yadd01" size="25"><br>
        <font size="2">市区町村</font><input type="text" name="yadd02" size="25"><br>
        <input type="text" name="yadd03" size="25">
      </td>
    </tr>
    <tr>
      <td align="right" bgcolor="#99ccff" nowrap>電話番号：</td>
      <td bgcolor="#ffffff"><input type="text" name="ytel" size="20" maxlength="10"></td>
    </tr>
  </table>
  <!--フォーム内のテーブルここまで-->
</td></tr>
<tr><td> </td></tr>
<tr><td><hr size="1"></td></tr>
<tr><td align="center">
  <input type="submit" value="送信">
  <input type="reset" value="リセット">
</td></tr>
</table>
<!--フォーム部分のレイアウトテーブルここまで++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++-->
</form>

</center>

</body>

</html>
```

④ p.180
⑤ p.184
送信 p.166
リセット p.168

● テーブルを利用したページ

テーブルでレイアウトしたページです。テーブルだけを利用しても、驚くほど凝ったページが作成可能です。ただし、HTML4.01本来の使用方法とは異なりますので、使用には注意が必要です。

SOURCE

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">

<head>
  <title>Computer Graphic Conference ::スケジュール</title>
  <meta http-equiv="content-type" content="text/html; charset=shift_jis">
</head>

<body bgcolor="white" text="#333333" marginheight="0" topmargin="0" link="#333333"
vlink="#6699cc" alink="#00ccff">

<center>

<!--Ⓐレイアウトテーブルここから-->
<table width="640" border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
  <tr><td>
    <!--Ⓑレイアウトテーブルここから-->
    <table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
      <tr><td align="right" colspan="2">
```

p.18

```
<img src="image/titlelogo.gif" width="640" height="90" alt="Computer Graphic Conference">
</td></tr>
<tr>
<td background="image/ita01.gif"><img src="image/1pix.gif" width="1" height="20"></td>
<td align="right" valign="bottom" background="image/ita01.gif">
```

p.216, 232

```
  <!--Ⓒレイアウトテーブルここから-->
  <table width="440" border="0" cellspacing="1" cellpadding="1" bgcolor="#999999">
    <tr>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2"><a href="topics.html">トピックス</a></font>
      </td>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2"><a href="contents.html">活動内容</a></font>
      </td>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2">スケジュール</font>
      </td>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2"><a href="speaker.html">講師</a></font>
      </td>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2"><a href="index.html">会員登録</a></font>
      </td>
      <td align="center" bgcolor="#eeeeee" height="10">
        <font size="2"><a href="index.html">CGC概要</a></font>
      </td>
    </tr>
  </table>
  <!--Ⓒレイアウトテーブルここまで-->
  </td>
</tr>
<tr>
  <td align="right" colspan="2">
    <a href="login.html"><font size="2" color="#ff6600">会員 LOG IN</font></a>
  </td></tr>
</table>
<!--Ⓑレイアウトテーブルここまで-->
</td></tr>
<tr><td> </td></tr>
<tr><td align="center">
<!--Ⓓレイアウトテーブルここから-->
<table width="500" border="0" cellspacing="2" cellpadding="1">
  <tr><td><img src="image/title.gif" width="500" height="70" alt="スケジュール"></td></tr>
  <tr><td align="right">
❶   <img src="image/month.gif" width="344" height="16" usemap="#month" border="0" alt="月">
```

p.142

```
  </td></tr>
  <tr><td> </td></tr>
  <tr><td height="23">
    <img src="image/h_march.gif" width="22" height="20" alt="3月">
  </td></tr>
  <tr><td align="center">
    <!--Ⓔ上部のテーブルここから-->
    <table border="0" width="450" cellspacing="1" cellpadding="1" bgcolor="#999999">
      <tr>
        <td bgcolor="white" height="2"> </td>
        <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">市区町村</font></th>
        <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">開催日</font></th>
        <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">曜日</font></th>
        <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">開始</font></th>
        <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">終了</font></th>
```

```
    <th bgcolor="#666666" height="2"><font size="2" color="white">会場名</font></th>
  </tr>
  <tr>
    <td background="image/t1_1.gif"><b><font size="2" color="white">01</font></b></td>
    <td bgcolor="#99ccff"><font size="2">渋谷区</font></td>
    <td bgcolor="#6699ff" align="right"><font size="2">3月1日</font></td>
    <td bgcolor="#99ccff" align="center"><font size="2">（金）</font></td>
    <td bgcolor="#6699ff" align="center"><font size="2">10:00</font></td>
    <td bgcolor="#99ccff" align="center"><font size="2">15:00</font></td>
    <td bgcolor="#6699ff"><font size="2">〇〇〇センター</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td background="image/t1_2.gif"><b><font size="2" color="white">02</font></b></td>
    <td bgcolor="#dddddd"><font size="2">渋谷区</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="right"><font size="2">3月8日</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">（金）</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="center"><font size="2">10:00</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">15:00</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb"><font size="2">△△△センター</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td background="image/t1_1.gif"><b><font size="2" color="white">03</font></b></td>
    <td bgcolor="#99ccff"><font size="2">新宿区</font></td>
    <td bgcolor="#6699ff" align="right"><font size="2">3月9日</font></td>
    <td bgcolor="#99ccff" align="center"><font size="2">（土）</font></td>
    <td colspan="2" bgcolor="#ccccff" align="center"><font size="2">未定</font></td>
    <td bgcolor="#6699ff"><font size="2">□□ビル4F</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td rowspan="2" background="image/t1_2.gif" valign="middle"><b><font size="2"
      color="white">04</font></b></td>
    <td bgcolor="#dddddd" rowspan="2" valign="middle"><font size="2">目黒区</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="right"><font size="2">3月16日</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">（金）</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="center"><font size="2">10:00</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">12:00</font></td>
    <td rowspan="2" bgcolor="#bbbbbb"><font size="2">△△△センター</font><br>
      <font size="2" color="#0066ff">※2日間にわけて開催します。</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="right"><font size="2">3月17日</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">（土）</font></td>
    <td bgcolor="#bbbbbb" align="center"><font size="2">10:00</font></td>
    <td bgcolor="#dddddd" align="center"><font size="2">12:00</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td rowspan="2" background="image/t1_1.gif" valign="middle"><b><font size="2"
      color="white">05</font></b></td>
    <td bgcolor="#99ccff" rowspan="2" valign="middle"><font size="2">新宿区</font>
    </td>
    <td bgcolor="#6699ff" align="right"><font size="2">3月24日</font></td>
    <td bgcolor="#99ccff" align="center"><font size="2">（土）</font></td>
    <td colspan="3" rowspan="2" bgcolor="#ccccff" align="center"><font size="2">
      未定</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td bgcolor="#6699ff" align="right"><font size="2">3月25日</font></td>
    <td bgcolor="#99ccff" align="center"><font size="2">（日）</font></td>
  </tr>
</table>
```

p.228
p82
p.236,237

```
  <!--Ⓔ上部のテーブルここまで-->
</td></tr>
<tr><td>　</td></tr>
<tr><td>
  <!--Ⓕレイアウトテーブルここから-->
  <table border="0" cellspacing="2" cellpadding="3" align="center">
    <tr>
      <td align="right"><img src="image/h_title.gif" width="55" height="13" alt="title"></td>
      <td>Webデザインの行方</td>
    </tr>
    <tr>
      <td><img src="image/h_speaker.gif" width="85" height="17" alt="speaker"></td>
      <td nowrap>〇山〇太<font size="2">（株式会社〇〇　アートディレクター）</font></td>
    </tr>
  </table>
  <!--Ⓕレイアウトテーブルここまで-->
</td></tr>
<tr><td>　</td></tr>
<tr><td align="center">
  <!--Ⓖレイアウトテーブルここから-->
  <table width="450" border="0" cellspacing="0" cellpadding="0">
    <tr>
      <td colspan="2" rowspan="2"><img src="image/t2_1.gif" width="10" height="10"></td>
      <td background="image/t2.gif"><img src="image/1pix.gif" width="430" height="1"></td>
      <td colspan="2" rowspan="2"><img src="image/t2_2.gif" width="10" height="10"></td>
    </tr>
    <tr>
      <td><img src="image/1pix.gif" width="1" height="9"></td>
    </tr>
    <tr>
      <td background="image/t2.gif"><img src="image/1pix.gif" width="1" height="1"></td>
      <td><img src="image/1pix.gif" width="9" height="1"></td>
      <td align="center">
        <!--Ⓗレイアウトテーブルここから-->
        <table width="400" border="0" cellspacing="2" cellpadding="2">
          <tr>
            <td rowspan="3" width="40%"><img src="image/photo01.jpg"
              width="137" height="144" alt="photo"></td>
            <td width="60%" nowrap><b><font color="#666666">　Webに求められている
              広告のあり方を<br>もう一度考え直してみませんか？</font></b></td>
          </tr>
          <tr>
            <td>　他の広告媒体<font size="2">（テレビや雑誌、新聞など）</font>と比較や
              参照をしながら、Webが今後進むべき方向を、もう一度考察・検討していきます。</td>
          </tr>
          <tr>
            <td align="right">
              <!--Ⓘレイアウトテーブルここから-->
              <table width="80" border="0" cellspacing="0" cellpadding="2" bgcolor="gray">
                <tr><td align="center">
                  <a href="detail.html"><font size="2" color="white">詳細を見る</font></a>
                </td></tr>
              </table>
              <!--Ⓘレイアウトテーブルここまで-->
            </td>
          </tr>
        </table>
        <!--Ⓗレイアウトテーブルここまで-->
      </td>
      <td><img src="image/1pix.gif" width="9" height="1"></td>
```

```
      <td background="image/t2.gif"><img src="image/1pix.gif" width="1" height="1"></td>
    </tr>
    <tr>
      <td colspan="2" rowspan="2"><img src="image/t2_3.gif" width="10" height="10"></td>
      <td><img src="image/1pix.gif" width="1" height="9"></td>
      <td colspan="2" rowspan="2"><img src="image/t2_4.gif" width="10" height="10"></td>
    </tr>
    <tr>
      <td background="image/t2.gif"><img src="image/1pix.gif" width="430" height="1"></td>
    </tr>
  </table>
  <!--Ⓖレイアウトテーブルここまで-->
 </td></tr>
</table>
<!--Ⓓレイアウトテーブルここまで-->
</td></tr>
<tr><td>　</td></tr>
<tr><td align="center">
 <!--Ⓙ下部のテーブルここから-->
 <table width="450" border="1" cellspacing="0" cellpadding="1">
  <thead style="background-image:url('image/t3_1.gif');">
   <tr>
   <th>　</th>
   <th><font size="2">10:00～12:00</font></th>
   <th><font size="2">12:00～13:00</font></th>
   <th><font size="2">13:00～15:00</font></th>
   </tr>
  </thead>
  <tfoot style="background-image:url('image/t3_3.gif');">
   <tr>
    <td align="center">　</td>
    <td colspan="3"><font size="2">当日多少の時間及び内容の変更があるかも知れません。
      ご了承願います。</font></td>
   </tr>
  </tfoot>
  <tbody style="background-image:url('image/t3_2.gif');">
   <tr>
    <td align="center" nowrap valign="middle"><b><font size="2">01,02,03</font></b></td>
    <td align="center" valign="top"><font size="2">他の広告媒体との比較<br>
      Webの特性を探る</font></td>
    <td align="center" valign="middle"><font size="2">[illegible]</font></td>
    <td valign="top" align="center"><font size="2">Webの未来<br>広告の責任</font></td>
   </tr>
   <tr>
    <td align="center" nowrap valign="middle"><b><font size="2">04（1日目）</font></b></td>
    <td valign="top" align="center"><font size="2">他の広告媒体との比較<br>
      Webの特性を探る</font></td>
    <td align="center" valign="middle"><font size="2">なし</font></td>
    <td align="center" valign="middle"><font size="2">なし</font></td>
   </tr>
   <tr>
    <td align="center" valign="middle"><b><font size="2">04（2日目）</font></b></td>
    <td valign="top" align="center"><font size="2">Webの未来<br>広告の責任</font></td>
    <td align="center" valign="middle"><font size="2">なし</font></td>
    <td align="center" valign="middle"><font size="2">なし</font></td>
   </tr>
   <tr>
    <td align="center" valign="middle"><b><font size="2">05（1日目）</font></b></td>
    <td colspan="3" rowspan="2" valign="middle" align="center">
      <font size="2">未定</font></td>
```

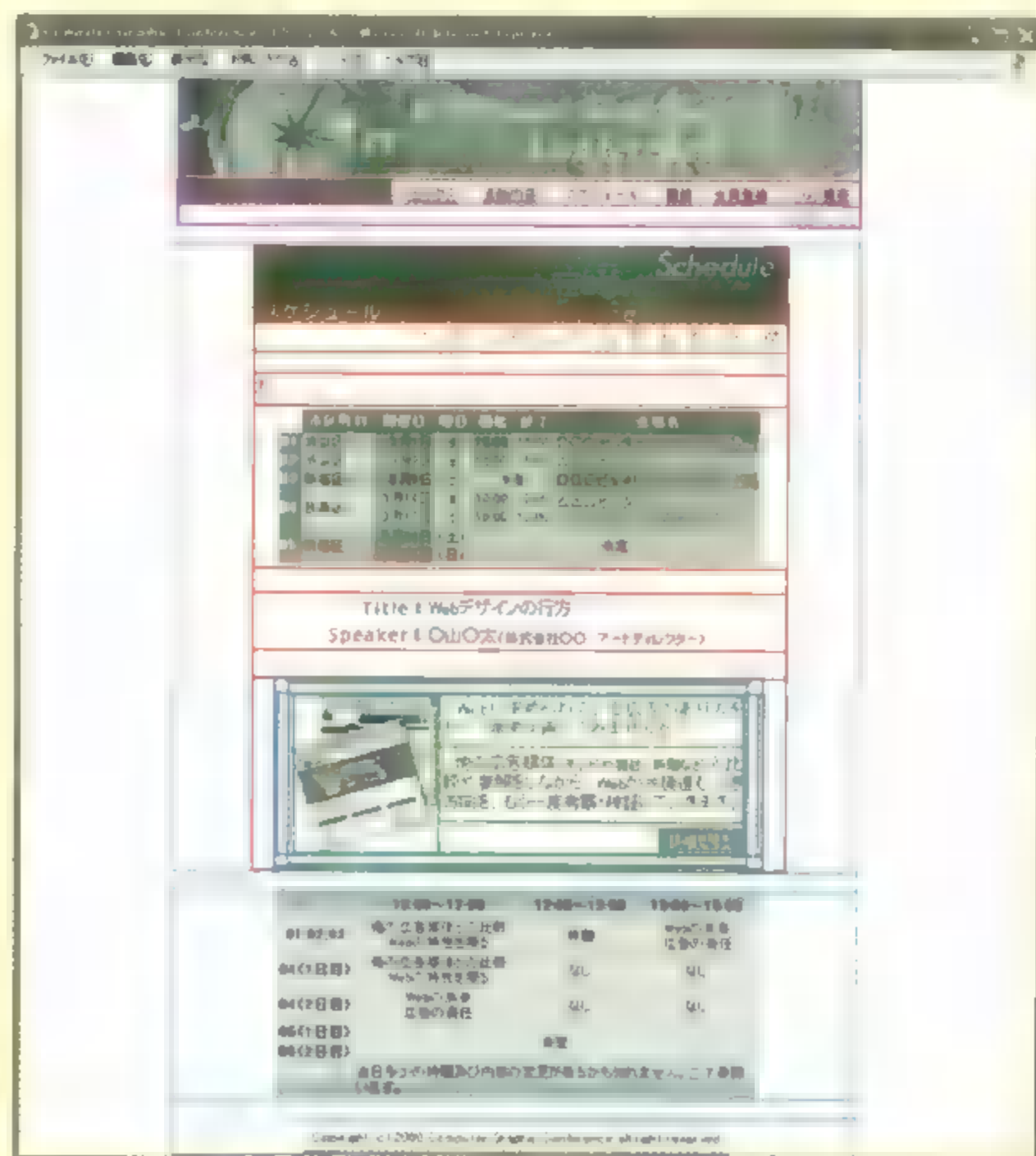
p238

```
          </tr>
          <tr>
            <td align="center" valign="middle"><b><font size="2">05（2日目）</font></b></td>
          </tr>
        </tbody>
      </table>
      <!--Ⓙ 下部のテーブルここまで-->
    </td></tr>
    <tr><td><br></td></tr>
    <tr><td align="center">
      <!--Ⓚ レイアウトテーブルここから-->
      <table frame="hsides" border="5" cellspacing="1" cellpadding="1" width="400">   p224
        <tr><td nowrap align="center">
          <font size="2">Copyright (c) 2000 Computer Graphic Conference all right reserved</font>
        </td></tr>
      </table>
      <!--Ⓚ レイアウトテーブルここまで-->
    </td></tr>
  </table>
  <!--Ⓐ レイアウトテーブルここまで-->

  </center>

Ⓛ <map name="month">   p142
    <area shape="rect" coords="0,0,20,16" href="january.html" alt="1月">
    <area shape="rect" coords="25,0,45,16" href="february.html" alt="2月">
    <area shape="rect" coords="83,0,103,16" href="april.html" alt="4月">
    <area shape="rect" coords="110,0,130,16" href="may.html" alt="5月">
    <area shape="rect" coords="137,0,157,16" href="june.html" alt="6月">
    <area shape="rect" coords="167,0,187,16" href="july.html" alt="7月">
    <area shape="rect" coords="195,0,215,16" href="august.html" alt="8月">
    <area shape="rect" coords="222,0,242,16" href="september.html" alt="9月">
    <area shape="rect" coords="250,0,275,16" href="october.html" alt="10月">
    <area shape="rect" coords="285,0,310,16" href="november.html" alt="11月">
    <area shape="rect" coords="320,0,344,16" href="decemmber.html" alt="12月">
  </map>

  </body>

  </html>
```

テーブルの■■（イメージ）▶

テーブル●
テーブル●
テーブル●
テーブル●
テーブル●

テーブル●、●、●、●、●、●は省略します

5 APPENDIX

HTML タグ一覧

推奨しない要素・属性（deprecated）と文書型宣言（DTD、p16 参照）がひとめでわかる一覧表です。各要素（タグ）と属性の詳細は、本文を参照してください。

要素名	属性	説明	DTD	備考
a		リンクを作成	S	
	href	リンク先の URL を指定	S	
	mailto	リンクを利用してメールを送信		規格外
	name	リンク先の任意の名前	S	
	target	内容を読み込むウィンドウを指定	T	
abbr		略語	S	
	title	省略しない状態のテキスト	S	
acronym		頭字語	S	
	title	省略しない状態のテキスト	S	
address		問い合わせ先	S	
applet		アプレット	T	deprecated
area		クライアントサイドイメージマップのリンク領域を作成	S	
	alt	代替テキスト	S	
	href	リンク先の URL を指定	S	
	coords	リンク領域の座標を指定	S	
	shape	リンク領域の形状を指定	S	
b		太字	S	
base		基準となる URL	S	
	href	基準の絶対 URL	S	
	target	リンク先のページを表示するデフォルトのウィンドウやフレーム	T	
basefont		基準のフォントサイズ	T	deprecated
	size	基準サイズ	T	
bdo		テキストの表記方法	S	
	dir	テキストの表記方向	S	
bgsound		BGM		規格外
	loop	BGM を鳴らす回数		規格外
	src	サウンドファイル名		規格外
big		大きめの文字	S	

DTD —— S=Strict、T=Transitional、F=Frameset
備考 —— deprecated=推奨しないタグ・属性、規格外=HTML4.01 規格外

要素名	属性	説明	DTD	備考
blockquote		長い引用	S	
	cite	情報源のURL	S	
body		実際にページとして表示される内容	S	
	alink	選択されたリンク色	T	deprecated
	background	文書の背景画像	T	deprecated
	bgcolor	文書の背景色	T	deprecated
	bgproperties	文書の背景画像を固定（=fixed）		規格外
	bottommargin	文書の下のマージン		規格外
	leftmargin	文書の左のマージン		規格外
	link	未訪問のリンク色	T	deprecated
	rightmargin	文書の右のマージン		規格外
	text	文書の基本の文字色	T	deprecated
	topmargin	文書の上のマージン		規格外
	vlink	訪問済みのリンク色	T	deprecated
br		改行	S	
	clear	回り込みの解除（left、right、all）	T	deprecated
blink		テキストの点滅表示		規格外
button		ボタン	S	
	name	ボタンの名前	S	
	type	ボタンの種類（submit、reset、button）	S	
	value	送信される値	S	
caption		テーブルのキャプション	S	
	align	キャプションの位置（top、bottom）	T	deprecated
center		センタリング（div align="center"と同じ）	T	deprecated
cite		参照先	S	
code		プログラムのソースコード	S	
col		テーブルの縦列の属性をまとめて設定	S	
	align	グループ内のデータの行揃え（left、center、right）	S	
	span	対象の列数	S	
	valign	グループ内のデータの縦位置（top、middle、bottom、baseline）	S	
	width	列の幅	S	
colgroup		テーブルの縦列のグループ化	S	
	align	グループ内のデータの行揃え（left、center、right）	S	
	span	グループ化する列数	S	
	valign	グループ内のデータの縦位置（top、middle、bottom、baseline）	S	

要素名	属性	説明	DTD	備考
dd		定義型リストの用語の説明	S	
del		削除したテキスト	S	
	cite	削除理由を記述した文書のURL	S	
	datetime	更新日時	S	
dfn		定義語	S	
dir		ディレクトリリスト	T	deprecated
div		ブロックレベル要素を定義	S	
	align	行揃え（left、center、right）	T	deprecated
dl		定義型リスト	S	
	compact	小さく表示		deprecated
dt		定義型リストの定義する用語	S	
em		強調	S	
embed		プラグイン		規格外
	height	プラグイン領域の高さ		規格外
	src	プラグインデータのURL		規格外
	width	プラグイン領域の幅		規格外
fieldset		入力項目のグループ化	S	
font		フォントに関する変更	T	deprecated
	color	フォントの色	T	deprecated
	face	フォントの種類	T	deprecated
	size	フォントサイズ	T	deprecated
form		入力フォーム	S	
	action	データの送信先のURL	S	
	enctype	データ送信時のMIMEタイプ	S	
	method	データの送信方法（get、post）	S	
frame		フレーム機能の指定	F	
	bordercolor	境界線の色を指定		規格外
	frameborder	境界線の有無	F	
	marginwidth	左右のマージン	F	
	marginheight	上下のマージン	F	
	noresize	境界線を固定	F	
	scrolling	スクロール表示の有無	F	
	src	読み込むHTML文書のURL	F	
frameset		ウインドウの分割指定	F	
	border	境界線の幅を指定		規格外
	bordercolor	境界線の色を指定		規格外
	cols	縦割の指定	F	
	rows	横割の指定	F	

DTD —— S=Strict、T=Transitional、F=Frameset
備考 —— deprecated=推奨しないタグ・属性、規格外=HTML4.01 規格外

要素名	属性	説明	DTD	備考
hn		見出し（n=1-6）	S	
	align	見出しの行揃え（left、center、right）	T	deprecated
head		文書に関する各種の情報を指定	S	
hr		横罫線	S	
	align	配置（left、center、right）	T	deprecated
	color	横罫線の色		規格外
	noshade	横罫線を平面的に表示	T	deprecated
	size	横罫線の太さ	T	deprecated
	width	横罫線の長さ	T	deprecated
html		HTML 文書であることを宣言	S	
i		イタリックで表示	S	
iframe		インラインフレーム	T	
	align	配置（left、center、right）	T	deprecated
	frameborder	フレーム枠の表示・非表示	T	
	height	フレームの高さ	T	
	marginwidth	フレーム内の左右のマージン	T	
	marginheight	フレーム内の上下のマージン	T	
	name	フレーム名	T	
	scrolling	スクロールの有無	T	
	width	フレームの幅	T	
img		画像の表示	S	
	align	配置（left、center、right）	T	deprecated
	alt	代替テキスト	S	
	border	枠線の有無、太さ	T	deprecated
	height	画像の高さ	S	
	hspace	画像の左右の余白の量	T	deprecated
	src	画像ファイルの URL	S	
	vspace	画像の上下の余白の量	T	deprecated
	width	画像の幅	S	
input		フォームの部品	S	
	align	配置（left、center、right）	T	deprecated
	alt	代替テキスト	S	
	checked	あらかじめ選択された状態で表示	S	
	maxlength	テキストフィールドの最大文字数	S	
	name	部品の名前	S	
	size	部品の大きさ	S	
	src	画像ファイルの URL	S	
	type="checkbox"	チェックボックス	S	

要素名	属性	説明	DTD	備考
	type="hidden"	非表示データ	S	
	type="image"	画像を[illegible]った送信ボタン	S	
	type="password"	パスワードの入力フィールド	S	
	type="radio"	ラジオボタン	S	
	type="reset"	リセットボタン	S	
	type="submit"	送信ボタン	S	
	type="text"	1行の入力フィールド	S	
	value	入力フィールドの初期値、送信される文字、ラベルテキストなど	S	
ins		追加したテキスト	S	
	cite	追加理由を記述した文書のURL	S	
	datetime	更新日時	S	
isindex		1行の入力フィールド（検索用）	T	deprecated
	prompt	入力フィールドのラベル	T	deprecated
kbd		キーボードなどから入力される文字	S	
label		フォームの部品のラベル	S	
legend		fieldsetでグループ化した項目のタイトル	S	
	align	位置（top、bottom、left、right）	T	deprecated
li		リスト項目	S	
	type	マークの[illegible]（disc、circle、square）、番号の形式（1、a、A、I、I）	T	deprecated
	value	リストの開始番号	T	deprecated
link		リンク	S	
map		クライアントサイドイメージマップ	S	
	name	イメージマップの名前	S	
marquee		テキストのスクロール		規格外
	behavior	マーキーの動き方（scroll、alternate、slide）		規格外
	bgolor	マーキーの背景色		規格外
	heigh	マーキーの高さ		規格外
	hspace	マーキーの左右の余白		規格外
	loop	スクロールする回数（回数、0、-1）		規格外
	scrollamount	再描画までの距離		規格外
	scrolldelay	再描画までの時間		規格外
	truespeed	scrolldelay属性で60より小さい値を指定した場合に実際にその間隔でスクロールさせる		規格外
	vspace	マーキーの上下の余白		規格外
	width	マーキーの幅		規格外
menu		メニュー	T	deprecated

要素名	属性	説明	DTD	備考
meta		メタ情報	S	
	content	name属性に対して設定する値	S	
	http-equiv	HTTPリソースヘッダ名	S	
	name	メタ情報のプロパティ名	S	
nobr		改行の禁止		規格外
noframes		フレームを表示しない場合の内容	F	
noscript		スクリプトをサポートしない場合の内容	S	
object		オブジェクト	S	
ol		番号付きのリスト	S	
	start	リストの開始番号	T	deprecated
	type	リストの番号の形式番号の形式（1、a、A、I、i）	T	deprecated
optgroup		選択肢のグループ化	S	
	label	グループ名	S	
option		フォームの選択肢	S	
	selected	あらかじめ選択された状態で表示	S	
	label	簡略化した選択肢	S	
	value	送信される文字	S	
p		段落	S	
	align	段落の行揃え（left、center、right）	T	deprecated
param		アプレットやオブジェクトのパラメータ	S	
pre		整形済みテキスト	S	
q		短い引用	S	
	cite	情報源のURL	S	
rt		ルビ		規格外
ruby		ルビをふるテキスト		規格外
s		抹消線	T	deprecated
samp		プログラムの出力結果のサンプル	S	
script		スクリプト	S	
	language	スクリプト言語名を指定	T	deprecated
	type	スクリプト言語のMIMEタイプ	S	
select		選択メニュー、リストボックスを作成する	S	
	multiple	複数の項目を選択可能にする	S	
	name	選択メニューやリストボックスの名前	S	
	size	リストボックスの表示行数	S	
small		小さめの文字	S	
span		インラインレベル要素を定義	S	
strike		抹消線	T	deprecated
strong		より強い強調	S	

要素名	属性	説明	DTD	備考
sub		下付き文字	S	
sup		上付き文字	S	
table		テーブルを作成	S	
	align	位置（left、center、right）	T	deprecated
	background	テーブルの背景画像		規格外
	bgcolor	テーブルの背景色	T	deprecated
	cellpadding	セル内のマージン	S	
	cellspacing	セルの間隔	S	
	height	テーブルの高さ	S	
	width	テーブルの幅	S	
tbody		テーブルの本体	S	
td		テーブルのセル	S	
	align	セルの中のテキストの横位置（left、center、right）	S	
	background	セルの背景画像		規格外
	bgcolor	セルの背景色	T	deprecated
	colspan	横方向のセルの連結	S	
	height	セルの高さ	T	deprecated
	nowrap	セル内での改行の禁止	T	deprecated
	rowspan	縦方向のセルの連結	S	
	valign	セルの中のテキストの縦位置（top、middle、bottom、baseline）	S	
	width	セルの幅	T	deprecated
textarea		複数行の入力フィールド	S	
	cols	入力フィールドの幅	S	
	name	入力フィールドの名前	S	
	rows	入力フィールドの行数	S	
	wrap	改行方法		規格外
tfoot		テーブルのフッタ	S	
th		テーブルの見出し	S	
	align	セルの中のテキストの横位置（left、center、right）	S	
	background	セルの背景画像		規格外
	bgcolor	セルの背景色	T	deprecated
	colspan	横方向のセルの連結	S	
	nowrap	セル内での改行の禁止	T	deprecated
	rowspan	縦方向のセルの連結	S	
	valign	セルの中のテキストの縦位置（top、middle、bottom、baseline）	S	

DTD —— S=Strict、T=Transitional、F=Frameset
備考 —— deprecated=推奨しないタグ・属性、規格外=HTML4.01 規格外

要素名	属性	説明	DTD	備考
thead		テーブルのヘッダ	S	
title		HTML 文書のタイトル	S	
tr		テーブルの横一列	S	
	align	1 行の中のテキストの横位置（left、center、right）	S	
	background	セルの背景画像		規格外
	bgcolor	横一列の背景色	T	deprecated
	valign	1 行の中のテキストの縦位置（top、middle、bottom、baseline）	S	
tt		等幅	S	
u		下線	T	deprecated
ul		番号なし（順不同）のリスト	S	
	type	マークの種類（disc、circle、square）	T	deprecated
var		変数や引数	S	
wbr		改行許可		規格外

6 APPENDIX

iモード対応HTML一覧

NTTドコモが規定しているiモード専用ページ記述言語「iモード対応HTML」の一覧です。特に新しいバージョンのHTMLタグや属性は、機種によって未対応の場合もあります。各タグや要素の意味や働きは基本的にHTMLタグと同じとなりますので、詳細は本文を参照してください。

要素名	属性	説明	バージョン	参照
a		リンクを作成		p.146
	accesskey	ダイレクトキー機能	1.0	p.315
	body	mailto:でメールの本文を指定する	3.0	
	cti	ダイヤル機能＋トーン入力機能	2.0	
	email	アドレス帳でのメールアドレス	3.0	p.316
	href	リンク先のURLを指定	1.0	p.146,148,152
	ijam	ダウンロードするiアプリを示すobjectタグのIDを指定	3.0	p.315
	kana	アドレス帳で検索用の半角の名前	3.0	p.316
	name	リンク先の任意の名前	1.0	p.148,152
	subject	mailto:でメールの件名	3.0	p.316
	telbook	アドレス帳での表示上の名前	3.0	p.316
	utn	個体識別情報を確認	3.0	
base	href	HTMLファイル内のURLが基準とする絶対URL	1.0	p.22
blink		文字の点滅	2.0	p.68
blockquote		引用	1.0	p.48
body		実際にページとして表示される内容	1.0	p.20
	bgcolor	文書の背景色	2.0	p.74
	link	リンク色	2.0	p.80
	text	文書の基本の文字色	2.0	p.80
br		改行	1.0	p.42
	clear	回り込みの解除（left、right）	1.0	p.138,205
center		センタリング	1.0	p.90
dd		定義型リストの用語の説明	1.0	p.124
dir		ディレクトリリスト、メニューリストを作成	1.0	
div	align	ブロックレベル要素の行揃え（left、center、right）	1.0	p.88
dl		定義型リスト	1.0	p.124
dt		定義型リストの定義する用語	1.0	p.124
font	color	テキストの色を部分的に指定	2.0	p.82

要素名	属性	説明	バージョン	参照
form		入力フォーム		p.160
	action	データの送信先のURL	1.0	p.160
	method	データの送信方法（get、post）	1.0	p.160
	utn	個体識別情報を確認	3.0	
head		文書に関する各種の情報を指定	1.0	p.20
hn		見出し（n=1-6）	1.0	p.38
	align	見出しの行揃え（left、center、right）	1.0	p.84
hr		横罫線	1.0	p.92
	align	横罫線の配置（left、center、right）	1.0	p.92
	size	横罫線の太さ	1.0	p.92
	width	横罫線の長さ	1.0	p.92
	noshade	横罫線を平面的に表示	1.0	p.92
html		HTML文書であることを宣言	1.0	p.20
img		画像の表示		p.126
	align	画像とテキストの並び方（top、middle、bottom）	1.0	p.134
	align	画像の配置とテキストの回り込み（left、right）	1.0	p.136
	alt	代替テキスト	1.0	p.128
	height	画像の高さ	1.0	p.130
	hspace	画像の左右の余白の量	1.0	p.140
	src	画像ファイルのURL	1.0	p.126
	vspace	画像の上下の余白の量	1.0	p.140
	width	画像の幅	1.0	p.130
input		フォームの部品		
	accesskey	ダイレクトキー機能	1.0	
	alt	代替テキスト	1.0	p.170
	checked	あらかじめ選択された状態で表示	1.0	p.180,182
	istyle	入力モードの初期設定	2.0	
	maxlength	テキストフィールドの最大文字数	1.0	p.174
	name	部品の名前	1.0	p.166
	type="checkbox"	チェックボックス	1.0	p.182
	type="hidden"	非表示データ	1.0	p.178
	type="password"	パスワードの入力フィールド	1.0	p.174
	type="radio"	ラジオボタン	1.0	p.180
	type="reset"	リセットボタン	1.0	p.168
	type="submit"	送信ボタン	1.0	p.166
	type="text"	一行の入力フィールド	1.0	p.174
	size	部品の大きさ	1.0	p.174
	src	画像ファイルのURL	1.0	p.170
	value	入力フィールドの初期値、送信される文字、ラベルテキストなど	1.0	p.166

要素名	属性	説明	バージョン	参照
li		リスト項目	1.0	p.114,115,120
	type	マークの種類、番号の形式（1、A、a）	2.0	p.116,118
	value	リストの開始番号	2.0	p.122
marquee		テキストのスクロール	2.0	p.70
	behavior	動作方法（scroll、slide、alternate）	2.0	p.71
	direction	スクロール方向（left、right）	2.0	p.71
	loop	スクロールの回数（最大指定値16）	2.0	p.72
	height	スクロール範囲の高さ	2.0	p.71
	width	スクロール範囲の幅	2.0	p.71
	scrollamount	文字列が1回移動する距離	2.0	p.72
	scrolldelay	文字列が1回移動する時間	2.0	p.72
menu		メニュー	1.0	
meta		メタ情報		p.26
	content	コンテンツタイプ（content="text/html; charset=SHIFT_JIS"）	2.0	p.28
	http-equiv	HTTPリソースヘッダ名（http-equiv="Content-Type"）	1.0	p.28
object		オブジェクト		p.281,315
	declare	オブジェクト宣言であることを示す	3.0	p.315
	data	objectタグに対応するiアプリのADFのURL	3.0	p.315
	id	objectタグのid	3.0	p.315
	type	data属性で示されるADFのコンテンツタイプ（"application/x-jam"固定）	3.0	p.315
ol		番号付きのリスト	1.0	p.115,118,122
	start	リストの開始番号	2.0	p.120
	type	リストの番号の形式（1、A、a）	2.0	p.118
option		フォームの選択肢		p.184,186
	selected	あらかじめ選択された状態で表示	1.0	p.184,186
	value	送信される文字	1.0	p.184,186
p		段落	1.0	p.40
	align	段落の行揃え（left、center、right）	1.0	p.86
plaintext		テキストとしてそのまま表示	1.0	
pre		整形済みテキスト	1.0	p.46
select		選択メニュー、リストボックスを作成する		p.184,186
	multiple	複数の項目を選択可能にする	2.0	p.186
	name	選択メニューやリストボックスの名前	1.0	p.184,186
	size	リストボックスの表示行数	1.0	p.186
textarea		複数行の入力フィールド		p.176
	accesskey	ダイレクトキー機能	1.0	
	cols	入力フィールドの幅	1.0	p.176

要素名	属性	説明	バージョン	参照
	name	入力フィールドの名前	1.0	p.176
	rows	入力フィールドの行数	1.0	p.176
	istyle	入力モードの初期設定	2.0	
title		HTML 文書のタイトル	1.0	p.21
ul		番号なし（順不同）のリスト	1.0	p.114,116

7 APPENDIX

iモード用絵文字一覧

iモードにはiモード専用の絵文字が用意されています。

絵文字を表示させるには、「
進コード;」と記述します（「;」は必須）。たとえば、「晴れ」の絵文字を使用したい場合はソースに「」と記述します。

iモード用WebページをPCで表示させると、絵文字は「・」で表示されます。

絵文字	10進コード	タイトル
	63647	晴れ
	63648	曇り
	63649	雨
	63650	雪
	63651	雷
	63652	台風
	63653	霧
	63654	小雨
	63655	牡羊座
	63656	牡牛座
	63657	双子座
	63658	蟹座
	63659	獅子座
	63660	乙女座
	63661	天秤座
	63662	蠍座
	63663	射手座
	63664	山羊座
	63665	水瓶座

絵文字	10進コード	タイトル
	63666	魚座
	63667	スポーツ
	63668	野球
	63669	ゴルフ
	63670	テニス
	63671	サッカー
	63672	スキー
	63673	バスケットボール
	63674	モータースポーツ
	63675	ポケットベル
	63676	電車
	63677	地下鉄
	63678	新幹線
	63679	車（セダン）
	63680	車（RV）
	63681	バス
	63682	船
	63683	飛行機
	63684	家

絵文字	10進コード	タイトル
	636[illegible]5	ビル
	63686	郵便局
	63687	病院
	63688	銀行
	63689	ATM
	63690	ホテル
	63691	コンビニ
	63692	ガソリンスタンド
	63693	駐車場
	63694	信号
	63695	トイレ
	63696	レストラン
	63697	喫茶店
	63698	バー
	63699	ビール
	63700	ファーストフード
	63701	ブティック
	63702	美容院
	63703	カラオケ
	63704	映画
	63705	右斜め上
	63706	遊園地
	63707	音楽
	63708	アート
	63709	演劇
	63710	イベント
	63711	チケット
	63712	喫煙
	63713	禁煙
	63714	カメラ
	63715	カバン
	63716	本
	63717	リボン
	63718	プレゼント
	63719	バースデー
	63720	電話
	63721	携帯電話
	63722	メモ
	63723	TV
	63724	ゲーム
	63725	CD
	63726	ハート
	63727	スペード
	63728	ダイヤ
	63729	クラブ
	63730	目
	63731	耳
	63732	手（グー）
	63733	手（チョキ）
	63734	手（パー）
	63735	右斜め下
	63736	左斜め上
	63737	足
	63738	くつ
	63739	眼鏡
	63740	車椅子

絵文字	10進コード	タイトル
	63808	新月
	63809	やや欠け月
	63810	半月
	63811	三日月
	63812	満月
	63813	犬
	63814	猫
	63815	リゾート
	63816	クリスマス
	63817	左斜め下
	63858	phone to
	63859	mail to
	63860	fax to
	63861	iモード
	63862	iモード（枠付き）
	63863	メール
	63864	ドコモ提供
	63865	ドコモポイント
	63866	有料
	63867	無料
	63868	ID
	63869	パスワード
	63870	次項有
	63872	クリア
	63873	サーチ（調べる）
	63874	NEW
	63875	位置情報
	63876	フリーダイヤル

絵文字	10進コード	タイトル
	63877	シャープダイヤル
	63878	モバQ
	63879	1
	63880	2
	63881	3
	63882	4
	63883	5
	63884	6
	63885	7
	63886	8
	63887	9
	63888	0
	63920	決定
	63889	黒ハート
	63890	揺れるハート
	63891	失恋
	63892	ハートたち（複数ハート）
	63893	わーい（嬉しい顔）
	63894	ちっ（怒った顔）
	63895	がく～（落胆した顔）
	63896	もうやだ～（悲しい顔）
	63897	ふらふら
	63898	グッド（上向き矢印）
	63899	るんるん
	63900	いい気分（温泉）
	63901	かわいい
	63902	キスマーク
	63903	ぴかぴか（新しい）

絵文字	10進コード	タイトル
	63904	ひらめき
	63905	むかっ（怒り）
	63906	パンチ
	63907	爆弾
	63908	ムード
	63909	バッド（下向き矢印）
	63910	眠い（睡眠）
	63911	exclamation
	63912	exclamation&question
	63913	exclamation × 2
	63914	どんっ（衝撃）
	63915	あせあせ（飛び散る汗）
	63916	たらーっ（汗）
	63917	ダッシュ（走り出すさま）
	63918	ー（長音記号1）
	63919	ー（長音記号2）
	63824	（カチンコ）
	63825	（ふくろ）
	63826	（ペン）
	63827	（映画（B））
	63829	（人影）
	63830	（イス）
	63831	（夜）
	63835	（soon）
	63836	（on）
	63837	（end）
	63838	（時計）

APPENDIX 8

HTML タグインデックス

タグからその属性と解説ページを検索するインデックスです。

U

V

W

9 APPENDIX

HTML属性インデックス

属性からタグと解説ページを検索する逆引きインデックスです。

10 APPENDIX

用語インデックス

各種の用語から検索するインデックスです。

記号

数字

英字

や

ら

わ

Information

Web 辞典シリーズのホームページでは、本書サンプルソースのダウンロードのほか、カラーチャート正誤表などを掲載しています。ぜひご利用ください。

http://www.shoeisha.com/book/pc/dic/

HTML タグ辞典 第5版

2002年 4月26日 初版第1刷発行
2005年 10月5日 初版第18刷発行

著 者 (株) アンク
発行人 速水 浩二
発行所 株式会社 翔泳社
http://www.seshop.com/
印刷・製本 大日本印刷株式会社

＊本書へのお問合せについては、iiページに記載の内容をお読みください。

＊落丁・乱丁はお取り替えいたします。03-5362-3705 までご連絡ください。

ISBN4-7981-0242-3 Printed in Japan

第1部 HTMLリファレンス

HTMLの基礎/BASIC
文書の基本/DOCUMENT
テキスト/TEXT
ページ/PAGE
フォント/FONT
リスト/LIST
イメージ/IMAGE
リンク/LINK
フォーム/FORM
テーブル/TABLE
フレーム/FRAME
その他/OTHER

第2部 マルチメディアWebページテクニック

第3部 Webページアドバンスドテクニック

付録

Webページカラーチャート
Web配色サンプル
ビジュアルインデックス
HTMLタグ一覧
iモード対応HTML一覧
iモード用絵文字一覧
HTMLタグインデックス
HTML属性インデックス
用語インデックス

9784798102429

1923055015005

ISBN4-7981-0242-3

C3055 ¥1500E

株式会社 翔泳社
定価：本体 1,500円十税

HTMLタグ辞典

第5版

(株)アンク著